高等専門学校機関別認証評価

自 己 評 価 書

平成２５年６月

久留米工業高等専門学校

久留米工業高等専門学校

目　　次

Ⅰ　高等専門学校の現況及び特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ　目的 ・・ 2

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

基準２　教育組織（実施体制） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

基準３　教員及び教育支援者等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44

基準４　学生の受入 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67

基準５　教育内容及び方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84

○　準学士課程

○　専攻科課程

基準６　教育の成果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 167

基準７　学生支援等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 188

基準８　施設・設備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 262

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 317

基準10　財務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 352

基準11　管理運営 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 360

Ⅰ　高等専門学校の現況及び特徴

１　現況

（１）高等専門学校名

久留米工業高等専門学校

（２）所在地

福岡県久留米市

（３）学科等構成

学　科：機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科、生物応用化学科、材料工学科

専攻科：機械・電気システム工学専攻、物質工学専攻

（４）学生数及び教員数（平成25年5月1日現在）

学生数：準学士課程　1,070人

専攻科課程　67人

専任教員数　79 人（校長含む）

助手数　0 人

２　特徴

久留米工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、旧制久留米高等工業学校（昭和14年設置、昭和19年久留米工業専門学校に改称）に淵源を発しており、筑後川のほとりの自然環境豊かな10万㎡(約３万坪)のキャンパスを有している。昭和26年の久留米工業専門学校の閉校にともない、九州大学教養部第二分校(昭和24年設置、昭和30年廃止)と九州大学生産科学研究所(昭和24年附置、昭和34年移転)が併設された。その後、我が国経済の高度成長に伴う産業界の強い要望を受け、久留米工業短期大学(昭和33年設立、昭和41年閉学)と久留米工業短期大学附属工業高等学校(昭和36年設立、昭和39年廃止)が併設され、現在の工業高等専門学校(昭和37年第1期校設立。以下「高専」という。）のモデルとなった。さらに、昭和39年4月の本校設立と同時に、久留米工業短期大学附属工業高等学校の在校生が2～4年生に転入し、全国高専に先駆けて卒業生を輩出することとなった。すなわち、旧制を含めた73年の歴史をもっているのが本校の特徴の一つである。旧制久留米高等工業学校設立当初からの卒業生は12,000名を超え、産業界の多業種各部門の中核の技術者として活躍している。

平成5年には専攻科が設置され、学位授与機構に申請することにより工学士の称号得ることができるようになった。また、平成16年には、全国国立高専が独立行政法人国立高等専門学校機構として束ねられ、スケールメリットを生かした運営ができるようになった。

本校の教育理念は、「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」である。この教育理念のもと、「工学の基礎学力を育成する」、「創造性を育成する」及び「技術者としての素養と自立を養う」の３点が本校の教育の柱となっている。すなわち、工学の基礎学力の育成と質の高い専門教育に力を入れており、低学年のうちから実験・実習を課し、技術の実際に触れることにより、技術の本質を理解し、創造性を育む教育を行っている。さらに、一般教養科目によって広い視野と豊かな心を兼ね備えた技術者となるための素養を涵養している。また、準学士課程での短期インターンシップや工場見学旅行、専攻科課程における２～４ヶ月にわたる専攻科インターンシップを実施し、技術者になるための動機付けを行っている。また、専攻科課程においては、産業デザイン演習や創造工学実験などの技術者としての素養や創造性を伸ばす教育がなされている。

一方で、本校では他高専と比して学生の自主性を尊重した教育を行っている。高専祭、音楽祭などの学校行事は学生会と学校側との話し合いを経て運営されている。また、体育、文化並びに技術活動などのクラブ活動にも力を入れており、これまでラクビー、水泳などのスポーツ活動やロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、ソーラーボート大会、あるいは英語スピーチコンテストなどの大会において輝かしい成果を上げ、学生の人格の陶冶の一助となっている。

また、本校では、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」として平成19年度より3年間、「産学民連携共同教育による実践的技術者育成」に採択され、また「質の高い大学教育推進プログラム」として平成20年度より3年間、「CIMSを活用した機械要素教育と産学連携」に採択され取り組みを実施し、協働教育、デジタルエンジニアリング教育を通した産学連携を進めている。

さらに、平成12年に産学民連携推進センター(平成22年産学民テクノセンターに改称)を設立し、「地域社会への貢献」の一環として、地域産業の技術開発や技術教育の振興を図っている。平成24年９月には、その外部支援組織として産学民連携推進会「テクノネット久留米」を設立し、共同研究を中心とした産学連携事業にも積極的に取り組んでいる。

Ⅱ　目的

久留米工業高等専門学校の使命

本校は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づいて、工業に関する専門教育を授け、産業の興隆及び文化の発展に貢献しうる学力と知識を兼ね備えた技術者を育成することを使命とする。また、専攻科課程においては、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを使命とする。

１．教育理念

「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」

２．準学士課程

教育目的：（１）自立の精神と創造性に富み　（２）広い視野と豊かな心を兼ね備え
（３）社会に貢献できる　　実践的、創造的技術者を育成する。

教育目標：（１）広い視野と豊かな心の涵養（２）数学、自然科学、情報処理に関する基礎能力の育成
（３）専門に関する基礎知識と技術の修得　（４）問題を分析し、解決する能力の育成
（５）自ら学び、工夫する能力の育成　（６）コミュニケーション能力の育成

３．専攻科課程

教育目的：（１）先端技術及び高度情報化に対応でき　（２）創造的研究開発能力を持ち
（３）国際化に対応できる　　実践的、創造的技術者を育成する。

教育目標：各学科に対応したJABEE技術者教育プログラムの学習・教育目標とする。

４．学科ごとの教育目的・目標

本校では上記の教育理念、教育目的を具現化するために、以下に掲げる学科ごとに独自の教育目的・目標を定める。

機械工学科

教育目的：ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得し、
創造性豊かで国際的視野に立った実践的技術者を育成します。

教育目標：機械技術者としての素養を備え、
・材料強度　・機械力学　・設計製図・生産加工　・制御、情報　・熱、流体
・機械工学に関連した周辺技術
の基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成します。

電気電子工学科

教育目的：先端技術であるエレクトロニクスとICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得し、高度情報通信社会に貢献できる実践的、創造的電気電子技術者を育成します。

教育目標：電気電子技術者としての素養を備え、
・エレクトロニクス　・情報通信技術(ICT)　・電気エネルギー、パワーエレクトロニクス
・電気電子工学に関連した周辺技術
に関する専門知識と技術を修得し、それらを総合的に活用できる能力を養成します。

制御情報工学科

教育目的：制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得し、広い視野と豊かな創造性を備え、さまざまな産業分野において活躍できる実践的能力に優れた技術者を育成します。

教育目標：メカトロニクスや情報の分野で活躍できる技術者になるために必要な、

・メカトロニクス、コンピューター制御　　・情報工学、通信ネットワーク

・制御情報工学に関連した周辺技術

の基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成します。

生物応用化学科

教育目的：化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得し、個別の知識を複合化して使いこなし、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成します。

教育目標：化学工業、バイオ工業に必要な専門知識、豊富な実験技術を修得し、環境に配慮し、技術者倫理を守って、それらを課題解決および企画立案に活用できる能力を養成します。

（両コース共通）・化学、生物の基礎　・化学工学、環境工学　・情報リテラシー　・技術者素養

（応用化学コース）・有機化学、高分子化学　・ポリマー工学　・機能性有機材料

（生物化学コース）・生物有機化学　・バイオプロセス工学　・遺伝子細胞工学

材料工学科

教育目的：ものづくりの基礎となる工業材料に関する専門知識を修得し、これらの知識を応用して社会の発展に貢献できる材料技術者を育成します。

教育目標：金属およびセラミックス材料などに関する

・物性、構造、性質　・製造プロセス、加工技術　　・材料工学に関連した周辺技術

の基礎的な知識や技術を修得し、それらを活用できる能力を養成します。

５．本校の教育方針

上記の教育理念、教育目的を達成するために、具体的には、次のような教育方法をとっている。

（１）数学や物理など、工学の基礎学力の充実

（２）系統的な教育課程による質の高い専門教育

（３）実験、実習、卒業研究指導を多く取り入れた実践的な技術教育

（４）一般科目の充実による人間性の涵養とコミュニケーション能力の育成

（５）学生の自主性を重視した基本ルールや倫理観の教育

（６）学生会及び体育・文化・技術クラブを通しての自主的な課外活動の奨励

（７）好奇心をもって自分の頭で考え、工夫する力の養成

さらに、専攻科課程では、次のような教育の特色をもたせている。

（１）少人数の学生定員で充実した教育研究環境と学会発表の奨励

（２）準学士課程との継続性を重視した教育

（３）長期にわたるインターンシップの実施

（４）学士号の取得と大学院進学

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的

（１）観点ごとの分析

観点１－１－①:　高等専門学校の目的が､それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ、その内容が、学校教育法第115条に規定された、高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また、学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

（観点に係る状況）

「学則第１章第１条」（資料１－１－①－１）では、本校は「教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づいて、工業に関する専門教育を授け、産業の興隆及び文化の発展に貢献しうる学力と識見を兼ね備えた技術者を育成する」ことを目的として掲げている。

また、本校では教育理念を「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」とし､学生便覧､学校要覧などに掲載している（資料１－１－①－２）。これは、将来このような技術者に成長するための学力、素養を育む、という本校の目的を学生にも理解できるように教育理念の形にまとめたもので、学生及び教職員に周知されている。

さらに、これらの目的や教育理念を踏まえ、準学士課程、専攻科課程、各学科の教育目的及び教育目標が毎年学生に配布される学生便覧に明記されている（資料１－１－①－３）。

資料１－１－①－１

本校の目的

第１章　目的

（目的）

第１条　本校は，教育基本法の精神にのっとり，及び学校教育法に基づいて，工業に関する専門教育を授け，産業の興隆及び文化の発展に貢献しうる学力と識見を兼ね備えた技術者を育成することを目的とする。

（出典：平成 25 年度学生便覧　学則）

（分析結果とその根拠理由）

目的として、本校の使命、基本方針、養成しようとする人材像、到達すべき基本的成果が、本科及び専攻科についてそれぞれ学則、学生便覧、学校要覧に明文化されており、学生にも理解しやすい形で明確に定められている。

資料１－１－①－２

本校の教育理念

教育理念

～ Philosophy of Education ～

自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を
兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成
We raise engineers with a spirit of independence, creativity, a broad vision and humanity, who are ready to contribute to society.



（出典：平成２５年度学校要覧）

資料１－１－①－３

準学士課程、専攻科課程、各学科の教育目的及び教育目標

久留米高専の教育目的及び教育目標

１．教育理念

自立の精神と創造性に富み，広い視野と豊かな心を兼ね備えた，社会に貢献できる技術者の育成

２．準学士（本科）課程

◇教育目的

次のような実践的技術者を育成する。

(1) 自立の精神と創造性に富んだ技術者
(2) 広い視野と豊かな心を兼ね備えた技術者
(3) 社会に貢献できる技術者

◇教育目標

(1) 広い視野と豊かな心の涵養
(2) 数学，自然科学，情報処理に関する基礎能力の育成
(3) 専門に関する基礎知識と技術の修得
(4) 問題を分析し，解決する能力の育成
(5) 自ら学び，工夫する能力の育成
(6) コミュニケーション能力の育成

３．専攻科課程

◇教育目的

次のような創造的技術者を育成する。

(1) 先端技術及び高度情報化に対応できる技術者
(2) 創造的研究開発能力を持った技術者
(3) 国際化に対応できる技術者

◇教育目標

専攻科課程の教育目標は，各学科に対応したJABEE技術者教育プログラムの学習・教育目標とする。

各学科の教育目的・目標

○機械工学科

教育目的

ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得し、創造性豊かで国際的視野に立った実践的技術者を育成します。

教育目標

機械技術者としての素養を備え、次の分野のの基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成します。

・材料強度　・機械力学　・設計製図
・生産加工　・制御、情報　・熱、流体
・機械工学に関連した周辺技術

○電気電子工学科

教育目的

先端技術であるエレクトロニクスとICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得し、高度情報通信社会に貢献できる実践的、創造的電気電子技術者を育成します。

教育目標

電気電子技術者としての素養を備え、次の技術分野に関する専門知識と技術を修得し、それらを総合的に活用できる能力を養成します。

・エレクトロニクス　・情報通信技術(ICT)
・電気エネルギー、パワーエレクトロニクス
・電気電子工学に関連した周辺技術

○制御情報工学科

教育目的

制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得し、広い視野と豊かな創造性を備え、さまざまな産業分野において活躍できる実践的能力に優れた技術者を育成します。

教育目標

メカトロニクスや情報の分野で活躍できる技術者になるために必要な次の分野の基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成します。

・メカトロニクス、コンピューター制御
・情報工学、通信ネットワーク
・制御情報工学に関連した周辺技術

○生物応用化学科

教育目的

化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得し、個別の知識を複合化して使いこなし、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成します。

教育目標

化学工業、バイオ工業に必要な専門知識、豊富な実験技術を修得し、環境に配慮し、技術者倫理を守って、それらを課題解決および企画立案に活用できる能力を養成します。

（両コース共通）
・化学、生物の基礎　・化学工学、環境工学
・情報リテラシー　・技術者素養
（応用化学コース）
・有機化学、高分子化学　・ポリマー工学
・機能性有機材料
（生物化学コース）
・生物有機化学　・バイオプロセス工学
・遺伝子細胞工学

○材料工学科

教育目的

ものづくりの基礎となる工業材料に関する専門知識を修得し、これらの知識を応用して社会の発展に貢献できる材料技術者を育成します。

教育目標

金属およびセラミックス材料などに関する次にあげる基礎的な知識や技術を修得し、それらを活用できる能力を養成します。

・物性、構造、性質
・製造プロセス、加工技術
・材料工学に関連した周辺技術

（出典：平成２５年度学生便覧）

観点１－２－①：　目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

学生便覧、学校要覧、ホームページには教育理念、及び学科別(準学士課程)あるいは専攻別(専攻科課程)の教育目的及び教育目標が、学校要覧、ホームページにはＪＡＢＥＥ技術者教育プログラムの説明と本校教育理念や教育課程との関係が（資料１－２－①－１）、学生便覧には学校の設置の目的が掲載されている。目的を周知させるために、全教員は言うに及ばず事務部門各部署にも学生便覧が配付され、教育理念、教育目的、教育目標等を記載したパネルが校内に掲示されている（資料１－２－①－２）。さらに、準学士課程への入学希望者には中学生向け学校パンフレット(資料１－２－①－３)、学生募集要項・入学案内(資料１－２－①－４)などが、専攻科課程への入学希望者には専攻科パンフレット(資料１－２－①－５)、専攻科学生募集要項・入学案内(資料１－２－①－６)などが準備されており、それらの資料の中に学科別(準学士課程)あるいは専攻別(専攻科課程)の教育目標が示されている。また、年度初めには、準学士課程と専攻科課程の学生を対象に教務主事より教育理念などの周知が図られていると同時に、準学士課程の新入生と専攻科課程の新入生に対しては別々に新入生オリエンテーションを通じて認識させるようにしている（資料１－２－①－７）。さらに、新入生に対しては、年度当初の合宿研修の際にも教育理念の周知徹底を図っている（資料１－２－①－８）。

（分析結果とその根拠理由）

目的が、学校の構成員である教員、職員、準学士課程の学生、専攻科課程の学生それぞれに複数の手段で周知されているため、周知の効果が上がっている。

資料１－２－①－１

ホームページでの JABEE 技術者教育プログラムと教育理念および教育課程との関係の周知

学生のための「JABEE講座」

JABEEについて

諸君はJABEEのこと知っていますか？ 日本技術者教育認定機構のことでありジャビーと言います。この制度は、JABEE認定を受けた技術者教育プログラムの修了者（例えば、高専の専攻科生や大学生等）が、技術業務に就く能力があることを保証する制度です。

各国の技術者資格認定登録と国際的同等性　現在、米国，英国，カナダ等多くの国は、国内制度が整っています。更に、国際的相互承認制度として北米自由貿易協定、ヨーロッパエンジニア協会、ASEANエンジニアリング連合会、APECエンジニア等々にも加盟しています。技術者資格の国際的相互承認制度としては、米国を中心としたワシントンアコード（Washington Accord）がよく知られており、現在、米国，英国等の主要国で構成され、他の国々も加盟準備を進めています。

日本の技術者資格の現状　日本では国内の審査機構JABEEが設立されたばかりですが、Washington Accord加盟を目標に大学等の審査に入っています。このJABEEの推進は、文部科学省、経済通産省、各学協会、経団連などの支援で進められ、関連の報告会等が多く開催されています。

JABEEと学生の将来について　審査対象となるのは、高専の場合、本学科4～5年生と専攻科生及び関係教職員で、教育目標と学生の達成度、教育・自己学習の量等が審査されます。各学科又は教育プログラムが審査に合格すると、卒業する学生は、技術者としての質の高さを国際的に保証されたことになります。学生にとって、JABEE対応の教育課程を修了したかが、技術者として重要な要件に成りつつあります。

JABEE基準と本校教育理念

教育プログラムの学習・教育目標は、下記のJABEEの基準1の（1）を満たしておく必要があるのですが、学生が対象となるのは、学習・教育目標に対する学習量とその達成度です。

JABEE基準1の(1)

(a)地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養

(b)技術が社会および自然に及ぼす影響・効果，および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解（技術者倫理）

(c)数学，自然科学，情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力

(d)該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力

(e)種々の科学・技術・情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力

(f)日本語による論理的な記述力，口頭発表力，討議などのコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力

(g)自主的，継続的に学習できる能力

(h)与えられた制約の下で計画的に仕事を進め，まとめる能力

これらのJABEE基準は**「深く学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」**という高専の設置基準や本校教育理念とよく合致しています。

従って、学生は本校の教育理念をよく自覚し、学業に励んで下さい。

（出典：本校ホームページ）

資料１－２－①－２

教育理念、教育目的、教育目標等を記載したパネルによる周知



（出典：制御情報工学科棟玄関の写真）

資料１－２－①－３

学校パンフレットによる準学士課程入学者への教育理念の周知

未来を担う技術者を育てます。

久留米工業高等専門学校は、昭和14(1939)年に(旧制)久留米高等工業学校として設立されました。その後、九州大学に包括された昭和24年(1949)年の九州大学久留米工業専門学校、昭和33(1958)年の久留米工業短期大学を経て、昭和39(1964)年、国立久留米工業高等専門学校が誕生しました。5年間でしっかりした基礎学力を身につけ、専門的な知識及び技術を習得することにより、産業界への就職の道と、本校専攻科への入学あるいは大学への編入学の道が開かれています。充実した環境の中で、未来を担う技術者を育てます。

一般・専門教育、共に充実したカリキュラム。バランスのとれた人間性を大切にします。

久留米高専では、英語や数学などの一般科目と学科ごとの専門科目とを5年間で学びます。広い視野を持ち、創造性に富んだ個性豊かな人間を育てるため、各学科のカリキュラムを充実させています。一般科目では、数学・物理・化学などの専門に繋がる基礎科目を充実させているほか、国語・社会・英語などの教育を通してバランスのとれた人間形成を目指します。専門科目では、教室での専門的講義のほかに、実験・実習・卒業研究などを取り入れています。また、低学年から各学科ごとに情報関連科目に取り組んでいます。

充実した学生生活。

久留米高専では、文化系、体育系のクラブ活動が盛んです。多くの部、同好会、愛好会があります。これらのクラブ活動を通じて仲間とコミュニケーションをとることにより友情が生まれていきます。また、学生会活動も活発で、高専祭、音楽祭、クラスマッチなどの行事を自主的に企画・運営していきます。さらにプログラミングコンテストやロボットコンテストなどに挑戦することもできます。これらのコンテストでは全国的にも優秀な成績を収めています。

教育理念

自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、
社会に貢献できる技術者の育成

アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

(1)技術者になる意欲をもっている人
(2)理数系の基礎学力が身についている人
(3)自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
(4)他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

教育の特徴

●基礎科目を重視し、社会人として必要な一般教養と豊かな人間性を持った技術者を育てます。
●専門教育では、教室での専門的講義のほかに、実験・実習・卒業研究などを取り入れて、実践的技術者を育てます。
●大学受験にとらわれず、自分の目標に向かって5年間じっくりと勉強できます。
●企業での就業体験を希望する学生には、インターンシップ(工場実習)の機会があります。
●学生の自主性を尊重する校風の中、責任感と自立心を持った学生を育てます。
●高専5年間を卒業した後、さらに専門的な勉強をするための教育課程として2年間の専攻科があります。専攻科修了生は、大学卒業者と同じ「学士」の学位を取得できます。

(出典：平成 24 年度中学生向け学校パンフレット)

資料１－２－①－４（１／２）

学生募集要項・入学案内による準学士課程入学者への教育理念、教育目的及び教育目標の周知

入　学　案　内

１．本校の沿革

本校は、昭和14年久留米高等工業学校が設立されたことに始まり、久留米工業専門学校、久留米工業短期大学（昭和33年設立）と変遷し、実践的技術者の養成という時代の要請を受けて、昭和39年に現在の久留米工業高等専門学校となりました。

平成５年４月には、九州で最初に専攻科が設置され、優れた教授陣と充実した設備を誇っています。

２．教育理念

自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成

３．各学科の教育目的・目標

○機械工学科

教育目的

ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得し、創造性豊かで国際的視野に立った実践的技術者を育成します。

教育目標

機械技術者としての素養を備え、次の専門分野の基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成します。

・材料強度　　・機械力学　　・設計製図
・生産加工　　・制御、情報　　・熱、流体
・機械工学に関連した周辺技術

○電気電子工学科

教育目的

先端技術であるエレクトロニクスとICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得し、高度情報通信社会に貢献できる電気電子技術者を育成します。

教育目標

電気電子技術者としての素養を備え、次の技術分野に関する専門知識と技術を修得し、それらを総合的に活用できる能力を養成します。

・エレクトロニクス　　・情報通信技術（ICT）
・電気エネルギー、パワーエレクトロニクス
・電気電子工学に関連した周辺技術

○制御情報工学科

教育目的

制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得し、広い視野と豊かな創造性を備え、さまざまな産業分野において活躍できる実践的能力に優れた技術者を育成します。

教育目標

メカトロニクスや情報の分野で活躍できる技術者になるために必要な次の分野の基

－ 11 －

（出典：平成 25 年度学生募集要項入学案内）

資料１－２－①－４（２／２）

学生募集要項・入学案内による準学士課程入学者への教育理念、教育目的及び教育目標の周知

礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成します。

・メカトロニクス、コンピュータ制御
・情報工学、通信ネットワーク
・制御情報工学に関連した周辺技術

○生物応用化学科

教育目的

化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得し、個別の知識を複合化して使いこなし、社会に貢献できる実践技術者を育成します。

教育目標

化学工業、バイオ工業に必要な専門知識、豊富な実験技術を修得し、環境に配慮し技術者倫理を守って、それらを課題解決に活用できる能力を養成します。

（両コース共通）

・化学、生物の基礎　・化学工学、環境工学
・情報リテラシー　・技術者素養

（応用化学コース）

・有機化学、高分子化学　・ポリマー工学　・機能性有機材料

（生物化学コース）

・生物有機化学　・バイオプロセス工学　・遺伝子･細胞工学

○材料工学科

教育目的

ものづくりの基礎となる工業材料に関する専門知識を修得し、これらの知識を応用して社会の発展に貢献できる材料技術者を育成します。

教育目標

金属およびセラミックス材料などに関する次にあげる基礎的な知識や技術を修得し、それらを活用できる能力を養成します。

・物性、構造、性質
・製造プロセス、加工技術
・材料工学に関連した周辺技術

４．修 業 年 限

５年

５．ＪＡＢＥＥ教育プログラム

久留米工業高等専門学校には、JABEE（日本技術者教育認定機構）教育プログラムとして、機械工学プログラム、電気電子工学プログラム、制御情報工学プログラム、生物応用化学プログラム及び材料工学プログラムの５つの教育プログラムが用意されています。各教育プログラムは、４・５年次及び専攻科１・２年次の教育課程から構成されています。

なお、詳細については、本校WWWページ（http：//www. kurume-nct. ac. jp/）を参照ください。

－ 12 －

（出典：平成 25 年度学生募集要項入学案内）

資料１－２－①－５

専攻科パンフレットによる専攻科課程入学者への教育目標の周知



機械・電気システム工学専攻
Mechanical and Electrical Systems Engineering Course

機械、電気電子及び制御情報に関するより深い専門知識を教授し、これらの知識を総合的に活用し、様々な問題解決ができる技術者を育成します。

物質工学専攻
Material Engineering Course

有機、無機、ポリマー、金属材料及びバイオ技術に関するより深い専門知識を教授し、新物質の開発や製造プロセス技術に対応できる技術者を育成します。

一般科目及び専門科目
（両専攻・各プログラムコース共通）

一般科目

必修　実践英語Ⅰ　実践英語Ⅱ　実践英語Ⅲ　環境倫理学
産業デザイン演習　工学倫理

選択　産業財産権特論　専攻科特論一般Ⅰ（他大学等）
専攻科特論一般Ⅱ（他大学等）

専門基礎科目

必修　地球環境と現代生物学　現代物理学　応用情報処理演習

選択　応用数理Ⅰ　応用数理Ⅱ　応用数理Ⅲ　量子力学
物性化学　画像工学　応用情報処理　統計力学及び熱力学
専攻科特論専門Ⅰ（他大学等）　専攻科特論専門Ⅱ（他大学等）

専門科目（機械・電気システム工学専攻）

必修（各コース共通）		創造工学実験　技術英語　先端工学特論　専攻科研究論文 専攻科インターンシップ
選択	JABEE プログラム 機械工学コース	弾塑性力学　破壊力学　応用流動工学　生産加工学　移動現象論　計算力学 設計システム工学　メカトロニクス工学　システム制御工学　デジタル制御
	JABEE プログラム 電気電子工学コース	設計システム工学　メカトロニクス工学　システム制御工学　デジタル制御 形式言語とオートマトン　応用電磁気学　光エレクトロニクス 集積回路工学　デジタル信号処理　プラズマ工学
	JABEE プログラム 制御情報工学コース	計算力学　メカトロニクス工学　システム制御工学　デジタル制御 コンピュータグラフィックス　パターン認識　形式言語とオートマトン データベース　応用電磁気学　デジタル信号処理
各コース共通		機械工学特論　電気電子工学特論　制御情報工学特論

専門科目（物質工学専攻）

必修（各コース共通）		創造工学実験　技術英語　先端工学特論　専攻科研究論文 専攻科インターンシップ
選択	JABEE プログラム 生物応用化学コース	有機反応化学　有機構造化学　生体機能分子学　生体物質化学 化学工学特論　機能有機材料特論　分子生物学　高分子材料特論 応用物理化学　機能性無機材料学
	JABEE プログラム 材料工学コース	高分子材料特論　応用物理化学　機能性無機材料学　半導体材料 材料組織制御　構造材料学　表面処理工学　材料強度学 腐食防食工学　高温強度学
各コース共通		生物応用化学特論　材料工学特論

（出典：平成 24 年度専攻科パンフレット）

資料１－２－①－６

専攻科学生募集要項・入学案内による専攻科課程入学者への教育目的及び教育目標の周知

１．専攻科の目的

専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、もって、広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とします。

５．専攻科の教育目的及び教育目標

(1) 教育目的

次のような創造的技術者を育成する。

① 先端技術及び高度情報化に対応できる技術者

② 創造的研究開発能力を持った技術者

③ 国際化に対応できる技術者

(2) 教育目標

専攻科課程の教育目標は、各学科に対応したJABEE技術者教育プログラムの学習・教育目標とする。

（出典：平成 25 年度専攻科学生募集要項・入学案内）

資料１－２－①－７

新入生オリエンテーションでの教育目的、教育目標の周知



（出典：平成 25 年度電気電子工学科紹介資料）

資料１－２－①－８

新入生合宿研修での教育理念の周知

１年生合宿研修における学習ガイダンス資料

■久留米高専とは
・入学後、１週間の高専の印象
・久留米高専の沿革　　伝統の重み、旧制→工業短大→新制→専攻科設立（学校要覧）
　　卒業生の活躍
・高専制度
・久留米高専の理念
「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」
・高専の授業、定期試験（カリキュラム、教務規程等）
・課外活動
・多様な進路
　就職（求人数、実践的技術者としての期待）
　進学（専攻科、大学）

■新入生に望むこと
・自立の精神－中学校とは大きく異なる、勉強方法を見つける、工夫をする
　（具体例を挙げて説明）
・基礎学力の充実－「読み書きソロバン」
・プロフェッショナルなエンジニアを目指す
（プロスポーツ、音楽家を例に説明－一見華やかだが、地道な）
　基礎訓練を怠らない、知恵と工夫、切磋琢磨
・冒険心
・人と交わる、自然に触れる、本を読む

■日常の心掛け
・授業は真剣勝負
　授業を重視、中学校とは異なる、学習塾に頼らない、出来ればアルバイトをしない、
・勉強方法の確立
　内容が段々と高度になれば、日頃の勉学の積み重ねがなければ、ついていけなくなる
　受験勉強とは異なる勉強方法を各自が工夫する－重要なポイントの把握､分からないことを粘り強く考える、五感を働かせる
・対話を大切に
　友人、保護者、教員、学生相談室
・連絡は掲示板、書類は自分で書く、規則は学生便覧参照
　「生徒」ではなく､「学生」

（出典：平成 24 年度教務主事新入生合宿研修メモ）

観点１－２－②：　目的が、社会に広く公表されているか。

（観点に係る状況）

教育理念を記載した中学生向け学校パンフレット、学校要覧を毎年実施する久留米高専一日体験入学、中学校訪問あるいは学校説明会で配布し、内容の説明を行っている（資料１－２－②－１、資料１－２－②－２）。また、教育理念に加えて学科別(準学士課程)の教育目的及び教育目標も記載した学生募集要項･入学案内､及び専攻別(専攻科課程)の教育目標を記載した専攻科パンフレット、専攻科学生募集要項･入学案内を､入学前の資料として応募者に配布している(資料１－２－①－４、資料１－２－①－５、資料１－２－①－６)。また、ホームページにも教育理念、教育目的及び教育目標を掲載して公表している（資料１－２－②－３）。

資料１－２－②－１

久留米高専一日体験入学における教育理念、教育目的、教育目標の公表

第２回　平成２４年度一日体験入学打ち合せ

日　時：平成２４年８月６日（月）１０：３０から
場　所：小会議室
出席者：総括責任者(馬越)、実施責任者　教務主事補(平川、酒井)
　　各学科の担当責任者(6名)、学生課長、学生課長補佐、教務係長、教務係員
進　行：実施責任者

議　題

１．一日体験入学実施要項　（参加者数確定）
２．一日体験入学に関する調書（各学科担当者及び使用教室確定）
３．一日体験入学補助学生一覧（各学科決定）
４．平成２４年度一日体験入学アンケート
５．当日の日程
６．その他

配付資料

１．平成２４年度一日体験入学　担当責任者（受付者）一覧
２．平成２４年度一日体験入学実施要項
３．平成２４年度一日体験入学参加状況
４．平成２４年度一日体験入学に関する調書（各学科提出まとめ）
５．平成２４年度一日体験入学　補助学生一覧（各学科提出まとめ）
６．平成２４年度一日体験入学アンケート
７．平成２４年度一日体験入学　日程表
８．平成２４年度一日体験入学時間割（生徒送り先記入分）
９．平成２４年度一日体験入学参加者名簿見本１部　（受付用は５０音順）
　　(18日:３００名+19日:２９０名＝５９０名)……当日用

１０．中学生配付資料の見本
・平成２４年度久留米工業高等専門学校一日体験入学(24.8.20/21)
・「授業内容の概要」及び「座席表」
・開講式時の連絡事項（裏面：校内配置図）
・当日は上記資料をクリアホルダーに挟み、パンフレット、学校要覧を同時配布

（出典：平成 24 年度一日体験入学打合せ資料　中学生配付資料一覧）

資料１－２－②－２

中学校訪問における教育理念、教育目的、教育目標の公表

平成２４年度　中学校訪問等の実施について

平成２５年度学生募集(新入生)の一環として､近郊の中学校等を訪問して入試に関する説明及び本校のＰＲを行う。また、学校説明会及び学校見学会の日程についても案内する。これに要する経費は委任経理金から支出する。

１．中学校訪問

（１）訪問担当者

教務主事・主事補、学生主事・主事補、寮務主事・主事補、専攻科主事・主事補、企画主事補、各学科長、産学民連携テクノセンター長、部門マネージャー

［内訳］
- ・機械工学科　櫻木、松永、原田、藤田、中武、橋村、中尾
- ・電気電子工学科　池田、越地、平川、原、山本（哲）
- ・制御情報工学科　丸山、江﨑、江頭、中野、松島
- ・生物応用化学科　津田、中嶌、辻、椛、笈木、石井、渡邊、松田
- ・材料工学科　奥山、馬越、田中（慎）、矢野、周
- ・一般科目文科　江島、福田（か）、小宮、金城
- ・一般科目理科　山﨑、酒井

（２）訪　問　先　　中学校・予備校・塾　　２２９校（中学＝２２５、塾＝４）

（３）日　　程　　９月３日（月）～９月２８日（金）
学校説明会の都合上、佐賀地区については９月３日(月)～９月１４日(金)、福岡地区については９月３日(月)～９月２１日(金)の期間内に実施する。

（４）配付資料等

配　付　資　料		手　持　資　料
1. 平成 25 年度入学案内資料	各校１部	1. 中学校訪問の手引き
2. 学校案内パンフレット	３年生徒数	2. 志願・合格・入学状況調(H15～H24)
3. 学校説明会案内	３年クラス数	3. 平成 24 年度中学校別在学生名簿
4. 2012 学校要覧	３年クラス数	4. 平成 24 年度学校訪問先一覧、郵送先一覧
5. 専攻科案内	各校１部	5. 平成 25 年度納付金一覧表（予定）
6. ポスター	各校１枚	6. 平成 24 年度学力検査に係る成績
7. 平成 25 年度募集要項	各校１部	7. 学科別の入試倍率等
8. キラキラ高専ガール	各校２部	8. 平成 24 年度一日体験入学参加者数調
		9. 学校説明会案内
＊３高専合同説明会チラシ	３年クラス数	10. ポスター（Ａ４縮小版）
＊３高専合同説明会ポスター	各校１部	11. Ａ４版リーフレット
＊３高専合同説明会実施要項	各校１部	

※＊の資料について、重点案内先にはチラシを３年クラス数配付資料として準備予定
※重点案内先は、手持資料「4. 平成 24 年度学校訪問先一覧表」に黄色のマーカーで表示
※各校の生徒数・クラス数については、各校からの回答、又は学校総覧に記載の全校生徒数より算出した値（35 人学級で計算）を使用（回答のなかった学校については、不足の可能性あり。）

（出典：平成 24 年度中学校訪問説明会資料　訪問時配付資料一覧）

資料１－２－②－３

ホームページにおける教育理念、教育目的、教育目標の公表



（出典：本校ホームページ）

（分析結果とその根拠理由）

目的が、パンフレットや学生募集要項・入学案内により、準学士課程入学希望の中学生と専攻科課程入学希望の高専学生などに公表されている。また、ホームページにより教育理念、教育目的及び教育目標が広く社会に公表されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校の教育理念、教育目標は、学生便覧、学校要覧に明文化されており、学校の構成員すべてに公表されている。さらに、本校の入学希望者および社会にも広く周知されている。

（改善を要する点）

該当なし。

（３）基準１の自己評価の概要

本校の使命、基本方針、養成しようとする人材像、到達すべき基本的成果が、本校の目的（教育理念、教育目的、教育目標）として、学則、学生便覧、学校要覧に明文化されており、学生にも理解しやすい形で明確に定められている。本校の目的は学校教育法第７０条の２に規定に定められた高等専門学校一般に求められる目的からはずれるものではない。

本校の目的（教育理念、教育目的、教育目標）は、複数の手段で、学校の構成員である教員、職員、準学士課程の学生、専攻科課程の学生すべてに周知されているため、周知の効果が上がっている。これらは、本校パンフレットや学生募集要項・入学案内により準学士課程入学希望の中学生と専攻科課程入学希望の高専学生などにも公表されていると共に、ホームページにより広く社会に公表されている。

基準２　教育組織（実施体制）

（１）観点ごとの分析

観点２－１－①：　学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校の教育目的は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づいて、工業に関する専門教育を授け、産業の興隆及び文化の発展に貢献しうる学力と見識を兼ね備えた技術者の育成である（資料２－１－①－１）。

資料２－１－①－１

学則第１章第１条

第１条　本校は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づいて、工業に関する専門教育を授け、産業の興隆及び文化の発展に貢献しうる学力と識見を兼ね備えた技術者を育成することを目的とする。

（出典：平成２５年度学生便覧）

本校は機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科、生物応用化学科、材料工学科の五つの学科で構成されている。各学科はそれぞれの教育目的及び教育目標を設定し、本校の教育目的の達成を目指している（資料２－１－①－２、１－①－３、１－①－４、１－①－５、１－①－６）。これら各学科の教育目標は学校教育法第７０条の２「深く学芸を教授し､職業に必要な能力を育成する」という目的に沿ったものであり、教育目標に科学技術の動向や社会のニーズも反映されている。

資料２－１－①－２

機械工学科教育目的

ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得し、創造性豊かで国際的視野に立った実践的技術者を育成します。

機械工学科教育目標

機械技術者としての素養を備え、次の専門分野の基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成します。

・材料強度　　・機械力学　　・設計製図
・生産加工　　・制御・情報　　・熱・流体
・機械に関連した周辺技術

（出典：平成２５年度学生便覧）

資料２－１－①－３

電気電子工学科教育目的

先端技術であるエレクトロニクスとICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得し、高度情報通信社会に貢献できる実践的、創造的電気電子技術者を育成します。

電気電子工学科教育目標

電気電子技術者としての素養を備え、次の技術分野に関する専門知識と技術を修得し、それらを総合的に活用できる能力を養成する。

・エレクトロニクス
・情報通信技術　（ICT）
・電気エネルギー、パワーエレクトロニクス
・電気電子工学に関連した周辺技術

（出典：平成２５年度学生便覧）

資料２－１－①－４

制御情報工学科教育目的

制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得し、広い視野と豊かな創造性を備え、さまざまな産業分野において活躍できる実践的能力に優れた技術者を育成します。

制御情報工学科教育目標

メカトロニクスや情報の分野で活躍できる技術者になるために必要な次の分野における基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成します。

・メカトロニクス、コンピュータ制御
・情報工学、通信ネットワーク
・制御情報工学に関連した周辺技術

（出典：平成２５年度学生便覧）

資料２－１－①－５

生物応用化学科教育目的

化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得し、個別の知識を複合化して使いこなし、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成します。

生物応用化学科教育目標

化学工業・バイオ工業に必要な専門知識、豊富な実験技術を修得し、環境に配慮し技術者倫理を守って、それらを課題解決および企画立案に活用できる能力を養成します。

（両コース共通）
・化学、生物の基礎　　・化学工学、環境工学　　・情報リテラシー　　・技術者素養
（応用化学コース）
・有機化学、高分子化学　　・ポリマー工学　　・機能性有機材料
（生物化学コース）
・生物有機化学　　・バイオプロセス工学　　・遺伝子細胞工学

（出典：平成２５年度学生便覧）

資料２－１－①－６

材料工学科教育目的

ものづくりの基礎となる工業材料に関する専門知識を修得し、これらの知識を応用して社会の発展に貢献できる技術者を育成します。

材料工学科教育目標

金属およびセラミックス材料などに関する次にあげる基礎的な知識や技術を修得し、それらを活用できる能力を養成します。

・物性、構造、性質
・製造プロセス、加工技術
・材料工学に関連した周辺技術

（出典：平成２５年度学生便覧）

（分析結果とその根拠理由）　各学科の教育目標は、本校の教育目的に沿ったものであり、また学校教育法に規定されている目的にも沿うものである。

観点２－１－②：　専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

専攻科の教育目的は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、もって広く産業の発展に寄与する人材の育成である（資料２－１－②－１）。

資料２－１－②－１

学則第１３章第４６条

第４６条　専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

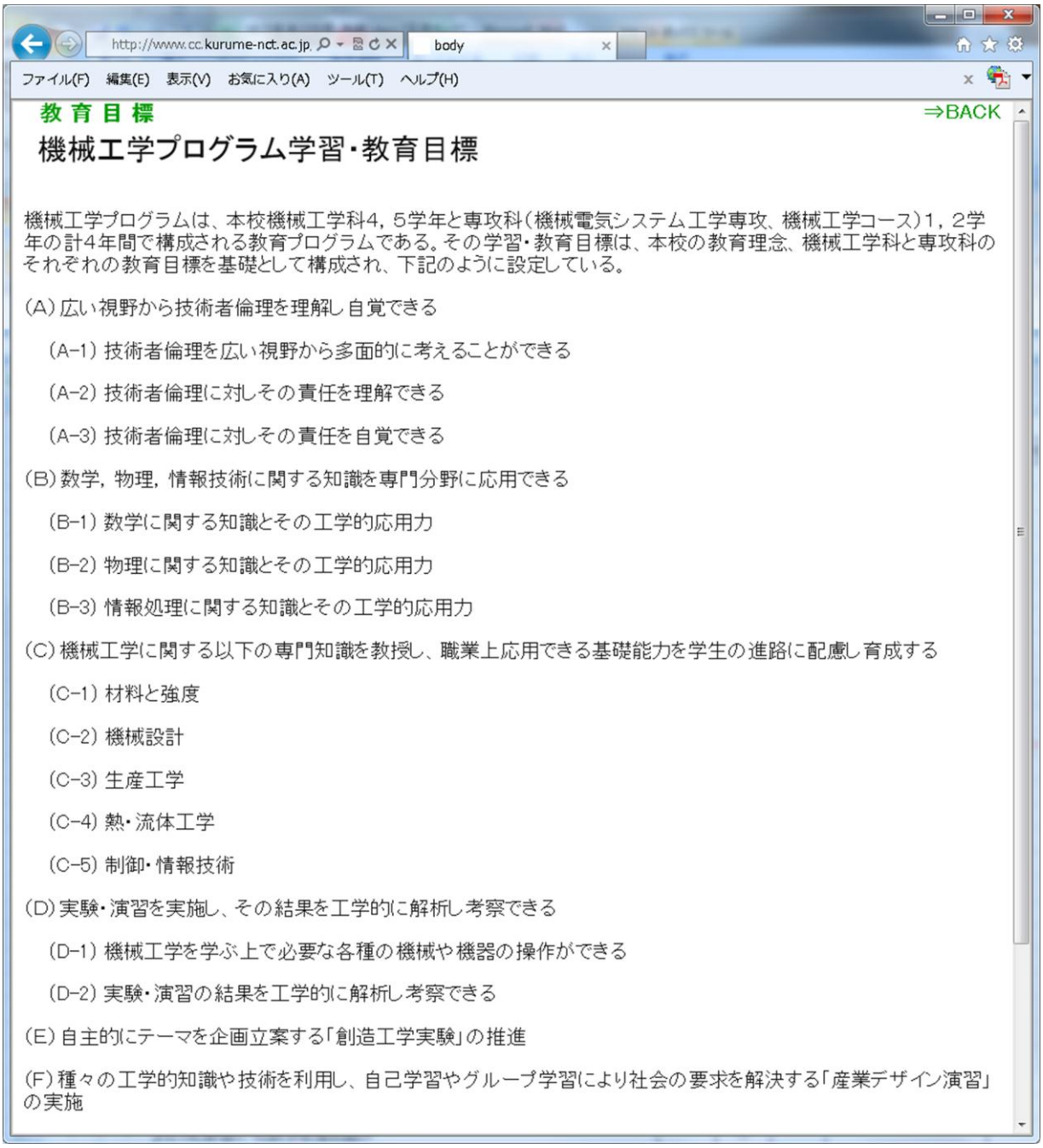
（出典：平成２５年度学生便覧）

専攻科は、工業高専での５年にわたる実践的技術者教育を基盤に、先端技術及び高度情報化に対応できる技術者の育成、創造的研究開発能力の育成、及び国際化に対応できる技術者育成を目標に、機械・電気システム工学専攻と物質工学専攻の２専攻で構成されている（別添資料２－１－②－２）。機械・電気システム工学専攻は、機械工学科・電気電子工学科・制御情報工学科を統合したもの、物質工学専攻は、生物応用化学科と材料工学科を統合した学際的な専攻である。各専攻は工業高専での５年にわたる実践的技術者教育を基盤に、機械・電気システム工学専攻では、「機械、電気電子、制御情報に関するより深い専門知識を教授し、これらの知識を総合的に活用し、様々な問題解決ができる技術者の育成」を、物質工学専攻では、「有機、無機、ポリマー、金属材料及びバイオ技術に関するより

深い専門知識を教授し、新物質の開発や製造プロセス技術に対応できる技術者の育成」を教育目標に設定している。これらの教育目標は、学校教育法第７０条の６「精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導する」という目的に沿ったものである。また、各専攻は本校の教育理念を基礎とした専攻ごとの目標をもち（資料２－１－②－３）、各授業科目はこの目標との関係を明確にしたうえで構成されている（別添資料２－１－②－４）。

資料２－１－②－３

機械・電気システム工学専攻の教育目標（機械工学コース）



（出典：本校ホームページ）

（分析結果とその根拠理由）

専攻科の目的が明確に設定され、それに沿った各専攻の教育目標がある。これらは学校教育法に規定される目的に沿ったものとなっている。

観点２－１－③：　全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

総合情報センターと産学民連携推進センターの二つが設置されている。総合情報センターの目的は教育研究支援を行い、校内の情報化に対応している。具体的には校内ＬＡＮの整備やネットセキュリティの構築などである（資料２－１－③－１）。産学民連携推進センターの目的は産業界、本校及び民間との連携である。具体的には共同研究、受託研究などを通じて、地域とともに学生に対する教育を実施していくことや、インターンシップ先の開拓、技術教育のためのフォーラムを開催するなどであり、地域の技術振興へ貢献している（資料２－１－③－２）。

（分析結果とその根拠理由）

総合情報センターは教育研究支援や校内の情報管理、産学民連携推進センターは地域の産業界、民間と一体になって様々なフォーラムや研修会などを実施することにより、本校の技術教育を向上させるとともに、地域社会へ貢献している。

資料２－１－③－１　（１／２）

久留米工業高等専門学校総合情報センター規則

（平成２２年１１月１８日制定）

（設置）

第１条　久留米工業高等専門学校に、総合情報センターを設置し、総合情報センターに情報処理センターを置く。

（目的）

第２条　総合情報センターは、学内の情報システムを整備し、効率的かつ合理的に管理運用し、教育研究及び事務業務を支援することを目的とする。

（業務）

第３条　総合情報センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

(1)　教育用情報システムの整備、管理、運用に関すること。

(2)　事務用情報システムの整備、管理、運用に関すること。

(3)　情報システムのセキュリティに関すること。

２　情報処理センターは、情報処理センター内における情報システムの整備、管理、運用に関する業務を行う。

（組織）

第４条　総合情報センターに関わる業務を行うために、次に掲げる教職員を置く。

(1)　総合情報センター長

(2)　総合情報センター長補

(3)　情報処理センター長

(4)　総合情報センター員

資料２－１－③－１　（２／２）

（総合情報センター長）
第５条　総合情報センター長は、本校の教員とし、校長が任命する。
２　総合情報センター長の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（総合情報センター長補）
第６条　総合情報センター長補は、本校の情報システムを専門とする教員１名とし、校長が任命する。
２　総合情報センター長補の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（情報処理センター長）
第７条　情報処理センター長は本校の教員とし、校長が任命する。
２　情報処理センター長は、総合情報センター長を補佐し、情報処理センターにかかる業務を掌理する。
３　情報処理センター長の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（総合情報センター員）
第８条　総合情報センター員は、次の各号に掲げる職員とする。
(1)　事務用情報システムを管理する職員　１名
(2)　情報処理を専門とする技術職員　２名
２　前項各号に掲げる者の任期は、２年とし、再任を妨げない。
（総合情報センター委員会）
第９条　総合情報センターの運用・管理上必要な事項について審議するために、総合情報センター委員会を置く。
２　委員会は第４条各号に定める者のほか、次に掲げる者で構成する。
(1)　教務主事補から１名
(2)　各専門学科から各１名
(3)　一般科目から２名（文科系１名・理科系１名）
(4)　総務課長
３　前項第２号及び第３号に掲げる者の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
４　委員長は総合情報センター長をもって充てる。
５　委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。
（事務）
第１０条　総合情報センターに関する事務は、総務課企画情報係で行う。
（その他）
第１１条　この規則に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附　則
１　この規則は、平成２２年１１月１８日から施行する。
２　久留米工業高等専門学校電子計算機運営委員会規則（昭和４７年７月１日制定）は、この規則制定の日から廃止する。
３　久留米工業高等専門学校電子計算機室規則（昭和５８年４月１日制定）は、この規則制定の日から廃止する。
４　久留米工業高等専門学校総合情報センター要領（平成１２年４月１日制定）は、この規則制定の日から廃止する。

（出典：久留米工業高等専門学校規則集）

資料２－１－③－２　（１／２）

久留米工業高等専門学校産学民連携テクノセンター規則

（平成２２年４月１日制定）

（設置）

第１条　久留米工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、産学民連携テクノセンター（以下「センター」という。）を置く。

（目的）

第２条　センターは、地域の産官学民との共同研究等、及び地域の小中高等学校に対する、科学技術教育支援を推進することにより、本校の教育・研究の進展に寄与するとともに、併せて地域社会における技術開発及び科学技術教育の振興に資することを目的とする。

（業務）

第３条　センターは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

(1)地域産業界等との共同研究、受託研究に関すること。

(2)地域産業界に対する技術相談及び学術情報の提供に関すること。

(3)地域の小中高等学校に対する科学技術教育支援に関すること。

(4)地域社会における学術研究の交流に関すること。

(5)講習会、セミナー、公開講座等に関すること。

(6)知的財産権に関する情報収集・情報提供及び申請に関すること。

(7)その他センターの目的達成に必要な業務に関すること。

（組織）

第４条　センターに次の各号に掲げる職員を置く。

(1)センター長

(2)部門マネージャー

(3)その他校長が必要と認めた者

（センター長）

第５条　センター長は、本校の教授とし、校長が任命する。

２　センター長の任期は、２年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

（部門マネージャー）

第６条 部門マネージャーは、次の各号に掲げる者とし、校長が任命する。

(1)各学科等から若干名

(2)教育研究支援室員から２名

２　前項各号に掲げる者の任期は、２年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

（職務）

第７条　センター長は、センターに関する業務を掌理する。

２　センター長は、第３条の業務遂行のため次の各号に掲げる部門を置く。

(1)産業支援部門

(2)地域連携部門

(3)人材教育部門

(4)知財部門

３　部門マネージャーは、センター長を補佐し、前項各号の業務を担当し処理する。

（委員会）

第８条　センターに第３条に掲げる業務及びセンターの管理運営上必要な事項を審議するために委員会を置く。

２　委員長にはセンター長をもって充てる。

（出典：久留米工業高等専門学校規則集）

資料２－１－③－２　（２／２）

３　委員には第６条による者のほか、次の各号に掲げる者とする。
(1)教務主事または主事補から１名
(2)専攻科主事または主事補から１名
(3)企画主事または主事補から１名
(4)各学科等から１名
(5)教育研究支援室員から２名
(6)総務課長
４　前項第４号及び第５号に掲げる者の任期は、２年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。
５　前項に掲げる者については、部門マネージャーとの兼任を妨げない。
（事務）
第９条　センターの事務室はセンター内に設置し、総務課企画情報係において処理する。
（その他）
第 10 条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附　則
１　この規則は、平成２２年４月１日から施行する。
２　久留米工業高等専門学校産学民連携推進センター規則（平成１２年４月１日制定）は廃止する。

（出典：久留米工業高等専門学校規則集）

観点２－２－①：教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われているか。

（観点に係る状況）

教育課程全体について、企画調整は教務主事を中心にした教務主事室（教務主事・主事補）で企画され、教務委員会で審議し、最終的に学科長委員会に諮る体制が整備されており、教育課程の変更、改善、教育活動などに係る審議は教務委員会で行われている（資料２－２－①－１）。教務委員会の下部組織として授業改善専門部会が設置され、学生による授業評価アンケートの集計・分析などの授業改善に関する取組がなされている（資料２－２－①－２）。また、企画主事を中心とした企画主事室（企画主事・主事補）では自己点検・評価に関する企画調整が行われ、自己評価検討委員会で審議し（資料２－２－①－３）、最終的に学科長委員会に諮られる。専攻科の教育課程については、専攻科主事室（専攻科主事・主事補）で企画され、専攻科委員会、教務委員会で審議された後、学科長委員会で最終審議が行われる（資料２－２－①－４、資料２－２－①－５）。

（分析結果とその根拠理由）

教務委員会、専攻科委員会、自己評価検討委員会など教育に関する企画、調整、実施など必要な機能を持つ委員会がその役割に応じて設置され、教育課程全体に係る重要事項について、審議されている。これらの立案は、当該主事室が行っており、いずれも最終的には学科長委員会に諮られる。

資料２－２－①－１

教務委員会開催に関する資料

久留米工業高等専門学校教務委員会規則

（平成１３年　４月１日制定）
（平成１７年１２月　１日改正）

第１条　久留米工業高等専門学校の教務に関する事項を審議するため、教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第２条　委員会は、次に掲げる者をもって組織する。
　　なお、次の各号の委員は、兼任することができる。
(1) 教務主事
(2) 教務主事補
(3) 学生主事補、寮務主事補、専攻科主事補から各１名
(4) 各専門学科から各１名
(5)一般文科、一般理科から各２名
(6) 学生課長
(7) その他校長が必要と認めた者

第３条 前条第４号及び第５号の委員の任期は、２年とする。ただし、再任を妨げない。
２　前項の委員に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。
３　前条第７号の委員の任期は、１年とする。
４　前項の委員に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

第４条　委員会の委員長は、教務主事とする。
２　委員長に事故があるときは、教務主事補がその職務を代行する。

第５条　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

第６条　委員会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を審議する。
（１）　教育課程の編成、シラバス並びに授業時間割に関する事項
（２）　学生の試験に関する事項
（３）　授業改善、授業評価に関する事項
（４）　年度途中退学者の学年修了に関する事項
（５）　教務に関する規程の制定、改廃に関する事項
（６）　教育環境（建物等）に関する事項
（７）　長期的教育計画の企画、立案
（８）　外国人留学生の教務に関する事項
（９）　原級者等の教務指導に関する事項
（１０）　単位認定に関する事項
（１１）その他教務に関する事項

以下条文省略

（出典：久留米工業高等専門学校規則集）

資料２－２－①－２

平成２４年度　第３回授業改善専門部会　議事録

平成２４年１１月１４日（水）

日時：平成 24 年 11 月 14 日　16 時～16 時 35 分
場所：応接室
出席：中武（部会長）、丸山（専攻科）、酒井（教務）、オブザーバー：津田（企画主事）、
　　轟（教務係）
欠席：金城、周、栫

Ⅰ。議題
１。前期授業評価アンケートの集計状況について
・丸山先生が電算処理中、12 月末頃集計作業終了予定
・後期アンケート対象科目の選定：中武、12 月中旬まで、依頼文章のチェック
・教員の自己評価アンケートは 25 年度当初に予定

２。第 2 回ＦＤ会議について
・別紙参照

３。第 3 回ＦＤ会議について
平成２５年３月２１日（木）
佐世保高専　松尾秀樹先生「発達障害学生の就職、学習支援について」
キャリヤ教育を入れるかどうか？
・1 時間講演、30 分から 1 時間ほど学生相談室長：笈木先生、穴井カウンセラーを含めて質疑・討論の時間を設けたいとの御要望があり、計画中

４。その他
・学生の授業評価アンケートの外部委託を検討
・原稿の該当項目にチェックを入れる方式から、5 段階評価を検討

次回部会開催　　月　日（　）　　：　　～　未定

（出典：平成２４年度　第３回授業改善専門部会議事録）

資料２－２－①－３

平 成 ２ ５ 年 度　 第 １ 回　 自 己 評 価 検 討 委 員 会　 議 事 要 旨

日　時：平成２５年４月１２日（金）１８時０５分（企画委員会終了後）～１８時２０分
場　所：管理棟　２Ｆ　大会議室
出席者：江﨑企画主事、和泉教務主事、辻学生主事、泉本寮務主事、池田専攻科主事、
原田機械工学科長、平川電気電子工学科長、丸山制御情報工学科長、
冨岡生物応用化学科長、田中材料工学科長、福田一般科目（文科系）学科長
宮本一般科目（理科系）学科長、大津企画主事補、黒木企画主事補、
栫企画主事補、川嶋企画主事補、黒木総合情報センター長（再掲）
藤田産学民連携テクノセンター長、笈木学生相談室長、辻本事務部長、
三原総務課長、磯田学生課長
欠席者：津田図書館長、酒井教務主事補
議　事：

１。機関別認証評価について

はじめに、栫企画主事補より、資料１～３に基づきこれまでの経緯及び今後の予定について、また、資料４及び５に基づき自己評価書の記載内容及び執筆担当について説明があった。続いて、未定であった専攻科主事補は田中大准教授に依頼することになった旨の報告があった。

その後、江﨑企画主事より、執筆担当は約１か月で完成させる予定であるため負担が大きいことから関係部署への協力依頼があり、各担当主事にも６月の確認・修正作業の依頼があった。

最後に、和泉教務主事より、本年度中に外部評価委員会を開催する必要がある旨の発言があり、江﨑企画主事より、機関別認証評価の終了後を予定しており、次回の本委員会において審議予定である旨の回答があった。

（出典：平成２５年度自己評価検討委員会議事録（抜粋））

資料２－２－①－４（１／３）

平成２５年度各委員会委員名等一覧表　　平成２５年４月現在

◆学科長委員会
○校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科主事、企画主事、学科長、事務部長、総務課長、学生課長
◆人事連絡委員会
○校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科主事、企画主事、学科長
◆企画委員会
○企画主事、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科主事、各学科長及び一般科目（文科・理科）学科長
企画主事補（全=大津、黒木、栫、川嶋）、図書館長、総合情報センター長、産学民連携テクノセンター長、学生相談室長、事務部長、総務課長、学生課長
◆予算委員会
○教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科主事、企画主事、学科長、事務部長、総務課長

（出典：平成２５年度各委員会委員名等一覧表）

資料２－２－①－４（２／３）

平成２５年度各委員会委員名等一覧表　　平成２５年４月現在

◆学科長委員会
○校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科主事、企画主事、学科長、事務部長、総務課長、学生課長
◆人事連絡委員会
○校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科主事、企画主事、学科長
◆企画委員会
○企画主事、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科主事、各学科長及び一般科目（文科・理科）学科長
企画主事補（全=大津、黒木、椿、川嶋）、図書館長、総合情報センター長、産学民連携テクノセンター長、学生相談室長、事務部長、総務課長、学生課長
◆予算委員会
○教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科主事、企画主事、学科長、事務部長、総務課長
◆施設・環境委員会
○教務主事、学生主事、教務主事補〔山本郁〕、学生主事補〔石丸〕、藤田、ｳﾘﾝﾄﾔ、中野、中嶌、馬越、小宮、
山崎、総務課長、学生課長
◆建設コンサルタント選定委員会
○事務部長、藤田、宮崎、総務課長、施設係長
◆教務委員会
○教務主事、教務主事補（全＝宮崎、小田、松田貴、山本郁、酒井、岡本）、学生主事補〔松島〕、寮務主事補〔谷〕、
専攻科主事補〔綾部〕、中武、渡邊、平元、赤塚、伊藤公、学生課長
◆授業改善専門部会
教務主事補〔宮崎、酒井〕、専攻科主事補〔石井〕、○企画主事補〔椿〕
◆教育課程表等の改善検討専門部会
教務主事、教務主事補〔小田、山本郁〕、専攻科主事補〔田中大〕、○平川、松田貴、矢野、金城、谷
◆入試運営委員会
○教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科主事、企画主事、教務主事補〔宮崎、酒井〕、専攻科主事補〔奥山〕、
学科長、事務部長
◆専攻科委員会
○専攻科主事、専攻科主事補（全＝田中大、綾部、石井、奥山）、教務主事補〔山本郁〕、学生主事補〔周〕、
金城、川嶋、学生課長
◆厚生補導委員会
○学生主事、学生主事補（全＝石丸、松島、周、龍頭、藤木）、教務主事補〔松田貴〕寮務主事補〔松本〕、
専攻科主事補〔石井〕、青野、山本哲、萩原、菰田、学生課長
◆寮務委員会
○寮務主事、寮務主事補（全＝中尾、松本、米永、谷）、教務主事補〔岡本〕、学生主事補〔龍頭〕、
専攻科主事補〔田中大〕、加藤、中野、松山、岩田、学生課長、寮生活支援係長
◆学級担任会
教務主事、学生主事、寮務主事、教務主事補（全＝宮崎、小田、松田貴、山本郁、酒井、岡本）、
学生主事補（全＝石丸、松島、周、龍頭、藤木）、専攻科主事補（田中大、石井）、寮務主事補（谷）、
各学級担任、学生課長
◆自己評価検討委員会
○企画主事、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科主事、学科長、企画主事補（全＝大津、黒木、椿、川嶋）、
図書館長、総合情報センター長、産学民連携テクノセンター長、学生相談室長、事務部長、総務課長、
学生課長、
◆JABEE 委員会
○専攻科主事、教務主事、企画主事、専門学科長、石丸、越地、綾部、椿、川上、藤木、川嶋、総務課長、
学生課長
◆外国人留学生委員会
○教務主事、教務主事補〔松田貴〕、学生主事補〔藤木〕、寮務主事補〔米永〕、松永、青野、加藤、松山、矢野、山本郁、学生課長

（出典：平成２５年度各委員会委員名等一覧表）

資料２－２－①－４（３／３）

平成２５年度各委員会委員名等一覧表　　平成２５年４月現在

◆就職担当委員会
　○就職統括主任（越地）、中武、熊丸、冨岡、笹栗、（学生課長）
◆図書委員会
　○図書館長、図書館長補※兼図書主幹、教務主事補〔岡本〕、学生主事補〔藤木〕、専攻科主事補〔石井〕、青野、ｳﾘﾝﾄﾔ、中野、笈木、馬越、学生課長
◆紀要編集委員会
　○校長、教務主事、教務主事補〔岡本〕、専攻科主事補〔奥山〕、大津、ｳﾘﾝﾄﾔ、綾部、津田、馬越、米永、赤塚、松田康、宮本泉、学生課長
◆教職員レクリエーション委員会
　○事務部長、青野、吉田、堺、萩原、岩田、河合、伊藤公、福田貴、総務課長、学生課長
◆総合情報センター委員会
　○総合情報センター長、総合情報センター長補〔高橋、堺〕、情報処理センター長、総合情報センター員、
　教務主事補〔酒井〕、吉田、冨岡、岩田、米永、総務課長、
◆産学民連携テクノセンター委員会
　○産学民連携テクノセンター長、部門マネージャー〔南山、渡邊、篠島、田中義、冨永洋〕、
　教務主事補〔宮崎〕、専攻科主事補〔田中大〕、企画主事補〔黒木〕、加藤、熊丸、矢野、河合、総務課長
◆知的財産委員会
　○産学民連携テクノセンター長、専攻科主事補〔田中大〕、南山、加藤、熊丸、渡邊、矢野、河合、篠島、
　総務課長
◆安全衛生委員会
　○事務部長、衛生管理者（龍頭、三俣）、安全管理者（総務課長）、産業医、学生主事、櫻木、宮崎、松本、松山、久保、宮本泉、栗原（宏）、徳山、衛生管理担当者（課長補佐（総務担当））、安全管理担当者（施設係長）、
　看護師
◆学生相談室
　○室長（笈木）、相談員（櫻木、山口、久保、菰田）、看護師、カウンセラー
◆キャンパス・ハラスメント相談員
　学生相談室長（笈木）、原田、ｳﾘﾝﾄﾔ、黒木、奥山、小宮、菰田、吉光、成田、田中宗、看護師
◆遺伝子組換え実験安全管理委員会
　○遺伝子組換え実験安全主任者（笈木）、中野、萩原、高橋、事務部長
◆情報セキュリティ管理委員会
　○情報セキュリティ責任者(校長)、副責任者(教務主事、事務部長)、管理者（学生主事、寮務主事、専攻科主事、企画主事、各学科長、図書館長、産学民連携テクノセンター長、学生相談室長、総務課長、学生課長)、
　情報セキュリティ推進責任者(総合情報センター長)
◆情報セキュリティ推進委員会
　○情報セキュリティ推進責任者、情報セキュリティ推進員(総合情報センター長補、情報処理センター長、
　総合情報センター員
◆リスク管理室
　○リスク管理室長（和泉)、リスク管理室員（辻、泉本、池田、江崎)、事務部長、総務課長、学生課長
◆創設５０周年記念事業準備委員会
　○教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科主事、企画主事、事務部長

備考
１。○は委員長
２。〔　〕は各主事補より１名
３。囲みは学科代表と兼ねている者

（出典：平成２５年度各委員会委員名等一覧表）

資料２－２－①－５

平成２５年度 第１回教務委員会議事要旨

日　時：平成２５年４月２日（火）１６：５０～１８：４０
場　所：小会議室
出席者：和泉、宮﨑、小田、松田、山本郁、岡本、酒井、松島、谷、綾部、中武、渡邊、
　　平元、赤塚、伊藤、磯田
欠席者：なし

議事

■審議事項

１。平成２５年度原級履歴のある学生の教育課程表について

委員長から、「平成２５年度原級・休学履歴のある学生及び履歴」について説明があった。また、委員長から原級履歴のある学生毎の平成２５年度教育課程表について説明願いたい旨の発言があり、各学科から作成した資料に基づき原級生毎に説明があり、審議の結果、承認された。

２。平成２４年度迄４年・５年生の選択科目の修得確認について

委員長から、「平成２４年度選択科目既修一覧表」により、平成２４年度４年・５年生で原級となった学生に係る修得済選択科目及びその得点について確認があり、承認された。

教務委員会議事要旨の例

３。平成２４年度末退学者の学年修了について

委員長から、「平成２４年度退学者の学年修了一覧」により、平成２４年度の本科退学者２５名の修了学年についての確認があり、承認された。

４。課外活動等による公欠の取り扱いについて

委員長から、「課外活動等による公欠の取り扱いについて」により課外活動等に参加する学生の公欠の取り扱いについて説明があり、承認された。

５。シラバスの修正について

委員長から、「平成２５年度シラバス正誤表」について説明があり、承認された。

■報告・依頼事項

以下省略

（出典：平成２５年度 第１回教務委員会議事要旨）

観点２－２－②：　一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。

（観点に係る状況）

教育の目的を達成する手段の一つとして、一般科目担当教員と専門学科所属の教員との連携を図っている。例えば、機械工学科では、平成２１年度に英語教育について英語専門教員と連携・連絡協議会を開催している（別添資料２－２－②－１）。生物応用化学科では、工業倫理という科目を一般文科の教員と共同開講している。平成１７年度には「数学教育に関する懇談会（第２回　ＦＤ会議）」が開催され、数学教育に関して活発な論議が行われた（資料２－２－②－２）。平成23年度以降、専門科目と連携して専門科目に関連した数学の問題、定期試験問題を作成している（資料２－２－②－３、２－②－４）。物理に関しても、教えるべき授業内容に関する調査が物理教員から各専門学科科目担当教員に対してなされている（資料２－２－②－５）。必要な科目と科目間のつながりを考慮して、科目と開講時期が設定されている（資料２－２－②－６）。

また、専門学科所属教員との意見交換により、各英語コミュニケーション能力の強化を図る方策の一環として、平成１２年度から希望者を対象に年２回ＴＯＥＩＣのＩＰテストを２回実施し、平成２０年度からは年３回実施している。また、英語担当教員によるＴＯＥＩＣに重点を置いた授業も行われるようになっている。

資料２－２－②－２

平成１７年度第２回ＦＤ会議「数学教育に関する懇談会」次第

平成 17 年 11 月 30 日

第2回ＦＤ会議

「数学教育に関する懇談会」

1．数学教育に関する懇談会開催にあたって　　教務主事

2．中学校の数学から専攻科入試まで　　数学担当教員
（高橋正郎助教授）

3．数学と専門科目の連携について　　教務主事

4．意見交換

（資料）
- ○ 平成 17 年度授業担当（常勤・非常勤等）
- ○ 中学校数学の指導要領と教科書の目次
- ○ 高校数学の指導要領と教科書の目次（本校の授業状況を含む。）
- ○ 応用数学・確立統計教科書の目次
- ○ 平成 17 年度入学者選抜学力検査問題
- ○ 平成 17 年度専攻科入学者選抜学力検査問題

（出典：平成１７年度第２回ＦＤ会議「数学教育に関する懇談会」次第）

資料２－２－②－３

専門科目との関連性を意識した数学教材の開発の例

教育研究報告

学習意欲の向上を目指した数学教材の開発

宮地　俊彦，酒井　道宏，楢崎　　亮，川本　正治*1，篠原　雅史*1

Development of teaching materials aimed at improving motivation for learning mathematics

Toshihiko Miyaji, Michihiro Sakai, Ryo Narasaki, Masaharu Kawamoto*1, Masashi Shinohara*1

Abstract

In this paper, we give some examples of mathematical problems associated with other fields which will lead to students' interests.

Keywords: mathematics education

1．はじめに

本校で実施している学生生活調査の報告にあるように，特に低学年生の無気力による学習意欲の低下が顕著になってきている。小中学校におけるグループ学習の影響によって，自分で考えて答えにたどり着くのではなく，他人任せにする癖がついた面もあるのだろうが，近年はこの傾向が著しく，早急に対策を講じる必要がある。その一方で，課外活動や趣味については非常に熱心に取り組むといった一面もあり，自分が興味を持つものについては，労力を惜しまない傾向がある。

平成22年度，楢崎准教授との共同研究で専門科目との関連性を意識した定期試験問題を作成した(参考文献[13])。その後実施したアンケート調査によれば，『数学が専門科目と関連しているとはあまり思わなかったが，気がついてから興味が持てるようになった』や『試験だけでなく授業でも扱って欲しい』など好意的な意見が多かった。

平成22年度，東海地区高専数学担当教員協議会において，上記定期試験の中で，機械工学で使用するプレス機のモーターの回転運動に関する問題（参考文献[13]）を速度と加速度，すなわち微分を意識して出題したことを報告したところ，鈴鹿高専では夏期課題として Function View という描画ソフトを用いて，プレス機の構造の動画を作成する教材を作成していたことがわかった（参考文献[3]）。この例からもわかるように，同じ題材でもどのような立場で作問するかによって，様々なバリエーションのある問題を作成することが出来る。さらに，両校で連携すれば，専門科目に関連した問題をより多く，かつ様々な角度から提供することが可能となる。

本研究では，専門科目との関連性を意識しながら，数学学習の特徴である「発見の面白さ」を体験できるような教材を作成し，学生の知的好奇心を喚起し学習意欲を向上させることを目的とする。そのためにまず，先述の定期試験で出題した他分野との融合問題をさらに拡充する形で，各学科の授業での使用に適した教材を作成することを第一の目標とする。しかし，残念ながら，特に一年生の場合は数学と専門科目の知識がどちらも乏しいため，上記の試みは非常に困難である。どちらかが苦手な学生にとっては共倒れになる危険性さえある。そこで，主に一年生に対しては，この試みを含めつつ学生による問題作りを通して発見の面白さを実感できるような教材を作成することを第二の目標とする。

理工学系の大学レベルの専門科目の中で数学が使われるのは良く知られており，著書も多数ある（参考文献[5,6,8,9,10,14,16,17]）が，これは専門科目の立場からみた数学であり，本研究が目指しているのは数学の立場からみた専門科目との融合を図った教材作成である。この意味で，新しい試みであるばかりでなく，主に低学年生を対象としているため，普通高校とも大学とも異なる工業高専の取り組みとし

平成24年３月22日　受理
*1鈴鹿高専
Copyright 2012 久留米工業高等専門学校

（出典 久留米高専紀要第 27 巻第 2 号、pp。 73—83　の最初のページ）

資料２－２－②－４

数学試験問題検討の例

教育研究報告

高専における数学教育の取り組み ～試験問題作成を通じて～

酒井　道宏，楢崎　　亮

A report on mathematics test

Michihiro SAKAI, Ryo NARASAKI

Abstract

This paper is a report on mathematics tests. In this study, first, we will compare two kinds of mathematics tests, and then, we show some examples of questions.

Keywords: *mathematics education*

１．はじめに

本校では，平成19年度から授業時間が1講時あたり90分間から100分間に変更された。これにより，平成18年度と比べて授業中に演習の時間を増やす，小テストを行うなどの工夫がしやすくなった。また，1年次の数学では，例えば数学IAを4単位，数学IBを2単位のように2科目に分けずに数学Iとして6単位すべてを各学科1名の常勤講師が担当している。これによってクラス内での教え方が統一でき，個々の習熟度に応じたきめ細やかな指導が期待できる(参考文献[2])。

さらに，平成21年度からは1年次の試験問題を全学科で共通化する取り組みを行っている。これは，問題作成者の違いによる難易度や出題傾向のばらつきを是正することを目指したものであるが，共同で問題を作成することによって，問題作成時のプロセスや教授方法の研究など，日常の教育活動では実現が困難と思われるような貴重な経験をすることが出来た。このような二次的な効果も見られるため，平成23年度からは2年次の試験にも順次導入していく予定である。

上記のように試験問題の共通化は一定の効果をあげている一方で，学科毎の進度や習熟度の違いに対応しきれないことや，複数の教員が問題作成に携わることで基本的な問題よりも読解力を要する問題が出題されやすいなど様々な問題点があることもわかってきた。

そこで，平成22年度に複数の学科の 2年次の数学IIAの試験問題を部分的に共通化し，1年次の試験問題の作成方法との比較検証を行った。さらに，数学に関する学習意欲の向上を促すために他分野や専門分野に関連した問題を試験に取り入れる試みを行った。

本稿は，第2節で試験問題の共通化の比較検証を報告し，第3節で様々な分野との融合問題の紹介を行う。最後の第4節では，これらの取り組みに関するまとめを行うことにする。

２．試験問題の共通化の比較と問題点

まず，全問共通問題化の場合であるが，先述のように出題傾向の偏りや難易度のばらつきを是正することができ，また，複数の教員で作成することによって様々なタイプの問題を出題することができた。これは個々の教員による単独問題では難しいことであり，本来の目的以上の効果が得られた。

しかしその一方で，試験までの授業時間数が違うため授業進度が揃わず，共通問題の試験範囲の設定が難しかった。また，各教員が工夫した問題を考えてくるため，問題編集の際に易しい問題が採用されにくく，必然的に難易度が高くなる傾向があることがわかった。さらに，それに伴って習熟度の違いに

平成23年３月24日　受理
Copyright 2011 久留米工業高等専門学校

（出典 久留米高専紀要第 26 巻第 2 号、pp。 57—61　の最初のページ）。

資料２－２－②－５

物理担当と各専門学科との連携に関する資料

2006/3/26

各学科長 殿

物理担当教員より

新年度を迎えるに当たり、新２年生の物理カリキュラムについて、物理(４単位)と応用物理(４単位)のそれぞれで、何を扱うか物理教室で話し合いました。添付したファイルに、力学・電磁気・波動・原子物理の各分野で、何を扱うか項目をまとめています。
各学科における講義内容・カリキュラム進行の参考にして頂ければと思い、報告いたします。本来なら、新カリキュラムを作成する前にまとめ、報告すべきことでした。遅くなってしまい、申し訳ありませんでした。

新カリキュラムにおいて、物理科目の８単位は、基本的に２年生で物理(４単位)、３年生で応用物理Ⅰ(２単位)と応用物理 II(２単位)となっています。何れも通年科目です。物理教室としては、物理で「力学Ⅰ」「波動」を、応用物理Ⅰで「力学 II」「原子物理」を教え、応用物理 II で「電磁気Ⅰ・II」を教える予定です。

しかし、機械科は自学科で物理を教えるということなので、この限りではありませんし、電気科は応用物理 II を４年前期に開講するので、この予定では不都合があるかと思います。また、他学科においても、「波動」よりも「電磁気」や「力学 II」を先に教えた方がいいなど、ご希望もあるかと思います。

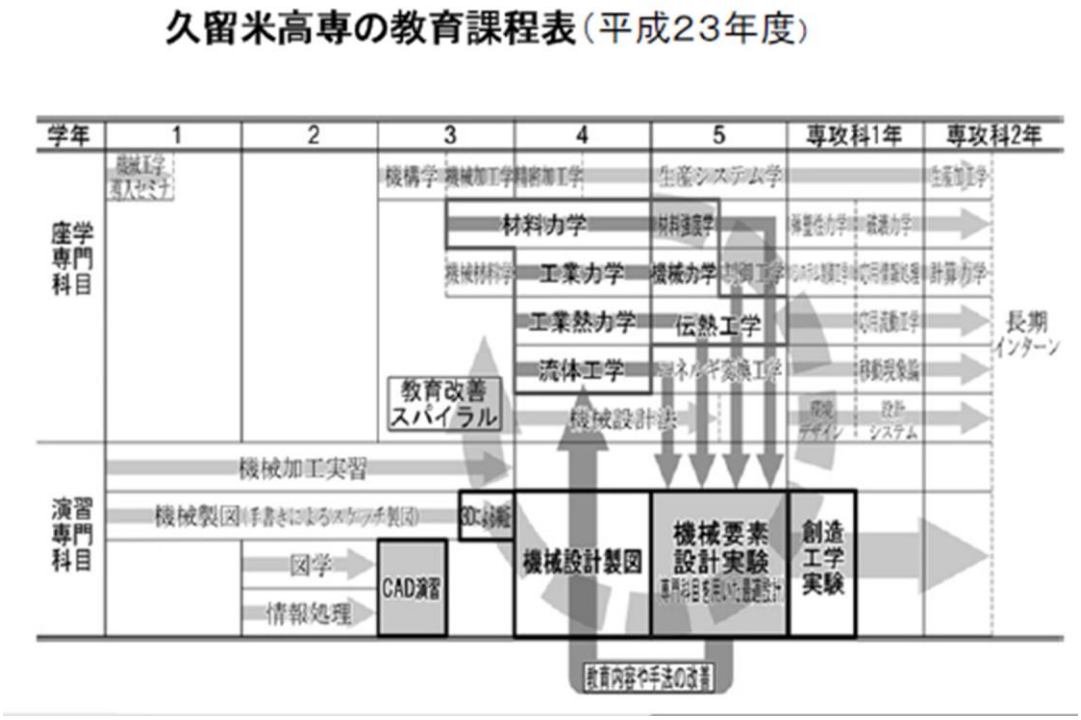
先の予定はあくまでも基本です。物理教室としては、これに各学科のご予定も取り入れ、よりよい物理カリキュラムにしたいと考えております。そこで、各学科におかれまして、物理カリキュラムで何を教えればいいかご相談の上、山崎にお知らせ頂けないでしょうか。この内容で問題なければ「そのままでよい」の一言でも結構です。この内容を減らし、その分、この内容について時間をかけて欲しいとか、具体的に書いて頂いても結構です。よろしければ、添付したＣｈｅｃｋ.xls にキーワードを並べておりますので、各項目について重要度を記入してください。

機械科においては、物理教室が担当するのは応用物理 II と学生実験だけですので、応用物理 II で何を扱えばよいか、お知らせ下さい。電気科については、応用物理 II が４年生になっておりますので、電磁気ではなく別の内容にするか、応用物理Ⅰと II の内容を入れ替えるとか、要望があるかと思います。
なお、ご要望の受付は今回、今の時期だけで無く、今後も継続的に行います。現時点でのご要望で結構です。
以上

（出典：物理教員から学科長宛文書（平成１８年３月２６日付））

資料２－２－②－６

専門科目の連携の例



（平成２５年度 日本設計工学会九州支部 教育シンポジウム　講演資料 ）

（分析結果とその根拠理由）

一般科目担当教員と専門科目を担当する教員の間で会議が適宜行われ、低学年での数学・物理教育の在り方、専門科目で必要とされる内容等の意見交換がなされている。また高学年での英語教育の在り方、授業内容について連携が図られている。

観点２－２－③：　教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

（観点に係る状況）

隔週で三主事・主事補及び学級担任が出席して学級担任会が開催され、学級担任活動の円滑化が図られている（資料２－２－③－１）。新任教員に対しては着任時に３主事からオリエンテーション（新任者研修）が実施され、円滑に教育活動に入れる体制が確立している（資料２－２－③－２）。課外活動について、学生会に対しては総括的に学生主事室（学生主事･主事補）が指導し、クラブ活動に対しては複数の顧問教員の指導体制になっており、外部コーチの支援体制も確立している（資料２－２－③－３、２－③－４）。これら学生の活動は、保護者によって組織された後援会の支援を受けている。（資料２－２－③－５）

資料２－２－③－１　　学級担任会記録（一例）

平成２４年度 第２回学級担任会議事要旨

期　日　　平成２４年４月１７日(火)　１６：４３～１７：１０
場　所　　大会議室

【全　体】
今後の行事予定
次のとおり連絡があった。
・４月２３日(月)～２５日(水)：公開授業
・５月　８日(火)：　午後クラスマッチ（本科午後授業なし。）
・５月　９日(水)：　クラスマッチ（本科授業なし。）
・５月１１日(金)～１２日(土)：１年生合宿研修（夜須）
・５月２６日(土)　：後援会総会・保護者懇談会

【教務関係】
１　入学動機に関するアンケートの実施について（本科１年）（資料）
次のとおり連絡があった。
・実施目的：機構からの依頼に基づき、入試広報関連の効果の分析、改善のための資料とするため実施
・対　　象：本科１年の新入生
・実施方法：クラス担任により、配付、回収をお願いし、２０日（金）までに学生課教務係へ提出

２　公開授業の時間割について
参加予定者の名簿を添えて配付しているので、該当学生への配付依頼があった。

３　保護者懇談会について
次のとおり連絡があった。
・５月２６日（土）午前：後援会総会、午後：保護者懇談会
・保護者懇談会の場所については、４月２３日（月）発送予定の案内時に同封予定

４　選択科目履修届の確認について
次のとおり連絡があった。
・４月１３日（金）修正を含めて締切
・選択科目履修願集計結果表を４月１６日（月）に全教員へ連絡済み。

５　進路状況調査について（５年担任）
次のとおり連絡があった。
・専攻科調査書作成準備も含め、氏名及び受験大学のリストを４月２０日（金）までに教務係へ提出依頼済み。

６　学生支援アドバイザーによる学生の皆さんの支援について（資料）
資料について周知の上、掲示依頼があった。

７　その他
(1) 保証人・氏名・住所変更について
学生カードを訂正朱書した学生で、保証人・氏名・住所の変更があった場合は、必ず変更届を教務係へ提出するよう学生への周知依頼があった。

資料２－２－③－２

平成２５年度第１回新任者研修次第

平成２５年４月１日

国立久留米工業高等専門学校
第１回新任者研修（平成２５年度）

１。研修対象者

新任者　　松田　康雄（教授、一般理科（数学））
青野　雄太（准教授、機械工学科）
加藤　直孝（准教授、電気電子工学科）
WURENTUYA　（准教授、電気電子工学科）
岩田　憲幸（准教授、材料工学科）
吉田　智博（助教、電気電子工学科）

２。スケジュール

８：３０～１０：００　事務手続き
１０：００～１１：００　辞令交付・校長懇談（校長室）
１１：００～１２：００　事務関係のオリエンテーション（小会議室）
１３：３０～１４：００　着任式（D4 教室）
１４：００～１６：００　研修（学校の沿革、組織、学校運営、教務・学生・寮務の説明）・校内見学（３主事）

３。本校等のＵＲＬ

久留米高専ホームページ　http://www。kurume-nct。ac。jp/
サイボウズ（久留米高専）（規則、研究者総覧、会議室等予約、電話番号一覧等
http://js。on。kurume-nct。ac。jp/Scripts/cbag/ag。exe
独立行政法人国立高等専門学校機構　http://www。kosen-k。go。jp/
高専総合データベース KOALA
https://koala。kosen-k。go。jp/xythoswfs/webview/xythoslogin。action
文部科学省　http://www。mext。go。jp/
大学評価・学位授与機構　http://www。niad。ac。jp/
日本技術者教育認定機構（ＪＡＢＥＥ）　http://www。jabee。org/
高専ＩＴ教育コンソーシアム　http://www。kosen-it。jp/

４。資　料

学校要覧（2012 年版）、学生便覧（2012 年版）、産学民連携テクノセンター報（2012 年版）、平成 25 年度教務手帳、実験実習安全必携（高専機構）、ＰＲパンフ（本科、専攻科、高専機構、女子学生）中期目標・中期計画・平成 24 年度年度計画（本校ホームページ、情報公開参照）他

５。担　当

教務主事　和泉　直志（機械工学科）
学生主事　辻　豊　（生物応用化学科）
寮務主事　泉本　英次（生物応用化学科）

（出典：平成２５年度第１回新任者受入れ研修次第）

資料２－２－③－３

平成２５年度課外活動指導教員一覧

平成25年度　課外活動指導教員一覧

（氏名）：人事交流中の教員を示す

	体育局	代表顧問	顧　問
1	陸上競技部	赤塚	矢野・田中(大)・宮本(泉)・菰田
2	柔道部	河合	馬越・小宮
3	剣道部	越地	原田・中畑・伊藤(公)
4	弓道部	中野	中嶌・笈木・萩原・松田(康)
5	空手部	山口	櫻木
6	硬式野球部	渡邊	栫・岡本・熊丸・平川・奥山・中武
7	バレーボール部	髙橋	山崎・江島・金城・松山
8	バスケットボール部	山本(哲)	黒木・山本(郁)・福田(か)・川上・堺・宮崎
9	テニス部	周	小田・加藤・池田・(川原)
10	ラクビー部	松島	江﨑・米永・和泉・青野
11	合気道部	笹栗	ウリントヤ
12	水泳部	松田(貴)	綾部・田中(慎)・冨岡
13	サッカー部	谷	石井・南山・宮本(久)・松本・大津
14	バドミントン部	龍頭	津田・原・岩田・酒井・青野
15	卓球部	石丸	久保・平元・丸山
16	ハンドボール同好会	藤田	江﨑・川嶋・篠島
17	ソフトテニス同好会	藤木	辻・吉田・泉本
18	サイクリング同好会	中尾	松永

	文化局	代表顧問	顧　問
1	囲碁将棋部	酒井	藤木
2	英会話部	江島	福田(か)・金城・ウリントヤ・池田
3	軽音楽研究部	萩原	津田
4	茶道部	馬越	栫・中野
5	新聞文芸部	田中(慎)	平元・松田(康)
6	吹奏楽部	奥山	池田・平元・綾部・宮崎
7	美術部	藤田	丸山・伊藤(公)
8	華道部	渡邊	越地
9	自動車部	中尾	青野
10	ロボットコンテスト部	南山	和泉・熊丸・中尾・山本(哲)・松本
11	プログラミングラボ部	黒木	丸山・松島
12	鳥部	田中(大)	原田・中尾
13	ピアノ同好会	小宮	大津
14	写真同好会	周	山本(郁)
15	エコパワー同好会	中武	川嶋・(川原)・河合
16	自然エネルギー研究同好会	熊丸	石丸
17	ガーデニング愛好会	越地	中嶌・松山

（出典：平成２５年度課外活動指導教員一覧）

資料２－２－③－４

平成２５年度 技術コーチ依頼者一覧表

番号	クラブ名	コーチ氏名	略　　歴
１	空　　手　　部	(略)	[redacted]
２	柔　　道　　部	(略)	
３	合　気　道　部	(略)	
４	卓　　球　　部	(略)	
５	英　会　話　部	(略)	
６	ﾛﾎﾞｯﾄｺﾝﾃｽﾄ部	(略)	
７	華　　道　　部	(略)	
８	弓　　道　　部	(略)	
９	茶　　道　　部	(略)	
１０	硬 式 野 球 部	(略)	
１１	サ ッ カ ー 部	(略)	
１２	ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部	(略)	
１３	バレーボール部	(略)	

(出典：学生課学生生活支援係資料)

資料２－２－③－５

久留米工業高等専門学校後援会規約

（名称）
第1条　本会は、久留米工業高等専門学校後援会と称する。
（目的）
第2条　本会は、久留米工業高等専門学校における教育事業を援助する。
（事業）
第3条　本会は、前条の目的達成のため次の事業を行う。
(1)学生の進路指導の捜助
(2)学生の福利厚生の援助
(3)学生の課外活動の援助
(4)教育上必要な事業の援助
(5)教員の教育並びに研究活動の助成(官)
(6)研究会、講演会等の開催及び援助
(7)その他本会の目的達成に必要な事業
（組織）
第4条　本会は、次の会員をもって組織する。
(1)正会員　在学生の保護者。ただし、卒業学年理事においては次年度総会開催日まで正会員とする。
(2)賛助会員　本会の趣旨に賛同する者のうち理事会で承認された者
（役員）
第5条　本会に次の役員を置く。
(1)会　長　1名　(理事を兼務)
(2)副会長　2名以上3名以内(理事を兼務)
(3)会計　3名以内(代表理事・理事を兼務)
(4)監査　2名　(代表理事・理事を兼務)
(5)代表理事　7名
(6)理事　22名
合計29名

以下略

(平成25年度久留米工業高等専門学校後援定期総会資料)

（分析結果とその根拠理由）
学級担任が学級指導を円滑に行うための支援体制として学級担任会が機能している。新任教員に対するオリエンテーション（新任者研修）は３主事より実施されている。課外活動について、学生会に対しては総括的に学生主事室を、クラブ活動に対しては複数の顧問教員を配置するとともに外部コーチも導入するなど、指導が円滑に行えるように配慮されている。教員の教育活動は、主として学生課職員及び技術職員によって多岐にわたり支援されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

教育課程全体を企画調整するために、教務主事室・専攻科主事室、授業科目に関するアンケート調査などを行う授業改善専門部会、教育課程に関して審議する教務委員会と専攻科委員会、自己点検・評価に係る企画主事室、及び教育課程に関する懸案事項を最終的に審議して決定する学科長委員会が設置され、教育課程を運営、チェック、改善する体制が整備され機能している。

全学的なセンターとして産学民連携推進センターを設置し、共同研究、受託研究などを通じて、地域とともに学生に対する教育を実施するとともに、技術教育のためのフォーラム開催など地域社へ貢献している。

一般科目担当教員と専門学科所属教員との話合いは適宜行われており、数学・物理・英語などの授業内容については連携が緊密に行われている。

（改善を要する点）　該当なし。

（３）基準２の自己評価の概要

準学士課程の教育組織は、機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科、生物応用化学科、材料工学科の五つの学科で構成されており、各学科はそれぞれの教育目標を設定し、本校の教育目的の達成を目指している。専攻科は、先端技術、高度情報化及び国際化に対応でき社会に貢献できる技術者育成を目的に、機械・電気システム工学専攻と物質工学専攻の２専攻で構成されており、準学士課程の各学科、及び専攻科課程それぞれの教育目標は学校教育法第７０条の２「深く学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」、及び学校教育法第７０条の６「精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導する」という目的に沿ったものである。全校的なセンターとしては、総合情報センターと産学民連携推進センターを設置している。総合情報センターは、教育研究支援と校内の情報管理を行っている。産学民連携推進センターは、産業界、本校、民間との連携を図ることによって本校の技術教育を向上させるとともに､地域の技術振興に貢献している｡教育課程全体を企画調整するため、教務主事室・専攻科主事室、授業改善専門部会、教育課程などの問題を審議する教務委員会、専攻科委員会、自己点検・評価に係る企画主事室、及び教育課程に関する懸案事項を最終的に審議して決定する学科長委員会が設置され、教育課程を運営、チェック、改善する体制が整備され機能している。教育の目的を達成する手段の一つとして、一般科目担当教員と専門学科所属の教員との連携を図っている。これまでにも、専門学科所属の教員による低学年の数学の授業実施、一般科目担当教員と専門学科所属の教員との間での相互の授業に関する討議、意見交換なども行われてきた。各専門に必要な数学や物理の授業内容に関する調査も実施され、それぞれの教育内容の見直しを検討してきた。教育活動支援としては、学級担任活動の円滑化を図るために隔週行われている学級担任会の開催、新任教員に対する着任時の各主事からのオリエンテーション（新任者研修）の実施などがある。学生の課外活動は、学生主事室及び複数のクラブ顧問による指導体制になっており、外部コーチの支援体制も確立している。教員の教育活動は、主として学生課職員及び技術職員によって多岐にわたり支援されている。

基準３　教員及び教育支援者

（１）観点ごとの分析

観点３－１－①：　教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

基礎学力を重視するために、学生が卒業するまでに修得すべき一般科目の単位数（選択科目を含む）を78単位以上に設定し、人間の素養の涵養という観点から、４、５年生に対する人文社会科学及び語学の２群から構成される一般選択科目を24科目開講している。教育の目的を達成するため、現在、一般科目担当教員には23名が配置され、一般科目担当の非常勤講師も適切に配置されている。このうち、理科には11名が、また文科には12名が配置され、一般科目をバランスよく担当している。高等専門学校設置基準では５学科構成の場合、専任の一般科目担当教員は22名以上となっているので、設置基準を満たしている（資料３－１－①－１、３－１－①－２）。

（分析結果とその根拠理由）

一般科目担当教員の数は高等専門学校設置基準を満たし、一般科目の教育課程に沿って文科及び理科教員の配置もバランスよく配置されている。一般選択科目も十分に準備されている。

資料３－１－①－１

一般科目担当教員一覧（平成２５年５月現在）

一般科目（文科）			一般科目（理科）		
教　授	中畑　義明	英語	教　授	宮本　　泉	化学
	平元　道雄	国語		松田　康雄	数学
	江島　孝則	英語		篠島　弘幸	物理
	福田　かおる	英語		宮本　久一	化学
准教授	小宮　　厚	国語	准教授	山﨑　有司	物理
	米永　正敏	英語		菰田　智惠子	数学
	龍頭　信二	体育		高橋　正郎	数学
	金城　博之	英語		酒井　道宏	数学
	河合　伸治	社会		谷　　太郎	物理
助　教	岡本　和也	社会		伊藤　公毅	数学
	赤塚　康介	体育	助　教	川嶋　克利	数学
	藤木　篤	社会			

（出典：総務課人事・労務係資料より作成）

資料３－１－①－２（１／２）

一般科目非常勤教員一覧（平成２５年５月現在）

一般科目（文科系）

担当科目	週時間数 前期	週時間数 後期	講師 氏名	本職
国語Ⅰ（古典）(1S、C)	4		楢崎洋一郎	久留米工業高等専門学校 非常勤講師
国語Ⅱ（古典）(2A、S、C)		6		
国語Ⅲ (3A、C)	4	4		
国語Ⅲ (3E、S、M)	6	6	木本　拓哉	久留米工業高等専門学校 非常勤講師
日本思想史 (4 全)	2			
東洋文学史 (4、5 全)		2		
体育Ⅱ (2S、C、M)	6		明官　秀隆	元旭川高専教授
体育Ⅲ (3A、E)		4		
体育Ⅳ (4 全)	1	4		
体育Ⅴ (5 全)	5			
体育Ⅱ (2A、E)	4		岸本　裕歩	九州大学大学院医学研究院
体育Ⅲ (3S、C、M)		6		
体育Ⅳ (4 全)	1	4		
体育Ⅴ (5 全)	5			
英語Ⅰ (1S)	4	4	石橋　保	元高校教師
英語Ⅲ (3A、S、M)	6	6		
英語Ⅱ (2S、C)	8	4	清原　恵子	元高校教師
英語演習Ⅰ (1A、E)	4	4	江島　孝人	筑紫女学園大学非常勤講師
英語Ⅲ (3E、3C)	4	4		
英語演習Ⅱ (2E、C、M)	6	6	ﾎﾞｼｲｰﾙ・ｼﾞｬﾝ・ｸﾛｰﾄﾞ	語学学校経営
英語演習Ⅱ (2A、S)	4	4	ﾎﾟｰﾙ・ﾐｰｲﾝ	語学学校経営
地理 (1A、E)	4	4	永吉　守	大牟田市石炭産業科学館学芸員
地理 (1S、C)	4	4	川浪　朋恵	九州大学大学院比較社会文化学府　博士課程
日本史 (3A、E、S、C)	8	8	古川　順大	九州大学大学院人文学府 博士後期課程
日本史 (3M)	2	2	松尾　弘毅	福岡工業大学非常勤講師
日本事情 (3 留学生)	2	2		
法学 4 全)	2		木村　貴	九州大学大学院法学府 博士後期課程
政治学 (4、5 全)		2	木村　貴	九州大学大学院法学府 博士後期課程

（出典：学生課教務係作成）

資料３－１－①－２（２／２）

一般科目非常勤教員一覧（平成２５年５月現在）

一般科目（文科系）

担当科目	週時間数 前期	週時間数 後期	講師 氏名	本職
音楽　(1E)		2	水頭　順子	九州龍谷短期大学 保育科教授
美術　(前期 1CM、後期 1AS)	4	4	今田　淳子	芸術作家
中国語Ⅰ　(4、5 全)		2	趙　淑範	佐世保高専非常勤講師
中国語Ⅱ　(5 全)	2			
中国語Ⅲ　(5 全)		2		
韓国語Ⅰ　(4、5 全)		2	安　瀞珠	福岡女子大学非常勤講師
韓国語Ⅱ　(5 全)	2			
韓国語Ⅲ　(5 全)		2		
ドイツ語Ⅰ　(4、5 全)		2	木田　綾子	九州産業大学非常勤講師
ドイツ語Ⅱ　(5 全)	2			
ドイツ語Ⅲ　(5 全)		2		

一般科目（理科系）

担当科目	週時間数 前期	週時間数 後期	講師 氏名	本職
数学ⅡＢ　(2S)	2	2	田中　義秋	元久留米工業高等専門学校教授
数学ⅢＢ　(3E、C)	4	4		
数学ⅢＢ　(3S、M)	4	4	原田　哲夫	予備校講師
数学ⅡＢ　(2A、C)	4	4	隅田　大貴	九州大学ﾏｽ・ﾌｫｱ・ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所博士研究員
応用物理Ⅱ　(3S、C、M)	6	6	野田　常雄	九州大学大学院 理学研究院テクニカルスタッフ
生物　(1A、E、S)	6	6	中園　良子	朝倉高校非常勤講師
地学　(1M)	2	2	高木　憲朗	予備校教師

（出典・学生課教務係作成）

観点３－１－②:　教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

教育の目的を達成するため、学生が卒業するまでに修得すべき専門科目の単位数を89単位以上に設定している。そのための専門科目を担当する教員として、専門学科には人事交流の教員１名（機械工学科）を含む56名が配置されている。必要に応じて非常勤講師も適切に配置している。高等専門学校設置基準では５学科構成の場合、専任の専門学科所属教員は36名以上となっているので、設置基準を満たしている（資料３－１－②－１、３－１－②－２）。

各学科の教員数は、それぞれ機械工学科13名（人事交流の教員１名を含む）、電気電子工学科11名、制御情報工学科10名、生物応用化学科12名、及び材料工学科10名である。機械工学科は他学科にも及ぶ工作工場の実習や産業デザイン論を担当しているため、生物応用化学科は「応用化学コース」と「生物コース」の２コースを持つ複合学科であるため、他学科に比べて人数が多い。

資料３－１－②－１

専門学科所属教員一覧（平成２５年５月現在）

機械工学科	
教授	櫻木　功 松永　崇 原田　豊満 和泉　直志 藤田　雅俊 中武　靖仁 石丸　良平
准教授	川原　秀夫※ 青野　雄太 中尾　哲也 田中　大
助教	南山　靖博 大津　健史

電気電子工学科	
教授	池田　隆 越地　尚宏 平川　靖之 中島　勝行
准教授	加藤　直孝 山口　崇 宮崎　浩一 ウリントヤ
講師	原　卓伸
助教	山本　哲也 吉田　智博

制御情報工学科	
教授	綾部　隆 丸山　延康 江崎　昇二
准教授	小田　幹雄 熊丸　憲男 黒木　祥光 中野　明 松島　宏典
助教	松本　光広 堺　研一郎

生物応用化学科	
教授	泉本　英次 津田　祐輔 冨岡　寛治 中嶌　裕之 辻　豊 栫　隆彦
准教授	笈木　宏和 石井　努 松山　清 渡邊　勝宏 松田　貴暁
助教	萩原　義徳

材料工学科	
教授	笹栗　信也 馬越　幹男 奥山　哲也 川上　雄士 田中　慎一
准教授	矢野　正明 山本　郁 周　致霆 岩田　憲幸
講師	久保甚一郎

※人事交流（大島商船高専より）

（出典：総務課人事・労務係資料より作成）

資料３－１－②－２

専門学科非常勤教員一覧（平成２５年５月現在）

制御情報工学科

担当科目	週時間数 前期	週時間数 後期	講師氏名	本職
計測工学（安全工学分野） (4S)	6h		渕上　高義	日本電産パワーモーター(株) ISO 審査員
電磁気学 (4S)	2	2	川口　武実	元久留米工業高等専門学校教授
電動ｱｸﾁｭｴｰﾀ (4S)		2	川口　武実	元久留米工業高等専門学校教授
ﾊﾟﾜｰｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ (5S)	2		川口　武実	元久留米工業高等専門学校教授
制御工学実験 (5S)		4	江頭　成人	人事交流（有明高専）
ﾃﾞｼﾞﾀﾙ制御 (専1)	2		江頭　成人	人事交流（有明高専）
ｼｽﾃﾑ制御工学 (専1)		2	江頭　成人	人事交流（有明高専）
専攻科研究論文 (専2)	4		江頭　成人	人事交流（有明高専）

生物応用化学科

担当科目	週時間数 前期	週時間数 後期	講師氏名	本職
品質管理 (4C)	2		渕上　高義	日本電産パワーモーター(株) ISO 審査員
安全工学 (4C)		2		
応用数学 (4C)	2	2	田代　博之	久留米工業大学 工学部教授
産業財産権入門 (5C)	―	12h	梶原　克彦	有吉国際特許事務所　久留米ｵﾌｨｽ

材料工学科

担当科目	週時間数 前期	週時間数 後期	講師氏名	本職
応用数学Ⅰ (4M)	2	2	原田　哲夫	予備校講師
応用数学Ⅱ (4M)		2	田代　博之	久留米工業大学 工学部 機械システム工学科教授
応用数学Ⅲ (5M)	2			
品質管理 (5M)	2		渕上　高義	日本電産パワーモーター(株) ISO 審査員
材料工学設計製図(4M)		4	福田　幸一	元久留米工業高等専門学校教授

（出典：学生課教務係作成）

（分析結果とその根拠理由）

教育の目標を達成するため、専門学科所属の教員数は高等専門学校設置基準に規定された数を大幅に上回って配置されている。また、各学科の教員配置数も本校の教育課程及び学校運営に沿って、適切に配置されている。

観点３－１－③：　専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

機械・電気システム工学専攻と物質工学専攻の２専攻からなる本校専攻科は、平成５年４月に設立された。設立時から５年に一度、大学評価・学位授与機構 の教員審査を受けてきた。審査に合格した教員数は、平成15年度の審査では、専任及び兼任担を含めて専門学科所属の35名、一般科目担当の８名、平成20年度の審査では、専任及び兼任担を含めて専門学科所属の43名、一般科目担当の８名で、それぞれの教員は深い専門知識を有し、先端技術や新しい時代に対応できる技術者の育成という専攻科の教育目標を達成するための各科目に対して適切に配置されている（資料３－１－③－１、３－１－③－２）。この教員配置を含めた教育状況が、短期大学および高等専門学校専攻科の認定規則に適合すると認められている（資料３－１－③－３）。次回審査は法令の改正により、平成27年度の見込みである。

なお、専攻科には原則的に非常勤講師を配置しない方針である。

資料３－１－③－１

専攻科担当教員一覧（一般科目及び専門基礎科目）

一般科目及び専門科目

（各コース共通）

		授業科目	授業形態	単位数		学期別配当 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	備考
		実践英語Ⅰ	演習	1	中畑	1				
	必	実践英語Ⅱ	演習	1	中畑		1			
		実践英語Ⅲ	演習	2	金城			2		
		環境倫理学	講義	2	藤木		2			
一	修	産業デザイン演習	演習	2	藤田	2				
般		工学倫理	講義	2	藤木			2		
科	一般科目必修単位計			10		3	3	4		
目	選	産業財産権特論	講義	2	原田、梶原	2				
		専攻科特論一般Ⅰ	講義又は演習	2			2			4単位以内
	択	専攻科特論一般Ⅱ	講義又は演習	2					2	
	一般科目選択単位計			6		2	2		2	
	必	地球環境と現代生物学	講義	2	中武、萩原	2				
		現代物理学	講義	2	谷	2				
	修	応用情報処理演習	演習	2	中尾、冨岡、岩田		2			
		専門基礎科目必修単位小計		6		4	2			
専		応用数理Ⅰ	講義	2	菰田	2				
門		応用数理Ⅱ	講義	2	菰田		2			
基		応用数理Ⅲ	講義	2	川嶋			2		
礎	選	量子力学	講義	2	越地		2			
科		物性化学	講義	2	辻	2				10単位以上修得
目		画像工学	講義	2	黒木		2			
	択	応用情報処理	講義	2	松島		2			
		統計力学及び熱力学	講義	2	篠島				2	
		専攻科特論専門Ⅰ	講義	2					2	4単位以内
		専攻科特論専門Ⅱ	講義	2					2	
		専門基礎科目選択開設単位小計		20		6	6	2	6	
	専門基礎科目開設単位計			26		10	8	2	6	
一般科目、専門基礎科目開設単位合計				42		15	13	6	8	

（出典：学生課教務係作成）

資料３－１－③－２

専攻科担当教員一覧（各専攻）

機械・電気システム専攻

授業科目			授業形態	単位数		学期別配当				備考		
						1年次		2年次				
						前期	後期	前期	後期			
専門科目	必修	創造工学実験	実験	2	A. 中尾、田中大 E. 池田、ウリントヤ S. 丸山、松本	2						
		技術英語	演習	1	A. 田中大 E. 平川 S. 江崎、小田、黒木、中野			1				
		先端工学特論	演習	1	池田		1					
		専攻科研究論文	実験	10	全教員	1	2	7		学位申請等論文		
		専攻科インターンシップ	実習	7					7			
		専門科目必修単位小計		21		3	3	8	7			
	選択	弾塑性力学	講義	2	原田豊	2				A	*	*
		破壊力学	講義	2	青野		2			A	*	*
		応用流動工学	講義	2	中武		2			A	*	*
		生産加工学	講義	2	石丸			2		A	*	*
		移動現象論	講義	2	松永		2			A	*	*
		計算力学	講義	2	中尾			2		A	S	*
		設計システム工学	講義	2	藤田		2			A	*	E
		メカトロニクス工学	講義	2	綾部			2		A	S	E
		システム制御工学	講義	2	江頭		2			A	S	E
		デジタル制御	講義	2	江頭	2				A	S	E
		コンピュータグラフィックス	講義	2	黒木			2		*	S	*
		パターン認識	講義	2	松島			2		*	S	*
		形式言語とオートマトン	講義	2	小田	2				*	S	E
		データベース	講義	2	中野		2			*	S	*
		応用電磁気学	講義	2	平川		2			*	S	E
		光エレクトロニクス	講義	2	平川			2		*	*	E
		集積回路工学	講義	2	吉田		2			*	*	E
		デジタル信号処理	講義	2	池田	2				*	S	E
		プラズマ工学	講義	2	宮崎			2		*	*	E
		機械工学特論	講義	2		2				集中講義		
		電気電子工学特論	講義	2		2				集中講義		
		制御情報工学特論	講義	2		2				集中講義		
		専門科目選択開設単位小計		44		12	18	14	0	A,S,Eの各区分26単位から12単位以上,修得のこと。		
	専門科目開設単位計			65		15	21	22	7			
全開設単位合計（一般科目、専門基礎科目を含む）				107		30	34	28	15			
全科目修得単位合計（一般科目、専門基礎科目を含む）				65単位以上								
全開設単位合計（機械工学系）				89		28	26	20	15	備考欄の＊は他専攻扱いの科目（4単位以内）		
全開設単位合計（制御情報系）				89		28	24	22	15			
全開設単位合計（電気電子系）				89		28	26	20	15			

※Aは機械工学系、Sは制御情報系、Eは電気電子系の履修科目を示す。

（出典：学生課教務係作成）

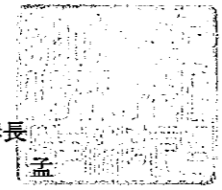
（分析結果とその根拠理由）　教育の目的を達成するために配置された教員については、大学評価・学位授与機構の審査を受けている。審査に合格した教員の多くが博士の学位を有し、教育の目標を達成する科目に対して適切に配置されている。

資料３－１－③－３

認定専攻科における教育の実施状況等の審査結果

評学機構学第183号
平成21年２月13日

久留米工業高等専門学校長　殿



独立行政法人大学評価・学位授与機構長
木　村　　孟

認定専攻科における教育の実施状況等の審査結果について（通知）

平成 20 年５月 23 日付け久高専総第 35 号で提出のあった下記の専攻科の教育の実施状況等について，短期大学及び高等専門学校の専攻科の認定に関する規則（平成16年規則第29号）第９条に規定する審査の結果，「適」と認められたので通知します。

記

１　名称，専攻及び修業年限

名　　称	専　　攻	修業年限
久留米工業高等専門学校	機械・電気システム工学専攻	２年
	物質工学専攻	２年

（出典：独立行政法人大学評価・学位授与機構　通知文書）

観点３－１－④：　学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。

（観点に係る状況）

平成25年５月１日現在における本校教員の年齢構成及び女性教員数は資料３－１－④－１である。

年齢構成は、60歳代が12。8%、50歳代が25。6%、40歳代が39。7%、30歳代が17。9%、及び20歳代が3。8%であり、教員組織は均衡ある年齢構成に配慮されている。教員の学位取得状況については、専門学科所属教員の87。3%が博士の学位を取得している。また、一般科目担当教員についても56。5%が博士の学位を取得している。専門学科所属教員のうち、28名（50。9%）が民間企業・研究機関経験者である。一般科目教員についても３名が企業経験者である。さらに、17名（21。8%）の教員が海外での教育研究経験が、また11名（14%）の教員が内地研究員として国内の大学にて研究を行った経験がある。

教員の採用は、すべて公募制であり、高等専門学校設置基準第１１条～第１４条に則り、人事連絡委員会（資料３－１－④－２）に諮って公募、選考を行って、校長が採用を決定している。その際、年齢構成の均衡のため職位を限定することがあり、女性教員の採用にも努力している（資料３－１－④－３）。

このように、本校の教育目的を効果的に達成するため、教育経歴や実務経験に配慮がなされている。また、在籍する教員組織の教育研究活動を促進するため紀要を発行したり、学位の取得に配慮している。学位を取得した場合はその概要を紀要に掲載している（資料３－１－④－４）。学協会での顕著な功績があった教員や教育分野で功績があった教員に対して表彰を実施している（資料３－１－④－５、３－１－④－６）。

資料３－１－④－１

教員の年齢構成一覧　　（平成25年5月現在）

教員の年齢別人数（人）

※()は女性【内数】

	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科	一般科目	合　計（女性）
60 歳代	2	0	0	0	3	5	10
50 歳代	3	3	3	5	1	5(1)	20 (1)
40 歳代	6	5(1)	3	5	4	8(1)	31 (2)
30 歳代	1	1	3	2	2	5	14
20 歳代	1	1	1	0	0	0	3
合計/人	13	10	10	12	10	23	78

（出典：総務課人事・労務係資料）

資料３－１－④－２

久留米工業高等専門学校人事連絡委員会規則

（趣旨）
第１条　久留米工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教授、准教授、講師、助教及び助手（以下「教員」という。）の採用、昇任、配置換等の選考審査に係る審議及び教員人事に係る事項の調整のため人事連絡委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（公募の原則）
第２条　教員の採用、昇任、配置換等は、原則として公募による。
（申し出）
第３条　各主事及び学科長は、学科に採用の必要が生じる場合又は学科の教員を昇任させたい場合等は、校長に申し出るものとする。
（組織）
第４条　委員会は、次に掲げる者をもって組織する。
(1)　校長
(2)　教務主事、学生主事及び寮務主事
(3)　専攻科主事及び企画主事
(4)　各学科長
（委員長）
第５条　校長は、必要があると認めた場合は、委員会を開催する。
２　委員会の委員長は、校長とする。
（任務）
第６条　委員会は、その教員の採用方針等及び採用候補者の審議を行うものとする。
（調査委員会）
第７条　委員会は、採用等に関する具体的な内容の審査、応募者の書類審査、面接審査及び候補者の選考を行うため、調査委員会を設ける。
２　調査委員会は、次に掲げる者をもって組織する。ただし、調査委員会が同一学科の教授３名となる場合は、１名については委員会の中から他学科の教授を充てるものとする。
(1)　教務主事
(2)　受入学科の学科長
(3)　受入学科の教授　１名
(4)　委員会の中から、校長が推薦する者　１名
３　調査委員会の委員長は、互選により選出するものとする。
（面接）
第８条　調査委員会は、選出した候補者の中から、委員会で面接に適格と判定された原則として複数名の者について面接を行い、その結果について順位を付けて委員長に報告するものとする。
２　委員長は、調査委員会の報告を受け、委員会に諮るものとする。
（採用候補者の決定）
第９条　委員会は、採用候補者について審議し、原則として複数名の採用候補者を決定するものとする。
（事務）
第 10 条　委員会の事務は、総務課人事・労務係において処理する。
（その他）
第 11 条　この規則に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附　則
この規則は、平成１４年　４月　１日から施行する。
附　則
この規則は、平成１７年　４月　１日から施行する。
附　則
この規則は、平成１８年　２月２３日から施行し、平成１７年８月１日から適用する。
附　則
この規則は、平成１９年　４月　１日から施行する。

（出典：久留米工業高等専門学校規則集）

資料３－１－④－３

教員公募の例

久高専人第　　３５　号
平成２４年　６月２８日

関係大学（学部）長
関係高等専門学校長　　様
関　係　機　関　長

久留米工業高等専門学校長
上田　孝（公印省略）

教員の公募について（依頼）

拝啓　　時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
さて、このたび本校では下記の要領により教員を公募することになりました。
ついては、貴職関係者に周知いただくとともに、適任者がありましたら、推薦方よろしくお願い申し上げます。　　敬具

記

1. 募集人員　助教　１名
2. 所属学科　材料工学科
3. 専門分野　金属材料全般、または応用物理に関わる領域
4. 担当科目　金属材料、固体物理、情報処理に関する専門科目、学生実験、卒業研究、および専攻科研究論文等
5. 応募資格　(1) 博士の学位を有するか取得見込の方、または技術士の資格を有する方
(2) 工業高等専門学校の教育・研究に意欲があり、学生指導と学校運営に理解と熱意のある方
(3) 共同研究、公開講座、および産学民連携等の地域・社会貢献に熱意のある方
＊博士の学位取得見込の方は３年の任期付き助教として採用し、その間に学位を取得すれば３年の任期をはずします。
6. 採用時期　平成 25 年４月１日
7. 提出書類　(1) 履歴書（写真添付、E-mail アドレス記載）
(2) 著書・論文等一覧
(3) 著書・論文等の概要（主要なもの５編以内）
(4) 口頭発表一覧
(5) 主に携わった職務内容とその実績
(6) 工業高等専門学校における教育・研究に携わる抱負（1,000 字程度）
(7) (3)に記載の著書・論文別刷（コピー可）
※(1)～(6)については所定の様式（PDF および Word）があります。
本校 Web ページ内の教員公募から取得して下さい。
(http://moon.on.kurume-nct.ac.jp//koubo/koubo.html)
※提出頂いた書類はお返ししませんのでご了承ください。
8. 応募締切　平成 24 年９月 28 日（金）必着
9. 選考方法　第一次選考：書類審査、第二次選考：プレゼンテーション及び面接
10. 書類送付先　〒830-8555　福岡県久留米市小森野１－１－１
久留米工業高等専門学校　総務課人事・労務係
(TEL：0942-35-9305　　FAX：0942-35-9307)
※郵送の場合は「簡易書留」とし、封筒の表に「材料工学科教員応募書類在中」と朱書きのこと。
11. 問合せ先　久留米工業高等専門学校　材料工学科長　田中　慎一
TEL：0942-35-9414　　FAX：0942-35-9425
E-mail：s-tanaka@kurume-nct.ac.jp
12. その他　(1) 応募者の個人情報は、久留米工業高等専門学校の教員を採用するために利用するものであり、第三者に提供または公表することはありません。
(2) 本校は男女共同参画を推進しており、女性の積極的な応募を期待します。
(3) 教育・研究の力量の評価において、同等と認められる場合には女性を積極的に採用します。

（出典：総務課人事係）

資料３－１－④－４

紀要に掲載された学位論文概要

久留米工業高等専門学校

紀　　要

第28巻　第１号
（平成 24 年 9 月）

目　　次

可搬型ペルチェ式霧箱の製作 …… 小田部 荘 志・谷 太 郎 … 1

多次元尺度構成法と概念辞書を用いたテキスト情報の空間配置システムの開発 …… 中 野 明・清 田 光太郎 … 9

水溶性トリフェニルアミン－ベンゾチアジアゾールの会合誘起発光 …… 石 井 務・池 田 圭 … 17

【学位論文】
四個の正方形コイルを用いた磁気式モーションキャプチャの方法とその高速化に関する研究 …… 山 口 崇 … 23

平成23年度中に発表した論文・著書等及び講演題目 …… 27

平成23年度卒業研究題目及び専攻科研究論文題目 …… 45

久留米工業高等専門学校紀要出版投稿内規 …… 52

（出典：久留米工業高等専門学校　紀要第 28 巻 第１号）

資料３－１－④－５

久留米工業高等専門学校表彰委員会規則

（趣旨）

第１条　久留米工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育、研究、社会貢献、管理運営に対し、特に顕著な功績を挙げた本校教員に「功労賞」を授与し表彰するため、表彰委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（表彰を受ける者）

第２条　　功労賞の表彰は、次に掲げる各号のいずれかに該当する者について行う。

(1)　講義、演習、実験・実習等の授業において、特に教育効果を高めた者
(2)　学生指導、クラブ活動等学生への教育に特に功績のあった者
(3)　研究において顕著な実績を修め、外部から高い評価を得た者
(4)　産学連携、地域連携、国際連携等により本校の社会貢献に特に功績があった者
(5)　その他、本校の管理運営に対して特に功績があった者

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織し、校長を委員長とする。

(1)　校　　長
(2)　教務主事
(3)　学生主事
(4)　寮務主事
(5)　専攻科主事
(6)　企画主事
(7)　各学科長
(8)　事務部長
(9)　その他校長が必要と認めた者

（推薦方法）

第４条　委員会は、毎年１回、年度終了時までに本校教員に候補者の推薦募集を行う。本校教員は、１名以内の候補者を別紙様式により　委員長あてに推薦することができる。

（表彰を受ける者の決定）

第５条　委員会は、推薦のあった者の中から合議により功労賞候補者を選定し、校長が決定する。

（表彰の方法）

第６条　表彰は、校長が表彰状を授与して行う。なお、記念品を授与することができる。

（事務）

第７条　委員会の事務は、総務課人事・労務係で処理する。

附　則

この規則は、平成１５年　３月　１日から施行する。

附　則

この規則は、平成１７年１１月　１日から施行する。

附　則

この規則は、平成１９年　４月　１日から施行する。

（出典：久留米工業高等専門学校規則集）

資料３－１－④－６

平成２１年度第１回表彰委員会議事録

◆日　時　平成２２年２月１８日（木）１３時３０分から１３時４０分
◆場　所　小会議室
◆出席者　校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科主事
　　機械・電気電子・制御情報・生物応用・材料・一般文科・一般理科学科長
　　事務部長
◆陪席者　総務課長

◆審議事項
１。「功労賞」候補者の推薦について

機械工学科　藤田雅俊教授
校長より、上記の者について推薦があったので審議願いたいとの発言があり、推薦者の一人である馬越教務主事より、表彰委員会規則第２条に基づく推薦理由の説明がなされた。
ついで、審議の結果、同候補者を功労者として表彰することが承認された。
おって校長より、表彰式は３月２６日の教員会議の席上で行う旨の説明があった。

（出典：平成２１年度第１回表彰委員会記録）

（分析結果とその根拠理由）
教員組織は、年齢構成に配慮され、博士の学位取得者が多く、多様な教育経歴や実務経験を持った教員より構成されている。これらを考慮した公募が行われ、公正に教員採用を行っている。また、本校独自の表彰制度があり、教員の教育研究活動の活性化を図っている。

観点３－２－①：全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等、適切な取組がなされているか。

（観点に係る状況）

教員の教育活動に関する評価をより客観的に、かつ公正に行う目的で、各部署の責任者による評価を取り入れた評価体制が確立し、評価が実施されている。評価規則は全教員に公表されている（資料３－２－①－１）。

資料３－２－①－１（１／２）

教員における勤勉手当および昇給区分の優秀者の決定方法

教員における勤勉手当の区分のうちA(特に優秀)、B（優秀)、および昇給区分のうちA（極めて良好)、B（特に良好）の者の決定にあたっては、次の５項目の事項に配慮し、校長と５主事の合議により配分を決定する。

１．　主事、学科長、産学民連携テクノセンター長、総合情報センター長、図書館長、学生相談室長等の役職を務めている者。
２．　教育・研究・管理運営・社会連携等に貢献があった者として、主事、学科長、産学民連携テクノセンター長、総合情報センター長、図書館長が推薦した者。
３．　特定の個人に集中しないこと。
４．　教育・研究・社会連携の面において受賞など、外部的な評価を得た者。
５．　以上のほかに、校長が特別の功績があると認めた者。

このうち１～３については点数化して評価を行うが、その評価基準については随時見直しを行う。
４については自己申告による。配分者名および各個人の点数は公表しない。

勤勉手当の区分におけるA(特に優秀)、B（優秀）の者について

夏冬のA（特に優秀)、B（優秀）の者の決定にあたっては、その基準日以前の半年間を対象に、教員全員について次のポイントを算出し、該当者決定の資料とする。

１。役職に基づくポイント
別表により該当する各教員にポイントを与える。

２。主事、学科長、センター長、図書館長の推薦によるポイント
（１）５主事、各学科長は、おもに自分の職務に関連した分野で過去半年間に教育・研究・管理運営・社会貢献等に貢献があった教員１名以内を推薦し、推薦があった教員に各１点を与える。同様に、産学民連携テクノセンター長、総合情報センター長、図書館長は、合議の上、教員１名以内を推薦し、推薦があった教員に１点を与える。
（２）上記（１）以外に教務主事は、対外的な貢献に寄与した教員若干名を推薦し、推薦があった教員に各１点を与える。
（３）上記（１）以外に学生主事は、クラブ顧問教員のなかから、特にクラブ活動に貢献があった教員若干名を推薦し、推薦があった教員に各１点を与える。
（４）上記（１）以外に、教務主事、学生主事、寮務主事が、合議の上、学級運営に貢献した学級担任若干名を推薦し、推薦があった教員に各１点を与える。

３。配分頻度の均一化
前回にA（特に優秀）に決定された者には－２点、B（優秀）に決定された者には－１。５点を与え、前々回にA（特に優秀）に決定された者には－１点、B（優秀）に決定された者には－０。５点を与える。

４。外部的評価
このほか、自己申告により、教育・研究・社会連携等で学協会賞等を受賞するなど、外部的な評価を受けた者があれば、考慮する。

昇給区分におけるA（極めて良好)、B（特に良好）の者について

昇給区分におけるA（極めて良好)、B（特に良好）の者の決定にあたっては、その基準日以前の１年間を対象に、教員全員について次のポイントを算出し、該当者決定の資料とする。

（出典：総務課人事係）

資料３－２－①－１（２／２）

教員における勤勉手当および昇給区分の優秀者の決定方法

１。役職に基づくポイント
　別表により該当する各教員にポイントを与える。
２。主事、学科長、センター長、図書館長の推薦によるポイント
　その年度に配分された勤勉手当ポイントの平均ポイントを与える。
３。配分頻度の均一化
　平成 19 年 1 月にA（極めて良好）及びB（特に良好）に決定された者は、それぞれ次の年度に－７点及び－５点、平成 23 年 1 月以降にA（極めて良好）及びB（特に良好）に決定された者は、それぞれ次の年度に－８点及び－６点を与え、その次の年度以降、毎年それに１点を加算したポイントを与える。久留米高専に新しく赴任したものについては、赴任した年度に－８ポイントを与え、以後同様とする。
４。外部的評価
　このほか、自己申告により、教育・研究・社会連携等で学協会賞等を受賞するなど、外部的な評価を受けた者があれば、考慮する。

別　表

役　職	ポイント	備　考
教務主事	2	昇給のみ
学生主事	1	昇給のみ
寮務主事	1	昇給のみ
専攻科主事	3	
企画主事	3	
各学科長	2	
産学民連携テクノセンター長	2	
総合情報センター長	2	
図書館長	2	
学生相談室長	2	
各主事補	1	
図書館長補	1	
産学民連携テクノセンター 部門マネージャー	1	
各学級担任	1	
就職主任	1	
学生相談室員	1	
電子計算機室長	1	

役職が重複している場合には、一番高いポイントに加え、２位以下のポイントの 1/2 を加算する。

（出典：総務課人事係）

（分析結果とその根拠理由）

教育・研究活動全般に関する評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われている。

観点３－２－②：　教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用がなされているか。

（観点に係る状況）

教員の採用については人事連絡委員会（資料３－１－④－２）で審議され、それに基づいて公募される（資料３－１－④－３）。応募者は書類審査及び面接審査の二段階で、調査委員会が適否を審査し、その結果をそれぞれ人事連絡委員会で審議する。この結果に基づき、校長が採用を決定している。教員の内部昇格については、同様の手順で審議・決定している。

また、非常勤講師の任用については、学科長委員会で適切に審議されている（資料３－２－②－１）。これらの採用、内部昇格、任用は、高等専門学校設置基準(第６条～第１４条)に準拠している。

資料３－２－②－１

久留米工業高等専門学校非常勤講師の委嘱に関する申合せ

１　非常勤講師の委嘱基準

非常勤講師の任用にあたっては、原則として任用年度の４月１日現在の年齢が６７歳以下の者とする。

２　非常勤講師の委嘱を必要とする場合

(1)　当該学科又は教科の当該専任教員の週当平均担当時間数が、原則として、一定時間数を超える場合

(2)　当該科目について、専任教員に担当の該当者がいない場合

(3)　現行カリキュラムで教育上、特に充実強化を必要とする場合

３　非常勤講師の委嘱手続き

(1)　一般科目については、複数の教員が担当する科目については科目主任教員が、単数の教員が担当する科目及び非常勤講師に依存せざるを得ない科目については学科長が、それぞれ必要書類を整備の上、いずれも一般科目文科系又は一般科目理科系会議の議を経て教務主事に申し出ること。

(2)　専門科目については、各学科長が、必要書類を整備の上、当該学科会議の議を経て教務主事に申し出ること。

(3)　専攻科の科目については、原則として常勤教員の担当とするが、特に事情がある場合、専攻科主事が必要書類を整備の上、専攻科委員会の議を経て教務主事に申し出ること。

(4)　教務主事は、非常勤講師の候補者に関する各会議における協議事項及び必要書類を資料として、学科長委員会に諮るものとする。

(5)　前各号の手続きは、時間的余裕をもって行うこと。

４　その他

(1)　第２項第１号の一定時間数については、学科又は教科に応じて、校長及び教務主事の協議に基づき決定する。

(2)　第３項第１号、第２号及び第３号の必要書類は、高等専門学校の教員選考に係る様式に準じたものとする。

(3)　第３項第４号における学科長委員会への資料提出は、教務主事の指示に基づき、学生課教務係が所掌する。

(4)　非常勤講師の委嘱依頼及び発令手続きについては、総務課人事・労務係が所掌する。

５　申合せの期日

従前の申合せ及び非常勤講師の任用については廃止し、この申合せは、平成１７年１１月１日から実施する。この申合せは、平成１９年４月１日から実施する。

（出典：久留米工業高等専門学校規則集）

（分析結果とその根拠理由）

教員の採用、内部昇格は、人事連絡委員会における審議を経て公正に採用・昇格が行われている。また、非常勤講師の任用は、学科長委員会で適切に行われている。

観点３－３－①：学校における教育活動を展開するに必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。

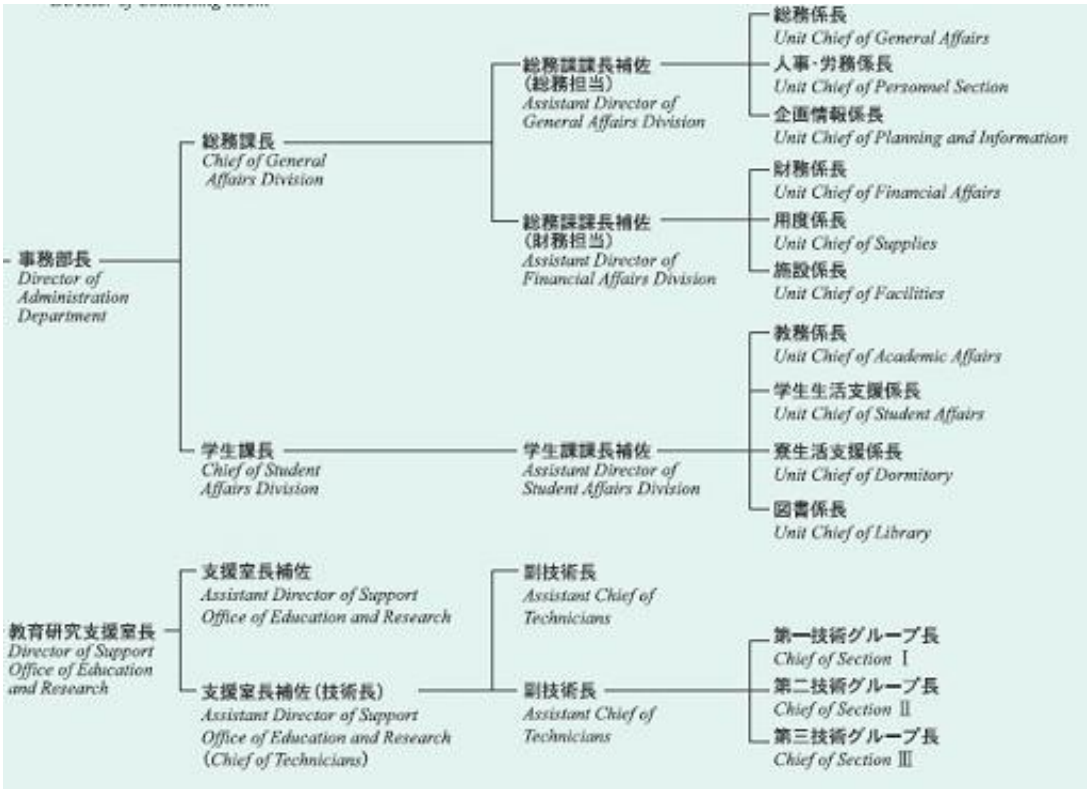
（観点に係る状況）

教育課程を展開するのに必要な職員は、主として学生課に配置されている。教務に係る事務は学生課教務係6名が担当し、実験実習などに係る技術職員は、教育研究支援室に20名配置されている。このうち、機械工学科工作工場には８名の技術職員が配置され、機械工学科以外の学科に対しても工作実習の支援に従事している。学生の課外活動及び福利厚生などに係る事務職員は、学生課学生係に４名（うち看護士１名）配置されている。学生寮の管理などに係る事務職員は学生課寮務係に３名（うち寮母１名）配置されている。このように、教員及び学生に対して教育支援を行う職員が適切に配置されている。図書館には司書の資格を有する者を含む事務職員が３名配置されている（資料３－３－①－１、資料３－３－①－２、資料３－３－①－３）。

以上のことから、本校において編成された教育課程を展開するに必要な事務職員、技術職員などの教育支援者が適切に配置されている。

資料３－３－①－１

久留米高専　組織図（事務・教育研究支援室）



（出典：学校要覧）

資料３－３－①－２

職員配置一覧

事務部長	辻本　功

（平成25年4月1日）

	課長	一般職員（一）						医療職員（二）	再雇用（短）	非常勤職員		
		課長補佐 技術長 技術専門員		係長 専門職員		主任	一般職員 技術職員 図書系職員			有期雇用	事務補佐	臨時用務員
総務課	三原　和宏	課長補佐 （総務担当）	吉光　豊	総務係	大庭　弘睦	冨永　敦子					天本　美栄	
				人事・労務係	三隅　和弘		高田　康晴				松尾　千秋	
				企画情報係	吉田　覚		福田　茂大			三島　淳一郎		
		課長補佐 （財務担当）	藤川　眞一	財務係	今村　義徳	西村　尚子	園野　誠寛				野口　千尋	
				用度係	篠原　啓介		石橋　暁子				沖　和子	
							石原　拓			千徳　ルリ子		
				施設係	橋本　康弘		宮本　圭一					
	17	2		6		2	6			2	4	
学生課	磯田　信一	課長補佐 （学務担当）	栗原　宗明	教務係	成田　悦子		松田　嘉弘 森　淳			栗原　龍子	井邊　佳代	中尾　隆博
				学生生活支援係	松永　幸大	宮原　修		野田　美恵		平島　由香里		
				寮生活支援係	栗原　宗明(併任)	平河　良二			荻野　清和		神谷　優美	
				図書係	小川　晴二					園野　ふく代	緒方　義信	
	10	1		3		2	2	1	1	3	3	1
教育研究支援室	技術長	吉冨　俊之										
	副技術長	田中　義規										
				佐藤　栄								
	第一技術グループ			●黒川　秀明	厨　由成 馬田　靖彦 徳山　徹		福田　貴士 吉武　清生		城野　松夫 山下　友廣			
	第二技術グループ			●田中　義規 （兼務）	馬場　隆男 寺尾　慎樹		屋並　陽仁		古賀　渉			
	第三技術グループ			●南條　潔	田中　宗雄 冨永　洋一		神野　拓也		権藤　豊彦			
	16	2		10			4		4			
44　部長含		5		19		4	12	1	5	5	7	1

※朱書きは、併任又は兼務

（出典：総務課人事・労務係）

（分析結果とその根拠理由）

事務、技術職員の定員削減が行われている中、本校では教育課程を展開するに必要な事務職員、技術職員などの教育支援者を適切に配置している。

資料３－３－①－３（1/3）

事務組織及び事務分掌

１．総務課

課長補佐（総務担当）	(1) 総務課の所掌事務のうち、総務に関する事務の総括及び連絡調整に関すること (2) 自己点検・評価及び外部評価に関すること。 (3) 認証評価に関すること。 (4) 中期計画・中期目標に関すること。 (5) 将来計画に関すること。 (6) 教職員の研修に係る企画、立案及び実施に関すること。 (7) 人事考課に関すること。 (8) 労働組合（労使協定）に関すること。 (9) その他総務に関する特に指定された重要事務に関すること。
課長補佐（財務担当）	(1) 総務課所掌事務のうち、財務に関する事務の総括及び連絡調整に関すること (2) 概算要求に関すること。 (3) 会計監査に関すること。 (4) 予算及び決算の統括に関すること。 (5) 予算執行状況の確認の統括に関すること。 (6) 資金計画・管理の統括に関すること。 (7) 財務関係の公印の制定及び管守に関すること。 (8) その他財務に関する特に指定された重要事務に関すること。
総務係	(1) 本校の事務に係る連絡調整に関すること。 (2) 機密に関すること。 (3) 儀式その他の会議に関すること。 (4) 渉外及び秘書事務に関すること。 (5) 学則その他諸規則の制定及び改廃に関すること。 (6) 国際交流に関すること（学生課の所掌に関することを除く。）。 (7) 外国人研究者の受入れに関すること。 (8) 公開講座に関すること。 (9) 生涯学習事業に関すること。 (10) 内地研究員、在外研究員等に関すること。 (11) 学会、協会等の学術団体との連絡に関すること。 (12) 文書の接受、発送及び保管に関すること。 (13) 公印の制定及び管守に関すること（財務関係の公印を除く。） (14) 科学研究費その他の研究助成の申請等に関すること。 (15) 校内の警備及び取締に関すること。 (16) 電話交換に関すること（保全に関することを除く。）。 (17) 教職員の身分証明書の発行に関すること。 (18) 総務係に係る調査統計その他諸報告に関すること。 (19) その他他の課及び係の所掌に属しない事務を処理すること。
人事・労務係	(1) 教職員の任免、分限及び懲戒に関すること。 (2) 教職員の服務等に関すること。 (3) 教職員の給与に関すること。 (4) 教職員の定員に関すること。 (5) 兼業及び併任に関すること。 (6) 教職員の勤務時間に関すること。 (7) 教職員の健康管理、福祉及び労働災害に関すること。 (8) 出張及び研修に関すること。 (9) 共済組合に関すること。 (10) 非常勤教職員の健康保険等に関すること。 (11) 栄典及び表彰に関すること。 (12) 名誉教授に関すること。 (13) 人事記録に関すること。 (14) 人事・労務係に係る調査統計その他諸報告に関すること。 (15) その他人事・労務に関すること。
企画情報係	(1) 広報に関すること（学生課の所掌に関することを除く。）。 (2) 産学民連携テクノセンターに関すること。 (3) 情報公開に関すること。 (4) 事務情報処理に関する総括及び連絡調整に関すること。 (5) 事務用電算機室の管理運営に関すること。

（出典：久留米工業高等専門学校事務組織及び事務分掌規則の一部抜粋・編集）

資料３－３－①－３（2/3）

事務組織及び事務分掌

	(6) 事務電算化の企画・立案に関すること。 (7) 事務情報処理システムの導入に関すること。 (8) 開発又は調達された事務情報処理システムの維持管理に関すること。 (9) 事務用情報処理機器の運用に関すること。 (10) 事務情報処理の要員の養成に関すること。 (11) 事務情報処理の助言・指導に関すること。 (12) 企画情報係に係る調査統計その他諸報告に関すること。 (13) その他情報処理に必要と認められる事項に関すること。
財務係	(1) 予算及び決算に関すること。 (2) 予算執行状況の確認に関すること。 (3) 資金計画・管理に関すること。 (4) 共同研究・受託研究等の経理に関すること。 (5) 寄附金の受入れに関すること。 (6) 債権管理に関すること。 (7) 収入及び支出に関すること。 (8) 預り金等の出納に関すること。 (9) 学納金の徴収に関すること。 (10) 給与、旅費及び謝金等の支給に関すること。 (11) 所得税等の徴収に関すること。 (12) 現金、預金、貯金及びその他有価証券の管理に関すること。 (13) 会計（用度係及び施設係を除く。）に関する調査、統計その他報告に関すること。 (14) その他財務に関すること。
用度係	(1) 物品の管理、運用に関すること。 (2) 物品の調達、修理及び役務（以下「物品等」という。）の契約に関すること。 (3) 科学研究費及び委任経理金の物品等の契約に関すること。 (4) 物品の寄附受入に関すること。 (5) 自動車の配車及び管理に関すること。 (6) 不用物品の処分に関すること。 (7) 用度係に係る調査統計その他諸報告に関すること。 (8) その他用度に関すること。
施設係	(1) 工事の企画、設計及び検査に関すること。 (2) 工事の契約に関すること。 (3) 土地、建物及び工作物の維持保全管理に関すること。 (4) 電気、水道、ガス及び電話等の維持保全に関すること。 (5) 防火管理等に関すること。 (6) 構内の環境整備に関すること。 (7) 不動産に関すること。 (8) 宿舎に関すること。 (9) 施設係に係る調査統計その他諸報告に関すること。 (10) その他施設に関すること。

２．学生課

課長補佐	(1) 学生課の事務の総括及び連絡調整に関すること (2) 入学者の選抜に係る専門的事項の企画、立案及び実施に関すること。 (3) 教育課程の編成及び授業運営に係る専門的事項に関すること。 (4) 学生の課外活動の重要事項に関すること。 (5) 学生の生活支援の重要事項に関すること。 (6) その他学生課の所掌事務のうち、特に指定された重要な事務に関すること。
教務係	(1) 学生の募集及び入学者の選抜に関すること。 (2) 学生指導要録に関すること。 (3) 学生の出欠等に関すること。 (4) 学生の入学、進級及び卒業又は修了に関すること。 (5) 学生の退学、休学、復学、転科、転学及び除籍に関すること。 (6) 教育課程及び授業運営に関すること。 (7) 学生の修学指導に関すること。 (8) 学生の試験及び成績に関すること。 (9) 学生の課外教育に関すること。

（出典：久留米工業高等専門学校事務組織及び事務分掌規則の一部抜粋・編集）

資料３－３－①－３（3/3）

事務組織及び事務分掌

	(10) 研究生、聴講生及び科目等履修生に関すること。 (11) 学生の国際交流に関すること。 (12) 教務係に係る諸証明に関すること。 (13) 教育改善の事務に関すること。 (14) 教務係に係る調査統計その他諸報告に関すること。 (15) その他学生課の事務で他の係に属しない事項に関すること。
学生生活支援係	(1) 奨学生に関すること。 (2) 入学料、授業料及び寄宿料の免除又は徴収猶予に関すること。 (3) 学生の保健管理に関すること。 (4) 独立行政法人日本スポーツ振興センター等に関すること（現金出納に関することを除く。）。 (5) 学生の課外活動に関すること。 (6) 学生及び学生団体の指導監督に関すること。 (7) 学生の賞罰に関すること。 (8) 学生の諸証明に関すること（教務係及び寮生活支援係に関することを除く。）。 (9) 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関すること。 (10) 学生に対する職業指導及び就職斡旋に関すること。 (11) 学生便覧等の発行に関すること。 (12) 学生の旅客運賃割引証に関すること。 (13) 学生の宿泊研修に関すること。 (14) 学生生活支援係に係る調査統計その他諸報告に関すること。 (15) その他学生の厚生補導に関すること。
寮生活支援係	(1) 学生寮の管理運営に関すること。 (2) 寮生の入退寮に関すること。 (3) 寮生の生活指導に関すること。 (4) 寮生の厚生事業に関すること。 (5) 寮費の徴収及び支出に関すること（現金出納に関することを除く。）。 (6) 寮生の諸証明に関すること。 (7) 寮生の給食に関すること。 (8) 学生寮の教員宿日直に関すること。 (9) 外国人留学生に関すること。 (10) 寮生活支援係に係る調査統計その他諸報告に関すること。 (11) その他学生寮に関すること。
図書係	(1) 図書館資料の収集及び選択に関すること。 (2) 図書館資料の受入に関すること。 (3) 図書館資料の整理及び保存に関すること。 (4) 図書館資料の閲覧、貸出等利用に関すること。 (5) 図書館における利用指導、読書相談等に関すること。 (6) 学術文献等の収集及び提供に関すること。 (7) 図書館資料に係る予算の経理に関すること。 (8) 図書館資料の契約に関すること。 (9) 紀要の発行に関すること。 (10) 図書館及び図書館資料の広報に関すること。 (11) 図書館におけるＡＶ機器等の維持及び利用に関すること。 (12) 図書館の時間外開館及び一般開放に関すること。 (13) 図書館情報システムに関すること。 (14) 図書係に係る調査統計その他諸報告に関すること。 (15) その他図書館資料及び図書館に関すること。

（出典：久留米工業高等専門学校事務組織及び事務分掌規則の一部抜粋・編集）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

専門学科所属教員の87。3%が博士の学位を取得しており、一般科目担当教員についても56。5%が博士の学位を取得している。 教員の経歴については、専門学科所属教員のうち50。9%が民間企業・研究機関経験者であり、多様な経歴をもつ者で構成されている。

教員採用については公募制で、人事連絡委員会で公正に審議が行われ、内部昇格についても同様に人事連絡委員会で審議し、最終的には校長が決定している。

教育･研究活動全般に関する評価をする体制が整備され､実際に年２回評価を実施している。また、評価規則を全教員に公表している。

（改善を要する点）

該当なし。

（３）基準３の自己評価の概要

教育の目的を達成するため、本校には一般科目担当教員として23名、専門学科所属教員として55名、それぞれ専任教員を配置しており、必要に応じて適切に非常勤講師も配置している。いずれも高等専門学校設置基準を満たしている。また、一般科目の理科及び文科の教員並びに専門学科の教員は、本校の教育課程に沿ってバランスよく配置されている。

２専攻からなる本校専攻科は平成５年４月に設置されているが､科目担当教員は平成15年と平成20年に大学評価・学位授与機構の教員審査を受けている。これらの全教員が、専攻科の科目担当教員として認定されており、専攻科の教育目標を達成するための各科目に、それぞれ適切に配置されている。

教員組織は、均衡ある年齢構成に配慮されており、教員の博士の学位取得者は専門科目担当教員の87。3%、一般科目担当教員についても56。5%である。また、専門学科所属教員には多数の民間企業・研究機関経験者がおり、海外や国内の大学等で教育研究活動に従事した経験のある教員も多い。

教員の採用は公募制を取り、人事連絡委員会で審議する体制が整備されている。内部昇格に関しても同様の手順で公正に審議し、最終的には校長が決定する。本校独自の表彰制度があり、教員の教育研究活動の活性化を図っている。非常勤講師の任用については、高等専門学校設置基準に準拠して、学科長委員会で適切に審議する体制が整備されている。教員の教育研究活動に関する定期的な評価を行う目的で、各部署の責任者による評価を取り入れた評価体制が確立し、実際に評価を実施している。その評価規則は全教員に公表している。

事務､技術職員の定員削減が行われている中､本校では教育課程を展開するに必要な事務職員、技術職員などの教育支援者を適切に配置している。

基準４　学生の受入

（１）観点ごとの分析

観点４－１－①：　教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されているか。

（観点に係る状況）

準学士課程および専攻科課程のアドミッション・ポリシーは、平成17年度の学科長委員会（資料４－１－①－１）によって定められた。このアドミッション・ポリシーは、学校要覧、学生募集要項・入学案内、ホームページ、中学生向けパンフレット、専攻科パンフレットおよび中学生向けの学校説明会資料に記載し、本校教職員を含めて社会に広く周知している（資料４－１－①－２～資料４－１－①－７）。中学校への入試説明懇談会では学生募集要項･入学案内で説明している。また、平成24年度には229校の中学校を訪問して上記の資料を配布し、アドミッション・ポリシーについて説明している（別添資料４－１－①－８、４－１－①－９）。なお、求める学生像は入学希望者により分かりやすくするため、「こんな人は、この学科へ。」という形で中学生向けパンフレットに掲載している（資料４－１－①－１０）。

（分析結果とその根拠理由）

本校ではアドミッション・ポリシーを明確に定め、学校の教職員に周知している。その理由は、資料４－１－①－２～資料４－１－①－７の通り、アドミッション・ポリシーを定め、刊行物の配布やホームページなどにより周知しているからである。また、アドミッション・ポリシーは、将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されている。その理由は、資料４－１－①－２～資料４－１－①－７の通り、刊行物やホームページなどにより公表するとともに、資料４－１－①－１０に示す通り中学生向けパンフレットに、求める学生像を「こんな人は、この学科へ。」と掲載しているからである。

資料４－１－①－１　学科長委員会議事録

平成１７年度　第１０回
学 科 長 委 員 会 議 事 録

■日　　時　　平成１７年９月８日（木）　１３時３０分から１５時４０分
■場　　所　　小会議室
■出 席 者　　前田校長、馬越教務主事、松井学生主事、櫻木寮務主事
笹栗専攻科主事、綾部企画主事・松永・津田・東島・宮本各学科長
小川事務部長、樋口会計課長、青山学科長欠席・代理南里教授
陶山庶務課長欠席、牛尾学生課長欠席

委員会に先立ち、電気工学科青山学科長の南里教授代理出席について、校長より学科長委員会より、委員が出席できない場合ぜひとも代理出席させるように依頼があった。

■記録の確認
第９回学科長委員会議事録について確認があり、異議なく了承された。

■報告連絡事項
（略）

■ 審議事項
（略）

６　アドミッションポリシーの改正について（資料 2005-10-6）
教務主事からアドミッションポリシーの改正について審議依頼があった。募集要項に記載するもので技術等に意欲がある学生を増やしたい。このため入試運営委員会で審議し、各学科に持帰り検討して作成したものが（入試運営委員会案）である。審議の結果修正した（入試運営委員会修正案）にすることに決まった。アドミッションポリシーについては今後も検討していくことが確認された。

（略）

■ その他
（略）

（出典：平成１７年度 学科長委員会議事録）

資料４－１－①－２　アドミッション・ポリシー（学校要覧）

アドミッション・ポリシー

～ Admission Policy ～

■ 本科（準学士課程）　Associated Bachelor Course

An applicant to the associate bachelor course should be as follows

1．技術者になる意欲をもっている人
A person who is eager to become an engineer.
2．理数系の基礎学力が身についている人
A person who has a good grounding in science and mathematics.
3．自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
A person who has an independent mind and always follow the social rules.
4．他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人
A person who wants to talk to others to mutual understanding.

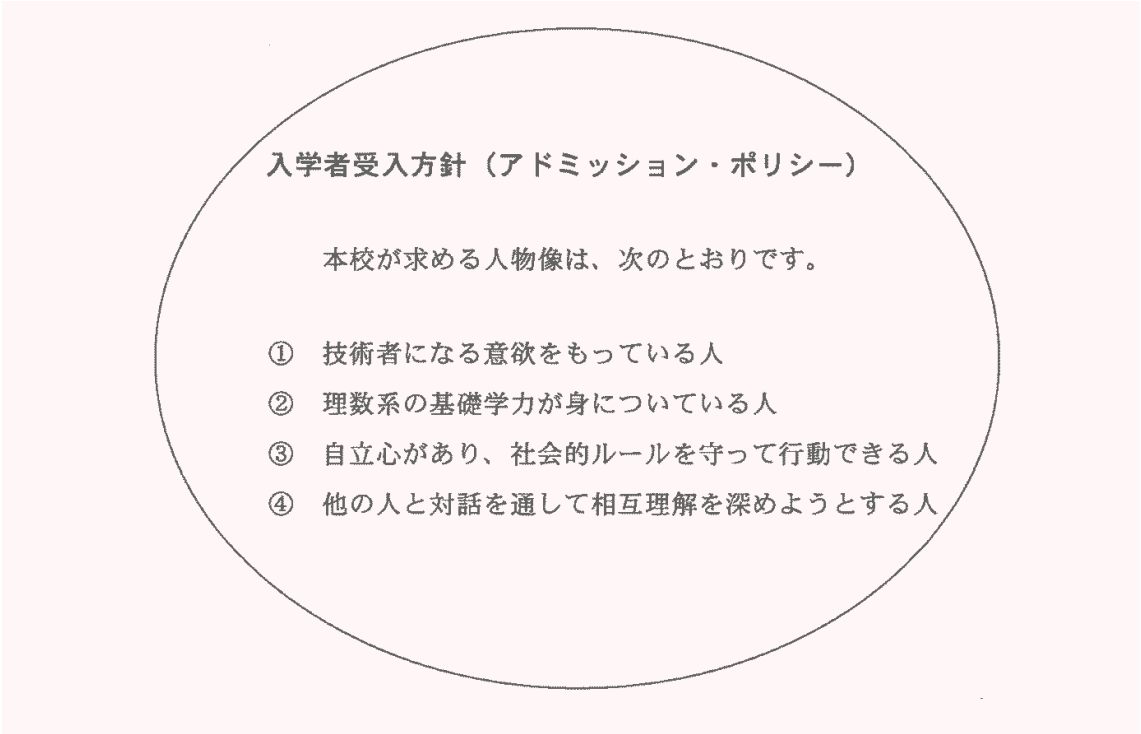
■ 専攻科（学士課程）　Bachelor Course

An applicant to the bachelor course should be as follows

1．科学技術に対する強い探究心をもち，積極的に取り組む人
A person who has a strong mind to study and research science/technology.
2．専門分野の基礎を修得している人
A person who has a good grounding in his/her major field.
3．社会性と倫理観を身につけている人
A person who fits into society and has a sense of responsibility.
4．基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人
A person who has basic communication skills.

（出典：平成２５年度 学校要覧）

資料４－１－①－３　アドミッション・ポリシー（学生募集要項・入学案内）



（出典：平成２５年度　学生募集要項・入学案内より抜粋）

資料４－１－①－４　アドミッション・ポリシー（ホームページ）



アドミッションポリシー　http://apollo.cc.kurume-nct.ac.jp/kikaku/AdmissionPolicy.html

アドミッション・ポリシー

～ Admission Policy ～

久留米高専は次のような人を求めています。

■ 本科（準学士課程）　Associated Bachelor Course

An applicant to the associate bachelor cource should be as follows

1. 技術者になる意欲を持っている人
   A person who is eager to become an engineer.
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
   A person who has a good grounding in science and mathematics.
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
   A person who has an independent mind and always follows the social rules.
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人
   A person who wants to talk to others to mutual understanding.

■ 専攻科（学士課程）　Bachelor Course

An applicantto the bachelorcourse should be as follows

1. 科学技術に対する強い探究心をもち，積極的に取り組む人
   A person who has a strong mind to study and research science / technology.
2. 専門分野の基礎を修得している人
   A person who has a good grounding in his / her majorfield.
3. 社会性と倫理観を身につけている人
   A person who fits into society and has a sense of responsibility.
4. 基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人
   A person who has basic communication skills.

[久留米高専トップページ]

Copyright(c) 2006-2007 Kurume National College of Technology.
All Right Reserved.

（出典：久留米高専ホームページより抜粋）

資料４－１－①－５　アドミッション・ポリシー（中学生向けパンフレット）

未来を担う技術者を育てます。

久留米工業高等専門学校は、昭和14(1939)年に(旧制)久留米高等工業学校として設立されました。その後、九州大学に包括された昭和24年(1949)年の九州大学久留米工業専門学校、昭和33(1958)年の久留米工業短期大学を経て、昭和39(1964)年、国立久留米工業高等専門学校が誕生しました。5年間でしっかりした基礎学力を身につけ、専門的な知識及び技術を習得することにより、産業界への就職の道と、本校専攻科への入学あるいは大学への編入学の道が開かれています。充実した環境の中で、未来を担う技術者を育てます。

一般・専門教育、共に充実したカリキュラム。バランスのとれた人間性を大切にします。

久留米高専では、英語や数学などの一般科目と学科ごとの専門科目とを5年間で学びます。広い視野を持ち、創造性に富んだ個性豊かな人間を育てるため、各学科のカリキュラムを充実させています。一般科目では、数学・物理・化学などの専門に繋がる基礎科目を充実させているほか、国語・社会・英語などの教育を通してバランスのとれた人間形成を目指します。専門科目では、教室での専門的講義のほかに、実験・実習・卒業研究などを取り入れています。また、低学年から各学科ごとに情報関連科目に取り組んでいます。

充実した学生生活。

久留米高専では、文化系、体育系のクラブ活動が盛んです。多くの部、同好会、愛好会があります。これらのクラブ活動を通じて仲間とコミュニケーションをとることにより友情が生まれていきます。また、学生会活動も活発で、高専祭、音楽祭、クラスマッチなどの行事を自主的に企画・運営していきます。さらにプログラミングコンテストやロボットコンテストなどに挑戦することもできます。これらのコンテストでは全国的にも優秀な成績を収めています。

教育理念

自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、
社会に貢献できる技術者の育成

アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

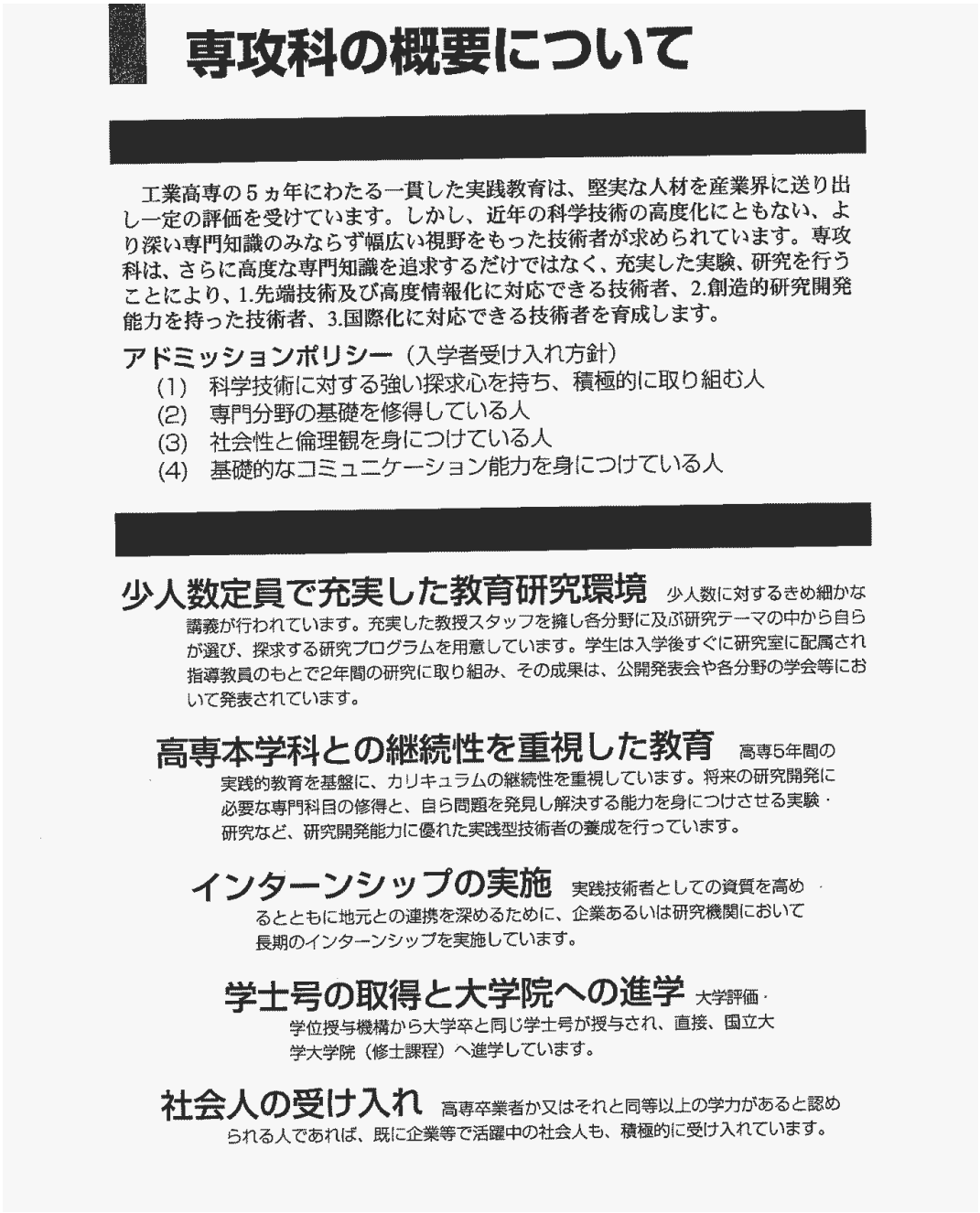
(1)技術者になる意欲をもっている人
(2)理数系の基礎学力が身についている人
(3)自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
(4)他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

教育の特徴

●基礎科目を重視し、社会人として必要な一般教養と豊かな人間性を持った技術者を育てます。
●専門教育では、教室での専門的講義のほかに、実験・実習・卒業研究などを取り入れて、実践的技術者を育てます。
●大学受験にとらわれず、自分の目標に向かって5年間じっくりと勉強できます。
●企業での就業体験を希望する学生には、インターンシップ(工場実習)の機会があります。
●学生の自主性を尊重する校風の中、責任感と自立心を持った学生を育てます。
●高専5年間を卒業した後、さらに専門的な勉強をするための教育課程として2年間の専攻科があります。専攻科修了生は、大学卒業者と同じ「学士」の学位を取得できます。

（出典：平成２４年度中学生向け学校パンフレットより抜粋）

資料４－１－①－６　アドミッション・ポリシー（専攻科パンフレット）



専攻科の概要について

工業高専の５ヵ年にわたる一貫した実践教育は、堅実な人材を産業界に送り出し一定の評価を受けています。しかし、近年の科学技術の高度化にともない、より深い専門知識のみならず幅広い視野をもった技術者が求められています。専攻科は、さらに高度な専門知識を追求するだけではなく、充実した実験、研究を行うことにより、1.先端技術及び高度情報化に対応できる技術者、2.創造的研究開発能力を持った技術者、3.国際化に対応できる技術者を育成します。

アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

(1)　科学技術に対する強い探求心を持ち、積極的に取り組む人
(2)　専門分野の基礎を修得している人
(3)　社会性と倫理観を身につけている人
(4)　基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人

少人数定員で充実した教育研究環境　少人数に対するきめ細かな講義が行われています。充実した教授スタッフを擁し各分野に及ぶ研究テーマの中から自らが選び、探求する研究プログラムを用意しています。学生は入学後すぐに研究室に配属され指導教員のもとで2年間の研究に取り組み、その成果は、公開発表会や各分野の学会等において発表されています。

高専本学科との継続性を重視した教育　高専5年間の実践的教育を基盤に、カリキュラムの継続性を重視しています。将来の研究開発に必要な専門科目の修得と、自ら問題を発見し解決する能力を身につけさせる実験・研究など、研究開発能力に優れた実践型技術者の養成を行っています。

インターンシップの実施　実践技術者としての資質を高めるとともに地元との連携を深めるために、企業あるいは研究機関において長期のインターンシップを実施しています。

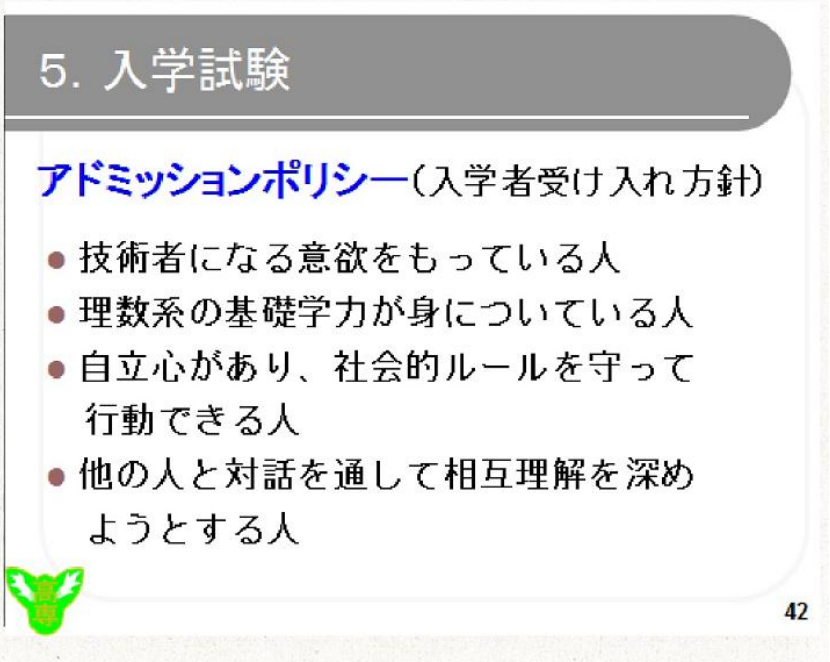
学士号の取得と大学院への進学　大学評価・学位授与機構から大学卒と同じ学士号が授与され、直接、国立大学大学院（修士課程）へ進学しています。

社会人の受け入れ　高専卒業者か又はそれと同等以上の学力があると認められる人であれば、既に企業等で活躍中の社会人も、積極的に受け入れています。

（出典：平成２４年度 専攻科パンフレットより抜粋）

資料４－１－①－７　平成 24 年度学校説明会資料





（出典：平成２４年度　学校説明会　説明資料）

資料４－１－①－１０　中学生向けパンフレット

Department of Mechanical Engineering

機械工学科





教育目的

ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得し、
創造性豊かで国際的視野に立った実践的技術者を育成します。



ものづくり技術を学ぶ

商品づくりのための工学教育を行います。
ものづくりに必要な基礎能力として、
設計製図・デザイン・制御情報などの技術を学びます。

創造性豊かな機械技術者の育成

自動車、航空・宇宙、各種機器、ロボット、エネルギー・環境など、
広範な産業の未来を支える創造性豊かな機械技術者を育成します。



幅広い応用分野

生産加工や材料強度、熱や流体などの専門技術を学び、幅広い分野に適用できる
技術開発能力や実務能力を備えた国際的に適応できる技術者を育てます。

こんな人は、この学科へ。

◎自動車やバイクが好きだ。
◎ロボットやエネルギーをつくりたい。
◎環境にやさしい機械をつくりたい。
◎飛行機やロケットはなぜ飛ぶのだろう？

主な就職先

三菱重工業	トヨタ自動車九州	中部電力
本田技研工業	富士重工業	セイコーエプソン
第一精工	小松製作所	東芝
牧野フライス製作所	IHI マリンユナイテッド	三井造船
山九	京セラ	東海旅客鉄道

（出典：平成２４年度 中学生向けパンフレット）

観点４－２－①：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

本校では、全ての選抜について、その選抜方法をアドミッション・ポリシーに沿って適切に定め、募集要項に明記している（資料４－２－①－１）。また、推薦入学では志願調書（資料４－２－①－２）をアドミッション・ポリシーから評価している。各選抜方法の実際の運用は、入学試験運営委員会で審議した実施要領に従って運営している（別添資料４－２－①－３）。

資料４－２－①－１　（選抜の方法（学生募集要項・入学案内））

・推薦による入学者の選抜

６．選 抜 方 法

調査書等提出された書類及び適性検査（数学）・面接検査をもとに、総合的に判定します。

７．適性検査（数学）及び面接検査の日時・場所

期　　日	検 査 場	集合時刻	検査時間	
平成２５年 １月１９日(土)	久留米工業高等専門学校	１０時	適性検査 (数学)	１０時２５分～ １１時１０分
			面接検査	１２時～（個人面接）

注：推薦による選抜の検査場は、学力による選抜の検査場と違い、本校のみであるので注意してください。

・学力による入学者の選抜

５．選 抜 方 法

学力検査は、理科、英語、数学、国語及び社会の５教科について筆記試験を行い、各教科100点満点の合計500点満点とします。

学校長から提出された調査書の内申点は、各学年９教科の評定（５段階評価）の合計135点満点とします。

学力検査及び学校長から提出された調査書をもとに総合的に判定します。

６．学力検査の日時及び検査場

期　　日	教　科	時　　間	検　　査　　場
平成25年 ２月24日(日)	理　科	9時30分～10時20分	◆ 久留米検査場 久留米工業高等専門学校 ◆ 福岡検査場 代々木ゼミナール福岡校
	英　語	10時40分～11時30分	
	数　学	11時50分～12時40分	
	国　語	13時30分～14時20分	
	社　会	14時40分～15時30分	

（出典：平成２５年度 学生募集要項・入学案内）

資料４－２－①－２　推薦選抜　志望調書

推薦選抜 志望調書

		受験番号	※
ふりがな		第１志望学科	学科
氏　名		出身中学校	中学校
		平成　年　月　日生（男・女）	

1. あなたが、志望する学科で勉強したいこと、および目指したい技術者の姿について、具体的に書いてください。（500字以内、横書き）

・次ページの注意事項をよく読んでください。次ページへ続きます。

（出典：平成２５年度年度 学生募集要項・入学案内）

（分析結果とその根拠理由）

本校では、アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受け入れ方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されている。その理由は、資料４－２－①－１に示すように、アドミッション・ポリシーに沿って選抜方法を定め、各選抜方法の実際の運用は別添資料４－２－①－３に示すように入学試験運営委員会で審議した実施要領にしたがって運営しているからである。

観点４－２－②：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れが実際に行われているかどうかは、入学試験運営委員会で主に検証を行い、その結果を入学者選抜の改善に役立てている。例えば、準学士課程推薦選抜では、平成20年度までは面接および作文で評価を行っていたが（資料４－２－②－１）、推薦入学者の数学能力を確保する目的で、準学士課程推薦選抜試験を面接および適性検査（数学）に変更するように入学試験運営委員会で決定し（別添資料４－２－②－２）、平成21年度から実施している（資料４－２－②－３）。さらに、入試と入学後の成績の関係の分析も行っている。（資料４－２－②－４）。

（分析結果とその根拠理由）

本校では、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れが実際に行われているかどうかを検証するための取り組みが行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てている。その理由は、別添資料４－２－②－２に示すように、入学試験運営委員会で主に検証を行い、その結果を資料４－２－②－３に示すように改善に役立てているからである。

資料４－２－②－１　平成 20 年度学生募集要項・入学案内

6．選抜方法

調査書等提出された書類及び作文・面接検査をもとに、総合的に判定する。

7．作文及び面接の日時・場所

期　日	検査場	集合時刻	検査時間	
平成２０年 １月１９日(土)	久留米工業高等専門学校	１０時	作文	１０時２０分～ １１時１０分
			面接	１２時～（個人面接）

注：推薦による選抜の検査場は、学力による選抜の検査場と違い、本校のみであるので注意すること。

出典：平成 20 年度学生募集要項・入学案

資料４－２－②－３　平成 21 年度学生募集要項・入学案内

6．選抜方法

調査書等提出された書類及び適性検査（数学）・面接検査をもとに、総合的に判定する。

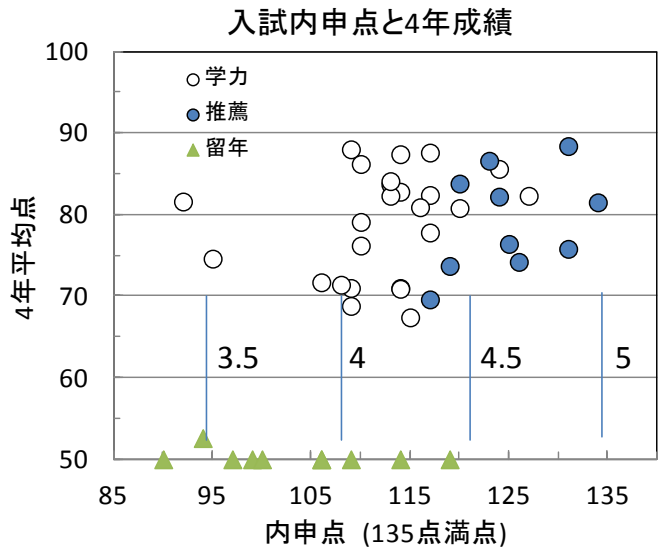
7．適性検査（数学）及び面接検査の日時・場所

期　日	検査場	集合時刻	検査時間	
平成２１年 １月１７日(土)	久留米工業高等専門学校	１０時	適性検査 (数学)	１０時２５分～ １１時１０分
			面接検査	１２時～（個人面接）

注：推薦による選抜の検査場は、学力による選抜の検査場と違い、本校のみであるので注意すること。

出典：平成 21 年度学生募集要項・入学案内

資料４－２－②－４　入試と入学後の成績の検討例



出典：平成 25 年度第１回教員会議説明資料

観点４－３－①：　実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われる等、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

（観点に係る状況）

過去数年の入学辞退者数の推移を勘案して、準学士課程各学科の定員 40 名に対して、平成 23 年度までは毎年 45 名程度を合格させてきた。しかし、入学辞退者が少ないことを受け、平成 23 年度の入学試験運営委員会において合格者を若干少なくするように決定し、以降は毎年 42 名程度を合格させてきた（資料４－３－①－１、別添資料４－３－①－２）。入学辞退者は、毎年各学科で１～３名程度いるが、実入学者数は、定員に対してほぼ同等となっている。入学手続き段階で入学辞退者が多く定員割れを起こした場合には、追加合格者を発表し、すみやかに入学手続きを行うことにしている。したがって、毎年、各学科の定員を若干上回った実入学者数となっている。

専攻科課程では、毎年、両専攻とも定員以上の実入学者となっているが（資料４－３－①－１）、これは、専攻科進学に対する学生のニーズに対応したものであり、入学後の教育に関して専攻科の教育体制がそれだけの入学者にも十分対応できるような体制にあるという実情を反映しており、教員数、研究施設・設備などには全く支障はない。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程については、実入学者数が、入学定員を大幅に超える、または大幅に下回る状況になっていない。これは、資料４－３－①－１に示す通りである。専攻科課程においては実入学者が定員を超えているが、教員数、研究施設・設備などには全く支障はない。

資料４－３－①－１　過去５年間の入学定員数と実入学者数

過去5年間の入学定員数と実入学者数

準学士課程

年　度	学　科	入学定員(名)	実入学者数(名)
平成21年度	機械工学	40	45
	電気電子工学	40	45
	制御情報工学	40	43
	生物応用化学	40	42
	材料学	40	44
平成22年度	機械工学	40	45
	電気電子工学	40	43
	制御情報工学	40	44
	生物応用化学	40	43
	材料学	40	43
平成23年度	機械工学	40	43
	電気電子工学	40	42
	制御情報工学	40	42
	生物応用化学	40	43
	材料学	40	43
平成24年度	機械工学	40	42
	電気電子工学	40	40
	制御情報工学	40	41
	生物応用化学	40	40
	材料学	40	41
平成25年度	機械工学	40	42
	電気電子工学	40	41
	制御情報工学	40	42
	生物応用化学	40	42
	材料学	40	41

専攻科課程

年　度	専　攻	入学定員(名)	実入学者数(名)
平成21年度	機械・電機システム工学	12	26
	物質工学	8	16
平成22年度	機械・電機システム工学	12	22
	物質工学	8	19
平成23年度	機械・電機システム工学	12	33
	物質工学	8	15
平成24年度	機械・電機システム工学	12	21
	物質工学	8	11
平成25年度	機械・電機システム工学	12	18
	物質工学	8	13

出典：学生課作成

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）　アドミッション・ポリシーに沿って、準学士課程及び専攻科課程ともに適切な入学者選抜が実施され、入学辞退者は少なく、実入学者数が定員に対して適正である。

（改善を要する点）　該当なし。

（３）基準４の自己評価の概要

教育目的に沿って、準学士課程入学者、編入学者及び専攻科課程入学者に対して、明確なアドミッション・ポリシーが定められており、学校要覧、学校パンフレット、学生募集要項・入学案内などの各種印刷物やホームページなどに記載し、本校構成員や社会や対して周知・公表している。

アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜を実施しているが、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れが実際に行われているかどうかを検証し、準学士課程の推薦選抜では、推薦入学者の数学能力を確保する目的で、従来の面接および作文の試験を、面接および適性検査（数学）に変更した。

準学士課程及び専攻科課程の実入学者数が、毎年それぞれの定員に対して、大幅超過となったり、大幅に下回ったりすることはなく、入学定員と実入学者数との関係は適正である。

基準５　教育内容及び方法

（１）観点ごとの分析

＜準学士課程＞

観点５－１－①：教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程の教育課程は、人間の素養の涵養を図るための一般基礎科目（人文社会科学系科目、自然科学系科目）と、実践的技術者育成を目的とした専門科目に分類される。低学年の人文社会科学系科目では、中等教育後期課程に準じた教育内容を主に教授している。４年及び５年には、大学教養課程に相当する人文社会科学系科目及び第二外国語系科目を一般選択科目として開講している。また、人文社会科学系科目や専門科目に繋がる自然科学系科目は、各学科とも低学年を中心に配置され、各学科とも学年進行とともに専門科目の比重が高くなる配置となっている（資料５－１－①－１）。各学科の専門科目の体系性については、教育課程系統図（資料５－１－①－２）に示している。特に、実践的技術者育成の観点から、各学科ともに実験･実習科目を低学年より配置し、専門科目の内容を実験･実習を通じて理解できるように配慮している。

（分析結果とその根拠理由）

学年ごとの授業科目の配置は、教育目的に沿って、低学年では一般基礎科目を、高学年になるに従い専門科目を中心に体系的に配置している。また、各学科とも実践的技術者育成のために、実験･実習科目を配置している。

資料５－１－①－１

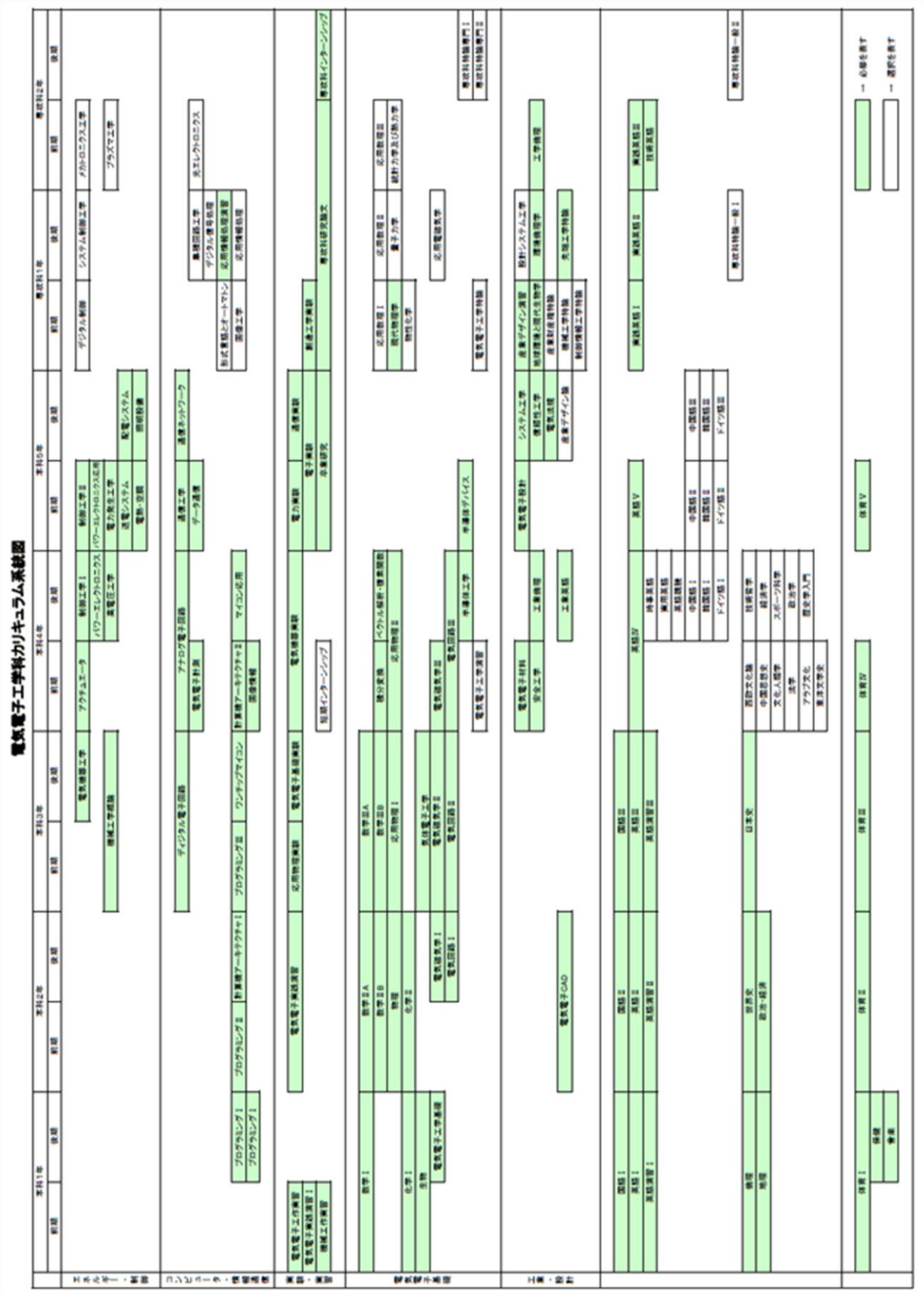
学年毎の一般科目と専門科目の単位数

修得単位数総計

一般	必修科目	75	28	28	24	28	16	16	2	4	4	0
	選択科目	3 以上							6	以上		
	小計	78 以上	28	28	24	28	16	16	16	以上		
専門	必修科目	89	6	6	10	10	18	20	26	28	28	22
	選択科目	0 以上										
	小計	89 以上	6	6	10	10	18	20	26	28	28	22
総修得単位数		167 以上	34	34	34	38	34	36	120	以上		

（出典：平成 25 年度シラバス　電気電子工学科１年教育課程表の修得単位数総計）

資料５－１－①－２　　教育課程における体系的編成の例



（出典：平成 25 年度シラバス　電気電子工学科教育課程系統図）

観点５－１－②：教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

学生の進路に配慮して、４年、５年の専門必修科目では、各学科において進学にも就職にも対応できる科目配置を行っている（資料５－１－①－２）。また、４年、５年における一般選択科目では、人文社会科学系科目を多く開講しており、その中でⅡ群として第二外国語系科目を設置しており、学生の国際社会への関心について配慮している（資料５－１－②－１）。また、３年に編入学する外国人留学生に対しては特例規則（資料５－１－②－２）に沿った配慮を、４年に編入学する高等学校からの編入生に対しては教育課程表に専門概論科目（資料５－１－②－３）を配置している。さらに、４年、５年のいくつかの専門科目を学修単位とし、自学自習の促進、大学との単位互換制度に備えている（資料５－１－②－３）。

社会からの要請などに対応した教育課程の編成として、企業・公的研究機関で実習を行う短期インターンシップを実施しており、実習内容の発表会の実施（資料５－１－②－４）及び報告書の提出をもって、単位を認定している。本校では、準学士課程４・５年及び専攻科課程からなる各学科に対応した５つのＪＡＢＥＥ教育プログラムを持っており、準学士課程と専攻科課程の連携にも配慮している（資料５－１－②－５）。

（分析結果とその根拠理由）

編入学生及び留学生に対しては、編入学関連科目を開講している。学生のニーズや社会からの要請に応じ、人文社会科学科目及び語学科目を合わせて２７科目の選択科目を開講するとともに、夏季休業中に短期インターンシップを実施している。５つのＪＡＢＥＥ教育プログラムも持つことにより、準学士課程と専攻科課程の連携にも配慮している。

資料５－１－②－１

一般選択科目における人文社会科学系科目と第二外国語系科目

選択科目	Ⅰ群（人文社会科学系）	西欧文化論	1				2				
		中国思想史	1				2				
		文化人類学	1				2				
		日本思想史	1				2				
		法学	1				2				2単位以上修得（開講科目は変更する場合がある、修得できなかった科目は「(2)」で表記されている時期に履修できる）
		アラブ文化	1				2	(2)		(2)	
		東洋文学史	1					2		(2)	
		技術哲学	1					2		(2)	
		経済学	1					2		(2)	
		スポーツ科学	1					2		(2)	
		政治学	1					2		(2)	
		歴史学入門	1					2		(2)	
	Ⅱ群（語学系）	時事英語	1					2		(2)	1単位以上修得（開講科目は変更する場合がある、修得できなかった科目は「(2)」で表記されている時期に履修できる）
		実用英語	1					2		(2)	
		英語講読	1					2		(2)	
		中国語Ⅰ	1					2		(2)	
		中国語Ⅱ	1						2		
		中国語Ⅲ	1							2	
		韓国語Ⅰ	1					2		(2)	
		韓国語Ⅱ	1						2		
		韓国語Ⅲ	1							2	
		ドイツ語Ⅰ	1					2		(2)	
		ドイツ語Ⅱ	1						2		
		ドイツ語Ⅲ	1							2	
	選択科目修得小計		3 単位					6		以上	
	一般科目修得合計		78 単位	28	28	24	28	16	16	以上	

（出典：平成 25 年度シラバス　電気電子工学科４年一般選択科目教育課程表）

資料５－１－②－２

外国人留学生への配慮

久留米工業高等専門学校外国人留学生特例規則

（昭和５９年　４月　１日）

（目的）
第１条　この規則は、久留米工業高等専門学校学則第４３条の規定に基づき、久留米工業高等専門学校学校外国人留学生（以下「留学生」という。）に関する特例を定めることを目的とする。
（入学）
第２条　留学生は、定員外とすることができる。
（教育課程）
第３条　留学生の教育課程は、特別に編成することができる。
（授業料等）
第４条　国費留学生については、授業料、入学料及び検定料は徴収しない。
（留学生指導教員）
第５条　留学生に対し、学習及び生活上必要な指導、助言を与えるため、留学生指導教員を置く。
２　留学生指導教員は、当該学科長の推薦に基づき、校長が委嘱する。
（留学生相談員）
第６条　留学生の学習上の援助及び日常生活上の助言等を行うため、留学生相談員を置く。
２　留学生相談員は、原則として留学生が所属する学年、学科の学生のうちから当該学科長の推薦に基づき、校長が委嘱する。
３　留学生相談員は、必要に応じて留学生指導教員に連絡し、その指示を受けるものとする。
（住居）
第７条　留学生は、原則として学生寮に居住するものとする。この場合には、前条の留学生相談員は原則として寮生から選出するものとする。
（雑則）
第７条　この規則に定めるもののほか、必要な事項が生じた場合は、外国人留学生委員会の議を経て校長が決定する。
附　則
この規則は、昭和５９年　４月　１日から施行する。
附　則
この規則は、平成１９年　４月　１日から施行する。
附　則
この規則は、平成１９年　５月１６日から施行し、平成１９年　４月　１日から適用する。
附　則
この規則は、平成２４年　４月　１日から施行する。

（出典：久留米工業高等専門学校外国人留学生特例規則）

資料５－１－②－３

専門概論科目による４年編入学生への配慮、学修単位の導入（表の備考欄に記載）

専門科目　　電気電子工学科

		授業科目	単位数	毎週授業時数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	5年 前	5年 後	備考
必修科目	電気電子基礎	電気電子工学基礎	1		2									
		電気磁気学Ⅰ	1				2							
		電気磁気学Ⅱ	2					2	2					
		電気磁気学Ⅲ	1							2				
		電気回路Ⅰ	1				2							
		電気回路Ⅱ	2					2	2					
		電気回路Ⅲ	2							2	2			
		気体電子工学	2					2	2					
		半導体工学	1								2			
		半導体デバイス	1									2		
		応用物理Ⅰ	2					2	2					
		応用物理Ⅱ	2							2	2			
		積分変換	2							4				
		ベクトル解析・複素関数	2								4			
	エネルギー・制御	電気機器工学	1						2					
		アクチュエータ	1							2				
		パワーエレクトロニクス	1								2			
		パワーエレクトロニクス応用	1									2		
		高電圧工学	2								2			学修単位
		電力発生工学	1									2		
		送電システム	1									2		
		配電システム	1										2	
		電熱・空調	1									2		
		照明設備	1										2	
		機械工学概論	2					2	2					
		制御工学Ⅰ	1								2			
		制御工学Ⅱ	1									2		
	コンピュータ・情報通信	プログラミングⅠ	2	2	2									
		プログラミングⅡ	1				2							
		プログラミングⅢ	1					2						
		計算機アーキテクチャⅠ	1			2								
		計算機アーキテクチャⅡ	1							2				
		ディジタル電子回路	2					2	2					
		アナログ電子回路	2							2	2			
		ワンチップマイコン	1						2					
		マイコン応用	1								2			
		画像情報	1							2				
		電気電子計測	2							2				学修単位
		通信工学	1									2		
		データ通信	1									2		
		通信ネットワーク	1										2	
	工業・設計	安全工学	1							2				
		工業倫理	1								2			
		電気法規	1										2	
		信頼性工学	1										2	
		システム工学	1										2	
		工業英語	1								2			
		電気電子CAD	2			2	2							
		電気電子材料	1							2				
		電気電子設計	1									2		
	実験・実習	電気電子工作実習	1	2										
		機械工作実習	1		2									
		創造実験	1			2								
		化学実験	2			4								
		応用物理実験	2					4						
		電気電子基礎実験	2						4					
		電気機器実験	4							4	4			
		電力実験	2									4		
		電子実験	2									2	2	
		通信実験	1										2	
		卒業研究	6									4	8	
	必修科目小計		89	4	6	10	8	18	20	28	28	28	24	
選択科目		短期インターンシップ	1							2				
		電気電子工学演習	1							2				
		電気電子工学概論	1							2				4年編入生のみ履修可
		産業デザイン論	1										2	
	選択科目小計		0 以上											
専門科目修得合計			89 以上	4	6	10	8	18	20	28	28	28	24	

（出典：平成 25 年度シラバス　電気電子工学科４年教育課程表）

資料５－１－②－４

短期インターンシップ

平成24年度 電気電子工学科 短期インターンシップ報告会

日時：平成24年9月7日（金）15:00～17:40　会場：D4教室　（司会：山口　崇）

発表	発表者		実習先		時刻（目安）
番号	番号	氏名	コード	名称	
1	39		7	大阪ガス株式会社	15:00
2	30		8	富士電機株式会社 東京事業所	
3	44		11	京セラ株式会社 鹿児島国分工場	
4	19		24	チクシ電気株式会社 佐賀工場	
5	21		24	チクシ電気株式会社 佐賀工場	15:15
6	26		24	チクシ電気株式会社 佐賀工場	
7	9		31	株式会社フランソア	
8	15		34	株式会社 西島製作所	
9	35		36	株式会社LIXIL 有明工場	15:30
10	33		39	NHK福岡放送局	
11	1		41	日米ゴム株式会社	
12	12		51	三洋化成工業株式会社 名古屋工場	
					（時間調整）
13	28		53	株式会社日立エレクトリックシステムズ	15:55
14	24		63	三菱電機ビルテクノサービス株式会社	
15	20		65	パナソニック エコシステムズ株式会社	
16	25		72	サンリツオートメイション株式会社	
17	11		73	株式会社 佐電工	16:10
18	14		73	株式会社 佐電工	
19	38		82	京セラ株式会社 鹿児島川内工場	
20	10		84	積水武蔵化工株式会社	
21	42		84	積水武蔵化工株式会社	16:25
22	16		88	住友化学株式会社 千葉工場	
23	3		91	株式会社モリタ製作所	
24	41		93	ソーラーフロンティア株式会社 国富工場	
					（時間調整）
25	43		97	東芝メディカルシステムズ株式会社 福岡サービスセンタ	16:50
26	29		120	住友精化株式会社 別府工場	
27	32		121	パナソニック システムネットワークス株式会社 佐賀事業場	
28	18		123	九州武蔵精密株式会社	
29	22		134	矢崎総業株式会社	17:05
30	2		137	中部電力株式会社	
31	23		142	九州旅客鉄道株式会社	
32	6		148	富士通株式会社	
33	13		148	富士通株式会社	17:20
34	7		150	株式会社オプティム	
35	5		152	日本ドライフーズ株式会社	

※発表者1名につき発表時間は2分30秒とする。発表後に質問1件程度を受ける。

（出典：平成 24 年度　電気電子工学科４年　短期インターンシップ報告会プログラム）

資料５－１－②－５

学科毎の JABEE 教育プログラム



機械工学プログラム



電気電子工学プログラム



制御情報工学プログラム



生物応用化学プログラム



材料工学プログラム

（出典：平成 16 年度　JABEE 認定証）

観点５－２－①：教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり､それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

授業形態は講義、演習、実験、実習に大別される。低学年では各学科共通で一般教養及び基礎学力の充実を図るための講義科目が多く配置されている。演習、実験、実習については各学科とも低学年から高学年までバランスよく設定されている（資料５－２－①－１）。専門科目については、通常の実験・実習に加え、講義の中に実験・実習を取り入れた科目（資料５－２－①－２）や、専門科目に英語を取り入れた科目もある（資料５－２－①－３）。また、多くの教室には、液晶プロジェクターとスクリーンが整備されており、コンピューターを活用した講義も実施されている（資料５－２－①－４）。さらに、ＰＢＬの要素を取り入れた授業も行っている（資料５－２－①－５）。

（分析結果とその根拠理由）

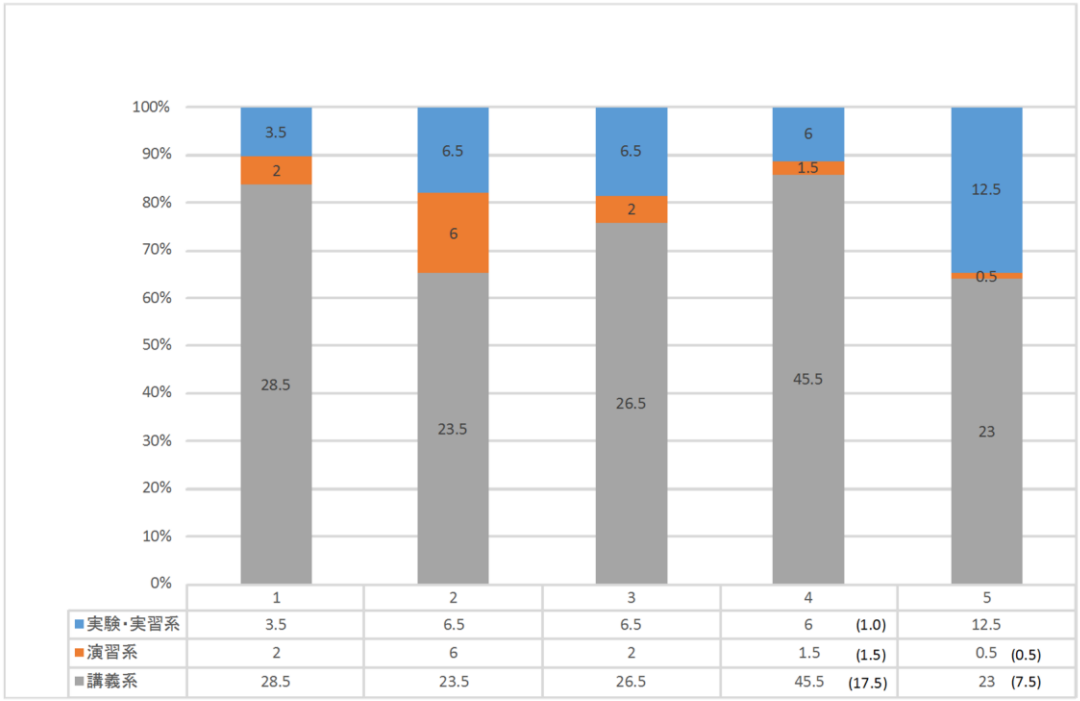
教育の目的に照らして講義、演習、実験、実習がバランス良く配置されており、講義の中にも実験・実習を取り入れた講義、専門科目に英語を取り入れた講義、コンピューターを活用した講義など授業方法についても工夫されている。

資料５－２－①－１

講義、演習、実験、実習の授業形態のバランス

	1年	2年	3年	4年	5年
実験･実習系	3.5	6.5	6.5	6 (1.0)	12.5
演習系	2	6	2	1.5 (1.5)	0.5 (0.5)
講義系	28.5	23.5	26.5	45.5 (17.5)	23 (7.5)

*集計単位は単位数。括弧は選択科目の単位数で、内数。



	1	2	3	4	5
■実験･実習系	3.5	6.5	6.5	6 (1.0)	12.5
■演習系	2	6	2	1.5 (1.5)	0.5 (0.5)
■講義系	28.5	23.5	26.5	45.5 (17.5)	23 (7.5)

（出典：平成 25 年度電気電子工学科１年シラバスより集計）

資料５－２－①－２

実験・実習を取り入れた講義

平成25年度　シラバス　授業計画

パワーエレクトロニクス応用

【Applications of Power Electronics】

5年電気電子工学科

担当教員名	宮崎　浩一	シラバスコード	5E04
科目情報	前期 専門科目 必修科目 講義 1単位	授業時数	30
授業の目的	直流を大きさの異なる直流に変換するためのDC-DCコンバータ、直流を交流に変換するためのインバータ、交流の電力や周波数の変換を行うための交流電圧調整回路やサイクロコンバータの原理と特性を学ぶ。さらに、各自でパワーエレクトロニクス回路を製作して動作を確認することで、理解を深める。		
到達目標	1．交流や直流の電力変換回路の動作原理を説明でき、電圧電流の計算ができる。 2．インバータの動作原理を説明でき、電圧電流の計算ができる。 3．パワーエレクトロニクス回路を製作できる。	JABEE プログラム目標	A-1 A-2
評価方法	定期試験（中間試験＋期末試験）60%、課題レポート20%、製作回路20%を目安として評価する。 再試験は各試験につき原則１回実施し、100点満点で60点以上を60点とする。 評価基準：60点以上を合格とする。		
授業の進め方と履修上の注意	教科書やプリントを用いて講義を行う。また、理解度を確認するために、演習問題などの課題を与える。さらに、理解を深めるために、各自パワーエレクトロニクス回路を製作して動作を確認する。 関連科目：電気回路、デジタル電子回路、アナログ電子回路、アクチュエータ、制御工学、 パワーエレクトロニクス		
テキストおよび参考図書	教科書：野村弘・藤原憲一郎・吉田正伸著，PSIMで学ぶ基礎パワーエレクトロニクス，電気書院 参考書：古橋武著、パワーエレクトロニクスノート、コロナ社		

	学習内容
1	降圧チョッパ
2	昇圧・昇降圧チョッパ
3	共振形コンバータ
4	スイッチング制御回路の製作
5	降圧チョッパ回路の製作
6	電圧形インバータ
7	電流形インバータ
8	インバータの出力電圧制御法
9	PWMインバータ
10	三相インバータ
11	インバータによる交流電動機制御
12	インバータ回路の製作
13	交流電圧調整回路
14	サイクロコンバータ
15	電動機の可変速駆動

（出典：平成 25 年度シラバス　電気電子工学科５年「パワーエレクトロニクス応用」）

資料５－２－①－３

英語を取り入れた専門科目の講義

平成25年度　シラバス　授業計画

マイコン応用

【Microcomputer Applications】

4年電気電子工学科

担当教員名	池田　隆	シラバスコード	4E15
科目情報	後期　専門科目　必修科目　講義　1単位	授業時数	30
授業の目的	コンピュータの知識をもとに、各種の応用機器について理解を深め、マイクロコンピュータ（マイコン）を各種機器や計測装置に応用し基本的なシステム構成ができるようにする。マイコン装置による計測や制御に使用するセンサ活用の基礎能力を修得する。		
到達目標	1．マイクロコンピュータを利用した簡単な機器の仕組みを説明できる。 2．マイクロコンピュータとセンサを組み合わせた基本回路の利用ができる。 3．アイデアを簡単なマイコン装置を用いて実現できる。	JABEE ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ目標	B-1 B-2
評価方法	中間試験50[%]、期末試験50[%]の割合で100点満点評価し60点以上を合格とする。 再試験は各試験につき1回行う。総合評価に対する再試験は全範囲とし１回実施する。 再試験は100点満点で60点以上を合格とし評点は60点とする。		
授業の進め方と履修上の注意	ワンチップマイコン、電気電子計測、計算機アーキテクチャⅡ、アナログ電子回路、ディジタル電子回路、プログラミングなどの知識を総合して、簡単なマイコンシステムの提案ができるようにする。まず基本装置を用いて回路構成、インターフェース機能の学習を経てテストプログラムの動作を理解する。次に各種センサーについて学習し種々のマイコン装置への応用能力を養成する。その後電子回路CADを活用したマイコン装置設計例に発展させる。半導体の英文規格資料も使用し、英語による特別講義の実施と併せ、技術者としてのコミュニケーション能力養成についても配慮する。		
テキストおよび参考図書	教科書：センシング入門　西原 主計編　河原崎 徳之他共著、オーム社 教　材：各種半導体規格資料（英語）、配布プリント 関連参考書：組み込みシステムのハードウェア設計入門講座　坂巻佳壽美　電波新聞社、 センサと計測で学ぶPICマイコン講座　秦明宏 CQ出版社など		

	学習内容
1	マイコンとその組み込みシステム開発手順
2	マイコンの構成要素
3	マイコンを用いたシステムの具体例
4	マイコンを用いた基本装置の回路と製作
5	マイコンを用いたテストプログラム
6	マイコンのプログラミング
7	A/D変換、D/A変換及び各種インターフェース
8	中間まとめ
9	各種センサ回路(1)
10	各種センサ回路(2)
11	マイコン応用に関連する特別英語講義
12	電子回路CADとプリント基板設計(1)
13	電子回路CADとプリント基板設計(2)
14	マイコンを用いたシステムの提案
15	提案の評価とまとめ

（出典：平成 25 年度シラバス　電気電子工学科４年「マイコン応用」）

資料５－２－①－４

コンピューターを活用した講義

平成25年度　シラバス　授業計画

電熱・空調

【Electric heating and Air-conditioning】

5年電気電子工学科

担当教員名	山口　崇	シラバスコード	5E08
科目情報	前期 専門科目 必修科目 講義 1単位	授業時数	30
授業の目的	生産設備や建築設備に広く使われる電気加熱と空気調和の基礎知識を修得し、電力の身近な応用への理解と省エネルギーへの関心を深める。		
到達目標	1．伝熱現象を理解し、簡単な熱計算ができる。 2．発熱体や各種の電気加熱方式を理解できる。 3．空気調和設備や冷凍機、ヒートポンプのしくみを理解できる。 4．熱負荷を理解し、湿り空気線図を用いて空気調和の計算ができる。	JABEE ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ目標	A-1
評価方法	試験100%（中間試験50%＋期末試験50%）で評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。 再試験は期末に全範囲について1回実施する。		
授業の進め方と履修上の注意	教科書にそって主にスライドを使って講義する。理解を深めるため適宜、演習問題をあたえる。 本科目の内容は、「電気主任技術者」（電気加熱のみ）、「エネルギー管理士」の資格試験にも関連するので、それらの参考書などもあわせて学習することをすすめる。		
テキストおよび参考図書	教科書：佐藤清史 著『照明・電熱』、東京電機大学出版局。 井上宇市 監修『建築設備 （第三版）』、市ケ谷出版社。 参考図書：堀　克彦 編著『改訂 工業用電気加熱』、省エネルギーセンター。 山田信亮 ほか 著『図解 空調設備の基礎』、ナツメ社。		

	学習内容
1	伝熱と熱計算の基礎
2	電気加熱の概要
3	温度の測定と制御
4	発熱体
5	耐熱・保温材料
6	電気炉
7	電気乾燥
8	電気溶接
9	家庭用電気加熱
10	空気調和の概要
11	空気調和設備
12	湿り空気線図
13	熱負荷
14	加湿と減湿
15	冷凍機とヒートポンプ

（出典：平成 25 年度シラバス　電気電子工学科５年「電熱・空調」）

資料５－２－①－５

ＰＢＬの要素を取り入れた授業の例

平成25年度　シラバス　授業計画

環境デザイン論

【Environmental Design】

5年機械工学科

担当教員名	藤田　雅俊	シラバスコード	5A08
科目情報	前期 専門科目 必修科目 講義と演習 2単位 学修単位	授業時数	30
授業の目的	機械化、情報化が進む今日の都市社会において、人間を取り巻く環境を形成する諸処の要素について、その形成過程での技術とデザインの役割について学習する。実際の都市空間に赴き、自分達で都市における問題点を抽出し、解決の方策を考える。グループで調査／検討した内容をプレゼンテーションし、相互に評価する。発表においては、他者に伝達するプレゼンテーションを効果的に行うことの重要性を自覚させる。		
到達目標	1．自ら課題を発見する能力の習得 2．グループで仕事を行う上でのコミュニケーション能力の習得 3．計画的な仕事の進める能力の習得	JABEE ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ目標	A-1 A-2 A-3 F
評価方法	授業レポート20%　デザインサーベイ課題40%（相互評価を含む）　テーマレポート40% 再試験は行わない。 評価基準：60点以上を合格とする。		
授業の進め方と履修上の注意	授業における造形理論の講義、演習、テーマレポートを総合的に行う。 授業中に私語のあるものは退出させるので注意すること。		
テキストおよび参考図書	教材は適宜資料を配付		

	学習内容
1	オリエンテーション（授業の進め方／評価方法等のガイダンス）
2	都市装置の概念
3	トランスポーテーションのデザイン１
4	トランスポーテーションのデザイン２
5	都市装置のデザイン
6	都市装置のライフサイクル
7	装置の環境化とデザインの展望
8	デザインサーベイの役割
9	デザインサーベイ１
10	デザインサーベイ２
11	デザインサーベイ３（中間発表）
12	デザインサーベイ４
13	デザインサーベイ５（発表）
14	デザインサーベイ６（発表）
15	テーマレポート

（出典：平成 25 年度シラバス　電気電子工学科５年「電熱・空調」）

観点５－２－②：教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示等、内容が適切に整備され、活用されているか。

（観点に係る状況）

シラバスは、教務主事主導で適切に作成され、学科別に冊子として配布されている。各科目について学習内容、到達目標、評価方法など必要な事項が明示されている（資料５－２－①－２）。

また、同冊子には、教育課程系統図が示されているため、５年間の学習の流れも把握することができる。学生への周知については、各授業の最初に授業計画とともに授業内容、関連科目との関係、評価方法などについてシラバスを配布した上で説明している（資料５－２－②－１）。また、学修単位については、１単位当たり45時間の学修時間が必要であることをシラバスとその説明により学生により周知することとしている（資料５－２－②－１、資料５－２－②－２）。このシラバスについては、授業改善専門部会の主導で授業評価アンケートを実施し、シラバスの活用度を確認している（資料５－２－②－３）。

（分析結果とその根拠理由）

適切にシラバスが作成され、学生に説明した上で授業に活用されている。

資料５－２－②－１

学生へのシラバスの説明

平成２５年４月８日

教員各位

教務主事

平成 25 年度シラバスの授業初回での学生への通知について（依頼）

平成 25 年度の担当科目について、シラバスの内容を授業初回にて学生へ周知して頂きますようお願いします。

なお、学修単位科目を担当の場合には、当該科目が学修単位であり、１単位当たり４５時間の学修時間を要することを併せて学生へ説明願います。

（出典：平成 25 年度　教務係から授業担当教員へ依頼文書）

資料５－２－②－２

学修単位について注意喚起

平成 25 年 5 月 15 日

教員各位

教務主事

平成 25 年度　教務関係の留意事項について（依頼）

１．授業について

（１）授業実施回数について

(途中省略)

３．成績・出欠の報告および成績評価資料の保存について

（１）成績・出欠の報告

・ 成績は、100 点法（0 から 100 までの整数）とすること。

(途中省略)

（２）成績評価資料の保存について

・ 成績評価に用いた答案・レポート等の資料は、2 年間保存すること。

・ 学修単位の科目については、１単位当たり 45 時間の学修に対する裏付け資料を２年間保存すること。また、45 時間の学修を要することを具体的にシラバスに記載すること。

（以下省略）

（出典：平成 25 年度　第１回教員会議資料）

資料５－２－②－３

授業評価アンケートでのシラバスの活用（項目 B-1 参照）

平成24年度　学生による授業評価アンケート（本科用）

マーク見本
[ ]の中を
大きく黒く
[ ] 1.熱心に
● 2.ノートや
[ ] 3.分らな

※　見本のとおり、質問の項目に付された[　]の中を黒く大きく塗りつぶしてください。

学年・学科	科目番号	
[1]	[0]	[0]
[2]	[1]	[1]
[3]	[2]	[2]
[4]	[3]	[3]
[5]	[4]	[4]
[A]	[5]	[5]
[E]	[6]	[6]
[S]	[7]	[7]
[C]	[8]	[8]
[M]	[9]	[9]

科目名

A.　あなたはこの授業にどのように取り組みましたか。(複数選択可)

[ ] 1. 熱心に説明を聞いた。
[ ] 2. ノートやメモをとった。
[ ] 3. 分からないところを先生へ質問した。
[ ] 4. 予習や復習をした。
[ ] 5. 関連する内容を自主的に勉強した。

B.　あなたはこの授業をどのように思いましたか。(複数選択可)

[ ] 1. シラバスは参考になった。
[ ] 2. 教科書、プリント、指導書等の教材が適切であった。
[ ] 3. 演習（実験・実習）や課題（レポート）の内容はよく工夫されたものであった。
[ ] 4. 先生は十分に準備をしていた。
[ ] 5. 先生は熱意をもって行っていた。
[ ] 6. 質問をしやすくするなど、双方向性をもたせる工夫があった。
[ ] 7. 全体の構成は適切であった。
[ ] 8. 内容に興味をもてた。
[ ] 9. 学習する力がついたと思う。
[ ] 0. 総合的に良い授業だったと思う。

C.　この授業について要望があれば選んでください。(複数選択可)

[ ] 1. 先生の声を聞き取りやすくしてほしい。
[ ] 2. 板書を読みやすくしてほしい。
[ ] 3. 演習（実験・実習）や課題（レポート）の内容を工夫してほしい。
[ ] 4. もっと分かりやすく説明してほしい。
[ ] 5. もっと質問の機会を増やしてほしい。
[ ] 6. レベルをもっと低くしてほしい。
[ ] 7. レベルをもっと高くしてほしい。

D.　実験・実習の授業のみ、該当するものを選んでください。(複数選択可)

[ ] 1. 実験・実習にふさわしい服装（作業着、保護メガネ、手袋等）であった。
[ ] 2. 機器・器具に興味をもった。
[ ] 3. 機器・器具の操作が難しかった。
[ ] 4. 機器・器具・試薬等の取り扱いに配慮した。
[ ] 5. 指導書が分かりにくかった。

授業について感じたり思ったりしたことがありましたら、以下に記入してください。

（出典：平成 24 年度　授業評価アンケート）

観点５－２－③：創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また、インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）

学科により科目名・実施内容は異なるが、各学科において創造性を育む教育を実施している。例えば電気電子工学科では、「電気電子設計」を５年生に開講し、１年次から４年次までの学習成果を総合して回路の実用設計について学ぶ講義を行っている（資料５－２－③－１）。短期インターンシップは、４年の夏季休業期間中に実施される。インターンシップ終了後には、学科ごとに報告会を実施し、学生間のインターンシップ体験の共有化を図っている（資料５－１－②－４）。また、各学科とも５年生の卒業研究発表会を実施し、本校での創造性教育の集大成を行っている（資料５－２－③－２）。

（分析結果とその根拠理由）

創造性を育む授業が実施され、高学年では短期インターンシップ報告会・卒業研究発表会を行って、創造性の育成が図られている。

資料５－２－③－１

創造性を育む教育方法の工夫

平成25年度　シラバス　授業計画

電気電子設計

【Electrical and Electronic Design】

5年電気電子工学科

担当教員名	中島　勝行	シラバスコード	5E17
科目情報	前期　専門科目　必修科目　講義と実習　1単位	授業時数	30
授業の目的	１年次から４年次までの学習結果を総合して、実用的な回路の設計法を習得する。実用設計が座学と異なる最も大きな点は素子や設計条件のばらつきを考慮することである。これらの不安定な条件下で如何にして実用的使用に耐えうる電気回路の設計が出来るかを学習する。この授業のみで電気電子設計の全分野を網羅することは困難なので主に電子回路の設計に的を絞って講義実習を行う。		
到達目標	１．LR,CR回路の過渡現象を数式を使って説明できる。 ２．NE555の機能の概要を説明でき自走MBの設計が出来る。 ３．NE555を用いてLEDの点滅駆動回路の設計が出来る。 ４．ランプ波形発生回路の設計が出来る。	JABEE ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ目標	A-2 B-2 G-2
評価方法	中間試験（４０%）、期末試験（４０%）、その他レポート類（20%）。60点以上を合格とする。 不合格者については期末試験についてのみ１回再試験を行う。再試験出題範囲は全範囲、１００点満点で６０点以上を合格とし評点は６０点とする。		
授業の進め方と履修上の注意	ICのデータシートを配布するので、そこに現われる専門用語を知りそのICの機能を理解する。それを元に自走アルチバイブレーターを構成し、LEDの点滅回路を設計する。設計した回路は実際にプリント板上に組み意図したように動作しているか確認する。この過程を通して実社会での回路設計がどのように行われるかを知ることが出来るので積極的に授業内容を理解するよう取り組んで欲しい。		
テキストおよび参考図書	教科書：電子部品データシート、配布プリント 参考図書：横井与次郎著　デジタルシステムの設計　CQ出版社 教材：IC　NE555およびCR部品		

	学習内容
1	LR,又はCR回路の充放電現象を表す数式を初期値、最終値から直接導く方法を身につける。
2	技術英文の読解、テクニカルタームの学習、NE555の動作原理と諸特性を理解する。
3	General Purpose Single Bipolar Timer
4	Block Diagram Absolute Maximum Ratings
5	Electrical Characteristics
6	Mono-stable Operation
7	Astabl Operation
8	Pulse Width Modulator Linear Ramp
9	Monostable Multi Vibrator Design
10	Assemble
11	回路設計　１自走MV
12	回路設計　２単安定MV
13	回路設計　３ランプ波形発生回路
14	回路製作
15	評価

（出典：平成 25 年度シラバス　電気電子工学科５年「電気電子設計」）

資料５－２－③－２

創造性を育む教育の集大成としての卒業研究

平成24年度　電気電子工学科 卒業研究発表会

日時：平成25年2月21日(木)　午前8時40分～午後6時00分
場所：D4教室

持参するもの：各自の発表用PowerPointファイル、卒業研究論文。
発表要領：Microsoft PowerPointを利用すること。会場にはPowerPoint2010（PowerPoint2003のファイルは読み込み可）がインストールされたノートPCを用意するので、自分の発表の行われるセッションの前の休憩時間にノートPCに必要ファイルをコピーする。
発表時間：発表者一人の場合　発表8分+質疑応答3分=計11分、発表者二人の場合　発表12分+質疑応答5分=計17分。二人で発表の場合には、必ず両名とも発表を行い、両名とも質疑応答を受ける。

合図：ブザー1回　発表終了1分前、ブザー2回　発表終了、ブザー3回　質疑応答終了。

プログラム

08:40-08:45　趣旨説明（担任）

番号	時間	司会	タイムキーパー	発表者	発表題目	研究室
1	8:45-8:56	平川	池田研	[redacted]	Android端末を用いたルービックキューブ自動解法ロボットの製作 －解法プログラムとロボットについて－	越地研究室
2	8:56-9:07				Android端末を用いたルービックキューブ自動解法ロボットの製作 －ルービックキューブの色パターン認識について－	
3	9:07-9:18				kinectを用いたヒューマンインターフェースデバイスの開発 －USB-シリアル変換による赤外線リモコンとPCの連携　－	
4	9:18-9:29				kinectを用いたヒューマンインターフェースデバイスの開発 －kinectを用いた動作認識－	
5	9:29-9:40				PHPとMySQLを用いたレポート提出システムの作成	
6	9:40-9:51				クラウドサービスと組込サーバの連携	
					休憩	
7	10:00-10:11	長田	越地研		三相かご形誘導発電機を用いた定電圧発電に関する研究	山本研究室
8	10:11-10:22				実効値計測法に関する研究	
9	10:22-10:39				磁界センサの高感度・高分解能化に関する研究 －最小検出分解能の計測器の製作　－	
10	10:39-10:50				電流センサの設計・製作	
11	10:50-11:01				質量分析用電磁石の磁気回路解析	
					休憩	
12	11:09-11:20	松野	山本研		航空式モーションキャプチャに用いる 正方形コイルシステムの開発	山口研究室
13	11:20-11:31				コイルの発生磁界の数値計算プログラムの開発	
14	11:31-11:42				発音磁界測定のための磁界センサアレイの開発	
15	11:42-11:53				プレゼン用タイマーの設計製作	
16	11:53-12:04				テラヘルツ分光によるフッ素エラストマーのフィラー分散性についての評価の検討	
17	12:04-12:15				PICマイコンを用いたLEDの調光	
					昼休憩	平川研究室
18	13:00-13:11	池田	山口研		エラストマー内のテラヘルツ光伝搬に関する研究	
19	13:11-13:22				腫瘍組織観察用実体顕微システムの自動化	
20	13:22-13:33				焼結膜のレーザースペックルによる観察の検討	
21	13:33-13:44				Labviewを使った熱電エネルギー変換材料の特性評価システムの構築	
22	13:44-14:01				シミュレーションによるnチャネルMOSトランジスタのGOLD構造設計	
					休憩	長田研究室
23	14:10-14:21	山本	平川研		ニュートン法を用いたGaAs電子輸送シミュレーションの精度向上	
24	14:21-14:32				シリコン電子輸送シミュレーションによるエネルギー解析	
25	14:32-14:43				リソグラフを利用したマークシート読み取りシステムの開発と運用	
26	14:43-14:54				ボールベアリングモータの原理解明	
27	14:54-15:05				境界要素法による板干渉シミュレーションに関する研究	
28	15:05-15:16				移流項つきシュレディンガー方程式の数値解析法に関する研究	
					休憩	松野研究室
29	15:25-15:36	越地	長田研		回帰型動歩問題への遺伝的アルゴリズムの適用： プログラムの可視化および並列化	
30	15:36-15:47				回帰型動歩問題への遺伝的アルゴリズムの適用： アルゴリズムの実装	
31	15:47-15:58				並列型誤差訂正機構搭載の開発に関する研究	
32	15:58-16:09				高性能デジタル補聴器のための並列型DSPユニットの開発	
33	16:09-16:20				直流蓄電システムの効率的運用に関する研究	
34	16:20-16:31				太陽電池と商用電源を組み合わせた直流蓄電システムに関する研究	
					休憩	
35	16:40-16:51	山口	松野研		ガス遠隔監視システムにおける無線伝送ユニットの性能改善	池田研究室
36	16:51-17:02				PICを用いたブラインド制御システムの設計	
37	17:02-17:13				シナプスのMOSFETによる設計	
38	17:13-17:24				USB-パラレル変換モジュールを用いた自動測定装置の作製	
39	17:24-17:35				DCバスを用いた太陽光発電配電システムの開発	
40	17:35-17:46				携帯端末充電への応用	
					ディスクモーターの回転数向上及び回転原理究明	

17:46-18:00　講評　（学科長）

（出典：平成 24 年度　電気電子工学科５年「卒業研究」発表会プログラム）

観点５－３－①：教育課程の編成において、一般教育の充実や特別活動の実施等、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。また、教育の目的に照らして、課外活動等において、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。

（観点に係る状況）　４年、５年における一般選択科目として、人文社会科学系科目と第二外国語系科目についての開講数が多く、一般科目が充実している（資料５－１－②－１）。特別活動については､ホームルームとして１年から５年まで週１回１時間が設定されている(資料５－３－①－１、３－①－２)。また、新入生に対しては高等教育機関としての高専における勉学及び課外活動の意義の周知あるいは団体行動の訓練のため、１泊２日の合宿研修を行っている。さらに、人間の素養の涵養を図る目的で、学生大会、高専祭(文化祭・体育察)、音楽祭、予餞会、クラスマッチ、交通安全教育、防災訓練、特別講演などが毎年学校行事として行われている（資料５－３－①－３）。各学科とも幅広い工業的な視野を培うために、日帰りの工場見学などのほかに、団体生活の基本を育むことも目的として４年に４泊５日の国内工場見学旅行を実施している（資料５－３－①－４）。

生活指導に関しては、学生主事室、学級担任などが指導に当たっている。また、寮生については寮務主事室が中心となって宿直･日直教員も含めて学生の指導に当たっている(別添資料５－３－①－５)。さらに、校医、看護師による健康診断、健康相談が実施され、急な病気や傷害に対応しているばかりでなく、教員、看護師、カウンセラーで構成されている学生相談室も設置され、随時相談できる体制を整えており（資料５－３－①－６)、学生の状況により月１回精神科医との面談も実施している。

クラブ活動に関しては、広い視野に立ち、集団での協調性を育み、精神面の涵養を図るために、学生には参加を奨励しており、全教員がクラブ顧問として配置されている（資料５－３－①－７)。さらに、担当教員では指導が困難な場合、外部技術コーチを招聘し、学生の支援を行っている（資料５－３－①－８)。また、高専体育大会ばかりでなく、全国規模のロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、また、学生が多数参加するソーラーボート大会など地域のイベントや、文化系クラブの研修にも指導教員を配置し､学生が積極的に大会や研修へ参加できるよう配慮している(資料５－３－①－９)。学生会活動については、体育祭、文化祭、音楽祭など諸行事を学生会が中心となって自主的に運営しており、学生主事室が学生の自立の精神や創造性を培えるように支援を行っている。

資料５－３－①－１

ホームルームの実施（平成 24 年度後期の水曜日 3 時限目）

平成24年度後期授業時間割

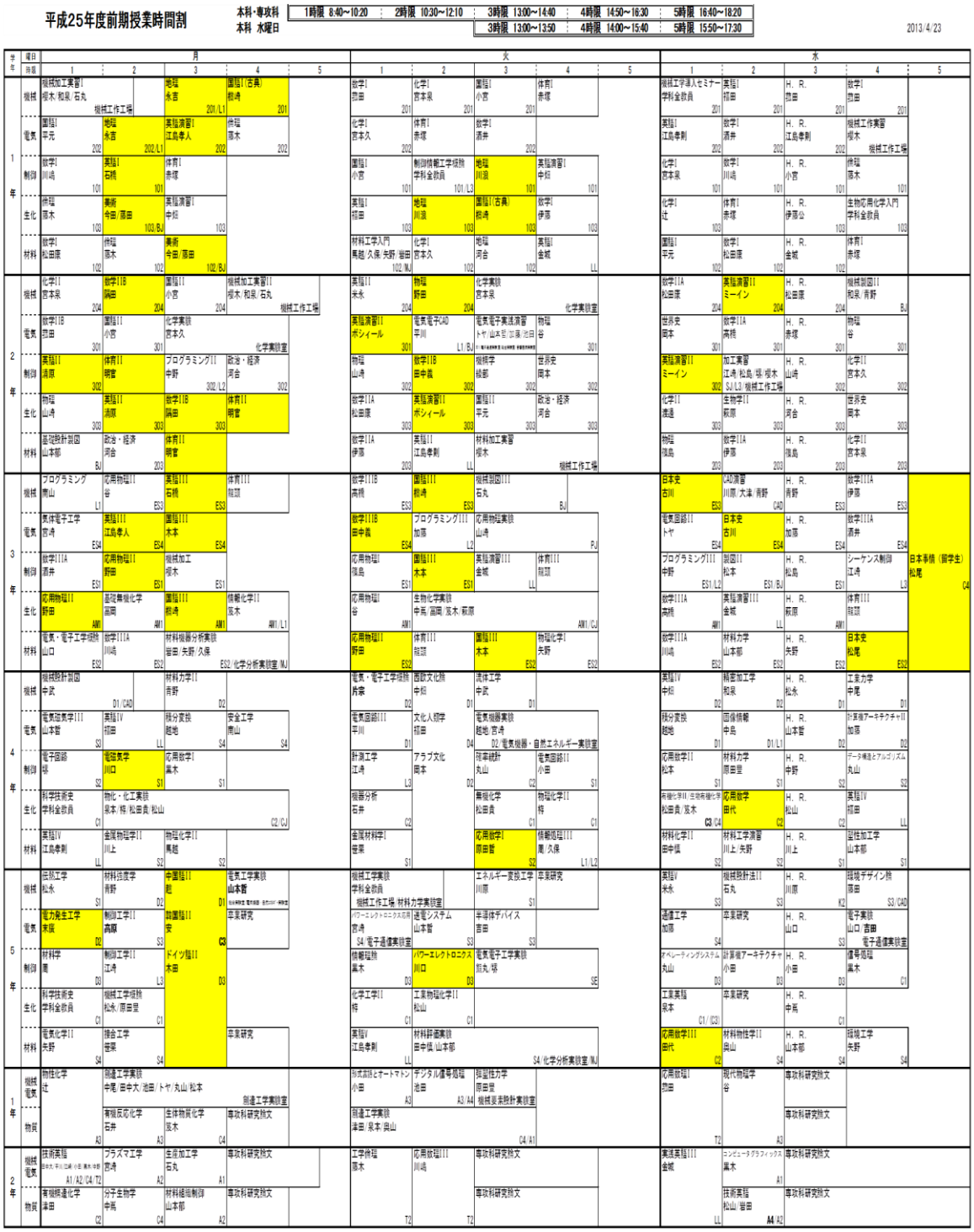
本科・専攻科　1時限 8:40～10:20 ： 2時限 10:30～12:10 ： 3時限 13:00～14:40 ： 4時限 14:50～16:30 ： 5時限 16:40～18:20
本科 水曜日　3時限 13:00～13:50 ： 4時限 14:00～15:40 ： 5時限 15:50～17:30

学年	曜日	時限	月 1	月 2	月 3	月 4	月 5	火 1	火 2	火 3	火 4	火 5	水 1	水 2	水 3	水 4
1年	機械		数学I 宮地 201	英語I 石橋 201	美術 藤田/今田 BJ			保健 鮭頭 T2	地理 永吉 201/K1	倫理 藤木 201			英語演習I 金城 201	数学I 宮地 201	HR 平元 201	化学I 宮本泉 201
	電気		国語I 小宮 202	英語演習I 清原 202	プログラミングI 大曲 K1			数学I 伊藤公 202	電気電子工学基礎 南里 202	地理 永吉 202/K1	英語I 福田か 202		化学I 宮本久一 202	機械工作実習 塚本 機械工作工場	HR 宮本久一 202	数学I 伊藤公 202
	制御		国語I 平元 101	倫理 藤木 101	数学I 荒田 101	美術 藤田/今田 BJ		プログラミングI 松島 K1/SJ	英語I 福田か 101	地理 川浪 101			保健 赤塚 101/T2	数学I 荒田 101	HR 赤塚 101	体育I 鮭頭 101
	生化		英語I 金城 103	数学I 酒井 103	国語I 小宮 103			化学I 辻 103	地理 川浪 103	英語演習I 江島孝人 103			生物学I 中嶌 103	数学I 酒井 103	HR 藤木 103	化学I 辻 103
	材料		保健 赤塚 102/T2	材料工学入門 材料工学科全教員 102/MJ	英語I 石橋 102			数学I 高橋 102	図学 石丸 BJ	地理 河合 102			英語演習I 中烏 102	体育I 鮭頭 102	HR 高橋 102	倫理 藤木 102
2年	機械		物理 上原 301	政治・経済 河合 301	機械加工実習III 樫木/和泉/石丸 機械工作工場			物理 上原 301	英語II 米永 301	数学IIA 酒井 301	機械製図II 和泉 BJ		英語演習II ミーイン 301	世界史 岡本 301	HR 大津 301	体育II 赤塚 301
	電気		政治・経済 河合 204	数学IB 隅田 204	国語II 檜崎洋 204	物理 篠島 204		数学IIA 川嶋 204	物理 篠島 204	電気回路I 川口 204	プログラミングII 松野 K1		数学IIA 川嶋 204	英語演習II ミーイン 204	HR 米永 204	英語II 米永 204
	制御		物理 篠島 302	製図I 福田幸/松本 302/BJ	数学IB 隅田 302	国語II 檜崎洋 302		政治・経済 河合 302	英語演習II ボシール 302	化学実験 宮本久一 化学実験室			数学IIA 宮地 302	物理 篠島 302	HR 篠島 302	国語II 平元 302
	生化		英語II 清原 203	数学IB 宮地 203	物理 谷 203			英語演習II ボシール 203	数学IIA 田中義 203	基礎生物化学実験 冨岡/中嶌/笈木/荻原 203/K2/CJ			情報化学I 渡邊 203/K1	体育II 赤塚 谷 203	HR 谷 203	世界史 岡本 203
	材料		世界史 岡本 303	情報処理I 笹丸 303/K1	化学実験 宮本泉 化学実験室			数学IA 田中義 303	国語II 檜崎洋 303	材料加工実習 樫木 303			国語II 小宮 303	英語II 石橋 303	HR 岡本 303	物理 山崎 303
3年	機械		数学IIIA 茂田 AM1	体育III 明官	応用物理実験 山崎 AM1/PJ			英語演習III 福田か AM1	応用物理I 原田豊 AM1	国語III 檜崎洋 AM1	数学IIA 茂田 AM1		機械加工学 和泉 AM1	応用物理II 山崎 AM1	HR 南山 AM1	英語III 江島孝則 D1
	電気		機械工学概論 樫木/原田豊/川原 ES3	電気磁気学II 山本普 ES3	国語III 木本 ES3	体育III 明官 ES3		英語II 江島孝則 ES3	数学IIA 高橋 ES3	電気電子基礎実験 平川/山本普 総合実験室			ワンチップマイコン 池田 ES3	気体電子工学 長田 ES3	HR 原 ES3	電気機器工学 山本普 ES3
	制御		電子計算機基礎 笹丸 ES1/SJ	基礎電磁気学 塚 ES1	英語III 江島孝則 ES1	オブジェクト指向プログラミング 丸山 ES1/SJ		応用物理I 山崎 ES1	数学IIA 伊藤公 ES1	国語III 木本 ES1	体育III 岸本		応用物理III 野田 ES1	論理回路 小田 ES1/SJ	HR 松本 ES1	英語演習III 金城 ES1
	生化		情報化学II 宮本 ES4/K1	応用物理I 山崎 ES4	英語演習II 中烏 ES4	数学IIIA 川嶋 ES4		応用物理II 野田 ES4	数学IIA 川嶋 ES4	体育III 岸本	国語III 檜崎洋 ES4		基礎無機化学 石井 ES4	工業倫理 藤木/泉本 ES4/K1	HR 渡邊 ES4	物理化学I 柊 ES4
	材料		数学IIIB 酒井 ES2	応用物理I 谷 ES2	英語演習II 金城 ES2	金属物理学I 園 ES2		電気・電子工学概論 山口 ES2	英語III 江島孝人 ES2	応用物理実験 谷 PJ			材料力学 山本郁 ES2	物理化学I 馬越 ES2	HR 川上 ES2	日本史 松尾 ES2
4年	機械		材料力学II 檜村 S1	中国語I 趙 D2	電気・電子工学概論 池田 S4	機械工学演習 中尾/檜村/中嶌/田中久 S4		工業英語 田中久 S4	日本思想史 木本 D2	機械設計製図 石丸/大津 S1/CAD			英語IV 米永 S1	工業力学 中尾 S1	HR 石丸 S4	プログラミング演習 藤田 S4/CAD
	電気		制御工学I 松野 S2	韓国語I 安 D1	ベクトル解析・複素関数 長田 D2	マイコン応用 池田 D2/K1	工業倫理 奥村 D2	英語IV 米永 S3	歴史学入門 岡本 C4	電気磁器実験 池田/山口			パワーエレクトロニクス 松野 S2	高電圧工学 平川 S2	HR 山口 S3	ベクトル解析・複素関数 長田 S3
	制御		電子回路 江頭 D1	ドイツ語I 村上 D4	応用数学I 綾部/黒木 S3	電動アクチュエータ 川口 S3		熱／流体工学 松永 D2	英語講読 江島孝則 D1	電磁気学 塚 D1	離散数学 松島 D1		制御工学I 江崎 SJ	英語IV 中烏 D1	HR 小田 D1	数値計算法I 綾部 SJ
	生化		化学工学I 泉本/松山 C2		応用化学実験・生物工学実験 生物応用化学科全教員			無機化学 松田 C2		機器分析 石井 C2			情報処理演習 冨岡 C1/K2	応用数学 田代 C1	HR 泉本 C2	ポリマー複合工学・機能工学 津田/荻原 C1/C2
	材料		物理化学II 久野 D2		材料化学II 田中慎 D1	材料物性学I 奥山 D1	工業英語 笹栗/奥山/川上/四中/矢野/冨上/山本/ D1/D3/C3/C4	塑性加工学 山本郁 D1		応用数学I 原田智 D2	英語IV 中烏 D2		応用数学II 田代 D2	金属材料学I 笹栗 D2	HR 山本郁 D2	電気化学I 矢野 D2
5年	機械		トライボロジー 大津 S4	中国語I 趙 D2	中国語III 趙 D3	卒業研究		制御工学 中尾 S1	日本思想史 木本 D2	エネルギー変換工学 川原 S4	卒業研究		流体機械 川原 S4	伝熱工学 松永 S4	HR 田中久 S1	機械工学実験 機械工学科全教員
	電気		配電システム 平川 D4	韓国語I 安 D1	韓国語III 安 C3	通信実験 越地/大曲 電子通信実験室		照明設計 山本哲 C1	歴史学入門 岡本 C4	卒業研究			信頼性工学 山口 D1	卒業研究	HR 越地 共同ゼミ室	電子実験 松野/池田 電子通信実験室
	制御		ソフトウェア工学 中野 D3/K2	ドイツ語I 村上 D4	ドイツ語III 村上 C4	卒業研究		計算機アーキテクチャ 小田 D3	英語講読 江島孝則 D1	制御工学実験 福田幸/江崎/江頭/松本 SJ			ロボット工学 綾部 D3	卒業研究	HR 笹丸 D3	ディジタル通信 小田 D3
	生化		バイオプロダクト 柊 C1			卒業研究		卒業研究		産業デザイン論 藤田 C1/T2			化学工学II 泉本 C2	卒業研究	HR 冨岡 C1	卒業研究
	材料		材料評価学 園 S3			卒業研究		機能材料 濱上 S2		産業デザイン論 藤田 C1/T2	卒業研究		材料物性学II 奥山 S3	卒業研究	HR 濱上 S2	卒業研究
1年	機械 電気		環境倫理学 藤木 A3	画像工学 里木 A3	応用流動工学 中武 A1	実践英語II 中烏 A3		データベース 中野 A1/K2	設計システム工学 藤田 A1/T2	応用情報処理演習 中尾 A4			応用数理II 茂田 A3	破壊力学 徳村 A1	応用情報処理 松島 K1	先端工学特論 越地/丸山 A3
	物質		環境倫理学 藤木 A3	画像工学 里木 A3	構造材料学 川上 A2	実践英語II 中烏 A3		生体機能分子学 中嶌 A2	高分子材料特論 津田 C2	材料強度学 笹栗 A2	専攻科研究論文		応用数理II 茂田 A3	機能有機材料特論 津田 C4	応用情報処理 松島 K1	先端工学特論 石井/奥山 A3
2年	機械 電気							統計力学及び熱力学 篠島 C3								
	物質							統計力学及び熱力学 篠島 C3								

（出典：平成 24 年度後期時間割）

資料５－３－①－２

ホームルームの実施（平成 25 年度前期の水曜日 3 時限目）



（出典：平成 25 年度前期時間割）

資料５－３－①－３（１／２）

特別活動の実施

平成24年度　学年暦

後　期

10　月			11　月			12　月		
日	曜		日	曜		日	曜	
1	月	後期授業開始	1	木	高専祭準備、高専祭期間中 本科、専攻科授業なし	1	土	編入学試験
2	火		2	金	高専祭（前夜祭）	2	日	
3	水	前期定期試験成績締切	3	土	文化の日（文化祭）	3	月	
4	木		4	日		4	火	
5	金		5	月	体育祭	5	水	午後ｸﾗｽﾏｯﾁ（本科午後授業なし）＊
6	土	専攻科（後期）入試	6	火	↓後片付け	6	木	クラスマッチ（本科授業なし）＊
7	日		7	水	月曜日の授業	7	金	
8	月	体育の日	8	木		8	土	
9	火		9	金		9	日	
10	水		10	土	学校説明会	10	月	
11	木		11	日		11	火	
12	金		12	月		12	水	学生大会（予定）
13	土	学校説明会・見学会（久留米）、TOEIC試験	13	火		13	木	
14	日		14	水		14	金	
15	月		15	木		15	土	
16	火		16	金		16	日	
17	水		17	土		17	月	
18	木		18	日		18	火	
19	金		19	月		19	水	
20	土		20	火		20	木	
21	日		21	水		21	金	
22	月	↑入試説明懇談会（久留米）	22	木		22	土	閉寮（14:00）
23	火	↓（福岡）	23	金	勤労感謝の日	23	日	天皇誕生日
24	水		24	土		24	月	振替休日
25	木		25	日		25	火	冬季休業（～1/7）
26	金		26	月	中間試験（～11/30）＊	26	水	
27	土		27	火		27	木	仕事納め
28	日		28	水		28	金	
29	月		29	木		29	土	
30	火		30	金	↓	30	日	
31	水					31	月	

専攻科学位申請（1～7日）
10月中旬：専攻科インターンシップ開始
1月～3月の日程は後日、審議
九州沖縄地区高専ロボコン（熊本，21日）
テマセクポリテク（シンガポール）との国際交流（未定）

九州沖縄地区高専体育大会（冬季）ﾗｸﾞﾋﾞｰ（未定）
第17回マナビィランド「ふれあい理工学展」（未定）
全国高専デザインコンペティション（未定）
全国高専ロボコン（未定）

＊ 専攻科平常授業

冬季休業（12/25～1/7）
＊ 専攻科平常授業
大学評価・学位授与機構試験（未定）
クラスマッチの開催日時は学生会と協議
全国プログラミングコンテスト（未定）
第22回九州沖縄地区高専フォーラム（未定）

（出典：平成 24 年度後期学年歴）

資料５－３－①－３（２／２）

特別活動の実施

１　月			２　月			３　月		
日	曜		日	曜		日	曜	
1	火	元　日	1	金		1	金	
2	水		2	土		2	土	当月退寮者閉寮(14:00)
3	木		3	日		3	日	
4	金		4	月		4	月	
5	土		5	火	後期授業終了(5年)	5	火	終業式、本科1～4年成績締切
6	日		6	水	後期定期試験(5年、5日間)	6	水	専攻科1年研究論文中間発表会 専攻科1年成績締切
7	月	仕事始め、開寮(10:00)	7	木		7	木	
8	火	後期授業再開、月曜日の授業	8	金	後期授業終了(1～4年)	8	金	卒業査定
9	水	全校集会(13:00～)	9	土		9	土	
10	木	数学・物理学習到達度試験(3年)	10	日		10	日	
11	金		11	月	建国記念の日	11	月	閉寮(14:00)
12	土	TOEIC検定試験	12	火	後期定期試験(1～4年、7日間)	12	火	
13	日		13	水		13	水	
14	月	成人の日	14	木	5年特別教育期間(～3/14) 専攻科2年長期インターンシップ報告会	14	木	
15	火		15	金	専攻科2年成績締切	15	金	卒業式、修了式、学年末休業(～3/31)
16	水		16	土		16	土	
17	木		17	日		17	日	
18	金		18	月		18	月	
19	土	入学者選抜(推薦)	19	火		19	火	及落査定
20	日		20	水		20	水	春分の日
21	月		21	木	1～4年特別教育期間(～3/14)	21	木	
22	火		22	金		22	金	
23	水		23	土		23	土	
24	木		24	日	入学者選抜(学力)	24	日	
25	金		25	月	入試業務のため休校	25	月	
26	土		26	火	専攻科2年修了査定	26	火	
27	日		27	水		27	水	
28	月		28	木	5年成績締切	28	木	
29	火					29	金	
30	水					30	土	
31	木					31	日	

全国高専体育大会(冬季)ﾗｸﾞﾋﾞｰ(未定)
全国高専英語プレゼンコンテスト(未定)
第18回高専シンポジウム(未定)
予餞会の開催は学生会と協議

特別教育期間には追試験、卒研試問を含む

次年度春季休業、入学式、始業式は後日審議
学年末休業(3/15～3/31)

	午前	午後
月	15	15
火	15	15
水	16(5年:15)	15(5年:14)
木	15(5年:14)	15(5年:14)
金	15(5年:14)	15(5年:14)

（出典：平成 24 年度後期学年歴）

資料５－３－①－４

国内工場見学旅行の実施

平成２４年度　国内工場見学旅行の実施計画

■ 国内工場見学旅行の目的

・工場、研究所等を直接見学し、学校で学ぶことの重要性を再認識させるとともに、日本の産業界が保有する優れた技術を見聞し、将来の進路を考える機会を与える。
・日本の歴史、文化、自然に触れる機会をつくる。
・非日常体験を通して、自己を見つめ直す。
・団体行動を体験し、級友との相互理解を深める。
・未知の地域で自ら計画を立てて行動する自主研修を通して、主体性を養い、視野を広める。

■ 実施要項

・４年生を対象とし、学校行事として実施する。特別の事情がない限り参加とする。
・各クラス別に計画し、各クラスの引率教員は、学級担任を含め２名または３名とする。またその構成は、各専門学科から２名とし、専門学科が３名を希望する場合には一般文科または一般理科から１名が引率する。
なお、技術職員が最新の技術に関する見聞を得るため、同行することがある。
・実施時期は原則として９月下旬の４泊５日とする。
・工場、研究所、博物館、史跡等を５ヶ所以上（内、工場及び研究所３ヶ所以上）見学する。
・予算は、すべて 10 万円以内に納まるように配慮する。

■ スケジュール

平成２３年

５月～７月	学生の意見聴取・概略計画（概略の旅行代金見積を含む）立案（各学科）
６月	次年度の実施の可否決定（教務委員会・学科長委員会）
７月	積立申込み
10 月	積立開始（平成 24 年７月まで）

平成２４年

５月	各学科実施計画立案、引率者（各学科２名または３名）決定、学生・保護者への提示（各学科）
４月～９月	学生指導（各学科）
６月	実施要領・各学科実施計画審議・報告（教務委員会、学科長委員会）
７月～９月	保護者への説明会実施、保護者からの承諾書提出（各学科）
９月	学生に対する説明・注意（全体、各学科）、実施（各学科）
10 月～12 月	学生アンケートの実施、反省会（引率教員、教務委員会）

■旅行費用支払方法

１．定額積立
６ヶ月以上の期間、毎月定額を積み立てる。
２．積立一括払い
積立期間の最初に、積立総額を一括して支払う。
３．現金払い
旅行直前に現金で支払う。

■ 積立方法

・積立は、旅行社と保護者との個人契約で、旅行券を積み立てる。
・旅行費用をつぎの方法で積み立てる（積立金１０万円の場合）。
（１）平成 23 年の７月に積立の申し込み
（２）平成 23 年 10 月から平成 24 年７月までの 10 ヶ月で 10 万円を積立
（積立一括払いの場合は、平成 23 年 10 月に一括積立）

■ 留意事項

（１）安全を最優先し、具体的な方策について引率者と教務主事室が十分に協議を行って決めるとともに、学生への周知を徹底する。特に自主研修日における学生の行動計画の事前提出および引率者の対応について、引率者間および引率者と学生間の了解事項をまとめる。また、事後に反省会を開き、その内容を翌年度に引き継ぐ。
（２）その他
・概略の日程や予算は、全学科共通とする。
・具体的な見学先、旅行社等は各学科で検討して決定する。
・積立前に決めた旅行計画の大幅な変更はしない。

（出典：平成 24 年度国内工場見学実施計画）

資料５－３－①－６

学生相談室の設置

久留米工業高等専門学校学生相談室規則

（平成１２年　４月　１日）

（設置）
第１条　本校に、学生相談室（以下「相談室」という。）を置く。
（目的）
第２条　相談室は、学生の就学に伴う一身上の諸問題について相談に応じ、適切な助言、援助を行い、学生の健全な学園生活に資することを目的とする。
（業務）
第３条　相談室は、次の各号に掲げる業務を行う。
(1)　学生個人の諸問題に係る相談、助言及び援助に関すること
(2)　前号の規定に必要な各種の検査及び調査報告に関すること
(3)　学生相談について本校教職員の理解を深めるための研修会及び講演会に関すること
(4)　その他前条の目的達成に必要な事項
（組織）
第４条　相談室に、次の職員を置く。
(1)　室長
(2)　カウンセラー
(3)　相談員
(4)　相談補助員
（室長）
第５条　室長は、本校教員のうちから、校長が任命する。
２　室長は、校長の命を受け、相談室を総括する。
３　室長の任期は、２年とし再任を妨げない。ただし、室長が欠けた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（カウンセラー）
第６条　カウンセラーは、学生の相談に関する専門の知識及び経験を有する者から、校長が委嘱する。
２　カウンセラーの任期は、１年とし再任を妨げない。
３　カウンセラーは、相談室の業務に従事する。
（相談員）
第７条　相談員は、学生相談に関する専門知識及び経験を有する者から、校長が任命する。
２　相談員の任期は、１年とし、再任を妨げない。
３　相談員は、相談室の業務に従事する。
（相談補助員）
第８条　相談補助員は、本校の看護師をもって充てる。
２　相談補助員は、カウンセラーを補佐するとともに、相談室の補助的業務を処理する。
（相談室職員等の責務）
第９条　相談室職員及び相談業務に関わった教職員は、職務上知り得た個人的な秘密を他に漏らしてはならない。
（事務）
第 10 条　相談室の事務は、学生課学生生活支援係において処理する。
（雑則）
第 11 条　この規則に定めるもののほか、相談室の運営に関し必要な事項は、別に定める。
附則
この規則は、平成１２年　４月　１日から施行する。
附則
この規則は、平成１７年１２月２２日から施行し、平成１６年４月１日から適用する。
附則
この規則は、平成１９年　４月　１日から施行する。

（出典：久留米高専規則集第６章「学生」）

平成25年度　学生会局・部指導教員一覧

総務局指導教員：石丸　　会計局指導教員：松島　　体育局指導教員：龍頭　　文化局指導教員：藤木　　渉外局指導教員：周

（氏名）：人事交流中の教員を示す

	体育局	代表顧問	顧　問
1	陸上競技部	赤塚	矢野・田中(大)・宮本(泉)・薊田
2	柔道部	河合	馬越・小宮
3	剣道部	越地	原田・中畑・伊藤(公)
4	弓道部	中野	中嶌・笈木・萩原・松田(康)
5	空手部	山口	櫻木
6	硬式野球部	渡邊	栂・岡本・熊丸・平川・奥山・中武
7	バレーボール部	髙橋	山崎・江島・金城・松山
8	バスケットボール部	山本(哲)	黒木・山本(郁)・福田(か)・川上・堺・宮崎
9	テニス部	周	小田・加藤・池田・(川原)
10	ラグビー部	松島	江﨑・米永・和泉・青野
11	合気道部	笹栗	ウリントヤ
12	水泳部	松田(貴)	綾部・田中(慎)・冨岡
13	サッカー部	谷	石井・南山・宮本(久)・松本・大津
14	バドミントン部	龍頭	津田・原・岩田・酒井・青野
15	卓球部	石丸	久保・平元・丸山
16	ハンドボール同好会	藤田	江﨑・川嶋・篠島
17	ソフトテニス同好会	藤木	辻・吉田・泉本
18	サイクリング同好会	中尾	松永

	文化局	代表顧問	顧　問
1	囲碁将棋部	酒井	藤木
2	英会話部	江島	福田(か)・金城・ウリントヤ・池田
3	軽音楽研究部	萩原	津田
4	茶道部	馬越	栂・中野
5	新聞文芸部	田中(慎)	平元・松田(康)
6	吹奏楽部	奥山	池田・平元・綾部・宮崎
7	美術部	藤田	丸山・伊藤(公)
8	華道部	渡邊	越地
9	自動車部	中尾	青野
10	ロボットコンテスト部	南山	和泉・熊丸・中尾・山本(哲)・松本
11	プログラミングラボ部	黒木	丸山・松島
12	ピアノ同好会	小宮	大津
13	翔同好会	田中(大)	原田・中尾
14	写真同好会	周	山本(郁)
15	エコパワー同好会	中武	川嶋・(川原)・河合
16	ガーデニング愛好会	越地	中嶌・松山
17	自然エネルギー研究愛好会	熊丸	石丸
18	ダンス愛好会	岡本	川上

資料５－３－①－８

平成２５年度 技術コーチ依頼者一覧表

番号	クラブ名	コーチ氏名	略　　歴
1	空　手　部	(略)	[redacted]
2	柔　道　部	(略)	
3	合 気 道 部	(略)	
4	卓　球　部	(略)	
5	英 会 話 部	(略)	
6	ﾛﾎﾞｯﾄｺﾝﾃｽﾄ部	(略)	
7	華　道　部	(略)	
8	弓　道　部	(略)	
9	茶　道　部	(略)	
１０	硬 式 野 球 部	(略)	
１１	サ ッ カ ー 部	(略)	
１２	ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部	(略)	
１３	バレーボール部	(略)	

(出典：学生課学生生活支援係資料)

資料５－３－①－９

大会や研修への参加

表彰・受賞 （平成24年度）

最終更新日2013/4/24

○文化系・技術系クラブ

■ NTTドコモアプリアワード2012

HP: http://www.app-award-kyushu.jp/winner.html

本校プログラミングラボ部に所属する竹中孝介さん（制御情報工学科3年）がNTTドコモアプリアワード2012のファイナリストに選ばれ、作品名「よーみん」が開発部門において優秀賞を受賞しました。
【LastUpdate 2013/03/25】



【写真】NTTドコモアプリアワード2012HPから（左から3番目が竹中さん）

作品	賞名	受賞者
よーみん	優秀賞	プログラミングラボ部 3S竹中 孝介

■ パソコン甲子園2012（11月10日、11日）

HP: http://web-ext.u-aizu.ac.jp/pc-concours/

11月10日、11日会津大学主催で開催されたパソコン甲子園2012に本校プログラミングラボ部チームが出場し、Android搭載スマートフォンのアプリを競うモバイル部門において第3位に入りました。このモバイル部門は13府県から21チーム63名がエントリーしていました。併せて社団法人情報処理学会から情報処理学会若手奨励賞を受賞しました。
【LastUpdate 2012/11/21】

分析結果とその根拠理由）

一般科目は選択科目を多く開講し、充実している。特別活動は高等専門学校設置基準に規定されている９０単位時間以上実施されており、人間の素養の涵養を図るために各種文化イベント、体育関連イベント、安全に関する指導･講習が実施されている他、新入生に合宿研修、４年生に国内工場見学旅行を実施している。また、生活指導面での支援体制が整備され、課外活動に対する支援体制も整っている。さらに、学生自身の自主的な諸行事の運営を支援することによって、学生の自立の精神や創造性を培うような方策が取られている。

観点５－４－①：成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

成績評価基準は、学則第１３条及び第１４条の第２項（資料５－４－①－１）に基づき、「単位の取扱いに関する規程」（資料５－４－①－２）及び「学業成績の評価並びに単位の認定及び及落に関する規程」（資料５－４－①－３）が定められ、学生への周知は学生便覧に記載するほか、新入生に対しては入学オリエンテーション資料として「履修の手引き」（資料５－４－①－４）を配布、説明により指導を行っている。また、２年以上の学生についても、学級担任がホームルームなどで適宜指導を行っている。成績評価はシラバスに基づき科目担当者が行う。年度末の成績評価、及落査定及び卒業査定は、規定に基づいて教員全員で行っている（資料５－４－①－５、資料５－４－①－６、資料５－４－①－７）。

（分析結果とその根拠理由）

成績評価及び進級･卒業認定の基準が明確に規定され、学生への周知も徹底されている。成績評価及び進級･卒業認定は、全教員の出席のもとで行われる及落査定会議、卒業査定会議において、適切に実施されている。

資料５－４－①－１

成績評価基準・単位認定に関わる学則

第13条　学年ごとの授業科目及びその単位数は，別表第１のとおりとする。
２　各授業科目の単位数は，30単位時間の履修を１単位として計算するものとする。
３　前項の規定にかかわらず，各授業科目については，１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業外時間に必要な学修等を考慮して，次の基準により単位数を計算することができる。
⑴　講義及び演習については，15時間から30時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって１単位とする。
⑵　実験，実習及び実技については，30時間から45時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって１単位とする。
⑶　前二号の規定により計算することのできる授業科目の単位数の合計数は，60単位を超えないものとする。
４　前二項の規定にかかわらず，卒業研究の授業科目については，これらの学習の成果を評価して単位の修得を認定することが適切と認められる場合には，これらに必要な学修等を考慮して，単位数を定めることができる。
５　別表第１に規定するもののほか，特別活動を年間30単位時間以上実施するものとする。
（他の高等専門学校における授業科目の履修）
第13条の２　校長は，教育上有益と認めるときは，学生が他の高等専門学校において履修した授業科目について修得した単位を，30単位を超えない範囲で本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
２　前項に関し必要な事項は，別に定める。
（高等専門学校以外の教育施設等における学修等）
第13条の３　校長は，教育上有益と認めるときは，学生が行う大学における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を，本校における授業科目の履修とみなし単位の修得を認定することができる。
２　前項により認定することができる単位数は，前条により本校において修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。
３　第１項に関し必要な事項は，別に定める。
（学年の課程の修了又は卒業の認定）
第14条　各学年の課程の修了又は卒業を認めるにあたっては，平素の成績を評価して行うものとする。
２　前項に関し必要な事項は，別に定める。
（原学年にとどめられた者の再履修）

－7－

（出典：平成 25 年度学生便覧）

資料５－４－①－２

単位認定に関する規定

久留米工業高等専門学校における単位の取扱いに関する規程

（平成１８年２月２日制定）

第１条　本校学則第１３条に定める授業科目の単位数の取扱いは、本規程による。

第２条　卒業に要する修得単位数は１６７単位以上とする。

第３条　必修科目は、各学年においてすべて履修し単位を修得しなければならない。

第４条　選択科目は、学則別表第１に従い卒業に必要な単位を修得しなければならない。

第５条　第３条及び第４条に定める単位の合計が１６７単位以上となるように履修し、単位を修得しなければならない。

附　則

１　この規程は、平成１８年２月２日から施行する。

２　久留米工業高等専門学校における単位の取扱いに関する規程（平成１４年４月１日施行）は、この規程制定の日から廃止する。

３　平成１６年度末における仮進級者の未修得科目については、卒業までに単位を修得するものとする。

４　平成１４年度から平成１６年度の編入プログラムの単位を修得した者は、以下の特例を設ける。

(1)　卒業時もしくは進路変更時に編入プログラムの単位を一般科目（選択）に読み替える場合がある。

(2)　第５学年を修了し、高等専門学校設置基準の卒業要件を満足する者については卒業を認める場合がある。

５　平成１６年度以前の在学生において当該学生が第５学年に在籍し、高等専門学校設置基準に定める卒業要件１６７単位は満足するが、学則に定める卒業に必要な必修科目の単位が不足する者で次の各号を全て満足した者は、単位修得に配慮する。

(1)　第５学年における必修科目に未修得科目がない者

(2)　特別活動を５分の４以上出席した者

(3)　前号においては、公欠を含むものとする。

（出典：平成 25 年度学生便覧）

資料５－４－①－３（１／３）

成績評価基準・単位認定関する規定

久留米工業高等専門学校における学業成績の評価並びに単位の
認定及び及落に関する規程

（平成１８年２月２日制定）

第１章　　総　　論

（目的）

第１条　この規程は、久留米工業高等専門学校学則第１４条第２項の規定に基づき、学業成績評価及び学年課程の修了又は卒業の認定等に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

第２章　　受講及び履修

第２条　当該学年の受講及び履修は、学則第１３条に定める教育課程表（以下「教育課程表」という）に基づき必修科目及び選択科目を受講履修する。

２　選択科目の受講については、予め校長に選択科目履修届を提出し受講するものとする。

３　各科目とも開講時数の５分の４以上出席した者は、履修と認める。ただし、授業担当教員が履修上、特別の事情があると判断した場合は履修を認めないことができる。

４　遅刻及び早退は３回をもって欠課１回とする。

第３条　授業に遅刻、早退又は欠席した（する）者で、その理由が次の各号の一に該当すると校長が認めた者については、受講と認める。

(1)　忌引きの場合
(2)　出席停止（懲戒を除く）の場合
(3)　公共交通機関障害による場合
(4)　学校行事へ参加した場合
(5)　校長が認めた行事へ学校代表として参加した場合
(6)　その他やむを得ない事情と校長が認めた場合

第４条　前条の規定により授業に遅刻、早退又は欠席した場合は、補講を受けることができる。

第３章　試　験

第５条　試験は、定期試験によるものの他随時に行うことができる。

第６条　定期試験は、前期中間試験、前期末試験、後期中間試験及び後期末試験とする。

第７条　定期試験は、該当科目の授業計画書（以下「シラバス」という。）に従って実施するものとする。

第８条　第３条に規定する事由もしくは疾病により定期試験を受験することができなかった者で、本人の願い出により校長が認めた場合は追試験を受けることができる。

２　疾病を理由に追試験の願い出を提出する場合は、原則として医師の診断書を添付するものとする。

資料５－４－①－３（２／３）

第９条　第３条の事由に基づく追試験の成績は、１００％を限度とする。
２　出席停止（懲戒を除く）とならない疾病による追試験の成績は、８０％を限度とする。
第１０条　追試験の願い出は、別に定める様式とする。
第１１条　試験中不正行為を行った者の当該試験期間中の試験成績は０点とし、不正行為後の当該試験期間中の受験は認めないものとする。なお、第８条の適用は認めない。
２　前項以外の理由で停学を受け、試験を受けられなかった者の停学期間中の試験成績は０点とする。

第４章　成績の評価

第１２条　第２条の規定により履修と認められた者については、定期試験及び適宜行う試験の成績並びに平素の学習成績を総合評価して行うものとする。
第１３条　成績の評価は、該当科目のシラバスに従って実施し、その評価及び報告は１００点法で行うものとする。
第１４条　学年末成績順位は、必修科目の単位加重平均により算出する。
第１５条　学年末成績の評価は、次の４段階（A、B、C及びD）で評価する。
A　１００点以下８０点以上
B　７９点以下７０点以上
C　６９点以下６０点以上
D　５９点以下

第５章　単位の修得

第１６条　成績の評価が６０点以上で当該科目担当教員が単位を認定した科目について、単位の修得を認める。

第６章　学年課程の修了

第１７条　学年課程の修了は、次に掲げる基準の全てに該当する者に対し、及落査定会議又は卒業査定会議の議を経て校長が当該学年課程の修了を認める。
(1)　学則における当該学年の当該年度に修得すべき単位を全て修得した者
(2)　特別活動を５分の４以上出席した者
なお、第３条の規定を準用する。
(3)　学年課程の修了に際しては、他の高等専門学校及び他学科で取得した単位のうち及落査定会議又は卒業査定会議で修得と認められた単位を卒業時までに３０単位を超えない範囲で本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

第７章　進　級

第１８条　進級は、第１学年から第４学年に在籍する者で第１７条の規定により学年課程の修了をした者について、及落査定会議の儀を経て校長が次の学年への進級を認める。

資料５－４－①－３（３／３）

第８章 卒　業

第１９条　卒業は、第５学年に在籍する者で第１７条の規定により当該学科の課程を修了し所定の単位を修得した者について、卒業査定会議の議を経て校長が卒業を認める。

第９章　原級留置

第２０条　第１７条の規定により学年修了を認められなかった者は、すべて原級に留める。

第２１条　原級に留められた者は、原則として入学年度の当該学年の教育課程表に示す学年課程の修了に必要な科目を再履修するものとする。

２　休学の場合を除き、同一学年に２回を超えて留まることはできない。

附　則

１　この規程は、平成１８年２月２日に制定し、平成１８年３月３１日までを試行期間とし、平成１８年４月１日から施行する。

２　試行期間中に改正すべき事由が生じた場合には、施行日までに改正を行う。

３　ただし、平成１６年度以前の在学生については、当該在学生が卒業するまでの間、原級者の再履修に関する教育課程表は、個別に再編成するものとする。

４　平成１４年４月１日施行「久留米工業高等専門学校学業の単位の認定及び学年進級等に関する規程」第１０条に定める平成１６年度以前入学者の仮進級者に関する取扱いについては、同規程の廃止にかかわらず次のとおりとする。

(1)　平成１６年度までに仮進級した者に対しては、以下の特例を設ける。

ア　平成１６年度末において未修得科目については、すべて再試験とする。

イ　再試験の時期、回数は問わないものとする。

ウ　前項における再試験には、実技、実験、実習、レポート等の再評価を含むものとする。

(2)　平成１７年度末において、第２学年から第４学年に在籍し、前学年までにおける必修科目の未修得がある者で、次の各号を全て満足した者については、仮進級を認めることがある。

ア　当該学年における必修科目の未修得単位がない者

イ　特別活動を５分の４以上出席した者

なお、新規程第３条の規定を準用する。

(3)　前学年までにおける未修得科目は、第５学年修了までに修得するものとする。

５　久留米工業高等専門学校学業の単位の認定及び学年進級等に関する規程（平成１４年４月１日施行）は、この規程制定の日から廃止する。

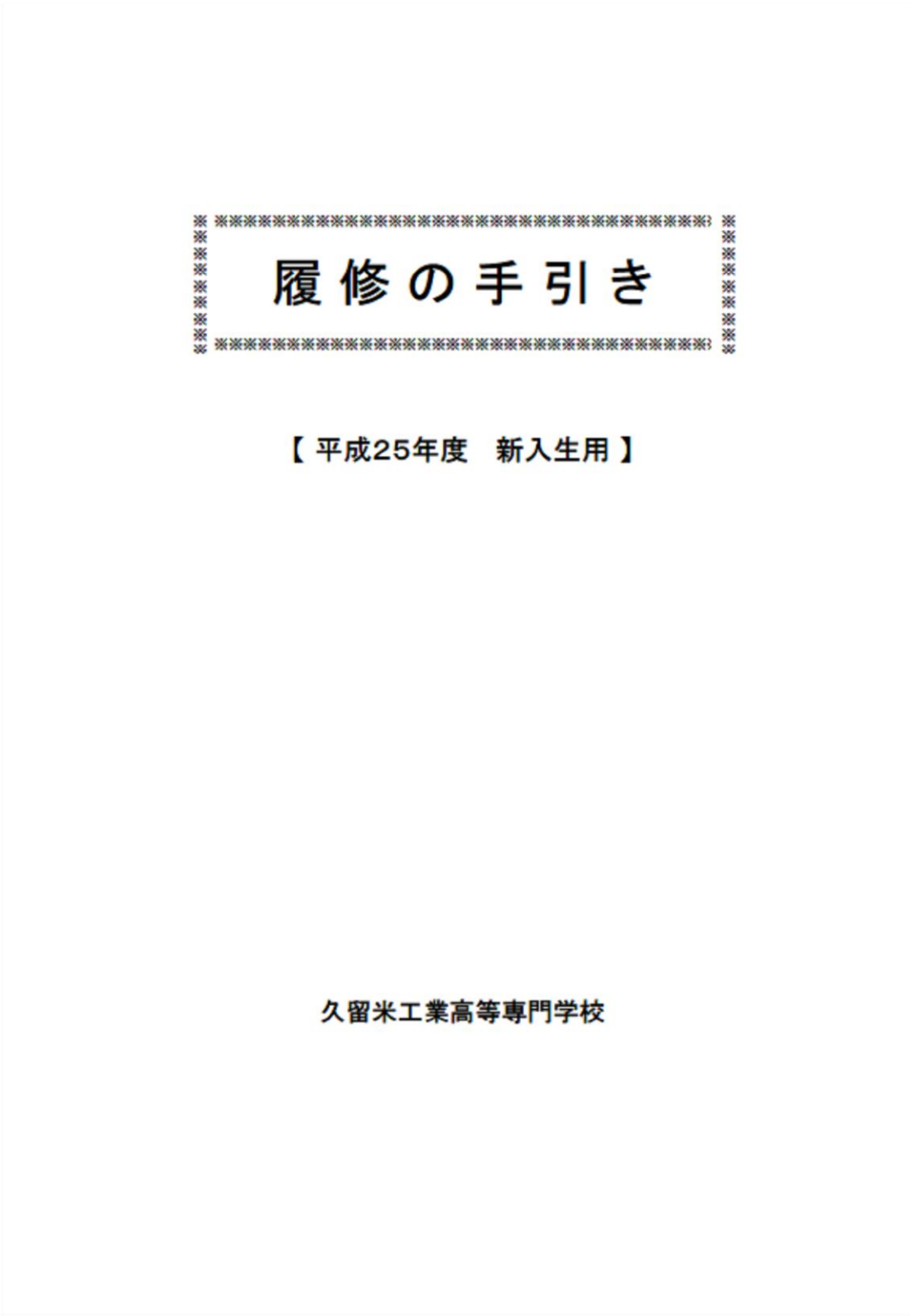
附　則

この規程は、平成２１年４月１日から施行する。

（出典：久留米高専規則集第６章「学生」）

資料５－４－①－４

成績評価・単位認定規定、進級・卒業認定規定の新入生への周知



履修の手引き

【 平成25年度　新入生用 】

久留米工業高等専門学校

（出典：平成 25 年度入学オリエンテーション資料　新入生用履修の手引き）

資料５－４－①－５

及落査定会議規則

久留米工業高等専門学校及落査定会議規則

（平成１８年１月１２日制定）

（設置）

第１条　本校に、学生の及落査定に関する事項を審議するため、久留米工業高等専門学校及落査定会議（以下「及落査定会議」という。）を置く。

（組織）

第２条　及落査定会議は、本校の教授、准教授、講師（常時勤務する者に限る。）、助教、事務部長及び学生課長をもって組織する。

２　校長が必要と認めた場合は、その他の者を出席又は列席させることができる。

（運営）

第３条　校長は、及落査定会議を招集し、その議長となる。

２　議長に事故があるときは、教務主事がその職務を代行する。

（審議事項）

第４条　及落査定会議は、学生の及落に関する事項を審議する。

（事務）

第５条　及落査定会議の事務は、学生課教務係において処理する。

附　則

１　この規則は、平成１８年　１月１２日から施行する。

２　久留米工業高等専門学校進級査定委員会規則（平成１３年４月１日制定）は、この規則制定の日から廃止する。

附　則

この規則は、平成１９年　４月　１日から施行する。

附　則

この規則は、平成２４年　３月１４日から施行する。

（出典：久留米高専規則集第２章「会議・委員会」）

資料５－４－①－６

全教員による及落査定会議

平成２４年度　及落査定会議案内文書

平成２５年２月２５日

教　員　各　位

校　　長

平成２４年度 本科１～４年及落査定会議の開催について（通知）

標記のことについて、下記のとおり開催しますので、ご出席くださるようお知らせします。

なお、欠席される方は事前に教務係へ連絡してください。

記

１　日　　時　　平成２５年３月１９日（火）１３時３０分から

２　場　　所　　大会議室

３　議　　題

(1)　平成２４年度 本科１～４年及落査定について

（出典：平成 24 年度学生課起案文書）

資料５－４－①－７

全教員による卒業査定会議

平成２４年度　卒業査定会議案内文書

平成２５年２月２５日

教　員　各　位

校　　長

平成２４年度　本科５年卒業査定会議の開催について（通知）

標記のことについて、下記のとおり開催しますので、ご出席くださるようお知らせします。

なお、欠席される方は事前に教務係へ連絡してください。

記

１　日　　時　　平成２５年３月８日（金）１３時３０分から

２　場　　所　　大会議室

３　議　　題

(1)　平成２４年度 本科５年卒業査定について

（出典：平成 24 年度学生課起案文書）

＜専攻科課程＞

観点５－５－①：　教育の目的に照らして、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。

（観点に係る状況）

専攻科課程の教育目的は、（１）先端技術及び高度情報化に対応できる技術者の育成、（２）創造的研究開発能力の育成、（３）国際化に対応できる技術者の育成の３つである。これらの教育目的のもと、急速な科学技術の進展や国際化に対応するために、工学の基礎に重点を置いた技術者教育が必要であるとの考えから、一般科目、専門基礎科目、専門科目の３つの柱で構成されている（資料５－５－①－１）。一般科目では、準学士課程の一般基礎・教養教育の上に、コミュニケーション能力、技術者倫理、知的財産およびエンジニアリングデザインに関する科目を配置している。専門基礎科目では、準学士課程の数学、物理および情報処理教育の上に、応用数理、現代物理学および情報処理の応用に関する科目を配置している。専門科目では、準学士課程で習得した専門科目を基礎に、さらに深い専門性を習得させるとともに、創造性を育む創造工学実験、先端的な技術を学ぶ先端工学特論および実務者能力を育む専攻科インターンシップなどを配置している（資料５－５－①－２～資料５－５－①－３）。また準学士課程の４年次（一部 3 年次）以降及び専攻科課程からなる各学科に対応した５つの JABEE 技術者教育プログラムにより、準学士課程からの連携・発展を考慮した教育課程を編成している。

（分析結果とその根拠理由）　専攻科では、教育の目的に照らして、準学士課程の教育との連携、および準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっている。その理由は、資料５－５－①－１～資料５－５－①－３に示すように、専攻科の教育課程は準学士課程の教育との連携や発展を考慮しているからである。

資料５－５－①―１　専攻科授業科目一覧　(1/3)

1. 専攻科の授業科目一覧

（1）一般科目及び専門基礎科目（JABEEプログラム各コース共通）

（注）2年後期の講義はすべて集中講義

授業科目			授業形態	単位数	学期別配当 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	備考
一般科目	必修	実践英語Ⅰ	演習	1	1				
		実践英語Ⅱ	演習	1		1			
		実践英語Ⅲ	演習	2			2		
		環境倫理学	講義	2		2			
		産業デザイン演習	演習	2	2				
		工学倫理	講義	2			2		
	一般科目必修単位計			10	3	3	4		
	選択	産業財産権特論	講義	2	2				4単位以内
		専攻科特論一般Ⅰ	講義又は演習	2		2			
		専攻科特論一般Ⅱ	講義又は演習	2				2	
	一般科目選択単位計			6	2	2		2	
専門基礎科目	必修	地球環境と現代生物学	講義	2	2				
		現代物理学	講義	2	2				
		応用情報処理演習	演習	2		2			
	専門基礎科目必修単位小計			6	4	2			
	選択	応用数理Ⅰ	講義	2	2				10単位以上修得
		応用数理Ⅱ	講義	2		2			
		応用数理Ⅲ	講義	2			2		
		量子力学	講義	2		2			
		物性化学	講義	2	2				
		画像工学	講義	2		2			
		応用情報処理	講義	2		2			
		統計力学及び熱力学	講義	2				2	
		専攻科特論専門Ⅰ	講義	2				2	4単位以内
		専攻科特論専門Ⅱ	講義	2				2	
	専門基礎科目選択開設単位小計			20	4	8	2	6	
	専門基礎科目開設単位計			26	8	10	2	6	
一般科目、専門基礎科目開設単位合計				42	13	15	6	8	

（出典：専攻科シラバス）

資料５－５－①―１　教育目標と科目の対応表　(2/3)

(2) 機械･電気システム工学専攻

授業科目			授業形態	単位数	学期別配当 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	備考		
専門科目	必修	創造工学実験	実験	2	2						
		技術英語	演習	1			1				
		先端工学特論	演習	1		1					
		専攻科研究論文	実験	10	1	2	7		学位申請等論文		
		専攻科インターンシップ	実習	7				7			
		専門科目必修単位小計		21	3	3	8	7			
	選択	弾塑性力学	講義	2	2				A	*	*
		破壊力学	講義	2		2			A	*	*
		応用流動工学	講義	2		2			A	*	*
		生産加工学	講義	2			2		A	*	*
		移動現象論	講義	2		2			A	*	*
		計算力学	講義	2			2		A	S	*
		設計システム工学	講義	2		2			A	*	E
		メカトロニクス工学	講義	2			2		A	S	E
		システム制御工学	講義	2		2			A	S	E
		デジタル制御	講義	2	2				A	S	E
		コンピュータグラフィックス	講義	2			2		*	S	*
		パターン認識	講義	2			2		*	S	*
		形式言語とオートマトン	講義	2	2				*	S	E
		データベース	講義	2		2			*	S	*
		応用電磁気学	講義	2		2			*	S	E
		光エレクトロニクス	講義	2			2		*	*	E
		集積回路工学	講義	2		2			*	*	E
		デジタル信号処理	講義	2	2				*	S	E
		プラズマ工学	講義	2			2		*	*	E
		機械工学特論	講義	2	2				集中講義		
		電気電子工学特論	講義	2	2				集中講義		
		制御情報工学特論	講義	2	2				集中講義		
		専門科目選択開設単位小計		44	12	18	14	0	A,S,Eの各区分26単位から12単位以上,修得のこと。		
	専門科目開設単位計			65	15	21	22	7			
全開設単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む)				107	30	34	28	15			
全科目修得単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む)				65単位以上							
全開設単位合計(機械工学系)				89	28	26	20	15	備考欄の＊は他専攻扱いの科目(4単位以内)		
全開設単位合計(制御情報系)				89	28	24	22	15			
全開設単位合計(電気電子系)				89	28	26	20	15			

※ Aは機械工学系，Sは制御情報系，Eは電気電子系の履修科目を示す。

（出典：Ｈ２５年度ガイダンス資料）

資料５－５－①―１　教育目標と科目の対応表　(3/3)

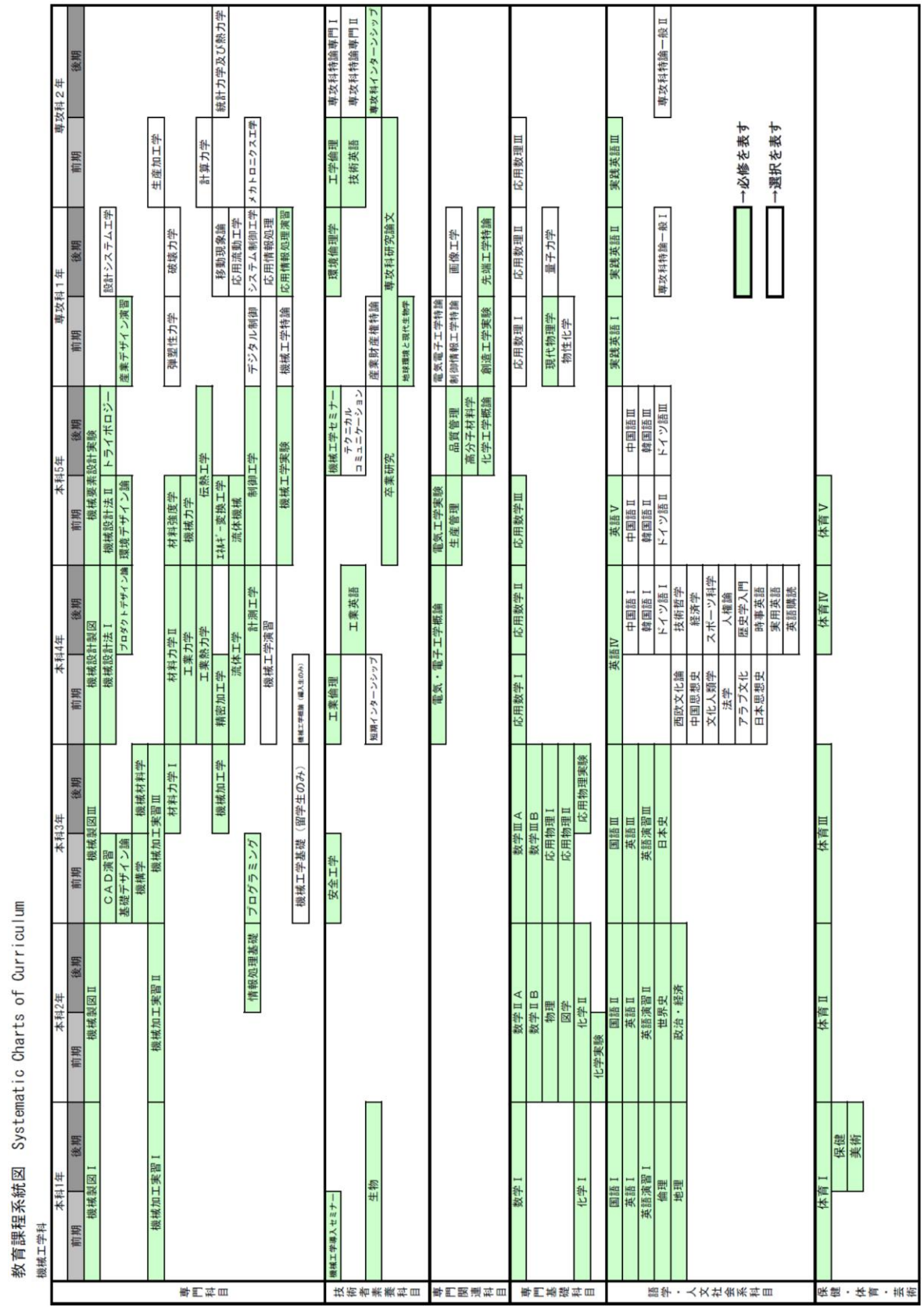
(3) 物 質 工 学 専 攻

授業科目			授業形態	単位数	学期別配当 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	備考	
専門科目	必修	創造工学実験	実験	2	2					
		技術英語	演習	1			1			
		先端工学特論	演習	1		1				
		専攻科研究論文	実験	10	1	2	7		学位申請等論文	
		専攻科インターンシップ	実習	7				7		
		専門科目必修単位小計		21	3	3	8	7		
	選択	有機反応化学	講義	2	2				C	*
		有機構造化学	講義	2			2		C	*
		生体機能分子学	講義	2		2			C	*
		生体物質化学	講義	2	2				C	*
		化学工学特論	講義	2			2		C	*
		機能有機材料特論	講義	2		2			C	*
		分子生物学	講義	2			2		C	*
		高分子材料特論	講義	2		2			C	M
		応用物理化学	講義	2			2		C	M
		機能性無機材料学	講義	2	2				C	M
		半導体材料	講義	2	2				*	M
		材料組織制御	講義	2			2		*	M
		構造材料学	講義	2		2			*	M
		腐食防食工学	講義	2		2			*	M
		材料強度学	講義	2		2			*	M
		表面処理工学	講義	2		2			*	M
		高温強度学	講義	2			2		*	M
		生物応用化学特論	講義	2	2				集中講義	
		材料工学特論	講義	2	2				集中講義	
		専門科目選択開設単位小計		38	12	14	12	0	Cの区分26単位,Mの区分22単位から12単位以上修得のこと	
	専門科目開設単位計			59	15	17	20	7		
全開設単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む)				99	30	26	26	17		
全科目修得単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む)				65単位以上						

※ Cは生物応用化学系，Mは材料工学系の履修科目を示す。

（出典：Ｈ２５年度ガイダンス資料）

資料５－５－①―2　準学士課程と専攻科課程の科目関連図（例）



（出典：機械工学科シラバス）

資料５－５－①―３　教育目標と科目の対応表

専攻科の教育目的/教育目標に対応した授業科目

教育目的/教育目標	一般科目/専門基礎科目/専門科目	必修/選択	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻
工学の基礎科目	専門基礎科目	必修	地球環境と現代生物学	地球環境と現代生物学
			現代物理学	現代物理学
		選択	応用数理Ⅰ	応用数理Ⅰ
			応用数理Ⅱ	応用数理Ⅱ
			応用数理Ⅲ	応用数理Ⅲ
			量子力学	量子力学
			統計力学及び熱力学	統計力学及び熱力学
			物性化学	物性化学
先端技術、高度情報化に対応する科目	専門基礎科目	必修	応用情報処理演習	応用情報処理演習
		選択	応用情報処理	応用情報処理
			画像工学	画像工学
	専門科目	必修	先端工学特論	先端工学特論
		選択科目	弾塑性力学	有機反応化学
			破壊力学	有機構造化学
			応用流動工学	生体機能分子学
			生産加工学	生体物質化学
			移動現象論	化学工学特論
			計算力学	機能有機材料特論
			設計システム工学	分子生物学
			メカトロニクス工学	高分子材料特論
			システム制御工学	応用物理化学
			デジタル制御	機能性無機材料学
			コンピュータグラフィックス	半導体材料
			パターン認識	材料組織制御
			形式言語とオートマトン	構造材料学
			データベース	腐食防食工学
			応用電磁気学	材料強度学
			光エレクトロニクス	表面処理工学
			集積回路工学	高温強度学
			デジタル信号処理	
			プラズマ工学	
国際化に対応する科目	一般科目	必須	実践英語Ⅰ	実践英語Ⅰ
			実践英語Ⅱ	実践英語Ⅱ
			実践英語Ⅲ	実践英語Ⅲ
			環境倫理学	環境倫理学
			工学倫理	工学倫理
		選択	産業財産権特論	産業財産権特論
	専門科目	必修	技術英語	技術英語
創造的研究能力の育成に関する科目	一般科目	必修	産業デザイン演習	産業デザイン演習
	専門科目		創造工学実験	創造工学実験
			専攻科研究論文	専攻科研究論文
総合科目	専門科目	必修	専攻科インターンシップ	専攻科インターンシップ

（出典：専攻科主事室資料）

観点５－５－②：　教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点に係る状況）　専攻科では、専攻科課程の教育目的のもと、各学科に対応したJABEE技術者教育プログラムの学習・教育目標を、JABEEプログラム各コースの教育目標として設定している（資料５－５－②－１）。授業科目は、この教育目標を達成できるように適切に配置されており、また、一般科目・専門基礎科目・専門科目のバランス、講義・演習・実験実習のバランスおよび学年配当のバランスにも配慮し、教育課程が体系的に編成されている（前掲資料５－５－①－１）。

授業の内容は、上記のように編成された教育課程の編成の趣旨に沿って、専攻科課程の教育目的を達成し、JABEEプログラム各コースの専攻科課程の修了時に身につけるべき能力の各項目のいずれかに沿うものとなっている（前掲資料５－５－①－２～前掲資料５－５－①－３、資料５－５－②－２）。

（分析結果とその根拠理由）　専攻科では、教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されている。その理由は、資料５－５－①－１に示すように、教育課程が体系的に編成されているからである。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっている。その理由は、前掲資料５－５－①－２～前掲資料５－５－①－３および資料５－５－②－２の例に示すように、授業の内容は、専攻科課程の教育目的を達成し、JABEEプログラム各コースの専攻科課程の修了時に身につけるべき能力の各項目のいずれかに沿うものとなっているからである。

資料５－５－②－１　久留米高専の教育目的及び教育目標

久留米高専の教育目的及び教育目標

１．教育理念

自立の精神と創造性に富み，広い視野と豊かな心を兼ね備えた，社会に貢献できる技術者の育成

２．準学士（本科）課程

◇教育目的

次のような実践的，創造的技術者を育成する。

(1) 自立の精神と創造性に富んだ技術者
(2) 広い視野と豊かな心を兼ね備えた技術者
(3) 社会に貢献できる技術者

◇教育目標

(1) 広い視野と豊かな心の涵養
(2) 数学，自然科学，情報処理に関する基礎能力の育成
(3) 専門に関する基礎知識と技術の修得
(4) 問題を分析し，解決する能力の育成
(5) 自ら学び，工夫する能力の育成
(6) コミュニケーション能力の育成

３．専攻科課程

◇教育目的

次のような実践的，創造的技術者を育成する。

(1) 先端技術及び高度情報化に対応できる技術者
(2) 創造的研究開発能力を持った技術者
(3) 国際化に対応できる技術者

◇教育目標

専攻科課程の教育目標は，各学科に対応したJABEE技術者教育プログラムの学習・教育目標とする。

（出典：学生便覧）

資料５－５－②－２　専攻科シラバス例

平成25年度　シラバス　授業計画

地球環境と現代生物学

【Global Environment and Modern Biology】

1年機械・電気システム工学専攻 機械工学コース

担当教員名	中武　靖仁、萩原　義徳	シラバスコード	6A07
科目情報	前期 専門基礎 必修 講義 2単位	授業時数	30
授業の目的	人間の社会活動で生じた化石燃料の大量消費は酸性雨や大気汚染をもたらし、森林破壊や砂漠化を加速させた。またフロンなど新規化学物質の氾濫も相まって、オゾン層の破壊や温暖化など地球レベルでの環境破壊を引き起こしている。本授業では、地球環境問題の実態を理解するとともに、その原因と対策について、クリーンエネルギーやバイオテクノロジーなどの新技術の観点から学ぶ。		
到達目標	１．地球環境問題の現状を理解し、その対策を考えることができる。 ２．環境修復や環境維持のためのバイオテクノロジーやクリーンエネルギーの役割が理解できる。 ３．産業や社会へどのように応用されているかを地球規模の観点から理解できる。	JABEE プログラム目標	A-2
評価方法	前半50%（課題演習25%＋試験25%）と後半50%（定期試験）の合計100%として評価する。 再試験を必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を合格とする。		
授業の進め方と履修上の注意	講義を中心に行う。 地球環境をテーマとして生物学的視点から講義するため、それらの基礎知識を必要とする。 専門学科以外の学生に対して細部の理解は求めないが、概念的に捉えて欲しい。 1-8 ：担当中武 9-15：担当萩原		
テキストおよび参考図書	教科書：単元毎に作成したプリントを使用する。 参考図書：今井利信・廣瀬良樹著「環境・エネルギー・健康20講」（化学同人） 早川豊彦・種茂豊一監修「環境工学の基礎」（実教出版） 秋元肇他編「対流圏大気の化学と地球環境」（学会出版センター）		

	学習内容
1	地球環境問題（環境問題とエネルギー問題、持続可能な社会）
2	エネルギー資源、化石エネルギー（火力発電）
3	原子力エネルギー
4	放射線と環境
5	太陽エネルギー（太陽光発電、太陽熱発電）
6	水力、風力エネルギー（水力発電、風力発電）
7	化学エネルギー（燃料電池、バイオマス）
8	前半のまとめ
9	ダイオキシンと環境ホルモン
10	水資源と物質循環
11	海洋環境の破壊（富栄養化と赤潮の発生）
12	土壌環境の破壊（土壌や地下水の汚染）
13	バイオテクノロジーⅠ（極限環境微生物）
14	バイオテクノロジーⅡ（遺伝子操作）
15	バイオテクノロジーⅢ（細胞工学技術）

（出典：専攻科シラバス）

観点５－５－③：　教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）　専攻科では、他の高等教育機関での単位取得について、放送大学をはじめ、九州沖縄地区 9 国立高専間における単位互換に関する協定による各専門特論（サマーレクチャー）（資料５－５－③－１、資料５－５－③－２）、久留米市大学等間単位互換に関する協定で単位互換履修生として講義を受講できる（資料５－５－③－３、資料５－５－③－４）。また久留米市単位互換協定大学による共同講義も開催されている（資料５－５－③－５）。このような制度を活かして本校の単位として認めることができるよう規定が定められている。（資料５－５－③－６）。また、産学民連携推進センターのフォーラム、近隣大学・研究所などで開催される学術講演会、放送大学特別講義などから工業・学問の最新情報を習得できる先端工学特論が開設されている（資料５－５－③－７）。また、専攻科修了生に対してアンケート調査を実施するとともに（資料５－５－③－８）、専攻科インターンシップでは受け入れ先の評定書を導入し社会からの要請の把握の工夫をしている（資料５－５－③－９）。

以上のように、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等に対しては、準学士課程と同様の取組みに加えて、専攻科独自の取組みを行い、これらに配慮した教育課程の編成および授業科目の内容となっている。

（分析結果とその根拠理由）　専攻科の教育課程の編成又は授業科目の内容は、学生の多様なニーズ、学術発展の動向、社会からの要請等に配慮している。その理由は、教育課程の編成や授業内容について、資料５－５－③－１～資料５－５－③－６に示すように学生の多様なニーズを満たし、資料５－５－③－７に示すように学術発展の動向、資料５－５－③－８～資料５－５－③－９にも挙げたような更なる学生のニーズや社会からの要請等にも配慮しているからである。

資料５－５－③―１　サマーレクチャーの開講実績

サマーレクチャー年度別開催状況

年度	開催校	テーマ	期間	開催状況
24	久留米工業高等専門学校	マルチメディア表現と技術	平成 24 年 8 月 6 日～10 日	11 名（久留米 10、佐世保 1）
23	〃	ものづくりの現場から	平成 23 年 8 月 22 日～26 日	15 名（久留米 13、佐世保 2）
22	〃	最新の計測技術とセンシング応用	平成 22 年 7 月 26 日～30 日	
〃	熊本高等専門学校(八代 C)	初心者のための 3D･CAD/CAE 講座	平成 22 年 8 月 17 日～20 日	

（出典：教務係資料）

資料５－５－③－２　九州沖縄地区９国立高等専門学校間における単位互換に関する協定

九州沖縄地区９国立工業高等専門学校間における

単位互換に関する協定書

九州地区の９国立工業高等専門学校（以下「高専」という。）相互間の交流を通じ、教育研究交流促進の一環として学生の学習環境の充実を図るとともに、学生の幅広い視野の育成と学習意欲の向上を支援するため、次により単位互換を行う。

（参加高専）

第１　この協定に参加する高専は、次のとおりとする。

（１）　久留米工業高等専門学校
（２）　有明工業高等専門学校
（３）　北九州工業高等専門学校
（４）　佐世保工業高等専門学校
（５）　熊本電波工業高等専門学校
（６）　八代工業高等専門学校
（７）　大分工業高等専門学校
（８）　都城工業高等専門学校
（９）　鹿児島工業高等専門学校

（受入れ）

第２　この協定により受入れる学生の身分は、特別聴講学生と称する。

第３　入学を希望する学生は、所属する高専の校長の承認を得たうえ、特別聴講学生入学願書を所定の期日までに所属する高専に提出しなければならない。

第４　第３の書類を受理した高専は、受入れ高専に、特別聴講学生として入学の許可を求める。

第５　受入れる学生数、受入れ手続きは、受入れ高専で決める。

（成績評価）

第６　成績の評価については、受入れ高専で定める評価基準によるものとする。

第７　受入れ高専において取得した単位は、各高専の定めるところにより各高専の単位として認めることができる。

（授業料等）

第８　特別聴講学生の検定料、入学料及び授業料は、相互に不徴収とする。

（出典：総務課資料）

資料５－５－③－３　久留米市内大学等単位互換に関する協定書

久留米市内大学等単位互換に関する協定書

久留米市内大学等単位互換協定に参加する大学等（以下「協定校」という。）　は、相互の協力交流を通じさらなる教育課程の充実を図るとともに、学生の幅広い視野の育成と学習意欲の向上をめざし、さらには、久留米市の「大学等の姿が見えるまちづくり」ひいては「学術研究都市づくり」に寄与することを目的として、大学設置基準第２８条第１項、短期大学設置基準第１４条第１項及び高等専門学校設置基準第２０条第１項にもとづく単位互換を行うことに関して、次の事項について合意に達したので、ここに協定書を取り交わす。

（受入れ）

第１条　この協定に参加する協定校の学生が、他の協定校の定める授業科目を履修し（以下「科目履修」という。）単位の修得を希望するときは、受入れを行う協定校は、教育研究上支障のない限り、当該学生を受入れる。

（受入れ学生の呼称）

第２条　この協定により受入れる学生は「単位互換履修生」と称する。

（履修期間）

第３条　履修期間は一年以内とし、単位互換履修生が履修する授業科目の開講年度又は開講学期の間とする。

（授業科目の範囲、単位数、受入れ学生数及び受入れ条件）

第４条　単位互換履修生として履修できる授業科目の範囲、修得できる単位数、受入れ学生数及び受入れ条件については、受入れ協定校の定めるところによる。

２　受入れ協定校は、前項の履修できる授業科目の範囲等を決定し、所定の時期までに他の協定校に通知する。

（出願手続）

第５条　単位互換履修生として科目履修を希望する学生は、所属する協定校を経由して、受入れ協

（出典：総務課資料）

資料５－５－③－４　久留米大学との単位互換履修の例　(1/3)

２０１２（平成２４）年度　単位互換履修生・科目履修出願一覧

（ 所属校 → 受入れ校 ）

受入れ校	久留米大学

所　属　校 （ 出 願 校 ）	久留米工業高等専門学校	平成２４年　４月１８日　　No. 1	
No.	学部・学年	学籍番号・学生氏名	出願科目名	担当教員名
1	<学部> 機械・電気システム工学専攻 <学年> ２年	<学籍番号> （略） <学生氏名> （略）	英米の文化と宗教	三ノ上　芳一
2	<学部> 機械・電気システム工学専攻 <学年> １年	<学籍番号> （略） <学生氏名> （略）	基礎経済数学Ⅰ(A)(b)	秋本　耕二
3	<学部> 機械・電気システム工学専攻 <学年> １年	<学籍番号> （略） <学生氏名> （略）	基礎経済数学Ⅰ(A)(b)	秋本　耕二
4	<学部> 機械・電気システム工学専攻 <学年> １年	<学籍番号> （略） <学生氏名> （略）	基礎経済数学Ⅰ(A)(b)	秋本　耕二
5	<学部> 機械・電気システム工学専攻 <学年> １年	<学籍番号> （略） <学生氏名> （略）	基礎経済数学Ⅰ(A)(b)	秋本　耕二
6	<学部> 機械・電気システム工学専攻 <学年> １年	<学籍番号> （略） <学生氏名> （略）	基礎経済数学Ⅰ(A)(b)	秋本　耕二

（出典：総務課資料）

資料５－５－③－４　久留米大学との単位互換履修の例　(2/3)

平成２４年　４月１８日　　No. ２

No.	学部・学年	学籍番号・学生氏名	出願科目名	担当教員名
7	〈学部〉 物質工学専攻 〈学年〉 １年	〈学籍番号〉 （略） 〈学生氏名〉 （略）	国際政治史Ａ 西洋経済史Ⅰ	小竹　一彰 宮松　浩憲
8	〈学部〉 物質工学専攻 〈学年〉 １年	〈学籍番号〉 （略） 〈学生氏名〉 （略）	国際政治史Ａ 西洋経済史Ⅰ	小竹　一彰 宮松　浩憲
9	〈学部〉 物質工学専攻 〈学年〉 １年	〈学籍番号〉 （略） 〈学生氏名〉 （略）	国際政治史Ａ 西洋経済史Ⅰ	小竹　一彰 宮松　浩憲
10	〈学部〉 物質工学専攻 〈学年〉 １年	〈学籍番号〉 （略） 〈学生氏名〉 （略）	国際政治史Ａ 西洋経済史Ⅰ	小竹　一彰 宮松　浩憲
11	〈学部〉 物質工学専攻 〈学年〉 １年	〈学籍番号〉 （略） 〈学生氏名〉 （略）	国際政治史Ａ 西洋経済史Ⅰ	小竹　一彰 宮松　浩憲
12	〈学部〉 物質工学専攻 〈学年〉 １年	〈学籍番号〉 （略） 〈学生氏名〉 （略）	国際政治史Ａ 西洋経済史Ⅰ	小竹　一彰 宮松　浩憲

（出典：総務課資料）

資料５－５－③－４　久留米大学との単位互換履修の例　(3/3)

２０１２（平成２４）年度　単位互換履修生・科目履修出願一覧

（ 所属校 → 受入れ校 ）

受入れ校	久留米大学

所　属　校 （ 出 願 校 ）	久留米工業高等専門学校	平成２４年　９月２８日　　No. 1

No.	学部・学年	学籍番号・学生氏名	出願科目名	担当教員名
1	<学部> 機械・電気システム工学専攻 <学年> １年	<学籍番号> （略） <学生氏名> （略）	基礎経済数学Ⅱ(B)(b)	秋本　耕二
2	<学部> 機械・電気システム工学専攻 <学年> １年	<学籍番号> （略） <学生氏名> （略）	基礎経済数学Ⅱ(B)(b)	秋本　耕二
3	<学部> 機械・電気システム工学専攻 <学年> １年	<学籍番号> （略） <学生氏名> （略）	基礎経済数学Ⅱ(B)(b)	秋本　耕二
4	<学部> 機械・電気システム工学専攻 <学年> １年	<学籍番号> （略） <学生氏名> （略）	基礎経済数学Ⅱ(B)(b)	秋本　耕二
5	<学部> 機械・電気システム工学専攻 <学年> １年	<学籍番号> （略） <学生氏名> （略）	基礎経済数学Ⅱ(B)(b)	秋本　耕二

上記のとおり、本校学生が貴学の単位互換履修生として科目履修出願をしておりますので、
ご審議願います。

平成２４年　９月２８日

久留米工業高等専門学校長　　上　田　　孝

（出典：総務課資料）

資料５－５－③－５　共同講義の実施

「共同講義」開講のお知らせ

テーマ「久留米の生活と環境」

久留米市では、市内にある５つの大学等が単位互換協定を締結したことにより、毎年多数の科目が公開され、学生の皆さんが他の大学等の講義を履修した場合に、所属する大学等の単位として認定ができるようになりました。

この単位互換の一環として、単位互換協定に参加している５つの大学等と久留米市とが連携して、毎年一つのテーマを設定し、各校の個性や特色を活かした講座を開講する「共同講義」を実施しています。

今年度は、「久留米の生活と環境」をテーマに、市民公開の共同講義として以下のように開講します。様々な視点から学ぶことができる貴重な機会ですので、意欲と関心のある学生・市民の皆様の多数の参加をお待ちしています。

日時 2012年10月9日～12月21日 18:30～20:00　**定員６０名**（定員になり次第締め切り）

会場 くるめりあ六ツ門６Ｆ　サテライト・キャンパス

主催 高等教育コンソーシアム久留米　**共催** 久留米学術研究都市づくり推進協議会

開催日	講師	演題
10月9日（火）	藤田　八暉（久留米大学 経済学部　教授）	地球環境問題と温暖化防止対策
10月12日（金）	笈木　宏和（久留米工業高等専門学校 生物応用化学科准教授）	微生物を用いた環境浄化
10月16日（火）	岡部　千鶴（久留米信愛女学院短期大学 ビジネスキャリア学科教授）	久留米市の女性を取り巻く生活環境
10月19日（金）	生地　暢（久留米信愛女学院短期大学 フードデザイン学科講師）	『里海』の環境とその保全
10月23日（火）	梅野　博司（久留米市環境部 環境保全課　課長補佐）	データから見る久留米市の環境の現状
10月26日（金）	伊佐　淳（久留米大学 経済学部　教授）	まちづくり（地域づくり）とNPO、社会的企業 ―事例から読み解く―
10月30日（火）	三原　信彦（久留米信愛女学院短期大学 幼児教育学科　講師）	『アート』と『表現』の意味
11月6日（火）	世利　洋介（久留米大学 経済学部　教授）	久留米地域の広域自立圏のあり方　―「地の利」を引き出すために―

開催日	講師	演題
11月13日（火）	中尾　哲也（久留米工業高等専門学校 機械工学科准教授）	スマート化技術とその展望
11月16日（金）	井出　純哉（久留米工業大学 教育創造工学科准教授）	生き物の変化で見る身近な自然現象の変遷
11月20日（火）	井上　利明（久留米工業大学 機械システム工学科教授）	日常生活から学ぶ不思議な現象の科学実験
11月27日（火）	濱野　香苗（聖マリア学院大学 基盤臨床看護学講座教授）	ナイチンゲールの生い立ちと業績
11月30日（金）	谷　多江子（聖マリア学院大学 精神看護学講師）	精神障がい者の世界
12月4日（火）	山田　久美（久留米工業大学 共通教育科教授）	ハイパープレゼンテーション：英語で学ぶ　KURUME
~~12月7日~~ 12月21日（金）	小川　正子（聖マリア学院大学国際看護学准教授）	中南米を中心とした異文化理解

※12月7日予定の講義が12月21日に変更となりました。
※講義詳細は裏面をご覧ください。

（出典：専攻科主事室資料）

資料５－５－③－６

久留米工業高等専門学校専攻科における単位の修得に関する規程

（平成１８年４月１日制定）

（目的）

第１条　この規程は、久留米工業高等専門学校学則第５３条第３項の規定に基づき、専攻科の修了に必要な単位の修得について定めることを目的とする。

（修了に要する単位数）

第２条　専攻科の修了に要する単位数は、６５単位以上とする。ただし、専攻科の単位を修得し修了するには学則第４９条別表第３に示す機械・電気システム工学専攻と物質工学専攻の各系（以下「コース」という。）のいずれかを履修しなければならない。

第３条　機械・電気システム工学専攻及び物質工学専攻のコースは、以下のとおりとする。

機械・電気システム工学専攻：機械工学コース、電気電子工学コース、制御情報工学コース

物質工学専攻：生物応用化学コース、材料工学コース

（他大学等での単位の修得)

第４条　前条の規定にかかわらず、他の大学等において修得した単位は、６単位を限度に一般科目選択の専攻科特論一般Ⅰ、Ⅱ又は専門基礎科目選択の専攻科特論専門Ⅰ、Ⅱの修得単位として置換えることができる。ただし、この場合も専門基礎選択科目１０単位以上、専門選択科目１２単位以上修得しなければならない。

（他コースの修得）

第５条　単位の修得にあたっては、他コースの選択科目を、４単位を限度として修得することができ、修了に要する単位として認めることができる。

附 則

１　この規程は、平成１８年４月１日から施行する。

２　久留米工業高等専門学校専攻科の単位の修得に関する規程（平成１５年４月１日制定）は、この規程制定の日から廃止する。

３　この規則は平成１８年度入学者から適用し、平成１７年度以前入学者の単位の修得に関しては、なお従前の例による。

（出典：久留米工業高等専門学校規則集）

資料５－５－③－７　先端工学特論シラバス

平成25年度　シラバス　授業計画

先端工学特論

【The Latest Frontiers in Engineering】

1年機械・電気システム工学専攻 電気電子工学コース

担当教員名	専攻科主事補	シラバスコード	6E17
科目情報	後期 専門 必修 演習 1単位	授業時数	30
授業の目的	本科目は、学生が先端技術や工学的・工業的諸問題及びそれらが影響を与えている社会問題等に関心を高め、工業技術者としての視野を広めることを目的とする。		
到達目標	１．先端技術，工学的・工業的諸問題，及びそれらが影響を与える社会問題等に関心を持ち、工業技術者としての視野を広めることができる。 ２．それぞれの専門分野の知識を基礎として、エネルギー，環境，新技術，自然科学などの問題に対して工学的に考察できる。 ３．それぞれに関わる科学技術の要点を理解し、客観的な評価ができる。	JABEE ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ目標	D-1 F-1 G-1
評価方法	提出されたそれぞれのレポートの内容を教育目的に応じて、A；７点，B；６点，C；５点，D；４点の４段階で評価する。 評価基準：累積点６０点以上を合格とする。		
授業の進め方と履修上の注意	①放送大学特別講義（ビデオ）②学内における特別講義等 ③学外における講演会等、に参加して合計１５回のレポートを作成し提出する。環境問題，エネルギー問題，福祉問題，地域企業の先端技術，人文・社会問題，専門及び専門関連分野等の中から，自主的に興味のある学術・技術的テーマを選び受講する。①，②，③の開講・開催案内は、適宜、専攻科棟に掲示する。レポートは所定の様式に従い、受講後１週間以内に担当教員へ提出する。		
テキストおよび参考図書	講演会、特別講義などにおける配布資料		

	学習内容
1	①放送大学特別講義（ビデオ学習） １回
2	２回
3	３回
4	４回
5	５回以上実施
6	②学内における特別講義・特別講演など １回
7	２回
8	３回
9	４回
10	５回以上実施
11	③学外における講演会、共同講義など １回
12	２回
13	３回
14	４回
15	５回以上実施

（出典：専攻科シラバス）

資料５－５－③－８　専攻科修了生に対するアンケート結果例（1／2）

専攻科卒業時アンケート結果（2年全員）

以下の各質問項目について、該当する記号を○で囲んで下さい。
「その他」の場合は（　）内に具体的に記入して下さい。

	平成24年度）			
	全体	機電	物質	
1. 専攻科に入学した経緯はどれですか。				
A 専攻科第一志望であった。	63.6	60.7	68.8	[%]
B 大学編入学に合格したが、専攻科を選んだ。	0.0	0.0	0.0	
C 大学編入に失敗したため。	20.5	25.0	12.5	
D 高専卒での就職が思うようにならなかった。	13.6	10.7	18.8	
E その他。（　）	2.3	3.6	0.0	
2. 専攻科に入学した理由は何ですか。（複数回答可）				
A 高専の特徴を生かした実践的教育。	43.2	46.4	37.5	[%]
B 大学に比べ重複した授業が少ない。	13.6	14.3	12.5	
C 先端的教育プログラム。	2.3	3.6	0.0	
D 大学編入するより就職に有利と考えた。	27.3	10.7	56.3	
E 大学編入するより大学院進学に有利と考えた。	27.3	25.0	31.3	
F 地元にいてもっと勉強したかった。	18.2	28.6	0.0	
G 推薦入学制度があったから。	20.5	17.9	25.0	
H 経済的に学費が安い。	59.1	64.3	50.0	
I その他（　）	4.5	7.1	0.0	
3. 実際に専攻科へ入学して教科内容は一口に言ってどう思いますか。				
A 満足している。	13.6	10.7	18.8	[%]
B やや満足している。	36.4	39.3	31.3	
C 普通である。	27.3	17.9	43.8	
D やや不満である	20.5	21.4	18.8	
E 非常に不満である。	6.8	10.7	0.0	
4. 授業科目について答えて下さい。				
A 基礎学力の充実を図る科目を増やす。	20.5	28.6	6.3	[%]
B 狭くても、もっと深く専門的にする。	61.4	57.1	68.8	
C 広く、色々な分野が勉強できるようにする。	9.1	10.7	6.3	
D このままで、ほぼよい。	9.1	3.6	18.8	
E その他。	20.5	32.1	0.0	
5. 専攻科研究論文について尋ねます。				
A 充実して取組んでいる。	38.6	32.1	50.0	[%]
B ほぼ満足している。	52.3	53.6	50.0	
C 面白くないが、仕方なくやっている。	6.8	10.7	0.0	
D その他。	2.3	3.6	0.0	
6. 本校の教育理念は、「自立の精神と独創性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」です。下記の技術者として必要な能力に対し自己評価すると、現在、A,B,C,D,Eのどれに該当しますか。				
〔1〕地球的視点から多面的に物事を考える能力				
A ある	7.0	10.7	0.0	[%]
B ややある	32.6	25.0	46.7	
C 普通	48.8	46.4	53.3	
D あまりない	9.3	14.3	0.0	
E ほとんどない	2.3	3.6	0.0	
〔2〕技術が社会･自然に及ぼす影響を理解し、その責任を自覚できる能力。				
A ある	14.0	17.9	6.7	[%]
B ややある	46.5	35.7	66.7	
C 普通	34.9	42.9	20.0	
D あまりない	2.3	3.6	0.0	
E ほとんどない	0.0	0.0	6.7	

（出典：専攻科主事室資料）

資料５－５－③－８　専攻科修了生に対するアンケート結果例（2／2）

〔3〕数学、自然科学、ITなどを応用できる能力。				
A ある	18.6	28.6	0.0	[%]
B ややある	20.9	25.0	13.3	
C 普通	48.8	39.3	66.7	
D あまりない	11.6	7.1	20.0	
E ほとんどない	0.0	0.0	0.0	
〔4〕専門の知識･技術を問題解決に応用できる能力。				
A ある	11.6	10.7	13.3	[%]
B ややある	46.5	46.4	46.7	
C 普通	39.5	39.3	40.0	
D あまりない	2.3	3.6	0.0	
E ほとんどない	0.0	0.0	0.0	
〔5〕高専での勉学を応用し、社会的要求を解決するための企画･設計力。				
A ある	9.3	10.7	6.7	[%]
B ややある	37.2	28.6	53.3	
C 普通	39.5	39.3	40.0	
D あまりない	14.0	21.4	0.0	
E ほとんどない	0.0	0.0	0.0	
〔6〕論理的な表現力、及び国際的に通用する語学基礎能力。				
A ある	4.7	7.1	0.0	[%]
B ややある	18.6	14.3	26.7	
C 普通	37.2	32.1	46.7	
D あまりない	27.9	35.7	13.3	
E ほとんどない	11.6	10.7	13.3	
〔7〕自発的、継続的な自己学習能力。				
A ある	9.3	14.3	0.0	[%]
B ややある	41.9	46.4	33.3	
C 普通	39.5	28.6	60.0	
D あまりない	7.0	10.7	0.0	
E ほとんどない	2.3	0.0	6.7	
〔8〕与えられた制約下で計画的に実験を進め、まとめる能力。				
A ある	14.0	10.7	20.0	[%]
B ややある	44.2	50.0	33.3	
C 普通	37.2	32.1	46.7	
D あまりない	2.3	3.6	0.0	
E ほとんどない	2.3	3.6	0.0	
〔8〕与えられた制約下で計画的に実験を進め、まとめる能力。				
A ある	18.6	21.4	13.3	[%]
B ややある	37.2	25.0	60.0	
C 普通	30.2	35.7	20.0	
D あまりない	11.6	17.9	0.0	
E ほとんどない	2.3	0.0	6.7	
〔10〕協調性はあるほうですか？				
A ある	23.3	28.6	13.3	[%]
B ややある	32.6	28.6	40.0	
C 普通	23.3	21.4	26.7	
D あまりない	14.0	10.7	20.0	
E ほとんどない	0.0	0.0	0.0	
8. 専攻科の入学に関してどう思っていますか。				
A よかったと思う。	86.4	89.3	86.7	%
B 大学編入が良かった。	9.1	10.7	6.7	
C 就職したほうが良かった。	2.3	0.0	6.7	
D その他。（　　）	0.0	0.0	0.0	

（出典：専攻科主事室資料）

資料５－５－③－９　専攻科インターンシップにおける受け入れ先からの評定書

（様式 12）

引受責任者殿

本紙にご記入いただき、封印の上、学生にお渡し願います。

評 定 書

平成　　年　　月　　日

実施機関名						
引受責任者氏名		職名		氏名		印
実施期間		平成　　年　　月　　日 ～ 平成　　年　　月　　日				
実施学生氏名		工学専攻　　年　　氏名				
右記項目について評価を行い該当するところに○を記入願います。	専門知識（出身学科関連）	非常によい	良い	普通	劣る	非常に劣る
	一般知識（社会，歴史，異文化等）	非常によい	良い	普通	劣る	非常に劣る
	一般知識（数学，自然科学，IT）	非常によい	良い	普通	劣る	非常に劣る
	英語力（読解力）	非常によい	良い	普通	劣る	非常に劣る
	英語力（会話力）	非常によい	良い	普通	劣る	非常に劣る
	日本語力（文章表現）	非常によい	良い	普通	劣る	非常に劣る
	プレゼンテーション力	非常によい	良い	普通	劣る	非常に劣る
	理解力	非常によい	良い	普通	劣る	非常に劣る
	実行力/積極性	非常によい	良い	普通	劣る	非常に劣る
	自立性/自主性	非常によい	良い	普通	劣る	非常に劣る
	責任感	非常によい	良い	普通	劣る	非常に劣る
	協調性	非常によい	良い	普通	劣る	非常に劣る
	計画性	非常によい	良い	普通	劣る	非常に劣る
	指導力	非常によい	良い	普通	劣る	非常に劣る
	独創性/想像力	非常によい	良い	普通	劣る	非常に劣る
	問題解決能力	非常によい	良い	普通	劣る	非常に劣る
	課題探索能力	非常によい	良い	普通	劣る	非常に劣る
	その他お気づきの点	非常によい	良い	普通	劣る	非常に劣る
	総合力（貴機関にとって学生は）	非常によい	良い	普通	劣る	非常に劣る
実施学生が特に優れていると思われる具体的な専門･一般知識等を記入願います。						
実施学生が特に劣ると思われる具体的な専門･一般知識等を記入願います。						
責任者からの連絡事項（コメント，要望）を記入願います。						

（出典：専攻科インターンシップガイダンス資料）

観点５－６－①：　教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）　専攻科の教育課程では、必修科目 37 単位の内、講義８単位（22%）、演習 10 単位（27%）、実験 12 単位（32%）および実習 7 単位（19%）であり、講義・演習と実験・実習の割合はほぼ等しい。選択科目については、極一部の科目を除き講義であるので、教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスは適切である（前掲資料５－５－①－１）。

各科目では、２つの専攻にまたがる共通の科目を除き、最大でも10人程度の少人数教育が行われており、きめ細かい指導を可能としている。実験科目の創造工学実験や専攻科研究論文、実習科目の専攻科インターンシップは、学生各人が主体性を持って進めるマンツーマン型の教育である（資料５－６－①－１～資料５－６－①－３）。また、産業デザイン演習は、両専攻の共通科目であるが、各専攻横断的に分けられた６人程度のグループ毎に課題が与えられ、共同でチームワークを活かして取り組むように工夫されている（資料５－６－①－４）。したがって、各科目とも教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているといえる。

（分析結果とその根拠理由）　専攻科では、教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習棟の授業形態のバランスは適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。その理由は、前掲資料５－５－①－１に示す通り授業形態のバランスは適切であり、資料５－６－①－１～資料５－６－①－４に示す通り、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているからである。

資料５－６－①―１　創造工学実験シラバス

平成25年度　シラバス　授業計画

創造工学実験

【Experiments of Creative Engineering】

1年機械・電気システム工学専攻 機械工学コース

担当教員名	専攻科主事補	シラバスコード	6A16
科目情報	前期 専門 必修 実験 2単位	授業時数	90
授業の目的	工学に関するテーマを学生自身で立案し、それを解決するための計画、実験、評価を各自で行い、自主性、創造性ならびに行動力の向上を目的とする。		
到達目標	1　創造性のあるテーマを自主的に設定できる。 2　制約条件の下で設計製作、実験を計画、実行し結果を考察できる。 3　技術の社会に及ぼす影響を考察できる。 4　成果を所定の時間内に発表し、技術報告書としてまとめることができる。	JABEE ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ目標	D-1 D-2 E F
評価方法	点数配分：テーマについて30%（独創性、難易度、社会に及ぼす影響）、実験装置の完成度20%、報告書（調査量、技術文書表現力）及び設計製作、実験、結果考察30%、プレゼンテーション20%（発表手順、発表資料、発表技術、発表時間）。 評価基準：60点以上を合格とする。 再評価：なお、評価が60点未満の場合は、成果報告書の提出後一ヶ月以内に追加実験などを行い、成果報告書の再提出により、60点を限度として学年末成績評価で追認することがある。		
授業の進め方と履修上の注意	1. 入学前に各自が希望するテーマを３項目提出、担当教員による審査後テーマを決定する。 2. 各自で装置・実験方法を企画し、計画発表会にて説明、必要あれば変更を行う。 3. その後、装置製作のための物品購入請求を行い、目的の実験を行う。 4. 専門分野についての指導は本校教職員全員が対応する。 5. 実験結果は成果発表会で要旨(A4・1枚)をもとに報告し、成果報告書（A4・8～14枚）を提出する。 6. 計画的に、自主的、積極的、創造的に行動することが大切である。		
テキストおよび参考図書	資料を配付する。 フライス盤、のこ盤、電気計測器を設置。 基本電気部品類は常備。研究者総覧、カタログ類		

	学習内容
1	スケジュール説明・プレゼンテーション技法指導・安全指導
2	計画書作成・計画発表会資料作成
3	計画発表会
4	実験装置設計・製作・実験
5	実験装置設計・製作・実験
6	実験装置設計・製作・実験
7	実験装置設計・製作・実験
8	実験装置設計・製作・実験
9	実験装置設計・製作・実験
10	実験装置設計・製作・実験
11	実験装置設計・製作・実験
12	実験装置設計・製作・実験
13	成果報告要旨作成、発表資料作成
14	成果発表会
15	成果報告書作成

（出典：専攻科シラバス）

資料５－６－①－２　専攻科研究論文シラバス

平成25年度　シラバス　授業計画

専攻科研究論文

【Research Thesis in Advanced Engineering】

1・2年機械・電気システム工学専攻 機械工学コース

担当教員名	機械工学科全教員	シラバスコード	6A18
科目情報	1年通年・2年前期 専門 必修 実験 10単位	授業時数	450
授業の目的	ものづくりや研究開発などの分野で、先端技術にも対応でき、創造性のある実践的エンジニアの育成を目的として、指導教員のもとで工学分野に関わるテーマについて研究活動を行う。研究成果の一部は、学位授与申請のための学習成果報告書として、大学評価・学位授与機構へ提出する。		
到達目標	１．実験などを計画・遂行することができる。 ２．実験などの結果を解析し、工学的に考察することができる。 ３．該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる。 ４．日本語による論理的な記述，口頭発表，討議などができる。 ５．自主的，継続的に学習できる。	JABEE ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ目標	D-2 E F G-1
評価方法	主指導教員を中心とした複数の教員で、研究内容および研究発表の評価を行う。主指導教員の成績を６０%、複数の評価教員による成績を４０%として、総合的に成績評価を行う。 場合によっては、再研究発表を行わせる。 60点以上を合格とする。		
授業の進め方と履修上の注意	専攻科入学直後に、提示された研究題目の研究内容概要を読み、興味ある研究テーマを選択する。指導教員の承認を得た後、基本的には一人が一つのテーマで正式に配属が決定する。		
テキストおよび参考図書	関連する研究論文、特許情報、資料など		

学習内容
１．研究目的にそった研究計画の立案 ２．研究題目に関係する文献や資料の調査 ３．実験装置の設計と製作 ４．理論解析モデルの構築と計算式 ５．実験方法あるいは計算方法の確立 ６．予備実験あるいは予備計算 ７．実験結果あるいは計算結果の整理 ８．実験結果あるいは計算結果の図表の作成 ９．実験結果あるいは計算結果の検討および考察 10．まとめ 11．研究論文の作成 12．学位授与申請のための学習成果報告書の作成 13．研究論文発表会の準備と口頭発表

（出典：専攻科シラバス）

資料５－６－①－３　専攻科インターンシップシラバス

平成25年度　シラバス　授業計画

専攻科インターンシップ

【Internship】

2年機械・電気システム工学専攻 電気電子工学コース

担当教員名	専攻科主事、担当教員	シラバスコード	7E09
科目情報	後期 専門 必修 その他 7単位	授業時数	315
授業の目的	本学科と専攻科で学んだ工学的知識や技術が、実践的にどの程度応用できるかを、企業等における長期インターンシップで経験し、実践的技術者としての資質を高めることを目的とする。本科目は、本学科と専攻科の最終科目であり、各学生は企業からの評価を受け、その結果を参考にして、学生の自己啓発および専攻科の教育改善を促す。		
到達目標	１．技術が社会に及ぼす影響・効果、および技術者が社会に対して負っている責任が理解できる。　２．実験などを計画・遂行し、その結果を解析し、工学的に考察することができる。　３．該当分野の専門技術に関する知識を得て、それらを問題解決に応用することができる。　４．日本語による論理的な記述を行ったり、口頭発表や討議などを通してコミュニケーションを図ることができる。 ５．自主的、継続的に学習することができる。	JABEE プログラム目標	E-1 G-1 G-2
評価方法	複数のインターンシップ関連教員により次の割合で成績評価を行う。報告書20%、実施機関の評定書40%、報告会40%として総合的に成績評価を行う。具体的な評価項目、配点および評価基準については別途定める。 評価基準：60点以上を合格とする。		
授業の進め方と履修上の注意	提示したインターンシップ受け入れ機関の中から、学生の希望と諸条件を考慮して、配属先の引き受け機関を決定する。実施時期は１０月中旬から２月上旬までの間で、２ヶ月以上４ヶ月以内、企業や研究機関などにおいて実際の業務に従事する。ただし、１２月中旬の大学評価・学位授与機構の試験１週間前は除く。担当教員は、時折、実施機関を訪問し、学生の状況を把握するとともに、実施機関の引き受け責任者と連絡を密にする。学生は、１ヶ月ごとに報告書を、インターンシップ終了後には、最終報告書を提出する。また、実施機関の引き受け責任者が記入・封印した評定書を提出する。		
テキストおよび参考図書	実習内容に関連する文献、資料など		

学習内容
専攻科２年生が従事できる業務のうち、目的にふさわしい業務を行う。予めインターンシップ担当教員が引き受け実施機関の用意しているプログラムを検討・調整しておき、そのプログラムに従って実習する。 主な内容は、下記のものとする。 １．機械部品などの組み立て・製作 ２．設計・製図・図面の修正 ３．制御回路の組み立て・修理 ４．操作説明書の作成 ５．CADによる図面作成 ６．グラフィクスの作成 ７．穴あけ・切削・溶接などの加工 ８．実験・試験・測定・データ整理 ９．ワード・エクセルによる文書作成 10．製品の品質検査 11．計算プログラム作成 12．報告書及び最終報告書の作成 13．インターンシップ報告会の準備と口頭発表

（出典：専攻科シラバス）

資料５－６－①―４　産業デザイン演習シラバス

平成25年度　シラバス　授業計画

産業デザイン演習

【Industrial Design Exercises】

1年機械・電気システム工学専攻 電気電子工学コース

担当教員名	藤田　雅俊	シラバスコード	6E04
科目情報	前期 一般 必修 演習 2単位	授業時数	60
授業の目的	商品企画から商品サーベイ、商品研究、市場化を踏まえた実際の商品化提案までのプロセスをグループ単位での演習により修得する。社会的に要求される商品を自ら求め、そのニーズに相応しい商品を技術解析、情報収集を基にして具体化する。グループでの作業により、計画的、継続的に仕事を進める責任感を養い、最終的なプレゼンテーションでの資料のまとめ方、口頭発表能力、コミュニケーション能力を高める。		
到達目標	１．商品の企画から最終デザインまでのプロセスの理解・習得 ２．グループワークによるメンバー同士のコミュニケーション能力の習得 ３．自らの企画を効果的に伝達するプレゼンテーション能力の習得 ４．自律的・計画的に作業を推敲する能力の習得 ５．アイデアを具現化する創造力と編集力の習得	JABEE プログラム目標	A-2 B-2 G-2
評価方法	商品化プロセス調査20%　演習課題50%（外部評価・相互評価を含む）　課題レポート30% 再試験は行わない。 評価基準：60点以上を合格とする。		
授業の進め方と履修上の注意	授業における商品デザインの講義、商品提案スタディ、テーマレポートを総合的に行う。企画の提案・プレゼンテーション評価には地域企業・公設機関の方に参加してもらう。		
テキストおよび参考図書	教材は適宜資料を配付		

	学習内容
1	第１週；オリエンテーション（授業の進め方／評価方法等のガイダンス）
2	第２週；商品企画対象の選定
3	第３週；商品化プロセス調査１
4	第４週；商品化プロセス調査２
5	第５週；商品化プロセス調査３（発表）
6	第６週；商品化企画演習１（要素技術の調査）
7	第７週；商品化企画演習２
8	第８週；商品化企画演習３（中間発表）
9	第９週；商品化企画演習４
10	第１０週；商品化企画演習５
11	第１１週；商品化企画演習６
12	第１２週；プレゼンテーション１
13	第１３週；プレゼンテーション２
14	第１４週；講評及び評価
15	第１５週；課題レポート

（出典：専攻科シラバス）

観点５－６－②：　教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示等、内容が適切に整備され、活用されているか。

（観点に係る状況）　各授業科目は、専攻科の教育目標および教育課程における位置づけに沿って（前掲資料５－５－①－２～前掲資料５－５－①－３、５－５－②－１）、シラバスが作成されている。シラバスには、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法が明示されており、シラバスの内容も適切に整備されている（資料５－６－②－１）。

専攻科シラバスは、専攻科学生全員に冊子で配布するとともに、ホームページ上で公開している（資料５－６－②－２）。また、科目ごとに授業の最初にシラバスを配布し、授業の目的や進め方、成績の評価方法などを説明し、シラバスの重要性を認識させるようにしている。

（分析結果とその根拠理由）　専攻科では、教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示等、内容が適切に整備され、活用されている。その理由は、前掲資料５－５－①－２～前掲資料５－５－①－３および５－５－②－１に示す通り教育課程の編成の趣旨に沿ってシラバスが作成され、資料５－６－②－１～資料５－６－②－２に示す通りシラバスの内容が適切に整備され、活用されているからである。

資料５－６－②－１　専攻科シラバス例

平成25年度　シラバス　授業計画

地球環境と現代生物学

【Global Environment and Modern Biology】

1年機械・電気システム工学専攻 機械工学コース

担当教員名	中武　靖仁、萩原　義徳	シラバスコード	6A07
科目情報	前期 専門基礎 必修 講義 2単位	授業時数	30
授業の目的	人間の社会活動で生じた化石燃料の大量消費は酸性雨や大気汚染をもたらし、森林破壊や砂漠化を加速させた。またフロンなど新規化学物質の氾濫も相まって、オゾン層の破壊や温暖化など地球レベルでの環境破壊を引き起こしている。本授業では、地球環境問題の実態を理解するとともに、その原因と対策について、クリーンエネルギーやバイオテクノロジーなどの新技術の観点から学ぶ。		
到達目標	１．地球環境問題の現状を理解し、その対策を考えることができる。 ２．環境修復や環境維持のためのバイオテクノロジーやクリーンエネルギーの役割が理解できる。 ３．産業や社会へどのように応用されているかを地球規模の観点から理解できる。	JABEE ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ目標	A-2
評価方法	前半50%（課題演習25%＋試験25%）と後半50%（定期試験）の合計100%として評価する。 再試験を必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を合格とする。		
授業の進め方と履修上の注意	講義を中心に行う。 地球環境をテーマとして生物学的視点から講義するため、それらの基礎知識を必要とする。 専門学科以外の学生に対して細部の理解は求めないが、概念的に捉えて欲しい。 1-8 ：担当中武 9-15：担当萩原		
テキストおよび参考図書	教科書：単元毎に作成したプリントを使用する。 参考図書：今井利信・廣瀬良樹著「環境・エネルギー・健康20講」（化学同人） 早川豊彦・種茂豊一監修「環境工学の基礎」（実教出版） 秋元肇他編「対流圏大気の化学と地球環境」（学会出版センター）		

	学習内容
1	地球環境問題（環境問題とエネルギー問題、持続可能な社会）
2	エネルギー資源、化石エネルギー（火力発電）
3	原子力エネルギー
4	放射線と環境
5	太陽エネルギー（太陽光発電、太陽熱発電）
6	水力、風力エネルギー（水力発電、風力発電）
7	化学エネルギー（燃料電池、バイオマス）
8	前半のまとめ
9	ダイオキシンと環境ホルモン
10	水資源と物質循環
11	海洋環境の破壊（富栄養化と赤潮の発生）
12	土壌環境の破壊（土壌や地下水の汚染）
13	バイオテクノロジーⅠ（極限環境微生物）
14	バイオテクノロジーⅡ（遺伝子操作）
15	バイオテクノロジーⅢ（細胞工学技術）

（出典：専攻科シラバス）

５－６－②－２　平成２５年度専攻科シラバス（ホームページ）



平成25年度

シ ラ バ ス

ご覧になりたい学科あるいは専攻科を選択してください。新しいウィンドウに表示されます。

（Acrobat Readerが必要です。Acrobat Reader 7未満のバージョンでは表示が乱れることがあります）

本科・専攻科	学科名及び専攻名	ファイル情報
本 科	機 械 工 学 科	2.1MB
	電気電子工学科	2.3MB
	制御情報工学科	2.1MB
	生物応用化学科	2.0MB
	材 料 工 学 科	4.9MB
専攻科	2 専攻 5コース	1.6MB

最終更新日：平成25年03月28日

シラバス更新履歴

Acrobat Reader（Adobe Reader，無料）入手先はこちら→

久留米高専トップ

（出典：久留米高専ホームページ）

観点５－６－③：　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また、インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）　創造性を育む教育方法を採用している科目として、創造工学実験や産業デザイン演習をあげることができる（前掲資料５－６－①－１、５－６－①－４）。創造工学実験は、教員の助言を受けながら工学に関するテーマを学生自身が企画立案・実行し、その計画発表および成果発表を行う科目である。創造工学実験で学生自身が企画立案した装置について、知的財産に関する内容を取り扱う産業財産権特論（資料５－６－③－１）で特許申請書類を作成し、優秀作品はパテントコンテストに応募している。その結果、平成22年および24年にはパテントコンテストに入賞するなど、その成果が表れている（別添資料５－６－③－２）。産業デザイン演習は、専攻の異なる学生を小グループに分け、グループ毎に商品の企画から最終デザインまでを検討する課題を与え、検討結果を発表させる科目である。成果発表会では学生からの学生の評価も行うなど、学生に問題意識を持たせるように工夫されている(資料５－６－③－３)。また、２ヶ月以上４ヶ月以内の期間、企業あるいは研究機関などにおいて実務に携わる専攻科インターンシップを必修科目として設けている（前掲資料５－６－①－３、資料５－６－③－４）。以上のように、創造性を育む教育方法の工夫が図られ、インターンシップが活用されている。

（分析結果とその根拠理由）　専攻科では、創造性をはぐくむ教育方法の工夫が図られている。その理由は、資料５－６－①－１、資料５－６－①－４および資料５－６－③－１～資料５－６－③－２に示す通り、創造工学実験、産業財産権特論および産業財産権特論をカリキュラム取り入れ創造性を育む教育が行われているためである。また、インターンシップ（必修科目）の活用も図られている。その理由は、資料５－６－①－３、資料５－６－③－４に示す通り、専攻科インターンシップが実施されているからである。

資料５－６－③－１　産業財産権特論シラバス

平成25年度　シラバス　授業計画

産業財産権特論

【Industrial Property】

1年機械・電気システム工学専攻 機械工学コース

担当教員名	原田　豊満、梶原　克彦	シラバスコード	6A05
科目情報	前期 一般 選択 講義 2単位	授業時数	30
授業の目的	専攻科1年の必修科目「創造工学実験」と同時開講し、「実験」成果から発明を考案し、その内容を明細書（模擬出願書類）にまとめる。また産業財産権制度に関する知識の習得やインターネットでの技術情報の検索方法を同時に学習することにより、特許制度を理解し、活用できる人材の育成を目的とする。		
到達目標	１．産業財産権制度の基礎知識を習得する。 ２．インターネットによる特許検索方法を習得する。 ３．特許出願書類の作成方法を習得する。	JABEE ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ目標	G-1
評価方法	定期試験（中間試験、期末試験）60%、発明演習40%で評価する。ただし中間試験は必要に応じて行う。再試験は行わない。 評価基準：60点以上を合格とする。		
授業の進め方と履修上の注意	産業財産権に関する講義と創造工学実験でのアイデアを模擬出願書類にまとめる演習を中心として授業を行う。インターネットによる特許検索演習およびパテントマップの作成方法とその演習は、外部講師と共同で行う。明細書の作成演習は、外部講師（弁理士）により行う。発明報告会における評価は、科目担当教員、各学科の創造工学実験担当教員、外部講師により行う。有望な特許は、特許庁のパテントコンテストに応募する。		
テキストおよび参考図書	産業財産権標準テキスト（特許庁（無償配布））		

	学習内容
1	産業財産権制度１
2	産業財産権制度2
3	産業財産権制度3、アイデア考案演習1
4	産業財産権制度4、アイデア考案演習2
5	産業財産権の調査方法、インターネットによる特許検索演習
6	パテントマップの作成方法とその演習１
7	パテントマップの作成方法とその演習2
8	パテントマップの作成方法とその演習3
9	中間報告会
10	明細書の基礎的知識
11	明細書の実践的知識
12	明細書の作成方法
13	明細書の作成演習１
14	明細書の作成演習2
15	発明報告会

（出典：専攻科シラバス）

資料５－６－③－３　産業デザイン演習調査課題評価シート

産業デザイン演習・調査課題評価シート

専攻

番号

名前

評価シート.1

評価項目	グループ No.	グループ No.	グループ No.	グループ　No.	グループ No.
１．独自性					
２．市場性					
３．技術的説得力					
４．発展性					

評価点　項目ごとに 5 点満点

１．独自性：商品の着想、新しさ、提案内容のオリジナリティがあるか？

２．市場性：商品販売先についての説得力はあるか？

３．技術的説得力：商品化にあたっての技術的裏付けは確かか？

４．発展性：提案商品をベースにした将来性はあるか？

５．意匠性：使用する環境にふさわしい形のあり方を追求しているか？

（出典：産業デザイン演習プロセス評価）

資料５－６－③－４　専攻科インターンシップガイダンス（抜粋）

１．実施要項

1.1　インターンシップの目的

本科目は、「本学科＋専攻科」の最終科目として設定しており、「本学科＋専攻科」の７年間で学んだ工学的知識や技術を実践の場においてどの程度応用できるかを企業等での長期間の体験実習を通じて学生に理解させることを目的としています。

専攻科では各学生が企業から真摯に評価を受けることで、学生の自己啓発や専攻科の教育改革を行うための最重要科目として位置付けております。

1.2　インターンシップ実施時期および期間

実施時期は専攻科２年後期の 10 月中旬から１月下旬までで、期間は２ヶ月（8 週間）以上４ヶ月以内とします。ただし 12 月 15 日（日）に学位授与機構認定試験があるため、その前１週間はインターンシップ実施期間から除外されます。

1.3　修得単位

後期７単位（必修）

1.4　インターンシップ実施内容

専攻科２年生が従事できる業務のうち、目的にふさわしい業務

1.5　インターンシップ実施のための組織

実施にあたり、本校にインターンシップ調整責任者（教員）を置き、実施機関に引受責任者を置く。それぞれの任務は下記のとおりである。

- 調整責任者（本校教員（専攻科主事補より任命））；
  - (1) 実施機関、学生及び指導教員との連絡・調整
  - (2) 実施機関の紹介及び訪問（実施期間中随時、専攻科主事室教員も含む）
  - (3) 成績評価のとりまとめ
- 引受責任者（各実施機関）；
  - (1) 目的にそった学生の指導
  - (2) 学生が提出した報告書の検印及び評定書の提出

1.6　成績の評価

成績の評価は、以下の項目に基づいて総合的に行われる。

(1) 報告書・・・２０％
(2) 評定書・・・４０％
(3) 報告会・・・４０％　平成 26 年 2 月 13 日（木）

（出典：専攻科主事室資料）

観点５－７－①：　教育の目的に照らして、教養教育や研究指導が適切に行われているか。

（観点に係る状況）　本校の教育理念および専攻科の教育目的（３）の「国際化に対応できる技術者」（前掲資料５－５－②－１）を実現するため、一般科目の語学系科目を配置している（前掲資料５－５－①－１）。また、技術者としての高い倫理観を達成するため、環境倫理学および工学倫理を開講している（前掲資料５－５－①－１）。さらに、観点５－５－③で示したように他の高等教育機関において教養教育科目の取得が可能である（前掲資料５－５－③－１～前掲資料５－５－③－４）。

専攻科研究論文は、研究指導を１年半にわたって行い、ものづくりや研究開発などの分野で、先端技術にも対応でき、創造性のある実践的エンジニアの育成を目的としている（前掲資料５－６－①－２）。研究テーマは基本的に学生一人１テーマとして、教員から提出された多くのテーマの中から学生に希望テーマを選択させている（資料５－７－①－１）。研究指導体制は、指導教員とほぼマンツーマンで行われているが、教育支援室の下、技術職員による実践指導もできる体制になっている。学生は、指導教員および技術職員によるきめ細かな指導・支援のもとで得られた専攻科研究論文の成果を学会等で発表し（資料５－７－①－２）、学校もそれに対して必要な旅費の補助を行っている（資料５－７－①－３）。

（分析結果とその根拠理由）　専攻科では、教育の目的に照らして、教養教育や研究指導が適切に行われている。その理由は、前掲資料５－５－①－１および前掲資料５－５－③－１～前掲資料５－５－③－４に示すように教養教育が行われ、資料５－７－①－１～資料５－７－①－３に示すように、研究指導が適切に行われているからである。

資料５－７－①―１　平成２５年度専攻科研究論文募集テーマおよび配属先の例

H25専攻科研究論文募集題目一覧

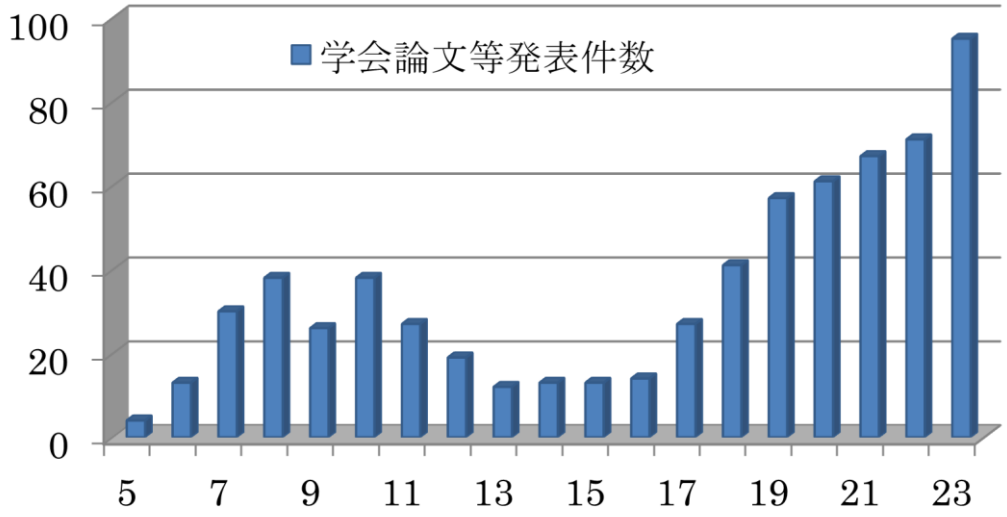
指導教員		研究題目
和泉直志		往復動転がり接触におけるEHL油膜厚さ測定の自動化
中武靖仁		超微細気泡混入燃料によるディーゼル燃焼改善に関する研究
中武靖仁		低燃費競技用小型燃料電池動力変換装置の開発
中尾哲也		Androidを用いたロボット制御に関する研究
田中大		自然エネルギーを利用した海水淡水化蒸留器の研究
南山靖博	中尾哲也	人間の骨格を模擬したサイバネティックアクチュエータの開発
大津健史	石丸良平	各機械要素におけるフレッチング損傷に関する研究
大津健史	石丸良平	ジャーナル軸受におけるキャビテーションの観察
池田隆		健聴者の音声聴取能力を制御するリアルタイム動作装置に関する研究
越地尚宏		Rubik Cube解法ロボットの製作
平川靖之		細胞で観察されるレーザースペックル揺動と細胞活動に関する研究
平川靖之		テラヘルツ光のエラストマー製品中の伝搬に関する研究
宮崎浩一		レーザートムソン散乱法による大気圧グロープラズマの計測システムの構築
宮崎浩一		大気圧グロープラズマの発光分光計測に関する研究
綾部隆		一点を拘束された剛体の3次元回転運動
綾部隆		機構シミュレーションソフトの開発
江崎昇二		鶏舎温度ＯＮ・ＯＦＦ制御システムの開発
中野明		遺伝的アルゴリズムを用いたリスケジューリングシステムの開発
松島宏典		コンピュータビジョンを用いた歩行者認識に関する研究
松島宏典		コンピュータビジョンを用いた３次元再構成に関する研究
松島宏典		コンピュータビジョンを用いた道路診断解析に関する研究
松島宏典		コンピュータビジョンを用いたグレア現象検出に関する研究
松本光広		測域センサと鏡を用いた物体の移動軌跡を計算するアルゴリズム、および軌跡データを描画するシステムの開発

機械・電気システム工学専攻　１年　専攻科研究論文配属先

学籍番号	氏　名	出身学科	番号	第一希望
A3001		制御	1	江崎昇二（鶏舎温度ON・OFF制御システムの開発）
A3002		制御	2	黒木祥光（スパース表現による動画像の動き補償に関する研究）
A3003		電気	3	池田隆（単共振分解型デジタル補聴器の実用化に関する研究）
A3004		電気	4	宮崎浩一（レーザートムソン散乱法による大気圧グロープラズマの計測システムの構築）
A3005		電気	5	池田隆（健聴者の音声聴取能力を制御するリアルタイム動作装置に関する研究）
A3006		商船	6	田中大（自然エネルギーを利用した海水淡水化蒸留器の研究）
A3007		制御	7	中野明（遺伝的アルゴリズムを用いたリスケジューリングシステムの開発）
A3008		電気	8	宮崎浩一（大気圧グロープラズマの分光計測システムの構築）
A3009		電気	9	松島宏典（コンピュータビジョンを用いた道路診断解析に関する研究）
A3010		制御	10	中尾哲也（Androidを用いたロボット制御に関する研究）
A3011		制御	11	綾部隆（機構シミュレーションソフトの開発）
A3012		機械	12	大津健史（各機械要素におけるフレッチング損傷に関する研究）
A3013		機械	13	大津健史（ジャーナル軸受におけるキャビテーションの観察）
A3014		制御	14	松本光広（測域センサと鏡を用いた物体の移動軌跡を・・・）
A3015		機械	15	中武靖仁（低燃費競技用小型燃料電池動力変換装置の開発）
A3016		電気	16	松島宏典（コンピュータビジョンを用いた歩行者認識に関する研究）
A3017		電気	17	山本哲也（三相かご形誘導発電機を用いた風力発電に関する研究）
A3018		機械	18	和泉直志（往復転がり軸受におけるEHL油膜厚さ測定の自動化）

（出典：専攻科主事室資料）

資料５－７－①―２　専攻科学生学会発表実績



（出典：専攻科主事室資料）

資料５－７－①－３　平成２４年度専攻科学生学会発表旅費補助実績

平成24年度専攻科学生学会発表旅費補助実績

	日付	場所	学会等名	金額
1	2012年6月14日～6月15日	北海道帯広市	電子情報通信学会スマートインフォメディアシステム研究会	¥34,400
2	2012年5月24日～5月25日	京都府京都市	日本ゴム協会2012年年次大会	¥35,000
3	2012年5月24日～5月25日	京都府京都市	日本ゴム協会2012年年次大会	¥35,000
4	2012年5月27日～5月29日	神奈川県横浜市	第61回高分子学会年次大会	¥35,000
5	2012年5月24日～5月25日	京都府京都市	日本ゴム協会2012年年次大会	¥35,000
6	2012年5月28日～5月29日	静岡県浜松市	ロボティクス・メカトロニクス後援会2012in浜松	¥35,000
7	2012年7月3日～7月6日	沖縄県国頭郡	第2回テラヘルツナノ科学国際会議	¥35,000
8	2012年6月30日	福岡県北九州市	第49回化学関連支部合同九州大会	¥7,740
9	2012年6月30日	福岡県北九州市	第49回化学関連支部合同九州大会	¥5,360
10	2012年6月30日	福岡県北九州市	第49回化学関連支部合同九州大会	¥7,900
11	2012年6月30日	福岡県北九州市	第49回化学関連支部合同九州大会	¥7,900
12	2012年9月11日～9月12日	石川県金沢市	日本機械学会2012年度年次大会	¥35,000
13	2012年9月18日～9月21日	京都府京都市	第23回基礎有機化学討論会	¥30,900
14	2012年9月11日～9月13日	石川県金沢市	日本機械学会2012年度年次大会	¥35,000
15	2012年9月25日～9月26日	長崎県長崎市	第20回電子情報通信学会九州支部学生会講演会	¥11,800
16	2012年9月25日～9月26日	長崎県長崎市	第20回電子情報通信学会九州支部学生会講演会	¥11,800
17	2012年9月25日～9月26日	長崎県長崎市	第20回電子情報通信学会九州支部学生会講演会	¥11,800
18	2012年9月10日～9月11日	石川県金沢市	日本機械学会2012年度年次大会	¥35,000
19	2012年9月27日～9月28日	北海道室蘭市	(一社)表面技術協会第126回講演大会	¥35,000
20	2012年10月12日～10月15日	岩手県盛岡市	日本鋳造工学会第161回全国講演大会	¥35,000
21	2012年10月12日～10月15日	岩手県盛岡市	日本鋳造工学会第161回全国講演大会	¥35,000
22	2012年10月23日～10月26日	兵庫県神戸市	第64回日本生物工学会大会	¥35,000
23	2012年10月24日～10月26日	兵庫県神戸市	第64回日本生物工学会大会	¥35,000
24	2012年11月10日	大分県別府市	第54回日本顕微鏡学会九州支部総会・学術講演会	¥12,380
25	2012年11月10日	大分県別府市	第54回日本顕微鏡学会九州支部総会・学術講演会	¥11,760
26	2012年12月2日	佐賀県佐賀市	2012年応用物理学会九州支部学術講演会	¥3,140
27	2012年12月2日	佐賀県佐賀市	2012年応用物理学会九州支部学術講演会	¥3,140
28	2012年11月11日～11月15日	茨城県つくば市	ICPR2012	¥35,000
29	2013年1月23日～1月26日	宮城県名取市	第18回高専シンポジウムin仙台	¥35,000
30	2013年1月26日	宮城県名取市	第18回高専シンポジウムin仙台	¥31,040
31	2013年3月27日～3月29日	東京都新宿区	第152回日本金属学会春季大会	¥35,000
32	2012年12月8日	宮崎県都城市	第22回九州沖縄地区高専フォーラム	¥8,000
33	2013年2月18日～2月19日	北海道札幌市	電子情報通信学会ITS研究会	¥35,000
34	2013年2月18日～2月19日	北海道札幌市	電子情報通信学会ITS研究会	¥35,000
35	2013年2月18日～2月19日	北海道札幌市	電子情報通信学会ITS研究会	¥35,000
36	2013年3月6日	熊本県阿蘇郡	日本機械学会九州学生会第44回学生員卒業研究発表講演会	¥3,000

(出典:総務課総務係資料)

(出典：専攻科主事室資料)

観点５－８－①：　成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）　専攻科の成績評価・単位認定規定や進級・修了認定規定は、学則第 53 条に従って「専攻科における単位の修得に関する規定」（前掲資料５－５－③－６）および「専攻科における学業成績の評価並びに単位の認定および修了に関する規定」（資料５－８－①－１）に定められており、これらは学生便覧および専攻科ガイダンス資料（資料５－８－①－２）に掲載し、新入生オリエンテーションで専攻科主事が学生に説明・周知している。

各科目の成績評価は、規定に基づき担当教員が策定した評価方法をシラバスに明記し（前掲資料５－６－②－１）、最初の授業時に担当教員が学生に説明・周知している。上述の規定に定められた成績評価基準や修了認定基準に従って、単位認定、修了認定は全教員参加の修了査定会議で行われている（資料５－８－①－３、別添資料５－８－①－４）。

（分析結果とその根拠理由）　専攻科では、成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されている。その理由は、資料５－８－①－１～資料５－８－①－２で示す通り、成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているからである。また、これらの規定に従い、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されている。その理由は、資料５－８－①－３および別添資料５－８－①－４に示す通り、専攻科の単位認定、修了認定は成績評価基準に修了認定基準に従って全教員参加の修了査定会議で行われているからである。

資料５－８－①―１　久留米工業高等専門学校専攻科における学業成績の評価並びに単位の認定及び修了に関する規定　(1/2)

久留米工業高等専門学校専攻科における学業成績
の評価並びに単位の認定及び修了に関する規程

（平成１８年3月１６日制定）

第１章　総　　論

第１条　この規程は、久留米工業高等専門学校学則第 53 条第 3 項の規定に基づき専攻科における学業成績の評価及び修了に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

第２章　受講及び履修

第２条　当該学年の受講及び履修は、学則第４９条に定める教育課程表に基づき必修科目及び選択科目を受講履修する。

２．選択科目の受講については、予め、校長に選択科目履修届を提出し受講するものとする。

３．各科目とも開講時数の５分の４以上出席した者は、履修と認める。ただし、授業担当教員が履修上、特別の事情があると判断した場合は履修を認めないことができる。

４　遅刻及び早退は３回をもって、 欠課１回とする。

第３条　授業に遅刻、早退又は欠席した者で、その理由が次の各号の一に該当すると校長が認めた者については、受講と認める。

（１）　忌引きの場合
（２）　出席停止（懲戒を除く）の場合
（３）　公共交通機関障害による場合
（４）　学校行事へ参加した場合
（５）　校長が認めた行事へ学校代表として参加した場合
（６）　その他やむを得ない事情と校長が認めた場合

第４条　　前条の規定により授業に遅刻、早退又は欠席した場合は、補講を受けることができる。

第３章　試　験

第５条　試験は、定期試験によるものの他適宜行うことができる。

第６条　定期試験は、該当科目の授業計画書（以下「シラバス」という。）に従って実施するものとする。

資料５－８－①―１　久留米工業高等専門学校専攻科における学業成績の評価並びに単位の認定及び修了に関する規定　(2/2)

第７条　試験中不正行為を行った者の当該試験期間中の試験成績は０点とし、不正行為後の当該試験期間中の受験は認めないものとする。なお、第８条の適用は認めない。

２　前項以外の理由で停学を受け、試験を受けられなかった者の停学期間中の試験成績は０点とする。

第８条　第３条に規定する事由により定期試験を受験することができなかった者は、本人の願い出により校長が認めた場合は追試験を受けることができる。

第９条　追試験の願い出は、別に定める様式とする。

第４章　成績の評価

第１０条　第２条の規定により履修と認められた者の成績の評価は、該当科目のシラバスに従って実施し、１００点法で行うものとする。

第１１条　学年末成績の評価は、次の４段階（A、B、C、D）で評価する。

A　８０点以上

B　７９点以下７０点以上

C　６９点以下６０点以上

D　５９点以下

第５章　単位の修得

第１２条　単位の修得は、成績の評価が６０点以上で当該科目担当教員が単位を認定した科目について、単位の修得を認める。

第６章　専攻科課程の修了

第１３条　専攻科課程の修了は、久留米工業高等専門学校学則及び久留米工業高等専門学校専攻科における単位の修得に関する規程に基づき、専攻科修了認定に関する査定会議の議を経て校長が行なう。

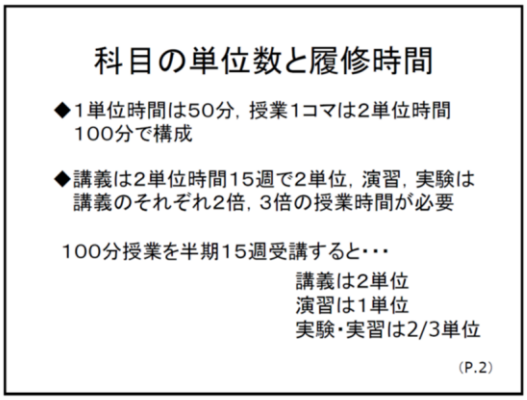
附　則

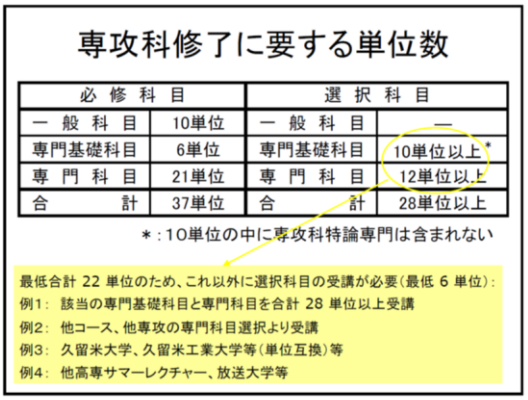
１．この規程は、平成１８年４月１日から施行する。

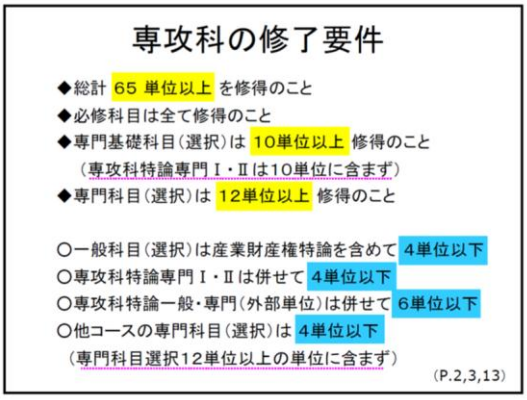
２．久留米工業高等専門学校専攻科における学業成績の評価並びに単位の認定及び修了に関する規程（平成１５年４月１日制定）は、この規則制定の日から廃止する。

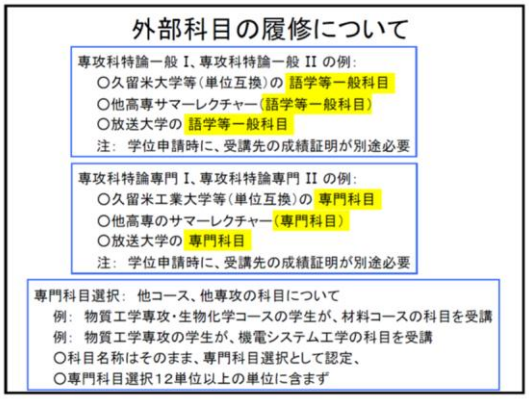
（出典：久留米工業高等専門学校規則集）

資料５－８－①－２　平成２５年度専攻科ガイダンス資料









（出典：平成 25 年度専攻科ガイダンス資料）

資料５－８－①－３　専攻科修了査定会議開催通知

Subject: 平成24年度 専攻科修了査定会議の開催について（通知）

平成２５年２月２０日

教　員　各　位

議　　長

平成２４年度 専攻科修了査定会議の開催について（通知）

標記のことについて、下記のとおり開催しますので御出席くださるようお知らせします。
なお、欠席される方は事前に教務係へ連絡してください。

記

１　日　　時　　平成２５年２月２６日（火）１５時００分～

２　場　　所　　大会議室

３　議　　題　　(1)　平成２４年度 専攻科２年修了査定について

（出典：学生課教務係資料）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）　準学士課程では、実践的技術者育成のために実験・実習科目を配置し、学生の進学にも就職にも対応した科目配置を行い、高学年の講義や卒業研究で創造性を育む授業が実施され、さらにインターンシップを通じて社会からの要請にも対応している。また、豊かな人間性の涵養を図るために、特別活動が充実し、クラブ活動や学生が自主的に運営する学生会活動等を支援している。

また、専攻科課程における、企画立案、実施、発表と学生の自主性を重んじた教育や、グループ単位で問題解決に当たらせる教育など、実践的な技術者の育成を目指し取組んでいる点が優れている。

（改善を要する点）　該当なし。

（３）基準５の自己評価の概要

準学士課程においては、学年ごとの授業科目の配置は、教育目的に沿って、低学年では一般基礎科目を、高学年になるに従い専門科目を中心に体系的に配置している。また、各学科とも実践的技術者育成のために、実験･実習科目を配置している。編入学生や外国人留学生などに対しては、状況に応じた学習指導を行っている。開講科目は、教育の目的に照らして講義、演習、実験、実習がバランス良く配置されている。各科目では、適切にシラバスが作成され、学生に説明した上での活用がなされている。また、創造性を育む授業が実施され、高学年では短期インターンシップ報告会・卒業研究発表会を行って、創造性の育成が図られている。成績評価及び進級・卒業認定の基準については、明確に規定されており、学生への周知も徹底されている。及落査定会議、卒業査定会議については、全教員の出席のもとで行われている。特別活動については、人間の素養の涵養を図るために各種文化・体育関連イベント、安全に関する指導･講習が実施されるなど、学生の自立の精神や創造性を培うような方策が取られている。

また、専攻科課程の教育課程においては、準学士課程との継続性が配慮され、さらに、他専攻の科目を修得できるよう配慮されており、学際的に幅広く学習できる教育課程となっている。適切な割合に配置されている講義、演習、実験、実習の四つの授業形態で授業が実施されており、少人数で、教員の目が行き届いた教育が行なわれている。また、グループ単位で問題解決に当たらせる教育など様々な形態のＰＢＬ教育、並びに専攻科インターンシップが行なわれている。教育課程表の各科目においては、適切にシラバスが整備され、冊子の配布とホームページ上での開示が行われている。研究指導に関して、指導教員及び技術職員により適切に教育・研究支援が行われ、学生の力を十分に伸ばすように配慮されている。成績評価や修了認定の基準については、明確に規定、開示されており、適切に運用されている。

基準６　教育の成果

（１）観点ごとの分析

観点６－１－①：　高等専門学校として、その教育の目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点に係る状況）

準学士課程では、本校準学士課程の教育目的及び目標に沿って、必修科目、選択科目が配置された教育課程が編成されており、必修科目及び選択科目の必要単位数を修得することにより、教育目的及び目標の達成が確認できる。準学士課程５年生に対しては、年度末に全教員参加のもとで、卒業査定会議を実施している（資料６－１－①－１）。卒業査定会議では、卒業査定資料をもとに、卒業に相応しい学力､能力の修得について審議し､卒業認定を行っている(別添資料６－１－①－２)。準学士課程１年生から４年生に対しては、年度末に全教員参加のもとで、及落査定会議を実施している（資料６－１－①－３）。及落査定会議では、及落査定資料をもとに、当該学年の所定の単位を全て修得し、特別活動への必要参加時間を満たした学生の進級について審議し及落査定を行っている（別添資料６－１－①－４）。

資料６－１－①―１

準学士課程卒業査定会議開催通知

平成２５年２月２６日

教　員　各　位

校　　長

平成２４年度　本科５年卒業査定会議の開催について（通知）

標記のことについて、下記のとおり開催しますので御出席くださるようお知らせします。
なお、欠席される方は事前に教務係へ連絡してください。

記

１　日　　時　　平成２５年３月８日（金）１３時３０分から

２　場　　所　　大会議室

３　議　　題
(1)　平成２４年度 本科５年卒業査定について

（出典：卒業査定会議の開催通知メール）

資料６－１－①―３

準学士課程及落査定会議開催通知

平成２５年２月２６日

教　員　各　位

校　　長

平成２４年度　本科１～４年及落査定会議の開催について（通知）

標記のことについて、下記のとおり開催しますので御出席くださるようお知らせします。
なお、欠席される方は事前に教務係へ連絡してください。

記

１　日　　時　　平成２５年　３月１９日（月）１３時３０分～

２　場　　所　　大会議室

３　議　　題
(1)　平成２４年度 本科１～４年及落査定について

（出典：及落査定会議の開催通知メール）

専攻科課程では、準学士課程と同様に、本校専攻科課程の教育目的及び目標に沿って、一般科目、専門基礎科目、専門科目が配置された教育課程が編成されており、教育課程に示された必要単位数を満たすことにより、教育目的及び目標の達成が確認できる。専攻科は機械・電気システム工学専攻と物質工学専攻に分けられ、機械・電気システム工学専攻はさらに機械工学コース、電気電子工学コース、制御情報工学コースの３コース、物質工学専攻は生物応用化学コース、材料工学コースの２コースに分けられる。専門科目の選択科目については、専門性を深めるために各コースで履修すべき科目を定め、かつ最低修得単位数を指定しており、専攻科生は適切に選択科目を修得している。全教員参加のもとで修了査定会議を年度末に開催し、専攻科学生の修了の審議を行っている（資料６－１－①－５）。修了査定会議では、学業成績一覧表などの資料に基づき、修了までに必要な単位修得の規定に従って、学生が修了時に身に付ける学力や資質・能力がふさわしいと認められたものに対して修了認定を行っている（別添資料６－１－①－６）。

資料６－１－①―５

専攻科課程修了査定会議開催通知

平成２５年２月２０日

教　員　各　位

議　　長

平成２４年度 専攻科修了査定会議の開催について（通知）

標記のことについて、下記のとおり開催しますので御出席くださるようお知らせします。

なお、欠席される方は事前に教務係へ連絡してください。

記

１　日　時　　平成２５年２月２６日（火）１５時００分～

２　場　所　　大会議室

３　議　題　　(1)　平成２４年度 専攻科２年修了査定について

（出典：専攻科修了査定会議の開催通知メール）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程、専攻科課程ともにそれぞれの課程での教育目的及び目標が明確に定められ、準学士課程では学年末に全教員参加のもと卒業査定会議と及落査定会議を開催し、また、同様に専攻科課程でも修了査定会議を開催し、各課程での教育目的及び目標の達成状況を評価、確認しており、適切な取組が行われている。

観点６－１－②：　各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、学校としてその達成状況を評価した結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程及び専攻科課程の原級率（平成24年度）は、それぞれ４％及び６％であり、準学士課程及び専攻科課程の進級率（平成24年度）は、それぞれ94％及び90％である（別添資料６－１－②－１）。

準学士課程では、５年に学科ごとの卒業研究発表会を実施し、全学生が研究発表または卒業制作発表を行っている（別添資料６－１－②－２）。専攻科課程では、各専攻において、１年では専攻科研究論文の中間発表会を、２年では複数教員が評価する最終的な研究発表会を行っている（資料６－１－②－３）（別添資料６－１－②－４）。また、多くの学生が学協会などの外部の研究発表会でも研究成果の発表を行っている（別添資料６－１－②－５）。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程及び専攻科課程の進級率は高率を維持しており、卒業研究、卒業制作などの成果から教育の成果や効果が上がっている。

資料６－１－②―３

専攻科研究論文評価方法（機械・電気システム専攻発表評価）

専攻科研究論文の評価

専攻	機械･電気システム工学（電気電子工学コース）	番号		氏名	

研究内容の評価			
指導教員 氏名 印	1. 課題の理解と進展	／10 点	小計　X ／40 点
	2. 文献・資料の調査と活用	／10 点	
	3. 研究遂行の創意・工夫・意欲	／10 点	
	4. 論文作成	／10 点	

発表を通しての評価				
評価項目	主査氏名 印	副査Ａ氏名 印	副査Ｂ氏名 印	小計
1. 前刷りや発表シート	／4 点	／4 点	／4 点	／12 点
2. 構成と内容	／4 点	／4 点	／4 点	／12 点
3. 発表態度	／4 点	／4 点	／4 点	／12 点
4. 企画・管理能力	／4 点	／4 点	／4 点	／12 点
5. 質疑応答	／4 点	／4 点	／4 点	／12 点
小計	／20 点	／20 点	／20 点	小計　Y ／60 点
			総合点 X＋Y	／100 点

（出典：専攻科 機械・電気システム工学専攻（電気電子システム工学コース））

観点６－１－③：　教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程、専攻科課程の就職に関しては、就職希望者の98％（平成20年度～24年度平均値）が就職している（資料６－１－③－１）。また、ほとんどが各学科・各専攻の専門に関連した企業に就職している（資料６－１－③－２）。

進学に関しても、進学希望者の94％（平成20年度～24年度平均値）が進学している（資料６－１－③－３）。準学士課程卒業生の進学先は本校専攻科または工学系の国立大学であり、専攻科課程修了生の大学院進学先も工学系の国立大学がほとんどである（資料６－１－③－４）。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程、専攻科課程のいずれの課程においても、就職希望者及び進学希望者の就職率及び進学率は高率となっている。また、ほとんどが各学科・各専攻の専門に関連した企業・高専専攻科・大学・大学院等に就職・進学している状況から、教育の成果や効果は上がっている。

資料６－１－③―１

平成 20 年度～24 年度　就職状況

年度	学科・専攻科名	卒業・修了者数	就職		
			就職希望者数	就職者数	就職率
20年度	機械工学科	38	23	22	96%
	電気電子工学科	41	21	21	100%
	制御情報工学科	36	13	13	100%
	生物応用化学科	33	13	13	100%
	材料工学科	34	25	23	92%
	合計	182	95	92	97%
	機械・電気システム工学専攻	19	12	12	100%
	物質工学専攻	15	7	7	100%
	合計	34	19	19	100%
21年度	機械工学科	33	14	14	100%
	電気電子工学科	41	24	24	100%
	制御情報工学科	31	15	15	100%
	生物応用化学科	48	26	26	100%
	材料工学科	38	17	17	100%
	合計	191	96	96	100%
	機械・電気システム工学専攻	16	10	10	100%
	物質工学専攻	16	8	8	100%
	合計	32	18	18	100%
22年度	機械工学科	43	28	28	100%
	電気電子工学科	34	24	24	100%
	制御情報工学科	47	16	16	100%
	生物応用化学科	38	22	22	100%
	材料工学科	28	18	18	100%
	合計	190	108	108	100%
	機械・電気システム工学専攻	20	8	8	100%
	物質工学専攻	15	8	8	100%
	合計	35	16	16	100%
23年度	機械工学科	45	29	29	100%
	電気電子工学科	38	22	20	91%
	制御情報工学科	40	17	17	100%
	生物応用化学科	33	20	20	100%
	材料工学科	48	36	35	97%
	合計	204	124	121	98%
	機械・電気システム工学専攻	26	19	19	100%
	物質工学専攻	15	10	10	100%
	合計	41	29	29	100%
24年度	機械工学科	42	24	23	96%
	電気電子工学科	42	21	21	100%
	制御情報工学科	36	19	19	100%
	生物応用化学科	32	15	15	100%
	材料工学科	44	26	26	100%
	合計	196	105	104	99%
	機械・電気システム工学専攻	29	21	17	81%
	物質工学専攻	16	12	12	100%
	合計	45	33	29	88%

（出典：学生課資料）

資料６－１－③―２

平成 24 年度就職先一覧

平成 24 年度卒業生（本学科）の就職先企業

機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
(株)明治関西工場	関西電力(株)	(株)創世エンジニアリング	田口電機工業㈱	株)ネクシス
(株)牧野フライス製作所	富士通(株)	セイコーエプソン(株)	シオノギ分析センター(株)	第一精工(株)
(株)三　松	(株)フランソワ	九州電力(株)	武田薬品工業(株)	鳥栖シール工業(株)
富士重工(株)	西部電機(株)	富士ゼロックス福岡(株)	ニプロ㈱	日清紡ブレーキ(株)館林事業所
ダイキン工業(株)	(株)ジーサウスシステム	(株)トヨタプロダクションエンジニアリング	大日精化工業(株)	日本ピストンリング㈱
(株)デザインネットワーク	東芝メディカルシステムズ株)	(株)ムーンスター	協和発酵バイオ(株)	東洋鋼鈑(株)
(株)アドバンテスﾄ゛メディック	(株)ミニミニ九州	安川コントロール(株)	第一三共プロファーマ(株)	宇部興産(株)
積水化学工業(株)	(株)栄電舎	(株)栄電舎	出光興産(株)	東伸熱工(株)
山　九(株)゛	麒麟麦酒(株)福岡工場	(株)三井ハイテック	(株)大石膏盛堂	田口電機工業(株)
キャノン(株)	出光興産(株	(株)トヨタプロダクションエンジニアリング	(株)ムーンスター	(株)三　松
シバタ精機(株)	(株)ジーエス・ユアサフィールディングス	日本放送協会	昭和化学工業(株)	(株)九州エルピー
(株)九州フジパン	中部電力(株)゛	富士重工業(株)	極東石油工業合同会社	中部鋼鈑(株)
山　九（株）	第一精工(株)	メタウォーター(株)		(株)シマノ
林テレンプ（株）	(株)フリーダム	(株)ネクシス		高周波熱錬(株)
住友化学(株)	日本タングステン(株)	富士ゼロックス福岡(株)		新日鉄住金(株)
中部電力(株)	西日本旅客鉄道(株)	(株)システムニシツウ		(株)フジコー
三菱重工業(株)　工作機械本部	KCCS モバイルエンジニアリング	久留米ガス(株)		TOWA(株)
三菱重工業(株)　高砂製作所	(株)ネクシス	大和製罐(株)九州工場		昭栄化学工業(株)
IHI エアロスペース・エンジニアリング	アイコム(株)	九電テクノシステムズ(株)		DOWA サーモエンジニアリング
日本精工(株)	NOK(株)			(株)アーレスティ
出光エンジニアリング(株)	富士重工業(株)			ラサスティール(株)
JFE スチール西日本				NOK グループ
				エンケイ(株)
				(株)東研サーモテック
				旭テック(株)
				旭化成ケミカルズ(株)

平成 24 年度修了生（専攻科）の就職先企業

機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻
トーマス(株)、(株)オーレック、富士電機(株)、冨士古河 E&C(株)、八光オートメーション(株)、(株)富士通アドバンストソリューションズ、リコーテクノシステムズ(株)、(株)資生堂、旭化成ケミカルズ(株)、九電テクノシステムズ(株)、(株)オートメイション・テクノロジー、トヨタテクニカルディベロップメント(株)、(株)ヒロエンジニアリング、国立大学法人、第一精工(株)、日立 INS ソフトウェア(株)	森永乳業(株)、ヤマハ発動機(株)、(株)日本生物製剤久留米工場、日本電産(株)、DIC(株)千葉工場、東燃化学合同会社、アステラス製薬(株)、ダイキン工業(株)、沢井製薬(株)、旭化成(株)、日東電工(株)豊橋事業所 日本精工(株)

（出典：平成 25 年度学校要覧資料）

資料６－１－③―３

平成 20 年度～24 年度　進学状況

年度	学科・専攻科名	卒業・修了者数	進学		
			進学希望者数	進学者数	進学率
20年度	機械工学科	38	17	15	88%
	電気電子工学科	41	21	18	86%
	制御情報工学科	36	24	23	96%
	生物応用化学科	33	20	19	95%
	材料工学科	34	11	10	91%
	合計	182	93	85	91%
	機械・電気システム工学専攻	19	7	7	100%
	物質工学専攻	15	8	8	100%
	合計	34	15	15	100%
21年度	機械工学科	33	17	17	100%
	電気電子工学科	41	15	15	100%
	制御情報工学科	31	15	15	100%
	生物応用化学科	48	22	22	100%
	材料工学科	38	19	16	84%
	合計	191	88	85	97%
	機械・電気システム工学専攻	16	6	6	100%
	物質工学専攻	16	8	8	100%
	合計	32	14	14	100%
22年度	機械工学科	43	15	12	80%
	電気電子工学科	34	10	9	90%
	制御情報工学科	47	31	27	87%
	生物応用化学科	38	14	14	100%
	材料工学科	28	15	9	60%
	合計	190	85	71	84%
	機械・電気システム工学専攻	20	10	10	100%
	物質工学専攻	15	7	7	100%
	合計	35	17	17	100%
23年度	機械工学科	45	17	15	88%
	電気電子工学科	38	15	15	100%
	制御情報工学科	40	23	21	91%
	生物応用化学科	33	13	13	100%
	材料工学科	48	11	11	100%
	合計	204	79	75	95%
	機械・電気システム工学専攻	26	7	7	100%
	物質工学専攻	15	5	5	100%
	合計	41	12	12	100%
24年度	機械工学科	42	17	17	100%
	電気電子工学科	42	20	19	95%
	制御情報工学科	36	17	16	94%
	生物応用化学科	32	18	16	89%
	材料工学科	44	18	18	100%
	合計	196	90	86	96%
	機械・電気システム工学専攻	29	12	11	92%
	物質工学専攻	16	4	4	100%
	合計	45	16	15	94%

（出典：学生課資料）

資料６－１－③―４

平成２４年度進学先一覧

卒業生（本科）の編入学先大学

機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
九州大学工学部 九州工業大学工学部 佐賀大学理工学部 熊本大学工学部 鹿児島大学工学部 大阪大学工学部 首都大学東京システムデザイン学部 九州造形短期大学工業科	九州大学工学部 九州工業大学工学部 東京大学工学部 東京工業大学理学部 筑波大学理工学群 豊橋技術科学大学工学部 大阪大学工学部 広島大学工学部	九州大学工学部 九州工業大学情報工学部 佐賀大学理工学部 宮崎大学工学部 琉球大学工学部 東京大学工学部 筑波大学情報学群 室蘭工業大学情報電子工学系学科	九州大学工学部 千葉大学工学部 豊橋技術科学大学工学部 長岡技術科学大学工学部 広島大学生物生産学部	九州大学工学部 九州工業大学工学部 佐賀大学理工学部 熊本大学工学部 豊橋技術科学大学工学部 長岡技術科学大学工学部 茨城大学教育学部

卒業生（本科）の本校専攻科入学者数　（３０名）

機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科	合　計
４※	７	６※	８	５	３０

※既卒者１名を含む。

修了生（専攻科）の入学先大学院

機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻
九州大学大学院（総合理工学府） 〃　（システム情報科学府） 九州工業大学大学院（生体工学研究科） 東京大学大学院（新領域創成科学研究科） 東京工業大学大学院（総合理工学研究科） 筑波大学大学院（システム情報工学研究科） 京都大学大学院（情報学研究科） 北海道大学大学院（情報科学研究科）	九州大学大学院（総合理工学府）

（出典：平成２５年度学校要覧資料）

観点６－１－④：　学生が行う学習達成度評価等、学生からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

本校では、準学士課程の卒業生及び専攻科課程の修了生に対して、教育目的の達成度に関する自己評価アンケート（資料６－１－④－１）および学生支援に関するアンケート（資料６－１－④－２）を実施しており、その集計結果は自己評価検討委員会及び学科長委員会に報告されている（別添資料６－１－④－３、資料６－1－④－４）。平成24年度の準学士課程卒業生を対象とした教育目的の達成度に関する自己評価アンケート結果では、語学・数学・物理・化学などの一般基礎科目、各学科の専門科目とも、知識が身についたと自己評価する学生が大勢を占めており、本校の教育目的･目標に則した教育がなされ、教育成果が上がっていると判断できる。また、専攻科課程においても同様に修了生対象の自己評価アンケート結果から、同様の判断を下している（別添資料６－１－④－３、資料６－１－④－５）。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程卒業並びに専攻科課程修了時の教育目的の達成度に関する自己評価アンケートの項目の中に、学習達成度に関する項目を設定しており、学生には、本校並びに各学科の教育目的に照らし合わせ、学習到達度を判断することができるよう配慮されている。おおむね身についたという結果が得られており、本校が設定する教育目的・目標に妥当性があり、教育成果は上がっている。

資料６－１－④－１

教育目的の達成度に関する自己評価アンケート

本校の教育理念
「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」

機械工学科の教育目標
ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得した、創造性豊かで国際的視野に立った実践的技術者を育成します。

教育理念、および学科の教育目標に関するアンケート調査です。 該当する回答を○印で囲んで下さい。

(1) 本校の教育理念を知っていましたか。
◎ 十分知っていた　○ ある程度知っていた
△ あまり知らなかった　× 全く知らなかった

(2) 機械工学科の教育目標を知っていましたか。
◎ 十分知っていた　○ ある程度知っていた
△ あまり知らなかった　× 全く知らなかった

(3) 学校生活を通して、社会のルールを遵守しながら自主的に行動する習慣が身についたと思いますか。
◎ 十分身についた　○ ある程度身についた
△ あまり身につかなかった　× 全く身につかなかった

(4)本校の授業を通して、広い視野と豊かな心が身についたと思いますか。
◎ 十分身についた　○ ある程度身についた
△ あまり身につかなかった　× 全く身につかなかった

(5) 本校の授業を通して、数学・物理・化学に関する基礎学力と情報処理に関する基礎能力が身についたと思いますか。
◎ 十分身についた　○ ある程度身についた
△ あまり身につかなかった　× 全く身につかなかった

(6) 機械工学科の専門科目の授業を通して、材料と強度、機械設計、生産工学、熱・流体工学、
(5) 制御・情報技術に関する基礎的な専門知識と技術を身につけることができたと思いますか。
◎ 十分身についた　○ ある程度身についた
△ あまり身につかなかった　× 全く身につかなかった

(7) 実験、演習等を通して、問題を分析し、解決する力が身についたと思いますか。
◎ 十分身についた　○ ある程度身についた
△ あまり身につかなかった　× 全く身につかなかった

(8) 実験・実習、演習、卒業研究等を通して、自ら学び、工夫する力が身についたと思いますか。
◎ 十分身についた　○ ある程度身についた
△ あまり身につかなかった　× 全く身につかなかった

(9) 英語等の演習、実験レポート作成、インターンシップ、卒業研究発表等を通して基礎的なコミュニケーション能力が身についたと思いますか。
◎ 十分身についた　○ ある程度身についた
△ あまり身につかなかった　× 全く身につかなかった

(10) 本校の授業や学校生活を通して、将来、社会に貢献できる技術者となるための素養が身についたと思いますか。
◎ 十分身についた　○ ある程度身についた
△ あまり身につかなかった　× 全く身につかなかった

■ 具体的な意見、要望がある場合に記入して下さい。

（出典：教育目的の達成度に関する自己評価アンケート）

資料６－１－④－２

学生支援に関するアンケート

該当する回答を丸で囲んで下さい。

1. 質問に行って教えてもらう、演習やテストで間違ったところを再度説明してもらう、勉強のしかたをアドバイスしてもらう、などの学習支援を受けることができましたか？

◎　十分に受けることができた　　○　ある程度受けることができた
△　あまり受けることができなかった　×　全く受けることができなかった

2. 実験，実習，卒業研究で適切な指導を受けましたか？

◎　適切な指導を受けた　　○　ある程度適切な指導を受けた
△　指導が十分ではなかった　　×　全く受けることができなかった

3. 進学または就職に関するガイダンス，進路指導を受けることができましたか？

◎　十分受けることができた　　○　ある程度受けることができた
△　不十分だった　　×　ほとんどなかった

4. 自習を行う学習環境（教室，図書室、研究室などの施設や設備）に満足しましたか？

◎　十分満足できた　　○　ある程度満足できた
△　あまり満足できなかった　　×　全く満足できなかった

5. 図書館においてある本，参考書，雑誌に満足しましたか？

◎　十分満足できた　　○　ある程度満足できた
△　あまり満足できなかった　　×　全く満足できなかった

6. クラブ活動や学生会活動などの課外活動での学校側の支援や助言に満足しましたか？

◎　十分満足できた　　○　ある程度満足できた
△　あまり満足できなかった　　×　全く満足できなかった

7. 困った事や悩み事があるときに相談できる教職員はいましたか？ いた場合には教職員の役職名を記入して下さい(先生の個人名ではなく、担任，学生相談室教員、寮務事務員などの役職名を記入)

○　相談できる教職員がいた(　　)　　×　いなかった

■ 具体的な要望や意見がある場合に記入して下さい(裏にも記入可)。

（出典：学生支援に関するアンケート）

資料６－１－④－４

平成２５年度　第２回　自己評価検討委員会　議事要旨（案）

日　時：平成２５年５月８日（水）１６時２５分～１６時４０分
場　所：管理棟　２Ｆ　大会議室
出席者：江崎企画主事、和泉教務主事、石丸学生主事補（辻学生主事の代理）、
泉本寮務主事、池田専攻科主事（兼　平川電気電子工学科長の代理）、
原田機械工学科長、丸山制御情報工学科長、冨岡生物応用化学科長、
田中材料工学科長、福田一般科目（文科系）学科長、
宮本一般科目（理科系）学科長、大津企画主事補、黒木企画主事補、
椿企画主事補、川嶋企画主事補、黒木総合情報センター長（再掲）、
藤田産学民連携テクノセンター長、笈木学生相談室長、辻本事務部長、
三原総務課長、栗原学生課課長補佐（磯田学生課長の代理）
議　事：

１．授業改善専門部会について

椿企画主事補より、資料１及び資料２に基づき概略について説明があった。

また、江崎企画主事より、第２回ＦＤ会議の開催日について、機関別認証評価の日程が１１月１４日及び１５日に決定したことに伴い、１１月２７日に変更した旨説明があった。

２．平成２４年度卒業生・修了生に対する教育目標の達成度に関する自己評価と学生支援に関するアンケート結果について

椿企画主事補より、資料３に基づき概略について説明があった。

続いて、委員より以下の意見が出された。

・全般的には好評価を受けていると認識してよいのではないか。

なお、江崎企画主事より、資料３について他に意見等がある場合は、別途提出いただきたい旨依頼があった。

３．その他

本委員会の資料について、次回より紙での机上配布は行わず、各委員がノートパソコン等を持ち込むこととなった。

（出典：平成 25 年度第 2 回自己評価検討委員会議事録）

資料６－１－④－５(1)

平成24年度専攻科卒業時アンケート結果(2年全員)

以下の各質問項目について、該当する記号を○で囲んで下さい。
「その他」の場合は(　)内に具体的に記入して下さい。

	平成24年度 全体	機電	物質	
1. 専攻科に入学した経緯はどれですか。				
A 専攻科第一志望であった。	63.6	60.7	68.8	[%]
B 大学編入学に合格したが、専攻科を選んだ。	0.0	0.0	0.0	
C 大学編入に失敗したため。	20.5	25.0	12.5	
D 高専卒での就職が思うようにならなかった。	13.6	10.7	18.8	
E その他。(　)	2.3	3.6	0.0	
2. 専攻科に入学した理由は何ですか。(複数回答可)				
A 高専の特徴を生かした実践的教育。	43.2	46.4	37.5	[%]
B 大学に比べ重複した授業が少ない。	13.6	14.3	12.5	
C 先端的教育プログラム。	2.3	3.6	0.0	
D 大学編入するより就職に有利と考えた。	27.3	10.7	56.3	
E 大学編入するより大学院進学に有利と考えた。	27.3	25.0	31.3	
F 地元にいてもっと勉強したかった。	18.2	28.6	0.0	
G 推薦入学制度があったから。	20.5	17.9	25.0	
H 経済的に学費が安い。	59.1	64.3	50.0	
I その他 (　)	4.5	7.1	0.0	
3. 実際に専攻科へ入学して教科内容は一口に言ってどう思いますか。				
A 満足している。	13.6	10.7	18.8	[%]
B やや満足している。	36.4	39.3	31.3	
C 普通である。	27.3	17.9	43.8	
D やや不満である	20.5	21.4	18.8	
E 非常に不満である。	6.8	10.7	0.0	
4. 授業科目について答えて下さい。				
A 基礎学力の充実を図る科目を増やす。	20.5	28.6	6.3	[%]
B 狭くても、もっと深く専門的にする。	61.4	57.1	68.8	
C 広く、色々な分野が勉強できるようにする。	9.1	10.7	6.3	
D このままで、ほぼよい。	9.1	3.6	18.8	
E その他。	20.5	32.1	0.0	
5. 専攻科研究論文について尋ねます。				
A 充実して取組んでいる。	38.6	32.1	50.0	[%]
B ほぼ満足している。	52.3	53.6	50.0	
C 面白くないが、仕方なくやっている。	6.8	10.7	0.0	
D その他。	2.3	3.6	0.0	

(出典：専攻科主事室より提供)

資料６－１－④－５(2)

６. 本校の教育理念は、「自立の精神と独創性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」です。下記の技術者として必要な能力に対し自己評価すると、現在、A,B,C,D,Eのどれに該当しますか。

〔1〕地球的視点から多面的に物事を考える能力

A ある	7.0	10.7	0.0	[%]
B ややある	32.6	25.0	46.7	
C 普通	48.8	46.4	53.3	
D あまりない	9.3	14.3	0.0	
E ほとんどない	2.3	3.6	0.0	

〔2〕技術が社会・自然に及ぼす影響を理解し、その責任を自覚できる能力。

A ある	14.0	17.9	6.7	[%]
B ややある	46.5	35.7	66.7	
C 普通	34.9	42.9	20.0	
D あまりない	2.3	3.6	0.0	
E ほとんどない	0.0	0.0	6.7	

〔3〕数学、自然科学、ITなどを応用できる能力。

A ある	18.6	28.6	0.0	[%]
B ややある	20.9	25.0	13.3	
C 普通	48.8	39.3	66.7	
D あまりない	11.6	7.1	20.0	
E ほとんどない	0.0	0.0	0.0	

〔4〕専門の知識・技術を問題解決に応用できる能力。

A ある	11.6	10.7	13.3	[%]
B ややある	46.5	46.4	46.7	
C 普通	39.5	39.3	40.0	
D あまりない	2.3	3.6	0.0	
E ほとんどない	0.0	0.0	0.0	

〔5〕高専での勉学を応用し、社会的要求を解決するための企画・設計力。

A ある	9.3	10.7	6.7	[%]
B ややある	37.2	28.6	53.3	
C 普通	39.5	39.3	40.0	
D あまりない	14.0	21.4	0.0	
E ほとんどない	0.0	0.0	0.0	

〔6〕論理的な表現力、及び国際的に通用する語学基礎能力。

A ある	4.7	7.1	0.0	[%]
B ややある	18.6	14.3	26.7	
C 普通	37.2	32.1	46.7	
D あまりない	27.9	35.7	13.3	
E ほとんどない	11.6	10.7	13.3	

〔7〕自発的、継続的な自己学習能力。

A ある	9.3	14.3	0.0	[%]
B ややある	41.9	46.4	33.3	
C 普通	39.5	28.6	60.0	
D あまりない	7.0	10.7	0.0	
E ほとんどない	2.3	0.0	6.7	

〔8〕与えられた制約下で計画的に実験を進め、まとめる能力。

A ある	14.0	10.7	20.0	[%]
B ややある	44.2	50.0	33.3	
C 普通	37.2	32.1	46.7	
D あまりない	2.3	3.6	0.0	
E ほとんどない	2.3	3.6	0.0	

〔8〕与えられた制約下で計画的に実験を進め、まとめる能力。

A ある	18.6	21.4	13.3	[%]
B ややある	37.2	25.0	60.0	
C 普通	30.2	35.7	20.0	
D あまりない	11.6	17.9	0.0	
E ほとんどない	2.3	0.0	6.7	

〔10〕協調性はあるほうですか？

A ある	23.3	28.6	13.3	[%]
B ややある	32.6	28.6	40.0	
C 普通	23.3	21.4	26.7	
D あまりない	14.0	10.7	20.0	
E ほとんどない	0.0	0.0	0.0	

８. 専攻科の入学に関してどう思っていますか。

A よかったと思う。	86.4	89.3	86.7	%
B 大学編入が良かった。	9.1	10.7	6.7	
C 就職したほうが良かった。	2.3	0.0	6.7	
D その他。（　　）	0.0	0.0	0.0	

（出典：専攻科主事室より提供）

観点６－１－⑤：　卒業（修了）生や進路先等の関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や、卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

卒業生・修了生の就職先への企業訪問あるいは卒業生に対するアンケート調査を学科ごとに実施している（資料６－１－⑤－１、１－⑤－２）。その結果から準学士課程の卒業生及び専攻科修了生はいずれも、学力や資質、能力についておおむね、修得できていることが分かった（資料６－１－⑤－３）。また、（独）国立高等専門学校機構が国立高等専門学校卒業生を対象としたアンケート調査を実施しており、その結果はウェブ上で公開され（資料６－１－⑤－４）、準学士課程および専攻科課程の教育に対する総合満足度は比較的高いということがわかった。

（分析結果とその根拠理由）

卒業生、修了生へのアンケートが継続的に実施されており、就職先企業からも意見聴取が実施されている。それらの結果から判断して、教育の成果や効果が上がっている。

資料６－１－⑤－１

久留米高専制御情報工学コース卒業生教育目標達成度評価アンケート（指導者用）

下記の項目について本コース卒業生○○○○君が入社した時点での評価をお願いします。以下の設問にある能力を身に付けていたかどうかについての回答をお願いします。回答は、それぞれの問に対し、下の選択肢①～⑤を選択してください。

回答欄　①十分、身についていた
②十分ではないが、素養はあった
③あまり身についていなかった
④まったく身についていなかった
⑤これまでの職務では必要とされなかったので、評価不能

[学習能力・倫理観・知識に関する設問]	回答（①～⑤のいずれかに○をつけてください）
1.継続的に学習する能力	① ② ③ ④ ⑤
2.技術者としての倫理観	① ② ③ ④ ⑤
3.数学に関する知識	① ② ③ ④ ⑤
4.物理に関する知識	① ② ③ ④ ⑤
5.化学に関する知識	① ② ③ ④ ⑤
6.確率・統計に関する知識	① ② ③ ④ ⑤
7.機械工学に関する知識	① ② ③ ④ ⑤
8.材料学に関する知識	① ② ③ ④ ⑤
9.設計製図に関する知識	① ② ③ ④ ⑤
10.制御工学、計測工学に関する知識	① ② ③ ④ ⑤
11.情報工学に関する知識	① ② ③ ④ ⑤
12.プログラミングに関する知識	① ② ③ ④ ⑤
13.アプリケーション（ワープロ、表計算ソフトなど）に関する知識	① ② ③ ④ ⑤
14.電気工学、電子工学に関する知識	① ② ③ ④ ⑤
[課題探索・問題解決能力に関する設問]	
15.新たな問題点を発見する能力	① ② ③ ④ ⑤
16.問題点を分析し、解決するための手法や手順を企画する能力	① ② ③ ④ ⑤
17.与えられた手法や手順に従い問題点を解決する能力	① ② ③ ④ ⑤
18.グループで作業を行なう能力	① ② ③ ④ ⑤
[結果報告に関する設問]	
19.状況や結果を、分析、考察する能力	① ② ③ ④ ⑤
20.プレゼンテーション能力	① ② ③ ④ ⑤
21.ディスカッション能力	① ② ③ ④ ⑤
22.英語での基礎的なコミュニケーション能力	① ② ③ ④ ⑤

[その他の意見等]

1～22 の選択肢で身に付けておく必要が高いとお考えになっている能力をお答えください（複数回答可）

（　　）

1～22 の選択肢で身に付けておく必要が低いとお考えになっている能力をお答えください（複数回答可）

（　　）

1～22 の選択肢以外で、身に付けておく必要があると思われる能力がありましたらお答えください。

（　　）

（出典：制御情報工学科より提供）

資料６－１－⑤―２

久留米高専制御情報工学コース卒業生教育目標達成度評価アンケート（卒業生用）

Ａの各項目については、入社した時点での自己評価をお願いします。Ｂの各項目については現時点での意見、要望を記入してください。なお、Ａの回答欄の①～⑤は、下記のとおりです。

回答欄　①十分、身についていた
②十分ではないが、役には立った
③あまり身についていなかった
④まったく身についていなかった
⑤これまでの職務では必要とされなかったので、評価不能

Ａ　教育目標達成度

[学習能力・倫理観・知識に関する設問]	回答（①～⑤のいずれかに○をつけてください）
1.維続的に学習する能力	① ② ③ ④ ⑤
2.技術者としての倫理観	① ② ③ ④ ⑤
3.数学に関する知識	① ② ③ ④ ⑤
4.物理に関する知識	① ② ③ ④ ⑤
5.化学に関する知識	① ② ③ ④ ⑤
6.確率・統計に関する知識	① ② ③ ④ ⑤
7.機械工学に関する知識	① ② ③ ④ ⑤
8.制御工学、計測工学に関する知識	① ② ③ ④ ⑤
9.材料学に関する知識	① ② ③ ④ ⑤
10.設計製図に関する知識	① ② ③ ④ ⑤
11.情報工学に関する知識	① ② ③ ④ ⑤
12.プログラミングに関する知識	① ② ③ ④ ⑤
13.アプリケーション（ワープロ、表計算ソフトなど）に関する知識	① ② ③ ④ ⑤
14.電気工学、電子工学に関する知識	① ② ③ ④ ⑤
[課題探索・問題解決能力に関する設問]	
15.新たな問題点を発見する能力	① ② ③ ④ ⑤
16.問題点を分析し、解決するための手法や手順を企画する能力	① ② ③ ④ ⑤
17.与えられた手法や手順に従い問題点を解決する能力	① ② ③ ④ ⑤
18.グループで作業を行なう能力	① ② ③ ④ ⑤
[結果報告に関する設問]	
19.状況や結果を、分析、考察する能力	① ② ③ ④ ⑤
20.プレゼンテーション能力	① ② ③ ④ ⑤
21.ディスカッション能力	① ② ③ ④ ⑤
22.英語での基礎的なコミュニケーション能力	① ② ③ ④ ⑤

Ｂ　卒業後の意見、要望

就職して、最も役に立った教科はなんですか？（複数回答可）
（　　）

在校中に、もっと勉強しておけばよかったと思う教科は何ですか？（複数回答可）
（　　）

在校中に、もっと重点的にやって欲しかった教科は何ですか？（複数回答可）
（　　）

在校中に、開講して欲しかった教科は何ですか？（複数回答可）
（　　）

本科５年の卒業研究は必要だと思いますか？
（　　）

（出典：制御情報工学科より提供）

資料６－１－⑤－３

制御情報工学コース修了生教育目標達成度評価アンケート回答一覧（修了生）

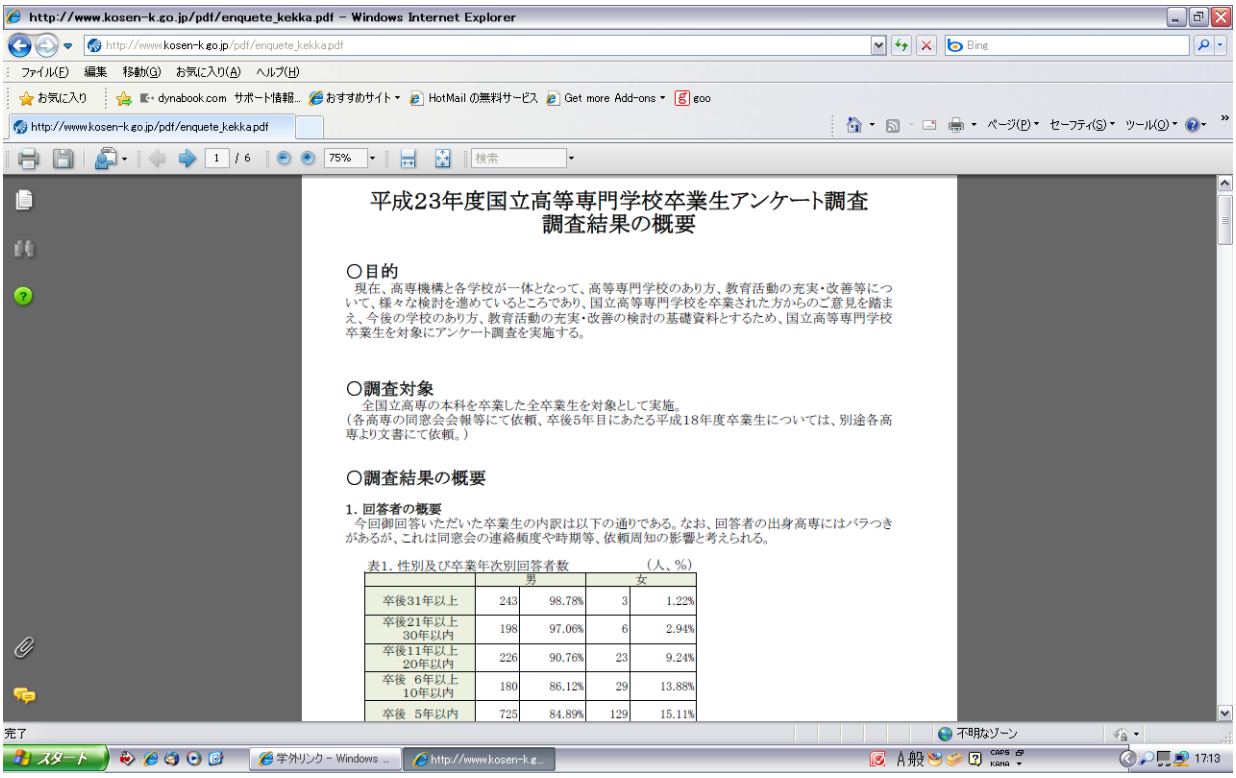
No.	所属	能力・知識の達成度																				記述式				
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	最も役立った教科	勉強しておけばよかった教科	重点的にやって欲しかった教科	開講してほしかった教科	卒業研究
1	生産本部　技術部テスト開発課	1	1	1	2	3	1	2	3	1	1	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	1	制御工学・計測工学・(卒業研究)	制御工学・計測工学・(卒業研究)	なし	なし	必要。ただし、月1回程度の中間発表を行わない場合はその効果は大きく落ちると思います。プレゼンテーション能力・問題抽出能力・問題解決能力を高める事ができる場でそれをしないのはもったいないと思います。
2	製造本部	2	3	2	5	5	3	5	5	5	5	3	2	3	5	3	3	2	2	2	3	2	4	・産業デザイン論・創造工学実験・専攻科インターンシップ	・応用情報処理演習・英語、実践英語・卒業研究	・アセンブラ・英語	・文章力やプレゼンテーション力など、人に何かを伝えるための力を鍛える教科・グループディスカッション	必要だと思います。自分の研究内容を資料にまとめ、プレゼンテーションまで実施することが出来る貴重な機会として必要な科目だと思います。
3	未回答	2	4	3	3	3	3	3	3	3	1	3	3	4	3	3	3	3	3	3	2	2	1	電気、電子工学	電気、電子工学、数学、物理、確率統計	電気、電子、物理	半導体	資料の作り方、プレゼンの練習にもなるので必要だと思います。
4	情報システムグループ	3	3	5	5	5	5	5	5	5	2	2	2	2	5	2	3	2	2	2	2	2	4	プログラミングに関する教科	ハードやネットワークに関する教科	情報系技術者としての常識・基礎についての教科	資格を取るための教科	経験として必要
5	東京支店CSセンター	2	3	3	2	3	3	2	3	2	2	2	2	2	3	3	4	2	2	2	5	4	4	機械工学、制御工学、物理	アプリケーション(ワープロ、表計算など)の勉強	制御工学	特にありません	必要だと思います
6	未回答	2	2	2	5	5	2	5	5	5	2	1	1	1	2	2	2	1	3	2	2	3	3	現在、ソフトウェア製造系の会社に居ますので、情報処理関係(C言語)の授業です。	インターネットで調べ物等する際にも、英語書かれている資料等がたまにあるので、やはり英語はもう少し勉強しておけば良かったと思います。	情報処理関係(C言語授業)です。私が在校していた時と違い、現在は情報工学系(ソフトウェア工学)のカリキュラムの割合が増えていると聞いています。	ソフトウェア工学(グループでプログラミングを行う等、分担作業を行うようなプログラミングの授業)があったら良かったと思います。	会社で報告書等の作成スキル(WordやExcelの操作方法等も含め)は不可欠なので、その基礎訓練として必要だと思います。
7	生産技術センター	3	4	4	3	3	4	4	3	5	5	5	5	5	5	5	4	4	3	4	3	3	2	情報処理(プログラミング)、電子回路(直流、交流回路)、信号処理、デジタル回路、制御工学(PLC制御)、画像処理(アフィン変換、フィルタ等)、設計製図	英語、電子回路	アナログ、デジタル回路(計測制御技術を重点的に)、英語(TOEIC対策を重点的に)	・電子回路の設計製図教科(構想⇒部品選定⇒製図⇒組立調整まで行うことが出来たらいいと思う)・長期インターンシップを就職活動前に行いたかった。	高専本科は課題解決法を考察し、実現するまでの過程をまとめ、報告(プレゼン)する機会が少ないので卒業研究は必要だと思う。
8	未回答	2	3	1	2	4	2	2	3	4	2	2	2	2	1	2	3	2	4	1	2	2	4	修了研究、画像処理	工業英語	電気回路	マイコン制御の回路設計からプログラミングまでの一貫した講義	必要だと思う

制御情報工学コース修了生教育目標達成度評価アンケート回答一覧（指導者）

No.	所属	能力・知識の達成度																				記述式		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	必要性が高い能力・知識	必要性が低い能力・知識	左以外で必要な能力・知識
1	技術部テスト開発課	1	1	1	5	5	1	1	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5	1(継続学習力)、2(技術者倫理観)、14(電子工学知識)、16(問題形成力)、19(分析考察力)弊社業務において最も重要と思われる項目を挙げましたが、ご本人様は十分身についており問題はありません	上記設問で不要と思われる能力はありません。専門知識に関しては弊社業務ではあまり重要とならない項目も一部ありますが、弊社内での場合に限りますので回答を控えさせて頂きます。	上記設問になく、頂戴した資料にある項目ですが、『広い視野で物事を捉える能力』は最も重要な能力ではないかと考えます。上記『身に付けておく必要が高い・・・』で挙げた能力の中でも一番重要と考えます。
2	製造本部	2	2	1	5	5	2	5	5	5	5	2	1	2	5	2	3	3	1	2	3	2	5	<情報処理技術の基本素養>問12、問13は入社後でも身に付く知識であり重要視しておりませんが、問3、問6のような基本素養は重要であると考えております。<問題解決能力、現状改善能力>入社時点では重要ではありませんが、2年後、3年後の成長を見据えると、問16の問題解決能力と、問15の改善能力が重要であると考えております。	問5、問7～問10については現状のシステム開発としての必要性は低いと考えております。但し、開発するシステムにより様々な能力、知識が必要であるということも認識しておく必要があります。	与えられた職務、求められる知識の範疇で満足する技術者が多く、自ら意欲的に知識を取得し、新たな分野にチャレンジする人材が必要であると感じております。情報処理技術において常に探究心を持ち、知識を習得する能力が必要であると考えます。
3	デバイス技術部デバイス技術第2課	2	3	2	5	5	2	5	5	5	5	5	2	1	5	3	3	2	2	3	4	3	5	基本的な学習能力が具わっている前提にて、問1、15、16、17、19、20、21の必要性が高いと考えます。これらが身に付いているかいないかで、早期に戦力として見込まれるかどうかが決まります。	必要性が低い能力は無いと考えます。ただ、配属先部署の業務内容に応じて、何を一番に求められるかは違ってくるとは思います。	一般的なコミュニケーション能力。社会人としての最低限の常識。
4	情報システムグループ　第一販売システムチーム	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	1、12、13、15、16、、17、18、19、20、21、22	4、5、6、7、8、9、10、14	コミュニケーション能力
5	東京支店CSセンター	2	3	3	3	2	3	2	3	4	2	2	4	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	16、18、20、22	7、10、23	
6	システム2部	2	2	2	5	5	5	5	5	5	2	1	1	1	5	2	2	2	2	2	3	3	5	・他者とのコミニケーション能力・説明能力・プレゼン能力		・自立型技術者(自分の作業を自分で決め、自分でスケジュール管理できる)・品質確保のための手法
7	未回答	2	2	5	5	5	2	2	5	2	2	5	2	1	3	3	3	2	2	2	3	3	5	初期の段階では、17のルールを理解し、課題解決に取り組むことができる能力を要望する。少々のことは、職場先輩のサポートにより対応できることが多く、単独での解決はその経験を生かす中から育てれば良い。ただ、本人にその気がなければ永久に成長は無いと考える。また、1の自己啓発については必須と考える。	特に無し。	近年の電気系新入社員に不足を感じるのは、ハードウェア(電気・電子回路)のモノづくり経験が少ない方が多いと言う点です。パソコンと市販機器を出来合いケーブルで接続し、ソフトを作らせると容易にやり遂げるのに、電源を用意し、ランプ1個、スイッチ1個の単位で配線設計させ、組立させるととんでもないモノを設計・製作している。(電気の流れる回路が構成できない)学校教育の中で実際のモノづくり経験をもっと積み教科書の中身を実体化できる能力は即戦力を要望する会社側としては切望するものです。
8	技術グループ　金融端末開発チーム	1	2	2	2	5	2	5	5	5	5	1	1	1	2	2	2	2	1	2	2	1	2	4、12、13、17、18、19、23		
9	生産技術課	2	4	1	5	5	4	3	5	2	2	1	1	2	5	4	4	3	3	4	5	3	5	グループで作業を行なう能力、ディスカッション能力、統計学、設計製図に関する知識	プレゼンテーション能力、技術者としての倫理観(これは会社で業務を行なう上でOJTにて培われると思える。学生時代に身につけたつもりでもその会社の姿勢にあうかどうかが疑問であると思います)	コミュニケーション能力(日常業務他で上司、先輩の指示に対する理解力)

（出典：制御情報工学科より提供）

資料６－１－⑤－４



平成23年度国立高等専門学校卒業生アンケート調査
調査結果の概要

○目的
現在、高専機構と各学校が一体となって、高等専門学校のあり方、教育活動の充実・改善等について、様々な検討を進めているところであり、国立高等専門学校を卒業された方からのご意見を踏まえ、今後の学校のあり方、教育活動の充実・改善の検討の基礎資料とするため、国立高等専門学校卒業生を対象にアンケート調査を実施する。

○調査対象
全国立高専の本科を卒業した全卒業生を対象として実施。
（各高専の同窓会会報等にて依頼、卒後5年目にあたる平成18年度卒業生については、別途各高専より文書にて依頼。）

○調査結果の概要

1. 回答者の概要
今回御回答いただいた卒業生の内訳は以下の通りである。なお、回答者の出身高専にはバラつきがあるが、これは同窓会の連絡頻度や時期等、依頼周知の影響と考えられる。

表1. 性別及び卒業年次別回答者数　（人、%）

	男		女	
卒後31年以上	243	98.78%	3	1.22%
卒後21年以上30年以内	198	97.06%	6	2.94%
卒後11年以上20年以内	226	90.76%	23	9.24%
卒後 6年以上10年以内	180	86.12%	29	13.88%
卒後 5年以内	725	84.89%	129	15.11%

（出典：（独）国立高等専門学校機構のウェブページ）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

準学士課程及び専攻科課程の進級率は高率を維持しており、卒業研究、卒業製作などの成果から教育の成果や効果が上がっているものといえる。また、準学士課程、専攻科課程のいずれの課程においても、就職希望者及び進学希望者の就職率及び進学率は高率を維持している。さらに、競争率の高い企業や大学、大学院に多くの就職、進学の実績があり、本校の教育が十分寄与していると判断できる。

（改善を要する点）

該当なし。

（３）基準６の自己評価の概要

準学士課程、専攻科課程ともにそれぞれの課程での教育目的及び目標が明確に定められ、卒業・修了査定会議及び及落査定会議により教育目的及び目標の達成状況を評価、確認している。また、準学士課程及び専攻科課程の進級率は高率を維持しており、就職希望者及び進学希望者の就職率及び進学率も高率を維持している。

また、それらの状況を把握するために、在学生・卒業生・修了生及び就職先企業に対する各種アンケートの実施及びその結果の開示システムが確立されている。これらの各種アンケート結果から判断しても、教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

基準７　学生支援等

（１）観点ごとの分析

観点７－１－①：　学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

（観点に係る状況）　学習を進めるためのガイダンスは、入学時の説明会と合宿研修（１泊２日）で実施されている（資料７－１－①－１、７－１－①－２）。合宿研修では後期中等教育機関と高等教育機関の相違を指導し、学生の自覚を促している（資料７－１－①－３、７－１－①－４）。専攻科学生は、入学時に履修の手引きを配布し、ガイダンスが実施されている（資料７－１－①－５）。

学習を行う上での情報は、年度初めに学生全員に配布される学生便覧や、隔週で開催される担任会を通して、学生に伝達される。学級担任によるホームルームでは、学習遂行上の情報伝達している（資料７－１－①－６、７－１－①－７）。

学生の学習上の相談・助言などの支援は、学級担任・科目担当教員が、昼休みや放課後に随時行っている。また、オフィスアワーを設けている学科もある（資料７－１－①－８）。さらに学生支援アドバイザーが学習指導、就職指導を実施している（資料７－１－①－９）。

（分析結果とその根拠理由）　本校では入学当初のガイダンス、並びに入学後の毎週開催されるホームルームを通して、学生が学習を進めるために必要な情報の伝達及び相談・助言する体制が整備され、機能している。

資料７－１－１－１　　新入生オリエンテーション資料

４月８日(月)　入学式後

※提出書類は、学生に持たせてください。

各学科事務手続の会場［教室］へ学生のみ先に移動（担任引率）

・機　械　工　学　科（略記号：Ａ）　　Ｄ４教室
・電気電子工学科（略記号：Ｅ）　　ﾃｸﾉｾﾝﾀｰ　多目的室
・制御情報工学科（略記号：Ｓ）　　Ｄ１教室
・生物応用化学科（略記号：Ｃ）　　Ｃ１教室（生化講義室）
・材　料　工　学　科（略記号：Ｍ）　　Ｄ２教室

事務手続【学生】11:10～11:50

※ 学生が提出する書類

・誓約書
・平成２５年度学生カード
・日本スポーツ振興センター災害共済給付契約同意書
・合宿研修承諾書
・新入生健康調査票
・進学届(日本学生支援機構奨学生採用候補者のみ)

★ 学生に配布される証明書等

・学生証
・通学証明書

学科紹介【保護者同席】11:50～12:50

・学科長挨拶
・学科教員の紹介
・教育課程の説明
・その他

新入寮生昼食会【該当学生及び保護者】12:50～14:00

・学生寮１階　食堂

新入寮生説明会【該当学生及び保護者】14:00～15:30

・学生寮１階　食堂

(出典：平成 25 年度新入生オリエンテーション資料)

資料７－１－①－２

１．平成２５年度１年生合宿研修実施要項

1. 目　的：　・久留米高専の学生としての心がまえを学び、入学した意義を考える。
・研修中の規律正しい生活を通して、学友・教員との親交を深める。

2. 期　日：　平成２５年４月２６日（金）・２７日（土）１泊２日

3. 日　程：　４月２６日　８：４０（学校集合）～４月２７日　１３：３０（通所）
（１４：３０本校で解散予定　詳細は３頁日程表に記載）

4. 場　所　国立夜須高原青少年自然の家　福岡県朝倉郡筑前町大字三箇山 1103
TEL　0946-42-5811　　FAX　0946-42-5880

5. 参加者：　２６３名（うち宿泊２５８名）
(1) １年生全員　２１１名（うち女子４９名）
(2) 教職員 ２０名（うち女子２名）
校長、教務主事（和泉）、A 原田、E 宮崎、C 渡邊　５名
学生主事室（辻・石丸・松島・岡・龍頭・藤木）６名
１年学級担任（瀧田・江島・小宮・伊藤・金城）５名
課長補佐、学生生活支援係長、学生生活支援係員、看護師　４名
(3) 学生会２０名（うち女子６名）、学科代表１２名（うち女子４名）
計３２名（うち女子１０名）

6. 移　動：　貸切バス６台

7. 学生組織：　(1) 代表者　１名　電気電子工学科[redacted]
(2) 旗係４名（電気電子工学科を除く４学科から各１名）
(3) 生活班長　３１名（うち女子７名）　各班５～８名で編成）

8. 服　装：　学校指定のトレーニングウェア、運動靴を着用のこと。
（青少年自然の家は高冷地のため、防寒具を準備すること。）

9. 携帯品：　体育館シューズ、運動帽、タオル、雨天時の替上着及び替下着類、
雨具（携帯用レインコート）、洗面具、水筒、デイパック、筆記具、健康保険証
（出来るだけ原本を所持し、無理な場合はコピーしたものでも可）、石鹸等
（天気が悪いときには替運動靴があると良い。）
※　慢性疾患で薬の内服を続けられている方は、忘れずに持参すること。
※　研修の目的に反する物の携帯は禁止する。
（例えば、PSP 等のゲーム類、ヘッドホンステレオ等）
※　ドライヤーは電気容量の関係で班に１つ持参し、交代で使用する。

10. 注意事項：　・施設内では、本校以外の学校・団体の研修も行われるので注意すること。
・不明なことは、引率教員に尋ねること。
・男子宿舎・女子宿舎の相互訪問は厳禁であるので注意すること。
・研修当日の各種活動の際には、安全を確認し、体調の変化に注意すること。

11. その他：　緊急時の携帯電話[redacted]

1

（出典：平成 25 年度１年生合宿のしおり）

資料７－１－①－３

１年生合宿研修における学習ガイダンス資料

■久留米高専とは
- 入学後、１週間の高専の印象
- 久留米高専の沿革　　伝統の重み、旧制→工業短大→新制→専攻科設立（学校要覧）
  卒業生の活躍
- 高専制度
- 久留米高専の理念
  「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」
- 高専の授業、定期試験（カリキュラム、教務規程等）
- 課外活動
- 多様な進路
  就職（求人数、実践的技術者としての期待）
  進学（専攻科、大学）

■新入生に望むこと
- 自立の精神－中学校とは大きく異なる、勉強方法を見つける、工夫をする
  （具体例を挙げて説明）
- 基礎学力の充実－「読み書きソロバン」
- プロフェッショナルなエンジニアを目指す
  （プロスポーツ、音楽家を例に説明－一見華やかだが、地道な）
  基礎訓練を怠らない、知恵と工夫、切磋琢磨
- 冒険心
- 人と交わる、自然に触れる、本を読む

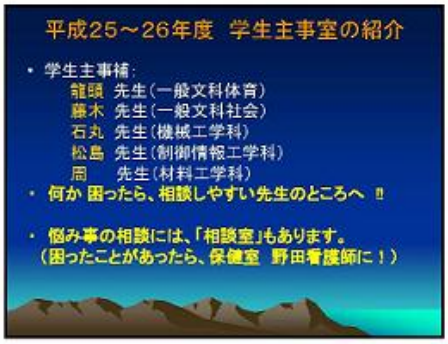
■日常の心掛け
- 授業は真剣勝負
  授業を重視、中学校とは異なる、学習塾に頼らない、出来ればアルバイトをしない、
- 勉強方法の確立
  内容が段々と高度になれば、日頃の勉学の積み重ねがなければ、ついていけなくなる
  受験勉強とは異なる勉強方法を各自が工夫する－重要なポイントの把握、分からないことを粘り強く考える、五感を働かせる
- 対話を大切に
  友人、保護者、教員、学生相談室
- 連絡は掲示板、書類は自分で書く、規則は学生便覧参照
  「生徒」ではなく、「学生」

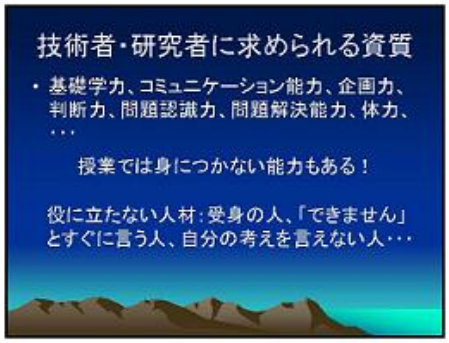
（出典：教務主事新入生合宿研修メモ）

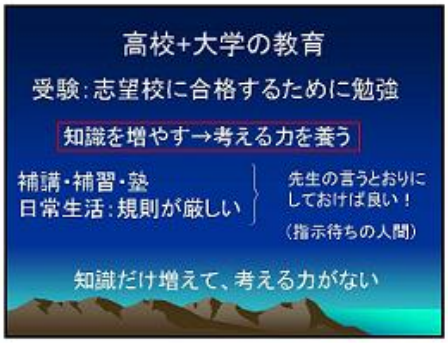
資料７－１－①－４

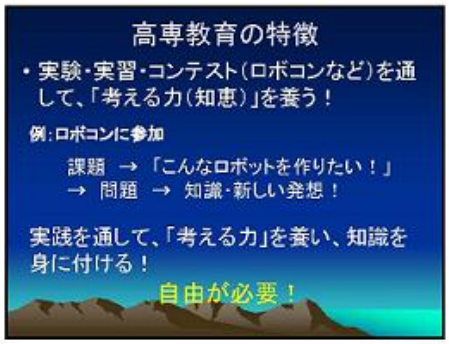
１年生合宿研修における学校生活ガイダンス資料

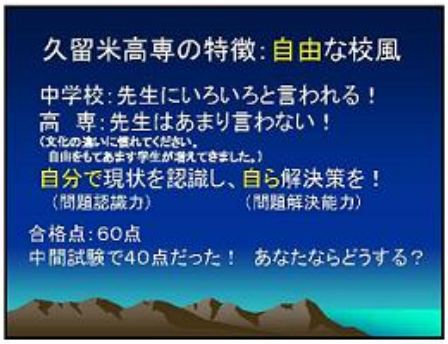












（出典：新入生合宿研修　学生主事講話資料）

資料７－１－①－５

専攻科ガイダンス資料

目　　次

第Ⅰ章　総論
1-1　専攻科の教育目的と特徴　1
1-2　両専攻の紹介　1

第Ⅱ章　履修の手引き
2-1　科目履修の手引き　2
2-2　授業科目一覧
(1)一般科目及び専門基礎科目　5
(2)機械電気システム工学専攻　6
JABEE プログラム：　機械工学コース　7
電気電子工学コース　8
制御情報工学コース　9
(3)物質工学専攻　10
JABEE プログラム：　生物応用化学コース　11
材料工学コース　12
2-3　単位の修得及び成績評価に関する規程
(1)単位の修得　13
(2)単位の認定及び修了　14
(3)席次について　16
2-4　公欠届と追試験について　19
(1)公欠届及び追試験届　19
(2)公欠届及び追試験願の書式　19

第Ⅲ章　学生生活と進路状況
3-1　大学評価・学位授与機構への学位申請　22
3-2　学会等における発表実績　23
3-3　専攻科生の進路状況について　24
3-4　専攻科生のTOEIC点数　26
3-5　JABEE について　27
3-6　専攻科の年間行事　35

第Ⅳ章　関連資料
・選択科目履修届　36
・専攻科研究論文希望調査　37
・専攻科研究論文題目　38
・専攻科学会活動補助経費申請書　39
・先端工学特論のレポート書式　40
・単位互換履修生・科目履修出願書　41

（出典：平成 25 年度専攻科ガイダンス資料）

資料７－１－①－６

平成２５年度 第１回学級担任会

期　日　　平成２５年４月４日(木)　１０：００～１１：３０予定

場　所　　大会議室

【全　体】

１　各主事、学生相談室長挨拶

２　オリエンテーションについて（資料）

・オリエンテーションでの配付資料

・オリエンテーション日程等

３　オリエンテーション関係以外の配付物について

・シラバス（各クラス２冊、専攻科生）：１～５年はクラスに２冊配置、専攻科は学生課へ取りに行くよう周知依頼

・実験実習安全必携(本科１年、専攻科１年)：後日配付

・学生便覧(平成２５年度版)　：１年生は、入学式当日配付資料に同封

２年生以上は、学生生活支援係へ取りに行くよう（２名以上）指示し、配付依頼

４　今後の行事予定

・４月　８日(月)：　入学式、１年生教科書販売（機材棟１Ｆ9：00～13：30）

・４月　９日(火)：　始業式、オリエンテーション、教科書販売（機材棟１Ｆ8：00～13：00、クラス写真撮影(全学)、健康診断(本科 4、5 年、専攻科生）

・４月１０日(水)：　前期授業開始、教科書販売（機材棟１Ｆ8：00～13：00）
健康診断(本科 1～3 年健康診断実施のため午後授業なし)
クラブ顧問・部長会議（15:50～）引き続き体育館調整会議

・４月１３日(土)：　TOEIC 検定試験

・４月２２日(月)～２４日(水)：公開授業

・４月２６日(金)～２７日(土)：１年生合宿研修（夜須）

・５月　８日(水)：　午後クラスマッチ（本科午後授業なし）

・５月　９日(木)：　クラスマッチ（本科授業なし）

【教務関係】

１　数学診断テストの実施について（１年生のみ）

４月９日（火）[10：20～11：20]に実施　試験問題は学生課で保管、試験監督は学生課で問題を受領のこと。

（出展：平成 25 年度第 1 回担任会配布資料）

資料７－１－①－７

平成25年度前期会議予定

教員会議（15:50～17:00）

回数	月　日	曜　日	備　　考
1	5月15日	（水）	
2	9月11日	（水）	

FD会議（15:50～）

回数	月　日	曜　日	備　　考
1	6月19日	（水）	

学科長委員会打合せ（15:00～16:30）

回数	月　日	曜　日	備　　考
1	4月23日	（火）	
2	5月21日	（火）	
3	6月18日	（火）	
4	7月23日	（火）	
5	9月10日	（火）	

学科長委員会（13:30～16:00）

回数	月　日	曜　日	備　　考
1	4月25日	（木）	
2	5月23日	（木）	
3	6月20日	（木）	
4	7月25日	（木）	
5	9月12日	（木）	

担任会（16:40～17:10）

回数	月　日	曜　日	備　　考
1	4月4日	（木）	10:00～11:30
2	4月16日	（火）	
3	4月30日	（火）	
4	5月14日	（火）	
5	5月28日	（火）	
6	6月11日	（火）	
7	6月25日	（火）	
8	7月9日	（火）	
9	9月3日	（火）	

※担任会打合せ：4月3日（水）10:00～12:00

年度当初の予定

回数	月　日	曜　日	予　　定
	4月1日	（月）	辞令交付10:00、着任式13:30、新任教員研修13:00～16:30
	4月2日	（火）	教務委16:40

（出典：総務係作成資料）

資料７－１－①－８

制御情報工学科オフィスアワー

氏　名	曜日	時　間	教員室
綾部　隆	水曜	15:50～16:40	電気電子制御情報工学科棟2F
丸山　延康	水曜	15:50～16:40	電気電子制御情報工学科棟2F
江崎　昇二	水曜	15:50～16:40	制御情報工学科棟1F
江頭　成人	水曜	15:50～16:40	制御情報工学科棟3F
小田　幹雄	水曜	15:50～16:40	電気電子制御情報工学科棟2F
黒木　祥光	水曜	15:50～16:40	電気電子制御情報工学科棟2F
熊丸　憲男	水曜	15:50～16:40	電気電子制御情報工学科棟2F
中野　明	水曜	15:50～16:40	電気電子制御情報工学科棟2F
松島　宏典	水曜	15:50～16:40	制御情報工学科棟1F
松本　光広	水曜	15:50～16:40	電気電子制御情報工学科棟2F
堺　研一郎	水曜	15:50～16:40	電気電子制御情報工学科棟2F

諸注意

・オフィスアワーは学業だけでなく学校生活全般について相談できる時間です。
・上記の時間帯には教員ができ得る限り各人の部屋に待機しています。
・会議や出張など止むを得ない事情によりオフィスアワーであっても不在の場合があります。
・休業期間においては上記の限りではありません。事前に教員と連絡を取ってください。

もどる

（出典：久留米工業高等専門学校制御情報工学科ホームページ）

資料７－１－①－９

平成 25 年度前期　学生支援アドバイザー、特命教授の業務について

■ 宮本　泉教授（化学）

・化学の学習指導　　対象：１・２年生
指導時間：火・木曜日の１４：３０～１６：３０
場所：宮本泉教員室（一般文科・理科棟１階）

（教務主事・化学教員と連携）

■ 中畑　義明教授（英語）

・留学生の日本語等の指導及び助言　　対象：３・４・５年留学生の希望者
指導時間：要相談
場所：中畑教員室ほか（一般文科・理科棟３階）

（教務主事・寮務主事・該当学級担任と連携）

■ 櫻木　功教授（機械工学科）

・就職及び進学の進路相談　　対象：３・４・５年生、専攻科生
相談時間：木曜日５時限
場所：櫻木教員室（機械実験室２階西側）
※改修工事に伴い９月より専攻科棟３階に移動予定

（教務主事・就職総括主任と連携）

■ 松永　崇教授（機械工学科）

・就職及び進学の進路相談　　対象：３・４・５年生、専攻科生
相談時間：水曜日５時限
場所：松永教員室（専攻科棟３階）

（教務主事・就職総括主任と連携）

■ 中島勝行教授（電気電子工学科）

・電子回路の学習指導（製作を含む）　対象：１～５年生（特に低学年）
指導時間：毎日昼休み
場所：中島教員室（専攻科棟３階）

（教務主事，電気電子工学科教員と連携）

■ 伊藤義文特命教授

・就職相談　　対象：３・４・５年生、専攻科生
相談時間：水・木曜日 9:00～15:00
場所：伊藤教員室（専攻科棟３階）または生物応用化学科会議室（生化棟２階）

・学生の地域企業就職先の開拓、公的機関が実施する企業説明会参加、学生のキャリア教育に関する助言

（教務主事、就職総括主任と連携）

観点７－１－②：　自主的学習環境及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）　図書館は７万冊以上の蔵書を有し（資料７－１－②－１）、平日は９時～20時、土曜日は９時～17時に開館している。学習スペースとしてのホールや個別学習ブースがあり、多くの学生が学習及び文献調査に利用している。

福利厚生施設「ウェーブホール（売店・食堂を含む)」は、８時から19時まで利用でき、食堂・購買部としてのほか、学習の場としても機能している（資料７－１－②－２）。

校内の各施設には、情報コンセントが整備され、学生はパソコンを使用してインターネットにアクセスし、授業に関連する情報収集することができる。図書館２階にある第１IT演習室、第２IT演習室、多目的室、専攻科棟にある産業デザイン演習室には共同利用の情報端末機が整備されている（資料７－１－②－３）。

（分析結果とその根拠理由）　本校においては、学生を主体とした学習並びに福利厚生施設などの生活環境は十分に整備されており、その利用実績は高く、学生のための校内環境は整っている。

資料７－１－②－１

図書館蔵書冊数

蔵書冊数　Number of Collection of Books

平成25年3月31日現在　As of March 31, 2013

分類 Classifi-Cation	総記 General	哲学・宗教 Philosophy & Religion	歴史 History	社会科学 Social Science	自然科学 Natural Science	工学・技術 Engineering & Technology	産業 Industry	芸術・体育 Arts & Physical Education	語学 Language	文学 Literature	合計 Total
和書 Japunese book	2,957	4,990	5,378	4,254	16,465	16,910	308	2,168	2,030	9,978	65,438
洋書 Foreign book	94	24	18	55	2,026	1,427	9	7	289	1,046	4,995
合計 Total	3,051	5,014	5,396	4,309	18,491	18,337	317	2,175	2,319	11,024	70,433

（出典：図書館資料）

資料７－１－②－２

Wave Hall（学生食堂）利用状況

久留米高専食堂利用者数　　平成２３年度

月別	利用者数	営業日数	１日当たり利用者数
４月	1、419 名	19 日	74。68 名
５月	1、284 名	19 日	67。58 名
６月	1、547 名	22 日	70。32 名
７月	894 名	18 日	49。67 名
８月	360 名	15 日	24。00 名
９月	1、128 名	20 日	56。40 名
１０月	1、518 名	19 日	79。89 名
１１月	1、217 名	17 日	71。59 名
１２月	1、091 名	19 日	57。42 名
１月	1、120 名	16 日	70。00 名
２月	1、429 名	16 日	89。31 名
３月	520 名	21 日	24。76 名
合計	13、527 名	221 名	61。21 名

久留米高専食堂利用者数　　平成２４年度

月別	利用者数	営業日数	１日当たり利用者数
４月	1、329 名	19 日	69。95 名
５月	1、593 名	21 日	75。86 名
６月	1、459 名	22 日	66。32 名
７月	1、204 名	20 日	60。20 名
８月	390 名	16 日	24。38 名
９月	753 名	16 日	47。06 名
１０月	1、843 名	22 日	83。77 名
１１月	1、253 名	17 日	73。71 名
１２月	1、313 名	16 日	82。06 名
１月	1、359 名	16 日	84。94 名
２月	1、164 名	19 日	61。26 名
３月	375 名	15 名	25。00 名
合計	14、035 名	219 名	64。09 名

（出典：学生課学生係食堂利用者数調）

資料７－１－②－３

情報処理センターの端末

	型式	スペック	端末数
第一 IT 演習室 (L1)	富士通　ESPRIMOK552/C	CPU　Core i3-2310M メモリ 4G　HDD 320G	51 台
第二 IT 演習室 (L2)	富士通　ESPRIMOK552/C	CPU　Core i3-2310M メモリ 4G　HDD 320G	51 台
多目的室 (L3)	富士通　ESPRIMOD581/C	CPU　Core i3-2100 メモリ 4G　HDD 320G	51 台
産業デザイン演習室 (A4)	富士通　ESPRIMOD581/C	CPU　Core i3-2100 メモリ 4G　HDD 320G	25 台
プリンタ	モノクロレーザー XEROX DocuPrint3000		6 台

（出典：総合情報センター資料）

観点７－１－③：　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか。また、資格試験や検定試験の受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能しているか。

（観点に係る状況）　学生の生活環境に関する意見は、学生会が代議員会などを通じて学生の意見を汲み上げ、年２回開催される学生大会で審議の上、決議されたものを学校側への要望書として学生主事に提出する（資料７－１－③－１）。要望書に対しては、適宜、学生主事室が学生会中央執行委員会役員と懇談し対応している。（資料７－１－③－２）。この他にも学校ホームページ上に意見投書箱が設置されている。((資料７－１－③－３）

授業に関する学生の意見は、授業評価アンケート及び準学士課程卒業生・専攻科課程修了生に実施する学生支援アンケートとして汲み上げられ、授業改善及び学習支援に利用されている（資料７－１－③－４、資料７－１－③－５）。

ＴＯＥＩＣ、電気主任技術者などの資格試験受講の支援体制があり、適宜案内しているほか、学生便覧ｐ197に卒業後取得可能な資格を掲載している。ＴＯＥＩＣは、団体受験制度を取入れ年３回実施し、多数の学生が受験している（資料７－１－③－６）。また、昭和41年より第２種及び第３種電気主任技術者の免状取得認定校になっている（資料７－１－③－７）。学生課が募集ポスターの掲示、受験料処理業務などの資格試験受験の支援業務を行っている。外国留学希望学生に対しては、学級担任や英語科教員が相談に応じ支援を行っている（資料７－１－③－８）。

（分析結果とその根拠理由）　学生の要望に対する体制は整っている。学生主事等と学生会中央執行委員会役員との懇談などにより、学生の生活環境に関する要望に対する学校側の対応などは的確に行われている。授業評価アンケート及び学生支援アンケート結果を授業改善と学習支援に役立てている。資格試験は掲示板・担任会による案内されている。ＴＯＥＩＣに関しては年3回本校で実施し、例年受験者数も多い。

資料７－１－③－１

2013年1月22日

久留米工業高等専門学校　学生主事
櫻木　功　様

学生大会にて承認された要望について

2013年1月16日に開催された学生大会では、就職説明会や授業の関係で委任状数が多くなりましたが、無事開催、終了することができました。

さて、覚醒に記載している要望案について、要望が実現されれば、より学生の活動を広げる第一歩となると考えます。学生大会にて承認されましたので、これらの事案を学生の総意とし、学校に下記の通り要望いたします。

2013年度中央執行委員会
委員長　松浦　紅

1. 中央執行委員会の祭事局の名称・業務の変更

現在、祭事局の業務内容としては、各学生行事での実行委員会との連携が主となっています。しかし、実際には実行委員会との連携だけでは局としての活動範囲が小さく、「局」として必要とはいえない状況です。そこで、業務内容を今までの業務に加えて、久留米高専内部に限らず、外部あるいは他高専との連絡係という業務での運営とすることにいたしました。主となる業務内容を渉外関係としますので、名称を「渉外局」と変更し、業務内容の変更を要望いたします。

2. 学生便覧の訂正案

上記の事案に伴い、学生便覧の改正を要望いたします（平成24年度学生便覧参照）。

<u>改正前</u>

9. 学生会
(3) 総務、文化、体育、祭事局細則
第２条　各局に次の部を置く。
一　総務局　庶務部、渉外部

（出典：平成25年度中央執行委員会からの要望書）

資料７－１－③－２

学生主事及び学生主事補と学生会中央執行委員会役員との話し合い議事録

日時：平成 24 年 9 月 4 日　昼休み
場所：学生課
出席：学生主事・学生主事補、中央執行委員会委員長、体育祭実行委員長、各科応援団長

平成 24 年 1 月、各学科応援団長から中央執行委員会を通して、体育祭で使用する各学科の道具の保管場所の確保の要望があった件について、中央執行委員会と話し合いを行った。

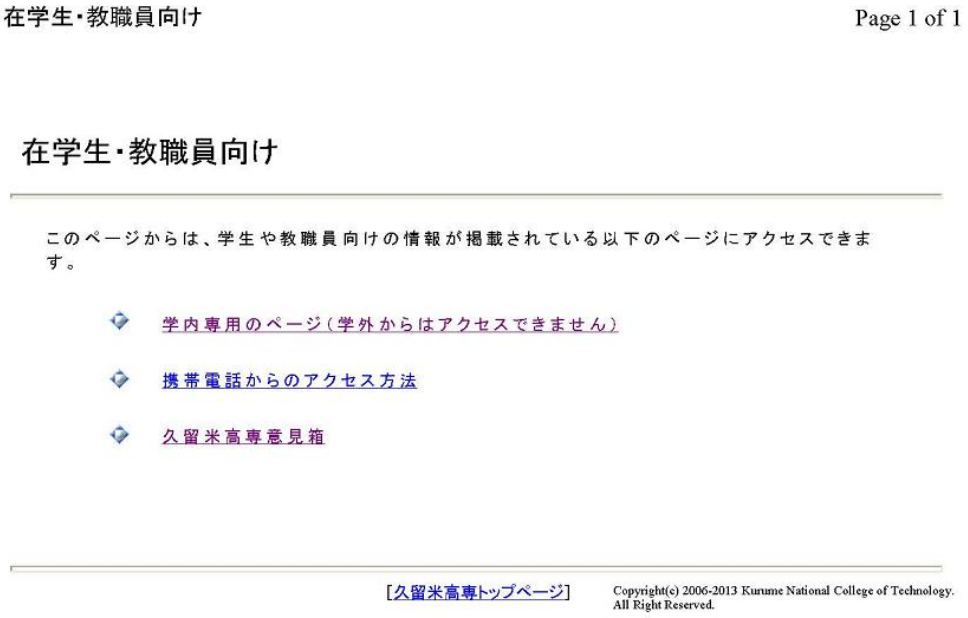
話し合いの結果、8 月 23 日に体育館南に新しく設置された物置のうち、二つを各学科の備品保管として貸し出すこととした。

なお、備品の管理については中央執行委員会で行い、2 つの物置使用割り振りについては中央執行委員会委員長に区分けを一任することとした。

また、鍵については中央執行委員会及び学生課で各１つずつ保管することを確認した。

（出典：学生主事室メモ）

資料７－１－③－３



（出典：久留米工業高等専門学校ホームページ）

資料７－１－③－４

平成24年度　学生による授業評価アンケート（本科用）

マーク見本
[ ]の中を
大きく黒く
[ ] 1.熱心に
● 2.ノートや
[ ] 3.分らな

学年・学科	科目番号	
[1]	[0]	[0]
[2]	[1]	[1]
[3]	[2]	[2]
[4]	[3]	[3]
[5]	[4]	[4]
[A]	[5]	[5]
[E]	[6]	[6]
[S]	[7]	[7]
[C]	[8]	[8]
[M]	[9]	[9]

科目名

※　見本のとおり、質問の項目に付された[　]の中を黒く大きく塗りつぶしてください。

A.　あなたはこの授業にどのように取り組みましたか。（複数選択可）

[ ] 1. 熱心に説明を聞いた。
[ ] 2. ノートやメモをとった。
[ ] 3. 分からないところを先生へ質問した。
[ ] 4. 予習や復習をした。
[ ] 5. 関連する内容を自主的に勉強した。

B.　あなたはこの授業をどのように思いましたか。（複数選択可）

[ ] 1. シラバスは参考になった。
[ ] 2. 教科書、プリント、指導書等の教材が適切であった。
[ ] 3. 演習（実験・実習）や課題（レポート）の内容はよく工夫されたものであった。
[ ] 4. 先生は十分に準備をしていた。
[ ] 5. 先生は熱意をもって行っていた。
[ ] 6. 質問をしやすくするなど、双方向性をもたせる工夫があった。
[ ] 7. 全体の構成は適切であった。
[ ] 8. 内容に興味をもてた。
[ ] 9. 学習する力がついたと思う。
[ ] 0. 総合的に良い授業だったと思う。

C.　この授業について要望があれば選んでください。（複数選択可）

[ ] 1. 先生の声を聞き取りやすくしてほしい。
[ ] 2. 板書を読みやすくしてほしい。
[ ] 3. 演習（実験・実習）や課題（レポート）の内容を工夫してほしい。
[ ] 4. もっと分かりやすく説明してほしい。
[ ] 5. もっと質問の機会を増やしてほしい。
[ ] 6. レベルをもっと低くしてほしい。
[ ] 7. レベルをもっと高くしてほしい。

D.　実験・実習の授業のみ、該当するものを選んでください。（複数選択可）

[ ] 1. 実験・実習にふさわしい服装（作業着、保護メガネ、手袋等）であった。
[ ] 2. 機器・器具に興味をもった。
[ ] 3. 機器・器具の操作が難しかった。
[ ] 4. 機器・器具・試薬等の取り扱いに配慮した。
[ ] 5. 指導書が分かりにくかった。

授業について感じたり思ったりしたことがありましたら、以下に記入してください。

（出典：平成 24 年度学生による授業評価アンケート用紙）

資料７－１－③－５

学生支援に関するアンケート

該当する回答を丸で囲んで下さい。

1. 質問に行って教えてもらう、演習やテストで間違ったところを再度説明してもらう、勉強のしかたをアドバイスしてもらう、などの学習支援を受けることができましたか？

◎　十分に受けることができた　　○　ある程度受けることができた
△　あまり受けることができなかった　×　全く受けることができなかった

2. 実験，実習，卒業研究で適切な指導を受けましたか？

◎　適切な指導を受けた　　○　ある程度適切な指導を受けた
△　指導が十分ではなかった　　×　全く受けることができなかった

3. 進学または就職に関するガイダンス，進路指導を受けることができましたか？

◎　十分受けることができた　　○　ある程度受けることができた
△　不十分だった　　×　ほとんどなかった

4. 自習を行う学習環境（教室，図書室、研究室などの施設や設備）に満足しましたか？

◎　十分満足できた　　○　ある程度満足できた
△　あまり満足できなかった　　×　全く満足できなかった

5. 図書館においてある本，参考書，雑誌に満足しましたか？

◎　十分満足できた　　○　ある程度満足できた
△　あまり満足できなかった　　×　全く満足できなかった

6. クラブ活動や学生会活動などの課外活動での学校側の支援や助言に満足しましたか？

◎　十分満足できた　　○　ある程度満足できた
△　あまり満足できなかった　　×　全く満足できなかった

7. 困った事や悩み事があるときに相談できる教職員はいましたか？ いた場合には教職員の役職名を記入して下さい(先生の個人名ではなく、担任，学生相談室教員、寮務事務員などの役職名を記入)

○　相談できる教職員がいた(　　)　　×　いなかった

■ 具体的な要望や意見がある場合に記入して下さい(裏にも記入可)。

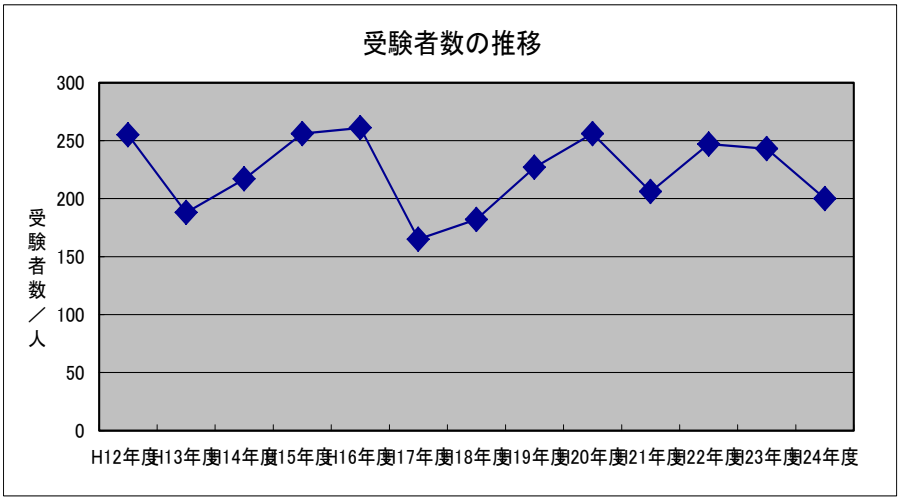
（出典：平成 24 年度　学生支援に関するアンケート用紙）

資料７－１－③－６

ＴＯＥＩＣ受験者数の推移

受験者数の推移

年度	受験者数
H12年度	255
H13年度	188
H14年度	217
H15年度	256
H16年度	261
H17年度	165
H18年度	182
H19年度	227
H20年度	256
H21年度	206
H22年度	247
H23年度	243
H24年度	200



（出典：学生課教務係資料）

資料７－１－③－７

電気主任技術者資格認定に関する資料

（昭和四十一年十二月一日　第一一九九〇号　官　報）

○通商産業省告示第五百七十七号

電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令（昭和四十年通商産業省令第五十二号）第一条第一項の規定により、次の学校を認定する。

昭和四十一年十二月一日

通商産業大臣　三木　武夫

位置	学校名および学部名	学科名	全日制課程または定時制課程の別	認定に係る免状の種類
福岡県	久留米工業高等専門学校	電気工学科		第二種電気主任技術者免状および第三種電気主任技術者免状

（出典：学生課教務係資料）

資料７－１－③－８

平成２４年度留学実績

学年	学科	氏名	休学期間	行先
3年	機械工学科	[redacted]	平成23年9月1日～平成24年7月8日	オーストラリア
専攻科2年	物質工学専攻		平成24年4月1日～平成24年12月31日	アメリカ合衆国
3年	制御情報工学科		平成24年7月1日～平成25年6月30日	アメリカ合衆国
3年	制御情報工学科		平成24年7月1日～平成25年6月30日	アメリカ合衆国

（出典：学生課教務係資料）

観点７－１－④：　特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されているか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

（観点に係る状況）　本校では外国人留学生、高等学校からの編入生及び他高専からの転入生を受け入れている（資料７－１－④－１、７－１－④－２）。いずれの場合も、学級担任が中心となり支援している。

外国人留学生は全員学生寮に入居し、チューター（同一学級学生１名）が支援している（資料７－１－④－３）。留学生の学級担任は指導教員として外国人留学生委員会とともに授業履修などの指導を行っている。高等学校からの編入生及び他高専からの転入生に対しては、各学科で編入生・転入生に対する別な科目を設定・実施している（資料７－１－④－４、７－１－④－５、７－１－④－６）。障害のある学生に対しては、バリアフリー化などの施設整備とともに、通学から就学上の問題及び進路相談まで、関係教職員が全面的にバックアップしている。

（分析結果とその根拠理由）　本校では、留学生、編入生及び転入生の履修科目の違いによる本校学生との格差を早い時期に解消するなどの努力を行い、留学生並びに編入生、さらには障害のある学生が学習を進める上で不利益を生じない配慮をしており、その支援体制は整備されている。

資料７－１－④－１

平成25年留学生名簿

平成２５年４月現在

氏名(省略)	国　籍	性 別	学　科	学年	編入年	備　考
	インドネシア	男	材料工学科	5	23	国費留学生
	ラオス	男	材料工学科	5	23	国費留学生
	マレーシア	女	機械工学科	4	24	マレーシア政府派遣
	マレーシア	男	電気電子工学科	3	24	マレーシア政府派遣
	モンゴル	女	生物応用化学科	4	24	国費留学生
	バングラデシュ	男	材料工学科	3	25	国費留学生
	マレーシア	男	機械工学科	3	25	マレーシア政府派遣

出典：学生課寮生活支援係資料

資料７－１－④－２

編入学生の入学状況

年度	入学者数(人)
平成 21 年度	４（２）
平成 22 年度	５（５）
平成 23 年度	３（３）
平成 24 年度	４（３）
平成 25 年度	２（２）

※カッコ書きは、留学生で内数。

（出典：学生課教務係資料）

資料７－１－④－３

留学生のチューター及び指導教員一覧（留学生及び相談員学生の名前は省略）

平成２５年年度

留学生相談員氏名	学 科 ／ 学 年	留　学　生　氏　名	指導教員
	機械工学科４年		松山　崇
	機械工学科３年		青野　雄太
	電気電子学科３年		加藤　直孝
	生物応用化学科４年		松山　清
	材料工学科３年		矢野　正明

平成24年度

留学生相談員氏名	学 科 ／ 学 年	留　学　生　氏　名	指導教員
	機械工学科　　３年		南山　靖博
	電気電子工学科３年		山本　哲也
	生物応用化学科３年		渡邊　勝宏
	材料工学科　　４年		山本　郁
	材料工学科　　４年		山本　郁

平成２３年度

留学生相談員氏名	学 科 ／ 学 年	留　学　生　氏　名	指導教員
	機械工学科　　４年		田中　大
	機械工学科　　４年		田中　大
	電気電子工学科４年		大崎　邦倫
	生物応用化学科４年		冨岡　寛治
	生物応用化学科４年		冨岡　寛治
	材料工学科　　４年		濵上　寿一
	材料工学科　　３年		山本　郁
	材料工学科　　３年		山本　郁

（出典：学生課寮生活支援係）

資料７－１－④－４

３年次・４年次編入生向けの科目

編入生向け科目

科目名	学科	学年	開講	単位数	対象
日本事情	機械工学科	3年	通年	2	3年次編入留学生
専門基礎(機械工学)		3年	通年	2	3年次編入留学生
機械工学概論		4年	前期	1	4年次編入生
日本事情	電気電子工学科	3年	通年	2	3年次編入留学生
専門基礎(電気電子工学)		3年	通年	2	3年次編入留学生
電気電子工学概論		4年	前期	1	4年次編入生
日本事情	制御情報工学科	3年	通年	2	3年次編入留学生
専門基礎(制御情報工学)		3年	通年	2	3年次編入留学生
制御情報工学基礎A		4年	前期	1	4年次編入生
制御情報工学基礎B		4年	後期	1	4年次編入生
日本事情	生物応用化学科	3年	通年	2	3年次編入留学生
専門基礎(生物応用化学)		3年	通年	2	3年次編入留学生
生物応用化学概論		4年	前期	1	4年次編入生
日本事情	材料工学科	3年	通年	2	3年次編入留学生
専門基礎(材料工学)		3年	通年	2	3年次編入留学生
材料工学概論		4年	前期	1	4年次編入生

外国人留学生への対応

科目名	学科	学年	開講	単位数	対象
日本語	全学科	－	※	－	外国人留学生

※土曜日に学生寮内にて実施

（出典：シラバス）

資料７－１－④－５

平成 24 年 4 月　日

4 年次電気電子工学科編入生対象「電気電子工学概論」の開講について

4 年電気電子工学科担任
山口　崇

平成 24 年度 4 年次電気電子工学科編入生を対象に「電気電子工学概論」（前期 1 単位）を開講し，3 年次までに修得すべき内容のうち特に必要性の高いものについて学習させる。

1．学習すべき授業科目および内容

(1) 数学ⅢA（担当：　　）
べき級数，マクローリン展開，偏微分，重積分

(2) 数学ⅢB（担当：　　）
行列式，固有値・固有ベクトル，微分方程式

(3) 電気磁気学（担当：山本）
電界，静電容量，誘電体
※磁界，電磁力については 4 年前期「電気磁気学Ⅲ」の補習で対応する。

(4) 電気回路（担当：原）
交流回路網，交流電力，三相交流

(5) 電気機器工学（担当：山本）
直流機，変圧器

(6) ディジタル電子回路（担当：山口）
論理式，基本ゲート，組合せ回路，記憶回路，順序回路

(7) プログラミング（担当教員：池田）
C 言語

(8) ワンチップマイコン（担当教員：大崎）
アセンブリ言語，ワンチップマイコン

2．実施方法

前期　曜日　時限に講義形式で実施する。ただし，(1)および(2)については授業時間外に教科書で自学させ，各担当教員が学習を支援するものとする。

3．評価方法

シラバスに記載のとおり，レポート 50%，試験 50%で評価する。

（出典：平成２４年度電気電子工学科「電気電子工学概論」開講の案内）

資料７－１－④－６

平成24年度 久留米工業高等専門学校

電気電子工学科　　4年　　**シラバス(授業計画)**

科目名	電気電子工学概論		シラバスコード	4E25	担当教員		電気電子工学科全員				
期間	前期	授業形態	講義		授業時数	30	必修選択	必修	一般専門	専門	単位数	1

授業の目的

高等学校等から電気電子工学科4年次に編入学した学生を対象に、4年次以降の専門科目を学ぶために必要な電気電子工学に関する基礎を修得させる。

到達目標

1．電気磁気学及び電気回路に関する基礎事項を理解し応用できる。
2．電気機器工学に関する基礎事項を理解し応用できる。
3．ディジタル電子回路及びプログラミングに関する基礎事項を理解し応用できる。

JABEE プログラム目標

－

学習内容

1．電気磁気学（電界、静電容量、誘電体）
2．電気磁気学（磁界、電磁力）
3．電気回路（交流回路網の諸定理）
4．電気回路（交流電力）
5．電気回路（三相交流回路）
6．電気機器工学（直流機）
7．電気機器工学（変圧器）
8．ディジタル電子回路（論理式、組み合わせ回路）
9．ディジタル電子回路（フリップフロップ、カウンタ）
10．ディジタル電子回路（レジスタ、演算回路）
11．プログラミング（C言語入門）
12．プログラミング（C言語の基礎）
13．プログラミング（アセンブリ言語）
14．プログラミング（ワンチップマイコンのハードウェア）
15．プログラミング（ワンチップマイコンのソフトウェア）

教材および参考図書

配布プリント
3年までの各教科で使用した教科書

授業の進め方と履修上の注意

編入生の既修得科目内容を考慮して学習内容の詳細を決定し、各科目担当者が科目の基礎事項について説明し演習を行う。

評価方法

レポート50%、試験50%による100点満点の総合評価で60点以上を合格とする。
再試験は必要に応じて実施する。

（出典：シラバス）

観点７－１－⑤：　学生の部活動、サークル活動、自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制の下に機能しているか。

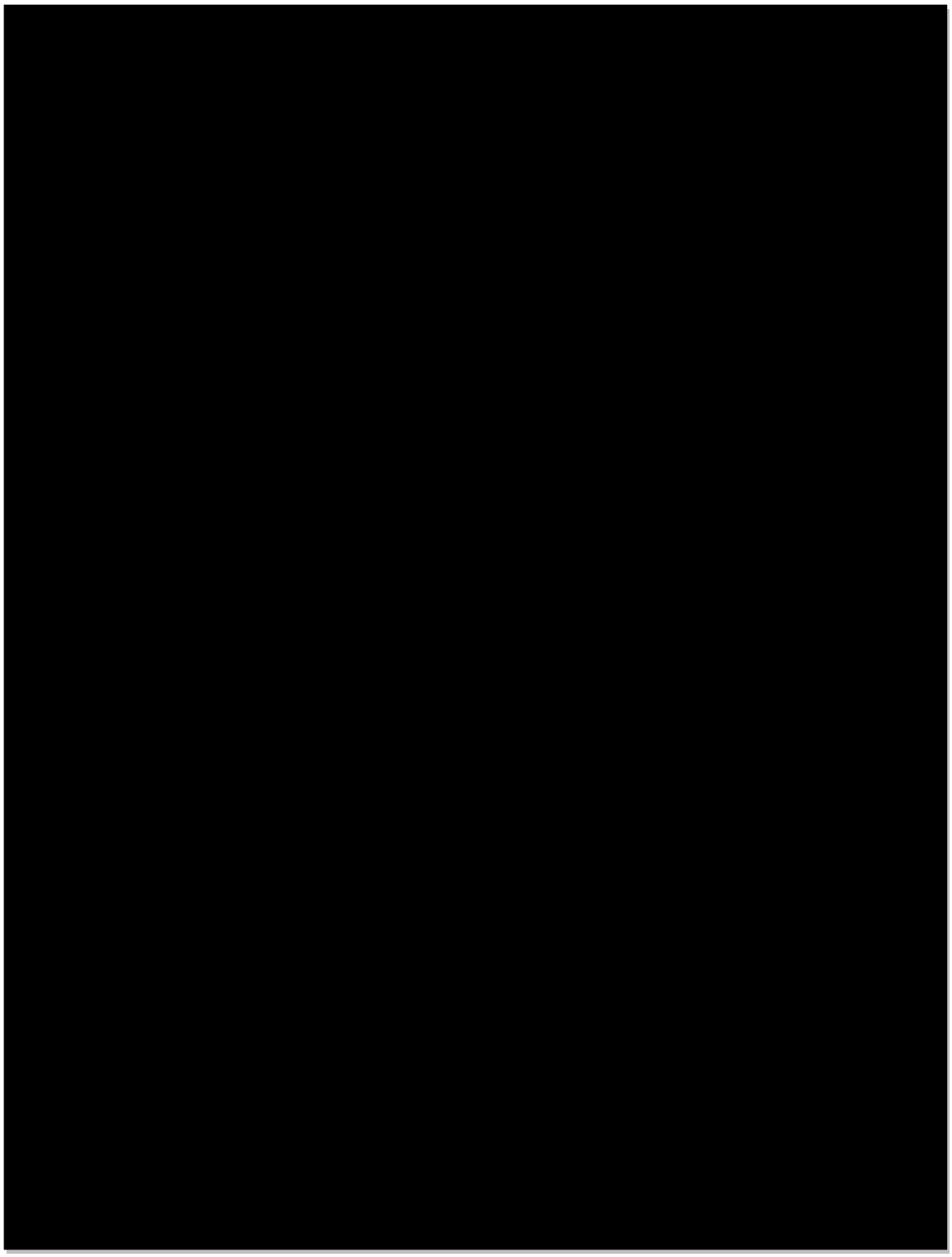
（観点に係る状況）　課外活動は自主性が重んじられており、学生会中央執行委員会を学生主事室が助言・指導する体制で運営を行っている（学生便覧ｐ163-ｐ182)。体育系クラブ及び文化系クラブは､学生会中央執行委員会のもとに組織され､中央執行委員会で各クラブの予算案などを作成し、学生大会で決定している（資料７－１－⑤－１)。また、学生会主催の各種イベントは、毎回学生大会で各実行委員会を設立し、運営している(資料７－１－⑤－２)。中央執行委員会室、実行委員会室、部室など施設面も整備されている（学生便覧ｐ215)。

本校には、体育系18クラブ、文化系18クラブがあり、体育系クラブには複数の顧問が配置されている(資料７－１－⑤－３)。外部コーチの導入も認められており（資料７－１－⑤－４)、運営面では後援会からの資金援助を受けている(資料７－１－⑤－５)。ロボコン部やプログラミングラボ部はコンテストに出場している(資料７－１－⑤－６)。

（分析結果とその根拠理由）　学生の課外活動の支援は、学生の自主的な運営による学生会を学生主事室が助言・指導する体制で行っている。学生会中央執行委員会の下部組織である体育系及び文化系クラブには、複数名のクラブ顧問教員を配置して、学生のクラブ活動の指導及び支援を円滑に行っている。これらの学生のクラブ活動及び課外活動の支援体制は充実しており、十分に機能している。

資料７－１－⑤－１

平成 25 年度前期学生大会資料



（出典：学生課教務係資料）

資料７－１－⑤－２

平成 25 年度前期学生大会資料

１．定足数（全学生数の 2/3）の確認

平成 ~~24~~ 25 年５月７日現在の全学生数は 1070 人のため、今回の学生大会の定足数は ~~713~~ 714 人となります。

会のはじめに参加学生数の計測を行い、定足数に達したことを確認してから学生大会を始めます。定足数に達していない場合、学生大会を開催することはできません。

また、授業や実験などの都合により参加できない学生は、学生大会前に委任状を必ず提出してください。提出は、中央執行委員会室までお願いします。

２．議長・副議長選出・・・省略

３．平成 25 年度高専祭実行委員会発足案

発議者　学生会中央執行委員会渉外局局長　岩崎　公洋

平成 25 年 11 月１日（金）～5 日（火）にかけて　第４８回高専祭が開催される予定です。
高専祭を企画・運営するにはそのための実行委員会の発足が必要になります。

平成 25 年度高専祭実行委員会発足案に承認をお願いします。

一、　委員長選出

二、　実行委員募集

実行委員が不足する場合は、高専祭の企画・運営が困難または不可能になります。皆さんご協力のほど、よろしくお願いします。

４．平成 25 年度体育祭実行委員会の発足案

発議者　学生会中央執行委員会渉外局局長　岩崎　公洋

平成 25 年度 11 月１日（金）～5 日（火）にかけて第 48 回高専祭が開催される予定です。
体育祭を企画・運営するには実行委員会の発足が必要になります。

平成 25 年度体育祭実行委員会発足案に承認をお願いします。

一、　委員長選出

二、　実行委員募集

実行委員が不足する場合は、体育祭の企画・運営が困難または不可能になります。皆さんご協力のほど、よろしくお願いします。

５．平成 25 年度予餞会実行委員会の発足案

発議者　学生会中央執行委員会渉外局局長　岩崎　公洋

平成 25 年度 12 月中に予餞会が開催される予定です。
予餞会を企画・運営するには実行委員会の発足が必要になります。

平成 25 年度予餞会実行委員会発足案に承認をお願いします。

一、　委員長選出

2

（出典：学生課教務係資料）

資料７－１－⑤－３

平成 25 年度　学生会局・部指導教員一覧

（氏名）：人事交流中の教員を示す

	体育局	代表顧問	顧　問
1	陸上競技部	赤塚	矢野･田中(大)･宮本(泉)･菰田
2	柔道部	河合	馬越・小宮
3	剣道部	越地	原田・中畑･伊藤(公)
4	弓道部	中野	中嶌･笈木･萩原･松田(康)
5	空手部	山口	櫻木
6	硬式野球部	渡邉	栫･岡本･熊丸･平川･奥山･中武
7	バレーボール部	髙橋	山崎･江島･金城･松山
8	バスケットボール部	山本(哲)	黒木･山本(郁)･福田(か)･川上･堺･宮崎
9	テニス部	周	小田･加藤･池田･(川原)
10	ラクビー部	松島	江﨑･米永･和泉･青野
11	合気道部	笹栗	ウリントヤ
12	水泳部	松田(貴)	綾部･田中(慎)・冨岡
13	サッカー部	谷	石井･南山･宮本(久)･松本･大津
14	バドミントン部	龍頭	津田･原･岩田･酒井･青野
15	卓球部	石丸	久保･平元･丸山
16	ハンドボール同好会	藤田	江﨑･川嶋･篠島
17	ソフトテニス同好会	藤木	辻･吉田･泉本
18	サイクリング同好会	中尾	松永

	文化局	代表顧問	顧　問
1	囲碁将棋部	酒井	藤木
2	英会話部	江島	福田(か)・金城･ウリントヤ･池田
3	軽音楽研究部	萩原	津田
4	茶道部	馬越	栫･中野
5	新聞文芸部	田中(慎)	平元･松田(康)
6	吹奏楽部	奥山	池田･平元･綾部･宮崎
7	美術部	藤田	丸山･伊藤(公)
8	華道部	渡邉	越地
9	自動車部	中尾	青野
10	ロボットコンテスト部	南山	和泉･熊丸･中尾･山本(哲)･松本
11	プログラミングラボ部	黒木	丸山･松島
12	鳥部	田中(大)	原田･中尾
13	ピアノ同好会	小宮	大津
14	写真同好会	周	山本(郁)
15	エコパワー同好会	中武	川嶋･(川原)・河合
16	自然エネルギー研究同	熊丸	石丸
17	ガーデニング愛好会	越地	中嶌･松山
18	ダンス愛好会	岡本	川上

（出典：学生課学生生活支援係資料）

資料７－１－⑤－４

平成２５年度 技術コーチ依頼者一覧表

番号	クラブ名	コーチ氏名	略　　歴
１	空　手　部	(略)	[redacted]
２	柔　道　部	(略)	
３	合　気　道　部	(略)	
４	卓　球　部	(略)	
５	英　会　話　部	(略)	
６	ﾛﾎﾞｯﾄｺﾝﾃｽﾄ部	(略)	
７	華　道　部	(略)	
８	弓　道　部	(略)	
９	茶　道　部	(略)	
１０	硬 式 野 球 部	(略)	
１１	サ ッ カ ー 部	(略)	
１２	ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部	(略)	
１３	バレーボール部	(略)	

(出典：学生課学生生活支援係資料)

資料７－１－⑤－５

学生活動経費支援補助費

〔支出の部〕

科　　目	予算
学生課外活動補助費	
ロボットコンテスト大会参加	[redacted]
プログラミングコンテスト大会参加	
文化･技術系活動推進経費	
体育系活動推進費	
外部コーチ謝金	
全国･九州高専体育大会分担金	
九州地区高専夏季体育大会補助費	
全国高専夏季体育大会補助費	
九州地区高専冬季体育大会補助費	
全国高専冬季体育大会補助費	
地区高専体育大会準備費	
特定種目大会補助費	
高専祭補助費	
課外活動整備補助費	
小計	

（出典：平成２４年度後援会一般会計予算より抜粋）

資料７－１－⑤－６

NHK ロボットコンテスト参加実績

テーマ	ロボット名	地区大会成績	全国大会成績
第 21 回 2008 年 **ROBO-EVOLUTION** **生命大進化**	マシーンデレラ 南国物語	1 回戦敗退 1 回戦敗退	なし
第 22 回 2009 年 **DANCIN' COUPLE** **ダンシン・カップル**	天使と悪魔 久留米絣物語	1 回戦敗退 1 回戦敗退	なし
第 23 回 2010 年 **激走！ロボ力車**	YAJIO Robo Stealer	1 回戦敗退 2 回戦敗退	なし
第 24 回 2011 年 **ロボ・ボウル**	れぼりゅ～ 飛丸	1 回戦敗退 1 回戦敗退	なし
第 25 回 2012 年 **ベスト・ペット**	Fish And Cats @ssem T-01	1 回戦敗退 1 回戦敗退	なし

プログラミングコンテスト参加実績

テーマ	成　績
第 19 回 2008 年 **掘り起こせ！未知なる能力（パワー）**	自由部門　特別賞
第 20 回 2009 年 **集まれ手作りの未来たち** **－海を越え！翔けろ！橋になれ！－**	
第 21 回 2010 年 **集えプロコン！IT 維新の志士たち**	課題部門　敢闘賞 自由部門　敢闘賞
第 22 回 2011 年 **KIZUNA2011**	競技部門　優勝 自由部門　特別賞
第 23 回 2012 年 **プロコンやるバイ！元気にするバイ！**	課題部門　敢闘賞 自由部門　敢闘賞

（出典：学生課学生生活支援係資料）

観点７－２－①：　学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

（観点に係る状況）　入学料及び授業料免除、学生支援機構奨学金などの支援は、担任会を通じて各学級担任から学生に案内し（資料７－２－①－１）、規則に基づいて厚生補導委員会で審議し、採択している（資料７－２－①－２）。学生支援機構以外にも奨学金があり、現在は200人弱の学生が奨学金の貸与を、約80名の学生が授業料免除の支援を受けている（資料７－２－①－３、７－２－①－４）。

怪我の処置や健康相談は常駐看護師が、メンタルサポートは学級担任と相談室が連携しながら行っており（資料７－２－①－５）、学生相談室は年間約100件の相談を受けている（資料７－２－①－６）。非常勤の精神科医とカウンセラーによる専門的対応体制も整っている（資料７－２－①－７）。

校内の各種ハラスメントに対しては、キャンパス・ハラスメントの防止に関する規則を定めて、ハラスメントに関する防止及び苦情相談を受ける体制を整えている（資料７－２－①－８）。

（分析結果とその根拠理由）　公的・私的な奨学金制度の斡旋や授業料免除など、経済面での学生支援体制を整えている。学生の生活面での指導や助言、メンタルサポート体制についても、学生相談室、学級担任、看護師、精神科医及びカウンセラーが連携を取って、ケアする体制が整えられている。これらは機能している。

資料７－２－①－１

平成２５年度 第１回学級担任会

期　日　　平成２５年４月４日(木)　１０：００～１１：３０予定

場　所　　大会議室

【学生関係】

２　平成２５年度入学料免除等申請書類の提出締切について

入学手続き日に申請した学生（１Ｅ・１名、１Ｓ・２名）は下記期限までに提出を

・提出期限：４月１２日（金）17:00

３　平成２５年度授業料等免除申請書類の提出について（4 年・5 年、専攻科）

次のことについて周知を

・提出期限：４月９日（火）17:00

４　平成２５年度授業料等免除（特別措置）の募集について

次の条件に当てはまる学生で免除を希望する学生は、4 月 12 日（金）17 時までに学生生活支援係まで申し出て書類を受け取ること。

① 1～3 年の学科生で授業料納付期限 6 月以内に学資負担者が死亡、又は学資負担者若しくは学生が風水害等の被害を受けた者

②就学支援金制度の３６月の支給期限を超える等で、当該制度で就学支援されない学科 3 年生以下の者で、かつ、学業優秀と認められる者

③授業料納付期限 6 月以内に、学資負担者の失業等で著しい家計の急変があった者

④修業年限（5 年）を過ぎて在籍しており、24 年度と同一学年にとどまっていない者で経済的に授業料の納付が困難かつ、学業優秀と認められる者

５　日本学生支援機構奨学生の募集説明会について（本科、専攻科対象）

４月１８日（木）16:40 からＤ３教室で開催するので、新たに奨学金の貸与を希望する学生は必ず出席するよう周知を

なお、本説明会については学生課掲示板にも掲示する。

６　日本学生支援機構「進学届」の提出について（本科１年）

中学在学時に日本学生支援機構の高専予約奨学生に応募し候補者となっている学生は、機構から交付されている「進学届」を学生生活支援係に４月１５日（月）までに提出するよう周知を

７　福岡県教育文化奨学財団奨学金「誓約書」の提出について（本科１年）

中学在学時に福岡県教育文化奨学財団の予約奨学生に応募し候補者となっている学生は、福岡県から交付されている書類を学生生活支援係に至急提出するよう周知を

８　各種奨学生の募集について

募集通知が届き次第、学生課掲示板に掲示するので、掲示板をみておくこと、希望する場合は、学生生活支援係に申請書類を取りに行くよう指導を

・久留米市特別奨学金奨学生　　申請期限　４月１９日（金）

（出典：平成 25 年度第 1 回学級担任会配布資料）

資料７－２－①－２

久留米工業高等専門学校厚生補導委員会規則

（平成１７年６月２日制定）

（設置）
第1条　本校に学生の厚生補導に関する事項を審議するため、久留米工業高等専門学校厚生補導委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（組織）
第２条　委員会は、次に掲げる者をもって組織する。
(1)　学生主事
(2)　学生主事補
(3)　教務主事補から１名
(4)　寮務主事補から１名
(5)　専攻科主事補から１名
(6)　専門学科教員の中から学科毎に１名
(7)　一般科目教員の中から２名（文科系１名・理科系１名）
(8)　学生課長
（委員長）
第３条　委員会の委員長は、学生主事とする。
２　委員長に事故があるときは、学生主事補が、その職務を代行する。
（運営）
第４条　委員長は、委員会を招集しその議長となる。
（委員以外の者の出席）
第５条　委員長が必要と認めた場合は、委員以外の出席を求め、その意見を聞くことができる。
（審議事項）
第６条　委員会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を審議する。
(1)　規律の保持及び賞罰に関する事項
(2)　課外活動教育に関する事項
(3)　個人及び集団指導に関する事項
(4)　集会（始業式、終業式）、催物及び出版掲示に関する事項
(5)　奨学資金に関する事項
(6)　厚生環境に関する事項
(7)　入学料、授業料及び寄宿料の免除に関する事項
(8)　入学料及び授業料の徴収猶予に関する事項
(9)　健康管理に関する事項
(10)　特別講演及び報告会に関する事項
(11)　その他学生の厚生補導に関する事項
（事務）
第７条　委員会の事務は、学生課学生生活支援係で処理する。
附 則
１　この規則は、平成１３年４月１日から施行する。
２　久留米工業高等専門学校厚生補導委員会規則（昭和３９年４月１日制定）は、この規則制定の日から廃止する。
附 則
１　この規則は、平成１７年６月２日から施行し、平成１７年４月１日から適用する。
２　久留米工業高等専門学校学生厚生補導委員会規則（平成１３年４月１日施行）は、この規則制定の日から廃止する。
３　久留米工業高等専門学校文化・体育促進委員会規則（平成１３年４月１日施行）はこの規則制定の日から廃止する。
４　久留米高等専門学校学生賞罰委員会規則（平成１３年４月１日施行）はこの規則制定の日から廃止する。
附　則
この規則は、平成１９年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成１９年６月２８日から施行し、平成１９年４月１日から適用する。
附　則
この規則は、平成２５年４月１日から施行する。

（出典：久留米工業高等専門学校規則集）

資料７－２－①－３（１／２）

平成２４年度奨学生数一覧

名称	人数	内訳						
		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科1年	専攻科2年
日本学生支援機構	135	16	14	26	25	26	11	17
福岡県教育文化奨学財団	39	6	9	9	8	7		
吉田学術教育振興会	2			1	1			
古岡奨学会	1		1					
柳川ロータリークラブ	3	1		1		1		
久留米市特別奨学金	1	1						
大野城市奨学資金	2	1		1				
八女市奨学金	1	1						
八女市大坪奨学基金	2	1	1					
小郡市奨学金	1	1						
糸島市奨学金	1	1						
太宰府顕彰会	1		1					
あしなが育英会	2			1	1			
福岡市教育振興会	1				1			
倉掛奨学会	1					1		
総数	193	29	26	39	36	35	11	17

（出典：学生課学生生活支援係資料）

資料７－２－①－３（２／２）

平成 22、23、24 年度奨学生数一覧

名称	22 年度	23 年度	24 年度
日本学生支援機構	152	137	135
福岡県教育文化奨学財団	42	40	39
吉田学術教育振興会	1	4	2
古岡奨学会	0	1	1
柳川ロータリークラブ	3	3	3
久留米市特別奨学金	3	5	7
大野城市奨学資金	1	1	2
八女市奨学金	0	0	1
八女市大坪奨学基金	2	1	2
小郡市奨学金	0	0	1
糸島市奨学金	0	0	1
太宰府顕彰会	0	1	1
あしなが育英会	1	2	2
福岡市教育振興会	2	6	1
倉掛奨学会	1	1	1
天野工業技術研究所	2	2	1
交通遺児育英会	0	1	0
緒方記念科学振興財団奨学金	0	0	0
久留米市高等学校等就学奨励金	1	1	0
母子福祉資金貸付金	1	1	0
二又教育文化振興会	1	1	0
佐賀県育英学生	2	0	0
小城市育英資金	1	0	0
日田市奨学金	1	0	0
久留米市母子就学資金	1	0	0
関育英奨学会	1	0	0
総数	219	202	199

各年度末時点（＝3/31 退学者含む）

（出典：学生課学生生活支援係資料）

資料７－２－①－４

平成 24 年度授業料免除実施状況

	申請者数	全額免除許可	半額免除許可	一部免除	不許可者	備考
２４年前期	39 人	23 人	6 人		10 人	
２４年後期	39 人	26 人	5 人		8 人	
計	78 人	49 人	11 人		18 人	

参考）上記以外の債権額変更を伴う免除

	申請者数	全額免除許可	半額免除許可	一部免除	不許可者	備考
前期特別措置	1 人	1 人				36 月を以上超える在学
前期卓越免除	実施せず	実施せず	実施せず		実施せず	
後期特別措置	1 人	1 人				36 月を以上超える在学
後期卓越免除	8 人		4 人		4 人	
就学支援金関係特別免除				3 人		就学支援金基準変更に伴う特例

（出典：学生生活支援係資料）

資料７－２－①－５

久留米工業高等専門学校学生相談室規則

（平成１２年　４月　１日）

（設置）
第１条　本校に、学生相談室（以下「相談室」という。）を置く。
（目的）
第２条　相談室は、学生の就学に伴う一身上の諸問題について相談に応じ、適切な助言、援助を行い、学生の健全な学園生活に資することを目的とする。
（業務）
第３条　相談室は、次の各号に掲げる業務を行う。
(1)　学生個人の諸問題に係る相談、助言及び援助に関すること
(2)　前号の規定に必要な各種の検査及び調査報告に関すること
(3)　学生相談について本校教職員の理解を深めるための研修会及び講演会に関すること
(4)　その他前条の目的達成に必要な事項
（組織）
第４条　相談室に、次の職員を置く。
(1)　室長
(2)　カウンセラー
(3)　相談員
(4)　相談補助員
（室長）
第５条　室長は、本校教員のうちから、校長が任命する。
２　室長は、校長の命を受け、相談室を総括する。
３　室長の任期は、２年とし再任を妨げない。ただし、室長が欠けた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（カウンセラー）
第６条　カウンセラーは、学生の相談に関する専門の知識及び経験を有する者から、校長が委嘱する。
２　カウンセラーの任期は、１年とし再任を妨げない。
３　カウンセラーは、相談室の業務に従事する。
（相談員）
第７条　相談員は、学生相談に関する専門知識及び経験を有する者から、校長が任命する。
２　相談員の任期は、１年とし、再任を妨げない。
３　相談員は、相談室の業務に従事する。
（相談補助員）
第８条　相談補助員は、本校の看護師をもって充てる。
２　相談補助員は、カウンセラーを補佐するとともに、相談室の補助的業務を処理する。
（相談室職員等の責務）
第９条　相談室職員及び相談業務に関わった教職員は、職務上知り得た個人的な秘密を他に漏らしてはならない。
（事務）
第 10 条　相談室の事務は、学生課学生生活支援係において処理する。
（雑則）
第 11 条　この規則に定めるもののほか、相談室の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附則
この規則は、平成１２年　４月　１日から施行する。

附則
この規則は、平成１７年１２月２２日から施行し、平成１６年４月１日から適用する。

附則
この規則は、平成１９年　４月　１日から施行する。

（出典：久留米工業高等専門学校規則集）

資料７－２－①－６

学生相談室カウンセリング受診件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 20 年度	4	7	13	6	0	6	7	3	4	6	10	5	71
平成 21 年度	14	19	17	5	0	1	1	1	0	1	15	2	76
平成 22 年度	11	6	8	6	0	6	4	7	3	1	2		54
平成 23 年度	7	7	9	4	0	1	21	17	16	16	11	5	114
平成 24 年度	5	13	11	12	0	6	11	3	2	4	4	9	80

（カウンセリング数は延べ人数）

（出典：学生相談室資料）

資料７－２－①－７

２５年度学生相談室名簿及びスケジュール

学内相談員

学生相談室長	笈木	宏和	生物応用化学教員
学生相談員	櫻木	功	機械工学科教員
	菰田	智恵子	一般理科教員
	山口	崇	電気電子工学教員
	久保	甚一郎	材料工学科教員
インテーカー	野田	美恵	看護師

学外相談員			スケジュール
精神科医	１名	久留米大学精神科医	隔週火曜日　４時間
臨床心理士	１名		毎週月曜日　８時間

（出典：学生相談室資料）

資料７－２－①－８（１／２）

久留米工業高等専門学校キャンパス・ハラスメントの防止に関する規則

（平成１８年　４月　６日制定）

（目的）

第１条　この規則は、キャンパス・ハラスメントが、教育の条件である個人としての基本的人権を侵害する行為であることに鑑み、久留米工業高等専門学校（以下「本校」という。）におけるキャンパス・ハラスメントを現在及び将来にわたって防止し、もって、本校のすべての学生及び教職員が両性の本質的平等に基づく個人として尊重され、かつその就学、就労、教育及び研究のための快適で良好なふさわしい環境を維持することを目的とする。

（キャンパス・ハラスメントの定義）

第２条　「キャンパス・ハラスメント」とは、セクシュアル・ハラスメント及びその他のハラスメントをいう。

(1)　セクシュアル・ハラスメント　他人に不快を感じさせる性的な言動

(2)　その他のハラスメント　セクシュアル･ハラスメントには当たらないが､他人の意　に反し、かつ繰り返される不適切な言動

（キャンパス・ハラスメントの禁止）

第３条　本校の学生及び教職員は、その就学、就労、教育及び研究に関連してキャンパス・ハラスメントを行ってはならない。

（不利益取扱いの禁止）

第４条　本校の学生及び教職員は、キャンパス・ハラスメントを拒否し、又はこれに対して抗議したこと、キャンパス・ハラスメントに関する苦情相談を行いまた当該苦情相談に係る調査への協力をしたこと等キャンパス･ハラスメントに関して正当な対応をしたことによりいかなる不利益も受けない。

（校長の責務）

第５条　校長は、本校におけるキャンパス・ハラスメントを防止するため、次に掲げる事項を行わなければならない。

(1)　学生及び教職員が認識すべき事項に関する指針を作成し、これを学生及び教職員に周知させること。

(2)　学生及び教職員を指導して本校におけるキャンパス・ハラスメントを未然に防止し、かつ、キャンパス・ハラスメントに起因する問題の迅速な処理にあたること。

(3)　学生及び教職員に対して必要な研修を実施すること。

(4)　新たに教職員となった者及び新たに教職員を監督する地位にある者（以下「監督者」という。）となった教職員に対して必要な研修を実施すること。

(監督者の責務)

第６条　監督者は、監督すべき教職員の快適で良好な労働環境を維持するため、キャンパス・ハラスメントを未然に防止し、かつ、キャンパス・ハラスメントに起因する問題の迅速な処理に努めなければならない。

２　教員の監督者は教務主事、学生主事、寮務主事とし、職員の監督者は事務部長、各課長とする。

（苦情相談）

第７条　本校の学生及び教職員で、その就学、就労、教育及び研究に関連して、他の学生及び教職員（以下「加害者」という。）によってキャンパス・ハラスメントを受けた者（以下「被害者」という。）は、第８条に定める相談員に対し、苦情相談をすることができる。

（相談員）

第８条　本校の学生及び教職員によるキャンパス･ハラスメントに関する苦情相談を受ける者として、相談員を置く。

２　相談員は、校長が任命し、その名簿を作成して周知させるものとする。

３　相談員の任期は２年とする。ただし、再任は妨げない。

４　相談員の中に、相談員の互選による総括相談員を一人置く。

（相談員の責務）

第９条　相談員は、キャンパス・ハラスメントに関する苦情相談があった場合には、その苦情相談を真摯に聴き取り、当該問題を被害者の意向にそって適切かつ迅速に解決するよう努めなければならない。

２　相談員は、苦情相談への対応にあたっては、原則として被害者と同性の相談員を含む２名以上であたり、関係者のプライバシーや名誉その他の人権を尊重するとともに、苦情相談の過程で知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

３　相談員は、被害者の承諾を得た上で、相談の内容を書面に記録しなければならない。

４　相談員は、被害者が第 10 条の調査委員会への申立てを希望する場合は、すみやかに総括相談員を介して校長へ報告しなければならない。

資料７－２－①－８（２／２）

（調査委員会の役割）
第１０条　校長は、前条４項による総括相談員による申立てがあった場合には、委員を任命して調査委員会を発足させ、当該問題の迅速な解決にあたらなければならない。
２　調査委員会は次に掲げる委員をもって組織する。
(1)　教務主事（委員長を兼務する。）
(2)　学生主事
(3)　寮務主事
(4)　学科長１名
(5)　事務部長
(6)　庶務課長
(7)　学生課長
３　調査委員会は、事実関係の正確な把握に努め、申立ての意向にそって、和解・調停・警告・懲罰によるそれぞれの解決策を可及的すみやかに校長に報告しなければならない。
４　調査委員会は、被害者からの事情聴取を行う場合には、相談員を１名付き添わせるとともに、被害者がいかなる不利益も受ける事のないよう特に配慮しなければならない。
５　調査委員会は、関係者のプライバシーや名誉その他の人権を尊重するとともに、調査の過程で知り得た秘密を他に漏らしてはならない。
６　調査委員会は、調査した内容を書面に記録して校長に報告するとともに、校長はこれを保管し、必要である場合を除いては何人もこれを閲覧できないものとする。　　（事後措置等）
第１１条　校長は、調査委員会の報告に基づき、和解・調停・警告・懲罰によるそれぞれの必要な措置を、調査委員会を介して講じなければならない。
２　「和解・調停」が不調に終わった場合には、校長は被害者の意向を確認して調査委員会に対して他の解決策を諮問するものとする。
３　申立てが加害者への処置を望まない場合でも、事案に鑑みて校長は加害者に対して被害者の名を開示せずに「警告」を発することができる。
４　「懲罰」が適当と認められる場合には、校長は、加害者が学生の場合は厚生補導委員会に諮問して答申を受け、加害者が教職員の場合は調査委員会の報告を受け、処置するものとする。
５　被害者及び加害者は、校長の措置に対して異議申立てをすることができる。
（事務）
第１２条　キャンパス・ハラスメントに関する事務は、総務課人事・労務係が処理する。
（雑則）
第１３条　この規則に定めるもののほか、キャンパス・ハラスメントの防止に関し必要な事項は、別に校長が定める。
附　則
この規則は、平成１８年　４月　６日から施行し、平成１８年４月１日から適用する。
附　則
この規則は、平成１９年　４月　１日から施行する。

（出典：久留米工業高等専門学校規則集）

観点７－２－②：　特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必用に応じて生活支援等が行われているか。

（観点に係る状況）　本校では外国人留学生委員会を設置し、毎年留学生を受け入れている（資料７－２－②－１）。留学生は全員学生寮に入居し、寮宿日直教員が相談に応じる体制をとっているほか、留学生指導教員を各留学生に配置し、留学生と同じ学級の日本人学生１名をチューターに指名し、生活支援を行っている（資料７－２－②－２、７－２－②－３）。また、補食室、シャワー室、祈祷室（留学生共用室を使用）を設置し宗教面を、学習室を設置することにより学習面を支援している（資料７－２－②－４）。さらに日本事情に関する集中講義を開講し、研修旅行を実施している（資料７－２－②－５）。

障害を持つ学生に対しては、スロープ・エレベーター等を整備している（資料７－２－②－６）。

（分析結果とその根拠理由）　留学生に対しては、外国人留学生委員会が担当し、担当教員及び学生のチューターを配置し、各部署が留学生の学習･生活面に配慮し、有効に機能している。また、障害のある学生に対しては建物の各所でバリアフリー化が整備されている。

資料７－２－②－１

久留米工業高等専門学校外国人留学生委員会規則

（昭和５８年９月１６日制定）

第１条　久留米工業高等専門学校に外国人留学生委員会（以下「委員会」という。）を置く。
第２条　委員会は、次の各号に掲げる者をもつて組織する。なお、委員の兼任は可とする。
(1)　教務主事
(2)　教務主事補から１名
(3)　学生主事補から１名
(4)　寮務主事補から１名
(5)　留学生指導教員
(6)　学生課長
(7)　その他校長が必要と認めた者
第３条　委員会の委員長は、教務主事とする。
２　委員長に事故があるときは、教務主事補がその職務を代行する。
第４条　委員長は、委員会を招集し、その議長となる
第５条　委員会は、校長の諮問に応じ、外国人留学生のことに関し審議する。
第６条　委員会において必要と認めた場合は、委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。
第７条　委員会の事務は、寮生活支援係で処理する。

附　則
この規則は、昭和５８年　９月１６日から施行する。

附　則
この規則は、平成　５年　５月２１日から施行する。

附　則
この規則は、平成１７年１１月　１日から施行する。

附　則
この規則は、平成１９年　４月　１日から施行する。

（出典：久留米工業高等専門学校規則集）

資料７－２－②－２

久留米工業高等専門学校外国人留学生特例規則

（昭和５９年　４月　１日）

（目的）

第１条　この規則は、久留米工業高等専門学校学則第４３条の規定に基づき、久留米工業高等専門学校学校外国人留学生（以下「留学生」という。）に関する特例を定めることを目的とする。

（入学）

第２条　留学生は、定員外とすることができる。

（教育課程）

第３条　留学生の教育課程は、特別に編成することができる。

（授業料等）

第４条　国費留学生については、授業料、入学料及び検定料は徴収しない。

（留学生指導教員）

第５条　留学生に対し、学習及び生活上必要な指導、助言を与えるため、留学生指導教員を置く。

２　留学生指導教員は、当該学科長の推薦に基づき、校長が委嘱する。

（留学生相談員）

第６条　留学生の学習上の援助及び日常生活上の助言等を行うため、留学生相談員を置く。

２　留学生相談員は、原則として留学生が所属する学年、学科の学生のうちから当該学科長の推薦に基づき、校長が委嘱する。

３　留学生相談員は、必要に応じて留学生指導教員に連絡し、その指示を受けるものとする。

（住居）

第７条　留学生は、原則として学生寮に居住するものとする。この場合には、前条の留学生相談員は原則として寮生から選出するものとする。

（雑則）

第７条　この規則に定めるもののほか、必要な事項が生じた場合は、外国人留学生委員会の議を経て校長が決定する。

附　則

この規則は、昭和５９年　４月　１日から施行する。

附　則

この規則は、平成１９年　４月　１日から施行する。

附　則

この規則は、平成１９年　５月１６日から施行し、平成１９年　４月　１日から適用する。

附　則

この規則は、平成２４年　４月　１日から施行する。

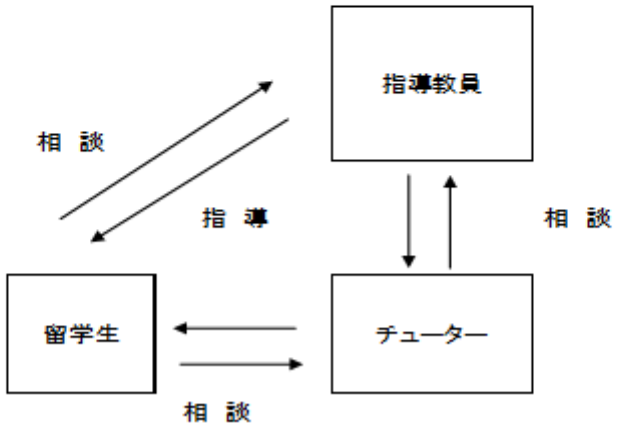
（出典：久留米工業高等専門学校規則集）

資料７－２－②―３

平成25年度　留学生指導教員とチューター配置表

外国人留学生氏名	学科	指導教員	チューター氏名
	機械工学科	松山　崇	（4年機械工学科）
	機械工学科	青野　雄太	（3年機械工学科）
	電気電子工学科	加藤　直孝	（3年電気電子工学科）
	生物応用化学科	松山　清	（4年生物応用化学科）
	材料工学科	矢野　正明	（3年材料工学科）

留学生指導教員とチューターの配置表



（出典：学生課寮生活支援係資料）

資料７－２－②―４

留学生に対する生活支援



留学生補食室



祈祷室（留学生共用室）



留学生シャワー室



留学生学習室

資料７－２－②―５

久留米工業高等専門学校

2012年度前期「日本語」計画表　　担当：占部匡美

	日程	１限	２限	
１	４／14	自己紹介 プレースメントテスト	ＯＰＩインタビュー	
２	４／28	日本語能力試験対策（１）	漢字から学ぶ語彙・ドラえもん（1）	
３	５／12	日本語能力試験対策（２）	漢字から学ぶ語彙・ドラえもん（2）	
４	５／19	日本語能力試験対策（３）	漢字から学ぶ語彙・ドラえもん（3）	
５	６／９	日本語能力試験対策（４）	漢字から学ぶ語彙・ドラえもん（4）	
６	６／23	日本語能力試験対策（５）	漢字から学ぶ語彙・ドラえもん（5）	
７	６／30	日本語能力試験対策（６）	漢字から学ぶ語彙・ドラえもん（6）	ドラマ試聴

【時間】9:30～12:30　＊６月 30日のみ 9:30～12:30+ 13:30～15:00　　計 15コマ（30時間）

【使用教材】新日本語能力試験対策本３級、２級各種

漢字から学ぶ語彙①日常生活編

ドラえもんのどこでも日本語　他

日本語能力試験（ＪＬＰＴ）

試験日：２０１２年７月１日（日）

レベル：Ｎ１～Ｎ５

出願期間：４月２日（月）～５月２日（水）

受験料：５５００円　受験案内：５００円

久留米工業高等専門学校

2012年度後期「日本語」計画表

	日程	１限	２限	
１	９／22	日本語能力試験対策（１）	漢字から学ぶ語彙・速読（１）	
２	10／６	日本語能力試験対策（２）	漢字から学ぶ語彙・速読（２）	
３	10／13	日本語能力試験対策（３）	漢字から学ぶ語彙・速読（３）	
４	10／20	日本語能力試験対策（４）	漢字から学ぶ語彙・速読（４）	
５	11／10	日本語能力試験　模擬テスト		テスト解説
６	11／17	日本語能力試験対策（５）	漢字から学ぶ語彙・速読（５）	
７	12／１	日本語能力試験対策（６）	漢字から学ぶ語彙・速読（６）	

【時間】9:30～12:30　＊11月 10日のみ 9:30～12:30+ 13:30～15:00　計 15コマ（30時間）

【使用教材】新日本語能力試験対策本３級、２級各種

漢字から学ぶ語彙②学校生活編

速読の日本語　他

日本語能力試験（ＪＬＰＴ）

試験日：２０１２年１２月２日（日）

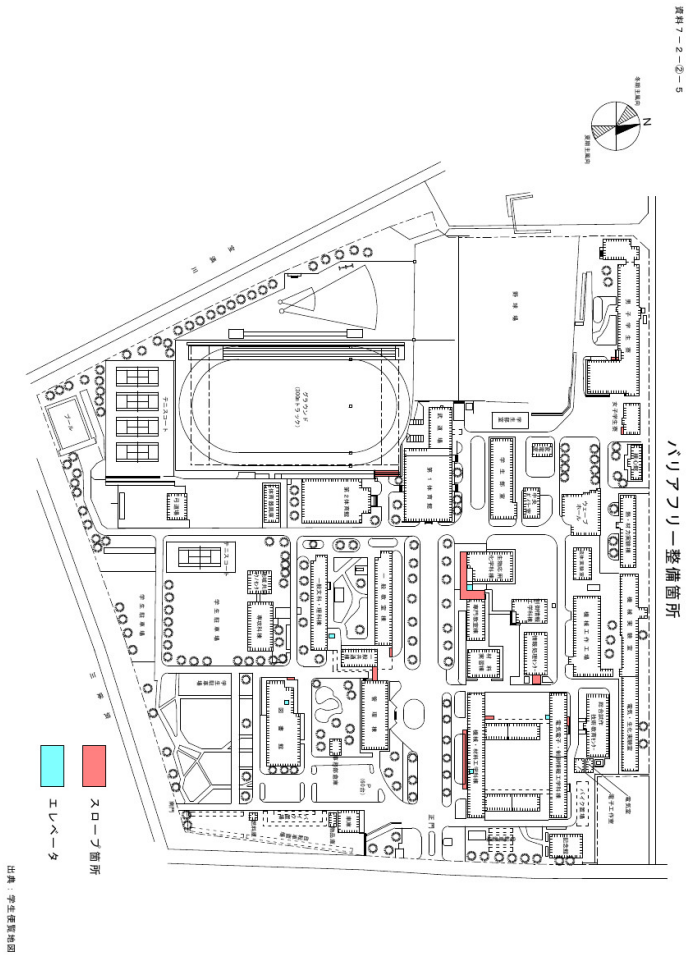
レベル：Ｎ１～Ｎ５

出願期間：８月下旬～９月

（出典：学生課寮生活支援係資料）

資料７－２－②－６

バリアフリー整備箇所



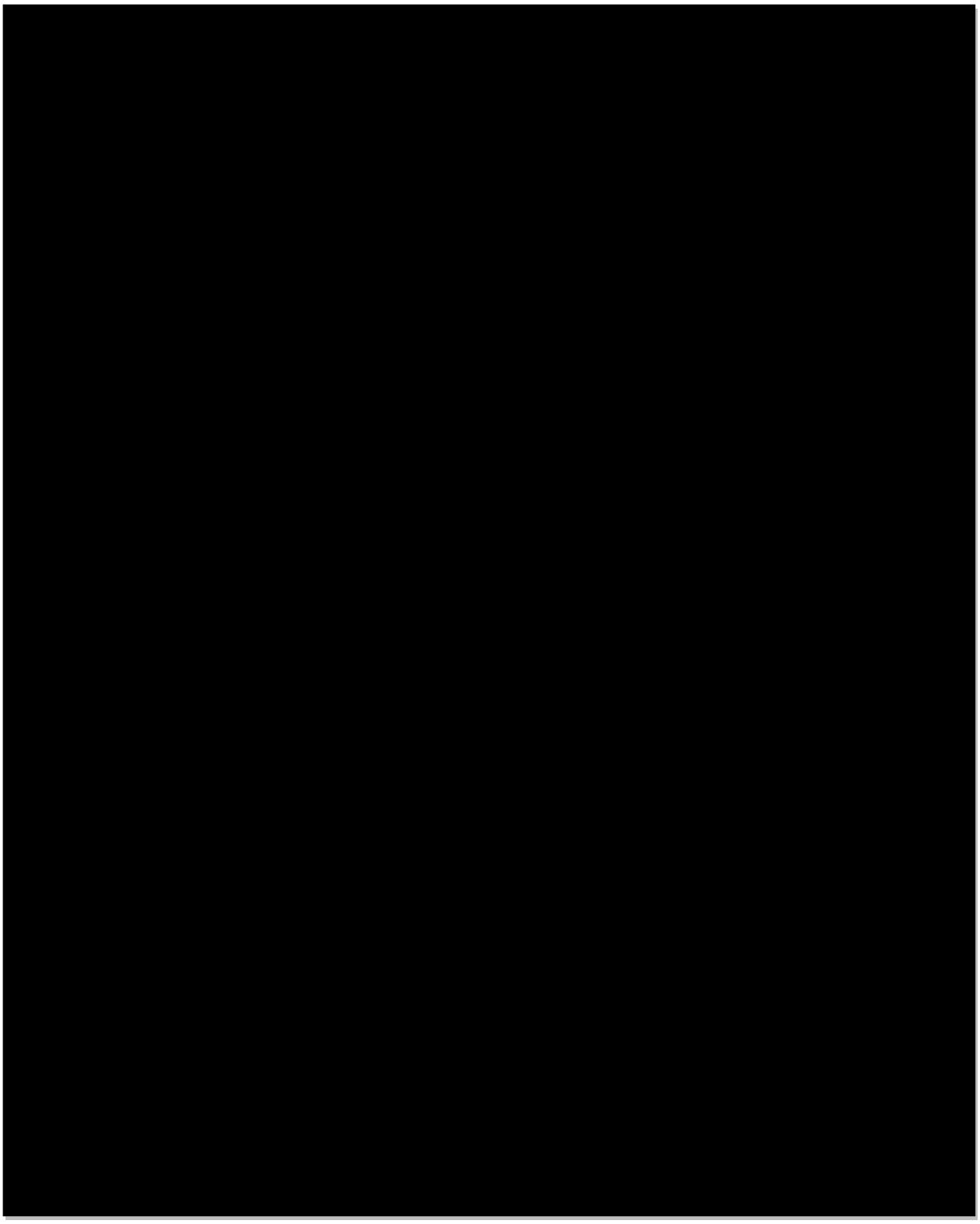
（出典：学生便覧地図）

観点７－２－③：　学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

（観点に係る状況）　本校の学生寮は、男子寮の筑水寮と女子寮のつつじ寮である（資料７－２－③－１）。食堂、学習室、多目的スペース等の共用施設が設置され、学習や寮生会の打ち合わせなどに利用されている。寮生は学生寮規則等（資料７－２－③－２、資料７－２－③－３）に基づき、日課表（資料７－２－③－４）に従った生活を送るが、寮務主事室（資料７－２－③－５）が適宜生活指導を行っている。寮内の行事（資料７－２－③－６）は対面式に始まり、寮祭や各種の講習会などが種々開催されるが、その多くは寮生で組織された寮生会（資料７－２－③－７、資料７－２－③－８）による自主運営である。なお、寮生に違反行為があれば処分基準表（資料７－２－③－９）により処分され、必要に応じ寮務委員会（資料７－２－③－１０、資料７－２－③－１１）にて審議される。

（分析結果とその根拠理由）　学生寮には施設と備品が適切に設置され、学習・生活環境が整えられている。寮生の生活面での指導など実務は寮務主事室・寮務係員及び宿日直教員が担当し、一方、運営管理面は寮務委員会で審議されており、学生の生活及び勉学を支援する体制が整えられ、機能している。

資料７－２－③―１　寮見取り図



（出典：学生課寮生活支援係資料）

資料７－２－③―２（１／２）

久留米工業高等専門学校学生寮規則

（昭和４２年　４月　１日制定）

第１条　この規則は、本校学則第３９条第２項の規程に基づき、学生寮の管理運営について必要な事項を定めることを目的とする。

第２条　学生寮は、自治の精神に基づいて、規律ある共同生活を通じ、寮生相互の信頼と友愛によって、明るい共同生活を営むところである。

第３条　学生寮における学生の厚生補導に関することは、寮務主事が、校長の命を受けこれを掌理する。

第４条　学生寮における学生の厚生補導に関することを審議するため、寮務委員会を置く。

２　寮務委員会については、別に定める。

第５条　学生寮における学生の厚生補導については、寮務委員が直接これにあたるものとする。

第６条　寮生生活を自律的、かつ、円滑に行わせるため、寮生会を置くことができる。

２　寮生会については別に定める。

第７条　学生寮に入寮できる者は、本校学生に限る。ただし、校長が特に認めた場合は、この限りでない。

第８条 学生寮に入寮を希望する者は、入寮願（別紙第１号様式）を校長に提出しなければならない。ただし、在寮生を除く在校生にあっては学級担任の承認を得て、入寮願（別紙第１号様式）を校長に提出しなければならない。

２ 入寮者の選考は、寮務委員会で行い、校長が許可する。

３ 入寮を許可された者は、入寮時に入寮誓約書（別紙第２号様式）及び転入後の住民票を提出し、入寮費を納めなければならない。

第９条 学生寮を退寮しようとする者は、学級担任の承認を得て、退寮願（別紙第３号様式）を校長に提出しなければならない。

第１０条 校長は、学内諸規則に違反した者、又は集団生活に適正を欠くと認められた者に退寮を命ずることがある。

第１１条 寮生は、独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則（平成１６年４月１日独立法人国立高等専門学校機構規則３５号）に定める額の寄宿料を、入寮日の属する月から退寮する日の月まで毎月その月の分を納付するものとする。ただし、休業期間中の分は、休業期間前の月末までに納付するものとする。

２　学生の申し出又は承諾があったときは、前期（４月～９月）、後期（１０月～３月）の半期毎に分けてそれぞれ４月末、１０月末までに徴収するものとする。

３　前項の規定にかかわらず、学生の申し出又は承諾があったときは、当該年度内に徴収する寄宿料の額の総額の範囲内で、その申し出又は承諾に係る額を、その際徴収することができるものとする。

資料７－２－③―２（２／２）

第１２条　前条第２項及び第３項の規定により納付した寄宿料は、年度の途中に特別の事情により退寮した場合、既に納付した額から退寮した月までの寄宿料を差し引いた額を返還するものとする。

第１３条　寮生は、寄宿料のほかに食費（給食のための材料費、光熱水料、人件費を含む。）及び諸経費（電気料、水道料、燃料費、その他寮生活に必要な経費）を、寮費として負担しなければならない。

２　寮費の取扱いについては、別に定める。

第１４条 寮生が外泊しようとする時は、所定の用紙に必要事項を記入し、寮務主事、宿日直教員又は寮生活支援係の検印を受けなければならない。

第１５条 本校学則第５条に定める休業日の内、春季休業、夏季休業、冬季休業、学年末休業の期間中は、原則として閉寮とする。

第１６条　寮生の寮生活については寮生心得による。

（出典：平成２５年度学生便覧）

資料７－２－③―３（１／２）

(3)久留米工業高等専門学校寮生心得

この心得は，本校学生寮規則第 16 条に基づき，第２条の目的を達成するため，第６条の見地から寮生が寮生活において，守らなければならない事項を定める。

⑴　日　課

イ　寮生は規則正しい共同生活を行うため，別表の日課表によって行動しなければならない。

ロ　健康上その他の理由で日課表の行動ができない者は，寮務主事に申し出て指示を受けるものとする。

ハ　授業に出席できない場合も寮務主事に申し出るものとする。

⑵　外出，帰省，外泊

イ　外出中は本校学生として，ふさわしい行動をしなければならない。

ロ　外出者は，点呼時までには帰寮しなければならない。

ハ　帰省又は外泊する場合は，届出用紙に所用事項を記載し，寮務主事の許可を受けるものとする。入院加療を必要とする者は寮務主事に届け出なければならない。

⑶　秩序，風紀

イ　学習に励み，礼節を尊び自律の精神を重んじ，他人の迷惑をさけ友愛互助を心がけなければならない。

ロ　質素を旨とし，清潔，整頓を心がけ快適な生活を行うよう努めなければならない。

ハ　寮生は寮務主事の許可なくしては，外来者はもちろん通学生といえども寮内に入れてはならない。

ニ　飲酒，喫煙，麻雀，賭事は禁止する。したがってこれらに関係のある物品は所持できない。

⑷　車両の使用

イ　寮生の自動車，自動二輪車及び原動機付自転車の入構許可は，原則として認めない。

ロ　自転車を使用する場合は，校長の許可を得なければならない。

⑸　災害防止

イ　災害の防止に努め，出火の危険のある行為は慎まなければならない。

ロ　防災についての行事には参加，協力しなければならない。

⑹　設備，備品の保全

イ　建物及び設備，備品の保全に留意し，常に大切に取り扱わ**な**ければならない。

ロ　万一破損又は故障，紛失等を生じた場合は直ちに寮務主事**又は**寮生活支援係に届け出るものとする。なお，寮生の責任による場合は弁償するものとする。

⑺　集会・掲示・配布等

寮内における集会や印刷物の掲示又は，配布については学生準則第８章，第９章及び第 10 章の定めるところに準じ，寮務主事を経て所定の手続きをした後，

資料７－２－③―３（２／２）

行うものとする。

⑻　保健・衛生

イ　健康に留意し，衛生には特に気をつける。

ロ　病気の場合は，本人又は同室者・友人等がすみやかに寮務主事か宿日直者又は寮生活支援係へ届け出て指示を受ける。

⑼　当番割振

寮内清掃・風呂掃除等の当番割振については，別に定める。

⑽　再入寮

一旦退寮した者については，退寮した日から半年間以内は，原則として再入寮を認めない。

⑾　寮費の滞納

寮費又は給食費を３ヶ月以上滞納した者は，滞納した寮費を支払った後，退寮を命ずることがある。

⑿　その他の事項

上記以外のことについては，『寮生活上の留意事項』を参照し，不明な点は，寮生活支援係に問い合わせること。

（出典：平成２５年度学生便覧）

資料７－２－③―４

日　課　表

点　呼	7 時 45 分（**休校日　8 時 15 分**）
朝　食	7 時 **50** 分 ～　8 時 30 分（休校日は～9 時 00 分）
昼　食	11 時 45 分 ～ 12 時 45 分
夕　食	18 時 00 分 ～ 19 時 30 分（休校日は～19 時 00 分）
入　浴	18 時 30 分 ～ 21 時 55 分 （シャワーのみ　7 時 00 分～18 時 30 分使用可）
点　呼	22 時 00 分
清　掃	**22 時 05 分 ～ 22 時 30 分**
学　習	21 時 00 分 ～ 23 時 00 分
消　灯	23 時 00 分

※休校日とは、全学生が出席を要する日以外の日をいう。

（出典：平成２５年度学生便覧）

資料７－２－③―５

平成２５年度　寮務主事室構成

寮務主事	泉本　英次
寮務主事補	米永　正敏
寮務主事補	中尾　哲也
寮務主事補	谷　太郎
寮務主事補	松本　光広
学生課長	磯田　信一
寮務係長	栗原　宏明
寮務係	平河　良二
寮務係	萩野　清和

（出典：学生課寮生活支援係資料）

資料７－２－③―６

平成25年度　寮の主な年間行事

4 月	7 日	(日)	10:00	開　寮
4 月	8 日	(月)		新入寮生保護者説明会
4 月	9 日	(火)	17:30～	対面式・寮生総会
4 月	17 日	(水)	16:00	避難訓練
4 月	17 日	(水)	21:00	ゴミ分別講習会
4 月	14 日	(日)	～21日(日)	第1回体験入寮
4 月	20 日	(土)		寮祭
5 月	9 日	(木)	11:30～14:00	第1回ヘルスチェックキャンペーン
5 月	9 日	(木)	16:00	第1回食堂＆寮生会懇談会
6 月	13 日	(木)	16:40	第2回食堂＆寮生会懇談会
6 月	16 日	(日)		テーブルマナー講習会
6 月	17 日	(月)	～7月18日(木)	夕食時間延長(高専体育大会参加クラブ)
7 月	7 日	(日)	～7月14日(日)	第2回体験入寮
7 月	17 日	(水)	16:00～17:00	大掃除
7 月	27 日	(土)	14:00	閉寮(工作実習に参加する1A,2A及び
				2M以外は、7月23日(火)14:00閉寮)
9 月	1 日	(日)	10:00	開寮
10 月	6 日	(日)	～13日(日)	第3回体験入寮
10 月	9 日	(水)	16:00	第3回食堂＆寮生会懇談会
10 月	13 日	(日)		和食作法講習会
10 月	15 日	(火)	～11月15日(金)	夕食時間延長(高専体育大会参加クラブ)
10 月	16 日	(水)	昼食時	非常食シミュレーション
10 月	16 日	(水)	16:00～17:00	防災訓練
12 月	2 日	(月)	～12月21日(土)	夕食時間延長(高専体育大会参加クラブ)
12 月	5 日	(木)	11:30～14:00	第2回ヘルスチェックキャンペーン
12 月	5 日	(木)	16:00	第4回食堂＆寮生会懇談会
12 月	8 日	(日)	～15日(日)	第4回体験入寮
12 月	14 日	(土)		寮祭
12 月	18 日	(水)	16:00～17:00	大掃除
12 月	21 日	(土)	14:00	閉寮
1 月	6 日	(月)	10:00	開寮
1 月	8 日	(水)	17:45	成人式・寮生総会
2 月	21 日	(金)		ビジネスマナー講習会
3 月	3 日	(月)	14:00	閉寮(当月退寮者)
3 月	10 日	(月)	14:00	閉寮

上記の他、「寮務委員会」、「寮生会班長会議」、「寮生会役員会議」、「外部寮視察」、「資源回収」、「TA」、「地域との交流行事」等を適宜開催します。

(出典：学生課寮生活支援係資料)

資料７－２－③―７（１／２）

(4) 久留米工業高等専門学校学生寮寮生会規約

（趣旨）

第１条　学生寮規則第６条に基づき，寮生会（以下「本会」という。）を置く。本会の組織及びその活動は，寮生相互の個人生活をおかすことなく，かつ，学則，学生準則及び学生寮規則に違反しないものとする。

（構成）

第２条　本会は，久留米工業高等専門学校寮生全員をもって構成する。

（役員）

第３条　本会に寮生役員会を置き、役員の人数、任期、選出及び任務は、次のとおりとする。

(1) 役員

寮長	１名（４・５年）
副寮長	２名（男子学生１名，女子学生１名）
美化委員長	１名
文化委員長	１名
会計委員長	１名
ＬＡＮ責任者	１名
男子消防隊長	１名
女子消防隊長	１名

(2) 役員の任期

役員の任期は，原則として１年とし，再任を妨げない。役員に欠員ができた場合は，随時補充するものとする。

(3) 役員の選出

役員の選出は，寮生総会で承認を得なければならない。

(4) 役員の任務

ア　寮長は，寮生会の最高責任者として，寮務主事の指導助言のもとに寮生の中心となって寮生活の向上に務め，各役員を指揮し日課業務，諸行事，その他必要と認めた事項を行い，寮生総会，班長会議，役員会議を主宰する。

イ　副寮長は，寮長を補佐し，寮長に事故あるときはその業務を代行する。

ウ　美化委員長は，寮生の環境と健康のため必要と思われる業務を行う。

工　文化委員長は，寮生の文化の向上のために必要と思われることを行う。

オ　会計委員長は，本会の会計事務を処理する。

カ　消防隊長は，防災に関する業務を行う。

２　寮生役員会の下に班長会議（以下「本会議」という。）を置き、次の任務を行う。

(1) 本会議は，寮生役員と班長とで構成され，寮生役員会が必要と認めた場合又は班長の要請があった場合に寮長がこれを召集する。

(2) 本会議は，寮生役員会と寮生の結びつきを密にし，達示事項を徹底させ，寮生の意見，希望等を反映させる。

(3) 班長は，他の役員と連絡を密にし，班員の相談に応じたり，秩序の維持，環境の美化を計る。

（寮生総会）

第４条　寮生総会は，全寮生をもって構成し，次の事項を審議し決議する。

(1) 防災及び警備

(2) 寮長及び寮生役員の承認

(3) その他

資料７－２－③―７（２／２）

２　寮生総会は，全寮生の３分の２以上の出席をもって成立し，出席者の過半数をもって決議する。
３　決議事項は，寮務主事の承認を得て執行する。
４　寮生総会は，定例総会と臨時総会の二種とする。
(1) 定例総会は，毎学期始めに寮長が召集する。
(2) 臨時総会は，寮長が必要と認めたとき又は全寮生の３分の１以上の連署で議案を附して要求のあったとき召集する。
（選挙）
第５条　選挙管理には，寮長が選挙管理委員を任命し，これに当たらせる。
２　選挙は，告示後二週間以内に行うものとする。
（リコール権）
第６条　寮生総会は，各寮生役員のリコール権を有し，所定の手続きを経て，出席寮生の３分の２以上の賛成をもって議決する。

（附則は一部省略）
附　則
この規約は，平成２４年４月１日から施行する。

（出典：平成２５年度学生便覧）

資料７－２－③―８

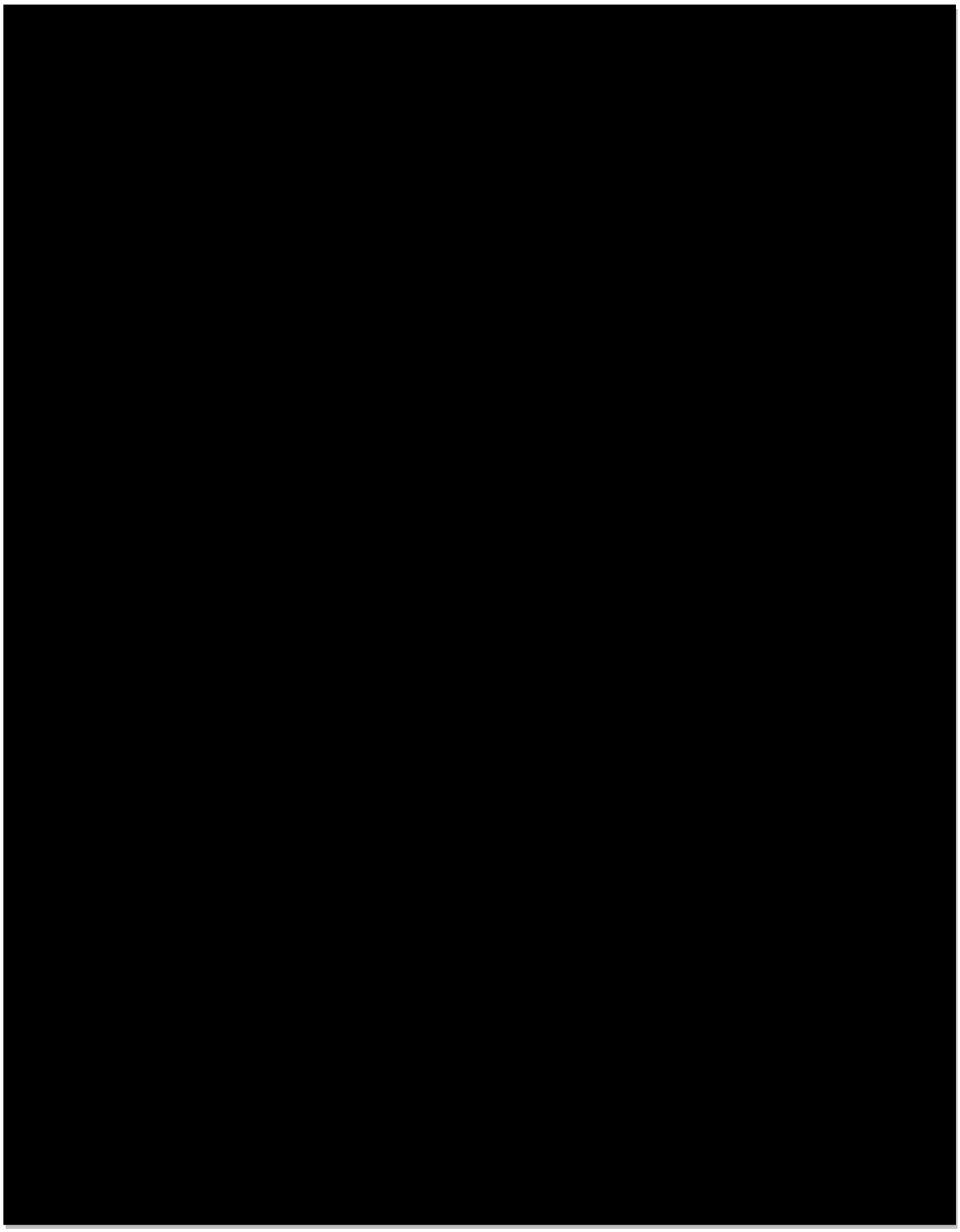
平成２５年度　寮生会役員（学生氏名は省略）

役員名		氏名	（科・学年）	号室
寮　　長			（電気電子工学科　４年）	３１１
男　子　副　寮　長			（機械工学科　４年）	３２８
女　子　副　寮　長			（材料工学科　４年）	２５１
美化委員長			（制御情報工学科　３年）	４１０
文化委員長			（機械工学科　４年）	２３０
会計委員長			（生物応用化学科　４年）	３３４
寮内ＬＡＮ責任者			（制御情報工学科　４年）	２３７
男子消防隊長			（機械工学科　４年）	３２６
女子消防隊長			（材料工学科　３年）	３５２
美化委員　（４名）			（生物応用化学科　３年）	２０６
			（機械工学科　３年）	２０８
			（制御情報工学科　２年）	４２３
			（制御情報工学科　２年）	２１５
文化委員			（機械工学科　３年）	４３０
			（生物応用化学科　２年）	４０９
			（材料工学科　３年）	３５２
ＬＡＮ管理委員			（制御情報工学科　３年）	２０８
消防福隊長			（機械工学科　３年）	２２７
班長（各階１０名）	男子寮		（材料工学科　５年）	１２６
			（制御情報工学科　３年）	２０６
			（機械工学科　３年）	２１３
			（電気電子工学科　３年）	３２１
			（材料工学科　３年）	３３０
			（材料工学科　３年）	４０４
			（機械工学科　２年）	４３０
	女子寮		（機械工学科　３年）	１５２
			（材料工学科　３年）	２５８
			（制御情報工学科　２年）	３５４

（出典：学生課寮生活支援係資料）

資料７－２－③―９

寮生処分基準表



（出典：学生課寮生活支援係資料）

資料７－２－③－１０（１／２）

久留米工業高等専門学校寮務委員会規則

（昭和４９年４月１１日制定）

第１条　久留米工業高等専門学校学生寮規則第４条の規定に基づき、寮務委員会(以下「委員会」という。)の組織その他必要な事項は、この規則の定めるところによる。

第２条　委員会は、次に掲げる者をもつて組織する。ただし、次の学号の委員は兼任することができる

(1)　寮務主事
(2)　寮務主事補
(3)　教務主事補から１名
(4)　学生主事補から１名
(5)　専攻科主事補から１名
(6)　専門学科の中から学科毎に１名
(7)　一般科目の中から２名（文科系１名、理科系１名）
(8)　学生課長
(9)　寮生活支援係長
(10)　その他校長が必要と認めた者

２　　委員会において必要と認めた場合は、委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

第３条　前条第１項第６号、第７号、第８号及び第１１号の委員の任期は１年とする。ただし、再任を妨げない。

２　前項の委員に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

第４条　委員会の委員長は、寮務主事とする。

２　委員長に事故があるときは、寮務主事補がその職務を代行する。

第５条　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

第６条　委員会は、次の事項を審議する。

(1)　学生の入退寮に関する事項
(2)　寮生の日課及び行事に関する事項
(3)　寮生の個人及び集団指導に関する事項
(4)　寮生の学生寮内における集会、催物、出版及び掲示に関する事項
(5)　学生寮内における規律の保持及び賞罰に関する事項
(6)　寮生の保健衛生に関する事項
(7)　寮生の災害予防に関する事項
(8)　教員の管理当直に関する事項
(9)　その他学生寮に関する事項

第７条　委員会の事務は、寮生活支援係で処理する。

資料７－２－③－１０（２／２）

附　　則

１　この規則は、昭和４９年４月１１日から施行する。

２　久留米工業高等専門学校寮務委員会規程(昭和４２年４月１日制定)は、この規則制定の日から廃止する。

附　　則

この規則は、昭和５１年４月１日から施行する。

附　　則

この規則は、平成３年１０月１日から施行する。

附　　則

この規則は、平成１７年１２月２２日から施行し、平成１７年４月１日から適用する。

附　　則

この規則は、平成１９年４月１日から施行する。

附　　則

この規則は、平成２２年４月１日から施行する。

（出典：久留米工業高等専門学校規則集）

資料７－２－③―１１

平成２５年度寮務委員会名簿

役職・学科	氏　　名	(電話番号)
寮務主事（委員長）	泉本英次	（９４０２）
寮務主事補	中尾哲也	（９３６８）
寮務主事補	谷　太郎	（９３４４）
寮務主事補	米永正敏	（９３３９）
教務主事補	松本光広	（９３８３）
学生主事補	龍頭信二	（９３２７）
専攻科主事補	田中　大	（９３５９）
電気電子工学科	加藤直孝	（９３８０）
制御情報工学科	中野　明	（９３５３）
生物応用化学科	松山　清	（９４１６）
材料工学科	岩田憲幸	（９４１７）
一般文科	岡本和也	（９３７８）
学生課長	磯田信一	（９３１４）

(出典：学生課寮生活支援係資料)

観点７－２－④：　就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

（観点に係る状況）　進路指導に関しては、５月の保護者と学級担任による面談（資料７－２－④－１）のほか、適宜実施される卒業生進路状況の説明・工場見学旅行により対応している。４年次には担任が進路希望調査、進路指導を行っている。各学科には就職主任が配置され（資料７－２－④－２）、担任と連携し就職希望学生に適切な就職先選定を助言し、職希望会社との間の連絡、調整を行っている。求人票などは学生課学生生活支援係が管理し、求人情報が掲示板・ホームページに掲示される（資料７－２－④－３）。また、就職担当委員会を設置し（資料７－２－④－４）、学科間の調整を行っている。就職試験対策として、11月頃にＳＰＩ試験を実施し（資料７－２－④－５）、各学科の就職主任と学級担任が就職ガイダンス及び就職試験における面接指導を行っている（資料７－２－④－６）。また、就職主任は企業訪問を行い、本校の説明や、社員に要求される能力の聞き取り調査をし、求人先を開拓している。この旅費は久留米高専後援会より援助されている（資料７－２－④－７）。

進学を希望する学生に対しては、学級担任が学生（保護者）との面談を実施し進路決定を支援している（資料７－２－④－８）。学生課教務係が入試要項・入学案内などの書類を管理し、教務主事室及び学生課教務係が様々な大学からの説明会の場を設けている（資料７－２－④－９）。

（分析結果とその根拠理由）　学生の進路指導に関しては、まず学級担任と就職主任が学生あるいは保護者との面談などを実施し、指導を行っている。就職や進学の希望に応じて５年生の学級担任、就職主任及び学科長で適切に指導する体制が整っている。事務的な手続きなどに関しては学生課が対応しており、学級担任や就職主任と連携を取り、円滑な運営がなされている。

資料７－２－④―１

保護者面談スケジュール

平成２５年　４月２３日

保 護 者 各 位

久留米工業高等専門学校

校長　上　田　　孝（公印省略）

保護者懇談会の開催について(お知らせ)

拝啓　新緑の候ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、後援会定期総会終了後に、保護者の皆様と学級担任との懇談会を下記により開催しますので、ご出席下さるようご案内申し上げます。

なお、個人面談ご希望の場合の順番は、後援会定期総会の受付け時に取って頂くことになりますので、ご了承下さい。

また、受付終了後に総会会場に来校された場合は、学生課教務係へお越し頂きますようお願い申し上げます。

敬具

記

開催日時　　**平成２５年５月２５日（土）１３：３０～**

懇談場所　　久留米工業高等専門学校 HR 教室等・・・別紙のとおり

(教室配置図を同封しております。)

※　懇談場所及び控室案内図は、当日学生課横に掲示致します。

平成25年度　保護者懇談会場等一覧

クラス	担任	全体懇談会場	棟番号	階	保護者控室	棟番号	階	個別懇談会場	棟番号	階
1・機械	薀田	201	2	2	同左			薀田教員室	1	3
1・電気	江島	202	2	2	同左			江島教員室	1	3
1・制御	小宮	101	2	1	同左			―		
1・生化	伊藤(公)	103	2	1	同左			同左		
1・材料	金城	102	2	1	同左			同左		
2・機械	松田康	204	一般共通棟	2	204	一般共通棟	2	コモンスペース（204隣）	一般共通棟	2
2・電気	赤塚	301	2	3	同左			同左		
2・制御	山崎	302	2	3	一般物理実験室（PJ）	1	2	山崎教員室	1	2
2・生化	河合	303	2	3	303	2	3	303	2	3
2・材料	篠島	203	2	2	203	2	2	―		
3・機械	青野	CAD/CAE演習室	3	2	同左			青野教員室	3	2
3・電気	加藤	ES4	7	1	同左			加藤教員室	7	3
3・制御	松島	ES1	7	1	同左			映像メディア実験室	10	1
3・生化	萩原	AM1	3	1	C2（5Cと同室）	8	2	萩原教員室	8	2
3・材料	矢野	ES2	7	1	学生面談室	3	3	矢野教員室	3	3
4・機械	松永	産業デザイン演習室	12	3	同左			松永教員室	12	3
4・電気	山本(哲)	電子通信実験室	7	4	電子通信実験室	7	4	山本(哲)教員室	7	3
4・制御	中野	S2	9	2	制御情報実験室	7	2	S2	9	2
4・生化	松山	C2	8	2	C3	8	1	松山教員室	8	1
4・材料	川上	S1	9	2	材料評価実験室（5Mと同室）	3	3	川上教員室	3	3
5・機械	川原	機械要素設計実験室	3	2	機械要素設計実験室	3	2	川原教員室	3	2
5・電気	山口	総合実験室	7	3	総合実験室	7	3	総合実験室	7	3
5・制御	小田	D3	4-1	－	同左			電気電子・制御情報工学科棟学生面談室	7	2
5・生化	中嶌	C1	8	1	C2（3Cと同室）	8	2	生化会議室	8	2
5・材料	山本(郁)	材料評価実験室	3	3	同左（4Mと同室）	3	3	山本(郁)教員室	3	3
専攻科		―			大講義室	12	2	―		

（出典：学生課教務係資料）

資料７－２－④－２

平成 25 年度就職担当委員会の組織図

就職統括主任　電気電子工学科　越地教授

事務担当　磯田学生課長　平島事務補佐員

就職主任

機械工学科　　中武靖仁　教授
電気電子工学科　越地尚宏　教授
制御情報工学科　熊丸憲男准教授
生物応用化学科　冨岡寛治　教授
材料工学科　　笹栗信也　教授

（出典：学生課学生生活支援係資料）

資料７－２－④－３

求人企業一覧（学科別一例）

会社名	受付番号（募集学科）						
	A	E	S	C	M	機電	物質
ANA（株）　グループ会社	1	1	1			1	
（株）富士通九州システムズ	1	1	1			1	
（株）NTT ぷらら	1	1	1	1	1	1	1
日本システム通信（株）	1	1	1			1	
セキスイハイム中四国（株）	1	1	1	1	1	1	1
片山工業（株）	1	1	1			1	
（株）タクマ	1	1	1	1	1	1	1
山九（株）	1	1	1		1	1	1
ムラテックＣＣＳ（株）	1	1	1			1	
（株）リベルワークス	1	1	1	1	1	1	1
中国電力（株）　※書類受付期間変更 3/2 訂正済み	1	1	1	1	1	1	1
（株）ナスカ	1	1	1	1	1	1	1
オムロンリレーアンドデバイス（株）	1	1	1	1	1	1	1
（株）前川製作所	1	1	1	1	1	1	1
（株）アイティーシステムズ	1	1	1	1	1	1	1
サンメイクジャパン（株）　既卒可	1	1	1			1	
ANA（株）　グループ会社	1	1				1	
（株）富士通九州システムズ	1	1	1	1	1	1	1
（株）NTT ぷらら	1	1	1	1			
日本システム通信（株）	1	1	1		1	1	

（出典：ホームページ上に掲載される求人企業一覧の一部）

資料７－２－④－４

久留米工業高等専門学校就職担当委員会規則

（平成１３年４月１日制定）

（設置）

第１条　本校に、学生の就職に関する重要事項を審議するため、久留米工業高等専門学校就職担当委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（組織）

第２条　委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

(1) 就職統括主任

(2) 各学科就職主任

（委員長）

第３条　委員会の委員長は、就職統括主任とする。

２　委員長に事故があるときは、各学科就職主任のうちから委員長があらかじめ指名する者がその職務を代行する。

第４条　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

（構成員以外の者の出席）

第５条　委員長が必要と認めた場合は、構成員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

（審議事項）

第６条　委員会は、校長の諮問に応じ、次の事項を審議する。

(1) 就職指導に関すること。

(2) 就職に関する学科間の連絡調整。

(3) その他学生の就職に関すること。

（事務）

第７条　委員会の事務は、学生課学生生活支援係において処理する。

附 則

この規則は、平成１３年　４月　１日から施行する。

附 則

この規則は、平成１９年　４月　１日から施行する。

（出典：久留米工業高等専門学校規則集）

資料７－２－④―５

平成２４年１０月１６日

就 職 担 当 教 員
４　年　生　担　任　　各位
専攻科１年　担 任

就職統括主任

ＳＰＩ対策模擬試験の実施について

このことについて、下記のとおり実施しますので、周知方よろしくお願いいたします。

ついては、クラスの受験希望者を取りまとめていただき、平成２４年１１月１５日(木)までに受講料(１名に付き１，０００円)を添えて学生生活支援係まで申し込みくださいますようお願いいたします。

記

日　　時　平成２４年１１月２１日（水）16:00～18:00

場　　所　Ｄ４講義室

（出典：学生課学生生活支援係資料）

資料７－２－④－６

平成 24 年 12 月 21 日

制御情報工学科 4 年
就職希望学生各位

就職主任 （綾部　隆）

平成 24 年度冬季　　制御情報工学科就職ガイダンス

1。主なスケジュール

12 月中旬　就職資料の入れ替え作業
12 月 21 日(金)4 時限目授業終了後　就職ガイダンス(冬季)
翌年1月初旬　　学校HPの学内専用にある就職情報(求人情報)の 25 年度分のアップ開始
翌年1月 7 日(月)　面談(学生、担任、就職主任)。担任教員室前にスケジュール掲示
Web 上でのエントリー入力開始（自由応募で受付開始が早い企業は12月頃開始)
2 月 20 日(水)　就職ガイダンス(春季)（定期試験終了後)
3 月 1 日(金)以降　面談(希望学生、担任、就職主任)。担任がスケジュール調整
3 月 5 日(火)　終業式
3 月 8 日(金) 卒業査定。九工大情報工学部(飯塚キャンパス)、高専生を対象とした合同会社説明会
3 月11日(月)以降　(推薦応募の場合、希望会社を就職資料室のエントリー掲示板に記入)
3 月19 日(火)　及落査定
3月中旬までに第1希望、第2希望、(第 3 希望)の企業を考えておく。3月中に必要書類を作成。学生課学生生活支援係に書類が殺到する時期(4月上～中旬)は書類の発送に時間がかかるので、1週間程度は余裕をもって書類を仕上げる。

2。就職活動に必要なこと

（以下省略）

（出展：平成 24 年度制御情報工学科就職ガイダンス資料）

資料７－２－④－７

平成２４年度 後援会 一般会計 決算



（出展：平成 25 年度後援会定期総会資料）

資料７－２－④－８

平成 24 年度　学生の進学先大学の一覧

卒業生（本科）の編入学先大学

機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
九州大学工学部 九州工業大学工学部 佐賀大学理工学部 熊本大学工学部 鹿児島大学工学部 大阪大学工学部 首都大学東京システムデザイン学部 九州造形短期大学工業科	九州大学工学部 九州工業大学工学部 東京大学工学部 東京工業大学理学部 筑波大学理工学群 豊橋技術科学大学工学部 大阪大学工学部 広島大学工学部	九州大学工学部 九州工業大学情報工学部 佐賀大学理工学部 宮崎大学工学部 琉球大学工学部 東京大学工学部 筑波大学情報学群 室蘭工業大学情報電子工学系学科	九州大学工学部 千葉大学工学部 豊橋技術科学大学工学部 長岡技術科学大学工学部 広島大学生物生産学部	九州大学工学部 九州工業大学工学部 佐賀大学理工学部 熊本大学工学部 豊橋技術科学大学工学部 長岡技術科学大学工学部 茨城大学教育学部

卒業生（本科）の本校専攻科入学者数　（３０名）

機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科	合　計
4※	7	6※	8	5	３０

※既卒者１名を含む。

修了生（専攻科）の入学先大学院

機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻
九州大学大学院（総合理工学府） 〃　（システム情報科学府） 九州工業大学大学院（生体工学研究科） 東京大学大学院（新領域創成科学研究科） 東京工業大学大学院（総合理工学研究科） 筑波大学大学院（システム情報工学研究科） 京都大学大学院（情報学研究科） 北海道大学大学院（情報科学研究科）	九州大学大学院（総合理工学府）

（出典：学生課学生係資料）

資料７－２－④―９

大学･大学院の説明会スケジュール

24年度

	期日		大学名	事項	時間	会場	対象
1	4月13日	金	豊橋技術科学大学	編入学･大学院入学説明会	16:40～18:00	D3	4年、5年、専攻科1年ほか
2	11月8日	木	長岡技術科学大学	編入学･大学院入学説明会	16:40～17:40	D3	4年、5年、専攻科1年ほか
3	11月13日	火	東工大総合理工学研究科	大学院進学説明会	16:40～18:00	D3	専攻科1年、本科4年、5年
4	11月15日	木	東京工業大学バイオ研究基盤支援総合センター	生命理工学部編入学説明会	16:40～18:00	C1	4年ほか
5	11月28日	水	北陸先端科学技術大学院大学	大学院進学説明会	16:40～	専攻科大講義室	専攻科1年
6	12月12日	水	九州大学大学院システム情報科学府･システム生命科学府	大学院進学説明会	16:40～18:00	専攻科大講義室	専攻科1年、希望者
7	12月14日	金	九州工業大学大学院生命体工学研究科	大学院説明会	16:40～	専攻科大講義室	専攻科1年
8	12月20日	木	熊本大学工学部	編入学説明会	16:40～17:40	D3	4年ほか
9	3月13日	水	九州工業大学情報工学部	大学(編入学)説明会	14:00～15:00	D3	4年、専攻科1年ほか

25年度

	期日		大学名	事項	時間	会場	対象
1	4月16日	火	九州工業大学情報工学部	該当学科の教員に対する進路説明	11:00～12:00	管理棟応接室	4年、5年
2	4月17日	水	豊橋技術科学大学	＜終了後、教員との面談希望あり＞ 大学編入学･大学院進学説明会	16:00～18:00	D3	4年生、専攻科1年生

（出典：学生課教務係資料）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）　教育理念に基づき学生の自立の精神を尊重し、学級担任を含めた学生主事室を中心とした組織によって、学生自身の生活面や課外活動面の活動を支援している点は優れている。本支援体制は、学生の自立心と責任感を育成し、外部からの卒業生の評価は高い。また、本支援体制の成果は、以前のＮＨＫロボットコンテストの成績や近年のプログラミングコンテストの成績からも把握できる。

（改善を要する点）　該当なし。

（３）基準７の自己評価の概要

本校では、入学当初のガイダンス並びに毎週開催されるホームルームを通して、学生が学習を進めるために必要な情報の伝達及び相談・指導する体制が整備されている。また、学生が学習及び生活する上での校内環境も十分に整備されている。

学生の生活面での要望に対する学校側としての支援体制は、学生主事室を中心に学級担任によって整えられ、学生会中央執行委員会役員との懇談などを通して校内環境の改善に努めている。また、授業に対する学生の意見は、授業評価アンケート及び学生支援アンケートを授業改善専門部会及び企画主事室にて実施し、その集計・分析結果が授業改善と学習支援に役立てられている。学生の資格試験などに関わる支援は、資格試験などに関する案内を学生課から掲示板などで公表するとともに、担任会を通じて学級担任からも積極的に案内している。

留学生、編入生及び転入生に対しては、履修科目の違いによる本校学生との格差を早い時期に解消するために個別の科目を設けており、留学生や編入生、転入生が学習上で不利益を生じないよう配慮している。特に、留学生は外国人留学生委員会が担当し、担当教員及び学生のチューターが留学生の学習･生活面を支援している。

学生の課外活動は、学生会の自主的運営に対する学生主事室の助言・指導、体育系及び文化系クラブへの複数名顧問配置により支援している。

学生への経済的支援は、公的・私的な奨学金制度の斡旋や授業料免除などを案内し、各学級担任が相談・指導することにより行っている。また、怪我などの応急処置や健康相談ばかりでなく、学生を生活面やメンタル面でサポートするために、学生相談室、学級担任、看護師、精神科医及びカウンセラーを配置している。さらに、障害のある学生に対しては建物の各所でバリアフリー化により対応している。

学生寮における生活面の指導や相談などの実務は、寮務主事室が中心となって宿直教員とともに行っており、学生寮の運営管理は定期的に開催される寮務委員会で対応し、学生の生活及び勉学を支援する体制が整えられている。

学生の進路指導に関しては、５年生の学級担任が学科の就職主任と連携しながら学生あるいは保護者と面談などを実施して、きめ細かな相談・助言を行い、就職や進学の希望に応じて５年生の学級担任、就職主任及び学科長が適切に指導する体制が整っている。

基準８　施設・設備

（１）観点ごとの分析

観点８－１－①：　学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され、適切な安全管理の下に有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化や環境面への配慮がなされているか。

（観点に係る状況）　校地には、二つの体育館、運動場、テニスコート、野球場、武道場、プールなどの運動施設をはじめ、一般教室棟、一般文科・理科棟、各専門学科棟、専攻科棟などの校舎があり、それぞれに教室や実験室が整備されている（資料８－１－①－１）。具体的には、一般教室棟に１年生及び２年生用の固定教室が１０教室あり（資料８－１－①－２～資料８－１－①－４）、１年生及び２年生の授業は、原則的にこれらの教室で行われている。一般文科・理科棟には物理関連実験室、化学関連実験室、一般文科・理科の教員室があり（資料８－１－①－５～資料８－１－①－６）、物理や化学の実験が行われている。機械・材料工学科棟には、機械工学科関連実験室、演習室や材料工学科関連実験室と機械工学科、材料工学科の教員室があり（資料８－１－①－７～資料８－１－①－８）、機械工学科と材料工学科の演習、実験及び授業が行われている。電気電子・制御情報工学科棟には、電気電子工学科教員室及び関連の実験室並びに制御情報工学科教員室及び関連の実験室があり（資料８－１－①－９～資料８－１－①－１０）、電気電子工学科及び制御情報工学科の学生実験などが行われている。専門教室棟には、４講義室及び１階に生物応用化学科の実験室があり（資料８－１－①－１１）、制御情報工学科やその他の学科の授業及び生物応用化学科の実験が行われている。生物応用化学科棟には、生物応用化学科教員室、実験室及び２講義室があり（資料８－１－①－１２～資料８－１－①－１３）、生物応用化学科の授業や実験が行われている。制御情報工学科棟には、制御情報工学科の教員室と関連実験室があり（資料８－１－①－１４）、授業と実験に使用されている。

その他、各学科実験実習棟（資料８－１－①－１５～資料８－１－①－２１）では、学生実験や卒業研究、専攻科の研究などが行われている。また、機械工作工場（資料８－１－①－２２）では、他に類を見ない旋盤、ＮＣ旋盤などの工作機械・装置が配置されており、これまで歯車の研究において卓越した成果を上げてきた。これを背景に機械工学科ばかりでなく他学科の機械工作実習が行われている。

各学科実験実習棟は、本年度改修が行われ、最新の設備を備えたものづくりセンターとして使用される予定である（資料８－１－①－２３～資料８－１－①－２４）。専攻科棟には、３講義室、演習室、ゼミ室、実験室などがあり（資料８－１－①－２５）、専攻科の授業、演習、研究に使用されている。図書館の１階は、閲覧室、AVルーム及びホールを備えた図書館となっており、２階には第１・第２IT演習室、マルチメディア教室、PC学習室及び多目的室などがある。図書館の東側部分は、書庫となっており、多数の書籍・学術雑誌を所蔵している（資料８－１－①－２６）。定員２４０名の学生寮は校内にあり、希望する学生が入寮することができる（資料８－１－①－２７～資料８－１－①－３１）。一般教室棟の全教室、機械・材料工学科棟、電気電子・制御情報工学科棟、生物応用化学科棟、専門教室棟、専攻科棟及び図書館等の各教室（資料８－１－①－１～資料８－１－①－３、資料８－１－①－７～資料８－１－①－１３、資料８－１－①－２５、資料８－１－①－２６、資料８－１－①－３２～資料８－１－①－３４）には、液晶プロジェクターが整備され、ビデオやパソコンを使った授業などに活用されている。

以上の教室の面積及び収容者数を、資料８－１－①－３５に示す。また、建物以外の主要設備は、

資料に示すとおりである（資料８－１－①－３６）。

以上のように、教育課程を実現するのに十分な施設・設備が整備されており、各施設・設備とも授業や実習に有効に活用されている。

（分析結果とその根拠理由）　高等専門学校として必要な施設は全部整っており、現在教育の目的を達成するために欠けているものはない。また、各教室、実験室、体育館、運動場、図書館、学生寮など、どの施設についても有効に活用されている。

観点８－１－②：　教育内容、方法や学生のニーズを満たすＩＣＴ環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。

（観点に係る状況）　校内ＬＡＮの情報コンセントが、一般教室棟、一般文科・理科棟、各専門学科棟、専攻科棟などのほとんどの部屋及び図書館、学生寮などの施設にも設置されており、パソコンがあれば、校内の多くの場所において、校内ＬＡＮ及びインターネットにアクセスできる情報ネットワークが構築されている（資料８－１－②－１）。また、メールウィルスチェックとファイアウォールにより、セキュリティを確保するシステムとなっており（資料８－１－②－１）、その運用は総合情報センターで行っている。

この情報ネットワークを利用して、学生は、久留米高専通信、シラバス、時間割、就職・進学情報など、ホームページからの閲覧やレポート提出、教員への質問を行える環境となっている（資料８－１－②－２）。一方教員は、この情報ネットワークを用いて、授業や卒業研究などでＣＡＤ・ＣＡＥなどのアプリケーションソフトを学生とともに使用したり（資料８－１－②－３）、学生にレポート課題を出したり、質問に対する回答、連絡などをメールで行っている。また、文献検索システムもこの情報ネットワークを利用して教員室、実験室などから容易に行うことができ、卒業研究などに大いに利用されている（資料８－１－②－４）。さらに、情報ネットワークの使用に必要な情報倫理教育は、全学科で行われている（資料８－１－②－５）。

（分析結果とその根拠理由）　校内の多くの場所に情報コンセントが設置されているので、パソコンがあれば簡単に校内情報ネットワークやインターネットにアクセスができる環境にあり、教員、学生とも多岐にわたり、有効に活用されている。また、情報ネットワークは、十分なセキュリティ管理のもとに適切に運用されている。

観点８－２－①：　図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

（観点に係る状況）　本校の歴史は長く、図書館には、学生の学習用図書から教員の研究用雑誌まで、７万冊以上の蔵書（資料８－２－①－１）と１，１００点を超える視聴覚資料を有しており、書庫には学術文献も多数所蔵している。平日は９時から２０時まで、土曜日は９時から１７時まで利用できるので（資料８－２－①－２）、学生や教員が活発に利用している（資料８－２－①－３）。図書の検索は電子化され、容易に検索できるシステムとなっている（資料８－２－①－４）。さらに、外国語文献を含む広範囲な文献を対象とした文献検索及び複写サービスが完備しているので、文献も容易に入手することができる（資料８－１－②－４）。

購入する書籍については、各学科の教員からの推薦図書・雑誌、学生からの希望図書などを対象

に、図書館長、図書館長補、図書主幹、各学科から選出された教員、教務・学生・専攻科主事補及び学生課長から構成される図書委員会において審議される（資料８－２－①－５）。また、学生図書委員との懇談会、図書館入り口へのリクエストボックスの設置及びブックハンティング（１０名程度の学生を募って書店に行き、その場で学生に書籍を選定させる。）などを実施して、学生の要望を直接汲み上げる配慮をしている（資料８－２－①－６）。図書の購入実績を資料８－２－①－７に示す。さらに、現代の科学技術の急速な進展に対応するため、長岡技術科学大学と高専図書館とのコンソーシアムに積極的に参加して、各種の電子的資料の入手が可能な手段を導入している（資料８－２－①－８）。なお、本校の図書館は平成２４年度に全館改修を実施し、より利用しやすい環境を整えた。

以上のように、本校の図書館は、必要な図書・学術雑誌及びシステムが十分に整っており、また運営面でも様々な工夫がなされている。

（分析結果とその根拠理由）　蔵書などは、十分整っている。図書などの購入は教員からの推薦、学生からの希望に基づき、図書委員会で審議し、決定している。また、現代の科学技術の急速な進展に対応するため、図書館コンソーシアムなどの電子ネットワークの活用を進めている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）　本校は、７０年余りの長い歴史を有しており、施設・設備は全般的に整っている。特に本校の特筆すべき研究分野である機械加工技術に関連する機械工作実習工場は、全国的に見ても優れた施設である。また、図書館の蔵書・文献なども高等専門学校としては充実している。さらに、早くから導入した情報ネットワークも十分な機能を有しており、有効に活用されている。

（改善を要する点）　該当なし。

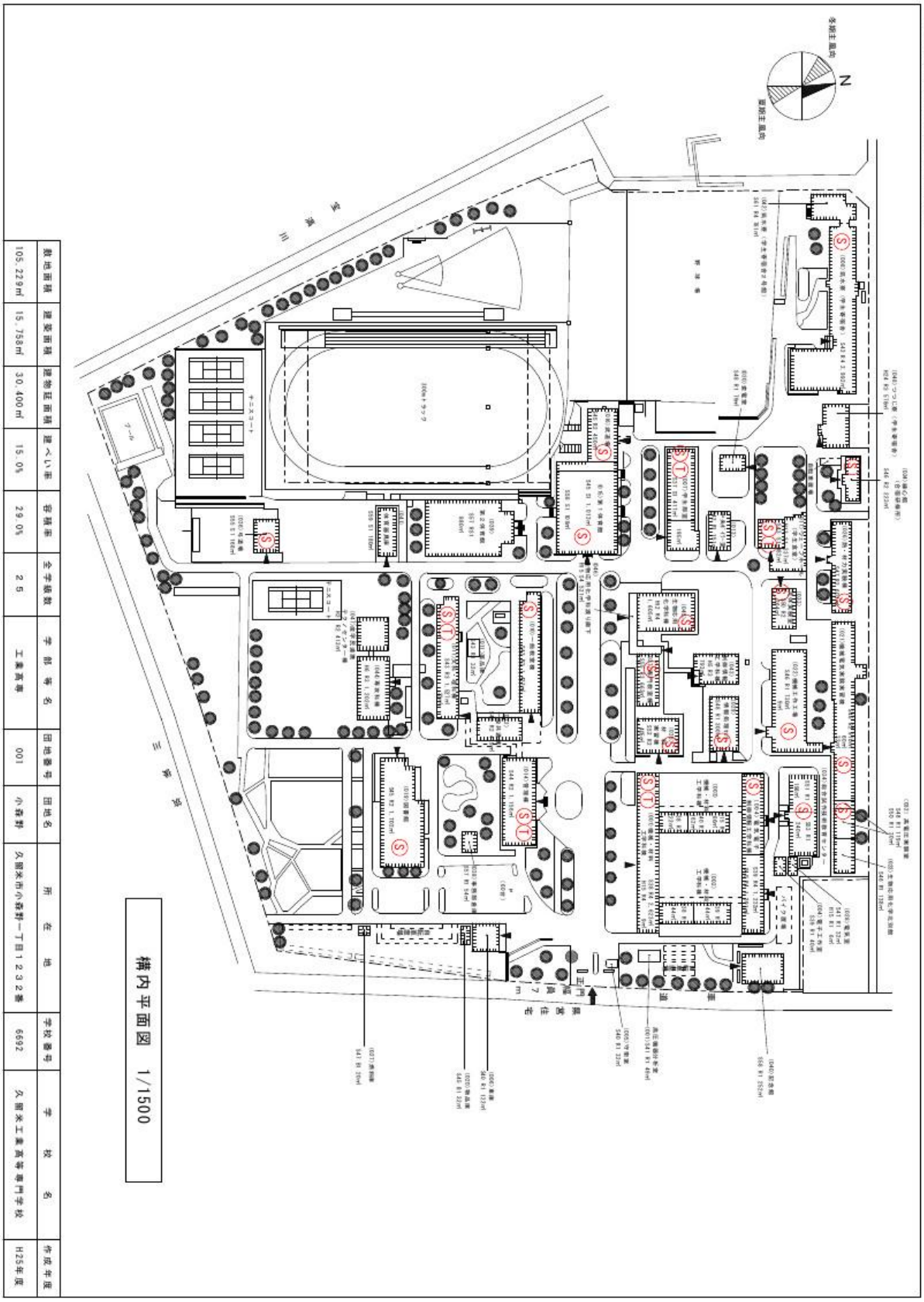
（３）基準８の自己評価の概要

一般教室棟、一般文科・理科棟、各専門学科棟、専攻科棟、実習工場、図書館、学生寮などの施設が設置されおり、教育課程を実現するのに必要十分な施設・設備が整備されている。特に、学生が十分に旋盤などの機械加工実習ができる機械工作実習工場は、全国の高等教育機関においても、ここまで充実した施設は少なく、特に優れた施設である。さらに、校内ＬＡＮの情報コンセントが、一般文科・理科棟、各専門学科棟、専攻科棟などの教室ばかりでなく、図書館や学生寮などにも設置されており、学生は各自のパソコンを使用して、必要な情報収集が行える環境を整えている。教員も情報コンセントやプロジェクターを利用し、講義・実験などの授業において学生の理解を助ける目的で利用している。

図書館には、学生の学習用図書から教員の研究用雑誌まで、７万冊以上の蔵書と１，１００点を超える視聴覚資料を有している。さらに、図書館コンソーシアムに積極的に参加し、外国語文献を含む広範囲な文献を対象とした文献検索及び複写サービスを完備している。図書の購入に当たっては、教員からの推薦及び学生からの希望を審議した上で購入しており、学生からのニーズにも十分対応できる体制を整えている。

資料８－１－①－１
国立大学法人等施設実態調査（様式２）

構内平面図



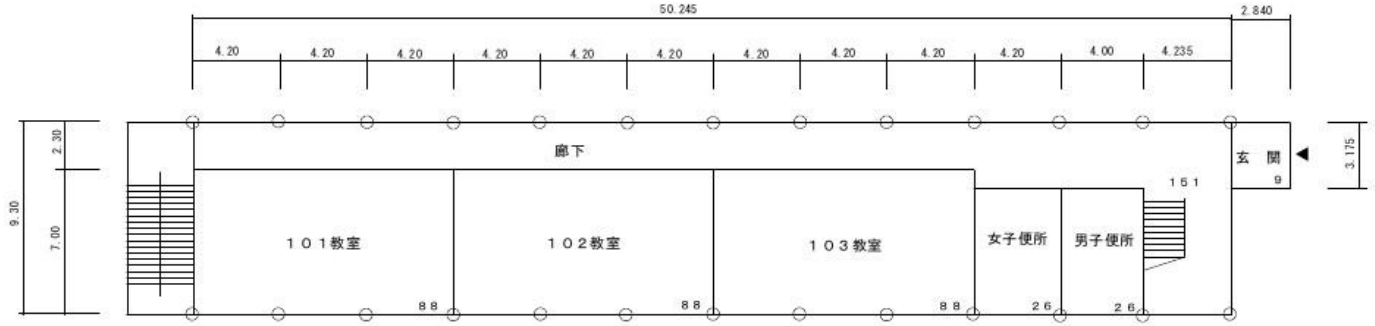
敷地面積	建築面積	延べ面積	建ぺい率	容積率	全学級数	学部等名	団地番号	団地名	所在地	学校番号	学校名	作成年度
105,229㎡	15,758㎡	30,400㎡	15.0%	29.0%	25	工業高専	001	小森野	久留米市小森野一丁目１２３２番	6692	久留米工業高等専門学校	H25年度

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－２
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

一般教室棟平面図（１階）

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
6692	久留米工業高等専門学校	001	小森野	010



０１０

１　階　　Ｓ＝１／３００　　床面積　４７６㎡

N

棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	面積区分 名称	面積区分 色区分	面積
一般教室棟	Ｓ４３	Ｒ３	３１	高専教育・研究施設		１，４３７㎡

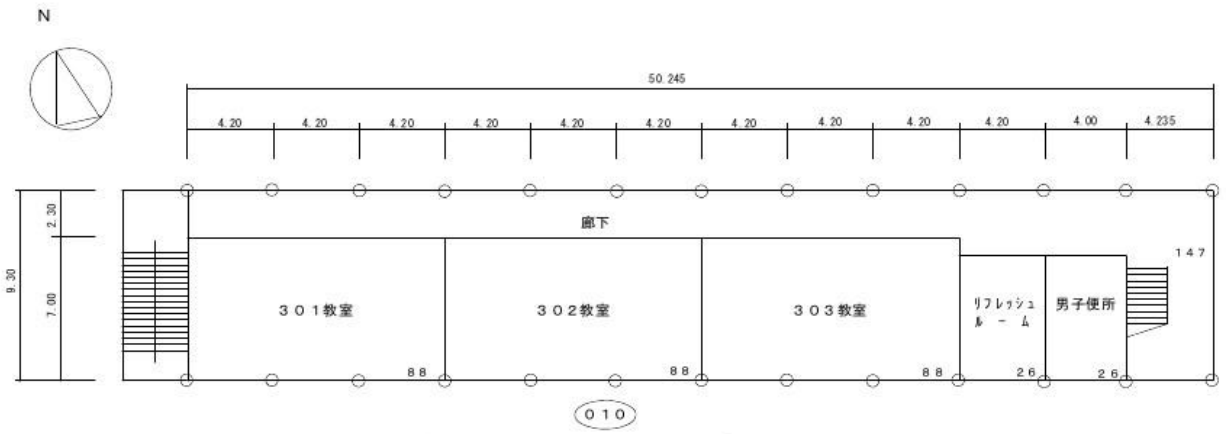
整理番号　３－１－１３

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

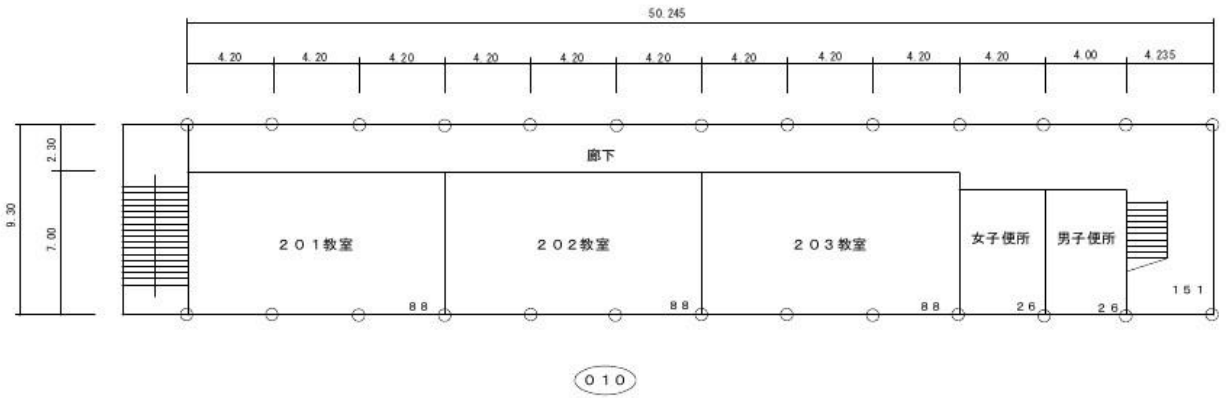
資料８－１－①－３
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

一般教室棟平面図（２・３階）

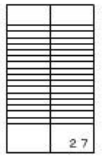
学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
6692	久留米工業高等専門学校	001	小森野	010



３　階　　Ｓ＝１／３００　　床面積　４６７㎡



２　階　　Ｓ＝１／３００　　床面積　４６７㎡



塔　屋　　Ｓ＝１／３００
床面積　２７㎡

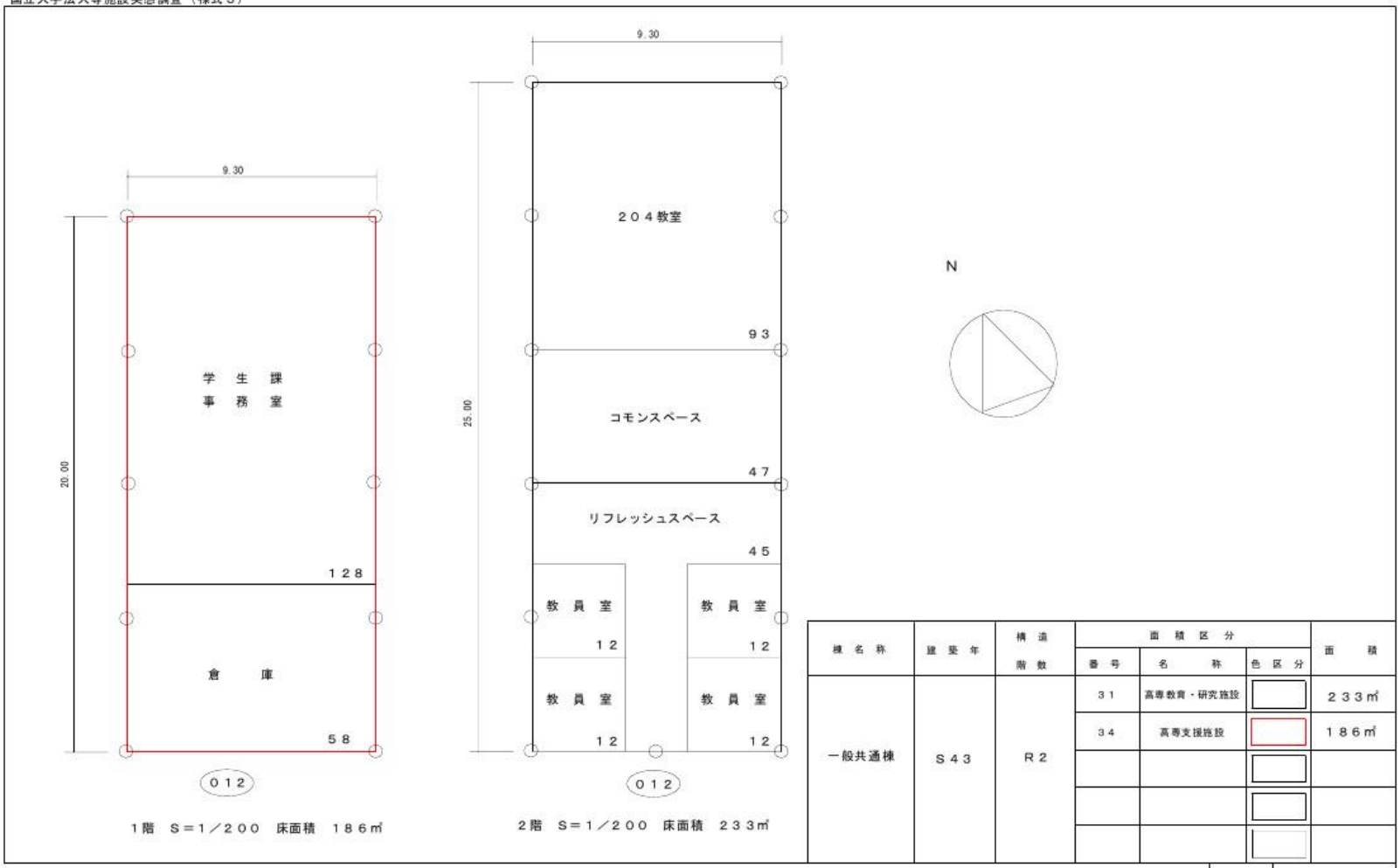
整理番号	３ － １ － １４

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－４
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

一般共通棟平面図

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
６６９２	久留米工業高等専門学校	００１	小森野	０１２



棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	名称	色区分	面積
一般共通棟	S43	R2	31	高専教育・研究施設		233㎡
			34	高専支援施設		186㎡

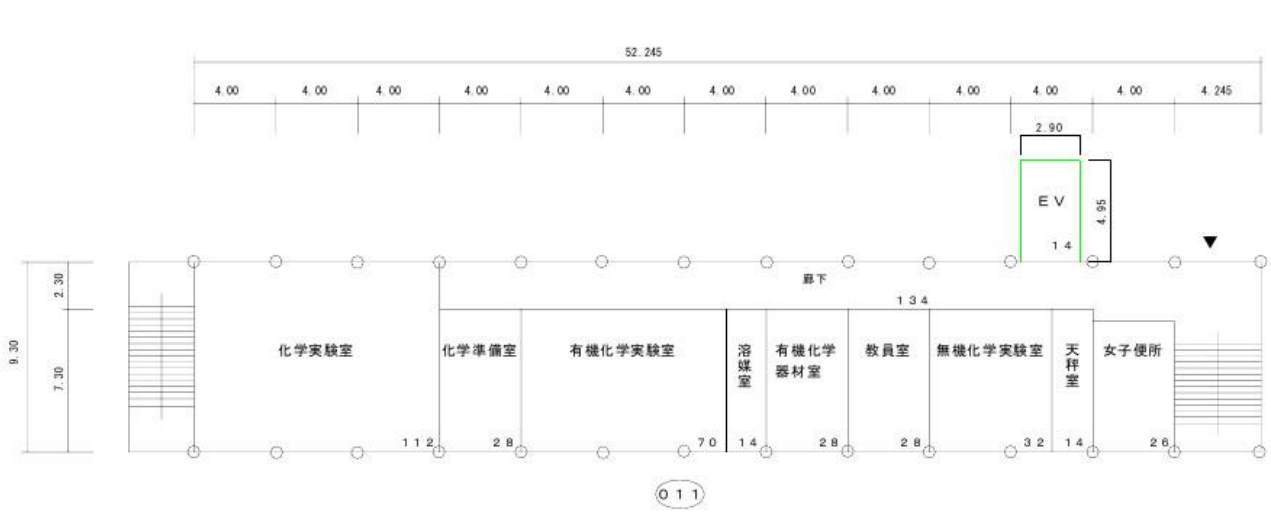
整理番号	３－１－１７

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－５
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

一般文科・理科棟平面図（１階）

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
６６９２	久留米工業高等専門学校	００１	小森野	０１１



１　階　　Ｓ＝１／３００　　床面積　５００㎡



１　階　　Ｓ＝１／３００　　床面積　３２㎡

棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	面積区分 名称	面積区分 色区分	面積
文科・理科棟	Ｓ４３	Ｒ３	３１	高専教育・研究施設		１，４８４㎡
	Ｓ４３	Ｒ１	３１	高専教育・研究施設		３２㎡
	Ｈ１４	Ｒ３	３１	高専教育・研究施設		４３㎡

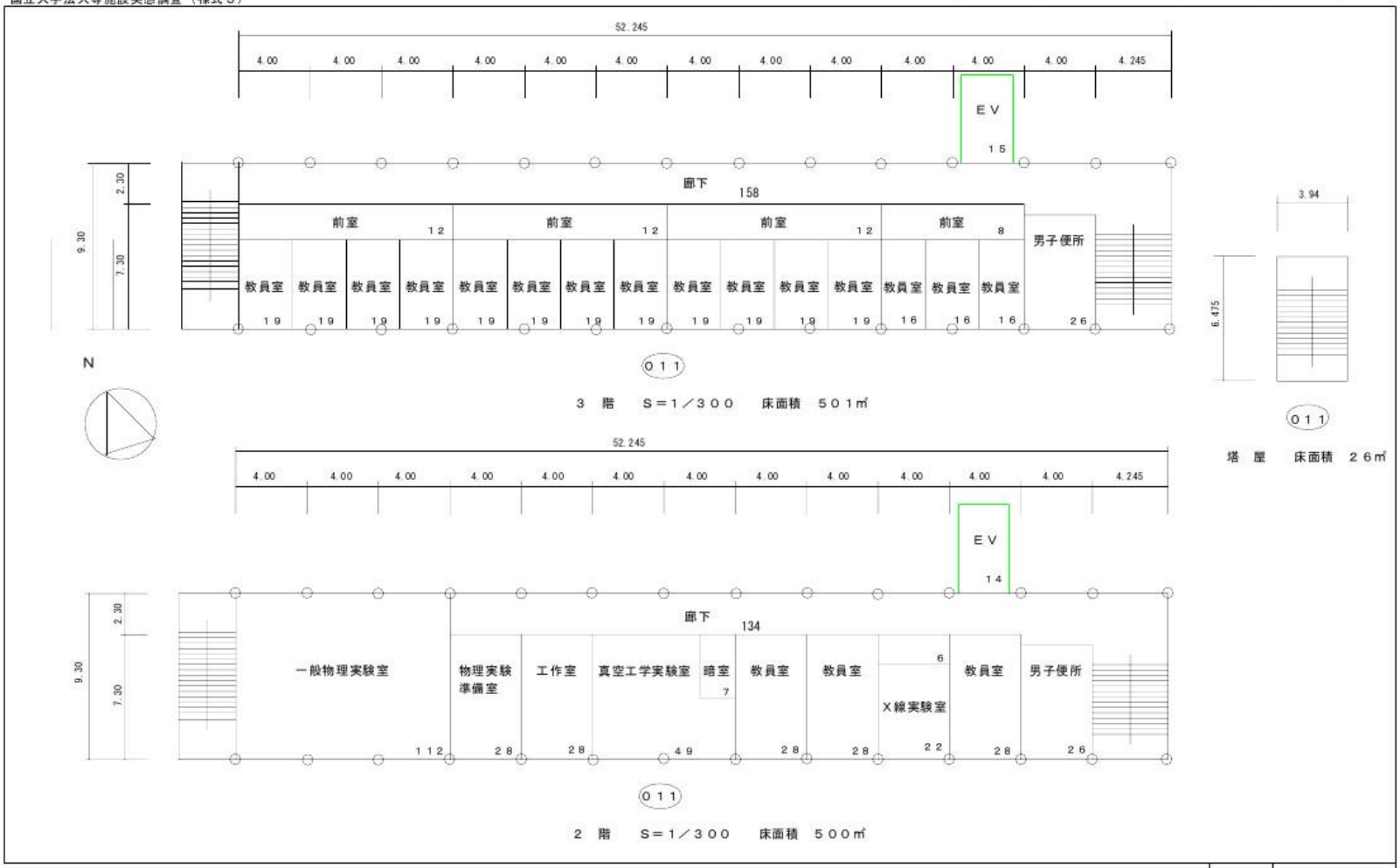
整理番号	３　－　１　－　１５

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－６
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

一般文科・理科棟平面図（２・３階）

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
６６９２	久留米工業高等専門学校	００１	小森野	０１１



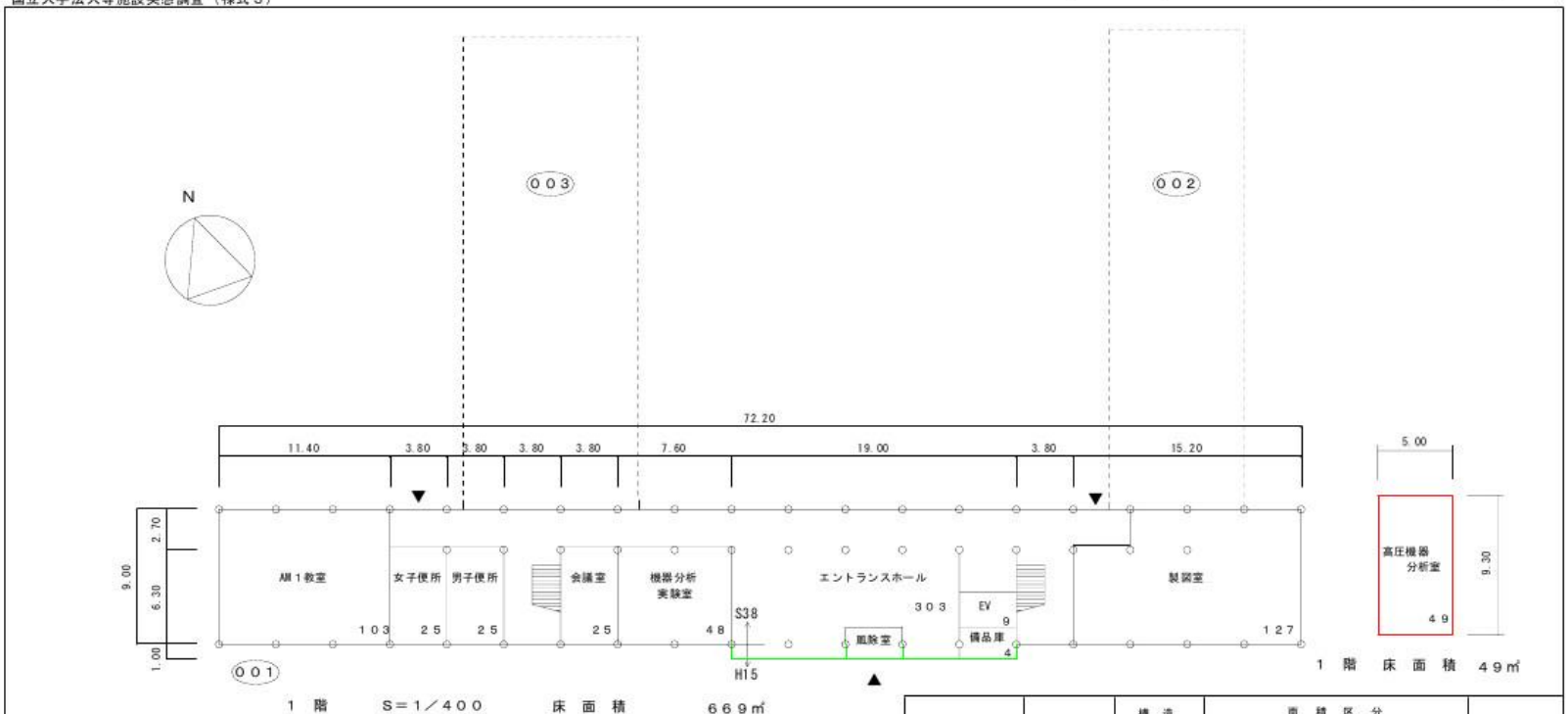
整理番号	３ － １ －１６

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－７
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

機械・材料工学科棟平面図（１階）

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
６６９２	久留米工業高等専門学校	００１	小森野	００１



棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	面積区分 名称	面積区分 色区分	面積
機械・材料工学科棟	Ｓ３８	Ｒ４	３１	高専教育・研究施設		２，６２３㎡
	Ｓ４１	Ｒ１	３１	高専教育・研究施設		４９㎡
	Ｈ１５	Ｒ１	３１	高専教育・研究施設		１９㎡

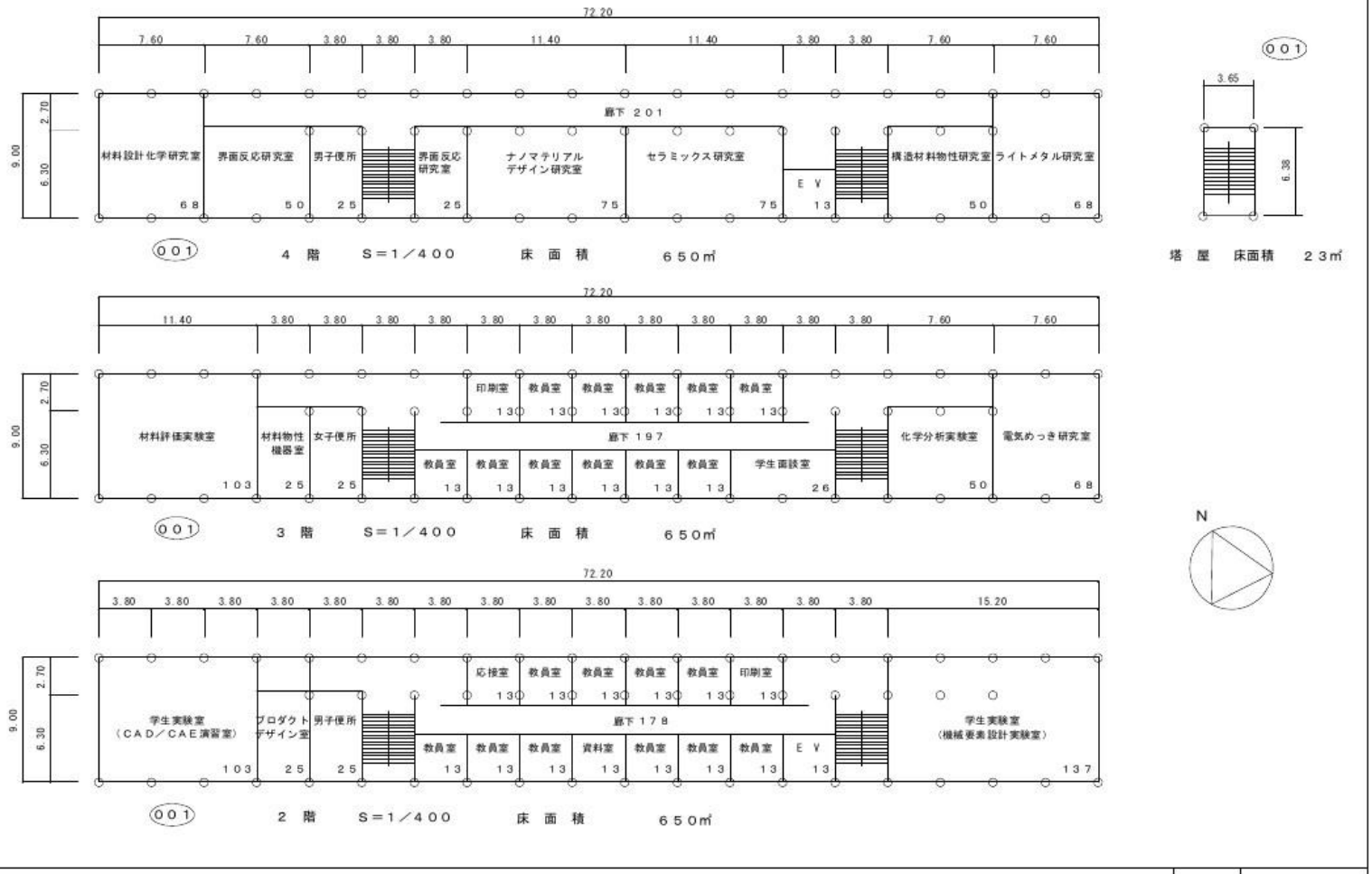
整理番号	３－１－１

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－８
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

機械・材料工学科棟平面図（２～４階）

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
6692	久留米工業高等専門学校	001	小森野	001



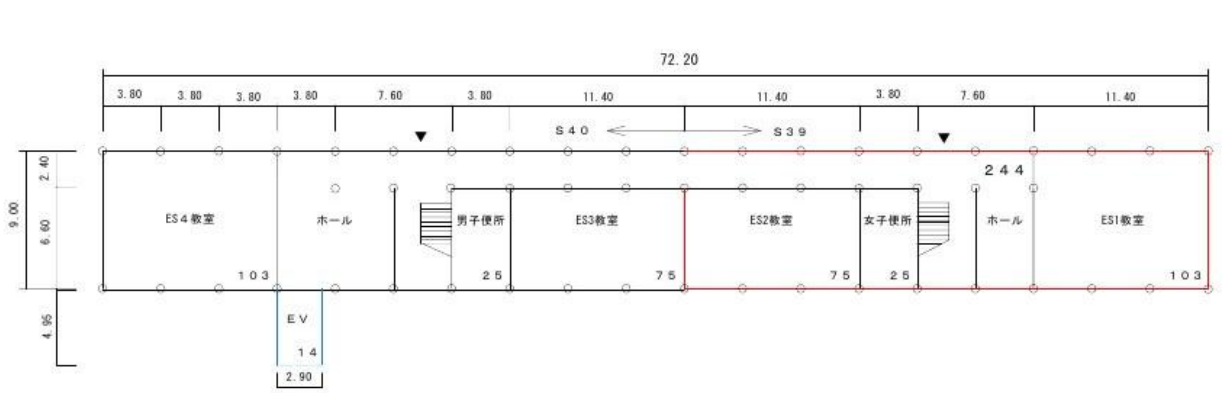
整理番号	3 － 1 － 2

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

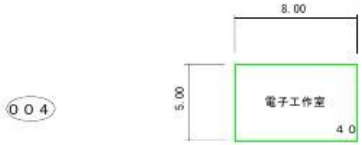
資料８－１－①－９
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

電気電子・制御情報工学科棟平面図（１階）

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
6692	久留米工業高等専門学校	001	小森野	004



004　１階　S＝1／400　床面積　S39　308㎡
S40　342㎡
H14　14㎡
計　664㎡



004　１階　S＝1／400　床面積　40㎡

棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	面積区分 名称	面積区分 色区分	面積
電気電子・制御情報工学科棟	S39	R4	31	高専教育・研究施設		1，232㎡
	S39	R1	31	高専教育・研究施設		40㎡
	S40	R4	31	高専教育・研究施設		1，391㎡
	H14	R4	31	高専教育・研究施設		57㎡

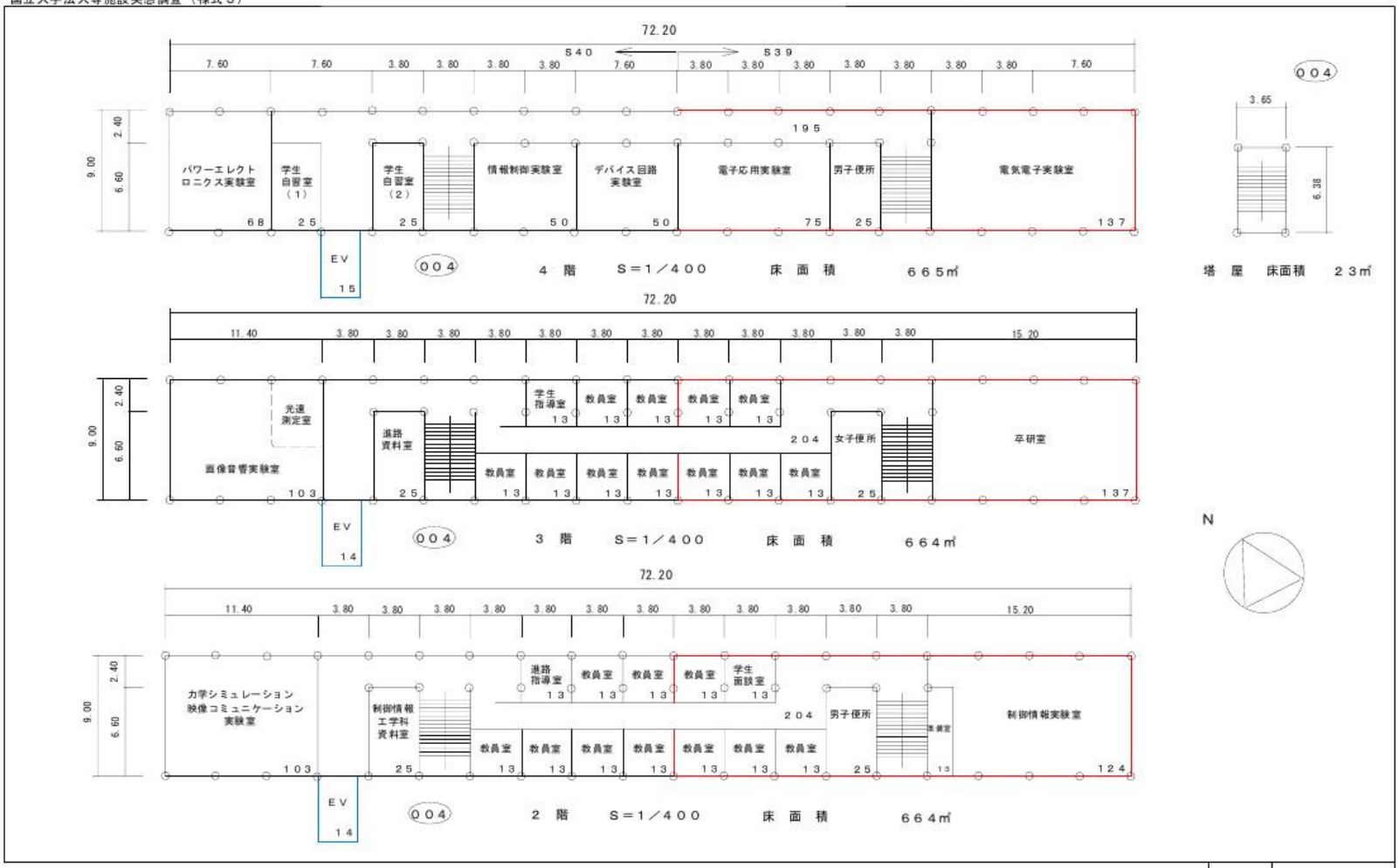
整理番号　3－1－5

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－１０
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

電気電子・制御情報工学科棟平面図（２～４階）

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
６６９２	久留米工業高等専門学校	００１	小森野	００４



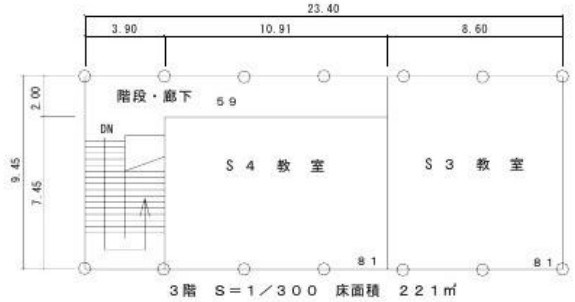
整理番号	３－１－６

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－１１
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

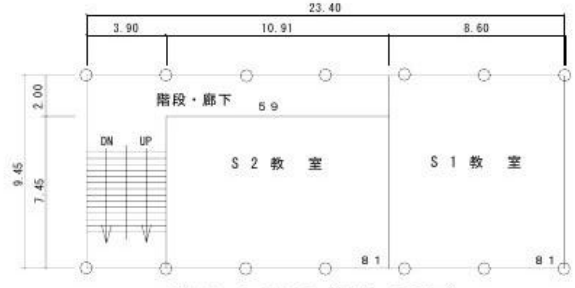
専門教室棟平面図

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
６６９２	久留米工業高等専門学校	００１	小森野	０３７



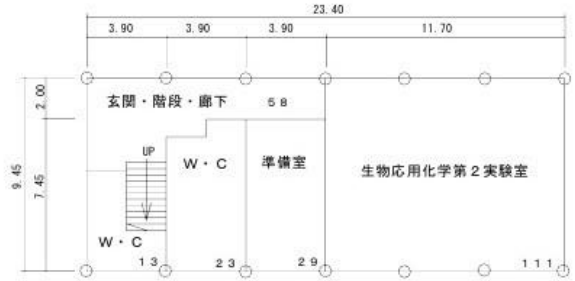
037

3階　S＝1／300　床面積　２２１㎡



037

2階　S＝1／300　床面積　２２１㎡



037

1階　S＝1／300　床面積　２２１㎡

N

棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	面積区分 名称	面積区分 色区分	面積
専門教室棟	S５５	R３	３１	高専教育・研究施設		６６３㎡

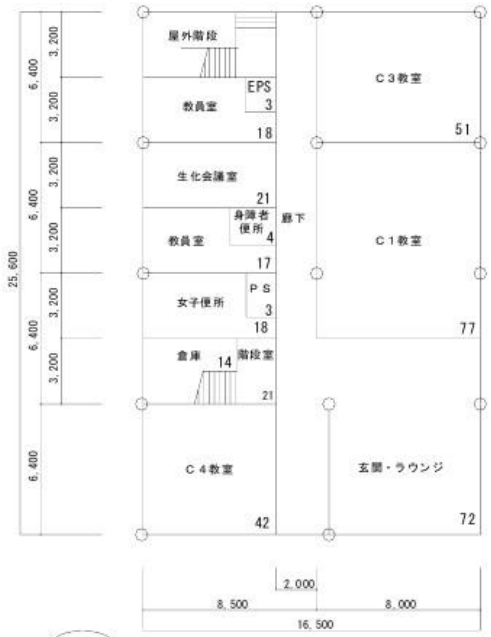
整理番号　３－１－３９

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－１２
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

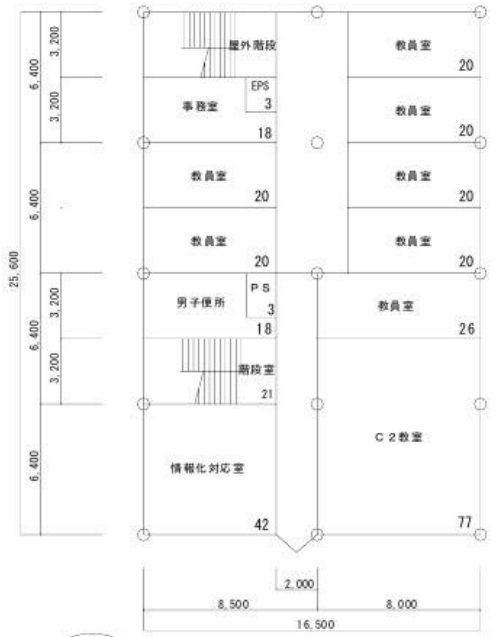
生物応用化学科棟平面図（１・２階）

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
６６９２	久留米工業高等専門学校	００１	小森野	０４５



０４５

１階　平面図　S=1/300　床面積　378㎡



０４５

２階　平面図　S=1/300　床面積　402㎡

N

棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	面積区分 名称	面積区分 色区分	面積
生物応用化学科棟	Ｈ１２	Ｒ４	３１	高専教育・研究施設		１，６０５㎡

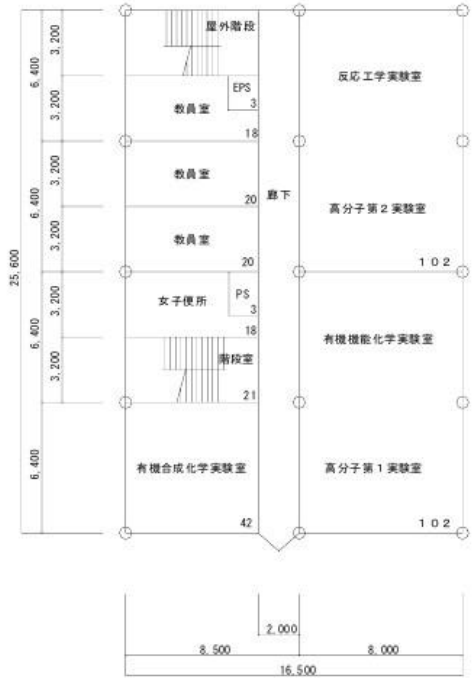
整理番号	３－１－４８

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－１３
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

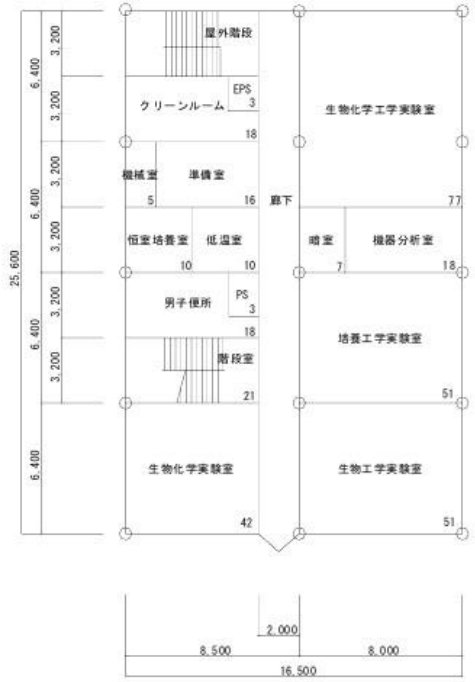
生物応用化学科棟平面図（３・４階）

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
６６９２	久留米工業高等専門学校	００１	小森野	０４５



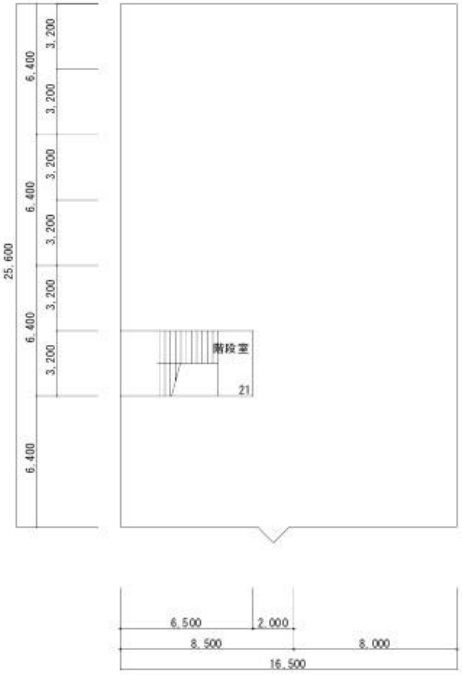
３階　平面図　S=1/300　床面積　402㎡

０４５



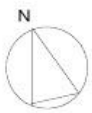
４階　平面図　S=1/300　床面積　402㎡

０４５



R階　平面図　S=1/300　床面積　21㎡

０４５



整理番号	３－１－４９

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－１４
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

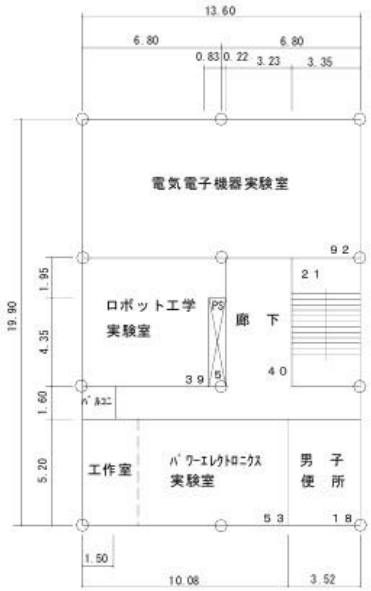
制御情報工学科棟平面図

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
６６９２	久留米工業高等専門学校	００１	小森野	０４３



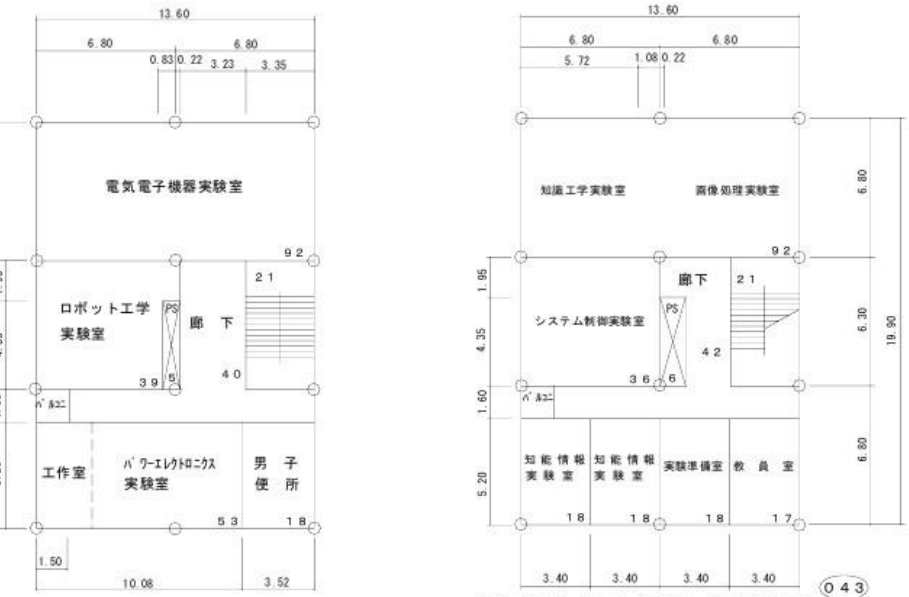
043

1階　平面図　S＝1／300　床面積　257㎡



2階　平面図　S＝1／300　床面積　268㎡

043



3階　平面図　S＝1／300　床面積268㎡

043

N

棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	面積区分 名称	面積区分 色区分	面積
制御情報工学科棟	H５	R３	３１	高専教育・研究施設		７９３㎡

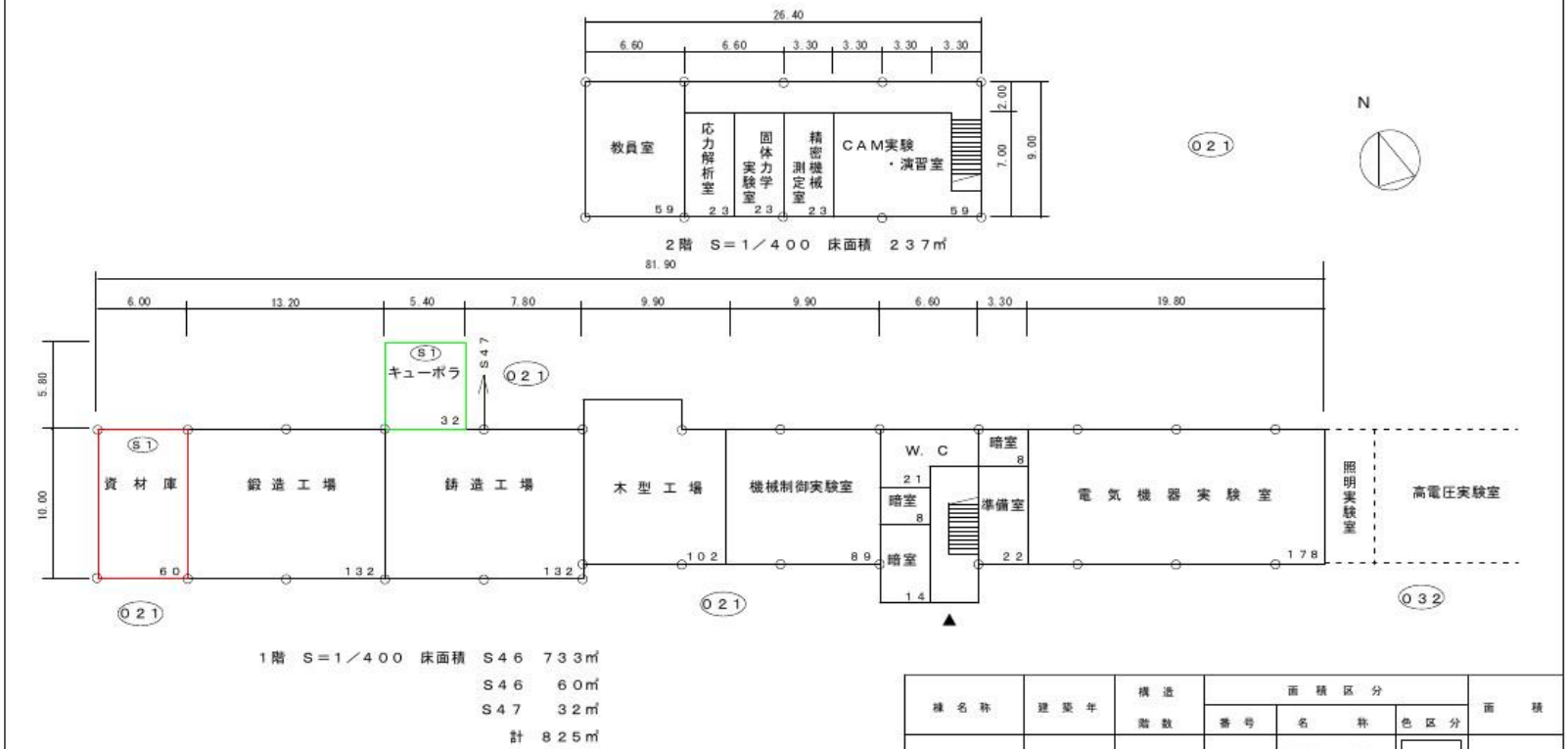
整理番号	３－１－４６

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－１５
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

機械電気実験棟平面図

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
6692	久留米工業高等専門学校	001	小森野	021



棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	面積区分 名称	面積区分 色区分	面積
機械電気実験実習棟	S46	R2	31	高専教育・研究施設		970㎡
	S46	S1	31	高専教育・研究施設		60㎡
	S47	S1	31	高専教育・研究施設		32㎡

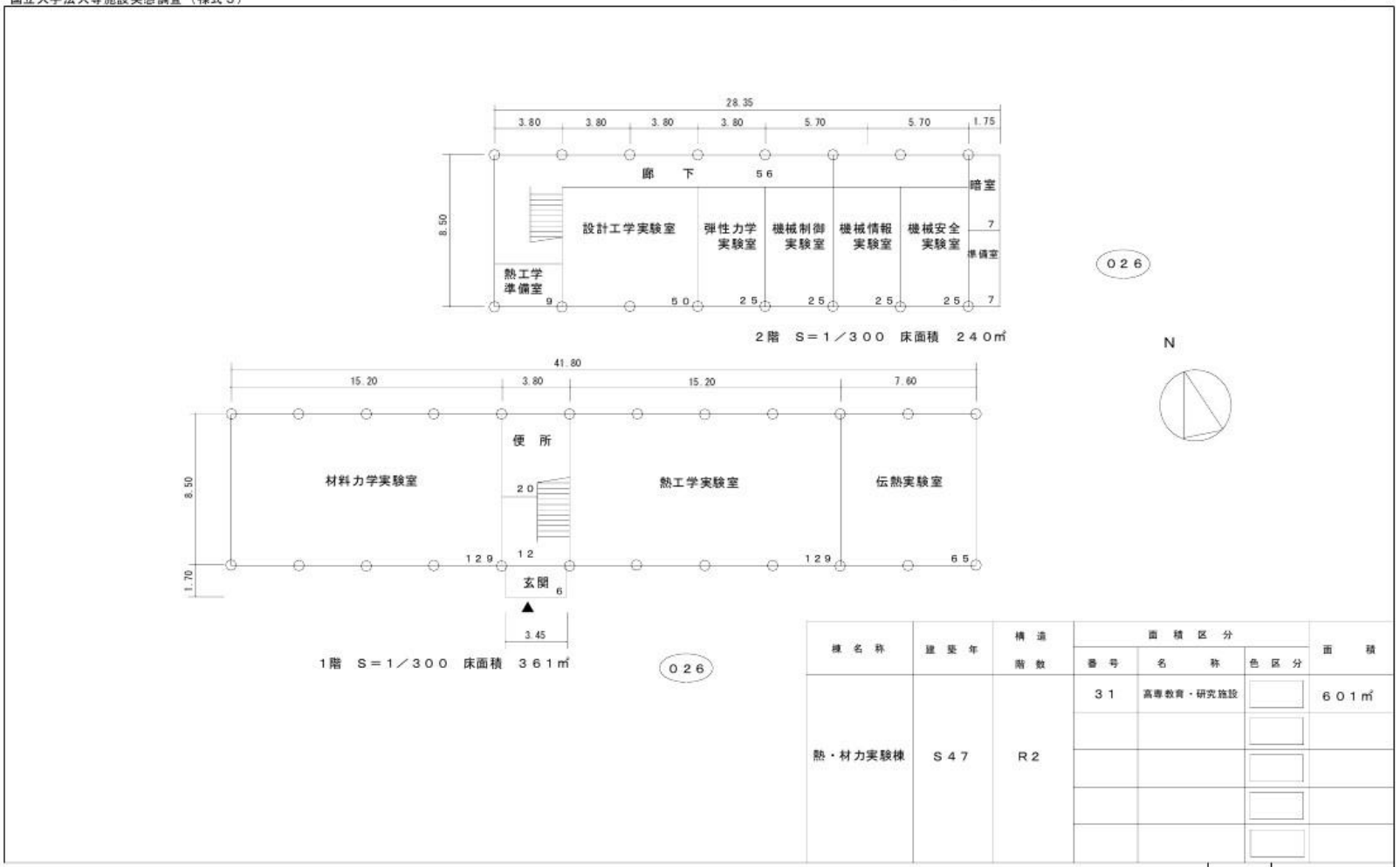
整理番号　3 － 1 － 25

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－１６
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

熱・材力実験棟平面図

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
6692	久留米工業高等専門学校	001	小森野	026



棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	面積区分 名称	面積区分 色区分	面積
熱・材力実験棟	S47	R2	31	高専教育・研究施設		601㎡

整理番号	3 － 1 － 29

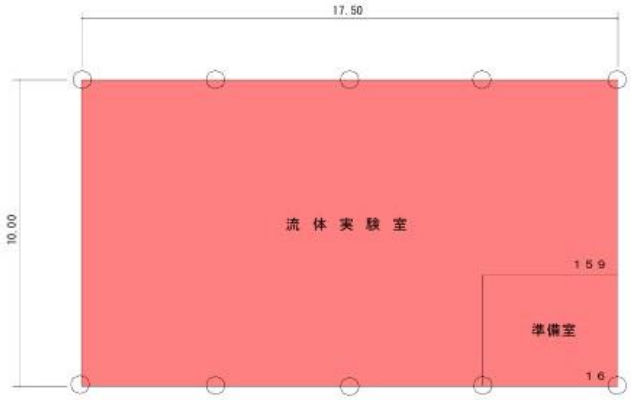
出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－１７
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

流体実験室平面図

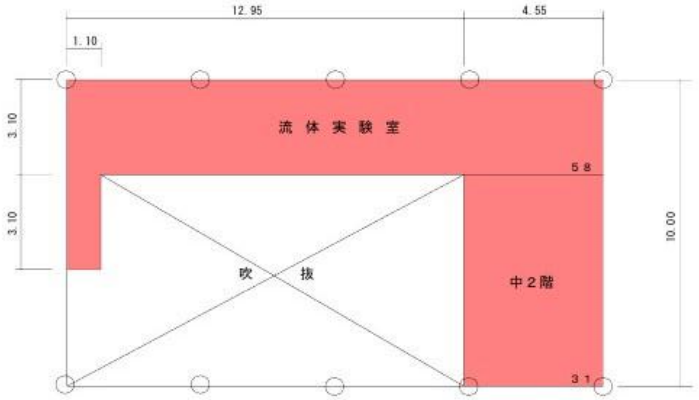
学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
６６９２	久留米工業高等専門学校	００１	小森野	０３３

3-1
水理・水力実験施設　175㎡



１階　S＝1／200　床面積　１７５㎡　（０３３）

3-1
水理・水力実験施設　89㎡



中２階　S＝1／200　床面積　８９㎡　（０３３）

N

加算面積区分　3-1　264㎡

棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	面積区分 名称	面積区分 色区分	面積
流体実験室	Ｓ４９	Ｒ２	３１	高専教育・研究施設		２６４㎡

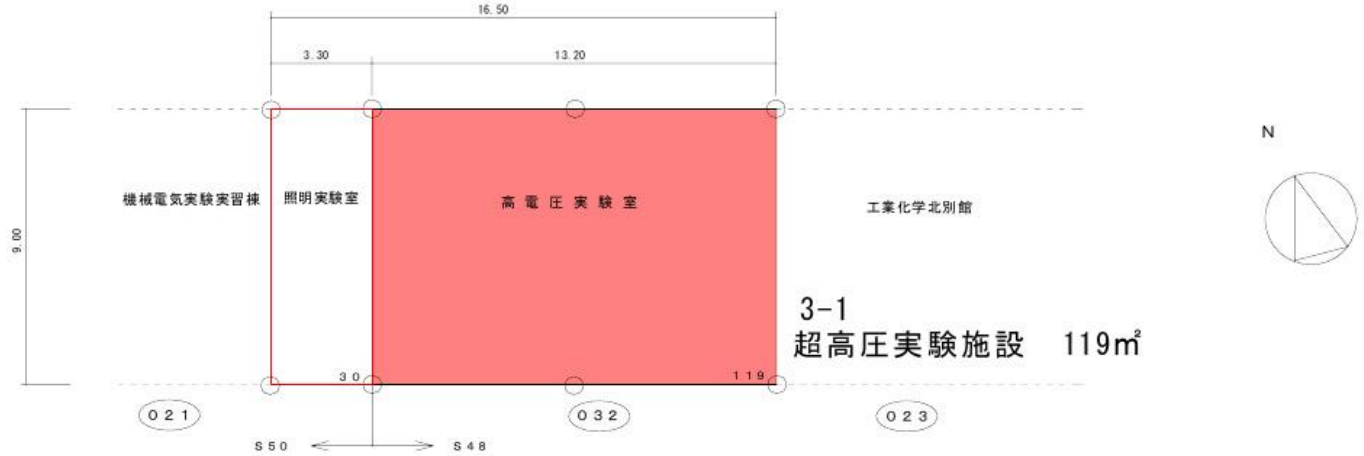
整理番号　３－１－３５

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－１８
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

高電圧実験室平面図

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
６６９２	久留米工業高等専門学校	００１	小森野	０３２



高電圧実験室　S＝1／200　床面積　S４８　１１９㎡
S５０　３０㎡
計　１４９㎡

加算面積区分　3-1　119㎡

棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	面積区分 名称	面積区分 色区分	面積
高電圧実験室	S４８	R１	３１	高専教育・研究施設		１１９㎡
	S５０	R１	３１	高専教育・研究施設		３０㎡

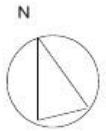
整理番号　３－１－３４

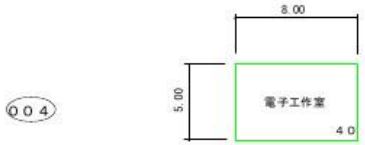
出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－１９
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

電気工作室平面図

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
6692	久留米工業高等専門学校	001	小森野	004





１　階　　S＝1／４００　床　面　積　４０㎡

棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	面積区分 名称	面積区分 色区分	面積
電気電子・制御情報工学科棟	S３９	R４	３１	高専教育・研究施設		１，２３２㎡
	S３９	R１	３１	高専教育・研究施設		４０㎡
	S４０	R４	３１	高専教育・研究施設		１，３９１㎡
	H１４	R４	３１	高専教育・研究施設		５７㎡

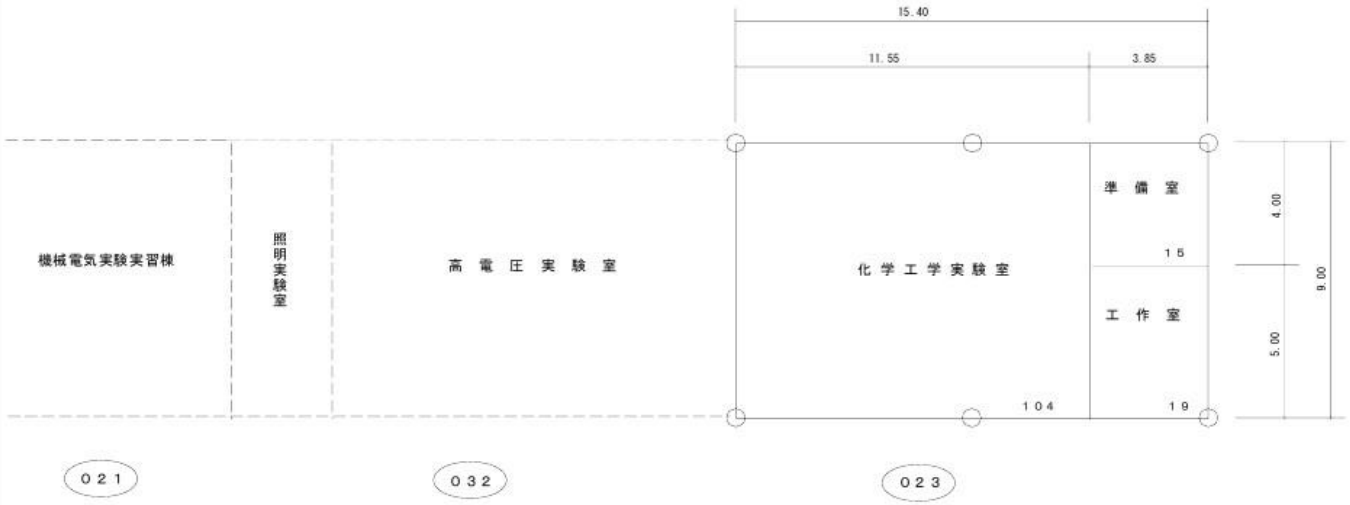
整理番号	３－１－５

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－２０
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

生物応用化学北別館平面図

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
６６９２	久留米工業高等専門学校	００１	小森野	０２３



生物応用化学北別館　S＝1／３００　床面積　１３８㎡

棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	面積区分 名称	面積区分 色区分	面積
生物応用化学北別館	S４６	R１	３１	高専教育・研究施設		１３８㎡

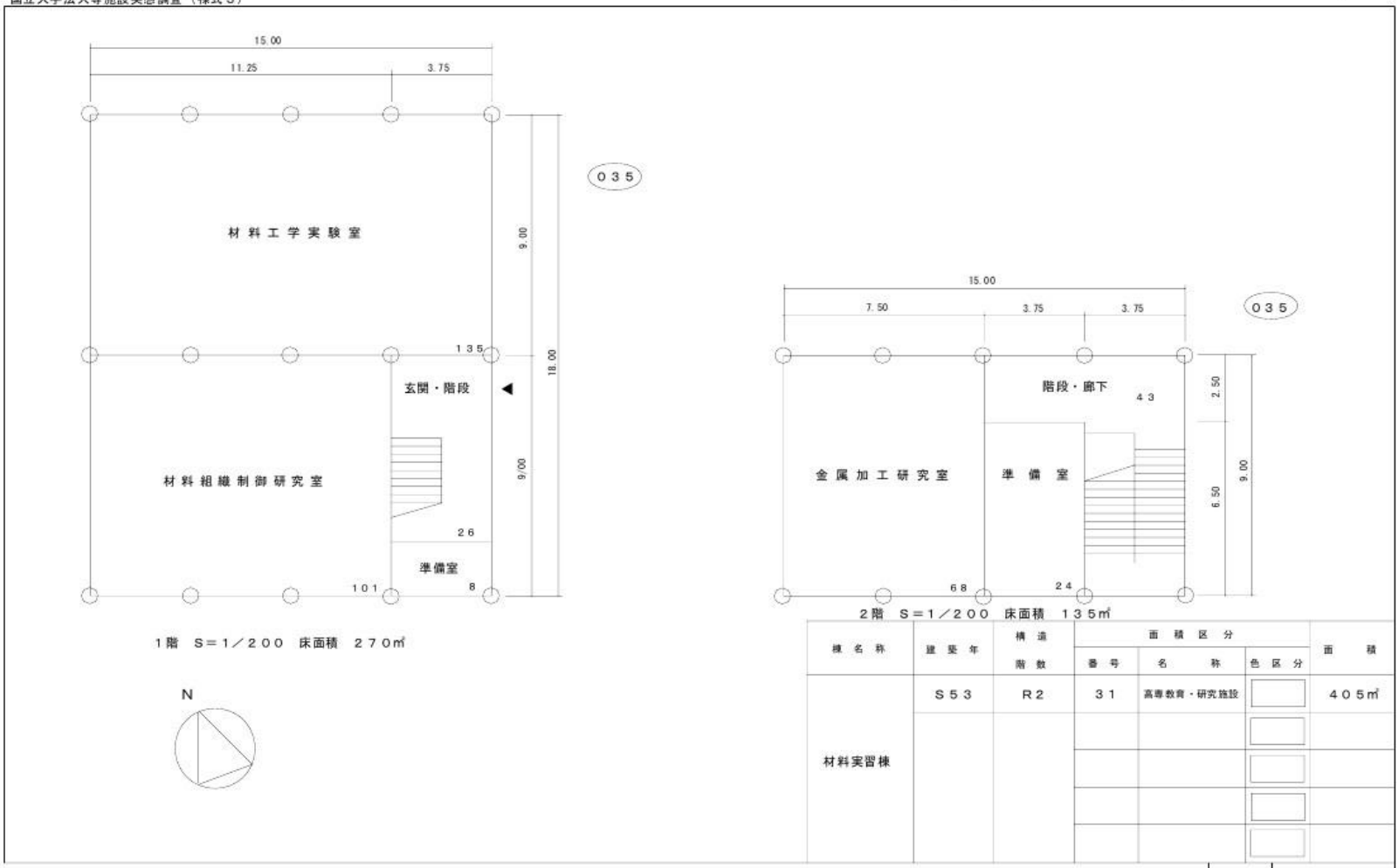
整理番号	３－１－２７

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－２１
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

材料実習棟平面図

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
６６９２	久留米工業高等専門学校	００１	小森野	０３５



１階　S＝１／２００　床面積　２７０㎡

２階　S＝１／２００　床面積　１３５㎡

棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	面積区分 名称	面積区分 色区分	面積
材料実習棟	Ｓ５３	Ｒ２	３１	高専教育・研究施設		４０５㎡

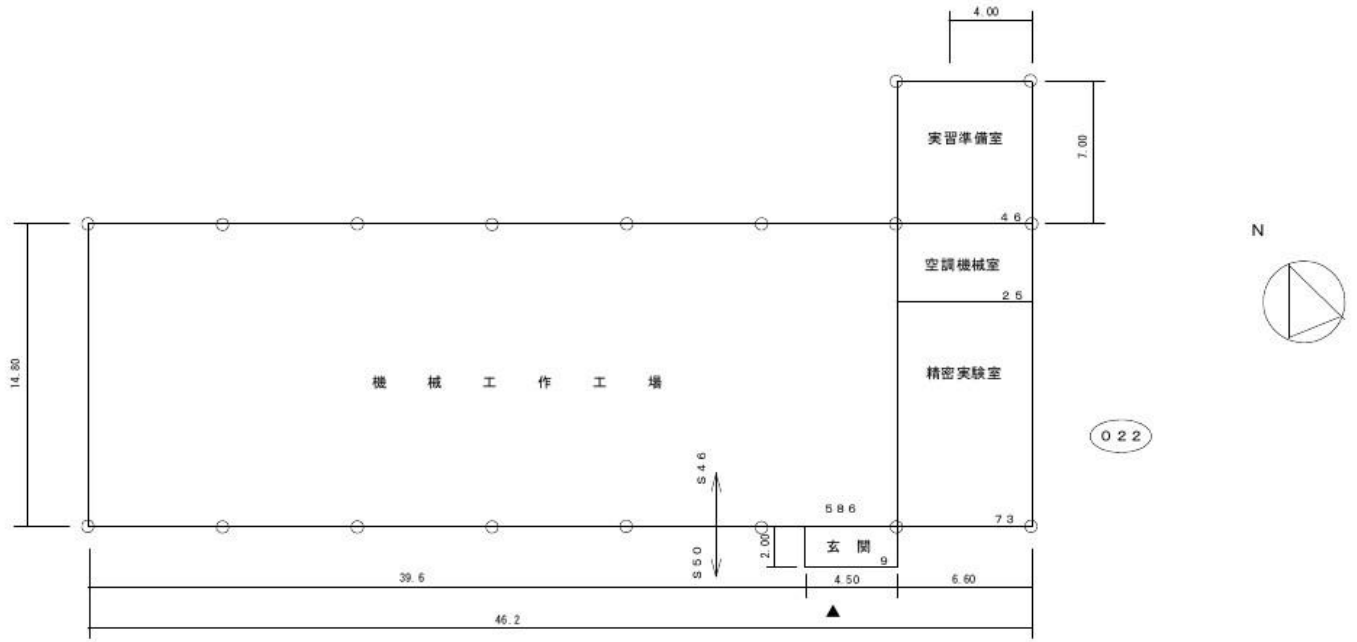
整理番号	３ － １ － ３７

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－２２
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

機械工作工場平面図

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
6692	久留米工業高等専門学校	001	小森野	022



機械工作工場　S＝1／300　床面積　S46　730㎡
S50　9㎡
計　739㎡

棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	面積区分 名称	面積区分 色区分	面積
機械工作工場	S46	R1	31	高専教育・研究施設		730㎡
	S50	R1	31	高専教育・研究施設		9㎡

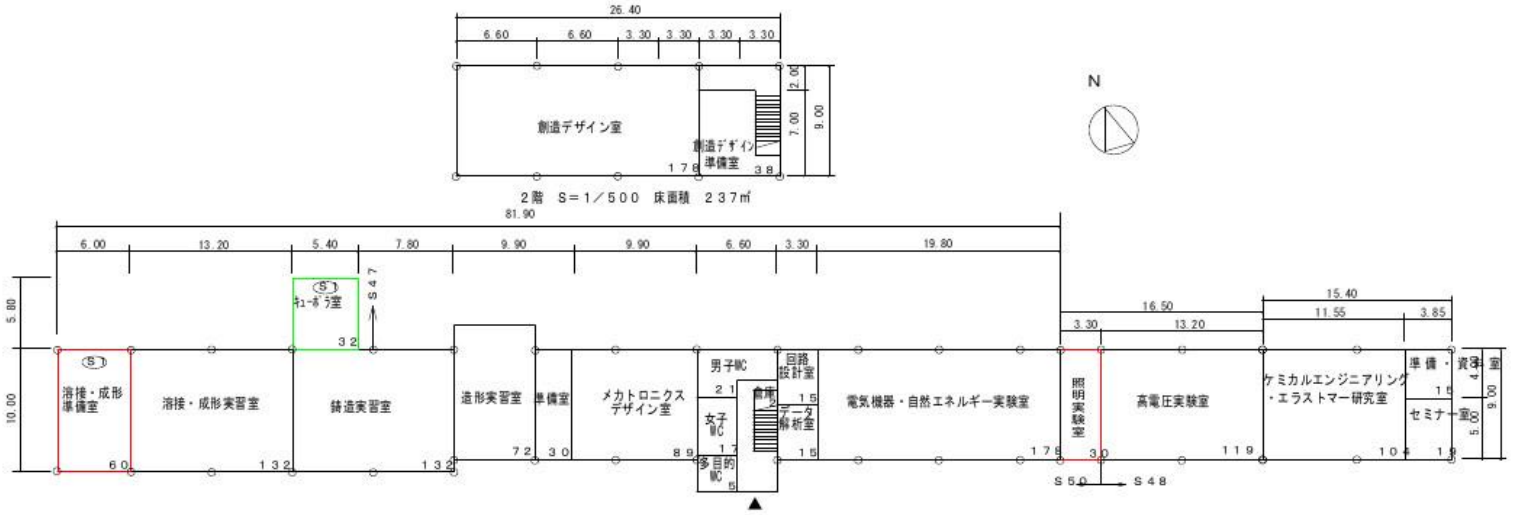
整理番号	3 － 1 － 26

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－２３
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

ものづくりセンター平面図

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
6692	久留米工業高等専門学校	001	小森野	021



棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	面積区分 名称	面積区分 色区分	面積
ものづくりセンター（仮称）	S46	R2	31	高専教育・研究施設		970㎡
	S46	S1	31	高専教育・研究施設		60㎡
	S47	S1	31	高専教育・研究施設		32㎡

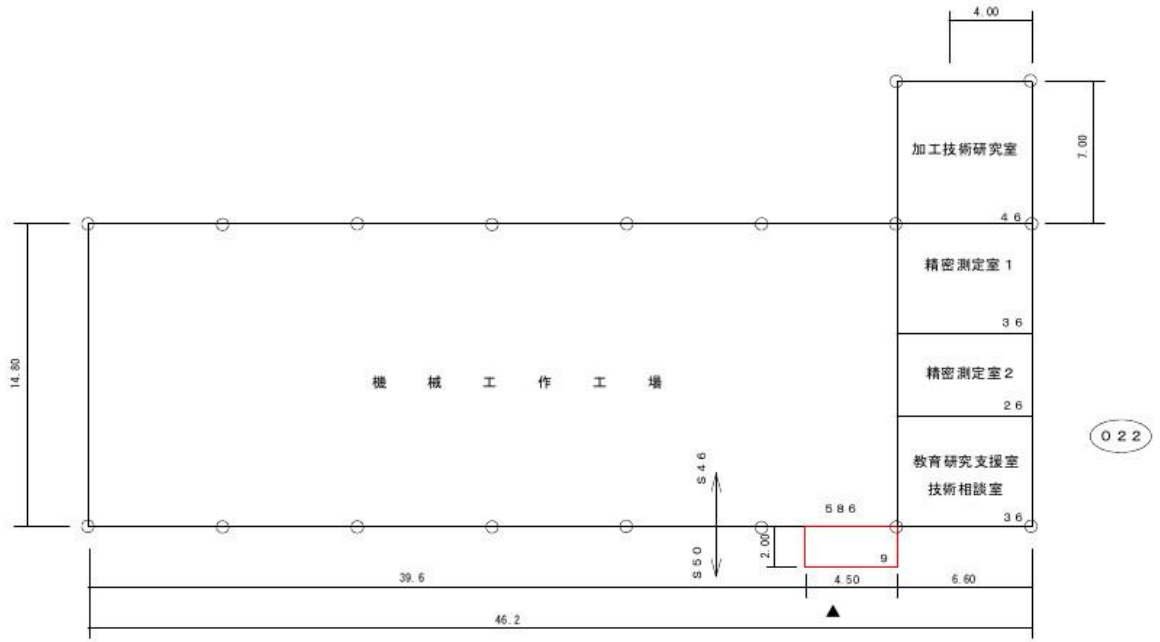
整理番号　3 － 1 － 25

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－２４
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

ものづくりセンター平面図

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
6692	久留米工業高等専門学校	001	小森野	022

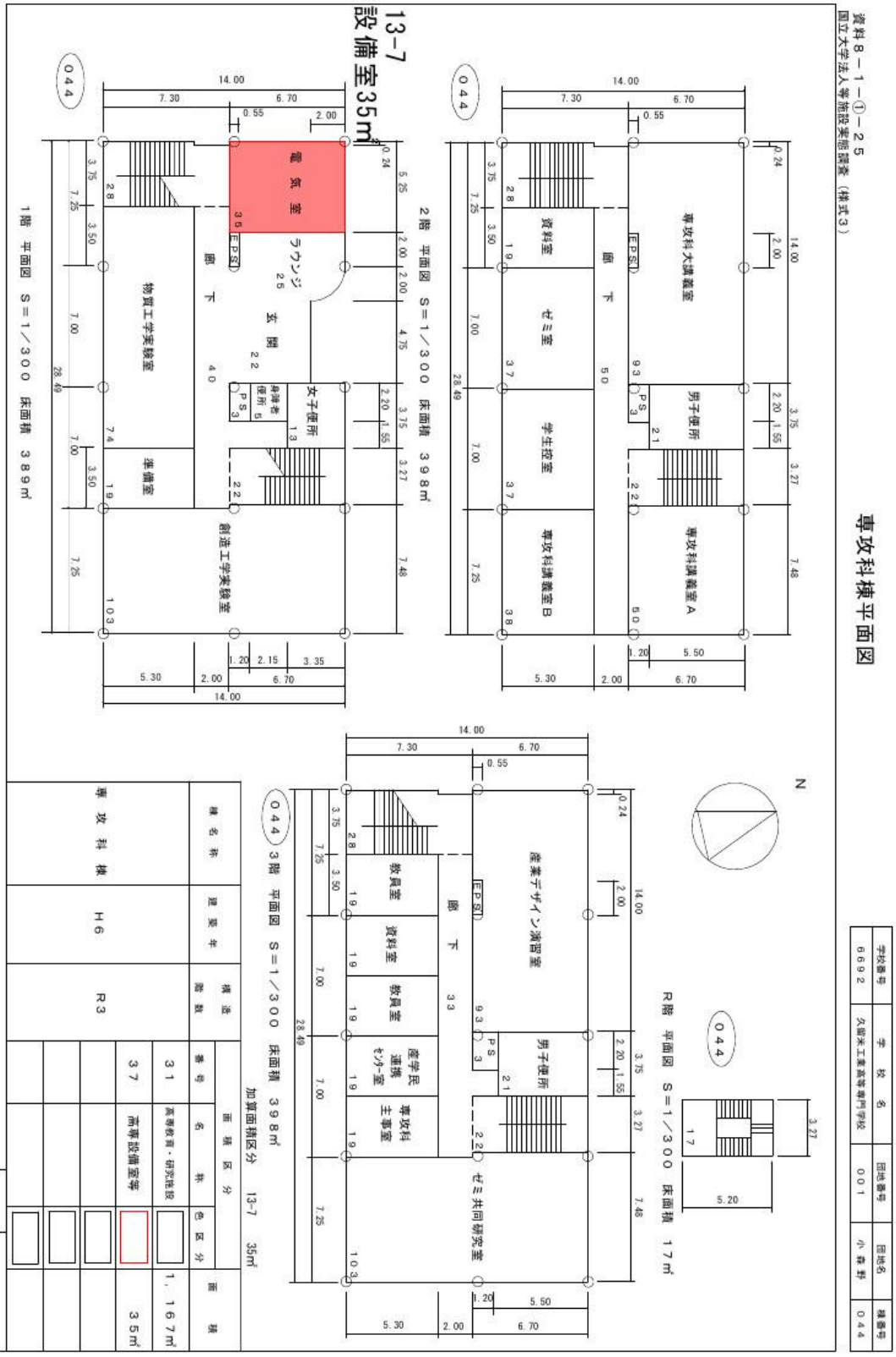


機械工作工場　S＝1／300　床面積　S46　730㎡
S50　9㎡
計　739㎡

棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	面積区分 名称	面積区分 色区分	面積
ものづくりセンター（仮称）	S46	R1	31	高専教育・研究施設		730㎡
	S50	R1	31	高専教育・研究施設		9㎡

整理番号	3 － 1 － 26

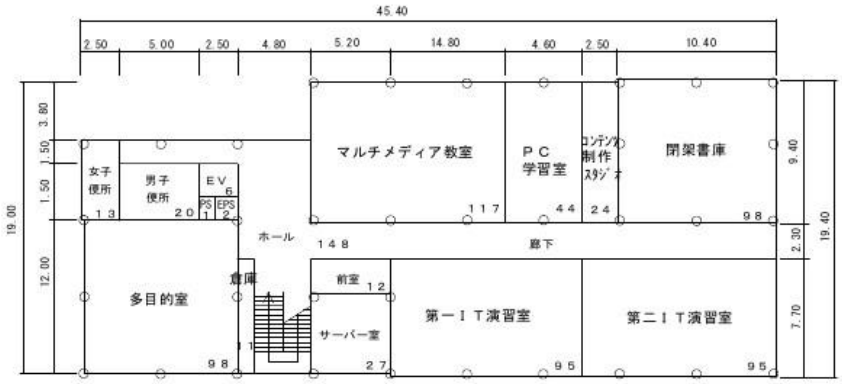
出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料


資料８－１－①－２５
国立大学法人等施設実態調査（様式３）
専攻科棟平面図
学校番号 6692
学校名 久留米工業高等専門学校
団地番号 001
団地名 小森野
棟番号 044
044
専攻科大講義室
資料室
ゼミ室
学生控室
専攻科講義室Ｂ
専攻科講義室Ａ
男子便所
廊下
ＥＰＳ
ＰＳ
2階 平面図 S＝1／300 床面積 398㎡
13-7
設備室35㎡
電気室
ラウンジ
玄関
女子便所
身障者便所
物質工学実験室
準備室
創造工学実験室
1階 平面図 S＝1／300 床面積 389㎡
R階 平面図 S＝1／300 床面積 17㎡
N
3階 平面図 S＝1／300 床面積 398㎡
産業デザイン演習室
教員室
産学民連携センター室
専攻科主事室
ゼミ共同研究室
加算面積区分 13-7 35㎡
棟名称 専攻科棟
建築年 H6
構造階数 R3
番号 名称 色区分 面積
31 高専教育・研究施設 1,167㎡
37 高専設備室等 35㎡
整理番号 3－1－47
出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

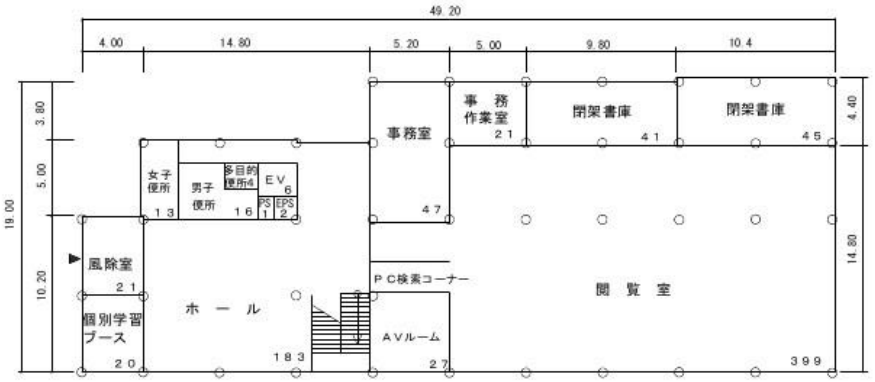
資料８－１－①－２６
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

図書館平面図

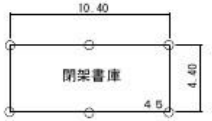
学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
6692	久留米工業高等専門学校	001	小森野	019



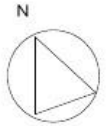
019　　２階　Ｓ＝１／４００　床面積　８１１㎡



019　　１階　Ｓ＝１／４００　床面積　８４６㎡



中２階　Ｓ＝１／４００　床面積　４５㎡



棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	面積区分 名称	面積区分 色区分	面積
図書館	S45	R2	32	高専図書館		1，702㎡

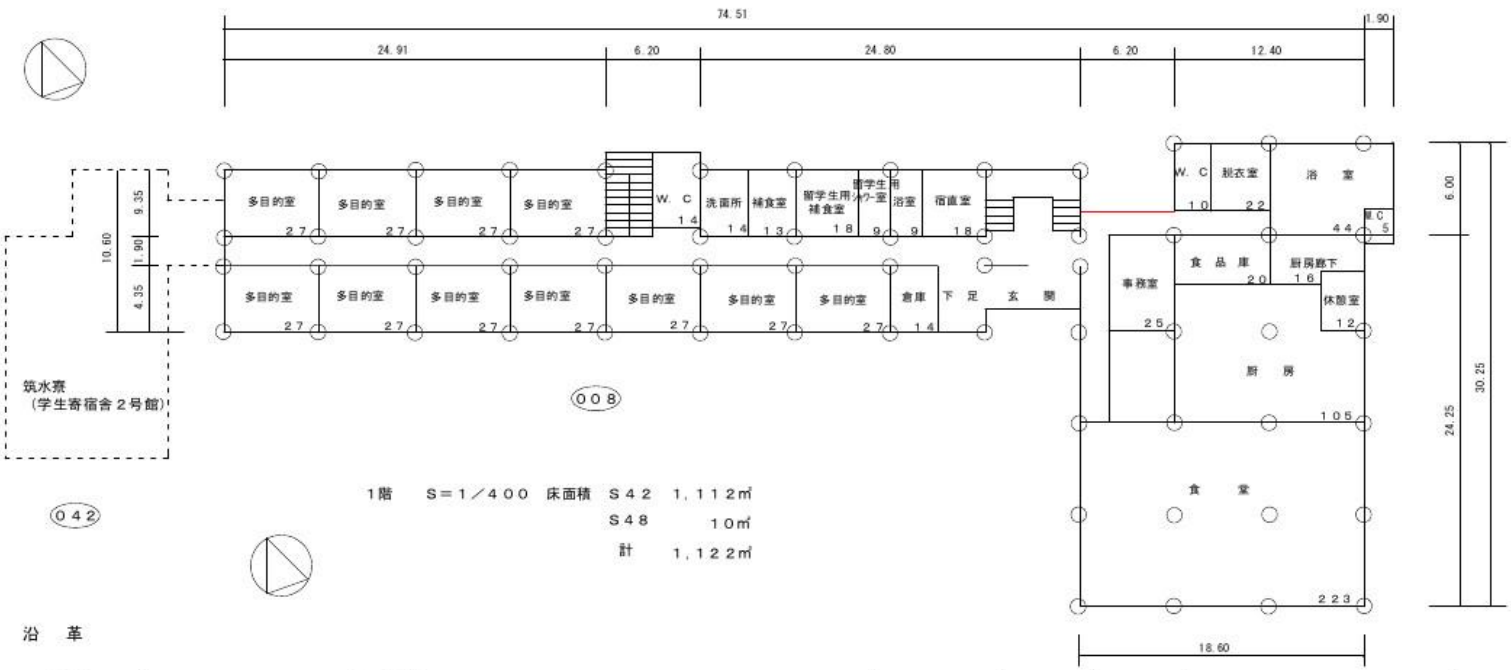
整理番号	3 － 1 － 23

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－２７
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

学生寮（筑水寮）平面図（１階）

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
6692	久留米工業高等専門学校	001	小森野	008



1階　S＝1／400　床面積　S42　1,112㎡
S48　10㎡
計　1,122㎡

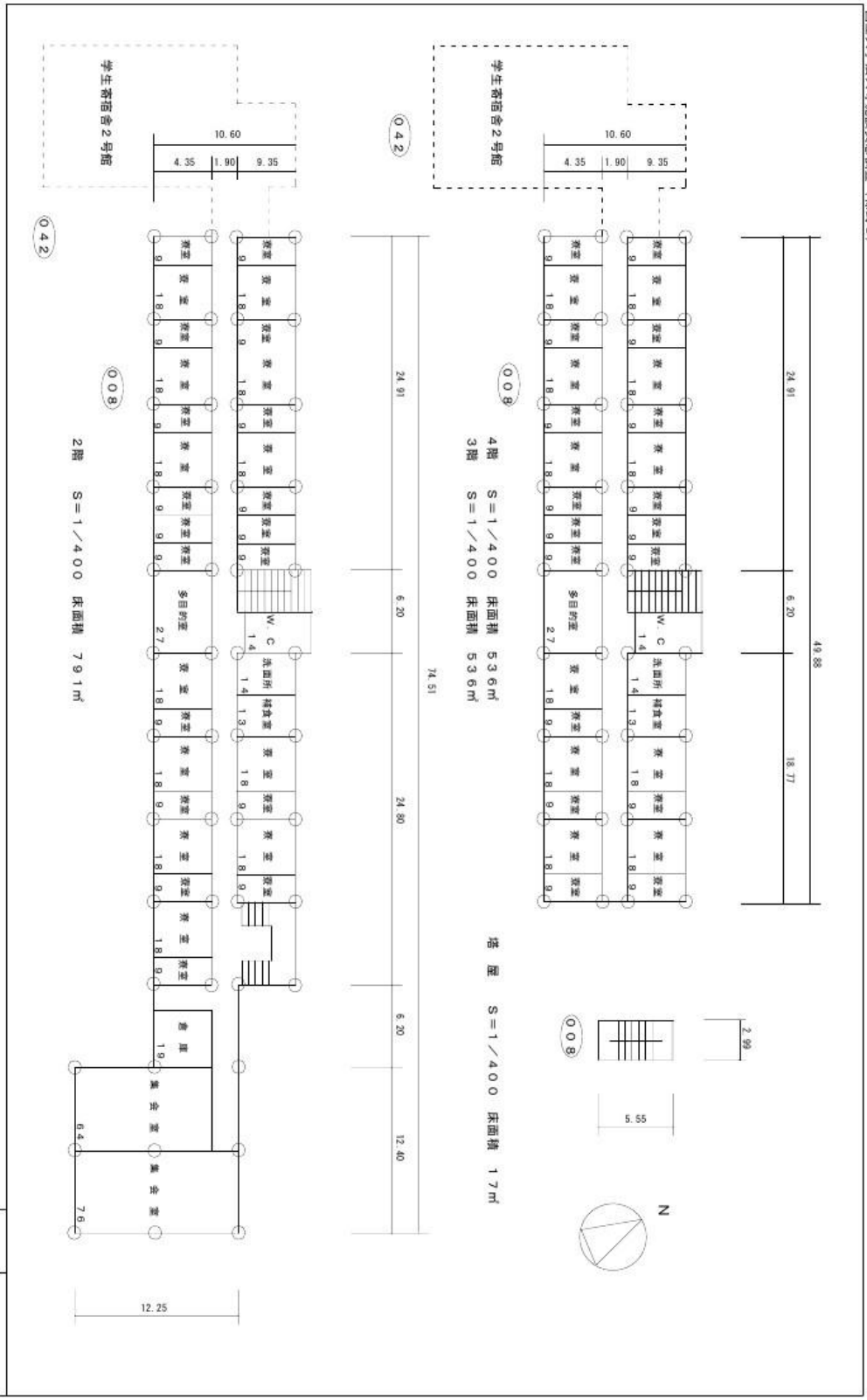
沿　革

昭和４２年　Ｒ４　２，９９２㎡　新築
昭和４８年　Ｓ１　１０㎡　増築
昭和６１年　Ｒ４　７８１㎡　寄宿舎２号館新築
昭和６２年　Ｒ４　３，００２㎡　改修

棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	面積区分 名称	面積区分 色区分	面積
筑水寮（学生寄宿舎）	S42	R4	35	高専宿泊施設		2,992㎡
	S48	S1	35	高専宿泊施設		10㎡

整理番号　３－１－１０

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

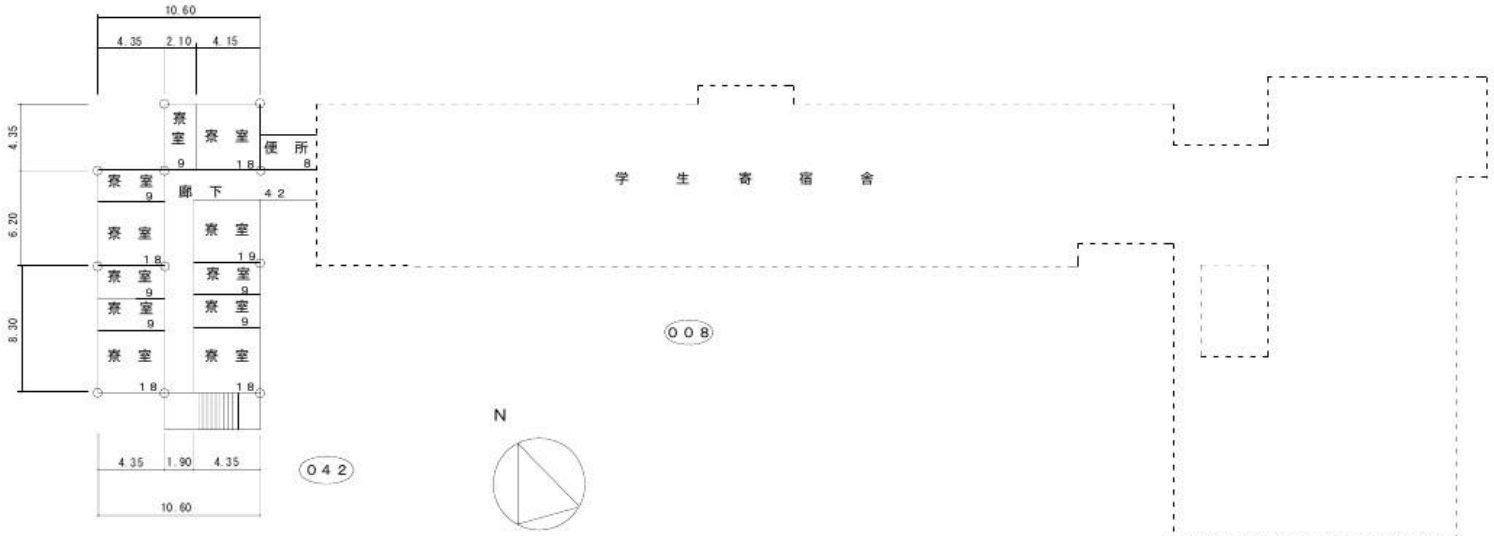


出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－２９
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

学生寮（筑水寮）平面図（２号館　１階）

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
６６９２	久留米工業高等専門学校	００１	小森野	０４２



第２寄宿舎　１階　Ｓ＝１／４００　床面積１９５㎡

棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	面積区分 名称	面積区分 色区分	面積
第２寄宿舎	Ｓ６１	Ｒ４	３５	高専宿泊施設		７８１㎡

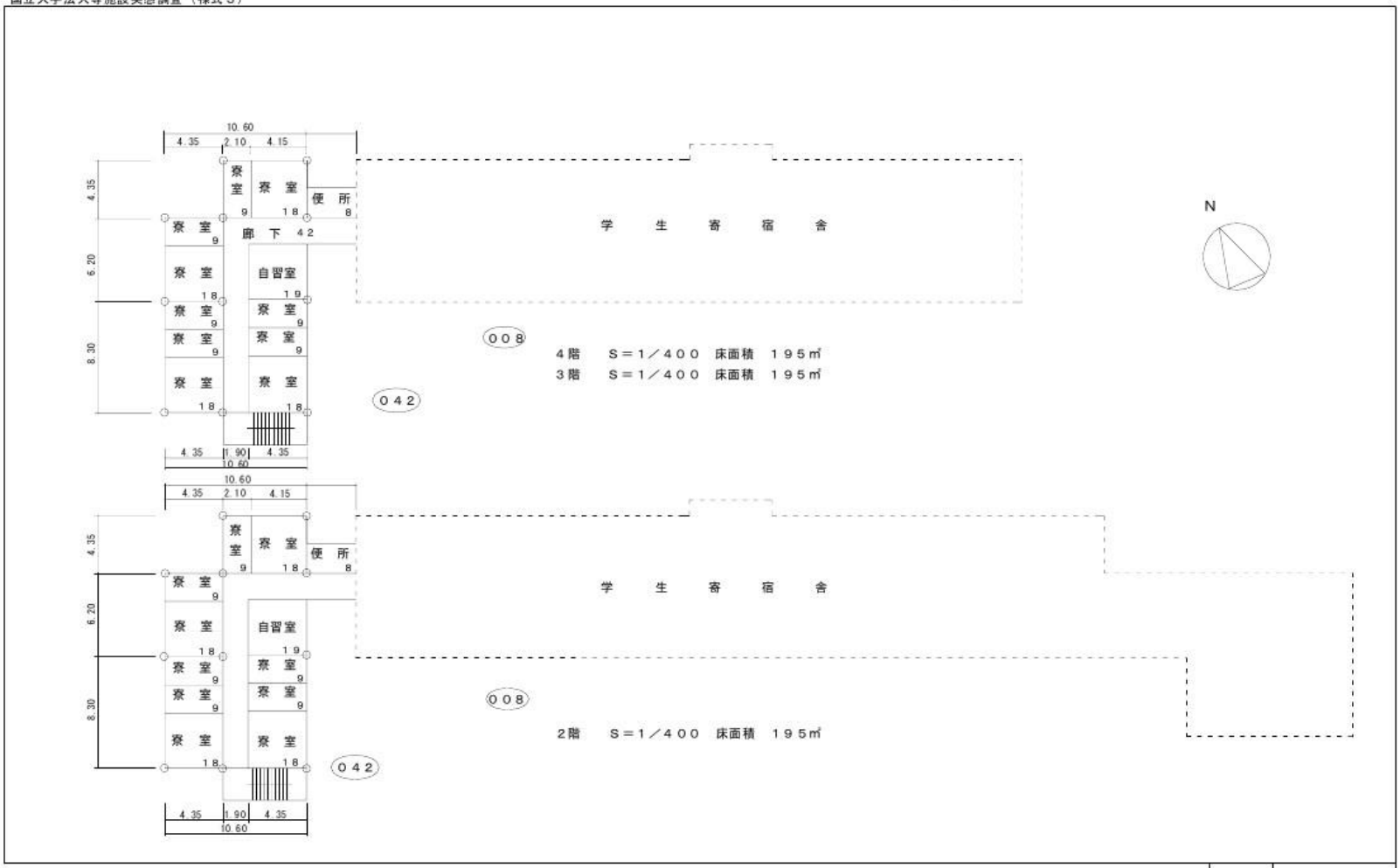
整理番号	３－１－４４

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－３０
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

学生寮（筑水寮）平面図（２号館　２～４階）

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
６６９２	久留米工業高等専門学校	００１	小森野	０４２



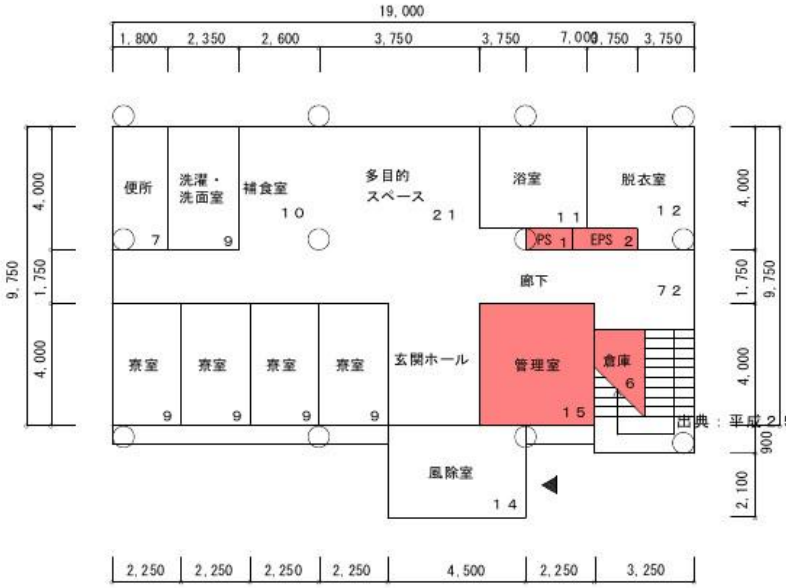
整理番号	３－１－４５

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

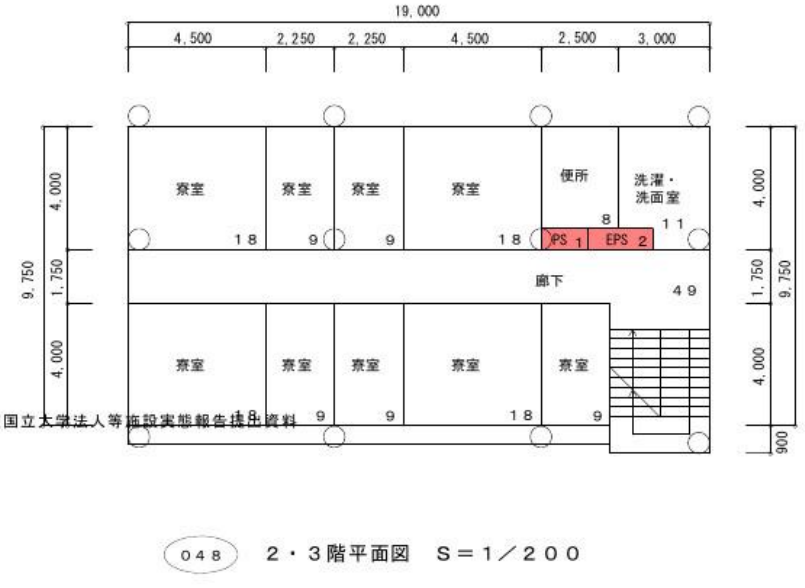
資料８－１－①－３１
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

学生寮（つつじ寮）平面図

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
６６９２	久留米工業高等専門学校	００１	小森野	０４８



048　１階平面図　Ｓ＝１／２００



048　２・３階平面図　Ｓ＝１／２００

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

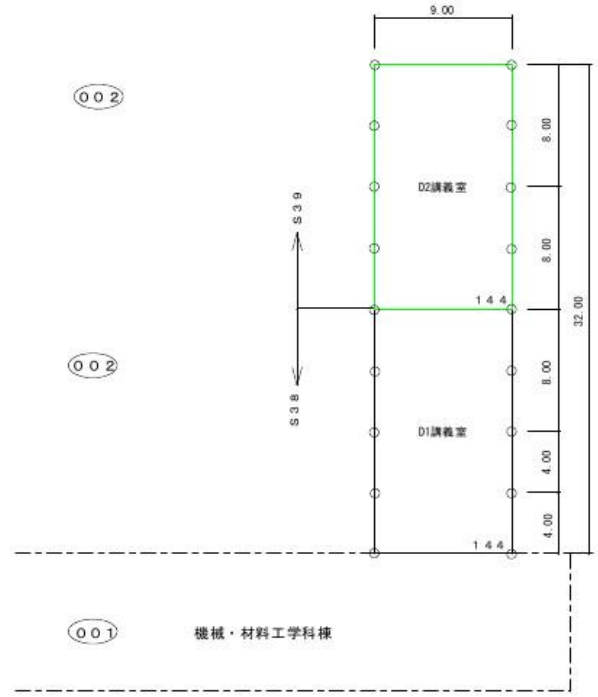
棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	面積区分 名称	面積区分 色区分	面積
つつじ寮（学生寄宿舎）	H２４	R３	３５	高専寄宿舎		５４８㎡
			３６	高専管理施設		３０㎡

整理番号　３－１－５３

資料８－１－①－３２
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

材料生化合併教室（Ｄ１・Ｄ２教室）平面図

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
6692	久留米工業高等専門学校	001	小森野	002



材料生化合併教室（D1・D2講義室）　Ｓ＝１／４００　床面積　Ｓ３８　１４４㎡
Ｓ３９　１４４㎡
計　２８８㎡

棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	面積区分 名称	面積区分 色区分	面積
材料生化合併教室（D1・D2講義室）	Ｓ３８	Ｒ１	３１	高専教育・研究施設		１４４㎡
	Ｓ３９	Ｒ１	３１	高専教育・研究施設		１４４㎡

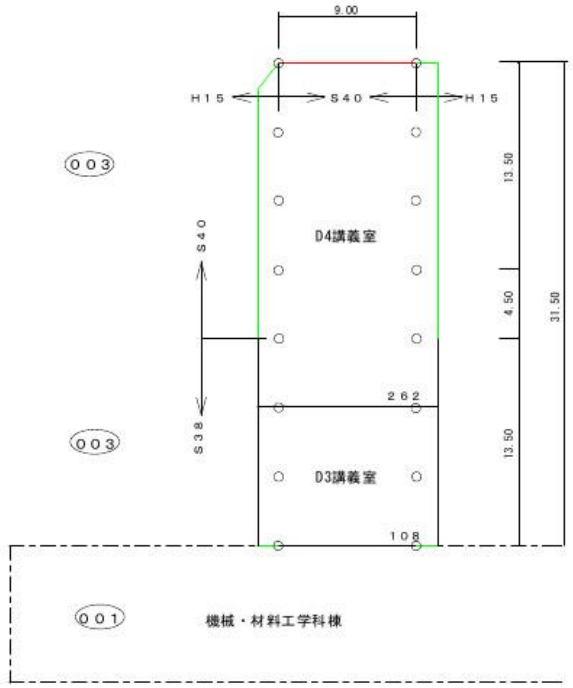
整理番号	３－１－３

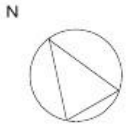
出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－３３
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

機械電気合併教室（Ｄ３・Ｄ４教室）平面図

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
6692	久留米工業高等専門学校	001	小森野	003





機械電気合併教室（D3・D4講義室）　Ｓ＝１／３００　床面積　Ｓ３８　１２２㎡
Ｓ４０　１６２㎡
Ｈ１５　８６㎡
計　３７０㎡

棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	面積区分 名称	面積区分 色区分	面積
機械電気合併教室（D3・D4講義室）	Ｓ３８	Ｒ１	３１	高専教育・研究施設		１２２㎡
	Ｓ４０	Ｒ１	３１	高専教育・研究施設		１６２㎡
	Ｈ１５	Ｒ１	３１	高専教育・研究施設		８６㎡

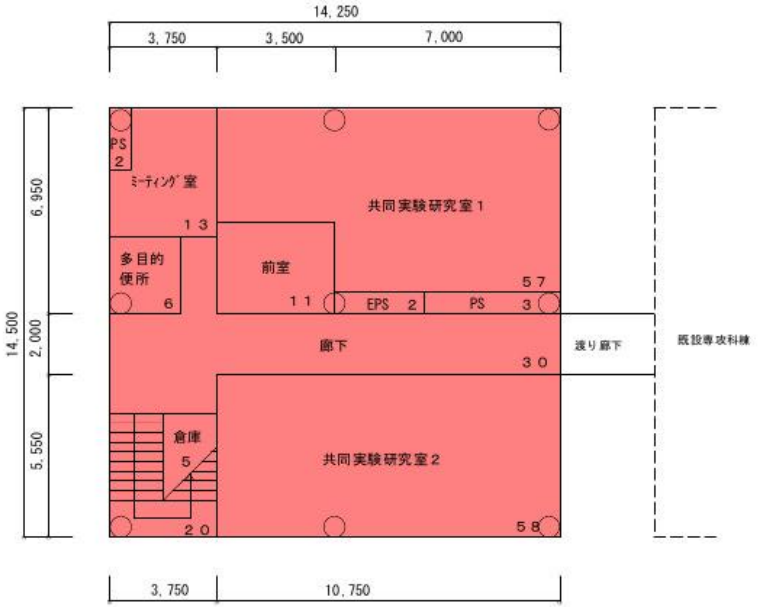
整理番号	３－１－４

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

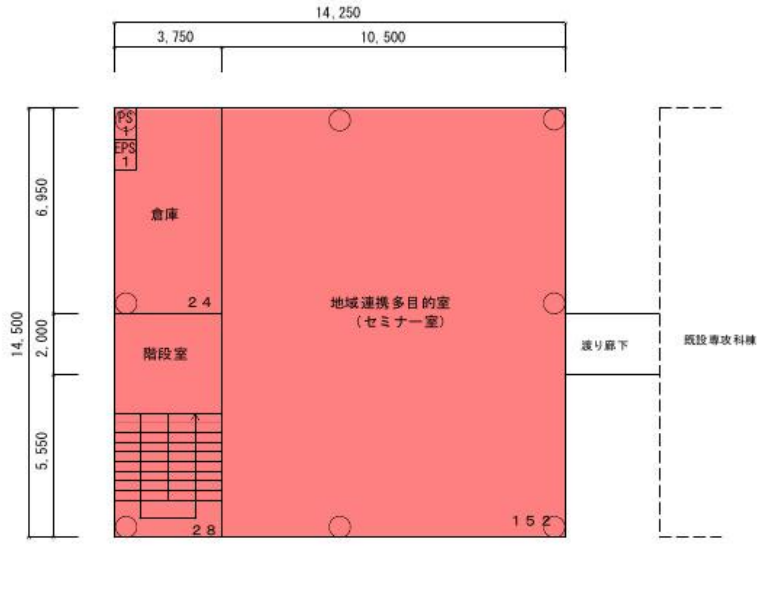
資料８－１－①－３４
国立大学法人等施設実態調査（様式３）

産学民連携テクノセンター平面図

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
６６９２	久留米工業高等専門学校	００１	小森野	０４７



047　１階平面図　Ｓ＝１／２００



047　２階平面図　Ｓ＝１／２００

加算面積区分　13-1　413㎡

棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	面積区分 名称	面積区分 色区分	面積
産学民連携テクノセンター棟	H22	R2	３１	高専教育・研究施設		４１３㎡

整理番号　３－１－５２

出典：平成２５年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－３５

教室面積及び収容者数				
棟名称	教室名		面積（㎡）	収容者数（人）
一般教室棟	101：	101教室	88	42
	102：	102教室	88	41
	103：	103教室	88	41
	201：	201教室	88	42
	202：	202教室	88	41
	203：	203教室	88	41
	301：	301教室	88	44
	302：	302教室	88	43
	303：	303教室	88	45
一般共通棟	204：	204教室	93	47
機械・材料工学科棟	AM1：	AM1教室	103	54
電気電子・制御情報工学科棟	ES1：	ES1教室	103	46
	ES2：	ES2教室	75	41
	ES3：	ES3教室	75	43
	ES4：	ES4教室	103	46
専門教室棟	S1 ：	専門教室棟2階東側教室	81	47
	S2 ：	専門教室棟2階西側教室	81	48
	S3 ：	専門教室棟3階東側教室	81	48
	S4 ：	専門教室棟3階西側教室	81	51
生物応用化学科棟	C1 ：	生化講義室C1	77	41
	C2 ：	生化講義室C2	77	41
	C3 ：	生化講義室C3	51	29
	C4 ：	生化講義室C4	42	25
専攻科棟	A1 ：	専攻科講義室A	50	25
	A2 ：	専攻科講義室B	38	16
	A3 ：	専攻科大講義室	93	42
	A4 ：	産業デザイン演習室	93	28
図書館	L1 ：	第1IT演習室	95	51
	L2 ：	第2IT演習室	95	51
	L3 ：	多目的室	98	50
	LL ：	マルチメディア教室	117	56
材料・生化実験室	D1 ：	D1講義室	144	126
	D2 ：	D2講義室	144	126
機械・電気合併教室	D3 ：	D3講義室	108	52
	D4 ：	D4講義室	262	198
産学民連携テクノセンター	T2 ：	産学民連携テクノセンター2階	152	48

資料８－１－①－３６（１／２）

建物主要設備

棟番号	一棟扱い番号	棟名称	建築面積	建築年	構造	地上階	地下階	建物面積計	棟計
1	1	機械・材料工学科棟	718	1963	R	4	0	2,623	2,691
1	1	機械・材料工学科棟	0	1966	R	1	0	49	
1	1	機械・材料工学科棟	0	2003	R	1	0	19	
2	2	機械・材料工学科棟	288	1963	R	1	0	108	288
2	2	機械・材料工学科棟（Ｄ１・Ｄ２講義室）	0	1964	R	1	0	144	
2	2	機械・材料工学科棟（Ｄ１・Ｄ２講義室）	0	1963	R	1	0	36	
3	3	機械・材料工学科棟（Ｄ３・Ｄ４講義室）	370	1963	R	1	0	122	370
3	3	機械・材料工学科棟（Ｄ３・Ｄ４講義室）	0	1965	R	1	0	162	
3	3	機械・材料工学科棟（Ｄ３・Ｄ４講義室）	0	2003	R	1	0	86	
4	4	電気電子・制御情報工学科棟	704	1964	R	1	0	40	2,720
4	4	電気電子・制御情報工学科棟	0	1964	R	4	0	1,232	
4	4	電気電子・制御情報工学科棟	0	1965	R	4	0	1,391	
4	5	電気電子・制御情報工学科棟	0	2001	S	4	0	57	
5	6	守衛室	20	1964	S	1	0	20	20
6	7	車庫	122	1965	R	1	0	99	122
6	7	車庫	0	1980	R	1	0	23	
7	8	学生部室	612	1962	S	1	0	417	612
7	8	学生部室	0	1965	S	1	0	195	
8	9	筑水寮（学生寄宿舎）	1122	1967	R	4	0	2,992	3,002
8	9	筑水寮（学生寄宿舎）	0	1973	S	1	0	10	
10	10	一般教室棟	476	1968	R	3	0	1,437	1,437
11	11	文科・理科棟	548	1968	R	1	0	32	1,559
11	11	文科・理科棟	0	1968	R	3	0	1,484	
11	12	文科・理科棟	0	2001	S	3	0	43	
12	13	一般共通棟	249	1968	R	2	0	233	419
12	13	一般共通棟	0	1968	R	2	0	186	
13	14	中央ボイラー室	151	1968	R	1	0	151	151
14	15	管理棟	584	1969	R	2	0	167	1,156
14	15	管理棟	0	1969	R	2	0	989	
15	16	第１体育館	1121	1983	S	1	0	108	1,121
15	16	第１体育館	0	1970	S	1	0	1,013	
16	17	武道場	150	1970	R	2	0	300	450
16	17	武道場	0	1970	R	2	0	150	
17	18	ウェーブホール（学生食堂）	541	1970	S	1	0	182	519
17	18	ウェーブホール（学生食堂）	0	2001	S	1	0	337	
19	19	図書館	845	1970	R	2	0	1,702	1,702
20	20	物品庫	32	1970	B	1	0	32	32
21	21	機械電気実験実習棟	825	1971	R	2	0	970	1,062
21	21	機械電気実験実習棟	0	1971	S	1	0	60	
21	21	機械電気実験実習棟	0	1972	S	1	0	32	

出典：平成25年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－①－３６（２／２）

建物主要設備

棟番号	一棟扱い番号	棟名称	建築面積	建築年	構造	地上階	地下階	建物面積計	棟計
22	22	機械工作工場	739	1971	R	1	0	730	739
22	22	機械工作工場	0	1975	R	1	0	9	
23	23	生物応用化学北別館	138	1971	R	1	0	138	138
24	24	練心館（合宿研修所）	115	1971	R	2	0	223	223
26	25	熱・材力実験棟	361	1972	R	2	0	601	601
27	26	燃料庫	20	1972	B	1	0	20	20
28	27	電気室	38	1972	R	1	0	32	38
28	27	電気室	0	2003	R	1	0	6	
29	28	情報処理センター	300	1973	R	1	0	300	300
30	29	変電室	79	1973	R	1	0	79	79
32	30	高電圧実験室	149	1973	R	1	0	119	149
32	30	高電圧実験室	0	1975	R	1	0	30	
33	31	流体実験室	175	1974	R	2	0	264	264
34	32	総合試作技術教育センター	438	1976	R	1	0	198	438
34	32	総合試作技術教育センター	0	1979	R	1	0	240	
35	33	材料実習棟	270	1978	R	2	0	405	405
36	34	弓道場	168	1980	S	1	0	168	168
37	35	専門教室棟	221	1980	R	3	0	663	663
38	36	事務部倉庫	54	1982	R	1	0	54	54
39	37	第２体育館	880	1982	S	1	0	880	880
40	38	記念館	252	1983	R	1	0	252	252
41	39	体育器具庫	180	1984	S	1	0	180	180
42	40	筑水寮（学生寄宿舎２号館）	195	1986	R	4	0	781	781
43	41	制御情報工学科棟	278	1993	R	3	0	793	793
44	42	専攻科棟	405	1994	R	3	0	1,167	1,202
44	42	専攻科棟	0	1994	R	3	0	35	
45	43	生物応用化学科棟	414	2000	R	4	0	1,605	1,605
46	43	生物応用化学科渡り廊下	140	2003	S	4	0	521	521
47	44	産学民連携テクノセンター棟	210	2009	R	2	0	413	413
48	45	つつじ寮（学生寄宿舎）	237	2012	R	3	0	548	578
48	45	つつじ寮（学生寄宿舎）	0	2012	R	3	0	30	
1	1	宿舎（三）５号	110	1943	W	2	0	148	148
2	2	宿舎（三）６号	103	1943	W	2	0	141	141
3	3	宿舎（三）１３号	52	1962	W	1	0	52	52
4	4	宿舎（三）１４号	52	1962	W	1	0	52	52
5	5	宿舎（三）９号	62	1959	W	1	0	62	62
7	6	宿舎（三）７号	62	1959	W	1	0	62	62
8	7	宿舎（三）８号	62	1959	W	1	0	64	64

出典:平成25年度国立大学法人等施設実態報告提出資料

資料８－１－②－１

校内ＬＡＮ構成図

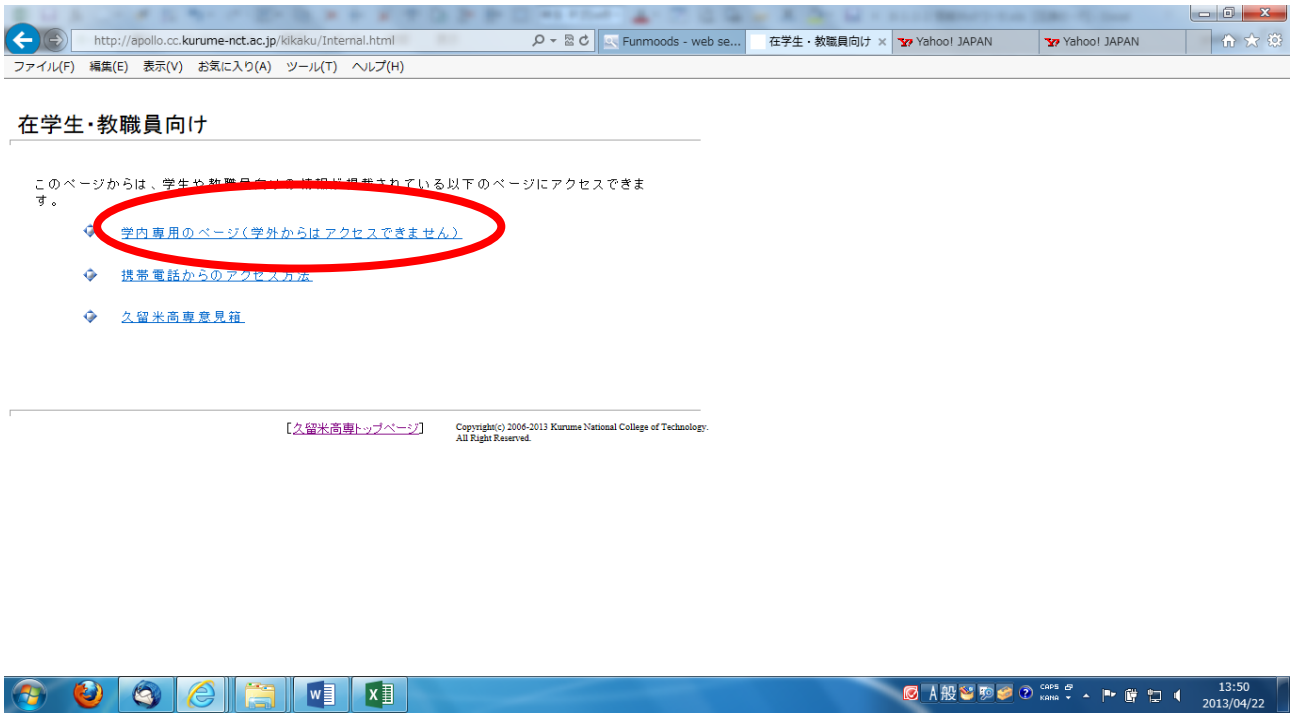


出典：情報処理センター資料

資料８－１－②－２

本校ホームページの「在学生・教職員用」メニュー







出典：久留米工業高等専門学校　ホームページ

資料８－１－②－３

学内ＬＡＮを利用するアプリケーションとその目的

科目名等	アプリケーション	授業・演習等	対象学科
機械要素設計実験Ⅰ（５年通年）	ＣＡＤ・ＣＡＥ統合ソフト	演習	機械工学科
卒業研究・専攻科研究	3次元CAD設計ソフト Solid works ・汎用非線形構造解析ソルバー Marc	卒業研究	機械工学科および材料工学科
CAD演習（３年前期）	3次元CAD設計ソフト Solid works	演習	機械工学科

資料８－１－②－４

文献検索システム画面

出典：図書館ホームページ



久留米高専附属図書館

データベース・電子ジャーナル（学内用）

問合先：学生課図書係 9306

本サービスは、本校の教職員及び学生のみ利用できます。（◆は長岡技科大・高専コンソーシアム関係） 利用案内へ

電子ジャーナル・データベース利用ガイド（長岡技科大作成）

データベース

KANON	※2008年度で契約中止となりました。なお、ハードディスクに故障をきたしましたので使用停止となっております。
◆JDream Ⅱ	科学技術振興機構提供（JOISのWeb版）、ユーザ名は「久留米高専」と入力し、アクセスしてください。
◆MEDLINE	米国国立医学図書館医学的文献データベース(Science Direct版)
◆MathSciNet	American Mathematical Society(AMS)製作による、学術論文書誌・抄録・レビュー並びに著者情報のデータベース ・利用マニュアル

電子ジャーナル

◆ACS	米国化学会(American Chemical Society) アクセス可能ジャーナル
◆AIP	米国物理学協会(American Institute of Physics) アクセス可能ジャーナル
◆APS	米国物理学会(American Physical Society) アクセス可能ジャーナル
◆Science Direct	エルゼビアの科学・技術・医学・社会科学分野 ・アクセス可能電子ジャーナル数約2,500タイトル、電子ブック約6,000タイトル ・日本語サポートは こちら
◆IEEE Xplore	IEEE(米国電気電子工学会) ・電気・電子工学・コンピュータサイエンス分野のコアジャーナル約118タイトルを収録したフルテキスト・データベース。 ・1998年以降のフルテキストへアクセス可能。 アクセス可能ジャーナル ・利用マニュアル(PDF)
High Wire	Stanford University LibrariesとHighWire Press提供 Free Online Full-text は こちら
J-STAGE	科学技術振興機構 科学技術情報発信・流通総合システム ・日本国内で発行される自然科学・技術関係の学協会、論文誌、予稿集、報告書類が閲覧できる。
Journal@rchive	Journal@rchive(ジャーナルアーカイブ)は、独立行政法人科学技術振興機構(JST)で運用している科学技術情報発信・流通システムJ-STAGEのアーカイブサイトで、JSTが平成17年度から実施している電子アーカイブ事業において電子化した学術雑誌を公開しています。電子アーカイブ事業では、国内の学協会の学術雑誌の国際発信力をさらに強化するとともに、日本の知的資産の保存を目的として、紙媒体の雑誌を新刊号から電子アーカイブ化しています。
◆Science	1997年発行～最新号に掲載された論文等のフルテキストデータ提供 アクセス後、赤い'ニューハー'の下の「Current Issue」又は「Previous Issue」を選択
◆理科年表	理科年表(国立天文台) ・理科年表プレミアムは1925以降の理科年表の内容を収録したWebページ。 ・検索した表データは、表計算ソフトでご利用いただけるよう、テキストデータ(CSV形式)でダウンロードすることが可能。
化学書資料館	化学書資料館(日本化学会) ・日本化学会編集の定評あるレファレンス類がインターネットを通して閲覧できるサービス ・国内で出版された化学書を統合的に検索し、閲覧することができるサイト。現在、日本化学会の編集による専門書・便覧・辞典が147冊、約 83,300ページ相当の情報が集められています。

国立情報学研究所

CiNii	CiNii(NII論文情報ナビゲータ)は、学協会刊行物・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなど、学術論文情報を検索の対象とする論文データベース・サービスです。
Webcat Plus	Webcat Plusは、国立情報学研究所(NII)が提供するGeNii(ジーニイ):NII 学術コンテンツ・ポータルを構成するサービスのひとつです。大量の情報の中から、人間の思考方法に近い検索技術「連想検索機能」を使って、必要な図書を効 率的に探すことができるシステムが、このWebcat Plusです。
KAKEN	科 学研究費補助金データベースは、文部科学省及び日本学術振興会が交付する科学研究費補助金により行われた研究の当初採択時のデータ(採択課題)と研究成 果の概要(研究実績報告、研究成果概要)を収録したデータベースです。科学研究費補助金は全ての学問領域にわたって幅広く交付されていますので、本データ ベースにより、我が国における全分野の最新の研究情報について検索することができます。
NII-DBR	国 内の学会、研究者、図書館等が作成している学術的なデータベースを、国立情報学研究所が公開するサービスです。また、国立情報学研究所が構築しているNII 学術コンテンツ・ポータル「GeNii(ジーニイ)」を構成するコンポーネントの1つです。
JAIRO	学術機関リポジトリポータルJAIROは日本の学術機関リポジトリ※に蓄積された学術情報(学術雑誌論文、学位論文、研究紀要、研究報告書等)を横断的に検 索できる、JuNii+(試験公開版)の後継サービスです。

NII学術コンテンツ・ポータル（機関定額制サービス）

GeNii

↑図書館ホームページへ

資料８－１－②－５

情 報 倫 理 教 育 の 実 施 状 況

学　　科	科目名（対象学年、実施時期）
機械工学科	情報処理基礎（２年生後期：第１週）
電気電子工学科	プログラミングⅠ（１年生後期：第１４週） 工業倫理（４年生後期、第１週）
制御情報工学科	情報処理基礎（１年生：第５週）
生物応用化学科	情報化学Ⅰ（２年生：第１６週） 情報化学Ⅱ（３年生：第７週、第１７週） 情報処理演習（４年生：第１７週）
材料工学科	情報処理Ⅰ（１年生：第１週、２年生：第１週～第２週） 情報処理Ⅱ（２年生：第１週、４年生前期：第１週） 情報処理Ⅲ（４年生前期：第１週）

資料８－２－①－１

図書館蔵書数冊数

蔵書冊数　Number of Collection of Books

平成25年3月31日現在　As of March 31, 2013

分類 Classifi-Cation	総記 General	哲学・宗教 Philosophy & Religion	歴史 History	社会科学 Social Science	自然科学 Natural Science	工学・技術 Engineering & Technology	産業 Industry	芸術・体育 Arts & Physical Education	語学 Language	文学 Literature	合計 Total
和書 Japanese book	2,957	4,990	5,378	4,254	16,465	16,910	308	2,168	2,030	9,978	65,438
洋書 Foreign book	94	24	18	55	2,026	1,427	9	7	289	1,046	4,995
合計 Total	3,051	5,014	5,396	4,309	18,491	18,337	317	2,175	2,319	11,024	70,433

出典：図書館資料

資料８－２－①－２　　図書館利用案内

久留米工業高等専門学校

図 書 館 利 用 案 内

■閲覧室への入室　■開館時間及び休館日　■開架図書　■貸出・返却・予約　■視聴覚資料
■蔵書検索(OPAC)　■レファレンス　■利用マナー　■雑誌・新聞等　■一般利用

■ 閲覧室への入室

閲覧室の出入口には、ゲートがあります。これは、ブックディテクションシステムです。
貸出手続きをしないで図書を持ち出そうとすると、アラームが鳴りますので注意してください。
カバン等の持ち込みは自由です。

■ 開館時間 及び休館日

月曜日～金曜日　9時～20時
土　曜　日　9時～17時

（※ 春季・夏季・冬季・学年末の休業期間中は、平日は9時～17時まで、土曜日は、休館）

日曜日、祝日、開校記念日は休館（開館カレンダーを参照してください。）

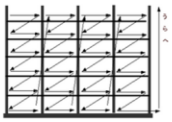
■ 開架図書

開架室の図書は、日本十進分類法により分類され、請求記号が付いています。
例えば、「数学の冒険／イアン・スチュワート著」という図書には、下記のラベルが貼ってあります。

410	← 分類記号（日本十進分類法による分類）
S	← 著者記号（著者等のアルファベットの頭文字）
125	← 巻数表示（同一分類・著者記号図書の受入れ順の番号）

禁帯出図書（辞書、事典、参考図書、貴重図書等）
禁帯出図書コーナーには、背中に赤いラベルを貼った図書があります。
この図書は、館外貸出しは出来ません。閲覧室内のみで利用してください。

閲覧室内の書架には、請求記号の順番に図書が配架されています。（右図の並びを参考にしてください。）



■ 貸出・返却・予約

●貸　出

	貸出冊数	貸出期間
学　　生	3冊以内	1週間以内
教　職　員	10冊以内	3ヶ月以内
一般利用者	3冊以内	1週間以内

貸出希望図書に学生証(学生)、身分証明書(教職員)、図書利用カード(一般利用者)を添えて、カウンターで係員に申し出てください。
なお、貸出図書が紛失もしくは行方不明になった場合には、早急に図書館へ申し出てください。

●返　却
返却期限までにカウンター上の図書返却箱の戻してください。
返却日を過ぎると次の貸し出しが受けられなくなります。

●予　約
貸出中の図書を予約することができます。返却されたら優先して閲覧・貸出が可能です。
カウンターで予約申込み をしてください。

■ 視聴覚資料（視聴覚資料のページへ）

・音楽CDは、貸出ができます。2点、1週間以内です。CD 貸出簿に記入し、学生証等を提示してください。
・ビデオの館外貸出しは出来ません。利用希望者は係員に申し出てください。
・閲覧室内のCD－ROM専用端末で自由に閲覧できます。

■ 蔵書検索（OPAC）

図書の所蔵データをコンピュータに入力していますので、閲覧室内の蔵書検索端末を利用して学内の図書を探すことができます。学外からも検索可能です。
また、インターネットで学外へ接続し、大学図書館の蔵書検索や企業の戦略情報、大学進学情報等の必要な情報を調べることが可能です。
インターネットは自由 に利用できますが、他の利用者の迷惑になるような利用は禁止します。

■ レファレンス

図書館では、図書や雑誌等の閲覧・貸出のサー ビスだけでなく、皆さんが学習・調査・研究等を行うためのいろいろなサポートを行っています。例えば、「探しているまほ何 処にあるか？」「レポートテーマについてどのような資料を調べたら良いか？」等……わからないことがありましたら、カウンターで尋ねてください。

■ 利用マナー

◆閲覧室及びホールで利用した図書・雑誌・新 聞等は必ず元の配架場所に戻してください。
◆貸出図書を他人に又貸ししないでください。
◆館内で雑談、飲食、喫煙等しないでください。
◆館内で携帯電話等は使用しないでください。
◆館内で他の利用者に迷惑になるような行為はしないでください。

■ 雑　誌　（最新号の貸出はできません。）

日経ものつくり	自動車工学
モノマガジン	機械の研究
OHM	インターフェイス
トランジスタ技術	日経LINUX
日経ソフトウェア	日経パソコン
ロボコンマガジン	化学
化学工業	化学と生物
現代化学	金属（材料工学科内配架）
National Geographic(日本版)	Newsweek（英語版）
ニュー ズウィーク(日本版)	TOEIC Test プラス・マガジン(CD含む)
アサヒカメラ	キネマ旬報
週刊サッカーマガジン	世界
中央公論	ひらがなタイムズ(Hiragana Times)
フォトコン	ベースボールクリニック
陸上競技マガジン	報知高校野球
Newton	高校への数学
数学セミナー	大学への数学
日経サイ エンス	理系への数学
文藝春秋	JTB時刻表
会社四季報	

■ 新聞等

朝日新聞	毎日新聞
読売新聞	西日本新聞
日本経済新聞	日刊工業新聞
The Japan Times(英文)	Asahi Weekly(英文)
Mainichi Weekly(英文)	週刊ST(英文)
図書館教育ニュース	学校保健ニュース
週刊読書人	出版ダイジェスト

■ 一般利用

久留米高専図書館は、一般市民の方々に開放しております。利用者登録をして頂ければ図書の貸出が可能です。御希望の方は、図書館カウンターで手続きをお願 もします。受付は、平日9時から17時までとなっております。土曜・日曜日・祝日の受付は行いませんので、ご注意ください。詳細はこちらをご覧ください。

図書館ホームページへ

出典：図書館ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ

資料８－２－①－３

入館者数及び貸出数

１．入館者数

月	開館日数	入館者数				一般利用者数（内数）	一日平均入館者数
		平日		土曜日	合計		
		時間内	時間外				
4月	24	2,431	279	71	2,781	11	116
5月	24	3,087	940	165	4,192	12	175
6月	26	3,323	676	329	4,328	10	166
7月	15	1,829	344	428	2,601	5	173
8月	－	－	－	－	－	－	－
9月	22	470	45	9	524	5	24
10月	26	711	136	128	975	2	38
11月	24	700	107	11	818	0	34
12月	21	856	150	28	1,034	0	49
1月	20	945	278	45	1,268	0	63
2月	23	735	115	49	899	1	39
3月	8	104	19	13	136	2	17
合計	233	15,191	3,089	1,276	19,556	48	84

２．貸出数

	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科1年	専攻科2年	教職員	一般利用者	合計
冊数	218	1,141	671	1,488	1,102	218	178	175	99	5,290
人数	137	673	424	935	606	120	95	107	48	3,145

出典：図書館資料

資料８－２－①－４

図書検索システム画面



出典：図書館ホームページ

資料８－２－①－５

図書委員会規則

［昭和４５年４月１日制定］

第１条　久留米工業高等専門学校の図書の運用を円滑に行うため、図書委員会（以下「　委員会」という。）を置く。

第２条　委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1)　図書館長

(2)　図書館長補

(3)　図書主幹

(4)　各学科等から各１名

(5)　教務・学生・専攻科主事補から各１名

(6)　学生課長

(7)　その他校長が必要と認めた者

第３条　前条第４号、第５号及び第６号の委員の任期は、１年とする。ただし、再任を妨げない。

第４条　委員会の委員長は、図書館長とする。

２　委員長に事故があるときは、図書館長補がその職務を代行する。

第５条　委員長は、委員会を召集し、その議長となる。

第６条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1)　図書業務の運営に関する事項

(2)　学生用図書の予算に関する事項

(3)　学生用図書の選択に関する事項

(4)　学生の読書指導に関する事項

(5)　その他委員長が必要と認めた事項

第７条　委員会の事務は、学生課図書係で処理する。

附　則

１　この規則は、昭和４５年４月１日から施行する。

２　この規則の施行により、昭和４３年４月１日付、久留米工業高等専門学校図書委員会規程は、これを廃止する。

附　則
この規則は、昭和４６年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、昭和５１年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成５年５月２１日から施行する。
附　則
この規則は、平成８年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成１０年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成１３年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成１９年４月１日から施行する。

出典：久留米工業高等専門学校　規則集

資料８－２－①－６(1/4)

平成２４年度第１回図書委員会議事録

１．日　時　平成２４年５月２２日(火)１６時４０分から１８時００分
２．場　所　大会議室
３．出席者　津田(図書館長)、中野(図書館長補・図書主幹)、栂(教務主事補)、山本哲也(学生主事補)、
　　石井(専攻科主事補)、田中大(機械)、堺(制御)、笈木(生物)、周(材料)、藤木(文科)、磯田(学生課長)
　欠席者　宮地（理科)、原(電気)

４．議題等
（１）　委員紹介（資料-1)
　議事に先立ち委員長から新任の図書委員の紹介後、堺先生より自己紹介があった。
（２）　行事予定表について（資料-2)
　委員長から、資料「平成２４年度図書館行事予定表」について説明があった。
（３）　学生図書購入配分(案)について（資料-3)
　委員長から、資料を基に今年度の図書予算配分額は決定していないが、後援会学生図書費について予算の逼迫、図書館改修の理由で 300,000 円減額の予定であるため、２学科持ち回りで重点配分を行っていた図書購入費 200,000 円を今年度は休止とし、また年２回行っていたブックハンティング 100,000 円を１回にし、合計 300,000 円を減額したところで配分案を作成したので審議願いたいとの発言があった。
　これについて審議の結果、原案のとおり承認された。
（４）　前期学生図書購入の選択について　(資料-4)
　委員長から、配分案を参考の上、前期学生用図書の選定について各学科内で検討していただき、図書係へ６月８日(金)までに提出願いたいとの依頼があった。購入リストの様式については、図書係から各委員へ電子メールで配付することになった。
（５）　ブックハンティングについて
　中野図書主幹から、年２回夏休み、冬休み前に行っていたブックハンティングを１回にすることについて説明があり、審議の結果承認された。
（６）　図書館だより第８０号の発行について（資料-6)
　中野図書主幹から、図書館だより第８０号の編集について審議依頼があり、編集委員長に中野図書主幹、編集委員に藤木委員を再選した。次いで、中野図書主幹から下記の項目について依頼があった。
　「巻頭エッセイ」は一般科目理科系教員に宮地委員から、「読書のすすめ」は新任教員の大津先生、松野先生、堺先生、萩原先生、伊藤公毅先生へ当該学科委員から、「リレー連載」は材料工学科教員に周委員から、「私の一冊」は各学科と専攻科の学生６名に当該学科の図書委員から原稿を依頼していただきたい。
　原稿締切りは６月１８日（月)、発行予定は７月９日（月)、担任会での配付依頼日は７月１０日（火)、学生への配付日は７月１１日（水）のホームルームを予定している。
　なお、「巻頭エッセイ」、「読書のすすめ」、「リレー連載」の様式 1、「私の一冊」の様式２については、図書係から各委員へ電子メールで配付することになった。
（７）　電子ジャーナル・データベースコンソーシアム等の平成２５年度継続について（資料-7)
　委員長から、長岡技術科学大学図書館と高専図書館間で行われているデータベース・電子ジャーナルコンソーシアムと国立情報学研究所提供のデータベースCiNii（サイニィ)、平成２３年度に追加された「サイエンス」「理科年表」について説明があり、平成２５年度も引き続き継続したいとの提案があり、審議の結果、継続することで承認された。
（８）　製本雑誌・図書の廃棄等について（資料-8)
　委員長から図書等の廃棄について、閉架書庫の図書の中には保存状態がひどいものがあり、移転に伴う経費もかさむため閉架書庫の廃棄する図書の選定を行うことについて提案があり、審議の結果下記のとおり行うことで承認された。
　資料８の分類表の和書、洋書の番号ごとに決定した担当学科（者）で、６月２２日（金）までに廃棄する図書の背表紙に学科ごとに色分けしたシール等を貼付する。
　廃棄、保存については各分野の先生の判断
　廃棄、保存が重複した場合は保存優先
　000 総記（津田、中野　開架書庫も含む。）100 哲学～300 社会科学（一般文科)、400 自然科学（一般理科、笈木）500 工学工業（制御）510 土木工学～530（機械工学)、540 電気工学（コンピュータ）(電気)、550 海事工学（機械)、560 採鉱冶金学（材料)、570 化学エ業～580 繊維、その他の工業（生化)、600 産業（生化)、700 芸術～900 文学（一般文科)。
　保存雑誌の廃棄についても再確認する（閉架書庫の廃棄する図書の選定を行う際に現場で保存の必要性を確認する。例えば、保存希望の中に紐で縛ったまま山積みになっているものもある)。
（９）　仮図書館に配架する一般科目（理科・文科系）の図書について
　中野図書主幹から、仮図書館（専攻科棟創造工学実験室）に配架する図書について、分類表 400 自然科学～500 工業工学、000 総記（情報処理）の図書、英文多読、ブックハンティングで購入した過去２年分を配架する予定であるが、一般科目（理科・文科系）の図書については配架の予定がないため、仮図書館に配架を希望する図書の選定について依頼があり、審議の結果下記のとおり行うことで承認された。
　７月９日（月）～７月１３日（金）まで、配架希望図書 1,400 冊の背表紙にシールを貼付
(10)　その他
　１）　参考資料の配付について（資料-10-1)
　　参考資料として平成２３年度図書館各種統計、図書受入状況及び平成２４年度購入雑誌一覧を配付した。
　２）予算要求の経過について
　　委員長から、３月に予算要求をした「化学・生命科学研究情報検索システム SciFinder（全学利用可能)」、「化学書資料館」について、６月の予算委員会で審議される予定であることが報告された。
　３）図書館ロビーへの情報コンセントおよび電源の設置について
　　委員長から、図書館ロビーへの情報コンセント、電源の設置について説明があり、審議の結果下記の理由で設置を要望することで承認された。
　　図書館改修時に行わないと改修後では設置が困難なため。

出典：平成２４年度　第１回図書委員会議事録

平成２４年度第２回図書委員会議事録

１．日　時　平成２４年６月２９日(金)１６時４０分から１７時００分
２．場　所　小会議室
３．出席者　津田(図書館長)、中野(図書館長補・図書主幹)、栂(教務主事補)、石井(専攻科主事補)、
　　田中大(機械)、笈木(生物)、藤木(文科)、宮地（理科)、井手(学生課長の代理)
　欠席者　山本哲也(学生主事補)、原(電気)、堺(制御)、周(材料)

４．議題等
（１）学生用図書前期分の購入選定について（資料－１）
　委員長から、各学科より前期分学生用図書購入リストが提出されたので、購入の可否について審議願いたいとの発言があり、リストのとおり購入することが承認された。また、保護者懇談会等で要望があったレポート作成時の専門書等について、この購入リストに加えていただく様依頼があった。
（２）図書館だより第８０号の編集について（資料－２）
　中野図書主幹から、図書館だより第８０号の原稿提出のお礼、編集作業の進捗状況についての報告があった。
（３）図書の廃棄について
　図書係から、廃棄図書の選定状況について説明後、図書の廃棄処理が引越し開始までに終わらせることができないため、入札の仕様書を変更し、専攻科等へ移転後も引き続き図書の廃棄処理を行うことを報告した。また、委員長から、廃棄図書選定についてのお礼があった。
（４）その他
　委員長より、次のことについて実施及び提出する旨の報告があった。
　１．学生図書委員との懇談会
　　日　時：平成２４年７月１１日（水）１３時２０分から５０分まで
　　場　所：図書館２階ＬＬ教室
　　内　容：①図書館に対する意見や要望について
　　（各学生図書委員から意見を出してもらう。）
　　②希望図書購入申込書を配付するので、クラス毎にまとめたものを、学生図書委員から７月１８日（水）までに提出してもらう。
　２．九州沖縄地区国立高等専門学校図書館長協議会
　　日　　時：平成２４年９月１３日（木）～１４日（金）
　　場　　所：沖縄高専
　　内　　容：①協 議 題：電子ジャーナル・データベースの活用について
　　②　〃　　：カビの生えた図書について
　　③承合事項：無線ＬＡＮの設置について
　３．仮図書館について
　　仮図書館：専攻科棟１階　創造工学実験室
　　設置期間：9/3(月)～3 月上旬（予定）
　　・月曜日～金曜日は、9 時～20 時まで開館
　　・土曜日は、9 時～17 時まで開館
　　・日曜、祝日は休館
　４．特別（長期）貸出について
　　貸出期間：7/9（月）～7/19（木）
　　返却期日：9/7 日（金）
　　貸出冊数：5 冊以内
　　※一般利用者及び教職員は通常貸出
　５．仮図書館に配架を希望する一般科目（文科・理科）の図書の選定について
　　実施期間：7/9（月）～7/13（金）
　　配架希望図書（各科 700 冊以内）の背表紙にシールを貼付

出典：平成２４年度　第２回図書委員会議事録

平成２４年度第３回図書委員会議事録

１．日　時　平成２４年１０月１２日(金)１６時４０分から１７時３０分
２．場　所　小会議室
３．出席者　津田(図書館長)、中野(図書館長補・図書主幹)、栫(教務主事補)、山本哲也(学生主事補)、
　　堺(制御)、笈木(生物)、周(材料)、藤木(文科)、宮地（理科)、磯田(学生課長)
　欠席者　田中大(機械)、原(電気)、 石井(専攻科主事補)

４．議題等
（１）学生用図書後期分の購入選定について（資料１）
　委員長から、各学科より後期分学生用図書購入リストが提出されたので、購入の可否について審議願いたいとの発言があり、リストのとおり購入することが承認された。また、約５万円の配分額残額が残っている電気電子工学科については、再度購入図書を検討してもらうこととなった。
（２）図書館だより第８１号の編集について（資料２）
　委員長から、「図書館だより第８１号の編集について審議願いたい。」との発言があり、中野編集委員長から、①「表紙」は編集委員長が担当、②「巻頭エッセイ」は、各科輪番のため、今回は制御情報工学科教員へ、③「読書のすすめ」は、第８０号で依頼をしていない新任教員の残り５名、川原先生、松山先生、川上先生、篠島先生、川嶋先生へ、④「私の一冊」は、５学科と専攻科の学生６名へ当該学科の図書委員から、⑤「リレー連載」は、各科輪番のため、今回は、電気電子工学科教員へ依頼する。⑥「各種統計資料」は図書係担当、⑦「図書館からの案内」と⑧「編集後記」は図書係と編集委員長で担当。「図書館だより原稿作成について」、「様式１」及び「様式２」の電子ファイルについては、図書係より各委員へ電子メールで送付。学生へ原稿依頼をする際には、文字数制限、誤字、脱字等に注意するよう、また、提出は図書委員の先生を経由して提出するよう指導を、スケジュールについては、原稿締切りが１１月２６日、発行予定が１２月１７日、担任会での配付依頼日が１２月１８日、学生への配付日が１２月１９日のホームルールを予定しているので、よろしくお願いしたいとの説明があった。
　続いて、委員長から各科輪番で原稿を依頼している「巻頭エッセイ」等の順番の決め方について説明があった。また、リレー連載「古典への誘い」について、原稿執筆者が「古典」という言葉に戸惑うことや、原稿執筆者の選任に苦慮している図書委員がいることから、輪番が四巡目となる第８３号から、項目を「私の愛読書」、「読書への誘い」等への変更、映画、音楽等メディア紹介でも可能としてはどうかとの提案があり、この件については各学科へ持ち帰り意見徴収後、次回の図書委員会で引き続き検討することとなった。
（３）その他
１　電子ジャーナルの購読希望調査について
　委員長から、機構本部から照会があり、一般科目（文科系）よりトライアルの希望があった電子ジャーナル（シュプリンガージャパン）の購読について、今年度の購読については執行予算が確定しているので「希望無」で回答をしたとの報告があった。また、今年度の本校の電子ジャーナル契約状況の説明があり、電子ジャーナル（シュプリンガージャパン）については来年度に再検討することとなった。
２　ブックハンティングの実施について
　委員長から、前期中止していた第１回ブックハンティングを次のとおり実施するとの報告があり、これを了承した。
　日　時：１２月２５日（火）１０時から１２時まで
　場　所：ジュンク堂書店福岡店（メディアモール天神１～４F）現地集合・解散
　参加者：学生図書委員の希望者１０名、定員に満たない場合は、一般学生に参加募集する。
３　学生図書委員との懇談会の報告について
　委員長から、７月１１日（水）１３時２２分から４５分まで実施した、学生図書委員との懇談会について報告があった。

出典：平成２４年度　第３回図書委員会議事録

平成２４年度第４回図書委員会議事録

１．日　時　平成２５年３月６日(水)

２．場　所　メール会議

３．出席者　津田(図書館長)、中野(図書館長補・図書主幹)、栴(教務主事補)、山本哲也(学生主事補)、
石井(専攻科主事補)、田中大(機械)、堺(制御)、笈木(生物)、周(材料)、
藤木(文科)、宮地（理科)、磯田(学生課長)
休職者　原(電気)

４．議題等

（１）平成２５年度学生用雑誌の選定について（資料)

今回の議題は「平成２５年度学生用雑誌の選定について」１件のみであるため、委員長名のメールで図書委員各位の賛否を確認することで、図書委員会の審議に代えた。

購入を否とする意見がなかったため、全員の了承を得たものとした。

出典：平成２４年度　第４回図書委員会議事録

資料８－２－①－７

図書等の購入実績（平成２４年度）

区　分	冊　数	金　　額
図　書	849冊	2，870千円
雑　誌	1，418冊	1，904千円

出典：図書館資料

資料８－２－①－８

高専コンソーシアム参加状況

No.	学　校　名	ｻｲｴﾝｽ・ﾀﾞｲﾚｸﾄ	ACS誌	AIP誌	APS誌	IEEE-All	Math SciNet	JDream	平成24年度負担金額
1	函館工業高等専門学校	280,000		107,536	78,927	1,047,915	51,820	100,000	1,666,198
2	苫小牧工業高等専門学校	280,000	626,249				0	100,000	1,006,249
3	釧路工業高等専門学校	280,000		107,536	78,927	1,047,915	56,052	100,000	1,670,430
4	旭川工業高等専門学校	280,000	280,561	107,536	78,927		53,897	100,000	900,921
5	八戸工業高等専門学校	280,000	200,600	×	×		58,123	100,000	638,723
6	一関工業高等専門学校	280,000	201,884				49,755	100,000	631,639
7	仙台高等専門学校(名取)	280,000					62,341	100,000	442,341
8	仙台高等専門学校(広瀬)	280,000		107,536	78,927			100,000	566,463
9	秋田工業高等専門学校	280,000	201,884	107,536	78,927		56,052	100,000	824,399
10	鶴岡工業高等専門学校	280,000	366,919				58,123	100,000	805,042
11	福島工業高等専門学校	280,000	250,610	107,536	78,927		60,240	100,000	877,313
12	茨城工業高等専門学校	280,000	416,851	107,536	78,927		64,425	100,000	1,047,739
13	小山工業高等専門学校	280,000	223,876				117,154	100,000	721,030
14	群馬工業高等専門学校	280,000	223,876	107,536	78,927		70,782	100,000	861,121
15	木更津工業高等専門学校	280,000	205,729	107,536	78,927		66,587	100,000	838,779
16	東京工業高等専門学校	280,000		107,536	78,927		49,755	100,000	616,218
17	長岡工業高等専門学校	280,000	223,876	107,536	78,927		60,240	100,000	850,579
18	富山高等専門学校(本郷)	280,000					74,872	100,000	454,872
19	富山高等専門学校(射水)	280,000		107,536	78,927			100,000	566,463
20	石川工業高等専門学校	280,000		107,536	78,927		51,820	100,000	618,283
21	福井工業高等専門学校	280,000	205,729	107,536	78,927		49,755	100,000	821,947
22	長野工業高等専門学校	280,000					53,897	100,000	433,897
23	岐阜工業高等専門学校	280,000		107,536	78,927		62,341	100,000	628,804
24	沼津工業高等専門学校	280,000		107,536	78,927		62,341	100,000	628,804
25	豊田工業高等専門学校	280,000					51,820	100,000	431,820
26	鳥羽商船高等専門学校	280,000					51,820	100,000	431,820
27	鈴鹿工業高等専門学校	280,000	201,884				51,820	100,000	633,704
28	舞鶴工業高等専門学校	280,000		107,536	78,927		49,755	100,000	616,218
29	明石工業高等専門学校	280,000						100,000	380,000
30	奈良工業高等専門学校	280,000	223,822	107,536	78,927		60,240	100,000	850,525
31	和歌山工業高等専門学校	280,000	250,610				49,755	100,000	680,365
32	米子工業高等専門学校	280,000					58,123	100,000	438,123
33	松江工業高等専門学校	280,000					64,425	100,000	444,425
34	津山工業高等専門学校	280,000	200,600	107,536	78,927		49,755	100,000	816,818
35	広島商船高等専門学校	280,000						100,000	380,000
36	呉工業高等専門学校	280,000			78,927		53,897	100,000	512,824
37	徳山工業高等専門学校	280,000					51,820	100,000	431,820
38	宇部工業高等専門学校	280,000					68,692	100,000	448,692
39	大島商船高等専門学校	280,000					49,755	100,000	429,755
40	阿南工業高等専門学校	280,000		107,536	78,927		49,755	100,000	616,218
41	香川高等専門学校(高松)	280,000		107,536	78,927		49,755	100,000	616,218
42	香川高等専門学校(詫間)	280,000		×	×		49,755	100,000	429,755
43	新居浜工業高等専門学校	280,000	201,884	107,536	78,927		53,897	100,000	822,244
44	弓削商船高等専門学校	280,000					49,755	100,000	429,755
45	高知工業高等専門学校	280,000	198,414	107,536	78,927		49,755	100,000	814,632
46	久留米工業高等専門学校	280,000	205,729	107,536	78,927	1,047,915	53,897	100,000	1,874,004
47	有明工業高等専門学校	280,000		107,536	78,927		58,123	100,000	624,586
48	北九州工業高等専門学校	280,000	205,729	107,536	78,927	1,047,915	49,755	100,000	1,869,862
49	佐世保工業高等専門学校	280,000		×	×		49,755	100,000	429,755
50	熊本高等専門学校(熊本)	280,000						100,000	380,000
51	熊本高等専門学校(八代)	280,000						100,000	380,000
52	大分工業高等専門学校	280,000					58,123	100,000	438,123
53	都城工業高等専門学校	280,000					58,123	100,000	438,123
54	鹿児島工業高等専門学校	280,000					49,755	100,000	429,755
55	沖縄工業高等専門学校	280,000					68,692	100,000	448,692
	高専機構本部	7,057,575							7,057,575
	国立高専　負担金額	22,457,575	5,317,316	2,795,936	2,131,029	4,191,660	2,750,944	5,500,000	45,144,460
56	大阪府立工業高等専門学校	×					×		0
57	サレジオ工業高等専門学校								0
58	都立産業技術高等専門学校						×		0
	(全高専)　負担金額	22,457,575	5,317,316	2,795,936	2,131,029	4,191,660	2,750,944	5,500,000	45,144,460

× ･･･加入中止高専　　･･･新規加入高専

出典：長岡技術科学大学附属図書館ホームページ

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム

（１）観点ごとの分析

観点９－１－①：　教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

教育活動の実態を示すデータや資料を収集・蓄積する各種委員会等を資料９－１－①－１に示す。

教務委員会及び専攻科委員会は、準学士課程及び専攻科課程のシラバス、学生成績表、答案等を通じて、教育状況の収集・蓄積・評価を行っている。各授業担当教員は回収された答案をシラバスに基づいて成績評価を行い、成績表を教務係に提出する。提出された成績表は集計され、各査定会議資料が作成される。平成24年度に教務Webシステムが導入され、各授業担当教員はシラバス作成及び成績集計をウェブ上で行えるように改善された（資料９－１－①－２）。全教員が参加する及落査定会議の「準学士課程の及落査定資料」、卒業査定会議の「準学士課程の卒業査定資料」、専攻科修了査定会議の「専攻科修了査定資料」を通じて、教育状況の収集・蓄積・評価を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

教育活動の実態を示すデータや資料は適切に収集・蓄積・評価される体制が整備され、実施されている。

資料９－１－①－１

教育活動に関する資料・データ等の一覧

No.	資料・データ	担当委員会等	収集係等	保管場所
1	シラバス（準学士課程）	教務委員会	教務係	教務係
2	学生成績表（準学士課程）	教務委員会	教務係	教務係
3	答案（準学士課程）	教務委員会	教務係	授業担当教員
4	公開授業アンケート	教務委員会	教務係	教務係
5	授業参観報告書	教務委員会	教務係	教務係
6	シラバス（専攻科課程）	専攻科委員会	教務係	教務係
7	学生成績表（専攻科課程）	専攻科委員会	教務係	教務係
8	答案（専攻科課程）	専攻科委員会	教務係	授業担当教員
9	専攻科学生へのアンケート	専攻科委員会	専攻科主事室	専攻科主事
10	及落査定資料（準学士課程）	及落査定会議	教務係	教務係
11	卒業査定資料（準学士課程）	卒業査定会議	教務係	教務係
12	専攻科修了査定資料（専攻科課程）	専攻科修了査定会議	教務係	教務係
13	学生による授業評価アンケート	授業改善専門部会	教務係	授業担当教員
14	教員の自己評価アンケート	授業改善専門部会	教務係	授業担当教員
15	学生による授業評価アンケートおよび授業改善に関する教員アンケート結果報告	授業改善専門部会	教務係	教務係
16	卒業生・修了生に対する教育目的の達成度に関する自己評価アンケート	自己評価検討委員会	総務係	総務担当課長補佐
17	卒業生・修了生に対する学生支援に関するアンケート	自己評価検討委員会	総務係	総務担当課長補佐
18	外部評価委員会報告書	外部評価委員会	総務係	総務係
19	JABEE自己点検書	JABEE委員会	総務係	総務係
20	久留米工業高等専門学校紀要	紀要編集委員会	図書係	図書係

（出典：総務課より提供）

資料９－１－①－２



（出典：久留米工業高等専門学校ウェブサイト）

観点９－１－②：　学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検･評価が､学校として策定した基準に基づいて、適切に行われているか。

（観点に係る状況）

学生を対象とする意見聴取は､「授業評価アンケート」（資料９－１－②－１、１－②－２）､専攻科課程の学生に実施する「専攻科学生へのアンケート」（前掲資料６－１－④－５）､及び準学士課程の卒業生と専攻科課程の修了生に対して実施する「卒業生・修了生に対する教育目標の達成度に関する自己評価と学生支援に関するアンケート」（資料９－１－②－３、１－②－４）がある。さらに学生会からの学習環境を含む学校に対する希望・要望（資料９－１－②－５）は、学生大会で決議され、学生主事に提出される。

学生による授業評価アンケートは､評価結果を集計し､各授業担当教員に返却される｡それを受け、各授業担当教員は、各自の自己評価アンケート（資料９－１－②－６）を作成し、提出する。それらは、ウェブ上で各教員に公開され改善に役立てている（資料９－１－②－７、別添資料９－１－②－８）。

教員に対しては、前述の自己評価アンケートの他、全教員が参加する教員会議やFD会議、校長・教務主事面談（資料９－１－②－９）を通じて意見聴取が行われる。

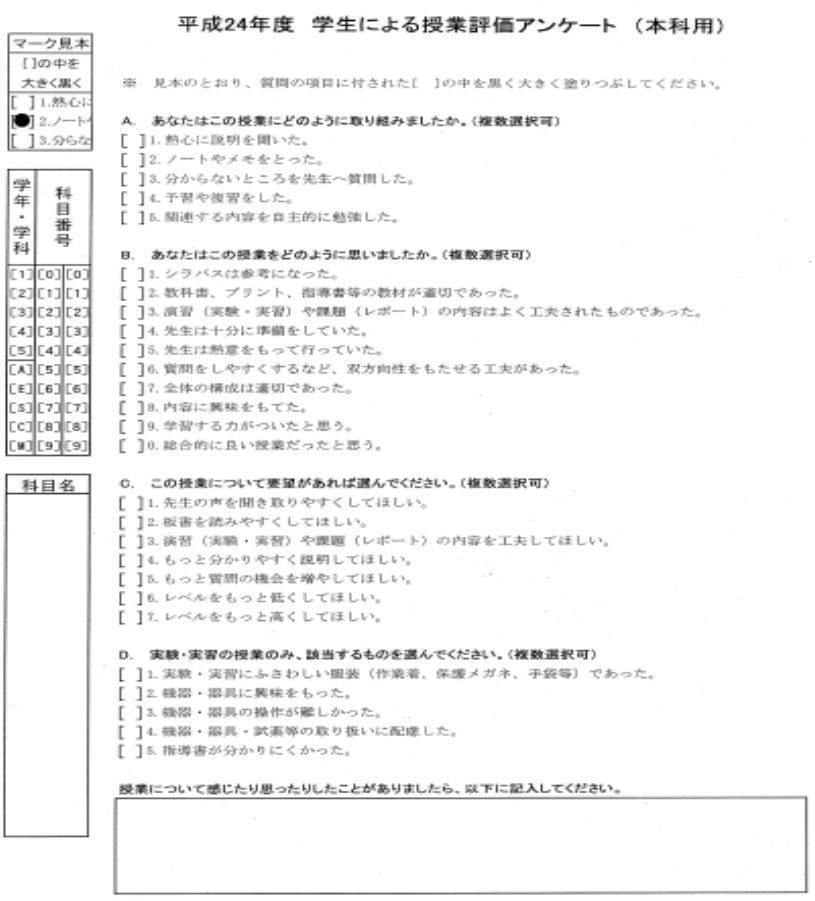
保護者からの意見聴取は、公開授業期間の授業参観の際に行われる「公開授業アンケート」（資料９－１－②－10）並びに保護者懇談会、後援会総会、後援会役員会を通じて意見を聴取し、教員にフィードバックしている。また、本校入学を目指す中学生及びその保護者に対しても学校説明会、体験入学、公開講座（資料９－１－②－11、１－②－12、１－②－13）の際にアンケート調査を行い、意見を聴取している。

学外関係者による自己点検・評価は、外部評価委員会（資料９－１－②－14)、及びJABEEによる評価、認定（資料９－１－②－15）により行っている。

（分析結果とその根拠理由）

学生、教員、保護者、入学希望者とその保護者及び学外関係者からの意見聴取が、各種アンケート、委員会や懇談会の形で実施されており、学校として策定した基準に基づいて教育の状況に関する自己点検評価が適切に行われている。

資料９－１－②－１



平成24年度　学生による授業評価アンケート（本科用）

マーク見本
[ ]の中を
大きく黒く
[ ] 1.熱心に
[●] 2.ノート
[ ] 3.分らな

※　見本のとおり、質問の項目に付された[ ]の中を黒く大きく塗りつぶしてください。

学年・学科　科目番号

[1][0][0]
[2][1][1]
[3][2][2]
[4][3][3]
[5][4][4]
[A][5][5]
[E][6][6]
[S][7][7]
[C][8][8]
[M][9][9]

科目名

A.　あなたはこの授業にどのように取り組みましたか。(複数選択可)
[ ] 1. 熱心に説明を聞いた。
[ ] 2. ノートやメモをとった。
[ ] 3. 分からないところを先生へ質問した。
[ ] 4. 予習や復習をした。
[ ] 5. 関連する内容を自主的に勉強した。

B.　あなたはこの授業をどのように思いましたか。(複数選択可)
[ ] 1. シラバスは参考になった。
[ ] 2. 教科書、プリント、指導書等の教材が適切であった。
[ ] 3. 演習（実験・実習）や課題（レポート）の内容はよく工夫されたものであった。
[ ] 4. 先生は十分に準備をしていた。
[ ] 5. 先生は熱意をもって行っていた。
[ ] 6. 質問をしやすくするなど、双方向性をもたせる工夫があった。
[ ] 7. 全体の構成は適切であった。
[ ] 8. 内容に興味をもてた。
[ ] 9. 学習する力がついたと思う。
[ ] 0. 総合的に良い授業だったと思う。

C.　この授業について要望があれば選んでください。(複数選択可)
[ ] 1. 先生の声を聞き取りやすくしてほしい。
[ ] 2. 板書を読みやすくしてほしい。
[ ] 3. 演習（実験・実習）や課題（レポート）の内容を工夫してほしい。
[ ] 4. もっと分かりやすく説明してほしい。
[ ] 5. もっと質問の機会を増やしてほしい。
[ ] 6. レベルをもっと低くしてほしい。
[ ] 7. レベルをもっと高くしてほしい。

D.　実験・実習の授業のみ、該当するものを選んでください。(複数選択可)
[ ] 1. 実験・実習にふさわしい服装（作業着、保護メガネ、手袋等）であった。
[ ] 2. 機器・器具に興味をもった。
[ ] 3. 機器・器具の操作が難しかった。
[ ] 4. 機器・器具・試薬等の取り扱いに配慮した。
[ ] 5. 指導書が分かりにくかった。

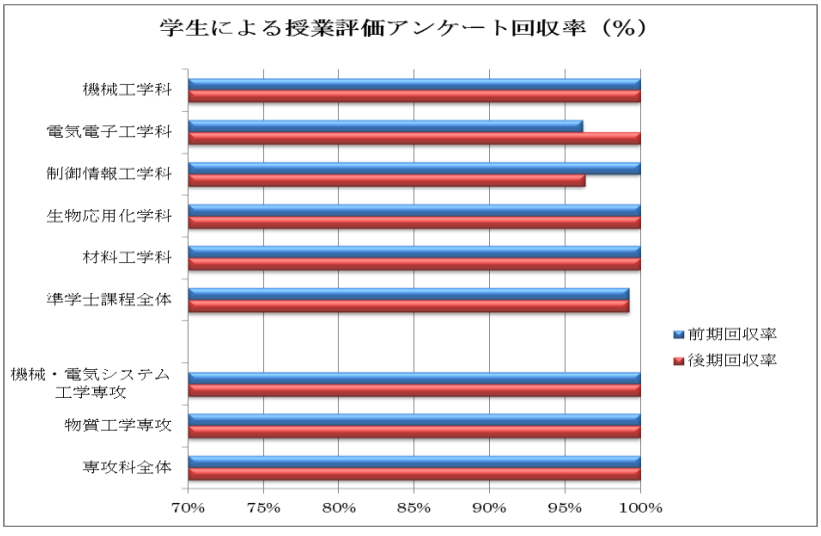
授業について感じたり思ったりしたことがありましたら、以下に記入してください。

（出典：学生による授業評価アンケート）

資料９－１－②－２

学生による授業評価アンケート回収率（平成 24 年度）

回答科目率＝回答科目数／実施科目数



（出典：学生課教務係より提供）

資料９－１－②－３

教育目的の達成度に関する自己評価アンケート

本校の教育理念
「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」

機械工学科の教育目標
ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得した、創造性豊かで国際的視野に立った実践的技術者を育成します。

教育理念、および学科の教育目標に関するアンケート調査です。 該当する回答を○印で囲んで下さい。

(1) 本校の教育理念を知っていましたか。
◎　十分知っていた　　○　ある程度知っていた
△　あまり知らなかった　　×　全く知らなかった

(2) 機械工学科の教育目標を知っていましたか。
◎　十分知っていた　　○　ある程度知っていた
△　あまり知らなかった　　×　全く知らなかった

(3) 学校生活を通して、社会のルールを遵守しながら自主的に行動する習慣が身についたと思いますか。
◎　十分身についた　　○　ある程度身についた
△　あまり身につかなかった　　×　全く身につかなかった

(4)本校の授業を通して、広い視野と豊かな心が身についたと思いますか。
◎　十分身についた　　○　ある程度身についた
△　あまり身につかなかった　　×　全く身につかなかった

(5) 本校の授業を通して、数学・物理・化学に関する基礎学力と情報処理に関する基礎能力が身についたと思いますか。
◎　十分身についた　　○　ある程度身についた
△　あまり身につかなかった　　×　全く身につかなかった

(6) 機械工学科の専門科目の授業を通して、材料と強度、機械設計、生産工学、熱・流体工学、
(5) 制御・情報技術に関する基礎的な専門知識と技術を身につけることができたと思いますか。
◎　十分身についた　　○　ある程度身についた
△　あまり身につかなかった　　×　全く身につかなかった

(7) 実験、演習等を通して、問題を分析し、解決する力が身についたと思いますか。
◎　十分身についた　　○　ある程度身についた
△　あまり身につかなかった　　×　全く身につかなかった

(8) 実験・実習、演習、卒業研究等を通して、自ら学び、工夫する力が身についたと思いますか。
◎　十分身についた　　○　ある程度身についた
△　あまり身につかなかった　　×　全く身につかなかった

(9) 英語等の演習、実験レポート作成、インターンシップ、卒業研究発表等を通して基礎的なコミュニケーション能力が身についたと思いますか。
◎　十分身についた　　○　ある程度身についた
△　あまり身につかなかった　　×　全く身につかなかった

(10) 本校の授業や学校生活を通して、将来、社会に貢献できる技術者となるための素養が身についたと思いますか。
◎　十分身についた　　○　ある程度身についた
△　あまり身につかなかった　　×　全く身につかなかった

■　具体的な意見、要望がある場合に記入して下さい。

（出典：教育目的の達成度に関する自己評価アンケート）

資料９－１－②－４

学生支援に関するアンケート

該当する回答を丸で囲んで下さい。

1. 質問に行って教えてもらう、演習やテストで間違ったところを再度説明してもらう、勉強のしかたをアドバイスしてもらう、などの学習支援を受けることができましたか？

◎　十分に受けることができた　　○　ある程度受けることができた
△　あまり受けることができなかった　×　全く受けることができなかった

2. 実験，実習，卒業研究で適切な指導を受けましたか？

◎　適切な指導を受けた　　○　ある程度適切な指導を受けた
△　指導が十分ではなかった　　×　全く受けることができなかった

3. 進学または就職に関するガイダンス，進路指導を受けることができましたか？

◎　十分受けることができた　　○　ある程度受けることができた
△　不十分だった　　×　ほとんどなかった

4. 自習を行う学習環境（教室，図書室、研究室などの施設や設備）に満足しましたか？

◎　十分満足できた　　○　ある程度満足できた
△　あまり満足できなかった　　×　全く満足できなかった

5. 図書館においてある本，参考書，雑誌に満足しましたか？

◎　十分満足できた　　○　ある程度満足できた
△　あまり満足できなかった　　×　全く満足できなかった

6. クラブ活動や学生会活動などの課外活動での学校側の支援や助言に満足しましたか？

◎　十分満足できた　　○　ある程度満足できた
△　あまり満足できなかった　　×　全く満足できなかった

7. 困った事や悩み事があるときに相談できる教職員はいましたか？ いた場合には教職員の役職名を記入して下さい(先生の個人名ではなく、担任，学生相談室教員、寮務事務員などの役職名を記入)

○　相談できる教職員がいた(　　)　　×　いなかった

■ 具体的な要望や意見がある場合に記入して下さい(裏にも記入可)。

（出典：学生支援に関するアンケート）

資料９－１－②－５

2013年1月22日

久留米工業高等専門学校　学生主事
櫻木　功　様

学生大会にて承認された要望について

2013年1月16日に開催された学生大会では、就職説明会や授業の関係で委任状数が多くなりましたが、無事開催、終了することができました。

さて、覚醒に記載している要望案について、要望が実現されれば、より学生の活動を広げる第一歩となると考えます。学生大会にて承認されましたので、これらの事案を学生の総意とし、学校に下記の通り要望いたします。

2013年度中央執行委員会
委員長　松浦　紅

1. 中央執行委員会の祭事局の名称・業務の変更

現在、祭事局の業務内容としては、各学生行事での実行委員会との連携が主となっています。しかし、実際には実行委員会との連携だけでは局としての活動範囲が小さく、「局」として必要とはいえない状況です。そこで、業務内容を今までの業務に加えて、久留米高専内部に限らず、外部あるいは他高専との連絡係という業務での運営とすることにいたしました。主となる業務内容を渉外関係としますので、名称を「渉外局」と変更し、業務内容の変更を要望いたします。

2. 学生便覧の訂正案

上記の事案に伴い、学生便覧の改正を要望いたします（平成24年度学生便覧参照）。

<u>改正前</u>

9. 学生会
(3) 総務、文化、体育、祭事局細則
第２条　各局に次の部を置く。
一　総務局　庶務部、渉外部

（出典：平成24年度学生会との打合せ資料）

資料９－１－②－６

平成２４年4月１８日

教員各位

教務主事

授業改善に関する教員の自己評価アンケートについて(依頼)

例年、学生による授業評価アンケートの回収にご協力いただきありがとうございます。平成 23 年度アンケートの基本集計が終わり、ご担当科目のアンケート用紙と集計表とを総務課のメールボックスに返却しておりますのでご確認ください。

また、これを受けまして平成 23 年度の授業改善に関する教員の自己評価アンケートを実施致しますので、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

学生による授業評価アンケート結果あるいは日頃の授業の状況を考慮いただき、授業で心がけている点や工夫している点、今後の課題等について下の記入欄に記入の上ご提出ください。ご担当の先生方には実験・実習科目に対してもお書きいただければ幸いです。

文字数に制限は設けておりません。記入が終わりましたら、ファイル保存後に、所定のアドレス opinion@ON.kurume-nct.ac.jp に送信願います。保存されない等のトラブルが生じた場合は、メール文章に文面を貼りつけて頂き、同アドレス宛にお送りください。

なお、文書の記入・保存には、シラバスと同様に Adobe Reader 7 以上のバージョンが必要です。

お書きいただいた内容は、授業評価に関する報告書に転載し、外部評価を受ける際の資料とさせていただく場合もありますのでご了承願います。ご不明な点は小田教務主事補（内線 9343）までお問い合わせください。

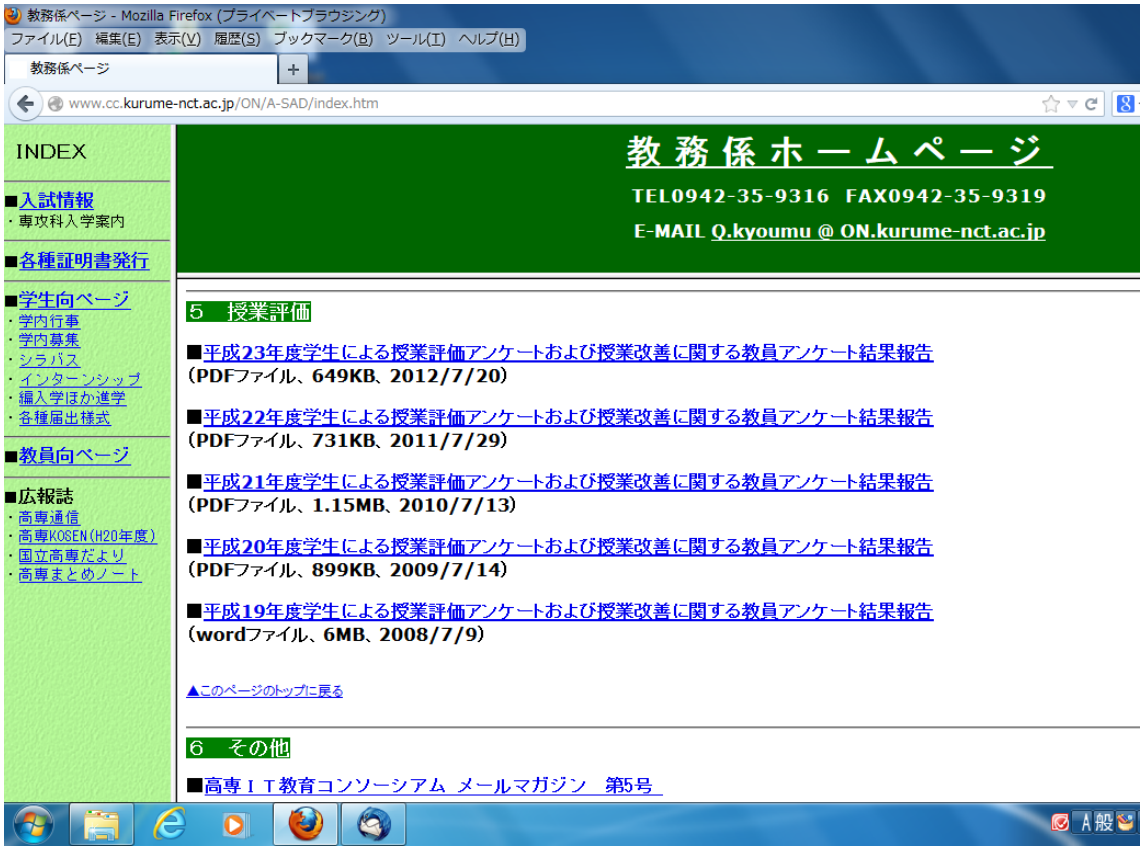
締切：平成 24 年 4 月 25 日（水）

所属学科 選択してください　　氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

記入欄

（出典：教員の自己評価アンケート）

資料９－１－②－７



（出典：久留米工業高等専門学校ウェブページ）

資料９－１－②－９

平成２２年１１月１３日

全　教　員

校　　長

教員個別面談について（通知）

機構本部からの要請を踏まえ、教員の個別面談を実施することにつきましては、これまで教員会議等を通じてお知らせしてきたところですが、このたび下記のとおり実施することと致しましたので、宜しくお願い致します。

なお、今回の個別面談の実施日以外でも、教育研究等に係る相談事がございましたら、総務課総務係を通じて日時を調整の上、お気軽に校長室にお越しください。

記

１　趣　旨

教員の個別面談を通じて、勤務実態や健康状態等を把握し、もって本校における円滑な教育研究活動の推進に資する。

２　日　時

平成２２年１１月１６日（火）～１２月２４日（月）を基本として、各自の希望を聴取の上、教育研究等に支障のないように調整する。

なお、当該期間内に日程が調整できなかった者については、本年度末までに日程を調整して実施する。

３　内　容

一人１０分程度とし、主として次の事項について個別に面談を行う。

・勤務実態について（勤務上の悩みや問題を抱えていないか）

・健康状態について（心身の健康状態について悩みや問題を抱えていないか）

４　担　当

校　　長：機械工学科、制御情報工学科、材料工学科、一般科目（文科）

教務主事：電気電子工学科、生物応用化学科、一般科目（理科）

５　日時の調整

校長担当分：別紙日程表に希望の日時を記入してファイル添付又は同表中の希望日時をメール本文に記載の上、直接メールで校長宛てに連絡すること。（pr-ueda@kurume-nct.ac.jp）おって、日時等を直接本人宛てにメールで行います。

教務主事担当分：本人と直接日時の調整を行います。

６　その他

・面談により得られたプライバシーに関する情報は秘密厳守します。

・本面談により勤務評価を行うものではありません。

以　上

（出典：教員個別面談についての案内）

資料９－１－②－10

平成24年度　久留米工業高等専門学校公開授業参観アンケート

学年	回収枚数
1	66
2	31
3	6
4	5
5	2
無記名	0
合計	110

＊参考：参加延べ人数

学年	4月23日	4月24日	4月25日	参加者数
1	30	25	23	78
2	14	12	9	35
3	3	1	4	8
4	1	2	2	5
5	1	0	1	2
合計	49	40	39	128

アンケート結果

設問	A	B	C	D	無回答
1	73	37	1	1	1
2	37	68	2	0	3
3	19	85	8	0	2

1-☆

（午前）　―

（午後）　・B･･･できれば土曜日等に振り替え実施

4

（午前）

1年　・英語の授業を見学しました。文法の説明が大変詳しく分かりやすかったです。例文もたくさんだして頂いて実のある授業内容でした。生徒の解答が間違っていても優しく対応してあって、温かみがありました。生徒の熱心さが（数人うとうとしている子がいて）少し足りない様なので何回か全員で英文を声に出して読ませると、もっと良いのではないかと思いました。
・英語、ヒアリング、読みが少ないように思えた。
・大変参考になった。可能であれば、回数を増して戴ければありがたい。
・授業に関する事ではないのですが･･･学生による掃除の方はどうなっているんでしょうか？廊下などに虫が死んでたりしているので･･･。
・教室内がゴミが落ちていても誰も気にせず、授業中にガムを食べていたりそのゴミも落ちていた。土足ということもあり、埃や土もあり、休み時間と授業中のギャップにびっくりしました。もう少し掃除をした方が気分的にも授業を受ける態度も変わっていいと思いました。服装の乱れも気になりました。本人が気をつけることだとは思いますが入学してから1ヶ月もたっていないのにギャップに･･･。
・日程表を先に頂いたのですが、スケジュール（授業課目スケジュール）表をと一緒に頂くと良かったかなと　思います。
（英語が好きだったので英語の授業を見て見たかったです。）
先生はノートを取り終わるのを確認してから、次に進んでおられたので良かったと思います。
子供達は、真剣に授業に取り組んでいて安心しました。
・子供が真面目に勉強している様子が見られて良かったです。
・参観日が年1回ではなくもう1回ぐらい増やして頂けたらと思います。
授業の雰囲気が知れて良かったです。安心しました。ありがとうございました。
・公開授業などを行われていると入学してから知りました。来てよかったと思いました。
・授業全部を見たかったのですが、長い時間立っていられないので30分しかいられませんでした。椅子などがあると助かります。
・長時間参観する方もいらっしゃると思うので、椅子を用意して頂けるとうれしいです。
・授業時間が長いので椅子があれば大変助かります。
・学生さんも先生の質問等きちんと受け答えができてたと思います。入学後、初めての参観で安心致しました。わざわざ、「教室の中へどうぞ」とお声を掛けていただきありがとうございました。本日は、廊下にて参観させていただきました。
・公開授業の期間が長いので保護者同士の交流ができない。もっと保護者同士が情報交換する場がほしい。
・椅子が欲しかったです。
・お忙しい中、公開授業を設定して下さって、どうも有難うございました。
意に入っていて、学校の様子を聞けないので、このような機会を設けて

・できれば、年2回とか、こころみて下さるとうれしいです。
・事前に時間割や教室配置図を配布して下さると計画も立てやすいです。
・授業を窓ごしから見るので、教室によっては、全く見にくい所もあったのが、残念でした。
・全学年あるので、近い将来の姿は見られたのは、よかったです。
・来年からは、クラスの配置図をつけてほしい。
（昨年も今年も少し雨でした。来年以降は、晴れるといいなぁ？）
・もう少し、話し方にメリハリがあると授業がおもしろくなるかも･･･（ユーモアを交えて話して頂くと良いと思います。）子供たちは、真剣に授業を受けていました。有難うございました。

3年　・先生方が大変親切で良かったです。真剣に授業を受けているのが伝わって良かったですし、とても楽しそうでした。今後も、よろしくお願い致します。

3．5年　・中国語では出入口が前方にありましたので、出ずらくて長居してしまいました。先生が気を遣われたと思います。すみませんでした。

4年　・昨年も来ましたが、授業態度がずい分良くなっていました。（ゲーム機や携帯を扱っている子は誰もいませんでした）
もう少し多くの方が来られるともっといいかもしれませんネ。
・学年もあがって、授業も熱心に聞き入っている様でした。留年せず、全員進級を目指して欲しいです。
・いろんな生徒に当てて、授業に参加させようと努力して下さったので、学生は私語も少なく真面目に授業を受けていたので良かったと思う。
・一生懸命ノートをとっていたが、分かる分からない等の意思表示がないので、先生はやりにくいのでは･･？と感じた。ご苦労も多い事と思いますが、宜しくお願い致します。
・意外に真面目に授業に取り組んでいて、安心しました。授業を参観する機会があってとても良かったと思っています。少し教室に入りづらい（参観者が少ないため）ようでしたが、受付でもていねいに対応していただき、助かりました。

5年　・演習と講義を見学させていただきました。5年生になると専門的で高度な内容ですが、皆熱心に取り組んでいる姿が印象的でした。日頃の様子をうかがい知ることができ、我が子が意外に熱心に勉強している姿に安心しました。

（午後）

1年　・講義があっているのに廊下を通る学生がうるさすぎます。もう少しマナーの面も注意して頂きたいと思いました。
・本科授業を見る機会を与えて頂きありがとうございました。どのように学んでいるのか、入学してからずっと気になっていたので自分の目で見る事が出来て安心しました。
・まだ授業の行なわれているクラスの前を通る学生達が騒がしかった。静かに通ってほしいですね。
・学校の事をあまり話してくれないから公開授業があると、少し学校の事が見えてくるので安心します。
・公開授業に関してではありませんが、学生と出会ってもぜんぜん挨拶等が有りません。高専なのでそういう事に関しては、どうでも良いという考えなのかもしれませんが、私はどこの世界でもまず挨拶は必要だと思います。特に海外で仕事を私はする機会が有りますが、まず挨拶から人とのつながりが始まる、それが物事がスムーズにいく第一歩です。だから、挨拶は必要ではないでしょうか。

1年　・なかなか部屋の中に入れる雰囲気ではなかったので入口の扉を開けていただいて、後ろに椅子でもあれば入れるかなぁと思いました。
・もう少し見たかったのですが、100分は立っていられませんでした。後ろのスペースが空いていたので椅子があれば良かったと思います。
・100分の授業、先生もとても大変だろうと思いました。授業はとても分かりやすかったです。
・学生さんの挨拶が気持ちよかったです。
・他の父兄があまりいなかったので、浮いてしまい、居心地が多少悪かった。子供達が気にするので、授業風景は見ずに帰りました。
・小学校、中学校では公開の為の授業を参観の時はされていました。三日間なので、その様に時間割を変更される事ができれば参観の保護者も増えるのではないかと思いました。体育の授業はクラスの輪ができつつある感じが分かり良かったのですが、参観者が一人だったのでさみしかったです。

2年　・参観の機会を設けて頂き、ありがとうございました。
・参観させていただきありがとうございました。生徒達には厳しく鍛えてあげて下さい。どうぞよろしくお願い致します。
・授業の様子が分かり、見学できて良かったです。
・参観者が少なく、中に入る雰囲気ではなかったけど、何となく授業を観ることが出来てよかったです。（昨年は来なかったので）

3年　・板書しながら分かりやすい説明をされながら講義をされていたことから非常にありがたいと感じた。
一方、学生は寝ている者もおり、授業を受ける態度かと思えるような姿勢の者もおり、多少びっくりする面も見受けられた。勉強したい者はし、したくない者はしなくてもよいという校風なのかもしれないが･･･。
・授業の様子、本人の様子を見ることができ、安心した。堂々と眠っている生徒もいたが「社会人として通用する態度を身につける」という観点からの指導も授業内容と同時にお願いしたいと思いました。ありがとうございました。
・あまり学校に来る機会がないので、ありがたいです。とてもいい雰囲気でした。

（出典：公開授業アンケート集計結果より抜粋）

資料９－１－②－11

問８．又は１１．　今日の学校説明会について、感想をお書きください。（何でも結構です）

保護者 大変興味深かったです。
詳しく説明を聞けて、大変参考になりました。ありがとうございます。
大変、進路を決めるにあたり、参考になりました。
おおよそ分かったので安心しました。
夏休み中の体験入学を出来れば2学期にも開催してくれると助かります。見学会には、実際の学生さんの声も聞いてみたいと思いました。
よく理解出来ました。
よく理解でき、参加させて頂き、良かったと思います。
直接お話して聞くことが出来て、よく分かりました。久留米高専に頑張って入学できればと思います。
技術的にも向上出来る学校だというのが分かって良かったと思います。子供が自分のやりたい事を思う存分やれるなら一番いい学校だと思う。
もっとたくさんのものを見学したかった。1日かけて見ていたいと思いました。全てのものが参考になります。
一つ一つでゆっくりお話が聞けて良かったのですが、時間が足りず、一部しか回れなかったのが残念です。
分かりやすく参考になりました。
分かりやすかったが、マイナス面も話してほしかった。例えば、途中退学・素行面・人間関係・本校に合わなかった学生のことなど・・・。
学科別の雰囲気等を感じることができました。
説明を聞いて、又、見学させていただいて貴校の素晴しさが理解出来ました。是非合格してほしいです。
本人は、体験等で何回も来ていたので来てみましたが来て良かったです。是非、頑張って入学してほしいと思います。
学生の方が熱心に説明して下さって、楽しく見学できました。
落ち着いた説明でお話が分かりやすかったです。各学科の先生方、学生さんも積極的に話しかけてくださり、益々、受験・入学できればと思いました。
普通の高校とは違うので、とにかくどんな学校なのかを見に行こうと思って来ました。子どもがどうしても入りたいと言うので、何とか希望が叶えられるように親としてもサポートしようと思います。来て見て安心しました。
もっと機械が動いているところや学生がしているところを見たかった。一つ一つもっと見たかったが時間が足りなかった。
見学時間が短すぎる。
今回は学科の学習内容や受験に関する事がよく理解出来ました。大学進学へのミニ知識もあり、子供を大きく成長させて頂ける学校だと再確認致しました。来させて頂く度に本当に入学できれば良いなと思います。
1日見学会と今日の説明会に参加し、学校の内容が少し分かった。
ただ、5年間、クラス替えがないのでうまくいかなかったらと少し不安でした。ありがとうございました。
今日の説明会はとても分かりやすかったです。学校見学会は色々見ることが出来て面白かったです。寮がとても良くてみんな優しそうな人達ばかりでした。
季節・天候もよく、先生方、学生さん方、細やかに対応下さり、本当に入学してこちらの学校で学ばせていただきたいと思いました。
本人の努力に期待致します。
学生さんの説明が良かったです。
分かりやすかった。
とても分かりやすい説明でした。
学科の特徴が分かりやすく、楽しく見学できました。
勉強になりました。
体験入学では分からなかった実際の学生様方の様子や授業の雰囲気を拝見できて、とても良かったと思います。まだ中2なので再来年、希望学科へ

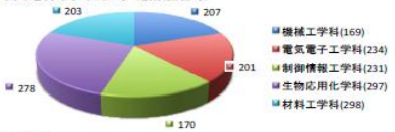
（出典：学校説明会アンケート集計結果より抜粋）

資料９－１－②－12

一般（昨年度のデータは、文・理の合計）



５．どの学科に興味を持ちましたか。（複数回答可）



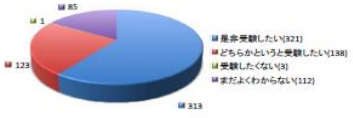
６．一般の授業の感想

６ページ以降に掲載。

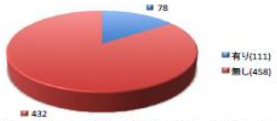
７．一日体験入学の内容について



８．一日体験入学に参加して久留米高専を受験しようと思いましたか。



９．一日体験入学で他にやってほしいことがありますか。



「やってほしいこと」の記述内容は、18ページ以降に掲載。

１０．一日体験入学に関する感想

20ページ以降に掲載。

（その他）

過去３年間の傾向を調べたところ、５ページの表１に示すような結果となった。参加総数が年によって異なるので、アンケートの各項目を参加総数に対するパーセンテージで表示した欄に注目していただきたい。

気になるのは、「よく理解できた」、「だいたい理解できた」の項目が年を追うごとに減少している全体的な傾向が見られることである。体験授業の内容は、この３年間ほぼ同じ学科や、毎年改善している学科など、様々な対応を取っていると思われるが、その対応の効果よりも、中学生の学力（あるいは気力？）に依存していると思われる理解度が低下している点には留意が必要だろうと思われる。また、体験入学への参加理由が、「興味を持ったから」という参加者も漸減しており、主体的に参加を希望している中学生が減少している傾向が見て取れる。

一方、ホームページを見て参加を決めている中学生は徐々に増えており、ホームページの充実はそれなりの効果が期待できる。さらに、体験入学の授業時間に対する不平はあまり見られない傾向は変わりなく、体験入学を通して「是非受験したい」という中学生は、着実に増えている傾向も伺える。

以上のことから判断すると、体験入学というスタイルは保ったまま、授業内容について、より中学生の理解度が深まるような改善と、ホームページの充実が求められている、ということになるであろう。

（出典：一日体験入学アンケート集計結果より抜粋）

資料９－１－②－13(1)

平成２４年度小学生向け公開講座アンケート集計

8. 感想（小学生用）

・はんだづけが難しかった。
・少し難しかったけど、いい作品が作れてよかったです。
・はんだごてを初めて使ったけど、よく使えてよかったです。
・こんなに小さくて軽いラジオが、こんな部品で作れるとは知りませんでした。
・あまりできないことができて、すごく良かったと思います。今日は、ありがとうございます。
・家でもやりたいと思った。
・ラジオが聞こえたのがすごかった。溶かすのがおもしろかった。
・楽しかった。
・ラジオを自分で初めてつくってみて、難しさも感じたけどラジオの電波がつながった時は、とてもうれしかったです。また、自分の興味のある講座があったら参加したいです。
・はんだごてをはじめて使ったので、最初はつけるのにとまどいましたが、回数がふえることに上手につけられるようになりました。けむりがすごーくくさかったですが・・・。でも、けがも間違いもなく、ちゃんとラジオがつくれて楽しかったです。先生の進め方も、少々早かったですが、大丈夫でした。同じような企画があれば参加したいと思いました。

8. 感想（保護者用）

・このような機会があれば、また参加したいと思います。今日はありがとうございました。
・子供に電子工作の楽しさを教えることができました。ありがとうございました。
・久しぶりに電子工作（見ていて）楽しかったです。ありがとうございました。
・ハードウェアの工作もさることながら、これからはソフトウェアの重要度が上がっているように思います。小学生でも理解できる程度の体験講座でもかまいません。
・楽しく学習できました。孫も興味を持ってやっていました。ありがとうございました。
・子供が喜んでいたので、非常によかったと思います。
・楽しいひとときでした。ありがとうございました。
・子供は理科や工作が好きなので、無料でいい経験ができ、よかったと思う。
・子供が「作ったものが動く」ということに楽しみを感じることが出来て良かったです。ありがとうございました。

平成24年度久留米高専　公開講座「体験！数学ワンダーランド」アンケート

※今後の本校開催の公開講座の参考資料としますのでアンケートにご協力ください

【回答数　43名】

7. この公開講座に対する感想や意見があれば自由に書いてください

・久留米高専は進み方も早く、内容が少し難しかったです。このスピードに慣れるように頑張りたいです。
・算学は奥が深くて面白かった。
・授業の内容も深く考えるような内容で、普段の授業とは違って楽しく勉強出来た。
・数学は奥が深くて難しかったです。これから使える知識を学習できてとても良い経験になりました。
・特にないです
・数学にはまだ知らない世界があることを今回の学習で改めて知った。まだ完全に教えてもらってないのでもっと知りたいと思いました。今までにない新しい経験をすることが出来たのでよかったと思いました。
・今まで知っていた数学とは全く別の考え方や“数”が出てきて面白かった。
・思ってた以上に奥が深い内容だったので理解が少し遅れました。しかしとても面白かったです。
・今日の授業の数学はとても楽しかったです。内容は難しかったけどとてもためになりました。またこのような公開講座に参加したいです。
・難しいところがあったけど、学校じゃない体験や経験が出来てよかった。
・先生のジャパネットたかた並みのテンションが（笑）でした。モテるためにはどうすれば良いですか？
・むずかしかった
・まだまだ自分には知らない数学があるんだな～と思った。もっともっと数学を学んでいきたいと思った。
・結構難しかったけど、高校の勉強を少し知れたのでよかった。
・久留米高専のことを全く知らなかったけど少し分かることが出来てよかったです。
・数学好きなので聞いててとても面白く感じました。ありがとうございました。
・フィボナッチ数列が分かりやすくて大変面白かった。
・とても難しかったです。
・校内の紹介を少し増やした方が良いと思う。
・２年なのでまだ２次方程式なども習ってなくて難しかったけど、だからこそ基礎は大事だと改めて思った。
・自分の全く知らなかった数学の概念や知識を学べたのでよかった。とても勉強になった。先生方がとても真面目だし、面白く、大切なところを分かりやすく教えて下さったのでありがたかった。
・ロボットコンテスト部を見たかった。
・今回の学習する内容がとても難しくて、ノートにまとめたり、プリントを見てもあまり理解が出来ませんでした。久留米高専の入試やその後の学習でも今回学んだことを参考にしたいです。
・難しい講座だったけれど、楽しかったです。ありがとうございました。
・高校で学習する内容を少しでも知れてよかったです。
・高専で学習するレベルが想像以上に難しかった。
・僕は今日の講座で、数学に対する興味心が増えました。もし高専に受かったら、数学の研究をしてみたいなと思いました。今日、自分のためになったのでよかったです。
・難しくて分からない内容もあったけど、フィボナッチ数列の話とか面白い話が聞けてよかったです。
・複素数が結構難しくてやりがいがあった。
・楽しかったです。今日、教えて頂いた事を日常生活にも活かしたいです。（指数関数など）

（出典：公開講座アンケート集計結果より抜粋）

資料９－１－②－13(2)

2012.11.30

公開講座 公差設計に関する講習会 参加者アンケート 回答 5

このたびは，3D-CAD 公開講座(公差設計に関する講習会)を受講していただきありがとうございました．多々至らない点があったと思いますがご容赦下さい．なお，今後の参考とさせていただきたいので，以下の項目であてはまるものに☑を入れてください．よろしくお願いします．

1）今回の公開講座の企画や内容は有意義でしたか？

□かなり有意義だった　(4)有意義だった　□あまり有意義でなかった　□有意義でなかった

2）講座内容について御意見をお聞かせ下さい．

2-1）公差設計基礎講座の内容は適切でしたか？

□とても適切だった　(5)適切だった　□適切でなかった．

⇒どういった内容が良いかを下お聞かせ下さい

・仕事上，普段統計学を用いることがないが，説明や実習を通して，仕事に役立てられそうなことが発見できた．

・講義の中に演習を入れながら説明いただければ短時間でも理解しやすいと思います．

2-2）手計算による公差解析演習の進め方や説明の仕方は，適切でしたか？

(1)とても適切だった　(4)適切だった　□適切でなかった．

⇒どういった点が適切でなかったかをお聞かせ下さい．

・ホワイトボードとスライドを使って説明いただき，わかりやすかったです．

2-3）パソコンを用いた公差解析演習の進め方や説明の仕方は，適切でしたか？

(1)とても適切だった　(4)適切だった　□適切でなかった．

⇒どういった点が適切でなかったかをお聞かせ下さい

3）今回の公開講座のテキストの内容についてお伺いします．

3-1）テキストの説明には満足して頂けましたか？

□とても満足した　(5)満足した　□満足できなかった

⇒どういった内容が満足できなかったかお聞かせ下さい

・講義の中に演習を入れながら説明いただければ短時間でも理解しやすいと思います．

3-2）テキストの図の配置や構成には満足して頂けましたか？

(1)とても満足した　(4)満足した　□満足できなかった

⇒どういった内容が満足できなかったかお聞かせ下さい

・後で見直しやすく，満足しています．

裏面へ続く

（出典：公開講座アンケート集計結果より抜粋）

資料９－１－②－14

平成23年度外部評価委員会　開催要項

１．実施日　平成２４年１月３１日（火）

２．時　間　１３：３０～１６：００

３．会　場　久留米工業高等専門学校　大会議室

４．参加者　外部評価委員、校長、主事、学科長、産学民連携テクノセンター長、図書館長、学生相談室長、企画主事補

５．進行要領

司会：企画主事

（１）開会の挨拶

（２）参加者紹介

（３）委員長選出

（４）自己点検・評価報告及び質疑討論
①久留米高専の教育の現状と改善活動について（教務主事）
②久留米高専におけるエンジニアリングデザイン教育と産学民連携について（産学民連携テクノセンター長）

（５）委員長講評

（６）閉会の挨拶

（出典：外部評価委員会開催要項）

資料９－１－②－15



機械工学プログラム



電気電子工学プログラム



制御情報工学プログラム



生物応用化学プログラム



材料工学プログラム

（出典：JABEE 認定証）

観点９－１－③：　各種の評価の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され、教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

本校では、企画委員会（資料９－１－③－１）及び自己評価検討委員会（資料９－１－③－２）を組織し、独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画・中期目標に基づく学校全体の年度計画を策定し、継続的な教育・研究の改善を進めている。これらの改善を実施する本校のPDCAシステムを資料９－１－③－３に示す。企画委員会において学校全体の年度計画を策定し、その内容を各実行部署の担当がわかる形（資料９－１－③－４）で伝達している。それを受け、各実行部署ではそれぞれの年度計画を追加し、PDCAサイクルを回している。これらの内容は、自己評価検討委員会で集約し、独立行政法人国立高等専門学校機構に報告している。さらに、これらの内容は外部評価委員会やJABEEにより点検を受け、評価結果をウェブ上（資料９－１－③－５）で公開している。

教育課程の改善に関しては、平成24年４月に教育課程表等の改善検討専門部会（資料９－１－③－６）を設置し、具体的な改正の検討を進めている。

（分析結果とその根拠理由）

学校全体のPDCAサイクル、各実行部署のPDCAサイクルが構築されている。また、長期的な教育計画や授業改善についても各学科や学生の意見､要望を分析して改善する検討部会が設置されている。

資料９－１－③－１

久留米工業高等専門学校企画委員会規則

平成２０年　４月　１日制定

（趣旨）

第１条　久留米工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校の将来構想・計画等を検討するため久留米工業高等専門学校企画委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（検討事項）

第２条　委員会は、校長の諮問に応じて、次の各号に掲げる事項を検討する。

(1)　将来構想・計画に関する事項
(2)　教育・研究組織に関する事項
(3)　施設・設備に関する事項
(4)　中期目標及び中期計画の立案に関する事項
(5)　その他校長が諮問した事項

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1)　教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科主事及び企画主事
(2)　各学科長及び一般科目（理科系、文科系）学科長
(3)　企画主事補
(4)　図書館長、総合情報センター長、産学民連携テクノセンター長及び学生相談室長
(5)　事務部長
(6)　総務課長及び学生課長
(7)　その他校長が必要と認めた者

（出典　企画委員会規則より抜粋）

資料９－１－③－２

久留米工業高等専門学校自己評価検討委員会規則

（平成１８年３月１６日制定）

（設置）

第１条　久留米工業高等専門学校における自己評価、認証評価及び外部評価に関する事項を検討するため、自己評価検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（任務）

第２条　委員会は、次に掲げる事項について審議し、必要な事項を実行する。

(1) 自己点検及び自己評価の基本方針に関すること。

(2) 自己点検及び自己評価の実施体制並びに実施方法に関すること。

(3) その他自己点検及び自己評価に関すること。

(4) 認証評価に関すること。

(5) 外部評価及び外部評価委員会に関すること。

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。なお、委員の兼任を認めるものとする。

(1) 教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科主事及び企画主事

(2) 各学科長及び一般科目（文科系、理科系）学科長

(3) 企画主事補

(4) 図書館長、総合情報センター長、産学民連携テクノセンター長及び学生相談室長

(5) 事務部長

(6) 総務課長及び学生課長

(7) その他校長が必要と認めた者

２　前項第７号の委員の任期は、１年間とする。ただし、再任を妨げない。

３　前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

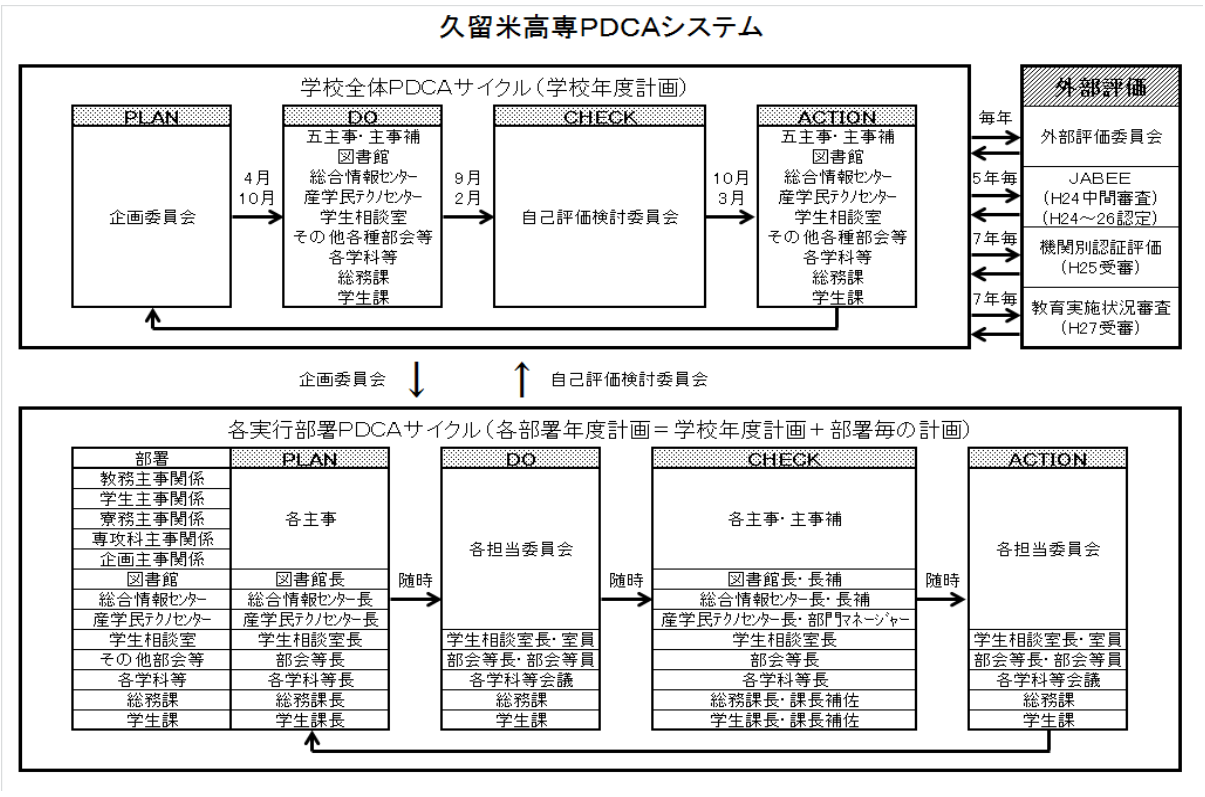
（委員長）

第４条　委員会に委員長を置く。

２　委員長は、企画主事をもって充て、委員会を招集し、その議長となる。

（出典　自己評価検討委員会規則より抜粋）

資料９－１－③－３



（出典：平成25年度第2回学科長委員会資料）

資料９－１－③－４

平成25年5月23日
企画主事

平成25年度　年度計画・機関別認証評価・JABEE項目 関係部署対応表(案)

【最左欄】
ローマ数字：年度計画に記載の項目
認(イタリック)：年度計画になく機関別認証評価に記載の項目
JB(イタリック)：年度計画,機関別認証評価になくJABEEに記載の項目
空白(イタリック)：年度計画,機関別認証評価,JABEEになく実施している項目(赤は第2回企画委員会後追記)

							教務主事	学生主事	寮務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報センター長	産学民TLO長	学生相談室長	教育支援室長	就職主任	教育課程部会	授業改善部会	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	総務課	学生課
						Ⅰ 業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置																						
						1 教育に関する事項																						
						(1)入学者の確保																						
1	認	4	1	①		アドミッション・ポリシーの教職員への周知および社会への公表	○			○																	○	○
2	認	4	2	②		アドミッション・ポリシーに基づく入学者選抜の実施	○			○																		○
3	認	4	3	①		実入学者数の適正化	○			○																		○
4	Ⅰ	1	(1)	①		教員による中学校訪問	○																					○
5	Ⅰ	1	(1)	①		学校説明会・見学会の実施	○																					○
6	Ⅰ	1	(1)	①		高専合同学校説明の実施	○																					○
7	Ⅰ	1	(1)	①		入試説明懇談会の実施	○																					○
8	Ⅰ	1	(1)	②		一日体験入学の実施及び募集のための中学校訪問	○																					○
9	Ⅰ	1	(1)	②		中学生やその保護者に対する学校見学対応	○																					○
10	Ⅰ	1	(1)	②		学科別公開講座の実施														○	○	○	○	○	○	○	○	
11	Ⅰ	1	(1)	②		女子中学生向けパンフレットの活用	○																					○
12	Ⅰ	1	(1)	②		女子寮のPR	○		○																			○
13	Ⅰ	1	(1)	③		中学校への本校紹介情報充実	○																					○
14	Ⅰ	1	(1)	④		有明高専との福岡市入試同一試験会場開設	○																					○
15	認	4	2	②		アドミッション・ポリシーの検証とそれに基づく入学者選抜方法の改善	○			○																		○
16	Ⅰ	1	(1)	⑤		入試成績と入学後の成績調査に基づく入試制度の検討	○																					○
17	Ⅰ	1	(1)	⑤		数学診断テストの実施による入学者学力水準確認	○																			○		○
18	Ⅰ	1	(1)	⑤		英語外部評価テストの実施	○																		○			○
						入学動機に関するアンケート調査実施	○																					○
						過去の入試問題・解答の公表	○																					○
						(2)教育課程の編成																						
19	認	1	1	①		学校・学科・専攻科毎の教育目標の内容確認	○			○										○	○	○	○	○				
20	認	1	1	①		学校・学科・専攻科毎の教育目標の教職員及び学生への周知	○			○										○	○	○	○	○				○
21	認	1	1	②		学校・学科・専攻科毎の教育目標の社会に対する公表	○																				○	○
22	認	5	2	②		シラバスの作成と活用	○			○										○	○	○	○	○	○	○		○
23	認	5	3	①		特別活動の実施	○	○																				○
24	認	5	4	①		成績評価・単位認定・進級認定・卒業修了認定の学生への周知および適切な実施	○																					○
25	JB	5		(2)		編・転入生が他高等教育機関で取得した単位の評価と補講の実施	○			○										○	○	○	○	○				○
26	JB	5		(4)		専攻科生の学位授与機構への学位審査申請				○																		○
27	JB	5		(4)		学位認定者のJABEEプログラム修了認定および認定の通知				○										○	○	○	○	○				
28	Ⅰ	1	(2)	①②		教育課程表及び教務に関する規程の諸問題の検討	○											○										○
29	Ⅰ	1	(2)	①②		モデルコアカリキュラム検討による平成26年度シラバスへの反映	○											○										○
30	Ⅰ	1	(2)	①②		地域や学生のニーズの調査	○																					○
31	Ⅰ	1	(2)	①②		学科の大括りやコース制導入高専の動向調査	○																					○
32	Ⅰ	1	(2)	①②		学科の大括りやコース制の導入検討	○				○																	○
33	Ⅰ	1	(2)	①②		新分野の学科設置の可能性検討	○				○																	○
34	Ⅰ	1	(2)	①②		専攻科のインターンシップ産学連携共同教育等の検討				○				○														○
35	Ⅰ	1	(2)	①②		高専間教員交流の実施	○													○	○	○	○	○	○	○	○	○

（出典：平成25年度第2回学科長委員会資料より抜粋）

資料９－１－③－５



書類名	概要	ファイル情報
平成25年度　年度計画	久留米工業高等専門学校の平成25年度年度計画です。	計画書全体 (PDFファイル307kB) ダウンロード
平成24年度　年度計画	久留米工業高等専門学校の平成24年度年度計画です。	計画書全体 (PDFファイル195kB) ダウンロード
平成23年度外部評価委員会報告書	平成23年度に開催された久留米工業高等専門学校外部評価委員会の説明資料、質疑応答、評価結果等をまとめた報告書です。	報告書全体 (PDFファイル79.4MB) ダウンロード
平成23年度　年度計画	久留米工業高等専門学校の平成23年度年度計画です。	計画書全体 (PDFファイル187kB) ダウンロード
平成22年度　年度計画 (高専機構　第2期中期目標/中期計画/平成22年度年度計画)	久留米工業高等専門学校の平成22年度年度計画です。 高専機構の第2期中期目標/中期計画/平成22年度 年度計画も併せて掲載しています。	計画書全体 (PDFファイル234kB) ダウンロード

（出典：久留米工業高等専門学校ウェブサイト）

資料９－１－③－６

教育課程表等の改善検討専門部会の設置について（案）

教務主事

１．専門部会設置の趣旨

高専における実践的、創造的技術者教育は、平成20年12月の中央教育審議会答申に代表されるように高い評価を受けており、不況下にあっても高い求人倍率を維持している。しかし、社会情勢の変化や技術の高度化は目まぐるしく、それに対応した技術者教育の改善に向けた不断の取組みが求められるところである。高専機構においてもモデルコアカリキュラムの検討が進められており、試案が平成24年4月に公表される見込みである。また、日本技術者教育認定機構では、平成22年度よりエンジニアリングデザイン教育を重視する方針が打ち出されている。本校においても現行の教育課程表並びに教務に関する規程は、本科では平成17年度に大きく改正して以来7年が経過し、また専攻科では10年以上になるため、現状にそぐわない問題点も多くなってきた。

このような状況に鑑み、本校においても学生の学力格差が拡大する中での基礎学力養成の一層の充実、エンジニアリングデザイン教育の拡充等による出口側の学生の実践的、創造的技術者像の再構築、あるいは高専教育の高度化を目指して、教育課程表及び教務に関する規程の諸問題、及びモデルコアカリキュラム（試案）の調査、検討を行い、本校の教育改善を図るため教務委員会規則第８条に基づいて、教務委員会に教育課程表等の改善検討専門部会を設ける。

２．専門部会の設置期間

平成24年4月～平成26年3月（予定）

３．専門部会の役割

（1）現行の教育課程表及び教務に関する規程等の問題点の調査、分析及び検討項目の整理
（2）モデルコアカリキュラム（試案）の総論、各分野の学習項目、到達目標等に関する調査、分析及び検討
（3）他高専の現状、教育改善、高専教育の高度化に向けた取組み等の調査、検討
（4）産業界、地域社会、卒業生のニーズに関する調査、検討
（5）教育課程表及び教務に関する規程等の改善案の立案
（6）その他の教育課程表及び教務に関する規程等に関する事項

４．専門部会の構成

専門部会は以下のように構成し、役職者の交代による委員の変更は、教務委員会委員長と専門部会長の協議により決める。

（出典：平成23年度第5回教務委員会資料）

観点９－１－④：　個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

（観点に係る状況）

授業改善専門部会が中心となって、年２回の学生による授業評価アンケート（前掲資料９－１－②－１）を実施し、各授業担当教員は成績評価とこのアンケート結果に基づいて自己評価アンケート（前掲資料９－１－②－６）を記載し提出すると共に、担当科目のシラバス作成、教材、進度、教授技術の改善に役立てている（資料９－１－④－１、１－④－２）。自己評価アンケート結果は「学生による授業評価アンケートおよび授業改善に関する教員アンケート結果報告」（前掲別添資料９－１－②－７）としてウェブ上で公開され、全教員にフィードバックされる。以上のことを継続的に行うことによって、授業内容、教材、教授技術などが改善され、また、結果報告書の公表によって個々の教員の授業改善状況が把握されている。

（分析結果とその根拠理由）

学生による授業評価アンケートが年２回実施され、それらの結果をもとにシラバス作成や授業改善を行うとともに、その状況把握ができるシステムが確立されている。

資料９－１－④－１

（各学科、教員等への照会・依頼事項）
授業評価アンケート及び自己評価アンケートの実施により、具体的に授業の内容・方法等を改善したことがあるか。その具体例と年度に関する情報を提供願いたい。

・毎回、板書が多いというクレームがあるので、板書前に文章や語句を検討して、できるだけ字数を減らすようにしている。
・学科独自に授業アンケートを実施しており，学校の授業アンケート結果共に自己評価し，改善案を学校の報告書に記載している。実施内容も記載の通り
・板書が分かりにくいというアンケート結果があったので、板書の工夫をした。
・字を読みやすくきれいに書くよう心がけた。また、H23 年度に学生から授業が分かりにくいという評価が多かったことを受けて、H24 年度に授業進度をゆっくりと進め、学生の理解力の定着を図るなどにより、学生から授業が分かりやすいとの評価を受けることができた。

・専攻科の専門科目の増設：修了生・専攻科の学生に対しアンケートをとった結果、大半の学生が本プログラムに対し、「専攻科における専門科目の増加」を要望していることがわかった。この事実を受けて、平成 19 年度入学生より「機能有機材料特論」（専攻科１年後期）「分子生物学」（専攻科２年前期）の二科目を増設した。
・レポート作成能力の育成（平成 20 年度前期）：授業改善会議において、レポートの出来が良くないことが指摘された。そこで、各実験のレポートの表紙にチェック表をつけ、学生、担当教員双方がレポート項目の確認が行えるようにした。また、３年前期生物化学実験において、模範レポートを学生に配布し、それに基づき、「良いレポートの書き方」を指導するようにした。
・カリキュラム改善（平成 21 年度）
１．「触媒工学」（４年前期，１単位）を「有機金属化学」（４年前期，１単位）とする。
（変更理由）本講義では，金属元素が関与した有機合成を教授するため，新科目名がより適切であると判断したため。
２．「基礎化学実験」（２年通年，４単位）を「分析化学実験」（２年前期，２単位）および「基礎生物化学実験」（２年後期，２単位）に分割する。
（変更理由）本実験は，分析と生物化学という内容の異なる実験が統合されているが，何れも基礎的且つ重要な内容であり，両者を十分に習得させるため。
３．「ポリマー加工技術」（４年後期，２単位・学修単位）と「機能有機材料」（４年前期，２単位・学修単位）とで，前後期の入替えを行う。
４．「科学技術史」（５年前期，選択１単位）を４年前期にも追加する。
（変更理由）本講義は選択科目であるが，生物応用化学科には選択科目が少ない上に，現開校時の５年前期には編入学試験への受験や就職活動との重複により受講が困難であると判断されるため。
以上の提案について審議を行った結果，全ての項目において教育改善の効果が大きいと判断されたため，改訂を決議した。平成 22 年度の教務委員会に諮り，平成 23 年度の対応学年からの開講を目指す。

（出典：平成25年度第1回学科長委員会照会・依頼事項）

資料９－１－④－２

（教員による自己評価の回答（授業改善例））

・LL教室は広く、クラスの学生数が多い３年生を多く担当しているので、マイクを利用しているが、学生の中に入り込んで授業を行うのが難しく、工夫が必要である。図書館改修後にはワイヤレスマイクの導入が期待できるのでこの点は改善できるであろう。
・今年度は練習問題を多く作成・提供して、必要事項の理解を深めることに重点を置こうと考えている。また、学生の積極性や独創性を伸ばすよう、授業での自発的な発言を促したり、各自が自由に文を書く課題を与えるなどの工夫も行っている。
・機器の構造図の説明が多いため、本年度からスライドと黒板を併用した授業を取り入れた。
・板書の中で作図の部分について、学生が授業中に筆記するのに時間がかかり、説明を十分に聞けない状態が見受けられたため、資料として追加し、学生は一部を追加記入することで筆記の手間を省き、理解を深めることを意図した。授業アンケートの「もっとわかりやすく説明してほしい」が 59%であったことへの対応の一つと考えている。
・パワーポイントにより関連する技術を説明しているが、その図を資料に追加した。これにより、復習の際に参考になる。
・課題の難易度に不適切な部分があったのを変更した。
・講義と演習とを交互に行い、プロジェクタ、ホワイトボード、パソコンを適宜利用した。演習時間を前年度に比べて増やしたことによって、学生の習熟状況の開きを小さくすることができた。
・前年度レポートの提出状況がよくなかったため、レポート課題のルールを新設し実施した。結果、提出状況はかなり改善された。
・昨年度は、図表はパワーポイントで作成しプロジェクタでスクリーンに投影して説明する、理論および数式の展開は従来通り板書して説明するという方式に変更した。このため板書に要する時間を大幅に短縮することができ、その分説明を丁寧に行い、さらに余った時間は演習等に充てることができた。スライドはハンドアウトとして配布したので、ノートに写す必要がなく説明に集中できたと学生の反応もよく、結果として「分かり易い説明を」の項目の指摘は皆無となった。
・学生のプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力の向上を図るため実験終了後に各自に液晶プロジェクタを用いたプレゼンテーションを課した。この初めての取り組みは、授業アンケートの結果からおおむね好評であった。

（出典：平成23年度学生による授業評価アンケートおよび授業改善に関する教員アンケート結果報告より抜粋）

観点９－１－⑤：　研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

（観点に係る状況）

教員の多くは、専門分野の関係学協会への参加、講演発表や論文発表などの研究活動を通して最新の研究動向の把握を行っている（資料９－１－⑤－１）。また、地域の企業を中心とした共同研究を積極的に行う（資料９－１－⑤－２）ことによっても、最新の技術動向の把握に努力している。これら研究活動を通して得られた情報は、「卒業研究」や「専攻科研究論文」のみならず、学生実験のテーマとしての導入や適宜講義の中にトピックスとして情報提供されており（資料９－１－⑤－３）、教員個人の学術的研究に偏ることなく教育の質的向上に反映させている。また、専攻科課程の学生の多くは研究成果を学協会の講演大会で発表し、それらの中には学協会から表彰を受ける学生（資料９－１－⑤－４）もいるなど、教育の質的向上に寄与している。

（分析結果とその根拠理由）

教員の研究活動は十分行われており、学生の研究活動も活発に行われている。さらに、共同研究も精力的に行われており、研究活動が教育の質的向上に十分寄与している。

資料９－１－⑤－１

研究成果発表件数一覧

学科	平成２１年度		平成２２年度		平成２３年度	
	論文・著書	講演	論文・著書	講演	論文・著書	講演
機械工学科	8	24	21	26	22	24
電気電子工学科	5	9	4	15	5	10
制御情報工学科	5	26	10	3	15	25
生物応用化学科	10	23	9	30	18	40
材料工学科	21	65	16	43	14	38
一般理科	2	3	21	22	6	1
一般文科	8	4	3	0	3	2
合計	59	154	84	139	83	140

（出典：久留米工業高等専門学校紀要）

資料９－１－⑤－２

共同研究件数一覧

学科	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
機械工学科	5	5	4	6	4
電気電子工学科	1	1	1	1	2
制御情報工学科	1	0	0	1	1
生物応用化学科	8	7	5	1）7	4
材料工学科	3	7	5	1）4	4
教育研究支援室	0	0	0	0	1
合計	18	20	15	1）18	16

１）２学科（生物応用化学科、材料工学科）で対応した共同研究（１件）があるため合計と一致しない。

（出典：産学民連携推進センター資料）

資料９－１－⑤－３

（各学科、教員等への照会・依頼事項）
研究活動の成果を授業に取り入れたことがあるか。その具体例と年度に関する情報を提供願いたい。

・各教員が行っている研究内容の公表論文・発表は紀要に記載の通りで，その研究内容をトピックス的に各専門授業で各学年に応じた言葉に置き換えて，授業に取り入れている。
・専攻科１年選択科目　弾塑性力学で下記のことを行っている。
①平面応力および板曲げにおける薄板の具体的限界を、板厚/切欠き半径の値で示している（平成 20 年度以降)。[日本機械学会論文　74 巻 741 号　PP.647-654　平成 20 年 5 月]
②薄板の曲げにおける微小曲げの具体的限界を、たわみ/板厚の値で示している(平成 19 年度以降)。[久留米工業高等専門学校　平成 16 年度卒業論文（奥園、佐藤)、平成 19 年度専攻科研究論文（吉山裕也）]
・生物工学実験(4 年後期)
2006 年度在外研究（マンチェスタ大学）を，生物工学実験(4 年後期)の実験書に取り入れた。
・応用化学実験（4 年後期）
2012 年度の研究活動の成果[K.Matsuyama et al., J. Colloid Interface Sci., 367, 171-177(2012)、K.Matsuyama et al., J. Colloid Interface Sci., 399,19-25(2013)]を応用化学実験（4 年後期）の実験書に取り入れた。
・産業財産権入門（5 年後期）
2012 年度に参加した（独）工業所有権情報・研修館の「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」の研究成果を産業財 産権入門（5 年後期）に導入した。
・現在、先端的な数学分野である結び目理論の教材化について岐阜大学で共同研究をしている。
(1)平成 24 年度材料工学科 3 年生に対して数学 IIIB の授業で行列の応用として結び目理論の解説を行った。[酒井道宏，田中利史，中坊滋一，結び目を用いた高専の学生向け数学教材の実践～ゲーリッツ不変量を通して～，久留米高専紀要第 28 巻第 2 号，pp. 37-43 (2013)]
(2)中学生向けの公開講座で結び目に関する教材を作成した。[酒井道宏，田中利史，中坊滋一，結び目を用いた中学生向け数学教材の実践，岐阜数学教育研究，2012，Vol.11，pp. 76-83 (2012)]
(3)中学生向けの公開講座で発見の楽しさを感じる問題、結び目、L-S カテゴリーに関する教材を作成した。[宮地俊彦，中坊滋一，酒井道宏，久留米高専における中学生向け数学公開講座の取り組みと今後の課題，久留米高専紀要第 25 巻第 2 号，pp. 19-24 (2010)]

（出典：平成25年度第1回学科長委員会照会・依頼事項）

資料９－１－⑤－４



（出典：久留米工業高等専門学校ウェブサイト）

観点９－２－①：　ファカルティ・ディベロップメントが、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

（観点に係る状況）

全教員参加のもと、ＦＤ会議が年３回開催され、教員の教育内容及び方法について資質の向上を図っている（資料９－２－①－１）。また、高専機構が主催する研修会ばかりでなく、他の機関で実施する研修会へも教職員を積極的に派遣しており（資料９－２－①－２、２－①－３）、その一部をＦＤ会議で報告し、全教員で情報の共有を図っている。

例えば、平成17年度のFD会議での数学の学力低下問題についての討議を受け、平成18年度以降の入学者に対して数学学力診断テストを導入した。この結果を受け、数学の授業や関連する専門科目の授業担当などの見直しを行っている（資料９－２－①－４）。また、英語教育に関しても、FD会議での討議を受け、平成22年度から1～3年の低学年を対象とした英語能力判定テストを導入している（資料９－２－①－５）。さらに、工業英語を学習単位化し、複数教員による指導の下、少人数による英語教育を実施するようになった学科もある（資料９－２－①－６）。

一方で、平成22年度から、保護者に対する本科の公開授業参観を実施し（前掲資料９－１－②－10)、平成24年度から、教員の相互授業参観制度（資料９－２－①－７）を構築し、教育の質の向上を図っている。

（分析結果とその根拠理由）

組織的にＦＤ会議が実施され、外部研修会の情報や教育上の問題点の認識が共有されている。また、ＦＤ会議の討議内容をもとに、改善策を検討・実施し、教育の質の向上や授業の改善に積極的に取組んでいる。

資料９－２－①－１(1/2)

FD会議タイトル一覧

年度	開催日	タイトル	講師等
17	H17.9.14	１．本校の現状と課題について	教務主事　馬越幹男教授（材料）
		２．機関別認証評価について	企画主事　綾部　隆教授（制御情報）
		３．ＩＤＥ大学セミナー報告「現代的教育ニーズへのユニークな取組み」	機械工学科　原田豊満助教授
		４．新任者研修報告	生物応用化学科　大岡久子助手
	H17.11.9	特別講演会	
		「現代青年の心理と指導」	講師：安部恒久教授（福岡大学人文学部）
	H17.11.30	「数学教育に関する懇談会」	
		１．数学教育に関する懇談会開催にあたって	教務主事　馬越幹男教授（材料）
		２．中学校の数学から専攻科入試まで	数学担当教員　高橋正郎助教授
		３．数学と専門科目の連携について	教務主事　馬越幹男教授（材料）
		４．意見交換	司会：教務主事　馬越幹男教授（材料）
18	H18.5.24	１．新入生数学診断テストの結果報告	一般理科（数学）中坊滋一助教授
		２．平成17年度学生の授業評価アンケート結果報告	教務主事補　高橋正郎助教授
		３．卒業生の自己達成度評価及び学生支援に関するアンケート結果報告	企画主事補　中野　明助手
		４．授業改善のＰＤＣＡについて	教務主事補　福田かおる助教授
		５．ＰＢＬ講習会（熊本電波高専、Temasek Polytechnic，Singapore）報告	一般文科（英語）金城博之助手
	H18.10.4	１．校長会議報告　「国立高専の整備について」	前田三男校長
		２．平成18年度体験セミナー報告	教務主事補　中武靖仁助教授（機械）
		３．専攻科実務者会議報告	専攻科主事　笹栗信也教授（材料）
		４．高専機構主催教員研究集会「高専におけるマルチメディアを利用した教育の現状と課題」報告	制御情報工学科　丸山延康教授
		５．高専機構主催教員研修「クラス経営・生活指導研修会」報告	教務主事補　江頭成人教授（制御情報）
			学生主事補　橋村真治助教授（機械）
		６．高専機構主催新任教員研修会報告	一般理科（物理）谷　太郎講師
			一般理科（数学）山本　稔講師
	H19.2.6	特別講演会	
		「教育機関における個人情報保護について」	講師：小原清信教授（久留米大学法科大学院）
19	H19.6.6	１．在外研究員報告「マンチェスター大学に留学して」	生物応用化学科　　冨岡寛治准教授
		２．本校学生の学力低下について	
		（１）新入生数学学力診断テスト、学修到達度試験（数学、3年）結果について	一般理科（数学）　髙橋正郎准教授
		（２）推薦選抜に関する自己点検・評価について	企画主事補　　山﨑有司准教授（一般理科、物理）
		（３）討議	
	H19.10.24	教職員研修会	
		「ハラスメントのない職場・教育現場を創るために」	講師：長谷川伸子理事・主任研究員（NPO法人福岡ジェンダー研究所）
	H20.3.21	１．「海外ポリテクの現状と動向について」　～現代GP海外視察報告～	現代GP事業推進責任者　伊藤義文教授（生化）
			視察担当者　森　哲夫教授（生化）
			中坊滋一准教授（一般理科、数学）
			渡邉勝宏講師（生化）
			中尾哲也講師（機械）
		２．久留米高専における人事交流を振り返って	
		（１）２高専間における授業の比較と数学教育のあり方	一般理科（数学）　酒井道宏准教授（岐阜高専）
		（２）2年間の人事交流を終えて	生物応用化学科　野坂通子准教授（佐世保高専）
20	H20.6.11	１．在外研究員報告	
		（１）「クイーンズ大学に留学して」	材料工学科　田中慎一准教授
		（２）「韓国機械材料研究所（KIMM）に留学して」	機械工学科　　田中　大准教授
		２．平成19年度学生による授業評価アンケート結果について	教務主事補　　宮崎浩一准教授（電気電子）
		３．低学年における数学の学力向上策について	
		（１）新入生数学学力診断テストを通してみた数学の学力について	一般理科（数学）　山本　稔講師
		（２）高等学校における数学教育の現状と課題について	一般理科（数学）　宮地俊彦教授
		（３）討議	
		４．今後のファカルティ・ディベロップメント活動について	教務主事　馬越幹男教授（材料）
	H20.10.29	１．専攻科の現状と課題について	
		（１）久留米高専専攻科の現状報告及び課題について	専攻科主事　　笹栗信也教授
			専攻科主事補　　池田　隆教授
		（２）今後の専攻科のあり方に関する討議	
		２．学級担任の役割について	
		（１）高専機構主催平成20年度高等専門学校教員研修（クラス運営・生活指導研修会）報告	一般理科（物理）　谷　太郎准教授
			制御情報工学科　小田幹雄准教授
		（２）学級担任の役割に関する討議	
	H21.3.18	「よりよい授業を目指して」	
		（１）応用物理実験の現状と今後の展開について	一般理科（物理）　山﨑有司准教授
		（２）JABEE教育プログラムにおける授業改善の取り組みについて	電気電子工学科学科長　長田芳裕教授
			制御情報工学科学科長　福田幸一教授
			生物応用化学科　辻　　豊准教授
		（３）授業の現状と課題に関するディスカッション	

（出典：授業改善専門部会より提供）

資料９－２－①－１(2/2)

年度	開催日	タイトル	講師等
21	H21.6.8	特別講演会 「公開・共有するＦＤ」	講師：小田隆治教授（山形大学地域教育文化学部、高等教育研究企画センター・企画マネジメント部門長）
	H21.12.10	ソフトウエア管理に関する研修会（教職員対象） 「ソフトウエアの使用と著作権について」	講師：清水多佳子氏（社団法人コンピュータソフトウエア著作権協会）
	H22.3.24	「低学年の学生指導について」 （１）講演「明善高校における学習指導の現状と課題」 （２）質疑・討論	講師：福岡県立明善高等学校指導教諭　長野正典（企画研修課主任）
22	H22.6.9	１．新入生数学診断テストの結果報告 ２．学習到達度試験（物理）の結果報告 ３．質疑・討論	一般理科（数学）　酒井道宏准教授 一般理科（物理）　山崎有司准教授
	H22.12.15	「本校の英語教育について」 （１）１年英語外部評価テストの結果に関する報告 （２）九州沖縄地区国立高専教員研究集会報告（「高専における英語教育の現状と充実について」 ―技術英語のあり方を中心として―） （３）本校の英語教育，プレゼンテーション能力の向上策に関する意見交換	一般文科（英語）　金城博之准教授 電気電子工学科　平川靖之教授 一般文科（英語）　金城博之准教授
	H23.3.25	キャンパス・ハラスメントの防止に関する研修会	講師：岩城和代氏（弁護士、岩城法律事務所）
23	H23.6.8	「エンジニアリングデザイン教育、共同教育について」－ＧＰを終えて－ （１）共同教育を導入した卒業研究の成果と課題－現代ＧＰ「産学民連携共同教育による実践的技術者育成」を終えて－ （２）デジタルエンジニアリングを導入した機械工学教育の成果と課題－教育ＧＰ「ＣＩＭＳを活用した機械要素設計と産学連携」を終えて－ （３）エンジニアリングデザイン教育、共同教育に関する質疑応答	生物応用化学科　伊藤義文教授 生物応用化学科　冨岡寛治教授 機械工学科　藤田雅俊教授 機械工学科　橋村真治准教授
	H23.11.28	「学生のメンタルヘルスの現状と学生支援について」 （１）学生相談室の立場、役割りなどについて （２）生活アンケートの経年的分析と学生支援への活用に関する提案について （３）学生支援に関する質疑応答	学生相談室長　笈木宏和准教授（生化） 穴井千鶴カウンセラー（久留米大学非常勤講師、臨床心理士）
	H24.3.8	特別講演会 「高専における効果的な授業のあり方と課題」	講師：奥山慶洋准教授（茨城高専人文科学科（英語））
24	H24.7.31	特別講演会 「豊田高専の持続可能な長期海外留学～グローバル社会・多文化共生社会の中で生き残るために～」 「各種研修報告」	講師：神谷昌明教授（豊田高専一般学科（英語）、国際交流委員会委員長）
	H24.11.29	１．新任教員研修報告 ①授業中の学生の集中力向上について ②(円滑な)実験・実習について ２．クラス運営研修報告 ３．教員研修報告 ４．全体質疑・討論	一般理科（物理）　篠島弘幸教授 生物応用化学科　松山　清准教授 生物応用化学科　萩原義徳助教 機械工学科 大津健史助教 学生主事補　矢野正明准教授（材料） 一般文化（社会）　岡本和也助教 教務主事補　椿　　隆彦准教授（生化） 一般理科（数学）　高橋正郎准教授
	H25.3.21	特別講演会 「発達障がい学生の就労支援」	講師：松尾秀樹氏（佐世保工業高等専門学校　特別支援教育コーディネーター）

（出典：授業改善専門部会より提供）

資料９－２－①－２

平成24年度各種研修会の実施・参加状況（教員）

No.	研修名称	実施日時			参加者数
		開始日	～	終了日	
1	車両通学講習会	H24.4.6	～	H24.4.6	3
2	レーザー研シンポジウム2012	H24.4.18	～	H24.4.18	1
3	第9回ホスト・ゲスト化学シンポジウム	H24.5.26	～	H24.5.27	1
4	第49回日本伝熱シンポジウム	H24.5.30	～	H24.6.1	1
5	ザイリンクス　エンベデッドシステム開発コース	H24.5.31	～	H24.6.1	1
6	平成24年度第1回ネットワーク管理者研修会	H24.6.4	～	H24.6.5	1
7	平成24年度オウロン㈱「制御技術セミナ」	H24.6.6	～	H24.6.7	1
8	平成25年度に実施する高等専門学校機関別認証評価に関する自己評価担当者等に対する研修会	H24.6.21	～	H24.6.21	1
9	計算力学の質保証に関するシンポジウム	H24.6.27	～	H24.6.27	2
10	安全工学シンポジウム2012	H24.7.5	～	H24.7.6	1
11	平成24年度　留学生・国際交流実務担当者研究集会	H24.7.23	～	H24.7.24	1
12	2012函数方程式論サマーセミナー	H24.8.7	～	H24.8.10	1
13	平成24年度高等専門学校新任教員研修会	H24.8.22	～	H24.8.24	7
14	平成24年度独立行政法人国立高等専門学校機構高等専門学校教員研修（クラス経営・生活指導研修会）	H24.9.11	～	H24.9.13	2
15	ファイアーウォールのハンズオントレーニング	H24.9.21	～	H24.9.21	1
16	バイオマスin九州2012「バイオマスセミナー」	H24.10.12	～	H24.10.12	2
17	学生生活にかかるリスクの把握と対応に関するセミナー	H24.10.25	～	H25.10.26	1
18	第9回全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究集会	H24.11.1	～	H24.11.2	1
19	平成24年度福岡県高等学校野球連盟指導者研修会	H24.12.7	～	H24.12.7	1
20	平成24年度学生相談・メンタルヘルス研修会	H24.12.13	～	H24.12.15	1
21	Mathematica　チュートリアル（初級）セミナー	H24.12.21	～	H24.12.21	1
22	平成24年度国立高等専門学校機構情報担当者研修会	H25.1.9	～	H25.1.11	1
23	平成24年度国立高等専門学校機構産学連携に関するセミナー	H25.2.27	～	H25.2.28	1
24	熱中症講習会	H25.3.6	～	H25.3.6	1
合　　計					31

（出典：総務課人事労務係より提供）

資料９－２－①－３

平成２４年度校外研修参加件数

学　　科	件　　数
機械工学科	9
電気電子工学科	3
制御情報工学科	6
生物応用化学科	6
材料工学科	4
一般理科	5
一般文科	1
技術室	13
合　　計	47

（出典：総務課人事・労務係資料）

資料９－２－①－４

3　平成17年度前期の数学担当

学年	科目名	時間数	A	E	S	C	M
1	数学IA	6	**数学常勤**	**数学常勤**	**数学常勤**	**数学常勤**	**数学常勤**
2	数学IIA	4	非常勤	非常勤	非常勤	非常勤	非常勤
	数学IIC	2	専門常勤	専門常勤	専門常勤	**数学常勤**	**数学常勤**
3	工業数学III	4	非常勤	**数学常勤**	非常勤	非常勤	非常勤
	数学特論III	2	専門常勤	専門常勤	専門常勤	専門常勤	専門常勤
4	応用数学I	2	×	×	×	非常勤	非常勤

1　平成18年度前期担当案

学年	科目名	時間数	A	E	S	C	M
1	数学IA	6	**数学常勤**	**数学常勤**	**数学常勤**	**数学常勤**	**数学常勤**
2	数学IIA	4	**数学常勤**	非常勤	非常勤	非常勤	非常勤
	数学IIB	2	**数学常勤**	**数学常勤**	専門常勤	**数学常勤**	**数学常勤**
3	数学IIIA	4	**数学常勤**	**数学常勤**	**数学常勤**	**数学常勤**	**数学常勤**
	数学IIIC	2	専門常勤	専門常勤	専門常勤	非常勤	非常勤
4	応用数学I	2	×	×	×	非常勤	×

（出典：平成17年度第11回教務委員会資料より抜粋）

資料９－２－①－５

①学生に一定の英語力がないので、英語運用能力測定には向かない
②初・中級学習者の英語力の習得度を測るのは困難である
③内容がビジネス関連の内容なので、高校レベルの学習者への動機付けになり難い
④900 点を取る受験者と 300 点を取る受験者が同じ問題に取り組むため、無駄が多く、動機付けの面でマイナスに作用する懸念がある
⑤長時間の試験に緊張感が持続できない

以上のことを考慮した時、３年までの低学年においては、英語の基礎学力向上に教員と学生が一体となって取り組む必要があり、この外部評価の導入は、その第一歩と位置づけることが出来る。高等学校でも卒業までに「英検２級」の力をつけることが、英語の基礎学力の一つの指標となっている。さらに、「英検２級」程度の基礎学力が４・５年あるいは専攻科生の英語力の伸長に影響があり、TOEIC の得点向上にも繋がるという報告もなされている。事実、JABEE において TOEIC の数値目標を掲げた他高専において、その目標を達成できない学生に対して、「英検」の導入により数値目標をクリアできるようになった事例も報告されている。

久留米高専においても「英検」を組織的に実施していた時期があったが、全学生に義務付けていたわけではなく、英語教育の一環として取り上げてはいなかった側面があった。また、現在では各教員が「英検」の呼び掛けや二次面接指導を行っているが、「英検」受験は学生本人の意欲と意思に委ねられているのが現状である。その結果、学生全体の英語力向上に繋がらないばかりか、相当数の低学年の学生が実力とかけ離れた TOEIC を漠然と目標と考え、結果的に低学年を「進級できさえすれば良い」程度の学習意欲をもって過ごしてしまっている。

３．低学年における「英語能力判定テスト」の導入

以上の現状を踏まえ、英語科教員で検討した結果、低学年に英語の外部評価テストの導入に踏み切りたいという結論に至った。これは、英語教員のみで実施することができることであるが、英語教育は高専教育における大きな課題の一つであり、工業英語や前述の TOEIC あるいは TOEFL にも繋がることから、専門学科の先生方との連携も重要である。

現在、外部評価テストを様々な団体が実施しているが、久留米高専独自の英語教育の改善を目指す観点から、英語検定協会が実施する「英検」ではなく、「英検」のノウハウを活かして最近導入された「英語能力判定テスト」の実施を推進したい。主な具体的理由を以下に列挙する。

・学生が①自分の英語力が「英検」の何級に相当するか判定できる
②学級内だけの比較ではなく、より客観的に自分の英語力を把握できる
③「英検」受験の目安となるとともに、新たな学習目標設定と学習が可能である

・教員が①学生の客観的な学力が把握できる
②学生の英語力、学習意欲などの経年比較ができる

（出典：平成22年度第1回教員会議資料より抜粋）

資料９－２－①－６

（各学科、教員等への照会・依頼事項）

FD会議および他のFD活動の実施により、具体的に授業の内容・方法等を改善したことがあるか。その具体例と年度に関する情報を提供願いたい。

・英語教育に関するFD会議結果を受け，本学科では4,5年生で実施していた工業英語をまとめて学修単位化し，少人数による英語教育をH23年度から材料工学科の所属教員全員（一部教員を除く）で始めた。学生の授業アンケート結果を見ると，概ね高評価を得ている。

・（H24, 25）数学新入生学力診断テストの実施により、担当クラスの学生の中学校までの数学学力を把握できたことにより、授業の進め方（授業進度を早くしても良いか遅くした方が良いか）や学生間の数学の学力のばらつきがあることが分かることにより、全員が習得すべき内容（最低ライン）を学生に提示し、できる学生にはよりたくさんの課題を与えることができるようになった。

（出典：平成25年度第1回学科長委員会照会・依頼事項）

資料９－２－①－７

平成24年度　授業参観報告書

参観者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

科　　目	パワーエレクトロニクス
学科・学年	電気電子工学科
科目担当者	
授業参観日	平成２５年　１月３０日（水）１時限
参観時間	約　３０　分

参観した感想
（良かった点、参考になった点等をご記入ください。）

板書も説明も丁寧で、特にインバータの原理の説明など大変わかりやすかったと思います。大変参考になりました。
ただ、授業を受ける態度に問題のある学生が散見されるのが残念でした。これは、全ての授業で問題になる点だと思いますが、なかなか良い解決法が見当たりません。

（出典：授業参観報告書の例）

観点９－２－②：　教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

本校では、教育・研究の技術に関する専門的業務等を支援するために教育研究支援室が組織・運営されている（資料９－２－②－１）。支援室職員は教育支援活動を行うに当たり、その必要な能力及び資質の向上を図るために、学内外の各種研修会に積極的に参加し（資料９－２－②－２）、報告を行っている（別添資料９－２－②－３）。また、事務職員も教育研究における事務的業務を通して教育支援者としての役割を担っており、各種研修会に積極的に参加して、その資質向上を図る取り組みを行っている（資料９－２－②－４）。

（分析結果とその根拠理由）

教育研究支援室職員および事務職員は各種研修会に積極的に参加し、その資質向上のための取り組みを適切に行っている。

資料９－２－②－１

久留米工業高等専門学校教育研究支援室組織等規則

平成２０年　５月　１日制定

（趣旨）

第１条　この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（平成１６年４月１日制定）第１２条及び久留米工業高等専門学校学則（昭和３９年４月１日制定）第１０条の規定に基づき、久留米工業高等専門学校教育研究支援室（以下「支援室」という。）の組織及び運営について定める。

（目的）

第２条　支援室は、久留米工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育研究の技術に関する専門的業務等を組織的かつ効率的に遂行するとともに、支援室職員の職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り、もって教育研究支援体制の充実に資することを目的とする。

（組織）

第３条　支援室は、各号の職員をもって組織する。

(1)　支援室長
(2)　支援室長補佐
(3)　技術長
(4)　副技術長
(5)　グループ長
(6)　技術専門員
(7)　技術専門職員
(8)　技術職員（施設系技術職員を除く。）

２　支援室に、次の各号に掲げる技術グループを置き、前項第３号から第８号までの職員は、

（出典：教育研究支援室規則）

資料９－２－②－２

平成24年度各種研修会の実施・参加状況（教育研究支援室職員）

No.	研修名称	実施日時			参加者数
		開始日	～	終了日	
1	平成24年度初任職員研修会	H24.4.25	～	H24.4.27	1
2	平成24年度第1回ネットワーク管理者研修会	H24.6.4	～	H24.6.5	1
3	平成24年度九州地区国立大学法人等技術専門職員・中堅技術職員研修	H24.8.27	～	H24.8.29	2
4	平成24年度IT人材育成研修会	H24.8.30	～	H24.8.30	1
5	平成24年度九州地区国立大学法人等技術職員スキルアップ研修A	H24.9.12	～	H24.9.14	3
6	クレーン運転特別教育	H24.10.25	～	H24.10.27	1
7	天井クレーン定期自主検査安全教育	H24.11.25	～	H24.11.25	1
8	平成24年度国立高等専門学校機構情報担当者研修会	H25.1.9	～	H25.1.11	2
合　　計					12

（出典：教育研究支援室より提供）

資料９－２－②－４

平成24年度各種研修会の実施・参加状況（事務職員）

No.	研修名称	実施日時			参加者数
		開始日	～	終了日	
1	車両通学講習会	H24.4.6	～	H24.4.6	1
2	平成24年度会計事務担当者説明会	H24.4.17	～	H24.4.17	1
3	評価者研修	H24.4.24	～	H24.4.24	2
4	平成24年度初任職員研修会	H24.4.25	～	H24.4.27	1
5	情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修会	H24.5.23	～	H24.5.23	1
6	平成24年度第1回ネットワーク管理者研修会	H24.6.4	～	H24.6.5	1
7	平成25年度に実施する高等専門学校機関別認証評価に関する自己評価担当者等に対する研修会	H24.6.21	～	H24.6.21	1
8	平成24年度国立高等専門学校機構　知的財産に関する講習会	H24.7.5	～	H24.7.6	1
9	平成24年度国立高等専門学校機構新任課長補佐・係長研修会	H24.7.19	～	H24.7.20	1
10	平成24年度　留学生・国際交流実務担当者研究集会	H24.7.23	～	H24.7.24	1
11	平成24年度人事事務担当者説明会（初任者）	H24.7.30	～	H24.8.1	1
12	平成24年度人事事務担当者説明会（課長補佐・係長）	H24.8.6	～	H24.8.7	1
13	平成24年度九州沖縄地区国立高等専門学校事務職員研修	H24.8.27	～	H24.8.28	3
14	第14回高等専門学校及び技術科学大学図書館情報シンポジウム	H24.8.30	～	H24.8.30	1
15	平成24年度九州・沖縄地区国立高専実務担当者勉強会	H24.8.30	～	H24.8.31	1
16	平成24年度九州地区国立大学法人等係長研修	H24.9.11	～	H24.9.14	1
17	平成24年度福岡地区3高専事務職員（係長級）研修会	H24.9.11	～	H24.9.11	4
18	平成24年度九州地区事務情報化推進要員スキリアップ研修	H24.9.12	～	H24.9.14	1
19	ファイアーウォールのハンズオントレーニング	H24.9.21	～	H24.9.21	1
20	第50回政府関係法人会計事務職員研修	H24.10.2	～	H24.11.16	1
21	平成24年度九州地区国立大学法人テーマ別研修	H24.10.17	～	H24.10.19	2
22	平成24年度九州ブロック施設担当中堅職員研修	H24.10.24	～	H24.10.26	1
23	学生生活にかかるリスクの把握と対応に関するセミナー	H24.10.25	～	H25.10.26	1
24	平成24年度高専相互会計内部監査研修	H24.10.25	～	H24.10.26	3
25	平成24年度国立高等専門学校機構施設担当職員研修	H24.11.1	～	H24.11.2	1
26	平成24年度学務関係職員研修	H24.12.4	～	H24.12.5	1
27	公的研究費の管理及びe-Rad更新に係る新システム研修説明会	H24.12.14	～	H24.12.14	3
28	平成24年度独法簿記研修	H24.12.19	～	H24.12.21	1
29	平成24年度国立高等専門学校機構情報担当者研修会	H25.1.9	～	H25.1.11	1
30	官公署等を対象とした労働者派遣と請負・業務委託に関するセミナー	H25.1.15	～	H25.1.15	2
31	平成24年度福岡地域留学生担当者共同研修会	H25.1.22	～	H25.1.22	1
32	会計監査法人による地区別研修会	H25.1.24	～	H25.1.24	4
33	平成24年度福岡県公共図書館等協議会第2回職員研修会	H25.2.18	～	H25.2.18	1
34	熱中症講習会	H25.3.6	～	H25.3.6	1
合　　計					48

（出典：総務課人事労務係より提供）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校における自己点検・評価は、平成４年から継続して実施してきており、授業評価アンケートなど各種評価の結果を､教育の質の向上､改善に反映させるシステムが学校全体で整備されている。個々の教職員においても、ＦＤ会議、外部研修会及び教員の研究活動などを通して、個々の質的向上を恒常的に図り、授業内容、教材、教授技術などの継続的な改善を行っている。

（改善を要する点）

該当なし。

（３）基準９の自己評価の概要

本校における教育に関する自己点検評価は、教務委員会、専攻科委員会、卒業・修了査定会議、及落査定会議及び授業改善専門部会を中心として、教育活動の実態を示すデータや資料が収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されている。学生からの意見聴取としては、授業改善専門部会が実施する授業評価アンケート、教育目的の達成度評価に関する自己評価アンケート、及び学生会からの要望の聴取が行われている。これらの結果は関連部署で集計・分析された後、教職員に公表され教育の改善に反映されている。また、外部有識者の意見を、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映させるための外部評価委員会は、平成4年から継続して実施している。それ以外にも、平成16年よりJABEEによる評価・認定を受けており、これらの各種評価結果を、教育の質の向上、改善に反映させるシステムも学校全体で整備されている。

個々の教員は､学生からの授業評価などの評価結果に基づいて､全教員参加のＦＤ会議､外部研修､及び教員の研究活動などを通して、個々の教員の質的向上を図り、授業内容、教材、教授技術などの継続的改善を行っている。また、個々の教員の改善活動状況は自己評価報告書等の公表によって学校として把握している。さらに、教育の質的向上を図るために、全教員が把握すべき内容に関しては、ＦＤ会議等で情報の共有化を図り、組織的に教育の内容及び方法の改善を行っている。

基準10　財務

（１）観点ごとの分析

観点10－１－①：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また，債務が過大ではないか。

（観点に係る状況）

１)資産

本校の保有資産は、平成２４年度末で約６５億８，８００万円となっている。これらの資産は、独立行政法人国立高等専門学校機構(以下、「機構」という。)に移行した際、国から承継した土地や建物等に加え、法人化後に国の補助金や運営費交付金・授業料収入等により、施設や設備等を取得したものである(資料１０－１－①－１、資料１０－１－①－２)。

２)債務

本校の運営資金は、機構本部から配分される運営費交付金及び授業料等の収入並びに外部資金である。平成２０年度から平成２４年度の債務状況は、資料の貸借対照表のとおりであり、各事業年度とも配分された運営費交付金等の範囲内で運用しており、過大な債務はない(別添資料１０－１－①－３～別添資料１０－１－①－７)。

（分析結果とその根拠理由）

本校では、国から承継した土地・建物・設備等を有し、法人化後も、本校の教育理念に沿った教育研究活動が安定して遂行できるよう、必要な資産を計画的に取得する等、十分な資産を有している。また、予算配分の裏付けがない債務は有しておらず、過大な債務を負うことはない。

資料１０－１－①－１

資産保有状況一覧　（平成２４年度期末帳簿価格）

資　産	種　類	数　量	単　位	金　額
有形固定資産	土地	107,215	㎡	４，１１９，６００，０００円
	建物	30,917	㎡	２，０３０，８０７，４６３円
	構築物	1	式	１６５，２０３，２３８円
	車両運搬具	1	式	２円
	工具器具備品	1	式	２６６，２０５，９８８円
	美術品・収蔵品	1	式	３，５００，０００円
無形固定資産	特許権	1	式	１，４０７，１９９円
	ソフトウェア	1	式	７４０，２５０円
	電話加入権	1	式	５４，０００円
	特許権仮勘定	1	式	４２５，２３５円
その他の資産	その他の資産	1	式	４２，６６１円
合　計				６，５８７，９８６，０３６円

主な固定資産の取得状況一覧（平成20年度～24年度）

平成20年度

資　産　名　称	数　量	金　額
学生寄宿舎耐震化施設	１式	６３，７５３，３６２円
校内教室空気調和設備	１式	４８，９５９，４２４円

機械・材料工学科専門棟エレベータ設備	１式	２３，０５１，０７９円
小型汎用精密旋盤(10台)及び工具研削盤(1台)	１式	３６，１４６，２５０円
走査型共焦点レーザ顕微鏡	１台	８，４００，０００円

平成21年度

資　　産　　名　　称	数　量	金　　額
産学民連携テクノセンター棟	１棟	７９，４４３，９３９円
走査型電子顕微鏡	１台	４９，９８０，０００円
立フライス盤	１台	１０，７１０，０００円
イオンビームリング装置	１台	９，８９９，４００円
実験用冷間圧延機	１台	７，２９７，５００円

平成22年度

資　　産　　名　　称	数　量	金　　額
武道場耐震化施設	１式	１１，１９８，４３０円
疲労試験機	１台	１４，３８５，０００円
CNC旋盤	１台	１０，７１０，０００円
高電圧実習装置	１台	９，９２２，５００円
ワイヤ放電加工機	１台	９，８４９，０００円

平成23年度

資　　産　　名　　称	数　量	金　　額
女子寮	１棟	１４５，１２０，１８３円
男子寮給湯設備	１式	１８，５４１，７０９円
マシニングセンター	１台	２０，２１２，５００円
学務（入試・教務）情報システム	１式	３，１５０，０００円
特許権（ｺﾞﾑの分解剤および分解方法）	１式	１，４５６，８０３円

平成24年度

資　　産　　名　　称	数　量	金　　額
図書館（全面改修）	１棟	１８３，６４１，８７７円
図書館書架等什器	１式	１１，１８５，６５０円
語学演習装置設備	１式	１１，０００，０００円
教育用電子計算機システム（リース資産）	１式	２８，８７５，０００円
校内ＬＡＮシステム（リース資産）	１式	２７，０２６，２７５円

出典：財務会計システムより抜粋

資料１０－１－①－２

国からの承継資産一覧　　（平成１６年度期首帳簿価格）

資　　産	種　　類	数　量	単　位	金　　額
有形固定資産	土地	107,215	㎡	４，１１９，６００，０００円
	建物	29,973	㎡	２，５７３，４２０，１８０円
	構築物	1	式	４４６，７３５，５５１円
	車両運搬具	1	式	４，２５６，８５２円
	工具器具備品	1	式	１８１，７７９，９１８円
	美術品・収蔵品	1	式	３，５００，０００円
無形固定資産	特許権	1	式	０円
	ソフトウェア	1	式	０円
	電話加入権	1	式	１６２，０００円
	特許権仮勘定	1	式	９１１，０３２円
その他の資産	その他の資産	1	式	０円
合　　計				７，３３０，３６５，５３３円

出典：財務会計システムより抜粋

観点10－１－②：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための，経常的収入が継続的に確保されているか。

（観点に係る状況）

本校の教育研究活動を遂行するため、次のような経常的収入を確保（獲得）している。

１)運営費交付金

本校の基礎的な運営資金は、機構本部から配分される運営費交付金及び授業料等収入である。

平成２３年度からは、常勤教職員人件費が機構本部において一括管理となり、本校へは人件費を除いた物件費が配分されている。平成２０年度から平成２４年度の運営費交付金配分実績額を示す（資料１０－１－②－１、別添資料１０－１－②－２～別添資料１０－１－②－６）。

２)授業料等の収入

運営費交付金に次ぐ経常的収入は、授業料、入学料及び入学検定料がある。これらの単価は、機構本部が定めた基準額を適用している。平成２０年度から平成２４年度における授業料等の収入総額は、約１４億６，６１３万円であり、毎年度、ほぼ同程度で推移している。（資料１０－１－②－７）。

本校では、学生定員を充足するため、学校説明会等を効果的に行い、毎年度安定した定員の確保に努めており、経常的収入の安定確保にも繋がっている。

（分析結果とその根拠理由）

本校では、常勤教職員の人件費が機構本部の一括管理により確保されているため、人件費を除いた運営費交付金が配分されている。さらに学生定員を充足する取組が、授業料や入学料等収入の継続確保へと繋がっている。このことから、本校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されている。

資料１０－１－②－１

運営費交付金　（千円）

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
運営費交付金	1,221,057	998,211	1,153,567	268,994	64,085
				計	3,705,914

資料１０－１－②－７

授業料等　（千円）

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
授　業　料	253,152	259,659	270,591	272,074	263,064
入学料・検定料	30,072	30,010	30,684	28,771	28,052
				計	1,466,129

出典：平成２０年度～２４年度決算調書より抜粋

観点10－1－③：学校の目的を達成するために、外部の財務資源の活用策を策定し、実行しているか

（観点に係る状況）

１）地域連携に係る収入

国立高専には、従来の教育及び研究に加え、教職員の研究成果や知的財産等を活用して地域と連携するなどの社会貢献が求められている。これらの活動を通じて得られる収入に、受託研究料等がある。本校では、産学民連携テクノセンターを拠点に民間企業等との共同研究や受託研究を推進し、平成２０年度から平成２４年度に約８１，７７０千円の収入を得ている（資料１０－１－③－１、別添資料１０－１－③－２、別添資料１０－１－③－３）。

さらに平成２４年度には、本校と地域産業界等との連携・交流を深め、本校の教育研究の振興を図ることを目的に、「テクノネット久留米」が設立された。今後、地域産業界等との結びつきが拡がり、共同研究等の増加が期待される(別添資料１０－１－③－４)。

２）科学研究費助成事業(競争的資金)の獲得

平成２０年度から平成２４年度における採択実績額は、約４０，０００千円である。特に平成２４年度の受入れ件数は１２件であり、前年度の３倍となっている(資料１０－１－③－５)。

また、平成２４年度は、科学研究費申請者へのインセンティブとして、不採択となった教員に対して、校長裁量経費から５８０千円を配分した（別添資料１０－１－③－６)。

３）奨学寄附金の受入

後援会や企業等の外部団体から、本校への教育研究助成を目的に寄附を受け入れている。平成２０年度から平成２４年度において、約９３，９００千円の寄附金を受け入れた(資料１０－１－③－７)。

（分析結果とその根拠理由）

地域連携の経費及び科学研究費助成事業等の受入は、本校の教育研究活動を推進するために重要な収入であり、これらの外部資金は、毎月の学科長委員会で報告され、その取扱について基本方針を定めるとともに適正な受入を実行している。

また、科学研究費補助金の説明会を毎年開催するとともに科学研究費申請者のインセンティブのため、校長裁量経費を活用している。

さらに「テクノネット久留米」の設立により、共同研究等の増加が大いに期待される。

資料１０－１－③－１

地域連携に係る収入

1)共同研究　（千円）

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
受入件数	18	20	15	18	16
受入金額	7,340	6,545	4,225	5,857	4,476
				小計	28,443

2)受託研究（H24 年度受託事業含む）　（千円）

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
受入件数	6	5	2	4	3
受入金額	14,218	26,469	6,015	5,558	1,067
				小計	53,327
				1)+2)　計	81,770

資料１０－１－③－５

科学研究費補助金（間接経費含む）　（千円）

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
受入件数	6	2	5	4	12
受入金額	8,680	1,930	8,100	4,420	17,030
				計	40,160

資料１０－１－③－７

奨学寄附金　（千円）

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
受入件数	25	21	32	16	23
受入金額	22,590	17,650	19,975	9,846	23,821
				計	93,882

出典：平成２０年度～２４年度決算調書より抜粋

観点10－２－①：　学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として，適切な収支に係る計画等が策定され，関係者に明示されているか。

（観点に係る状況）

本校では、予算配分の基本方針に関すること、教育研究費及び教育研究旅費の予算配分案に関すること、その他予算に関することを予算委員会で検討し、さらに学科長委員会で審議、決定された上で各学科の学科会議を通じて全教員に周知されている。

予算委員会は、主事、学科長、事務部長、総務課長で構成され、機構本部から示達された予算配分に対し、教育研究経費、管理経費等の各項目について、所要見込額、実績額、必要事項等を調査・検討の上、学内配分案を策定している(別添資料１０－２－①－１)。

（分析結果とその根拠理由）

本校は、機構本部から示達された予算配分に基づき、支出に係る所要額等を調査・検討の上、予算配分計画を策定、予算委員会で検討された予算配分案は、学科長委員会での審議を経た上で決定し、教職員に明示している。

観点10－２－②：　収支の状況において，過大な支出超過となっていないか。

（観点に係る状況）

本校においては、予算委員会及び学科長委員会で審議、決定された予算配分計画に基づいて、予算を執行している。また、執行状況は、機構共通の財務会計システムを用い、毎月確認している。合わせて機構本部においても期中・期末の決算を通じ執行状況を照査することにより各高専と機構本部との牽制体制が図られ､収支は適切に管理されるため過大な支出超過はない(別添資料１０－２－②－１～別添資料１０－２－②－５、再掲別添資料１０－１－②－２～別添資料１０－１－②－６)。

（分析結果とその根拠理由）

本校の収支状況については､機構共通の財務会計システムにおいて配分予算と執行状況の推移を確認しつつ機構本部と連携を図り、毎月適切に管理されるため、過大な支出超過はない。

観点10－２－③：　学校の目的を達成するため，教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し，適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況）

本校の資源配分の全体計画は、機構本部から示された予算配分に対し、教育研究経費、管理経費等の各項目について、所要見込額、実績額、必要事項等を調査・検討の上、策定している。教育研究経費は、教育研究経費と基盤経費に大分類し、教育研究経費は、特別教育経費（産学民連携推進費、ＪＡＢＥＥ受審経費、メディア教育充実費等）や教育・研究経費等に、一方基盤経費は、入試経費、印刷製本費、通信費、光熱水料、学生相談室経費、校内環境整備費等に分類し配分する。平成２４年度の配分実績額を示す（別添資料１０－２－③－１）。

各項目の内容は、各主事やセンター長等へ照会し、全校的なものや重点的なものを取込んでいる。

また、教育研究に直接必要な経費は、実績額及び配分基準等で算定し、効果的な活用を図るため、教員毎ではなく学科毎等に配分している。平成２４年度の配分実績額を示す（別添資料１０－２－③－２）。

校長裁量経費は、校長のリーダーシップの下、本校の中期計画・年度計画等を実現するために必要な取組を学内に公募する等、戦略的かつ計画的な資源配分を行っている（別添資料１０－２－③－３、別添資料１０－２－③－４）。

施設整備に係る大型整備事業は、本校のキャンパスマスタープランを基に学科長委員会で審議・了承された後、機構本部へ予算要求を行っている。平成２３年度は、図書館の改修工事が予算化され、平成２５年２月末に完成した。また、陳腐化した設備更新を目的として設備整備マスタープランを策定し計画的な予算要求に努める等、教育・研究環境の改善に繋げている。

平成２４年度は、大型整備事業として機械工作工場等の改修と設備整備について機構本部へ予算要求を行い、平成２４年度補正予算で採択され、現在調達手続きを進めている（別添資料１０－２－③－５）。

（分析結果とその根拠理由）

本校では、教育研究経費、管理経費などの各項目について、予算委員会及び学科長委員会の審

議を経て学校の教育目的を達成するための必要経費を確保しており、規定に沿って適切な資源配分がなされている。

また、校長のリーダーシップの下、校長裁量経費を活用し、中期計画等を意識した教育研究活動の活性化や重点課題への取組を推進するため、競争的環境を採り入れ、教育研究等への質の向上やバランスに配慮した配分を行っている。

実験・実習設備の更新や高度化に向けた設備の充実については、機構本部から毎年一定割合の削減があっていることから、予算確保のためには、大学改革推進等補助金や科学研究費補助金等の外部資金を積極的に獲得する取組等が必要である。

観点10－３－①：　学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

（観点に係る状況）

法人全体の財務諸表などの公表については、独立行政法人通則法第３８条の規定に基づき、機構本部において、ホームページ等で公表している。また、本校の決算については、平成２４年度決算分から学校要覧に概要を掲載した（別添資料１０－３－①－１）。

（分析結果とその根拠理由）

財務諸表などは、独立行政法人国立高等専門学校機構として各年度の予算・収支計画・資金計画を法人のウェブページで公表している。併せて本校の決算報告は、平成２４年度決算分から学校要覧で概要が公表している。

観点10－３－②：　財務に対して，会計監査等が適正に行われているか。

（観点に係る状況）

本校では、財務監査として、機構内部監査規則に基づく内部監査及び高専間の相互監査がある（別添資料１０－３－②－１、別添資料１０－３－②－２）。また、学内規則等に基づき、毎年、本校職員による物品の定時検査や臨時検査及び科学研究費補助金の帳簿調査を実施している。

平成２４年度は、高専間の相互監査で佐世保高専による監査を受検した際、校内常駐警備業務における「給付の完了確認」の在り方について指摘があり、対応を改めることとした。なお、財務面からの指摘・改善事項はない（別添資料１０－３－②－３）。合わせて、日頃より財務処理等で疑義がある場合は、機構会計監査法人の指導を受けながら対応を行っている。

なお、監事監査の報告は、独立行政法人国立高等専門学校機構監事監査要綱により、毎年度、機構理事長へ報告されることとなっている。

（分析結果とその根拠理由）

本校が受検する財務に関する会計監査には、機構内部監査と高専間の相互監査、さらに監事監査がある。加えて学内の規則等に基づく物品検査、科学研究費補助金の執行状況調査を実施している。機構本部による内部監査及び監事監査以外は、毎会計年度実施されている。

また、本校を含む法人全体への財務に関する監査法人の監査も行われていることからも、本校では、財務に対して適正な会計監査等が行われていると判断する。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）　何れの観点においても、本校の教育目標を達成するための財源の確保並びに予算の執行に関して適正な予算配分、管理等が、正確かつ効率的に実施されている。

（改善を要する点）　運営費交付金については、今後も一定の削減を受けることが予想されることから、予算執行にあたっては、引続き契約面等からの工夫や改善等を図っていく必要がある。

また、教育研究費を確保する上で、共同研究、寄附金、科学研究費補助金等の外部資金のさらなる獲得に向けた取組みを推進することが、喫緊の課題である。

（３）基準10の自己評価の概要

本校は、教育研究活動を将来にわたり円滑に遂行するために必要な土地、建物等の資産を有し、適切に管理・運用を行っている。また、授業料、入学料、検定料などの自己収入に加え、機構本部から配分される運営費交付金等の経常的収入が確保されている。また、寄附金、共同研究、受託研究、科学研究費補助金等の外部資金の確保にも積極的に取組んでいる。学内の予算配分も適切に行われ、その執行についても機構本部と連携し計画的に適正な経理が行われている。

予算については、引続き機構本部からの一定率の削減が予想されており、一層の効率化の推進や大学改革推進等経費等、競争的資金の獲得に向けて積極的な取組が必要である。

会計監査等については、機構の内部監査、高専間の相互監査及び学内規則等に基づく内部監査により、監査機能が保たれている。

基準11　管理運営

（１）観点ごとの分析

観点11－１－①：　学校の目的を達成するために，校長，各主事，委員会等の役割が明確になっており，校長のリーダーシップの下で，効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

（観点に係る状況）

内部組織規程（資料11－１―①－１）に規定しているように、本校では教務、学生、寮務、専攻科及び企画主事の５主事を置き、校長の命を受け、主な校務を掌理している。それ以外の主要な校務担当として、総合情報処理センター長、図書館長、産学民連携センター長も配置している。これら５主事および各長のもとには、それぞれ複数の主事補が配置され、運営を補佐している。また、各学科を代表し、総括・処理する学科長も配置している。さらに、クラス運営をサポートする学級担任も配置している（資料11－１―①－２）。

一方で、校長、教員、職員で構成する委員会・会議を設置し、規則に明記されたそれぞれの所掌について、校長の諮問に基づき審議・答申・実行を行っている。これらの委員会・会議は、校長が長となるものと、前述の５主事・各長・事務部長・その他校長が指名するものが長となるものに大別できる。校長以外が長となる委員会・会議で審議・実行されたものは、校長、５主事、各学科長に加え、事務部長をはじめとする事務系の管理職が構成員である学科長委員会（資料11－１－①－３）で、報告・審議（資料11－１－①－４）され、それを受けて、最終的に校長が決裁するとともに、全教職員に周知される。

また、特に重要な決定事項や審議事項については、教員会議などの校長が長である委員会・会議に諮られ、校長が決定する。

（分析結果とその根拠理由）

本校では、教務主事、学生主事及び寮務主事の他に、専攻科主事及び企画主事が置かれている。それぞれの主事のもとには、数名の主事補が配置され、それぞれの校務を所掌している。また、各種委員会・会議が設置され、それらの審議・実行内容は、校長が委員長である学科長委員会等で報告・審議が行われ、最終的に校長が決裁する態勢となっている。

資料 11－１－①－１

久留米工業高等専門学校内部組織規程

（平成 17 年 12 月 22 日制定）

（趣旨）

第１条　この規程は、久留米工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第 11 条の規定に基づき、久留米工業高等専門学校（以下「本校」という。）の内部組織（事務部の内部組織を除く。）を定めるものとする。

（教務主事補、学生主事補及び寮務主事補）

第２条　教務主事の職務を補佐するため教務主事補若干名を置く。

２　学生主事の職務を補佐するため学生主事補若干名を置く。

３　寮務主事の職務を補佐するため寮務主事補若干名を置く。

（学科長等）

第３条　各専門学科及び一般科目（文科系・理科系）に学科長を置く。

２　学科長は、当該学科等を代表し、次に掲げる事項を総括し、処理する。

(1)　当該学科等内の会議の主宰

(2)　他学科等との連絡

(3)　学科長委員会の審議事項その他当該学科等内の連絡調整

(4)　当該学科等の教育課程の編成、学生の修学指導等

(5)　当該学科学生の就職のあっせん

(6)　その他当該学科等に関すること。

３　学科長の任期は、２年を原則とする。ただし、再任を妨げない。

（専攻科主事等）

第４条　専攻科に専攻科主事を置く。

２　専攻科主事の職務を補佐するため専攻科主事補若干名を置く。

３　専攻科主事は、専攻科に関することを掌理する。

４　専攻科主事の任期は、２年を原則とする。ただし、再任を妨げない。

（企画主事等）

第５条　本校に企画主事を置く。

２　企画主事の職務を補佐するため企画主事補若干名を置く。

３　企画主事は、自己点検評価及び渉外業務に関することを掌理する。

４　企画主事の任期は、２年を原則とする。ただし、再任を妨げない。

（総合情報センター長等）

第６条　本校に総合情報センター長を置く。

２　総合情報センター長の職務を補佐するため総合情報センター長補を置く。

３　情報処理センターに情報処理センター長を置く。

４　総合情報センター長は、情報処理センターを含む教育用情報システム及び事務用情報システムの業務を掌理する。

５　総合情報センター長の任期は２年とする。ただし、再任を妨げない。

（図書館長等）

第７条　図書館に図書館長を置く。

２　図書館長の職務を補佐するため図書館長補を置く。

３　図書部門の業務を処理するため図書主幹を置く。

４　図書館長は、図書館の業務を掌理する。

５　図書館長の任期は２年とする。ただし、再任を妨げない。

（産学民連携テクノセンター長等）

第８条　産学民連携テクノセンターにセンター長を置く。

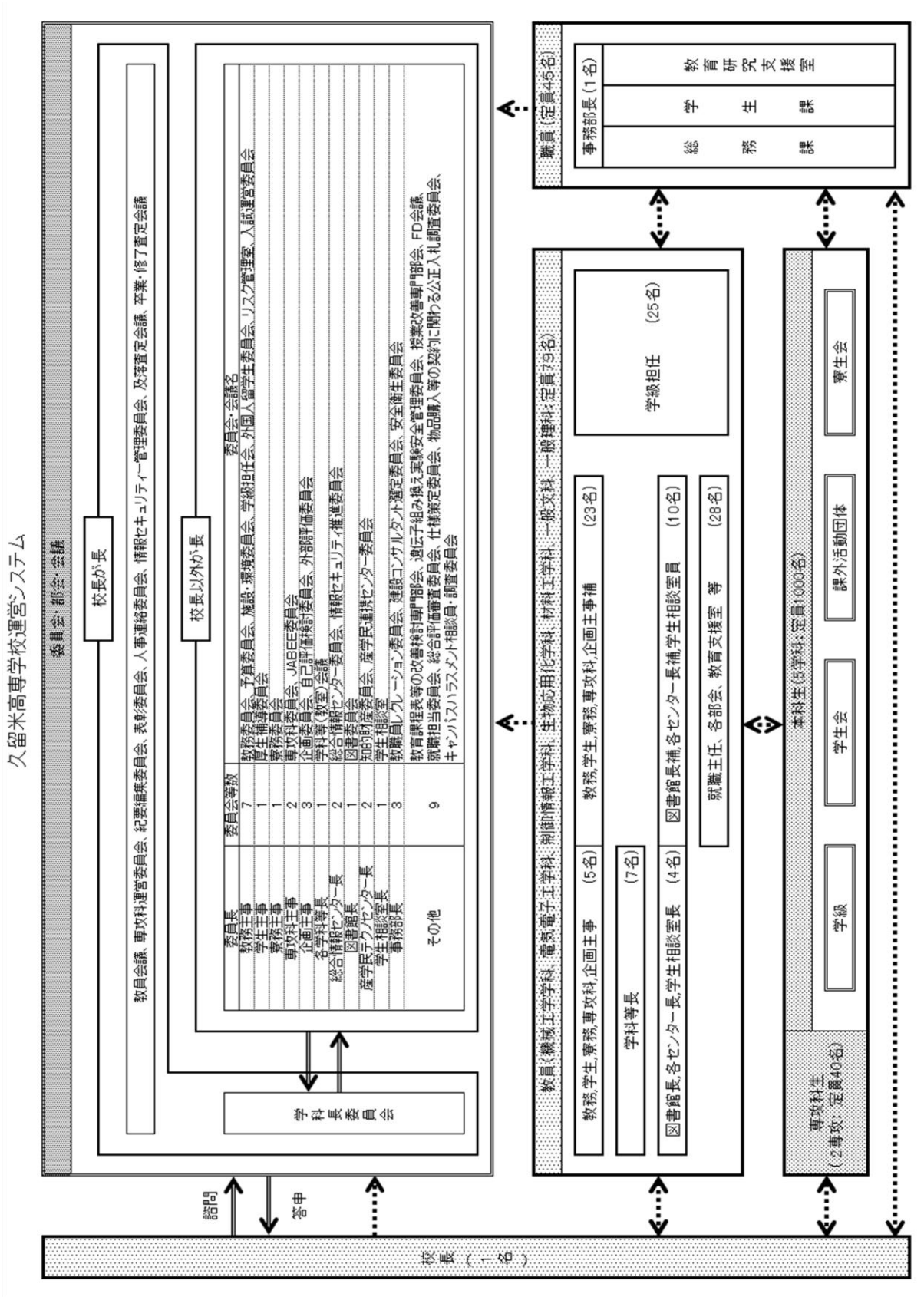
２　産学民連携テクノセンター長の職務を補佐するため産学民連携テクノセンター部門マネージャーを若干名置く。

３　産学民連携テクノセンター長は総合試作技術教育センターの業務を掌理する。

４　産学民連携テクノセンター長の任期は、２年とする。ただし、再任を妨げない。

（出典：久留米工業高等専門学校学則）

資料 11－１－①－２



（出典：総務課資料）

資料 11－１－①－３

久留米工業高等専門学校学科長委員会規則

（平成１３年４月１日制定）

（設置）
第１条 久留米工業高等専門学校（以下「本校」という。）に久留米工業高等専門学校学科長委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条 委員会は、校長の諮問したことに関する事項について審議する。
（組織）
第３条 委員会は、次の各号に掲げるものをもって組織する。
(1) 校長
(2) 教務主事、学生主事及び寮務主事
(3) 専攻科主事及び企画主事
(4) 各学科長
(5) 事務部長
(6) 各課長
（委員長）
第４条 委員会の委員長は、校長とする。
２　校長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　校長に事故があるときは、校長の指示により議長を定める。
（構成員以外の者の出席）
第５条 校長が必要と認めた場合は、委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。
（事務）
第６条 委員会に関する事務は、総務課総務係において処理する。

附 則
１ この規則は、平成１３年４月１日から施行する。
２ 久留米工業高等専門学校主任会規則（昭和３９年４月１日制定）は、この規則制定の日から廃止する。

附 則
この規則は、平成１７年１１月１日から施行する。

附 則
この規則は、平成１９年　４月１日から施行する。

（出典：久留米工業高等専門学校学則）

資料 11－１－①－４

平成25年度　第1回　学科長委員会　進行要領

日時：平成25年4月25日（木）　13時30分より
場所：管理棟　2階　小会議室

事項	資料番号	説明者
1．前回（平成25年3月13日開催）議事録の確認	1-01	
2．報告・連絡		
【事務部】		
(1) 平成24年度共同研究契約状況の報告について（平成24年4月～平成25年3月）	2-01	総務課長
(2) 平成24年度受託研究の受入れについて（平成24年4月～平成25年3月）	2-02	〃
(3) 平成25年度科学研究費助成事業内定等状況	2-03	〃
(4) 奨学寄附金の受け入れについて（平成24年4月～平成25年3月）	2-04	〃
(5) 久留米工業高等専門学校創基75周年・高専創立50周年記念事業寄附金の受入実績について（平成25年3月）	2-05	〃
(6) 教育研究費の執行状況について（平成24年4月～平成25年3月）	2-06	〃
(7) 平成25年度防災総合訓練について	2-07	〃
(8) 平成24年度マイクロソフト包括ライセンスの学生利用状況について	2-08	〃
(9) 平成25年4月1日現在の学生数について	2-09	学生課長
(10) 平成24年度の退学、休学、原級者数について	2-10	〃
(11) 平成25年度3月分図書利用状況（帯出統計表）について	2-11	〃
【校長】		
(12) 一般社団法人全国高等専門学校連合会第2回総会報告	2-12	校長
(13) 機構校長・事務部長会議報告	2-13	〃
(14) 平成25年度高専・両技科大間教員交流について	なし	〃
(15) 機構平成25年度改革推進経費の分担申請について	2-15	〃
(16) 文科省国立大学改革強化推進事業「三機関連携協働教育改革事業」について	2-16	〃
(17) 機構論文集「高専教育」第37号の教育研究論文の募集について	なし	〃
(18) 九州の技術系人材の育成に関する要望（平成25年3月（社）九州経済連合会）について	2-18	〃
【教務主事】		
(19) 平成25年度学年暦について	2-19	教務主事
(20) 平成25年度前期学生支援アドバイザー、特命教授の業務について	2-20	〃
(21) 高専教育の高度化について	2-21	〃
(22) 外国人研究者の受入について	2-22	〃
(23) 後援会予算案等の協議について	なし	〃
(24) ヒヤリ・ハット事例の報告について	なし	
(25) 平成25年度外国人留学生と教職員の懇談会について	2-25	〃
(26) 文部科学省大学間連携共同教育推進事業について	2-26	〃
(27) 2012年度全国高専女子フォーラム及び平成24年度高専機構男女共同参画推進協議会について	2-27	〃
【学生主事】		
(28) 平成25年度学生主事室関係目標について	2-28	学生主事
(29) 平成25年度学生会について	2-29	〃
(30) 平成25年度学生関係行事について	2-30	〃
(31) 平成25年度1年生合宿研修について	2-31	〃
【寮務主事】		
(32) 平成25年度寮務関係方針について	2-32	寮務主事
(33) 平成25年度寮生現員表について	2-33	〃
(34) 平成25年度久留米高専学生寮寮生会組織について	2-34	〃
(35) 平成25年度寮の主な年間行事について	2-35	〃
(36) 夏休み前閉寮日の変更について	なし	〃
【専攻科主事】		
(37) 専攻科研究論文の題目と指導教員について	2-37	専攻科主事
(38) 専攻科20周年記念行事の検討について	なし	〃
【企画主事】		
(39) 平成24年度卒業生・修了生に対する教育目標の達成度に関する自己評価と学生支援に関するアンケート結果について	2-39	企画主事
(40) 平成24年度実績報告について	なし	
(41) 平成25年度年度計画について	2-41	〃
(42) 機関別認証評価に係る自己評価書の執筆担当者について	2-42	〃
(43) 学校ホームページ（トップページ）の変更について	2-43	〃
【委員会報告】		
(44) 平成25年度第1回教務委員会	2-44	教務主事
(45) 平成25年度第1回施設・環境委員会	2-45	〃
(46) 平成25年度第1回ものづくりセンター改修工事等に伴う移転等検討専門部会	2-46	〃
(47) 平成24年度第2回紀要編集委員会	2-47	〃
(48) 平成25年度第1回創立50周年記念事業準備委員会	なし	〃
(49) 平成25年度第1回JABEE委員会（開催予定）	なし	専攻科主事
(50) 平成24年度第4回・平成25年度第1回就職担当委員会	2-50	学生課長
(51) 平成24年度第11回・平成25年度第1回安全衛生委員会	2-51	事務部長
(52) 平成25年度第1回産学民連携テクノセンター委員会	2-52	総務課長
(53) 平成25年度第1回総合情報センター委員会	2-53	総務課長
3．審議		
(1) 名誉教授の称号授与について	3-01	校長
(2) 平成25年度非常勤講師任用計画（案）について	3-02	教務主事
(3) 高専生のための合同会社説明会について	3-03	学生課長
4．その他		

次回開催予定
日時：平成25年5月23日（木）　13時30分より　場所：管理棟　2階　小会議室

（出典：平成 25 年度学科長委員会資料）

観点11－１－②:　管理運営の諸規程が整備され，各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動しているか。また、危機管理に係る体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

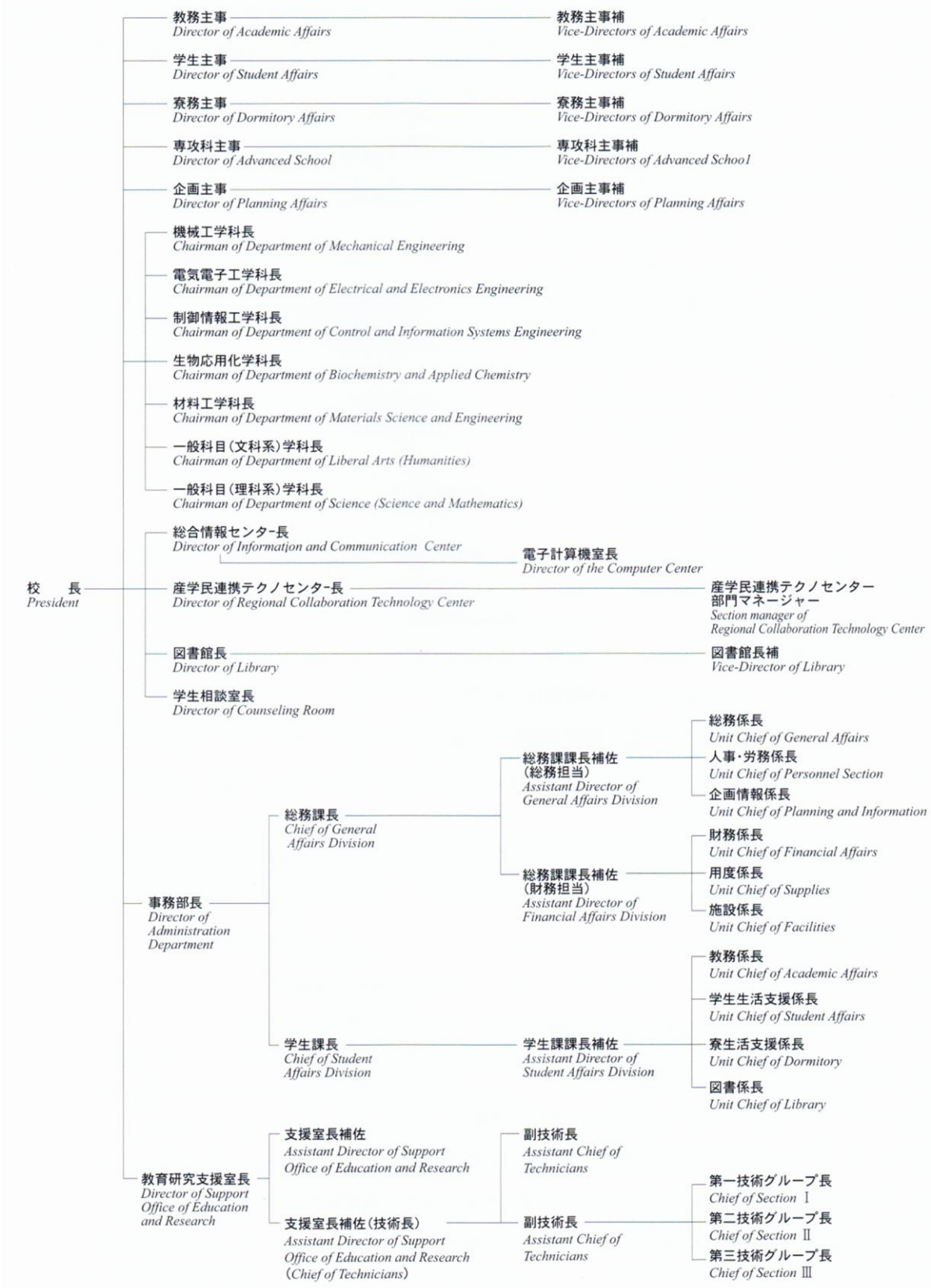
管理運営の諸規定としては久留米高専学則、各種委員会の規則及び内部組織規程があり、それに従って管理運営を適切に行っている（別添資料11－１－②－１）。また、校長をリーダーとした教員及び職員の組織（資料11－１－②－２）も体系化されており、それぞれの所掌も久留米高専事務組織及び事務分掌規則（別添資料11－１－②－３）に明記している。

危機管理に関しては、平成17年にリスク管理室を設け、平成23年５月に危機管理規定を制定し、本校で起こることが予想される様々な事象に伴う危機に、組織的に迅速かつ的確に対処するために必要な事項を定めている（別添資料11－１－②－４）。また、教職員に関する緊急事態が発生した場合の連絡網（別添資料11－１－②－５）及び学生に関する緊急事態が発生した場合の連絡網（別添資料11－１－②－６）を毎年更新し、緊急事態に備えている。

（分析結果とその根拠理由）

管理運営に関する諸規程が整備され、それぞれの所掌が明記され、適切に役割が分担され、効果的に活動している。また、危機管理に関する規定も定められており、事象に伴う危機に組織的に迅速かつ的確に対処する体制が整っている。

資料 11－１－②－２



（出典：平成 25 年度　学校要覧）

観点11－２－①：　自己点検・評価が学校として策定した基準に基づいて高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ，かつ，その結果が公表されているか。

（観点に係る状況）

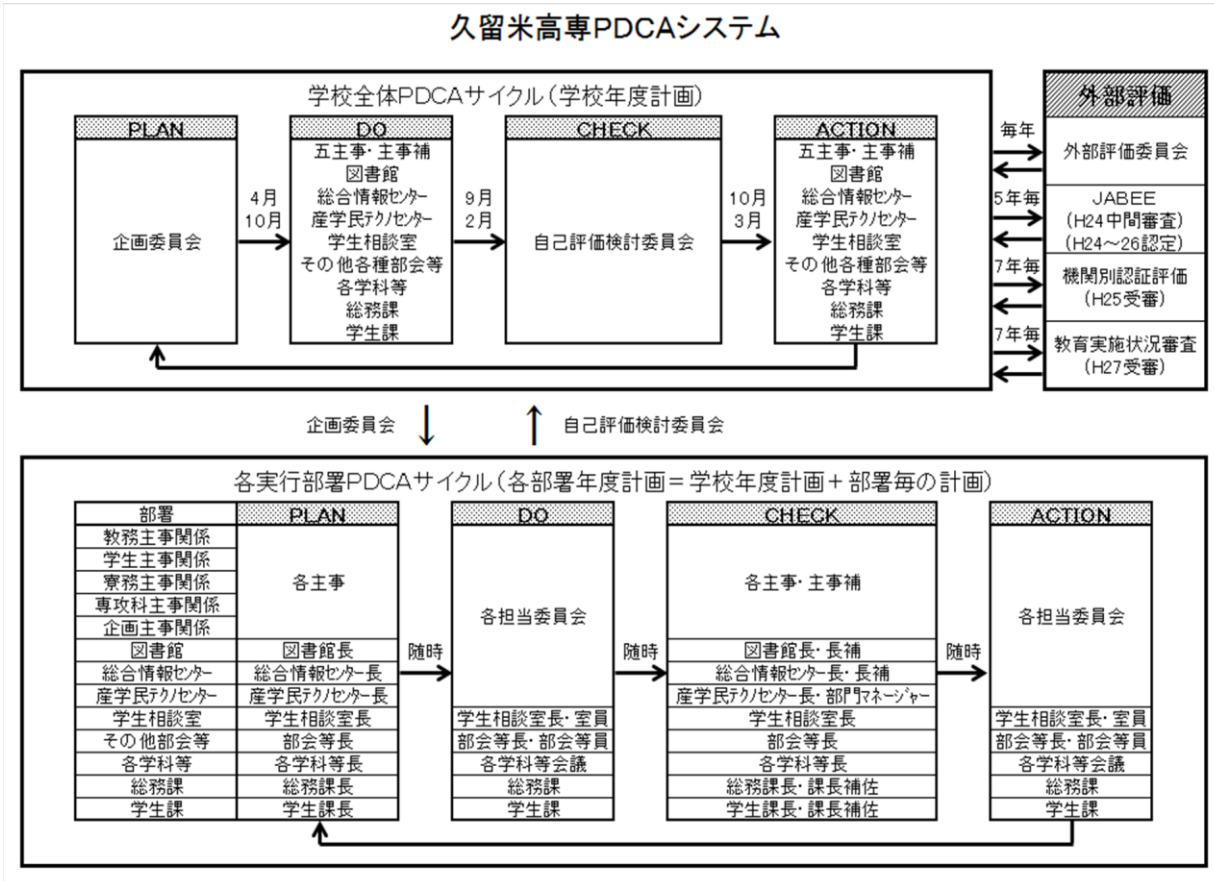
学校全体と各実行部署のＰＤＣＡサイクルを資料11－２－①－１に示す。学校全体としては、４月に年度計画（別添資料11－２－①－２）を策定（10月に修正）し、企画委員会で、項目ごとに担当部署を明示したもの（別添資料11－２－①－３）を配布している。それに基づき、各部署は各々の年度計画を追加し、随時ＰＤＣＡサイクルを回している。さらに、９月と２月の自己評価検討委員会で各部署の自己点検結果（別添資料11－２－①－４）が提示され、それに基づき対策を検討する。このように学校全体で年２回のＰＤＣＡサイクルを回すことにより改善を図っている。

これらの年度計画はウェブページで公開している（資料11－２－①－５）。また、自己評価検討委員会で取りまとめられた本校の自己点検・評価結果は、10月と4月に高専機構に提出している。さらに、高専機構は、全国高専から提出された自己点検・評価結果を取りまとめ、機構のウェブページに事業報告書として公開している（資料11－２－①－６）。

（分析結果とその根拠理由）

学校全体と部署毎のＰＤＣＡサイクルを運用するシステムが構築されている。また、その内容は、ウェブページに公表されている。

資料 11－２－①－１



（出典：平成 25 年度学科長委員会資料）

資料11－２－①－５



（出典：久留米工業高等専門学校ウェブサイト）

資料11－２－①－６



（出典：高専機構ウェブサイト）

観点11－２－②：　自己点検・評価の結果に基づいて、外部有識者等による検証が実施されているか。

（観点に係る状況）

外部評価委員会が中心となり、隔年で外部有識者（資料11－２－②－１）による外部評価委員会を開催している（資料11－２－②－２、２－②－３）。その他にも、前掲資料11―２－①－１に示すようにＪＡＢＥＥによる審査・認定（資料11－２－②－４）、教育実施状況審査も受審している。

（分析結果とその根拠理由）

外部有識者の意見を聴取する外部評価委員会、ＪＡＢＥＥによる受審・認定、教育実施状況審査を定期的に実施している。

資料 11－２－②－１

久留米工業高等専門学校外部評価委員会委員名簿

平成24年1月　現在

（敬称略）

氏　　名	所　　属	職　　名
日 野 伸 一	九州大学大学院	工学研究院長
本 庄 春 雄	九州大学大学院	総合理工学研究院長
永 田 見 生	久留米大学	学　長
尾 崎 龍 夫	久留米工業大学	学　長
橋 本 政 孝	久留米市	副市長
執 行 敬 史	久留米市中学校校長会	会長（市立城南中学校長）
齊 藤 哲 夫	大　電㈱	専務取締役管理本部長
岡 崎 雅 弘	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸｼｽﾃﾑﾈｯﾄﾜｰｸｽ㈱	人事・総務ｾﾝﾀｰ人材開発ﾁｰﾑﾘｰﾀﾞｰ
藤 崎 崇 芳	㈱久留米リサーチ・パーク	研究開発部部長

（出典：平成 23 年度外部評価委員会報告書）

資料 11－２－②－２

平成２３年度外部評価委員会日程

日　時　　平成２４年1月３１日（火）　１３：３０～１６：００
場　所　　久留米工業高等専門学校　管理棟2階　大会議室

13：30　開会
13：30　開会の挨拶

13：40　委員の紹介及び進行スケジュールの説明
　議長選出

13：55　議題（1）
「久留米高専の教育の現状と改善活動について」
（教務主事）

14：45　休憩（15 分）

15：00　議題（2）
「久留米高専におけるエンジニアリングデザイン教育と産学民連携について」
（産学民連携テクノセンター長）

15：40　講評・評価

15：55　閉会の挨拶

16：00　閉会

（出典：平成 23 年度外部評価委員会報告書）

資料 11－２－②－３



書類名	概要	ファイル情報
平成25年度　年度計画	久留米工業高等専門学校の平成25年度年度計画です。	計画書全体 (PDFファイル307kB) ダウンロード
平成24年度　年度計画	久留米工業高等専門学校の平成24年度年度計画です。	計画書全体 (PDFファイル195kB) ダウンロード
平成23年度外部評価委員会報告書	平成23年度に開催された久留米工業高等専門学校外部評価委員会の説明資料、質疑応答、評価結果等をまとめた報告書です。	報告書全体 (PDFファイル79.4MB) ダウンロード
平成23年度　年度計画	久留米工業高等専門学校の平成23年度年度計画です。	計画書全体 (PDFファイル187kB) ダウンロード
平成22年度　年度計画 (高専機構 第2期中期目標/中期計画/平成22年度年度計画)	久留米工業高等専門学校の平成22年度年度計画です。高専機構の第2期中期目標/中期計画/平成22年度 年度計画も併せて掲載しています。	計画書全体 (PDFファイル234kB) ダウンロード

（出典：久留米工業高等専門学校ウェブサイト）

資料 11－２－②－４



機械工学プログラム



電気電子工学プログラム



制御情報工学プログラム



生物応用化学プログラム



材料工学プログラム

（出典：JABEE 認定証）

観点11－２－③：　評価結果がフィードバックされ，高等専門学校の目的のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され，有効に運営されているか。

（観点に係る状況）

前掲資料11―２－①－１の久留米高専ＰＤＣＡシステムに基づき、実施された各部署の内容は、自己評価検討委員会に提出され、その審議を受けて、次年度計画を策定している。例として、平成24年度に寮務主事の自己点検評価結果（資料11―２－③－１）に基づき自己評価検討委員会で審議が行われ、平成25年に策定された寮務主事の年度目標（資料11―２－③－２）を示す。

（分析結果とその根拠理由）

自己評価検討委員会で各部署の自己評価結果を共有し、フィードバックするシステムが整備されている。

資料 11－２－③－１

平成25年3月3日

自己評価検討委員会委員長殿

寮務主事

平成24年度　年度計画　寮務関係自己評価

項目			内容	達成度
寮務関係年度目標（別紙1）	V200プラン（H24年度寮生数200名）	寮生会活動遂行（寮祭、TA、外部寮視察等）	寮祭(春季,冬季)、明石高専視察、TA(週1回程度)を予定どおり実行した。	100%
		女子寮運営円滑化	予定通り4月から開寮し、後期からは寮母も採用した。4月に17名でスタートした女子寮生数は、3月には25名に増加した。	100%
		体験入寮制度実施	4回の体験入寮で25名の体験入寮生を受け入れ、14名が入寮した。	100%
		寮生会活動等のホームページ紹介	久留米高専トップページの「お知らせ」の欄に、計17項目を掲載した。	計画外
		寮費値下げ	昨年度の対策（エコキュート導入、LED照明、ワンプッシュ水栓化）により経費削減し、平成25年度寮費を500円/月 値下げする。	計画外
		男子寮学習室整備	エアコン電源工事およびLANコンセントの設置を行った。	計画外
		寮生数推移（別紙2）	男子寮生数の顕著な増加は見られなかったが、年度当初から年度末までに増加した寮生数(男女計)は、調査可能な平成11年以降最大となった。また、体験入寮が入寮に寄与することは確認できたが、実施した様々な生活環境改善が寮生数の増加に影響したとは言えず、在寮生数の観点ではV200は未達となった。しかしながら、体験入寮・閉寮期間中の寮利用・退寮者を含めた寮生数は202名となり、寮利用者の観点ではV200が達成できたといえる。なお、今年度の1年生数が多いことから、この状況を継続できれば在寮生数の観点でもV200達成可能となる。また、別の観点での入寮率向上対策としては、1年生の期間限定全員入寮制度の導入等が考えられる。	
	6S徹底（整理・整頓清掃・清潔作法・躾）	居室の整備（扉、クローゼット補修、LAN環境整備等）	男子寮の環境を女子寮同様に整備するため、居室の扉・クローゼットの塗装、鎖設置した。無線LANは導入できず。	70%
		ごみ分別講習会,ごみ分別回収,資源回収,リサイクルの遂行	ごみ分別、久留米市資源回収奨励制度利用、冷蔵庫等のリサイクルが、寮生会により実行できた。	100%
		学生による内掃、外掃の定期的実施	寮生会が中心となって年2回の大掃除を実施した。また、点呼欠席の奉仕活動により寮内の清掃を行った。	100%
		講習会（テーブルマナー、和食作法、ビジネスマナー）実施	洋食テーブルマナー講習会、和食作法講習会、ビジネスマナー講習会を予定通り実施した。	100%
		ヘルスチェックキャンペーン(年2回)実施	2回のヘルスチェックキャンペーンを実施、秋の避難訓練当日に非常食シミュレーションを実施した。	100%
		早寝、早起き、朝ごはん対策検討	昨年度同様の点呼方法により、朝食喫食率を維持できた（別紙3）。早寝対策は実施できず。	50%
		留学生食品衛生講習会	食堂業者の協力により、2回の留学生の補食室の衛生指導を行った。	計画外
	各種行事遂行	対面式、成人式実施	予定通り実施した。	100%
		避難訓練、防災訓練、非常食シミュレーション実施	予定通り実施した。	100%
		寮生会役員会、班長会議(年8回)実施	役員会議は実施したが、寮生会役員が全員出席できず（特に女子寮生）、寮生会経由で周知できない事項があった。	60%
		食堂＆寮生会懇談会(年4回)実施	予定通り実施した。	100%
		料理教室、卒業生等講習会、留学生母国紹介実施	料理教室を2回、卒業生と外部講師による講習会を2回、留学生の母国紹介を2回実施した。	計画外
その他		CO_2排出量削減	女子寮新設にともない、給湯・暖房に使用していた灯油ボイラを、エコキュートおよびリースエアコンに変更した。また、照明のLED化とスイッチのセンサ化も推進し、平成23,24年度の年平均CO_2排出量は、平成17～22年度に比し、約50%削減できた（別紙3）。	

（出典：平成 24 年度自己評価検討委員会資料抜粋）

資料 11－２－③－２

平成25年4月1日

関係各位

寮務主事

平成２５年度寮務関係目標

１．新Ｖ２００プラン遂行（平成２７年度寮生２００名）

・寮生会活動推進（寮祭、ＴＡ制度、外部寮視察等）

・女子寮（つつじ寮）運営円滑化

・体験入寮制度実施

２．６Ｓ（整理・整頓・清掃・清潔・作法・躾）徹底

・ごみ分別回収、資源ごみ回収、不要物品リサイクル活動の遂行等

・寮生による内掃、外掃の定期的実施

・居室および学習室整備

・各種講習会・講演会（テーブルマナー等）

・「早寝、早起き、朝ごはん」運動推進

３．各種行事遂行

・対面式、成人式

・避難訓練、防災訓練、非常食シミュレーション

・ヘルスチェックキャンペーン（年２回）

・寮生会役員会、班長会議（年８回）

・食堂＆寮生会懇談会（年４回）

（出典：平成 25 年度学科長委員会資料）

観点11－３－①:　外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されているか。

（観点に係る状況）

平成２３年度に実施した外部評価委員会における指摘に対して改善した例として、地域貢献に関する指摘(資料11-３－①－１)に対して､テクノネット久留米を設立した例(資料11－３―①－３)、メンタルケア―の充実に関する指摘（資料11-３－①－１）に対して、学生相談室アドバイザーを採用した例（資料11-３－①－４)、及び地域連携専任のコーディネータ採用に関する指摘（資料11-３－①－２）に対して、産学民連携コーディネータを採用した例がある。

（分析結果とその根拠理由）

外部有識者の意見を反映し、学校運営に生かしている例がある。

資料 11－３－①－１

先程来から様々なご意見をいただきました。地域貢献というか久留米高専は比較的九州内の高専の中ではハイレベルな高専の中にありますので、就職する場合は県外に出るとかそういうことはありますけれど、一方ご意見をいただきましたように、地域の中小企業のことも十分に考えて、地域貢献というかそこも社会的な使命だろうと思いますので、そこら辺のことをよろしく検討していただきたいと思います。

と同時にご意見を一杯賜りましたけど、メンタルケアというか、それは大学、高専だけではなくて、小中高を含めて社会的な課題になっているのだと思います。これは久留米高専だけではなくて、やはり機構全体としてあるいは社会というか文科省も含めて大きな枠組みの中で考えてもらわないと、先程申し上げましたように、九大の場合も病院地区、医学部のお医者さんですね、それから健康科学センター、教育学部の先生方を含めて、新しい組織を作ろうとしています。大学として取り組みますが、もっと大きな、国立大学も含めて文科省にもご努力いただきたい、ご援助いただきたいと、そういう課題でありますので、機構の中で議論があるみたいですけど対応をお願いしたい、そういうお願いをしたいと思います。

（出典：平成 23 年度外部評価委員会報告書）

資料 11－３－①－２

永田委員

・全国的な傾向であるが、学生の学力低下に対する対策が重要。

・ＰＤＣＡスパイラルアップの観点からみると、自己評価がやや不足。

尾﨑委員

・再雇用教員を学生支援アドバイザーとして活用するのは良いアイデアである。

・様々な取組みは評価できるが、教職員の業務の多忙化への対応が課題であろう。

・地域連携を進めるには、専任のコーディネータ、キーパーソンが不可欠である。

（出典：平成 23 年度外部評価委員会報告書）

資料 11－３－①－３

テクノネット久留米設立趣意書

久留米工業高等専門学校(以下「久留米高専」という。）は、昭和１４年に設立された旧制の久留米高等工業学校を前身とし、昭和３３年には我が国初の全日制の国立工業短期大学になるなどの変遷を経て、現在の高等専門学校となりました。この間、７０余年にわたり、約1万２千人の優れた人材を産業界に送り出してこられました。

久留米高専は実践的・創造的技術者の育成を目指した高等教育機関として、教育理念である「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた社会に貢献できる技術者の育成」はもとより「地域社会への貢献」を大きな柱として、平成１２年4月には「産学民連携推進センター」を設置し、さらには平成２２年2月、テクノセンター棟の竣工を機に「産学民連携テクノセンター」と名称を変更して、新たに地域社会と連携した教育研究活動が展開できる拠点の整備と組織化が行われました。

この産学民連携テクノセンターを中心に、企業等との共同研究、受託研究、技術相談の実施や各種セミナーの開催など地域産業界へ積極的に情報を提供されるとともに、公開講座、理科教育支援、講演会の開催など生涯学習の分野においても活発な活動を続けております。

また、平成２１年１２月には久留米市内5つの高等教育機関（久留米大学・久留米工業大学・聖マリア学院大学・久留米信愛女学院短期大学・久留米高専）の連携による「高等教育コンソーシアム久留米」の設立に参加されるなど、地域の振興・発展及び教育研究の充実を図るための久留米高専のこれまでにおける取り組みは、地域の発展に資するところが大きく、地域に密着した存在として誠に心強い限りであります。

しかし、科学技術創造立国の実現に向けた地域振興として、この福岡県及び佐賀県における産業のさらなる発展、地域の人材の育成や地場産業の高度化、産業力強化のための研究開発の推進を期するためには、久留米高専の地域連携活動の一層の強化が不可欠であり、産官学民が一体となることはもとより、久留米高専の持つ「歴史と伝統」に培われた約１万２千人の卒業された諸先輩方とも協力し「人・知・物」的資源を地域に還元し、久留米高専と地域社会及び地域産業界が緊密な連携をとっていくことが今まで以上に必要であると考えられます。

つきましては、久留米高専と地域産業界等との連携・交流を深めることにより、地域産業の発展に寄与するとともに、久留米高専の教育研究の振興を図ることを目的に、テクノネット久留米の設立を計画いたしました。

何卒、設立の趣旨をご理解いただき、格別のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成２４年８月吉日

テクノネット久留米

設立発起人　石丸　茂夫　（日米ゴム株式会社　代表取締役社長）

武井　邦雄　（武井電機工業株式会社　代表取締役社長）

津福　啓二　（津福工業株式会社　会長）

穴見　英三　（久留米商工会議所　専務理事）

（出典：久留米工業高等専門学校ウェブサイト）

資料 11－３－①－４

平成２５年度学生相談室アドバイザー等採用計画書

学科　　学生相談室

担　　当	前　　期	後　　期	氏　　名	本　　務
学生相談室アドバイザー	４８時間	８０時間	ふくだ　こういち 福田　幸一 新　　規	久留米工業高等専門学校前教授

概算

前期６月開始予定のため１２週

後期　　２０週の予定

３２週×２時間×２回＝１２８時間

時間単価約３４００円

合計　　３４００円×１２８＝４３５，２００円＋交通費　≒　５０万円

日程

月曜日　１５：００～１７：００　　図書館二階ＬＬ　使用時はサイボウズで施設予約

水曜日　１６：００～１８：００　　ポレモルーム

週に二回の予定であるが、本人とアドバイザーとの状況により増減あり

（出典：平成 25 年度学科長委員会資料）

観点11－３－②：　学校の目的を達成するために、外部の教育資源を積極的に活用しているか。

（観点に係る状況）

高専・両技科大学間教員交流制度（資料11―３－②－１）を利用し、他高専に赴任する教員および他高専から赴任してくる教員がおり（資料11―３－②－２）、高専・両技術科学大学の教育資源を活用している。

また、企業との共同教育の観点で、専攻科で行っている２か月～４か月の長期インターンシップ（資料11―３－②－３）、準学士課程で行っている１週間～２週間の短期インターンシップ（資料11―３－②－４）がある。

さらに、「九州沖縄地区９国立工業高等専門学校間における単位互換に関する協定」（資料11－３－②－５）や「久留米市大学等単位互換に関する協定書」（資料11－３－②－６）により、他高等教育機関での単位取得が可能となっている。また、産学民連携推進センターのフォーラム、近隣大学・研究所などで開催される学術講演会や施設公開、放送大学特別講義などから工業・学問の最新情報を習得してレポートを提出する「先端工学特論」も専攻科に開設されている（資料11－３－②－７）。

（分析結果とその根拠理由）

高専・両技術科学大学間の人事交流、企業との共同教育、他高等教育機関での単位互換制度及び専攻科における放送大学や学外での講演会を利用する科目を開設するなど、外部の教育資源を積極的に活用している。

資料 11－３－②－１(1/2)

高専・両技科大間教員交流制度実施要項

制定　平成１９年　４月２６日
一部改正　平成２１年　８月　４日
全部改正　平成２３年　２月　７日
一部改正　平成２４年　５月１０日
一部改正　平成２５年　２月２６日
独立行政法人国立高等専門学校機構
国立大学法人長岡技術科学大学
国立大学法人豊橋技術科学大学

１．目的

この制度は，独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「高専機構」という。）が設置する各国立高等専門学校（以下「高専」という。），長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学（以下「両技科大」という。）の教員を，他の高専又は両技科大のいずれかへ一定期間派遣し，教育研究活動に従事させることにより，教員の力量を高め，高専及び両技科大（以下「高専・両技科大」という。）における教育及び研究の向上を図るとともに，高専機構と両技科大との連携強化を通じた，高専・両技科大全体の活性化及び人事の流動性を確保することを目的とする。

２．派遣候補者の条件

高専の校長は毎年１名以上，両技科大の学長は若干名の次の条件を満たす教員を，派遣候補者として高専機構理事長（以下「理事長」という。）へ推薦するものとする。

①　派遣開始年度の４月１日時点の満年齢が５８才未満の者
②　高専教員については高専教員としての経験が，技科大教員については技科大教員としての経験が３年以上である者

３．派遣期間等

派遣期間は，原則として１年以上３年以内とし，派遣の開始時期は原則として４月とする。

４．派遣の決定

（１）受入を希望する高専を指定する場合

①　高専の校長は，派遣者の受入について，地区（独立行政法人国立高等専門学校機構の地区校長会議（高専機構規則第７６号）第２条に規定する地区をいう。以下同じ。）内の高専又は地区外の希望する高専とあらかじめ協議し，承諾を得た上で，７月１５日までに派遣候補者推薦書（様式１）を理事長に提出する。
②　理事長は，提出された推薦書を基に９月３０日までに派遣を決定する。

（２）高専・両技科大間の派遣及び受入を希望する高専を指定しない場合

①　高専・両技科大の長は，７月１５日までに派遣候補者推薦・受入希望調書（様

（出典：人事労務係提供）

資料 11－３－②－１(2/2)

式２）を理事長に提出する。

②　理事長は，提出された調書を基に９月３０日までに派遣を決定する。

５．派遣期間の変更

決定された派遣期間を変更する場合は，派遣元（派遣者を推薦した高専・両技科大をいう。以下同じ。）の長が，派遣期間変更調書（様式３）を理事長へ提出するものとする。

６．実施報告

派遣先（派遣者を受入れた高専・両技科大をいう。）の長は，派遣期間終了後１月以内に，当該派遣者に係る勤務状況等について，実施報告書（様式４）により派遣元の長に報告するものとする。

７．経費負担

高専機構は，高専に対し，この制度の実施に必要な経費を別途措置するものとする。

８．その他

（１）派遣は，高専間の場合にあっては，配置換により行うものとし，高専・両技科大間の場合にあっては，高専・両技科大間の協議により在籍出向又は転籍出向により行うものとする。

（２）派遣期間中の労働条件等については，高専・両技科大間の派遣の場合にあっては，理事長と両技科大の学長との協議により，別に定めることができる。

（３）この制度により派遣された教員（高専間の派遣の場合に限る。）に対しては，独立行政法人国立高等専門学校機構教職員給与規則（高専機構規則第８号）第２５条第３項の規定にかかわらず，３年間（派遣されている期間に限る。），派遣元で受けていた地域手当の支給割合により地域手当を支給することができる。

（４）この制度の事務は，高専機構本部事務局において，両技科大事務局の協力を得て処理する。

（５）この要項に定めるもののほか，この制度の実施に関し必要な事項は，別に定める。

（出典：人事労務係提供）

資料 11－３－②－２

教員人事交流(H18～25)

	他機関からの受け入れ			他機関への派遣		
	氏名	本校所属･職名	機関名	氏名	本校所属･職名	機関名
H18年度	酒井　道宏	一般科目(理科系)･准教授	岐阜高専			
	野坂　通子	生物応用化学科･准教授	佐世保高専			
H19年度	酒井　道宏	一般科目(理科系)･准教授	岐阜高専			
	野坂　通子	生物応用化学科･准教授	佐世保高専			
	明官　秀隆	一般科目(文科系)･教授	旭川高専			
H20年度	明官　秀隆	一般科目(文科系)･教授	旭川高専	大岡　久子	生物応用化学科･助教	小山高専
	池田　英幸	材料工学科･教授	鹿児島高専			
H21年度	武藤　浩行	材料工学科･准教授	豊橋技科大	木寺　英史	一般文科･准教授	奈良高専
				濱上　寿一	材料工学科･准教授	豊橋技科大
H22年度				木寺　英史	一般文科･准教授	奈良高専
				大岡　久子	生物応用化学科･助教	小山高専
H23年度				木寺　英史	一般文科･准教授	奈良高専
H24年度	松野　哲也	電気電子工学科･教授	有明高専	宮崎　浩一	電気電子工学科･准教授	有明高専
	川原　秀夫	機械工学科･准教授	大島商船高専			
H25年度	川原　秀夫	機械工学科･准教授	大島商船高専	江頭　成人	制御情報工学科･教授	有明高専

（出典：総務課人事労務係提供）

資料 11－３－②－３

平成２４年度専攻科インターンシップ実施先一覧

No.	企業名	実施期間
1	アイスマン株式会社	H24.10.9～H24.12.10
2	株式会社インフォグラム	H24.10.9～H24.12.31
3	株式会社栄電舎	H24.10.25～H24.12.28
4	株式会社オーレック	H24.11.26～H25.1.31
5	オガワ機工株式会社	H24.10.9～H24.12.29
6	独立行政法人産業技術総合研究所　九州センター	H24.10.9～H24.12.28
7	株式会社三松	H24.10.9～H25.1.31
8	大電株式会社	H24.10.9～H24.12.21
9	株式会社テクノ月星	H24.10.15～H24.12.29
10	ＴＤＫ株式会社　三隈川工場	H24.10.9～H24.12末日
11	日米ゴム株式会社	H24.10.9～H24.12.8
12	福岡県工業技術センター生物食品研究所（生物資源課）	H24.10.9～H24.12.21
13	福岡県工業技術センター生物食品研究所（生物資源課）	H24.10.15～H24.12.21
14	福岡県工業技術センター生物食品研究所（食品課）	H24.10.15～H25.1.31
15	株式会社ロジック・リサーチ	H24.10.9～H24.12.9
16	株式会社ワイビーエム	H24.10.9～H25.1.31
17	株式会社ワキタハイテクス	H24.10.15～H24.12.28
18	株式会社日本生物製剤　久留米工場	H24.10.9～H24.12.21
19	株式会社アルス・リサーチ・システム	H24.11.1～H25.1.31
20	九電産業株式会社　環境部	H24.10.9～H24.12.7
21	津福工業株式会社	H24.10.9～H24.12.7
22	株式会社ネクシス	H24.10.11～H24.12.7
23	(独)物質・材料研究機構　太陽光発電材料ﾕﾆｯﾄ有機薄膜太陽電池ｸﾞﾙｰﾌﾟ	H24.10.9～H24.12.7
24	日本タングステン株式会社　基山工場	H24.10.9～H24.12.7
25	日本タングステン株式会社　宇美工場	H24.10.9～H24.12.7
26	八光オートメーション株式会社	H24.10.9～H24.12.21
27	(財)佐賀県地域産業支援センター九州シンクロトロン光研究センター	H24.10.9～H25.1.31
28	福岡県工業技術センター化学繊維研究所	H24.10.9～H24.12.7
29	リックス株式会社	H24.10.22～H24.12.28
30	NPO法人　サイエンスクリエイト	H24.10.15～H24.12.28
31	株式会社タンガロイ　九州工場	H24.10.9～H24.12.28
32	有明技研株式会社	H24.10.9～H24.12.7
33	FCデザイン株式会社	H24.10.9～H24.12.7
34	株式会社ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ･ﾘｺｸﾞﾆｼｮﾝ･ﾃｸﾉﾛｼﾞｰｽﾞ	H24.10.10～H24.12.20

（出典：専攻科提供資料）

資料 11－３－②－４

平成24年度本科短期インターンシップ実施先一覧

機械工学科 4年

番号	企業等実習先	実習期間		
1	三菱重工業（株）工作機械	8/22	～	8/28
2	富士通（株）	8/19	～	8/24
3	ANA	8/27	～	8/31
4	JXエンジニアリング（株）	7/30	～	8/3
5	コニカミノルタビジネスソリューションズ	8/20	～	8/24
6	コカコーラーブロダクツ	8/28	～	8/31
7	杉工場	8/27	～	8/30
8	JFEスチール（株）	8/13	～	8/24
9	花王	7/23	～	8/2
10	極東石油工業合同会社	7/30	～	8/3
11	大日精化工	7/24	～	8/3
12	村田機械（株）	8/17	～	8/29
13	LIXIL	8/20	～	8/31
14	幸袋テクノ	8/21	～	8/24
15	旭テック（株）	8/27	～	9/3
16	JX日鉱日石金属（株）	8/20	～	8/24
17	西日本プラント工業（株）	8/27	～	8/31
18	タカハタプレシジョン（株）	8/27	～	8/31
19	パナソニックシステムネットワーク	7/23	～	8/3
20	NHK福岡放送局	8/27	～	8/31
21	三菱電機FA産業機器	7/24	～	7/27
22	J-POWERグループ	8/20	～	8/24
23	（株）牧野フライス	8/21	～	8/31
24	フロイント産業（株）	8/6	～	8/10
25	（株）カシフジ	8/21	～	8/30
26	三菱重工業（株）長崎造船所	8/20	～	8/29

制御情報工学科 4年

番号	企業等実習先	実習期間		
1	日本放送協会	8/27	～	8/31
2	ツカサ電工株式会社	8/20	～	8/31
3	九州電力株式会社	8/7	～	8/9
4	株式会社インフォグラム	8/21	～	8/28
5	中央発條株式会社	8/27	～	8/31
6	サッポロビール株式会社	8/28	～	8/31
7	日本たばこ産業株式会社	8/27	～	8/31
8	株式会社朝日プリンテック	7/23	～	7/26
9	KDDIエンジニアリング株式会社	8/20	～	8/24
10	メック株式会社	8/6	～	8/10
11	セイコーエプソン株式会社	8/20	～	8/31
12	チームラボ株式会社	8/1	～	8/31
13	株式会社NTTネオメイト	7/30	～	8/3
14	東芝ITサービス株式会社	8/16	～	8/24
15	株式会社佐賀鉄工所	8/7	～	8/10
16	日鐵プラント設計株式会社	8/20	～	8/31
17	株式会社杉工場	7/31	～	8/4
18	九州大学学術研究都市推進機構	8/16	～	8/28
19	第一施設工業株式会社	7/30	～	8/3
20	西部ガス株式会社	8/20	～	8/31
21	西日本プラント工業株式会社	8/27	～	8/31
22	富士通株式会社	8/19	～	8/24
23	日信電子サービス株式会社	8/20	～	8/24
24	第一施設工業株式会社	7/30	～	8/3

材料工学科 4年

番号	企業等実習先	実習期間		
1	株式会社ワキタハイテクス	7/30	～	8/3
2	日本軽金属株式会社	8/27	～	9/7
3	株式会社三松	7/23	～	8/3
4	新日本製鐵株式会社　名古屋製鐵所	8/8	～	8/24
5	矢崎総業株式会社	7/30	～	8/10
6	高周波熱錬株式会社　赤穂工場	7/23	～	8/3
7	東洋鋼鈑株式会社	8/27	～	8/31
8	日本タングステン株式会社　基山工場	8/21	～	8/31
9	株式会社　名村造船所	8/21	～	9/1
10	ＪＮＣ株式会社　水俣製造所	8/20	～	8/31
11	三井造船株式会社　玉野事業所	8/21	～	8/31
12	東伸熱工株式会社　東大阪工場	8/1	～	8/11
13	エヌ・イーケムキャット株式会社	8/20	～	8/24
14	東プレ九州株式会社	8/21	～	8/24
15	倉敷ボーリング機工株式会社	8/20	～	8/24
16	磯部鉄工株式会社　小倉工場	8/1	～	8/6

電気電子工学科 4年

番号	企業等実習先	実習期間		
1	日米ゴム株式会社	7/30	～	8/10
2	中部電力株式会社	8/25	～	8/30
3	株式会社モリタ製作所	8/21	～	8/30
4	日本ドライフーズ株式会社	8/20	～	8/23
5	富士通株式会社	8/19	～	8/24
6	株式会社オプティム	7/30	～	8/3
7	株式会社フランソア	8/20	～	8/24
8	積水武蔵化工株式会社	8/27	～	8/31
9	株式会社 佐電工	8/27	～	8/30
10	三洋化成工業株式会社 名古屋工場	8/6	～	8/10
11	株式会社 酉島製作所	8/20	～	8/30
12	住友化学株式会社 千葉工場	7/30	～	8/3
13	九州武蔵精密株式会社	8/27	～	8/31
14	チクシ電気株式会社 佐賀工場	7/31	～	8/3
15	パナソニック エコシステムズ株式会社	7/23	～	8/3
16	矢崎総業株式会社	7/30	～	8/10
17	九州旅客鉄道株式会社	8/27	～	8/31
18	三菱電機ビルテクノサービス株式会社	8/17	～	8/24
19	サンリツオートメイション株式会社	8/27	～	8/31
20	株式会社日立エレクトリックシステムズ	8/5	～	8/11
21	住友精化株式会社 別府工場	8/20	～	8/24
22	富士電機株式会社 東京事業所	8/16	～	8/25
23	パナソニック システムネットワークス株式会社 佐賀事業場	7/23	～	8/3
24	NHK福岡放送局	8/27	～	8/31
25	株式会社LIXIL 有明工場	8/20	～	8/31
26	京セラ株式会社 鹿児島川内工場	8/20	～	8/31
27	大阪ガス株式会社	7/25	～	8/2
28	ソーラーフロンティア株式会社 国富工場	8/6	～	8/10
29	東芝メディカルシステムズ株式会社　福岡サービスセンタ	8/6	～	8/10
30	京セラ株式会社 鹿児島国分工場	8/1	～	8/9

生物応用化学科 4年

番号	企業等実習先	実習期間		
1	コカ・コーラウエストプロダクツ株式会社	8/25	～	8/31
2	住友化学株式会社千葉工場	7/30	～	8/10
3	協和発酵バイオ株式会社山口事業所	7/30	～	8/9
4	クロレラ工業株式会社九州工場	7/23	～	7/27
5	株式会社テクノ月星	7/30	～	8/3
6	株式会社久留米リサーチパーク	8/6	～	8/9
7	東燃ゼネラル石油株式会社	8/21	～	8/31
8	JNC株式会社水俣製造所	8/20	～	8/31
9	（独）産業技術総合研究所九州センター	7/23	～	8/3
10	第一三共プロファーマ株式会社	7/23	～	7/27
11	住友精化株式会社姫路工場	7/30	～	8/3
12	九州電力株式会社	8/20	～	8/24
13	関西ペイント株式会社	7/23	～	8/3
14	東レ株式会社	7/30	～	8/10
15	旭化成株式会社	8/20	～	8/24
16	大塚製薬株式会社佐賀工場	8/27	～	8/31
17	関西グリコ株式会社	7/24	～	7/27
18	武田薬品工業株式会社	7/30	～	8/3
19	株式会社ムーンスター	8/17	～	8/28
20	極東石油工業合同会社	7/30	～	8/3
21	中興化成工業株式会社松浦工場	8/20	～	8/24
22	株式会社シマノ下関工場	8/20	～	8/24
23	福岡県保健環境研究所	8/7	～	8/13
24	和光純薬工業株式会社大阪工場	8/20	～	8/24
25	株式会社カネカ高砂工業所	8/6	～	8/10
26	サッポロビール株式会社九州日田工場	8/28	～	8/31
27	（独）農研機構食品総合研究所	8/20	～	8/24
28	花王株式会社	7/23	～	8/2
29	塩野義製薬株式会社摂津工場	8/27	～	8/31

（出典：学生生活支援係提供資料）

資料 11－３－②－５

九州沖縄地区９国立工業高等専門学校間における

単位互換に関する協定書

九州地区の９国立工業高等専門学校（以下「高専」という。）相互間の交流を通じ、教育研究交流促進の一環として学生の学習環境の充実を図るとともに、学生の幅広い視野の育成と学習意欲の向上を支援するため、次により単位互換を行う。

（参加高専）

第１　この協定に参加する高専は、次のとおりとする。

（１）　久留米工業高等専門学校
（２）　有明工業高等専門学校
（３）　北九州工業高等専門学校
（４）　佐世保工業高等専門学校
（５）　熊本電波工業高等専門学校
（６）　八代工業高等専門学校
（７）　大分工業高等専門学校
（８）　都城工業高等専門学校
（９）　鹿児島工業高等専門学校

（受入れ）

第２　この協定により受入れる学生の身分は、特別聴講学生と称する。

第３　入学を希望する学生は、所属する高専の校長の承認を得たうえ、特別聴講学生入学願書を所定の期日までに所属する高専に提出しなければならない。

第４　第３の書類を受理した高専は、受入れ高専に、特別聴講学生として入学の許可を求める。

第５　受入れる学生数、受入れ手続きは、受入れ高専で決める。

（成績評価）

第６　成績の評価については、受入れ高専で定める評価基準によるものとする。

第７　受入れ高専において取得した単位は、各高専の定めるところにより各高専の単位として認めることができる。

（授業料等）

第８　特別聴講学生の検定料、入学料及び授業料は、相互に不徴収とする。

（出典：九州沖縄地区９高専間における単位互換に関する協定書）

資料 11－３－②－６

久留米市内大学等単位互換に関する協定書

久留米市内大学等単位互換協定に参加する大学等（以下「協定校」という。）　は、相互の協力交流を通じさらなる教育課程の充実を図るとともに、学生の幅広い視野の育成と学習意欲の向上をめざし、さらには、久留米市の「大学等の姿が見えるまちづくり」ひいては「学術研究都市づくり」に寄与することを目的として、大学設置基準第２８条第１項、短期大学設置基準第１４条第１項及び高等専門学校設置基準第２０条第１項にもとづく単位互換を行うことに関して、次の事項について合意に達したので、ここに協定書を取り交わす。

（受入れ）

第１条　この協定に参加する協定校の学生が、他の協定校の定める授業科目を履修し（以下「科目履修」という。）単位の修得を希望するときは、受入れを行う協定校は、教育研究上支障のない限り、当該学生を受入れる。

（受入れ学生の呼称）

第２条　この協定により受入れる学生は「単位互換履修生」と称する。

（履修期間）

第３条　履修期間は一年以内とし、単位互換履修生が履修する授業科目の開講年度又は開講学期の間とする。

（授業科目の範囲、単位数、受入れ学生数及び受入れ条件）

第４条　単位互換履修生として履修できる授業科目の範囲、修得できる単位数、受入れ学生数及び受入れ条件については、受入れ協定校の定めるところによる。

２　受入れ協定校は、前項の履修できる授業科目の範囲等を決定し、所定の時期までに他の協定校に通知する。

（出典：久留米市内大学等単位互換に関する協定書）

資料 11－３－②－７

平成25年度　シラバス　授業計画

先端工学特論

【The Latest Frontiers in Engineering】

1年機械・電気システム工学専攻 機械工学コース

担当教員名	専攻科主事補	シラバスコード	6A17
科目情報	後期 専門 必修 演習 1単位	授業時数	30
授業の目的	本科目は、学生が先端技術や工学的・工業的諸問題及びそれらが影響を与えている社会問題等に関心を高め、工業技術者としての視野を広めることを目的とする。		
到達目標	１．先端技術，工学的・工業的諸問題，及びそれらが影響を与える社会問題等に関心を持ち、工業技術者としての視野を広めることができる。 ２．それぞれの専門分野の知識を基礎として、エネルギー，環境，新技術，自然科学などの問題に対して工学的に考察できる。 ３．それぞれに関わる科学技術の要点を理解し、客観的な評価ができる。	JABEE ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ目標	A-1 E F
評価方法	提出されたそれぞれのレポートの内容を教育目的に応じて、A；７点，B；６点，C；５点，D；４点の４段階で評価する。 評価基準：累積点６０点以上を合格とする。		
授業の進め方と履修上の注意	①放送大学特別講義（ビデオ）②学内における特別講義等 ③学外における講演会等、に参加して合計１５回のレポートを作成し提出する。環境問題，エネルギー問題，福祉問題，地域企業の先端技術，人文・社会問題，専門及び専門関連分野等の中から，自主的に興味のある学術・技術的テーマを選び受講する。①，②，③の開講・開催案内は、適宜、専攻科棟に掲示する。レポートは所定の様式に従い、受講後１週間以内に担当教員へ提出する。		
テキストおよび参考図書	講演会、特別講義などにおける配布資料		

	学習内容
1	①放送大学特別講義（ビデオ学習） １回
2	２回
3	３回
4	４回
5	５回以上実施
6	②学内における特別講義・特別講演など １回
7	２回
8	３回
9	４回
10	５回以上実施
11	③学外における講演会、共同講義など １回
12	２回
13	３回
14	４回
15	５回以上実施

（出典：平成 25 年度シラバス　専攻科１年「先端工学特論」）

観点11－４－①：　高等専門学校における教育研究活動等の状況や，その活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信しているか。

（観点に係る状況）

本校トップページで、直近の教育研究活動の実施状況等を発信している（資料11―４－①－１）。また、産学民連携テクノセンターのウェブページでは、教育研究活動等の状況や成果に関する情報をわかりやすく社会に発信している（資料11－４－①－２）。また、学校要覧を毎年更新し、教職員・在校生・卒業生・修了生の状況、卒業生・修了生の進路（資料11－４－①－３、４－①－４）などの最新情報を学内のみならず、中学生などにも広報している。さらに、年２回発行している紀要でも教育研究活動に関する成果に関する情報を発信している（資料11－４－①－５）。

（分析結果とその根拠理由）

教育研究活動等の状況や成果に関する情報をホームページや冊子を活用して、広くわかりやすく社会に発信している。

資料 11－４－①－１

これまでのお知らせ(2012年度分)

2013/03/29　機械・電気システム工学専攻大西徹さんと、機械工学科吉本隆輔さんが、日本機械学会九州学生会第44回学生員卒業研究発表講演会において、優秀講演賞を受賞しました。

2013/03/28　機械工学科が、第16回日本機械学会九州支部賞を受賞しました。機械工学科のページはこちらです。

2013/03/27　平成24年度卒業式・修了式を挙行しました。

2013/03/25　制御情報工学科竹中幸介さんが、NTTドコモアプリアワード2012開発部門において優秀賞を受賞しました。

2013/03/25　機械・電気システム工学専攻廣川真梨子さんが、電子情報通信学会SIS研究会において若手研究優秀賞及び日本高専学会論文奨励賞において優秀賞を受賞しました。

2013/03/18　学生寮ビジネスマナー講習会を開催しました。

2013/03/05　小学生向け公開講座「いっしょに、作ってみよう！ラジオを組み立てよう」は定員に達しました。

2013/03/04　「平成25年度久留米工業高等専門学校　入学者選抜合格発表」

2013/03/01　平成25年度久留米高専社会人向け公開講座　仕上げ作業実技講習会は定員に達しました。

2013/02/27　本校OB安部龍太郎氏(歴史小説家)が母校に直木賞受賞を報告されました。

2013/02/27　学生寮にて平成24年度寮生TA制度を実施しています。

2013/02/06　韓国・忠南機械工業高校の学生が本校を訪問しました。

2013/02/06　学生寮にて平成24年度学生寮成人式を開催しました。

2013/02/06　平成25年度 入学者学力選抜出題状況を掲載しました。

2013/01/22　学生寮にて寮祭を開催しました。

2013/01/21　3月23日(土)に小学生向け公開講座「いっしょに、作ってみよう！ラジオを組み立てよう」を開催します。

2013/01/18　本校OB安部龍太郎氏(歴史小説家)が第148回直木賞を受賞されました。

2013/01/15　学生寮にて和食作法講習会を実施しました。

2013/01/15　学生寮にてヘルスチェックキャンペーンを実施しました。

2012/12/27　「平成25年度入学者選抜における検定料免除の臨時措置について」を掲載しました。

2012/12/21　12月27日(木)から1月7日(月)の期間、機器のメンテナンス作業に伴い、一部ウェブページが表示されない場合がございます。

2012/12/21　高専祭にて東亜マイスター高校との学生交流を実施しました。

2012/12/18　第15回公益設計公開講座を開催しました。

2012/12/12　12月25日(火)に福岡大学図書館にてシンポジウム「地域の科学教育・支援を取り巻く新しい潮流」が開催されます。

2012/12/07　JIDA-KIGS学生デザインコンペ「うつくしいくらしをデザインする」にて最優秀賞を受賞したことを報告しました。

2012/12/07　11月20日(火)に平成24年度永年勤続表彰式を実施しました。

2012/12/07　11月17日(土)に久留米市5大学連携による市民公開講座を実施しました。

2012/12/07　学生寮にて第二回料理教室を実施しました。

2012/12/07　「第17回マナビィランド」にふれあい理工学展を出展しました。

2012/12/07　10月31日(水)に久留米・鳥栖地域産学官テクノ交流会に参加しました。

2012/12/07　10月25日(木)に新技術マッチングフェアに参加しました。

2012/12/07　学生寮にて防災避難訓練と非常食シミュレーションを実施しました。

2012/12/07　平成24年度久留米市内単位互換協定校による「共同講義」を開講しました。

2012/11/26　第48回(平成24年度)九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会でラグビー部が準優勝しました。

2012/11/22　10月26日(金)にテクノネット久留米が設立されました。

2012/11/22　学生展示会inくるめりあ六ッ門に出展しました。

2012/11/22　10月13日(土)に学校説明会・見学会を開催しました。

2012/11/21　パソコン甲子園2012でプログラミングラボ部チームがモバイル部門で第3位になりました。

2012/11/21　JIDA・KIGS学生デザインコンペ2012において機械工学科の学生が最優秀賞受賞と入選を果たしました。

2012/11/16　第8回全日本学生室内飛行ロボットコンテストで翔同好会チームがベストプレゼンテーション賞を受賞しました。

2012/11/16　全国高等専門学校第23回プログラミングコンテストでプログラミングラボ部チームが課題部門、自由部門で敢闘賞を受賞しました。

（出典：久留米工業高等専門学校ウェブサイト）

資料 11－４－①－２

久留米工業高等専門学校 産学民連携テクノセンターは、地域との様々な形態での連携を重視し、その拡充整備を図って参ります。

久留米工業高等専門学校
産学民連携テクノセンター
Regional Collaboration Technology Center

検索

・ホーム　・リンク集　・サイトマップ

ホーム　市民のみなさま　学校関係のみなさま　企業のみなさま　お問い合わせ

ようこそ



産学民連携テクノセンター ホーム > トップページ

産学民連携テクノセンター

研究者・シーズ検索

久留米工業高等専門学校では、広い意味で地域との様々な形態での連携を重視し、産学民連携テクノセンターを窓口として、その拡充整備を図ってまいりました。企業等とのいわゆる産学連携に関しては、教育面での本科学生・専攻科生の就職活動やインターンシップ等を基礎とし、共同研究や受託研究等を通じて数多くの連携の絆が生まれてきました。全校的には現在、文部科学省の現代GP「産学民連携共同教育による実践的技術者育成（平成19年度採択）」、教育GP「CIMSを活用した機械要素教育と産学連携（平成20年度採択）」、さらには経済産業省の人材育成に関連したプロジェクト等を通じた産学連携活動を行っています。また、企業の第一線で活躍する卒業生との連携も強化しようとしています。

新着情報

»新着情報一覧はこちら

- 2013年1月 1日　[新着情報] テクノネット久留米の会則・入会について
- 2012年12月14日　[新着情報] 第15回　公差設計公開講座　公差設計に関する基礎講習会を実施しました。
- 2012年11月30日　[新着情報] 久留米市内５大学等連携による市民公開講座を開講しました。
- 2012年11月30日　[新着情報] 「第１７回マナビィランド」に「ふれあい理工学展」を出展しました。
- 2012年11月30日　[新着情報] 平成２４年度　久留米・鳥栖地域産学官テクノ交流会に参加しました。
- 2012年11月30日　[新着情報] 九州・沖縄地区国立高専　新技術マッチングフェアに参加しました。
- 2012年11月15日　[新着情報] テクノネット久留米が設立されました。
- 2012年10月13日　[新着情報] 第１４回３Ｄ－ＣＡＤ／ＣＡＥ公開講座を開催しました。
- 2012年10月 2日　[新着情報] 仕上げ作業実技講習会を開講しました
- 2012年9月15日　[新着情報] 第13回3D-CAD公開講座を実施しました。

イベント情報

»イベント情報一覧はこちら

- 2013年1月31日　[公開講座] 【募集締切】平成25年度久留米高専社会人向け公開講座　仕上げ作業実技講習会

（出典：久留米工業高等専門学校ウェブサイト）

資料 11－４－①－３

平成 24 年度就職先一覧

平成 24 年度卒業生（本学科）の就職先企業

機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
(株)明治関西工場	関西電力(株)	(株)創世エンジニアリング	田口電機工業㈱	株)ネクシス
(株)牧野フライス製作所	富士通(株)	セイコーエプソン(株)	シオノギ分析センター(株)	第一精工(株)
(株)三　松	(株)フランソワ	九州電力(株)	武田薬品工業(株)	鳥栖シール工業(株)
富士重工(株)	西部電機(株)	富士ゼロックス福岡(株)	ニプロ㈱	日清紡ブレーキ(株)館林事業所
ダイキン工業(株)	(株)ジーサウスシステム	(株)トヨタプロダクションエンジニアリング	大日精化工業(株)	日本ピストンリング㈱
(株)デザインネットワーク	東芝メディカルシステムズ株)	(株)ムーンスター	協和発酵バイオ(株)	東洋鋼鈑(株)
(株)アドバンテストﾞメディック	(株)ミニミニ九州	安川コントロール(株)	第一三共プロファーマ(株)	宇部興産(株)
積水化学工業(株)	(株)栄電舎	(株)栄電舎	出光興産(株)	東伸熱工(株)
山　九(株)ﾞ	麒麟麦酒(株)福岡工場	(株)三井ハイテック	(株)大石膏盛堂	田口電機工業(株)
キャノン(株)	出光興産(株	(株)トヨタプロダクションエンジニアリング	(株)ムーンスター	(株)三　松
シバタ精機(株)	(株)ジーエス・ユアサフィールディングス	日本放送協会	昭和化学工業(株)	(株)九州エルピー
(株)九州フジパン	中部電力(株)ﾞ	富士重工業(株)	極東石油工業合同会社	中部鋼鈑(株)
山　九（株）	第一精工(株)	メタウォーター(株)		(株)シマノ
林テレンプ（株）	(株)フリーダム	(株)ネクシス		高周波熱錬(株)
住友化学(株)	日本タングステン(株)	富士ゼロックス福岡(株)		新日鉄住金(株)
中部電力(株)	西日本旅客鉄道(株)	(株)システムニシツウ		(株)フジコー
三菱重工業(株)　工作機械本部	KCCS モバイルエンジニアリング	久留米ガス(株)		TOWA(株)
三菱重工業(株)　高砂製作所	(株)ネクシス	大和製罐(株)九州工場		昭栄化学工業(株)
IHI エアロスペース・エンジニアリング	アイコム(株)	九電テクノシステムズ(株)		DOWA サーモエンジニアリング
日本精工(株)	NOK(株)			(株)アーレスティ
出光エンジニアリング(株)	富士重工業(株)			ラサスティール(株)
JFE スチール西日本				NOK グループ
				エンケイ(株)
				(株)東研サーモテック
				旭テック(株)
				旭化成ケミカルズ(株)

平成 24 年度修了生（専攻科）の就職先企業

機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻
トーマス(株)、(株)オーレック、富士電機(株)、冨士古河 E&C(株)、八光オートメーション(株)、(株)富士通アドバンストソリューションズ、リコーテクノシステムズ(株)、(株)資生堂、旭化成ケミカルズ(株)、九電テクノシステムズ(株)、(株)オートメイション・テクノロジー、トヨタテクニカルディベロップメント(株)、(株)ヒロエンジニアリング、国立大学法人、第一精工(株)、日立 INS ソフトウェア(株)	森永乳業(株)、ヤマハ発動機(株)、(株)日本生物製剤久留米工場、日本電産(株)、DIC(株)千葉工場、東燃化学合同会社、アステラス製薬(株)、ダイキン工業(株)、沢井製薬(株)、旭化成(株)、日東電工(株)豊橋事業所 日本精工(株)

（出典：平成 25 年度　学校要覧）

資料 11－４－①－４

平成２４年度進学先一覧

卒業生（本科）の編入学先大学

機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
九州大学工学部 九州工業大学工学部 佐賀大学理工学部 熊本大学工学部 鹿児島大学工学部 大阪大学工学部 首都大学東京システムデザイン学部 九州造形短期大学工業科	九州大学工学部 九州工業大学工学部 東京大学工学部 東京工業大学理学部 筑波大学理工学群 豊橋技術科学大学工学部 大阪大学工学部 広島大学工学部	九州大学工学部 九州工業大学情報工学部 佐賀大学理工学部 宮崎大学工学部 琉球大学工学部 東京大学工学部 筑波大学情報学群 室蘭工業大学情報電子工学系学科	九州大学工学部 千葉大学工学部 豊橋技術科学大学工学部 長岡技術科学大学工学部 広島大学生物生産学部	九州大学工学部 九州工業大学工学部 佐賀大学理工学部 熊本大学工学部 豊橋技術科学大学工学部 長岡技術科学大学工学部 茨城大学教育学部

卒業生（本科）の本校専攻科入学者数　（３０名）

機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科	合　計
４※	7	６※	8	5	３０

※既卒者１名を含む。

修了生（専攻科）の入学先大学院

機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻
九州大学大学院（総合理工学府） 〃　（システム情報科学府） 九州工業大学大学院（生体工学研究科） 東京大学大学院（新領域創成科学研究科） 東京工業大学大学院（総合理工学研究科） 筑波大学大学院（システム情報工学研究科） 京都大学大学院（情報学研究科） 北海道大学大学院（情報科学研究科）	九州大学大学院（総合理工学府）

（出典：平成 25 年度　学校要覧）

資料 11－４－①－５

久留米工業高等専門学校

紀　　要

第28巻　第２号
（平成 25 年 4 月）

目　　次

Formation of O/W,W/O emulsions using a PDMS microchip …… 手島裕貴 宮崎真佐也 泉本英次 … 1

静電吸着複合法を用いた Pt/C 触媒の調整 …… 周致霆 山口佳菜美 北村桜桃 樋口祐太 … 7

剛体の３次元回転運動の力学シミュレーション …… 池谷公紀 八尋照彰 綾部隆 … 13

結び目を用いた高専の学生向け数学教材の実践
～ゲーリッツ不変量を通して～ …… 酒井道宏 田中利史 中坊滋一 … 25

多孔質セラミックス燃焼器における液体の蒸発と燃焼安定性 …… 川原秀夫 川内敏生 … 33

IT化プレゼン用タイマーの制作 …… 中島勝行 … 39

久留米工業高等専門学校紀要出版投稿内規 …… 45

（出典：久留米工業高等専門学校紀要第 28 巻第 2 号）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校では校長をトップとした管理運営体制が整備されており、各種規定に基づき効率的に運営されている。また、企画委員会・自己評価検討委員会を中心とした、学校全体および各部署のＰＤＣＡサイクル運用システムが確立されており、定常的に改善が図られている。また、外部有識者からの外部評価、ＪＡＢＥＥによる審査・認定など、積極的な自己点検・評価を行って教育の改善に結びつけている。さらに、高専・技術科学大学間の人事交流、企業との共同教育、他高等教育機関での単位互換制度、放送大学や学外での講演会を利用するなど、外部の教育資源も積極的に活用している。

（改善を要する点）

該当なし。

（３）基準11の自己評価の概要

本校では、校長をトップとした効果的な意思決定を行うために教務主事、学生主事及び寮務主事のほかに、専攻科主事及び企画主事が置かれ、各主事のもとには、数名の主事補を配置し、効率的かつ円滑に校務運営を行っている。また、最終的な審議委員会として、校長、５主事、各学科長に加え、事務部長をはじめとする事務管理職が出席する学科長委員会があり、校長が最終的な意思決定を行うことができるシステムとなっている。さらに、管理運営面に関する意思決定プロセスにおいて、必要に応じて外部有識者の意見を有効に反映させるために、平成４年度より外部評価を実施し、学校運営に生かしている。その他にも、昨年度ＪＡＢＥＥによる中間審査を受審し、平成２６年度まで認定されるなど、積極的な自己点検・評価を行って教育の改善に結びつけている。一方で、高専・技術科学大学間の人事交流も毎年行っている。また、企業との共同教育、他高等教育機関での単位互換制度、放送大学や学外での講演会を利用するなど、外部の教育資源も積極的に活用している。さらに、近隣大学や高専間の単位互換制度等によって外部の教育資源も取り入れている。外部への情報発信の観点でも、ウェブページや冊子によって教育研究活動の状況や成果を広く社会に発信し、積極的に広報活動を行っている。